もうすぐ『ハッスル・マニア』! 本誌も新装刊フォー!!

kamipro 紙のプロレス

MMA & PRO-WRESTLING MA

enterbrain MOOK
2005
92
880yen



過酷なるSTARTING OVER!!
10・23『PRIDE.30』直前3大インタビュー

不屈の男が早くも立ち上がった!
ミルコ・クロコップ

最強の"電車男"がミルコ抹殺宣言!
ジョシュ・バーネット

シュートボクセ武者修行から帰国
桜庭和志

中軽量級黄金時代到来!
マット界はこの男たちが背負う!!
五味隆典
須藤元気
川尻達也
桜井"マッハ"速人
今成正和
所英男×船木誠勝

今年の大晦日は
燃える五味の日!!
A day of burning GOMI!!

11・23有明コロシアムで開催決定!
『U-STYLE Axis』とは何か?
田村潔司

前田日明と激闘を展開した
伝説の男をタイで直撃!
ドン・中矢・ニールセン

破壊王を最もよく知る
ラーメン屋の親父登場!



11・3ハッスルマニアの
すべてがわかる16P大特集

本誌独占! 謎&衝撃の合体
川田利明×インリン様

レイザーラモンHG
魅惑の秘密特訓に潜入!

ハッスルにケンゾー&ヒロコ現わる!

kamipro 92 本誌も新装刊フォー!!

印刷・製本/図書印刷株式会社

正しい育毛剤の選び方

❶ 決め手は14種類!

アデランスの育毛剤を知らなかったあなたへ。
どのメーカーの、どの製品が自分に効くのかわからない! そんな悩みを解決する14種類の薬用育毛剤を開発し、ひとりひとりに最適なケアを実現しました。皮脂分泌改善や血行促進などのアプローチにあわせ、天然成分(ローヤルゼリーエキス、ニンジンエキス他)を14通りのバランスで配合。香料・着色料は一切使用せず、アルコール配合も極力抑え、頭皮へのやさしさを追求しました。オーダーメイド感覚で、あなたの頭皮・毛根のトラブルに直に作用し、髪の育ちやすい環境に整えます。さらに、特許育毛「ヘア・サポートアクア」も。薬用育毛剤を使用した3コース8タイプのヘアケア。10段階を超える充実のメニューからあなた専用のプログラムをご提案します。



＊特許育毛とは、製法及び使用方法の特許番号第2987377号を利用した、当社独自の育毛サービスです。



❷ 違いはヘアチェック!

育毛剤を正しく選択するためには、頭皮・頭髪の状態を正確に知ることが大切です! アデランスでは、カウンセラーによるヘアチェックを無料で実施しています。カウンセリングをはじめ、マイクロスキャナーでの頭皮観察、顕微鏡を使った毛根の観察、頭皮温度測定、脂分測定の5つのステップで、髪の健康状態を効果的に分析。ひとりひとりに最適な薬用育毛剤をアドバイスします!



❸ まずはお電話を!

ヘアチェック&資料等のお申込みはこちらでも!

ケータイからでも無料
0120-68-9696


アデランス
www.aderans.co.jp
J-Hair 日本毛髪業協会加盟

中・軽量級黄金時代

格闘ゴールドラッシュ 2005



2005 No.92 CONTENTS
kamipro


VER or DEATH

10.23 PRIDE.30
Mirko Cro Cop
vs Josh Barnett

再起か死か？



STARTING O



求道者の選択

STARTING OVER or DEATH



超人は荒野を目指す!
再起戦に指名した相手は、
なんとジョシュだっつた!!

「俺が俺であるために、ジョシュと闘う必要がある」

[クロアチア発 独占インタビュー]

ミルコ・クロコップ

8月28日、悲願のヒョードル超えがかなわなかったミルコ・クロコップ。"人生最大の敗北"を喫した彼が、そのあとどんな行動を取るのか多くのファンが注目していたが、ミルコが出した結論は、なんと、10・23『PRIDE.30』でジョシュ・バーネットと1年越しの決着戦を闘うという、とんでもない選択だった!! いったいこの男の負けん気、そして闘いへのモチベーションはどこまで高いのか? すでにジョシュ戦に向けてクロアチアで追い込みに入っているミルコに、国際電話でその心境を直撃した!

聞き手/堀江ガンツ 撮影/乾晋也 写真提供/Zoom Entertainment

designed by hisa (Two Three)

——ヒョードル戦から1カ月が経ちましたが、現在の体調はいかがですか?

ミルコ コンディションはいいよ。ただ、この季節はクロアチアでも急に気温が下がり始めて、周りはみんな風邪をひいている。息子のイヴァンも幼稚園で風邪をうつされて戻ってきて、俺もうつされたかな。でも、それぐらいはいつものことだ。

——ミルコ選手自身が"人生最大の一戦"と称した闘いで、残念ながら敗れてしまったわけですけど、気持ちの切り替えはもうできているのですか?

ミルコ 試合後に、すごい数のファンから、激励のメールや手紙を受け取った。日本のみんなからも、クロアチアのファンからも……。それを見て、これはもう、気持ちを切り替えるとか、どうとかの問題じゃなくて、「早く、次の試合で俺が勝ち名乗りを挙げているところを見せてあげないといけない」という、とてもポジティブなプレッシャーに変わったよ。日本で96年から闘い始めて、いままで何度も敗戦を経験してきたけれど、負けてここまでみんなに励ましてもらったのは、初めてだ。これは、落ち込んでる暇なんてない。早く、立ち上がらないと……と心から思ったよ。

——では、改めてヒョードル戦を振り返ってください。ミルコ選手は、あの敗戦をどのようにとらえていますか?

ミルコ 避けては通れないとても大切な敗戦だった。でも、詳しいことは、もうケン(代理人・今井賢一氏)が君に話したんだろう?(前号のインタビュー参照)負けた理由やあのときの気持ちをいまさらどうのこうの言いたくない。もう俺は前に向かって走り始めているのだから。

——いや、でもファンもミルコ選手本人の口からヒョードル戦のことを聞きたがっているので少しだけお願いします。やはり一度敗れたことで、打倒ヒョードルへの思いはより強くなった感じですか?

ミルコ 当たり前のことだ。いままではヤツの持っているベルトを奪うことが俺の一番の望みで、ベルトさえもらえるのなら、相手はヒョードルでもノゲイラでもよかった。でも、いまは違う。タイトルマッチであろうとなかろうと、「ヒョードルにリベンジすること」それが最大の目標になった。

——エメリヤーエンコ・ヒョードルという選手をいま、どのように評価していますか?

ミルコ 改めて、ヒョードルには敬意を表するよ。ヤツがどれだけ研究熱心な男なのか、そしてトレーナーのアドバイスを忠実に実行できる男なのかがよくわかった。俺は、丸裸にされていたわけだからな。下がって蹴りの距離を取る戦略なんて、ほかの選手には通じても、ヒョードルには通じない。しかし、打ち合わず、距離を取って闘うという選択をしたのは、ほかの誰でもない、リングの中の俺自身なのだから。俺自身が選択した戦略が、敵に完全に読まれていたんだ。仕方がないさ。ヤツがいまは、紛れもない世界最強のファイターだ。そしてそこには、そうなるべき確たる理由があるということだけさ。

——クロアチアでは、ヒョードル戦の視聴率が記録的なものだったと聞きました。それだけに、敗れて祖国へ帰るのは精神的にかなりキツかったんじゃないですか?

ミルコ ケビン(・ランデルマン)戦のときほどじゃない。国中で応援してくれたのに、それに応えられなかった俺自身のプライドに傷がついただけさ。

——でも正直言って、敗戦後はしばらくリングに上がりたくないような気持ちにはなりませんでしたか?

ミルコ (しばらく沈黙後)……NOだ。強がりに聞こえてもかまわない。NOだ。

——人生を懸けた一戦に敗れた後、再起戦をいきなり10月にやろうという、このとんでもない決断はいつしたんですか?

ミルコ 試合後に、俺の部屋でこれからの話をしていたときだ。話している中で俺の気持ちは固まっていたから、本心では、ケンが「10月で行くか?」と言い出してくれることを願っていた。

——例えば、大晦日に万全を期して、それまではじっくりトレーニングするという選択も考えられたと思います。なぜ10月

STARTING OVER or DEATH
Mirko Cro Cop



"人生最大の一戦"として挑んだヒョードル戦では、2ラウンド以降、スタミナ切れのためグラウンドで防戦一方となってしまったミルコ。しかし、下になってからの寝技技術の上達ぶりは目を見張るものがあった。このグラウンドのディフェンス能力はジョシュにも通用するか?

に闘おうと思ったのですか?

方を初めてやったのが1年前のジョシュ







ミルコ、ファブリシオが大一番を控え、ＴＫを破ったマイク・カイル、さらに西島洋介も練習に加わったクロコップ・チームの士気は高まる一方。ある意味、練習内容の充実ぶりは、ヒョードル戦前以上のものがあるだろう。ファブリシオに寝技を習う西島の姿も新鮮。

リスキーな再起戦だって？　それはジョシュに言ってやったほうがいいんじゃないか？

に闘おうと思ったのですか？

ミルコ　それも一つの選択肢であったことは間違いない。ただ、怪我や体調が理由で、しばらくリングに立てないのならまだしも、精神的には負けたあと、なるべく早い時期に勝ち名乗りを受けることのほうが、ファイターにとっては大切なときもある。

――精神的にはそうかもしれませんが、正直言って、ミルコ選手の肉体的な疲労が心配されます。オーバーワークになったりはしませんか？

ミルコ　完全なオーバーワークは（ケビンに負けたあとの金原戦で）一度、経験した。そこから学んだことはたくさんある。オーバーワークで、みんなに無様な姿を見せるなんてことは、プロとして二度とあってはならないことだ。同じ過ちは犯さないよ。

――しかも、再起戦でいきなりジョシュ・バーネットという強豪と闘うのはあまりにもリスキーではありませんか？

ミルコ　それは、ジョシュに言ってやったほうがいいんじゃないか？（ニヤリ）。一年ぶりに、スタートオーバーするのに、本当に俺でいいのか……と。ただマネジャーが言うには、「なんでもっとイージーな相手を選んでやらないんだ」と、ファンから文句がたくさん来たらしいけどね。

――まぁ、でもここでジョシュとやるというのも、いかにもミルコ・クロコップらしいとは思いますけどね。

ミルコ　そうだろ？　俺はいまだからこそ、ヤツと闘うことに意味がある……そう信じているんだ。

――ただ、思い返してみると、8月にヒョードルが実践した、「自分が前に出ることでミルコの打撃を封じる」という闘い方を初めてやったのが1年前のジョシュです。自分の戦略が読まれているという不安はありませんか？

ミルコ　一年前の俺と、いまの俺は別人だ。それは技術的なことだけじゃない。一年間、厳しい修羅場をくぐり抜け続けてきたという事実、そこから得た経験からしてもだ。

――たしかに寝技技術だけをとってみても、1年前とはまったく違いますよね。そういう意味では、1年前は「寝技になったら、ミルコに勝ち目はない」と言われていましたが、いまはジョシュに極めさせない自信があるんじゃないですか？

ミルコ　（ニヤッとしながら）だからさっき言っただろう……。去年の俺と、いまの俺は別人だと。

――では、改めてミルコ選手はジョシュ・バーネットというファイターをどのように評価していますか？

ミルコ　油断のならない、強敵さ。だからこそ、俺のスターティングオーバーの相手にふさわしいと思うだけだ。

――トレーニングはいつ再開しましたか？

ミルコ　9月の10日くらいかな。

――ヒョードル戦後、練習内容に変化はありましたか？

ミルコ　誰と、どんな試合をやったあとでも、課題が見えれば、練習メニューは微調整していくものだ。それは、いままでもそうだし、これからも変わらない。完璧なファイターなど、どこにも存在しない。ヒョードルだってそうだ。でも、みんなそれを目指して前に進むだけだ。終わりはないんだから……。

――ヒョードル戦の前から懸案であった打撃のスパーリング・パートナーは見つかりましたか？

ジョシュに一言だけ言ってやろう 1年前の俺といまの俺は別人だ





1年前のジョシュ戦では、ハイキックが空を切り寝技に持ち込まれたあと、ガードポジションからのかんぬきでガッチリガードを固めたミルコ。もしこのあと試合が続いていたらどうなっていたかの答えは、10月23日に出る。

ミルコ　正式な俺のスパーリング・パートナーというわけではないが、昨日から日本人のヨースケが合流しているよ。

――ヨースケ？　……もしかして、西島洋介ですか!?

ミルコ　YES。

――それはビッグニュースですね！　どういったことから西島選手がクロアチアに来ることになったんですか？

ミルコ　マネジャーが、髙田道場としばらく前から、ヨースケのことを話していたのは、聞かされていた。来る時期として、いまというのは、申し分ないな。

――西島選手にとってはもちろん、ミルコ選手にとっても元ボクシングのヘビー級王者が来るというのは有益ですよね？

ミルコ　もちろん。一流のボクサーが、短期間とはいえ俺のチームに合流することになったのは大きい。今日は軽めにサンドバックだけを叩いていたが、やはりパンチのキレとスピードは総合出身の選手とは段違いだな。だから立ち技から総合へ来るつらさや、俺にしか伝えてやれないことを、なるべく肌で感じさせてやりたい。（ステファン・）レコの二の舞はだけは踏ませないようにしてやらないとな。ただ、俺もファブリシオ（・ヴェウドゥム）も試合前だから、手取り足取り教えてやることができないのは、少し残念だが……。

――10・2パンクラスで髙阪剛選手に判定勝ちしたマイク・カイルもこれから合流する予定ですか？

ミルコ　ヨースケと同じく、昨日戻ってきたよ。ヤツは、いい試合をしたらしいじゃないか。勝って、すぐに休まずにチームに合流してくるのは、まだ若いマイクにとって、とても大切なことだ。そして、やつも前回来たときよりも遥かにシェープで、士気も高く、戻ってきた。時差ボケがあるはずなのに、今日も積極的にファブリシオのサポートをしていたよ。

――じゃあ、いまはジム内がかなり活気ある状態なんじゃないですか？

ミルコ　そうだな。俺も、ファブリシオも大きな一戦を控えていて、とても士気が高くなっている。ジムの中の空気が、いつもよりも密度が濃いという感じだ。

――ミルコ選手はファブリシオvsハリトーノフの一戦について、どのように考え

ていますか？

――今後もさらにキックボクシングのス

な試合なんて、一試合もないんだ。毎試

――"転向"ではなく、K―1の先にあっ

ていますか?

ミルコ　ハリトーノフについては、間違いなく近い将来、俺が闘うことになる相手だと認識しているよ。だからこそ、ファブリシオがヤツを相手にどれだけやれるのかも、この目で見ておきたい。ファブリシオにとっては、『PRIDE』でデビューして初めての、大きな試練だからな。

——では、今回は〝チャレンジマッチ〟というような感じで見ているわけですか?

ミルコ　いや、もちろん勝つつもりでやるんだ。でも、たとえ負けたとしても、いい経験になることは間違いない。ヒョードルの弟、アレキサンダーだって、『PRIDE』3戦目で俺とやったんだから。ハリトーノフはいいパンチを持っているから、そういう意味で、ファブリシオにとってもヨースケはいいスパーリングパートナーになるだろう。そしてヨースケも、これからのことを考えると、本当のヘビー級の柔術のチャンピオンと肌を合わせるのは間違いなくいい経験になる。

——西島選手はいま、ホテルからミルコ選手の自宅ジムに通っているんですか?

ミルコ　そうだよ。近くの、長期滞在用のホテルだ。俺のチームに合流するやつはみんな、そこに宿泊する。ファブリシオを除いてはね。できれば、道を覚えたら自転車で通わせるようにさせたい。俺の家は丘の上にあるから、それだけでいいトレーニングになる。

——今後もさらにキックボクシングのスパーリング・パートナーを探す予定はありますか?

ミルコ　もちろんさ。立ち止まっている時間など、誰にもないはずだ。我こそと思うやつは、誰でもウエルカムだ。ただし、毎朝早く起きて、練習に来るモチベーションの高いやつに限るけどね。怠け者はいらない。

——では、改めて聞きます。ミルコ選手にとってジョシュ戦の最も大きなテーマはなんですか?

ミルコ　そうだな、自分の進化の具合を確かめること。ファイターにとって、無駄な試合なんて、一試合もないんだ。毎試合、必ず何かをつかんで、それを自分の進化に結び付けるんだ。そこから、新たなスタートになるわけだから。



STARTING OVER or DEATH
Mirko Cro Cop

——ジョシュはミルコ選手が再びヒョードル戦にたどり着くためのハードルの一つだと思います。彼以外にヒョードル戦までに避けては通れない相手がいるとすれば誰だと思いますか?

ミルコ　そんな先のことよりも、いまはただ、目の前の敵ひとりひとりに集中するだけだ。ジョシュを甘く見るつもりはまったくないんでね。

——でも、ジョシュ戦をクリアしたあとの大晦日については、もうなにかしら考えているんじゃないですか? 巷ではノゲイラ戦、マーク・ハント戦などが噂されてますが、そのカードが組まれたら受けますか?

ミルコ　ジョシュとの試合後に考えるよ（そっけなく）。

——では、大晦日と関係なく聞きたいんですけど、K—1からの転向組ではハントはミルコ選手の次に成功している選手だと思います。彼をどのように評価していますか?

ミルコ　K—1からの転向組というのは、不思議な捉え方だな。純粋に、世界最強になりたいという思いで、たどり着いたのが『PRIDE』のリングじゃないのか?

——〝転向〟ではなく、K—1の先にあったものが『PRIDE』だと。

ミルコ　それにハントが本当に総合に適応できたかどうかは、まだ答えが見えてないんじゃないか? それは、ヤツがノゲイラやファブリシオと闘ったあとで、初めて垣間見える答えだと思うぜ。

——なるほど。わかりました。では最後に、ヒョードル戦でミルコ選手を応援した、多くのファンに対してメッセージをお願いします。

ミルコ　皆さん、たくさんの励ましのメッセージ、本当にありがとう。10月23日、俺のスターティング・オーバーを見に来てください。「アイシテマス」。

【05年10月5日／クロアチアへの国際電話にて収録】

――今日は、ジョシュさんにとっては1

なく、



ジョシュからの公式コメント

私はあらゆるところに憤慨している。NJPW（新日本）、DSE、そして自分自身にも。ここでその理由を語るつもりはありませんが、是非語らせて下さい。PRIDEシリーズとは関係ない話ではありますが、私から言わせて頂くと、これは大いに関係あることなのです。

この夏のNJPWのG1シリーズで、NJPWは私の代わりにカワダを選び、一方のDSEはカワダの出場を許しました。つまり、私はこの両者からカワダ以下という評価をされたということであり、私にとっては本当に耐えられない屈辱的な夏を過ごしました。

そもそもこの件の発端はNJPWのフジナミが……（あまりにも長いのでカットさせて頂きます。）

そして私自身への怒りは、前回、ミルコ選手との戦いにおいてあまりにも不甲斐なく、そして大変残念な結末になってしまったことに対するものです。この怒りと、つい数ヶ月前私の身に下されたNJPWとDSEの私に対する屈辱的評価とが重なり、これ以上自身を抑えておくことは私の精神に異常をきたしかねません。

今回ミルコ選手との対戦が決まったことは、正直なところ大変驚いています。なぜなら、今の私は普通ではないからです。私はミルコ選手だけでなく全てのファイターに対して尊敬と愛を持って戦う博愛主義者なのですが、ここに至るまであまりに多くのことがありすぎでした。今の私は心身ともに異常なのです。こんな状態の私と戦うことになる選手はある意味、非常に迷惑だろうと考えていました。それがよりによって、ミルコ選手であろうとは、DSEは酷いことをします。ミルコ選手、大変申し訳ありませんが、死んで下さい。そうでした、この言葉を忘れるところでした。

「ミルコ、オマエハ、モウ、シンデイル」

ジョシュ・バーネット

——今日は、ジョシュさんにとっては1年前の〝復讐戦〟となるミルコ・クロコップとの再戦について聞かせてください！
ジョシュ　ＯＫ！　まずはボクを応援してくれるプロレスファンには、絶対に勝つ！　ということを伝えたいな。この1年間の鬱憤をすべてぶつける。そしてミルコに言いたいのは……オマエニハ、ジゴクスラ、ナマヌルイ！（日本語で）。
——いきなり頼もしい発言ですけど、前回のミルコ戦でケガした左肩の状況はどうなんですか？
ジョシュ　ぜんぜん問題ないね。アンジョーサン（安生洋二）的に言うと、200％問題ない！
——ワハハハ！　それでは、あらためて1年前のミルコ戦を振り返っていただきたいんですけど。
ジョシュ　ハッキリ言う！　あの試合でミルコはボクに対して何もできなかった。
——短い試合タイムでしたが、内容ではジョシュさんが圧倒していたと？
ジョシュ　そうさ。彼はもう負ける一歩手前だったんだ。あの（テイクダウンされた）状況から彼が勝つには奇跡が必要だったと思うよ。
——試合開始早々に、ミルコのハイキックを間一髪かわしたジョシュさんがテイクダウンに成功したんですよね。
ジョシュ　ボクが上を取ったときの彼の引きつった顔はいまでも忘れられないよ（ニヤリ）。テレビでいつも見たナガタさん（永田裕志）の半笑いぐらいね（笑）。でも、そのときボクの左肩が脱臼してしまい、彼にとってその奇跡が起きてしまったんだ。ミルコは奇跡を授けてくれた神にすべてを捧げて感謝しないとね。
——では、ジョシュさんは負けたとは思

1年間の鬱憤、新日本からの屈辱的な評価
すべての怒りがミルコに向かう!!

「ミルコ、オマエハ モウ、シンデイル!! この言葉が現実になるんだ!」

DANGERO



ジョシュ・バーネット

ちょうど1年前、ミルコ戦の試合開始早々、肩を脱臼するアクシデントでわずか46秒で無念の敗退を喫したジョシュがついに復活！　この1年間、『PRIDE』に出られないだけでなく、新日本のG1も一方的にキャンセルされ、たまりにたまった鬱憤がすべてミルコに向けられることになる。"危険な状態"のジョシュを国際電話で直撃した！

聞き手／上杉HG　構成／堀江ガンツ、ジャン斉藤　撮影／丸山剛史
designed by hisa（Two Three）

っていないと。

ジョシュ　あの試合はアクシデントだよ。まだミルコとは決着はついてないし、今度はミルコに奇跡が舞い降りないよ。

―前回はプロレスを背負っての参戦でしたけど、今回の心境も同様なんですか？

ジョシュ　もちろんさ。ボクは常にプロレスとそのファンを背負って闘っているんだ。その姿勢は永遠に変わることはないよ。そして、こうやってMMAのリングで闘っていることで、ナガタさんやほかのプロレスラーたちも奮起して、プロレスの本当の強さを見せつけてくれればと思っているんだ。やっぱり、MMAのルーツはプロレスであり、ニュージャパンにあるとボクは思っているからね。

―いまMMAで勝てるプロレスラーが見当たらないからこそ、強く願っているところもあるんですよね？

ジョシュ　そうだね。ボクはプロレスラーの強さを信じているし、そして自分自身がリングの上で証明しないといけないと思っている。プロレスを背負っていくことには喜びすら感じているんだよ。逆に言えば、ボクだけがそれをできる人間だということもわかっているしね。

―たったひとりでもプロレスラー幻想を支えていきたいと。

ジョシュ　ボクは地方巡業の直後に、平気な顔で自信満々でMMAに臨むことができるプロレスラーでありたかったし、実際にそうしてきた。プロレスラーは本当にタフでなければいけないんだ。たとえば、つい先日、元オールジャパンのコウノ（河野真幸）がパンクラスの試合でKOされてしまっただろ？

―え!?　昨日の大会のことなのに、もうチェック済みですか！　さすがだ（笑）。

ジョシュ　オフコース！　彼がプロレスラーとしてリングに上がって闘ったことは誇りに思っていい。ただ、彼はもっと強くあるべきだ。闘うことだけでもひとつの実績だけど、勝つことや強さを見せることがプロレスラーとして大事なんだよ。

―そう言われるからには、ジョシュさんはこれからもプロレスラーと格闘家の二束のわらじを履き続けるってことですよね？

ジョシュ　ハイ！（日本語で元気よく）。それは自分自身のためだけではなくて、ヒーローを必要としている多くのファンのためにもね。だってさ、イノキ（アントニオ猪木）さんやマエダ（前田日明）さん、ケンシロウ（『北斗の拳』主人公）がいなかったら、世の中はちょっとつまんないんでしょ？　意味は違うけどフジナミ（藤波辰爾）もね（笑）。

―あ、ドラゴンもそこに入りますか（笑）。要するにジョシュさんはプロレスファンのヒーローになりたいということですね。

ジョシュ　ファンはみんな信じるモノが必要だし、希望やインスピレーションを与えてくれるヒーローをほしがっている。だからってボクがヒーローだというわけじゃないけど、少しでもそういう存在になれればいいなと思っているんだよ。

―ミルコもジョシュさんとは違ったアプローチですが、ファンに希望や感動を与え続けてきました。多くのファンがヒョードルを倒して彼がチャンピオンになることを夢見てたんですよ。

ジョシュ　たしかにヒョードル戦の試合内容や、そこに至るまでのプロセスは本

1年前、ミルコはボクに対して何もできなかった。彼はもう負ける一歩手前だったんだ

当にすばらしかったと思うよ。ただ、個人的な意見を言わせてもらえれば、ミルコがPRIDEチャンピオンになれる男だと思ったことは一度もないね。それはすなわち、彼はチャンピオンになるために必要なすべてのスキルを持っていないってことだ！（キッパリ）。

―ミルコのグラウンドスキルの成長が、関係者や選手から高い評価を得ていることはどう思われますか？

ジョシュ　グラウンドスキルの成長？　ちょっと待ってくれよ。彼はただグラウンドで堪え凌いだだけで、そんなに驚くほどの技術はなかったはずだ。もしヒョードルがパスガードにもっと力を割いていれば、試合はあっけなく決着がついていただろうしね。グラウンドで固まってディフェンスに専念することは、寝技で攻めて勝つことよりも簡単なことだよ。

―では、あの試合からミルコの弱点は見えましたか？

ジョシュ　彼の弱点は全部わかっているよ（ニヤリ）。ミルコはミルコのまま。ボクと闘ったときから何も変わってない。まあ彼はイージーな相手ではないということはわかっているけれども、当たり前のように1Rで終わらせてみせるさ。どっちが勝つかは言うまでもないけどね。

―では、ミルコに勝つと仮定して、いま、『PRIDE』では「誰もヒョードルに勝ててない」という意見がファンのなかにも広まっていますが、そんな風潮についてどう思われますか？

ジョシュ　彼だっていつかは負けることになるよ。それはみんなそうでしょ？

―ジョシュさんから見て、ヒョードルを倒す候補に誰が挙げられますか？

ジョシュ　それは難しい質問だな……。マーク・ハントはパンチャーとしてチャンスがあるかもしれないし、（セルゲイ・）ハリトーノフやフジタ（藤田和之）さんの可能性もあると思う。でも、いまの現時点でボク以外の人間を挙げるのは難しい。ヒョードルを一番初めに倒すのは、このボクだよ！

―ミルコを倒して、大みそかのヒョードル戦もありえない話ではない？

ジョシュ　まずはミルコ戦が終わってみないと、まだわからないけど、大みそかに試合をしたい。去年のようにテレビの前に座って試合を見るのだけは勘弁だよ（笑）。そして、できることなら、ニュージャパンの1・4東京ドームでも試合がしたい！

―でも、新日本とはG1出場を巡るトラブルでネガティブな報道が駆けめぐってますよね。ミルコ戦では去年と同じように新日本のフラッグを振って入場するんですか？

ジョシュ　ニュージャパンの象徴はボクにとって大事なものだけど、そのことについては、まだ決めてないんだ。もしフラ

ッグを振るとすれば、それはこれまでサ

考えも決まるということだね。

合いがつけばの話だけどね。

コノミヤキ、そしてウーロンチャ！

U−STYLEが復活するんだって？ ボクはUWFの大信者。ぜひ出たいよ！

ッグを振るとすれば、それはこれまでサポートしてくれたファンやプロレスラーたちのために振ることになるだろう。

——新日本のためには振らないんですか？

ジョシュ　ボクが納得できないのは、フジナミを始めニュージャパンの経営陣に対してだけなんだ。だって、ボクはG１にエントリーされていたのに、なんの理由もなく降ろされたんだよ。しかも2年連続で！

——今回のキャンセル理由は「川田利明選手のほうがより集客力がある」ということですけど。

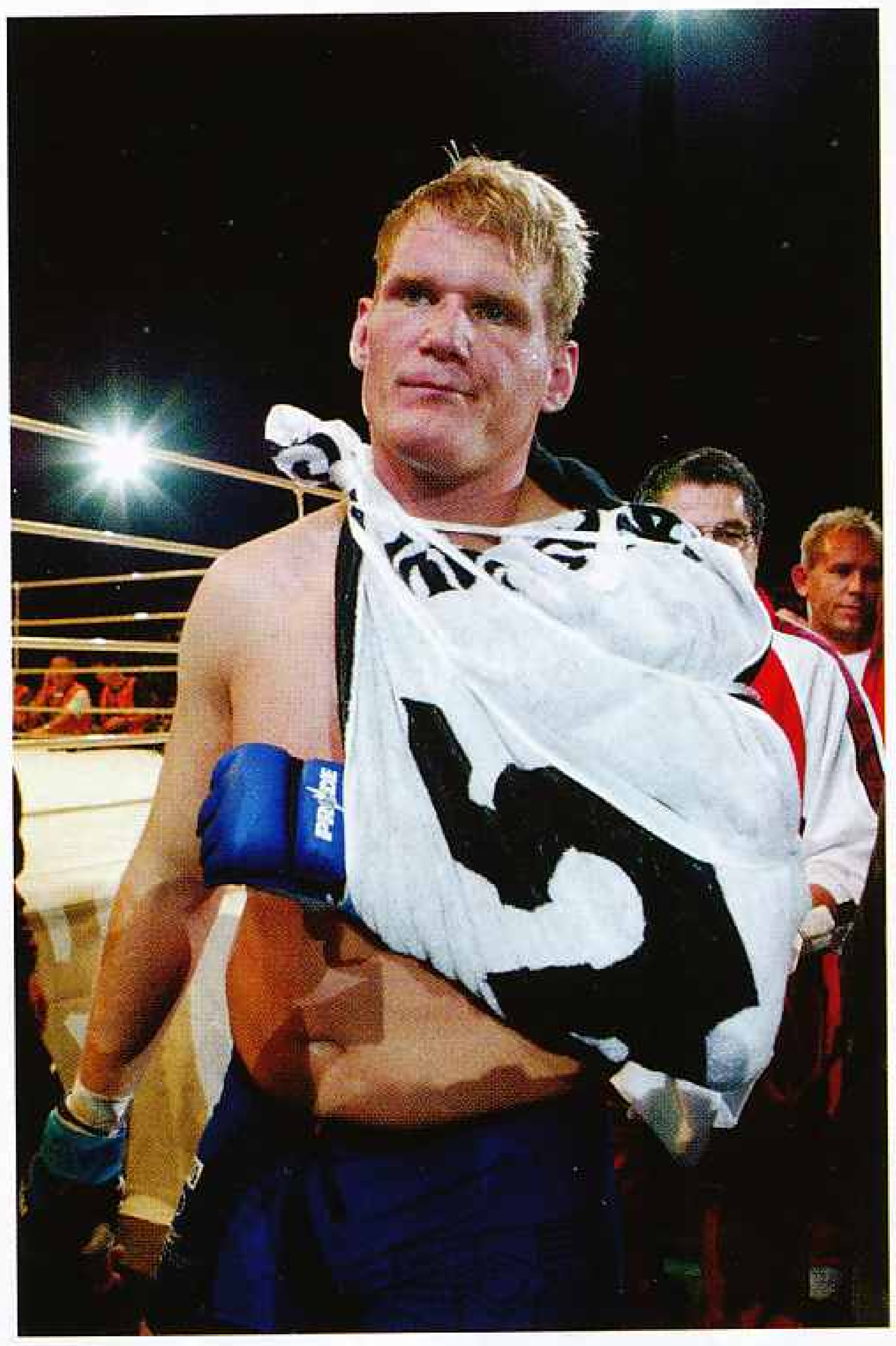
ジョシュ　ニュージャパンからメールがあって、一方的にキャンセルを伝えられた。ボクはG１がどんなに大事なイベントかはわかっているし、トップになる選手がその舞台に立つべきということも理解している。もしその大舞台にボクがいなくてもいいということなら、それはニュージャパンがボクのことをトップのひとりとして見ていないということでしょ？　いまのフジナミが出てるのに、ボクはそれ以下なの？

——まぁ、そう取られても仕方がないですよね。ジョシュさんは場合によってはほかのプロレス団体と出場交渉をする可能性もありえるんですか？

ジョシュ　ニュージャパンがボクに対して、いろんな選択肢を持っているのと同じように、ボクにだって選択肢はある。こうなってしまったからには、彼らがどれだけギャラをくれるかによって、ボクの考えも決まるということだね。

——新日本がそういう態度を取る以上、そうならざるをえないと。ジョシュさんもよくご存じだと思うんですけど、いま日本では様々な団体が群雄割拠している状況です。最近では、元新日本の上井（文彦）さんが絡んでいる『ビッグマウス・ラウド』も立ち上がって、そのリングで船木（誠勝）さんが現役復活を示唆したのは当然知っていますよね？

ジョシュ　もちろん知ってるよ。昔から言っていたことなんだけど、フナキさんとはぜひ試合をしてみたいね。彼はあまりにも早く引退してしまっていたから、ボクはリングで交わることができなかった。だから闘うチャンスができたということでとても嬉しいよ。もちろん条件の折り合いがつけばの話だけどね。



1977年11月10日、アメリカ出身。96年、19歳でプロ格闘家デビューし、02年に史上最年少でUFCヘビー級王座獲得。03年には10代キング・オブ・パンクラシストに輝いている。プロレス、UWF、そして日本のオタク文化をこよなく愛する“青い目のケンシロウ”。191cm、117kg。

——同じくUWF系では、田村（潔司）選手がこの秋に『U−STYLE　Axis』という大きなイベントを開こうとしているんですよ。

ジョシュ　え……!?　な、何それ？

——あ、さすがにご存じない（笑）。

ジョシュ　ちょっと詳しく教えてくれよ!!（興奮気味に）。

——ボクもまだ詳しくは知らないんですが、『U−STYLE』がスケールアップして、11月23日に有明コロシアムで開催されるそうですよ。

ジョシュ　うわ〜!!　ボクは、タムラさんがもう一度、U−STYLEをやってくることを心の底から願っていたんだ！　みんな知ってると思うけど、ボクはUWFの大信者。Uに関するモノはなんでも参加したいんだ!!

——ボクらもぜひジョシュさんがU−STYLEで闘う姿を見てみたいです！

ジョシュ　ぜひ出たいなあ。そうかあ、U−STYLEが復活するんだ……（ぶつぶつ）。

——来日の楽しみが増えたかんじですか？

ジョシュ　日本に行くことができるのはそれだけで本当に楽しみなんだけどね。日本は故郷みたいなものだし。しばらく会ってないけど、ボクにとって家族みたいな友だちもたくさんいる。日本食だって恋しいよ！　ウドン、オヤコドンブリ、オコノミヤキ、そしてウーロンチャ！

——さすがお腹の脂肪はダテじゃないですね（笑）。

ジョシュ　ジャパニーズ・フードだけじゃなくて、日本はホント大好きなんだ。「日本で遊ぶのは好きだけど、住むのはイヤ」っていうガイジンは多いんだけど、ボクは苦痛を感じたことは一度もない。温泉も大好きだし、銭湯の湯に浸かるのも幸せだ。JRにもSuica（乗車パス）で乗るし、日本で生活することにストレスはまったくない。

——あ、Suicaまで持っているんですか（笑）。

ジョシュ　だってボクの将来の夢は、日本に家を持って、日本語が堪能になって、本を読んだり、字を書いたりできることだからね。いつかジムを開きたいとも思ってるし。

——そういえば、ジョシュさんも大好きな秋葉原がいま脚光を浴びていることは知っていますか？

ジョシュ　知ってるよ。きっかけのひとつになったのは『電車男』でしょ（キッパリ）。

——『電車男』までご存知でしたか！（笑）。では最後にあらためてプロレスファンにメッセージをお願いします！

ジョシュ　いまはまだいろんな意味で憤慨していますが、いい興奮状態だと思います。前回はアクシデントとはいえ負けた上に怪我をして、おもしろい試合を見せられなくてごめんなさい。でも今度は違う。一緒に勝利のパーティを祝いましょう！　ミルコ、オマエハ、モウ、シンデイル！　この言葉がついに現実になるんだ！

【05年10月3日／国際電話にて収録】



聞き手／堀江ガンツ
構成／ジャン斉藤
撮影／森“モーリー”鷹博
試合写真／乾晋也
designed by hisa (Two Three)

隆 典

ヤバイヤツだけが集まる〝格闘番外地〟

「俺の生き様は片道切符」邪魔する奴は斬るか、刺すか――!!

9・23『武士道・其の九』ライト&ウエルター級トーナメント爆発の震源地――『武士道』のエース・五味隆典！　本当にヤバイヤツだけがしのぎを削る〝格闘番外地〟で誇りを懸けて闘い抜く、〝中・軽量級黄金時代〟を支える男をいまこそ刮目せよ！

『武士道』爆発の震源地！ “中・軽量級黄金時代”を背負う男

五味

五味隆典

自分のためのGPだっていうぐらいの気持ちで臨みました

五味　（撮影で使った模擬刀をビュンビュン振り回しながら）……俺も、こんなの持って撮影するようになったかあ。

――かなりハマってますよ、五味さん。

五味　そうですか？　あっちの人と勘違いされない？（笑）。

――〝あっちの人〟よりも、任侠映画の『網走番外地』や『昭和残侠伝』といった趣ですね。思わず「（高倉）健さ〜ん！」と声をかけたくなるというか（笑）。

五味　……（おもむろに日本刀で突く動作を繰り返す）。

――……そ、それはなんの動きですか？

五味　これ？　美濃輪（育久）さん。

――ガハハハ！　美濃輪さんの山籠り特訓シーンですね。

五味　〝ヘブン〟で〝天空〟！　ってかんじかな（笑）。

――とりあえず、その模擬刀は置いていただいて（笑）。『PRIDE武士道』ライト級トーナメント決勝戦進出、おめでとうございます！

五味　ありがとうございます！

――五味さんの試合には正直言ってシビれましたね。

五味　そう言ってくれると嬉しいですね。じつはGPの3日前がボクの誕生日だったんですけど、自分自身に最高の誕生日プレゼントになったと思います。

――そういえば、五味さんがリスペクトする矢沢（永吉）さんも同じ9月生まれなんですよね。

五味　そうなんだよ！　永ちゃんの新アルバムも発売されて、しかもタイトルは『ONLY　ONE』。そのアルバムはまだ聴いてないんだけど、まさしく『武士道GP』にピッタリなタイトルだったんだよね。

――オンリーワンを決めるGPだからこそ、リスキーな闘いが連続しましたよね。そんな中でも川尻（達也）選手との一回戦は文句なしのベストバウトでした！

五味　ありがとうございます。こういった凄い試合をやることによって、この階級の魅力を理解してもらえれば一番ですよね。修斗でやってるときは自分の階級（ウエルター級、70キロ以下）が中心だったんで、とくに意識してなかったですけど、やっぱ世間一般ではヘビー級がメジャーじゃないですか？　ある程度、軽量級を浸透させるのはこれだけ大変だってことなんですねえ……（感慨深げに）。

――五味さんはもう『武士道』では9連勝もしてるんですけどね（笑）。

五味　いまちょうどテレビでやってる頃でしょ？

――一週間遅れながら午後4時からの地上波中継。

五味　テレビになれば身体の大きさは関係ないですから。

――ある意味、テレビだとスピード感があってテクニカルな軽量級のほうがわかりやすいですよ。

五味　本当にいい試合だったなあ。ボクは『武士道』ができたことがすごく嬉しいんですよ。そこにまた強い選手が集まってることもホント嬉しいし。

――いくら強豪揃いとはいえ、正直言って「俺も一回戦からかよ」という気持ちはありませんでした？

五味　そうですねえ。それはちょっとありますね（笑）。ただ、やっぱベルトがほしいですから。それに10連勝まであと1試合になったし。

――10連勝って並大抵の記録じゃないですよね。いまのところ『PRIDE』ではヒョードルが3年がかりで11連勝していますけど。

五味　ボクは2年間で10試合してるんで。修斗のときだったらちょっと考えられない試合間隔なんですよね。

――それだけの連戦をこなしてきて、あとから『武士道』に参戦してきた川尻選手とライバル視されることに納得がいかない気持ちってありませんでした？

五味　う〜ん。それよりなんで川尻選手はこれだけの大舞台でありながら、オリジナルのパフォーマンスをやらないんだろう？　とは思ってましたけどね。常にボクの名前を口にして「闘いたい！」って言っていたじゃないですか。ボクは自分のオリジナルの道を示すチャンスだと思って『武士道』で闘ってますから。

――五味さんには、川尻選手の立場や心境は想像がつかないかんじですか？

五味　う〜ん。でも、こういう感情は（佐藤）ルミナさんもボクに対して思っていただろうし、やっぱ追うほうが楽なんですよ。でもやっとボクもオリジナルの舞台を作れたし、そういう意味ではあとに続く者もいないと困りますからね。

――ちょっと前まで名前もあまり出さなかった川尻選手と闘おうと思ったのはどういう理由があったんですか？

五味　理由も何も、トーナメントの出場選手を見渡せば、結局どこのブロックに入ってもキツいんですよ（笑）。

――なんでこんなに強豪ばかりなんだっていう（笑）。

五味　そのなかで主催者の方はお客さんが一番盛り上がるカードを提供したいということだったんで、だったら一番盛り上がる相手とやってやろうと思ったんですね。それに川尻選手以外の選手とはだ

いたい過去に闘ってますし。





運命の対決は“終わり”の“始まり”となる大熱戦――!!



豪打で鳴らす川尻の間合いに踏み込み、前へ前へで歩を進め、そして拳を繰り出した五味。スリリングな攻防に観客のどよめきが止まらない!!



必殺のパウンド攻撃に持ち込もうとテイクダウンを狙った川尻だったが、五味はそのタックルを見事に切る！　この攻防が勝負の命運を分けたともいえる



試合開始直前の両者。川尻は五味をギラリと睨み付け興奮を隠しきれない。一方、五味はうつむいて視線を合わせず内に闘志を秘めるかのようなたたずまい



[『武士道・其の九』ライト級GP一回戦]
○五味隆典vs川尻達也×
（1R 7分42秒 チョークスリーパー）

あのヒョードルvsミルコの死闘を超えた!? 文句なしで　05年の年間ベストバウト候補、中・軽量級黄金時代の金字塔を打ち建てる試合内容となった五味vs川尻!!　両者の意地と誇り、そして拳が交錯。会場、ＰＰＶ、地上波中継のいずれかでもまだ見てない方は、女房を質に入れてでも映像を入手することをぜひお薦めする！

いたい過去に闘ってますし。

——『武士道』のために一丁やってやろうじゃないか！　と。結果的にその判断は興行的にも内容的にも大正解になって。

五味　自分にとっても、お客さんの盛り上がりぶりのおかげで最高のテンションになりましたね。正直、試合前の何日間から会場入りするまで、リラックスし過ぎだったんですよ。それは試合の慣れからくるものなんですけど、ホント緊張感なくて、セコンドについてくれてる空手『武心塾』の加藤（文博）先生が会場に到着したぐらいから「そろそろ気合を入れとこ！」ってなって。でも、他の選手の状態よりはぜんぜんいいんですよ。他の選手は極度に緊張してましたから。

——その余裕には五味さんが『武士道』でこれまでやってきたという自信があるんでしょうね。

五味　うん。もう『武士道』は自分のリングだし、自分のためのGPだっていうぐらいの気持ちで大会に臨みましたね。ま、7回もやって慣れなきゃ困るっていうのもありますけど（笑）。

——そういう意味では、『武士道』の初期の頃と比べると心構えのほうも違ってきてるんですか？

五味　そうですね。試合内容は変わってないんですけど、最初はここまでの心意気はなかったかもしれない。初期の頃はミルコ（・クロコップ）選手や（ヴァンダレイ・）シウバ選手がトップで闘っているなかで、なんとか日本人選手の良いところを見せたいなと思うぐらいで。やっぱヘビー級で日本人選手が上に立つのはなかなか厳しいから、『PRIDE』は外国人選手の凄さを楽しんでもらうってところがあったじゃないですか。


TKO寸前の川尻だったがレフェリーの動向を確認して心は折れてない。しかし、そのまま引っこ抜かれるかたちのチョークスリーパーにタップ！　なんて凄ぇ試合なんだ!!


打撃を嫌がり川尻が組み付いたところに強烈なヒザ蹴り!!　五味は崩れ落ちた川尻をバックマウントの姿勢で捕らえ拳を振り下ろす！　川尻はグロッキー状態でこのまま終わるかと思われたが……


五味の上下のコンビネーションが冴え渡る！　川尻をコーナー＆ロープ際に追いつめ、鋭い拳を何度もクリーンヒットさせた!!

――その巨大な扉を五味さんが力ずくでこじ開けてきたというか。

五味　日本人が世界に通用する体重のリミットは70キロ台が限界かなって思うんですよね。実際83キロ級は、外国人選手は93キロから落としてくるでしょ。どうしたってパワーの差は歴然としますよ。

「GPの前日に、髙田さんと榊原代表に言われたんですよ。『エースが負けたら終わりだよ！』って」

――そうはいっても、ライト級トーナメントにも〝日本人全滅〟になりかねない強豪外人がエントリーしてましたよね？

五味　さっきも言いましたけど、どこのブロックに入ってもキツイんですよね（笑）。

――日本人選手も実力派揃いで。でも、五味さんが意識してるものは他の選手とはちょっと違うなってボクらには見えるんですけど。

五味　とにかく凄くてハンパじゃないものを見せたいという思いはありますね。格が違うっていうか、ヤバいだろ！って思わせるような。だって、エースの試合が簡単に真似できる迫力だったらダメだと思うし、相手との闘いっていうよりも、お客さんに喜んでもらえる試合をしなきゃいけないんで。だから……昨日の取材でなんかいいこと言ってたなぁ。でも忘れちゃった（笑）。

――ダハハハ。他誌を参照ってことで。

五味　ま、ボクを支えてくれる人たちや、お客さんのためにエースとしての闘いをしっかりやるってことが大事ですね。

――もしも自分がコケたら、『武士道』という場自体がなくなってしまうんじゃないかという危機感はありませんか？



［『武士道・其の九』ライト級GP二回戦］
○五味隆典vsルイス・アゼレード×
（2R判定3-0）
『武士道・其の七』の再戦。一回戦で小谷直之をわずか11秒で撃破したアゼレードに対して、五味は川尻と死闘を繰り広げたばかり。スタミナ面のアドバンテージはあきらかだったが、五味の闘志は一向に衰えず。打ち疲れの局面もあったが"横綱相撲"で大みそか決勝進出を果たした!! 修斗王者、ブラジル軽量級の雄を連破するなんて！

エースの試合が簡単に真似できる迫力だったらダメだと思う

五味　GPの前日に、会見の控室で髙田（延彦）さんと榊原（DSE代表）さんから言われたんですよ。「エースが負けたら終わりだよ！」って冗談で（笑）。

――じつはそれが事実だったりするんですよ！（笑）。でも、そんなことを軽く言ってくるのは、本部長や榊原代表がそれだけ五味さんのことを信頼しているという証でもあるんでしょうね。

五味　うん。ありがたいお言葉ですよ。とにかく普通の神経ではやっていけない世界ですから。俺はそういったところは神経図太いし、小さいことをずっと気にしてたりすることもたまにはあるけど、いまは自分の目標を達成していくだけなんで、なんにもプレッシャーは感じませんね。どんな勝負の世界にも相応のプレッシャーがあるだろうし、それに打ち勝てる選手だけがスーパースターになれると思うんで。一回戦も筋力やパワーだけで言えば川尻選手のほうが上だったと思うんですよ。でも、それを撥ね退ける〝何か〟がボクにあったから勝てたんでしょうね。

――挑戦を受ける立場で、しかも興行自体を背負うほどのプレッシャーを受けていて、その上で気持ちで打ち勝つというのが凄いですよね。

五味　川尻選手はどう思ってんのかなあ……。「自分より強いヤツがいることを初めて知りました」っていうような感想だったらしいですよね。まあ、そりゃいるよ！っていうことで（笑）。

――世界は広いぞ！と（笑）。

五味　要はさ、喧嘩は買った時点で勝ちなんですよ。喧嘩は買ったモンが強いっすね、やっぱ。売っているうちはいいですけど、いざ相手に買われるとプレッシャーがかかりますから。まあ、川尻選手もいまご

五味隆典

ろ喜んでるんじゃないかなあ。これでまた強くなるんじゃないかって。

—川尻さんはいまと似たようなことをインタビューで言ってましたね。

五味 あ、ホントに！ ワクワクしてんじゃないの？ ホントやりがいあると思いますよ、世界は広いからさ。強いヤツはいくらでもいますよ。

—でもいまのところ、この階級では五味さんが〝世界最強〟と呼ばれるに相応しいと思いますよ。

五味 いや、まだチャンピオンじゃないから。その座に王手の状態ですね。

—一回戦なんかにしても達成感や安堵感が押し寄せてしまって、なかなか次の試合にはスイッチが入らなかったんじゃないですか？

五味 じつは一回戦を勝っても「コーナーに登っちゃいけない」って言われてたんですよ、万が一落ちて怪我することを考えて。でも、もうこんだけやったんだから二回戦はやらなくていいだろうと瞬間的に思って（笑）。それに怪我して二回戦は出ないかもしんないじゃないですか。

—だったら「登っちゃえ！」と（笑）。

五味 そうそう。でも、控室に戻ったらどこも怪我がなくて、二回戦もやんなきゃダメかって（笑）。マジメなこと言えば、（二回戦のルイス・アゼレードは）一度勝った相手だから負けるわけにはいかないし、前回乱闘まがいで試合が終わってしまったんで、「これも自分がまいた種だな〜」と思いながら試合しましたけど。かならずしっぺ返しがくるんだなって（笑）。

—アゼレードも前回の屈辱を晴らそうという腹積もりだったでしょうね。

五味 今回のアゼレード選手はもの凄くガードがしっかりしてましたね。強いフックを何度か入れても倒れなくて、「なんで倒れないんだろう？」って不思議だったんですけど、当たっていたのはこめかみだったんですね。前回はアゴに（パンチを）入れたから、今度はガードをきっちり下げてきたんでしょう。

—一試合ごとにレベルアップしている。しかもアゼレードの一回戦はノーダメージだったじゃないですか。小谷（直之）選手をわずか11秒で破って。

五味 小谷選手は『PRIDE』初出場で、いきなりGPだったからプレッシャーがキツかったんじゃないですかね。

—川尻選手との死闘を終えたあとにノーダメージのアゼレード戦って冗談じゃないよ！ って気持ちはありませんでした？

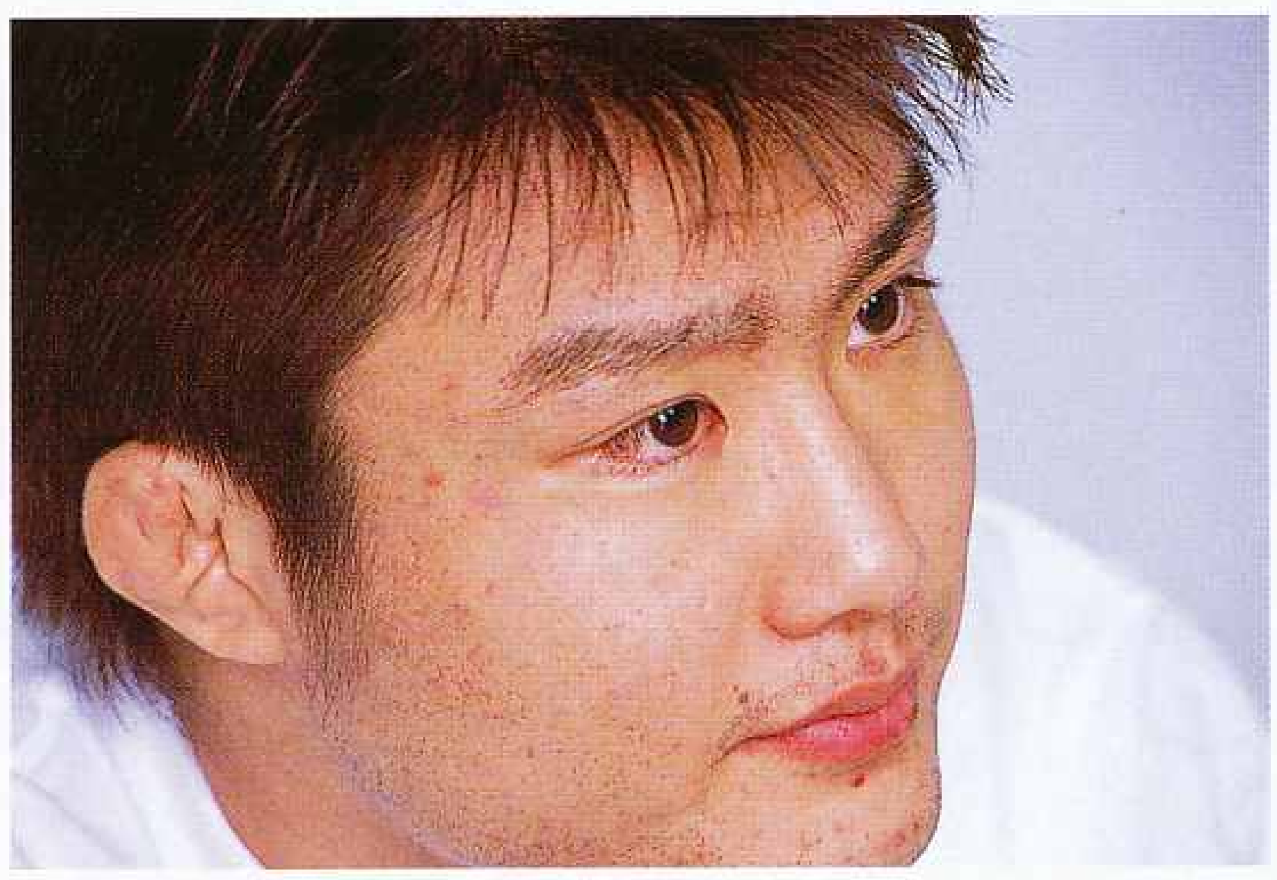
五味 勘弁してくれ〜とは思いましたけど（笑）。でも、逆にそういう状況が結果的に良かったって言う人もいましたけどね。

—絶体絶命の苦難だからこそ闘志が湧いたというか。

五味 そうなんですけど……すべてが試練のような一日でしたね（笑）。

—小谷選手が11秒で負けた瞬間、マスコミや関係者は「今日は一回戦だけでおしまいにしよう！」と思ったはずなんですよ（笑）。五味さんが万全な状態でアゼレード戦をやればいいじゃないかって。

五味 それにボクと川尻選手の試合が終わって、お客さんも気の抜けたところがちょっとあったはずですしね。でも、結果的に言えばありがたいことですよ。たしかにキツかったですけど……簡単にはビッグになれんのですよ！（笑）。



—困難や障害を乗り越えてこそ、永ちゃんみたいなビッグになれると！

五味 そうそう（笑）。自分で勝ち取るしかないっていうのが『PRIDE』の魅力のひとつだと思ってるんです。「絶対に負けちゃいけない！」って強く思うことで、ネガティブに傾きそうになる気持ちを踏み留めてるというところはありますね。

—大みそかの決勝まで進んだからには、絶対に負けられないという意識も当然あるわけですね。

五味 ありますよ！『武士道』のメインを張ることをすごく幸せに感じていますし。人生のなかで自分がメインになることって、なかなかないと思うんですよね。それこそ何億分の一の確立だと思うんですよ。だからこそ、もうやるしかないと思ってるんです。

「いろんな人の記憶に残れるチャンスですから。そういう偉大な人間にボクはなりたいんですよ」

—五味さんって「昔と比べて変わった」って言われることはありませんか？

五味 え？ 変わったとは言われませんね。「変わってる」とはよく言われますけど（笑）。

—ガハハハ。

五味 変わったっていうのは、ファイトスタイルとか試合自体のことですか？

—試合自体ではなくて、意識というか精神的な面のことですね。

五味 プロとしてのレベルに合わしているところはありますけどね。修斗のときはプロとして満足のいく試合というより、とにかく勝たなきゃいけなかったし。『PRIDE』はランキング制がないし、とにかくお客さんに喜んでもらう、と。で、その上で勝てれば最高ですよね。

—結果、内容、そしてインパクト。この3つが伴うかたちが最高の試合を演出するわけですね。

五味 はい。正直、修斗の前半はいまと同じような試合をしてたんですよ。もうダウンを取り合うような殴り合いで。でも、修斗は競技性が強いから勝つことが最優先されるし、相手も（寝技に）引き込んだり守ったりしてくるんですよね。そこで相手が打ち合いに来なければ、自分も引き込みに当然付き合っちゃいますし。でも、それはプロとしてのレベルやイベントとしてのレベルに合わしていけばいいことだと思うんですよね。

—五味さんのいまのスタイルというか、自分もノックアウトされかねない距離に踏み込んでの打ち合いは、『PRIDE』で闘うからにはこういう方法論でいかないと！ っていう五味さんなりの結論なんですか？

五味 そうですね。いろんな人の記憶に残れるチャンスですから。そういう偉大な人間にボクはなりたいんですよ。

—去年の『男祭り』ぐらいから五味さんのそういったアグレッシブな傾向がより顕著になってきたように思うんですよ。

五味 それは運勢がきっと良かったんで

五味隆典

正直、川尻選手やアゼレードの試合もまだまだ物足りない

すよね（笑）。『武士道』に初めて出たときは自分自身が復活したいという強い思いもあったんですけど。そのときはまだ『武士道』のイベント性や、そこの頂点に立つエースが決まっていないなかで、うまくその位置にハマることができたんで。きっと運もあるけど、それも実力のうちだし、闘い続けてきてホント良かったなって。俺もこんなに毎日練習ばっかしないで遊んどきゃ良かったな、なんて思う気持ちもありますけど、楽して人が憧れるポジションにいけるとは思えないし、キツい道のりを乗り越えていくのが真のファイターじゃないですかね。

——選手って大きく二つに分けると、エースと呼ばれて緊張で固まってしまう人と、それでも力を……。

五味　（遮って）じゃあエースじゃないんですよ！　たぶん！

——なるほど！　ごもっともです（笑）。

五味　でも、そういう考えでいったら、川尻選手より俺のほうが楽だったもかもしれないですね。仮に負けたとしてもいい試合だったら、俺は7連勝もしてるし、「GPは苦手なんだな」っていう評価をされたでしょうから。逆に川尻選手は修斗のチャンピオンとして絶対に勝たなきゃいけないし、トーナメントも制覇しなきゃいけない。いろんなプレッシャーがあったと思うんですよ。それに、はたしてボクに勝っても『武士道』を引っ張っていけるんだろうかっていう不安もあっただろうし。でも、『武士道』のエースの自分に勝つっていうのはそういうことですからね。

——幻想を壊す人間は幻想を作らないといけない。取って代わらないといけないわけですからね。

「大みそかまで3ヵ月。たった3ヵ月で人生が決まっちゃう。そこで人生を棒に振るか振らないかっていう」

——五味さんは以前から「スーパースターを目指す」って目標を掲げてましたけど、その理想像にはずいぶん近づいてきました？

五味　いや、まだですね。（小声でさえずるように）とくに私生活がまだですねえ……（笑）。

——リングよりプライベートの底上げが必要（笑）。

五味　もうちょい自覚を持たないと。仕事がうまくいってると逆に私生活が荒れたりしますから。両方しっかりしないとダメですよね。ま、とにかくあと1試合勝てば10連勝、それでトップですからね。

——トップにならずとも、『PRIDE』を支える日本人ファイターとしてのイメージが五味さんに定着してきたとボクらは思ってるんです。

五味　いや、それを完全に確立させるには、あと一試合勝たないと。とにかく気は抜いてないっす。もうちょいすると、今回の試合の疲れも完璧に抜けて、リラックスできると思うんですよ。試合まで3ヵ月あるので、一度すべてを空っぽにして心身ともにリラックスできれば問題ないと思いますよ。

——今年の『男祭り』は、去年とはまた意識も違ってくるんでしょうね。

五味　どうだろ……？　大会を見てくれる人たちが軽量級をどう捉えるかは、ちょっと俺にはわからないですけど。でも軽量級も楽しんでもらえるって雰囲気にはなってきてると思いますね。

——ズバリ、大みそかの主役になってやるという自信もあるわけですよね？

五味　なればいいんですけどね。まぁ、なるでしょうね！（笑）。

——頼もしい発言ですね！

五味　（唐突に）一度、自分の試合の特集やってくれないかなあ。『武士道・其の弐』からの試合映像を編集して。

——『PRIDE』はバックステージ映像も豊富だから、これまでの道のりをドキュメントで追ったDVDも発売してほしいですよね。フジテレビの現場サイドは『武士道』はゴールデンやプライムタイムでも充分に通用する！」って言ってるみたいですし、どんどん可能性は広がってきてますよ。

五味　なるほど！　でも『武士道GP』の完成度が毎回続くかなあ……。まあいいや、それより一回休みましょう（笑）。『武士道』はできるかぎりのことを最大限やっているから、絶対にいいことあるだろうし。俺もまだまだやりぬかなきゃいけない。正直、川尻選手やアゼレードとの試合を何度も見返したけど、まだまだ物足んないんで。

——あんなハイレベルな内容なのにまだ物足りないんですか!?

五味　まだまだ無駄が多いんですね。無駄っていうかもっと凄い試合ができますよ。それを意識し過ぎて、オーバーワークになったり、メンタル面で燃え尽きてしまったりしないように、抜くとこは抜いて、火が点いてくるまでリラックスして。

——五味さんの気持ちに火の点く相手として、先輩のマッハ（桜井〝マッハ〟速人）選手はどうなんですか？

五味　ボクの最大の焦点は、まずベルトの懸かった試合というところですね。そしてマッハさんもベルトを獲りたいと思ってるでしょうし。ただ、『武士道』を引っ張ってきたのは自分ですから。それにたぶんここでベルトが獲れなかったら、俺はもう復活できないですね。またいままでと同じことを繰り返せって言われたら、おそらくできないですから。

——たしかに、いまの五味さんは二度とできないようなことをやってますよね。

五味　進退懸かってんじゃないかなあ……。それくらいのつもりですよ。ベルトを獲るのと獲らないのじゃ人生変わってくるだろうしね。（小声で首をかしげながら）進退懸かってんなあ……。

——もし決勝戦で負けてしまったら、もう気力も残らないというか。

五味　来年もしGPがあっても出る気力は残ってないでしょう。いままでが、うまくいき過ぎっちゃあいき過ぎなんですけど。まあ、俺の格闘技人生はすべてが片道切符なんで。修斗のときも一度でも負けたらやめようと思って実際にやめたし。もちろんルミナさんのように何度も這い上がる美学は、お客さんを惹きつける魅力としてあるでしょうけど、俺は面倒くさがり屋なんでね。そこで勝てるんであれば勝って突っ走りたいんで。

——片道切符、全力疾走で走れるところまで走り抜く！　と。

五味　そこで人生を棒に振るか振らないかっていうか、いまは大みそかまでの、たった3カ月で人生が決まっちゃう。でも、今後の人生を考えたら、たった3カ月の我慢で済むわけですよ。

——どんなに苦しくても、たった3カ月。

五味　そうそうそう（笑）。そういうふうに考えちゃえば楽だって！　うん。

——大みそかは周りの注目度もまた違いますけど、もちろん裏番組に負けたくな

1978年9月22日、神奈川県出身。木口道場レスリング教室所属。第5代修斗ウエルター級チャンピオン。『PRIDE』には04年5・23『武士道・其の二』から参戦。修斗戦績13戦12勝1敗（12連勝の記録はいまだ破られていない）。『PRIDE』戦績9戦全勝（うち7勝が一本＆KO勝ち）。173cm、72.9kg。
[オフィシャルHP]
http://www.t-gomi.com/



中・軽量級
黄金時代
格闘
ゴールドラッシュ
2005

いっていう気持ちもありますよね？

五味　いや、このあいだは（須藤）元気くんがリングに上がって挨拶してくれましたけど、『PRIDE』は『PRIDE』で独自の道をいけばいいんじゃないですかね。ただ自分の試合を観客席で見たことはないですから。一度、見てみたいなって。

――五味さんはリングサイドで『PRIDE』の試合をもの凄い形相で見てるときがありますよね。

五味　ああ、ミルコの試合とか楽しいですから（笑）。でも一度、自分の試合を客として見てみたいな〜。だって花道を歩いてるときって、歓声があんまりわからないんですよ。リングに上がったら気は静まりますから客席のこともわからないし。でもセコンドの声は聞こえてるから、なんとも不思議な空間なんですよね。

――川尻戦のときなんか、打ち合いのラッシュが終わった途端に客席からブワ〜ッと拍手が広がっていくんですよ。あんな光景は初めて見ました（笑）。

五味　それは川尻選手のおかげもあるでしょうしね。でも、試合は何十回も見返したんで、もう飽きました。もう次の作品を創りたいなって、そういうムード。

――では、大みそかも期待しています！

五味　あと今回、応援してくれた人がホントたくさんいて、ファンレターや試合後にもメールとかをたくさんもらったんで、感謝の気持ちを載っけといてもらえますか？　ありがとうございますって。

――わかりました！

五味　一度疲れを抜いて、また大みそかに向かって走りたいと思いますので！

【05年10月2日／六本木『リュウスタジオ』にて収録】



もう一度、かならず 五味くんに登り詰める

修斗ウェルター級チャンピオン（70キロ以下）の肩書きを引っさげて、熱望していた五味戦に臨んだ“茨城の壊し屋”川尻達也。意地と誇りと拳が交錯する激戦の末、敗れてしまったが、『PRIDE』史上に残る屈指の名勝負。中・軽量級黄金時代を支える主役のひとりとして敗者といえどもその声に耳を傾けなければいけないだろう。

聞き手／ジャン斉藤
撮影／菊池茂夫
試合写真／乾晋也
designed by hisa（Two Three）

PRIDE史上屈指の超名勝負!! 〝最高の敗者〟は何を思う――？

川尻達也

――今日は無理言ってスケジュールを組んでもらって申しわけありません！

川尻　いやいや、べつに無理したわけじゃないんですけどね。

――でも一度取材を断られたから、ちょっとまだ心境的に試合を振り返りたくないのかな？　なんて勝手に思ってたんですけど。

川尻　いや、そういうわけじゃなくて、最近ジムが移転することになっていろいろ忙しいし、それにしゃべることも何もないかなって。いくらいい試合だって言われても、ボクは負けてしまったわけですからね。

――でも五味さんとあれだけの死闘を繰り広げたわけですから。川尻さんが何を思ってリングに上がって、そしていまはどういう心境なのか知りたがってるファンは多いと思うんですよ。

関（川尻マネジャー）　……もうちょっと落ち込んだほうがいいじゃないの？　と川尻には言ったんですよ（笑）。

――ダハハハ。そんなに落ち込んでいないと？

川尻　そんなこともないんですけどね（笑）。控室で悔しい思いをしながら、残りの試合を見てましたし。

――川尻さんは大会終了後、五味さんの控室に足を運ばれたみたいですね。

川尻　リング上で五味くんにもらった勝利者賞のメダルを返しに行きました。そのとき「五味くんに対して挑発するようなことを言ってきたけど、あれはホントに五味くんと闘いたかっただけだから」って言いました。あと「五味くんは凄い強かったから、もう一回挑戦するところまで、かならず行きます」とも。

――五味選手のほうはなんて言われてたんですか？

川尻　なんつったっけかな。興奮してたんであんまり覚えてないんですけど（笑）。

――そういえば、会場の前で川尻さんのご両親を見かけたような気がしたんですけど。今回の試合をご家族は観戦されてましたか？

川尻　来てました。家族は毎試合観に来てくれてるんで。……母親にはボロクソに言われましたけどね。「ちょっと、なんで負けてんの?!」みたいにズケズケと（笑）。

――そんなことを（笑）。それに対して川尻さんはなんて答えたんですか？

川尻　「まあしょうがないよ。五味くんが強かったんだよ」って。

――あんなにすばらしい試合だったんだから、「よくやったわよ！」というフォローがあってもいいですよ（笑）。

川尻　まぁ、へたに慰められるよりいいっすからね、ズバリ言われたほうが。ただ、負けたことは悔しいですけど、試合中は凄い楽しかったんですよ。

――あんな凄い試合を見せられて、ボクらも十分楽しかったです！



何度も「落ちつこう」と思ってもやっぱすごい楽しくて

川尻　ボク、いままで試合をやっててそんなに楽しいって思ったことはなかったけど、今回は凄くテンションが上がってたし、思わず笑顔が出ちゃうぐらい。ギリギリのとこでやってるのが凄く楽しかった。

――試合前のテンションも高かったですよね。花道途中でいきなりダッシュして。

川尻　ビデオで振り返ってみると、ありえないぐらいのテンションの高さでしたね（笑）。もう我慢できなくなっちゃって、早くリングに上がりたいっていうか。何度も「落ちつこう、落ちつこう」と思っても、やっぱ凄い楽しくて。

――試合前から興奮して眠れないかんじだったんですか？

川尻　試合前に寝つきが悪いのはいつものことなんですけど、ほんとワクワクしてましたね。強い人と闘えることが楽しみで、やっぱそういう体験がしたくてボクは格闘技をやってるんで。

――それは観客も同じだと思いますよ。強くて凄くて楽しい試合がみんな見たくて、その期待に二人が応えたからあんな

川尻達也

に盛り上がったんでしょうし。

川尻　ボクと五味くんがあのタイミングで闘えたというのが大きかったでしょうね。まあ、ボクは負けてるからなんとも言えないですけど。自分のなかでは負けたけど良い試合というのはありえないんで。でも、見てくれた人たちが「良い試合だった」「ベストバウトだった」とか言ってくれたのが、それだけが負けたボクの救いです。やっぱ勝った試合でも、「おめでとう!」と言われるよりは「おもしろかった!」って言われるほうが、ボクのなかでは嬉しいことなんで。

――以前、川尻さんは「ボクはデビュー戦で心を折られてるんで、もう一回心を折られたらそれが最後の試合です」って言われてましたよね。今回の試合では絶対に引かない、そして心を折らせないという気迫が見てるほうまで伝わってきました。

川尻　ボクと五味くんの試合は意地と意地のぶつかり合いになるだろうと思ってたんで、強い意志を持って闘おうと思ってましたね。五味くんも意志が強いというか、なんて言うんだろ……。背負ってるものを強く感じて。ボクがいままで闘ってきたどんな選手とも〝何かが違うな〟っていう感触はたしかにありましたね。やっぱ五味くんは引かないし、気持ちも折れないし、精神的にも凄味があったし。

――五味さんは試合になれば目線を絶対に外さないし、前に前に出てきますよね。それに川尻さんもしっかり拳で応えて。

川尻　ボク、試合であんなに打ち合ったことって、じつは初めてなんですよね。いままで自分より打撃が強い人にはタックルで攻めたし、寝技が強い人には打撃で攻めて。打撃の攻防をしたことがなかったんですよ。

――今回はまたどうして打ち合ったんですか?

川尻　そこは意地の部分というか、楽しくて冷静さを失った自分のミスですね。

――冷静さが足りなかったおかげであんなに凄い試合が見れた(笑)。関さんからごらんになっても、川尻さんは普段と違ってましたか?

関　違ってましたね。カッコよく言うと、川尻の男らしいところが出過ぎましたね。

川尻　いやいや……(照れてうつむきながら)。



鬼気迫る五味のラッシュに川尻も負けじと打ち合う! 強烈なフックで五味の顔を歪ませた。こんなパンチを喰らっても倒れない五味の凄さもわかるシーンだ!

直して。2年後にもう一度、闘おうって言いたいです。

関　私の言うことは載せないでいいですけど……。いい経験をしましたよ、川尻は。心・技・体ってあるとしたら、今回は「心」の問題。川尻は決して心が弱いわけじゃないんだけど、もっと自分でコントロールできる部分があったんじゃないかなって。心・技・体って、一番上にくるのが心だから。一番大事なのが心だから、心が一直線になっちゃうと、技も一直線になるんだろうな。あと、ライト級の決勝に残った二人って一度は試練を受けてるじゃないですか。

――一度どん底に落ちてますよね。

関　五味選手でいえばBJ・ペンや(ヨアキム・)ハンセンに負けたり、マッハ(桜井〝マッハ〟速人)選手の場合はウェルター級で苦戦しまして。そんな経験があったからこそ、いまの二人は冷静な試合運びができると思うんです。あの二人は男の修行を積んだんですよ。だから川尻もこの試合がレベルアップするための糧になったんじゃないかなって。

川尻　また強くなるための経験ができたなって思いますね。本当に冷静さが足りなかったですから。

――もともと練っていた作戦はどういうものだったんですか?

川尻　最初の5分は距離を取りながらタックルのフェイントからローキックとパンチで攻めて、ラスト5分からテイクダウンでたたみかけようと思ってたんですけど、タックルとかいうより、もう殴り合うことしか頭になくなっちゃって。それでテイクダウンのしつこさもなかったし。まぁ、そういう自分自身の問題があったけど、それをどうこう言う前に五味くんは本当に強かったですね。

――とくに五味選手のボクシングテクニックはズバ抜けてますよね。

川尻　うまいですね。これはもうずっと前から自分でもわかってたことなんですけど、ボクの打撃はテイクダウンを狙ってくる相手に対しての打撃で、いかにワンチャンスで相手を仕留めるかということを考えながら練ってきたものなんです。つまり、ボクシングの打ち合いには向いてないんですよ。で、五味くんの場合はボクシングの細かい打ち合いのなかで活きる打撃なんで、そういうボクに不利な部分が試合にそのまま出てしまったと思うんですよね。

――あらためて打撃のスタイルを考え直す機会でもあったんですね。

川尻　そうですね。ボクシングの重要性もそうだし、この先に生まれる格闘技の流行型も自分のなかではイメージができてきているんで。それを本格的に自分の型として取り入れていこうかなと思ってます。パンチの破壊力だったらボクが一

中・軽量級 黄金時代
格闘ゴールドラッシュ
2005

しっかり練習して、自分をつくり直し2年後

番あると思うし。

——そのスタイルを完全に自分のものにして、もう一度五味選手にリベンジしたいという気持ちは当然あるわけですよね。

川尻 はい。五味くんには2年後にもう一度、闘おうって言いたいです。

——見据えるのは2年先ですか？

川尻 ぜんぜん焦ってはいないんですよ。この負けは自分がもうワンランク強くなれるきっかけだと思ってるんで、しっかり練習して、自分をもう一度つくり直して、また大きな舞台で闘うことができればなって。

——今大会の盛況ぶりを見るかぎり、『武士道』というステージはどんどん発展する可能性を充分に感じますよね。本当に凄い興行でしたから。

川尻 う～ん、なんだろう。本当に凄かったですよね。最初から最後まで、とにかく凄かった、と言うしかないですよね、なんか（笑）。

——1日2試合のトーナメントで計14試合。長時間興行は覚悟してましたけど、内容が内容だけにお客さんは心地よい疲れに浸れたというか。

川尻 それに数年前だったらありえないメンバーが同じ日に、同じ場所で、同じリングで闘っているっていうのは、やっぱり中量級の大きな波が来てるんじゃないかなって思いますね。だから、これを途切れさせないで盛り上げていきたいです、本当に。

——それは川尻さんのホームリングである修斗、そして『武士道』のオポジションになりますが、『HERO'S』にも思うところですね。

川尻 いま中量級が凄くチャンスに恵まれてるじゃないですか。だからそのブームを終わらしたくないっていうか。ヘタな試合をしたら、「やっぱヘビー級のほうがおもしろい」ってお客さんは思うだろうなっていう部分を、凄く意識してますね。

——そういう思いが逆にプレッシャーになりませんでした？

川尻 良い意味でそれはなかったです。五味くんと闘えば、絶対にいい試合になるっていうか、おもしろい試合になると思ってたし、お客さんも満足してくれるだろうなと。中量級をヘビー級やミドル級に負けないくらいのスタンダードな位置づけにしたいというのは前から思ってたんですよ。

——翌日のスポーツ紙なんかもっともっと『武士道GP』を取り上げてもいいと思うんですけどね。試合前のスポーツ紙だと、川尻さんは「貧乏」というキャラで取り上げられてましたけど（笑）。

川尻 ちょい貧乏キャラで（笑）。あの～、たしかにジムはボロいですけど、別に貧乏じゃないですよ。困りますよねえ、いいネタを見つけたとばかりにおもしろおかしく書かれちゃうのも。

——マスコミは、「貧乏」「家族愛」「アスリート」のいずれかに選手をはめ込みがちですからね（笑）。でもべつに貧乏じゃない！ と。

川尻 はい。だからって、金持ちでもないですけど（笑）。

関 あの試合が終わったあと熱いファンの方が「お金がないなら振り込むから！」っていう電話がかかってくるんですよ（笑）。

——ガハハハ！ このまま貧乏ということにしておきましょう！（笑）。

川尻 自分たちのジムなんですが、もともと『総合格闘技TOP'S』っていうジムの中に、ボクらが『チームTOP'S』として敷地を使わせてもらってたんですよね。それでこのたび新しいジムを構えることになって。



1978年5月8日、茨城県出身。ヴィトー"シャオリン"ヒベイロを破って第8代修斗ウェルター級チャンピオンに就く。05年5月22日『武士道・其の七』で『PRIDE』初登場。キム・インソク、ルイス・ブスカペから勝利を挙げている。02年修斗ウェルター級新人王。PIRDE戦績3戦2勝1敗、修斗戦績17戦13勝2敗2分。170cm、72.9kg。

——おめでとうございます！

川尻 いままでは『総合格闘技TOP'S』オーナーの金沢先生に甘えて好き勝手にやってきたんで。そもそもボクらの練習が一般会員のところまで占領してましたからね（笑）。

——いわゆる居候だったというか。新しいジムには川尻さんも出資するかたちになるんですか？

川尻 出資っていうか、みんなでお金を出し合うってかたちですよね。みんなとよく相談してあとはマネジャーの関さんに任せます。

関 新しいジムでは、選手が練習に集中できるようなかたちをつくろうとしてるんですよ。

——ビジネスを優先してやるわけじゃないんですよね。

関 なので経営のほうはトントンを目指してまいります（笑）。

——でも、いずれは指導者・川尻達也が誕生する日も近そうですね。

川尻 ……う～ん。

——あんまり指導には向いてないと？

川尻 いや、やっぱり自分は強くなりたいので、他人が強くなるのをサポートするってのは（笑）。

——ダハハハ！ 今後も自分の強さを追求していくと。やっぱり王者として修斗に比重を置いていくわけですか？


川尻 そうですね。ボクのなかではヨアキム・ハンセンとタイトルマッチをやるつもりなので。

——あらためて聞くことではないかもしれませんが、五味さんとの再戦を目指して『武士道』のリングにも上がるわけですよね？

川尻 そうですね。『武士道』最大の目標は、五味くんともう一回闘うこと。それ以外だったら修斗では闘えない強い選手とやりたいですけど、いまは自分のスキルアップのことしか考えてないです。強くなるのは、いましかないと思うから。ボクの物語はまだまだ途中で、これからはリベンジロードを暴進していきたいですよ。

——ぜひ期待してます。今日はどうもありがとうございました！

【05年9月29日／土浦にて収録】



この男の〝直感〟が時代を動かす！

「いつかこういう時代が来ると正直言って、思ってました」

元気



中・軽量級
黄金時代
格闘
ゴールド
ラッシュ
2005

須藤

9・7『HERO'S』で見事2連続一本勝ちで大晦日の山本KID戦が決定。9・25『PRIDE武士道』では、五味の呼びかけに応じリングで挨拶をするなど、昨今の中軽量級黄金時代のなかでもキーパーソンと呼ぶに相応しい活躍を見せる元気。なにごとも客観視できる彼の目に、いまの状況はどう映っているのか？

聞き手／橋本宗洋　構成／堀江ガンツ　撮影／菊池茂夫　試合写真／乾晋也

designed by nogu (Two Three)

最大にして最高の策は策を作らないことだと、最近気付きましたね

—元気さんに会うのは久々なんですけど、なんかそんな感じがしないんですよね。いま、缶コーヒーのCMが大量に流れてるじゃないですか。

須藤 あ～、そうですね。僕はまだ一回も見てないんですけど（笑）。テレビをあんまり見ないからなんですけど。

—あのCMって、収録はいつくらいだったんですか?

須藤 夏頃ですかね。

—『HERO'S』前に収録で、『HERO'S』後にオンエアと。そうなると試合でも「負けられない」みたいな気持ちが強くなったりするもんなんですかね。

須藤 少なからずありますよね（笑）。たくさんいる選手の中から選んでいただいたわけですし。

—というより、たくさんいる芸能人の中からって感じもありますしね。

須藤 そう考えるとシビアですよね。僕の仕事っていうのは。勝ち負けがあるから。

—ちなみに同じ缶コーヒーのCMなんですけど、ミルコ選手は負けた翌日からオンエアだったんですよ（笑）。

須藤 それはブラックですねぇ（笑）。これが本当のブラックですよ。しかも僕の場合は、キャンペーンのCMだからオンエアの量を調節できないんですよ。他の商品のCMに差し替えたりできないと思うので。

—負けられないプレッシャーも倍増と。でも見事に勝ったわけですから、関係者も喜んだんじゃないですか?

須藤 そうですね。なんか『HERO'S』当日、コカコーラ社の方々も見に来てるって、聞いたんですけど（笑）。「重役が来るから」って。試合前にチクリと（笑）。

—ククククッ! そういう部分で、他の選手が感じてないプレッシャーだったり、あるいは喜びを感じてるんでしょうね。

須藤 昔から格闘技と芸能の両方をやろうと思ってましたし、まあメリット、デメリットあると思うんですけど、「出てよかったな」って思いますね。



現在、絶賛オンエア中のジョージア「歌ジャケ」プレゼントのCMに、"ヨン様映画"『四月の雪』のヒロイン、ソン・イェジンと出演している元気。いまや格闘技界を飛び越えたスターとなっている

—『HERO'S』では、2試合目に入場パフォーマンスがなかったじゃないですか。あれはどういう理由で……?

須藤 いや、2試合目はもうできないですよ。

—さすがに無理ですか。

須藤 物理的にできないですね。1試合目が終わって、身体がけっこう疲れてるじゃないですか。

—しっかり休息しないといけないですよね。

須藤 で、次の試合のアップもあるし。そういう状況で「次の衣装は……」とかできないじゃないですか（笑）。

—そりゃそうですよねぇ（笑）。

須藤 そう考えて用意してなかったんですけど、実際やらなくてよかったです。できないですね、2試合は。僕がもたないですよ（笑）。

—日本デビューの『ネオブラッド・トーナメント』では準決勝でも入場パフォーマンスをやってましたけど、あのときとは感じが違いますか。

須藤 あの頃は、まだシンプルだったんでできたんですけどね。

—いまは大掛かりですからねぇ。

須藤 練習もやらなきゃいけないですからね。

—実際、今回は大勝負だっていうのもあってか1試合目も仮面を脱いだら相当に気合の入った目をしてたじゃないですか。「これはかなりキてるな」って感じがしましたよ。

須藤 そうですね、やはりモードとしては。入場（パフォーマンス）自体の緊張感はもうなくなってきたんですけどね。ただいつも自分で思うのは「よくやってるよなぁ」って（笑）。

—ああ、自分でも（笑）。そんな中で、2試合連続一本勝ちっていうのはあらためて凄いと思いましたね。

須藤元気

須藤 いやいやいや。本当に勝ててよかったですよ。

—HPの日記によれば、あの勝利には"法則"があったみたいですね。"いま、この瞬間を生きる"っていう。

須藤 そうですね。あれこれ考えすぎないで、いま、この瞬間っていうことに気持ちを向ければいいんだなって。リアリティっていうのは、いまこの瞬間しかないんで。頭で考えるのって時間のムダ使いだし、そこから何も生まれないんですよ。

—ほぉ～。

須藤 何か生まれるときって直感ですから。頭で考えると、メリット、デメリットっていう判断基準になってしまうんですよね。だから脳みそを電卓だとすると、直感は世界最速のコンピューターですよ。

—そのくらい違うと。

須藤 違いますね。

—頭の判断とか、いま、この瞬間以外を考えるっていうのは、要するに「負けたらどうしよう」とか「勝ったらこうしたい」とか。

須藤 そういうことって、あんまり意味ないんですよ。どうしてそれがわかるかっていうと、昔の僕がそういうタイプだったから。

—はいはい。考えに考え抜いてっていう。

須藤 それが無意味なのに気づいたというか。正直、勝ち負けだってどうでもいいですよね。いま、この瞬間だけ楽しんでればうまくいくんですよ。これ、コツですよ。で、もし先のことばっかり考えてたら、いまから年末を考えちゃうんですよ。

—大晦日の試合を。

須藤 結果なんて試合をやってみなきゃわからないのに「ああやれば」とか「KIDさんはこうくるかも」とかね。それって現時点では意味がないんですよ。まだ10月な

中・軽量級
黄金時代
格闘
ゴールドラッシュ
2005



9・7『HERO'S』では、準々決勝の宮田戦こそいつものようにド派手に入場してきた元気だが、2試合目となる高谷戦では、UFC－Jのベルトを肩にかけただけのシンプルな出で立ちで登場。表情も険しく、この大会への決意のほどがうかがえた

のに頭の中で山下達郎の『クリスマス・イヴ』が流れてるようなもんですから。まだ早いと（笑）。

――策士といわれた元気さんが、そういう境地にたどり着きましたか。

須藤　最大にして最高の策っていうのは、策を作らないことだと。最近、そう思うようになりましたね。そのほうが自由で、本当に人生、生きてて楽しいですし、うん。

――格闘技のことは練習と試合のときだけ考えればいいんだ、っていう感じですか。

須藤　練習のとき、「こうやったらこういう技が決まるんだろうな」っていうのは考えますね。でも、普段から考えても意味ないんですよ。人間ってヒマなときほど考えるんです。くだらないことを。

――あ～、ありますね、それは。

須藤　要するに、ヒマな人ほど鬱になりやすいんですよ（笑）。

――余計なことを考えちゃうからなんでしょうね。それと関係があるのかどうかわからないですけど、『HERO'S』での一本勝ちは両方とも咄嗟の動きというか、まさに直感で身体が動いてるなって感じでしたよね。

須藤　そうですね。極めっていうのは自信もついてきましたし。ちょっとおこがましいかもしれないですけど、桜庭さんもこんな感じなのかな、と。

――ああ～、なるほど。ところで、試合後の前田さんの発言に関してはどうですか？闘い方をだいぶ批判されてましたけども。

須藤　まあでも、ありがたいですね。

――ありがたい？

須藤　あのおかげで評価が上がりましたからね、逆に（笑）。

――ダハハハハ！

須藤　こう言っちゃなんですけど、いろんな人がみんな「あれはないだろう！」って言ってくれるんですよね。普通なら「強かったね」で淡々と終わるんですけど、前田さんのおかげで少しドラマというか、色が出たんですよ。そういう意味でありがたかったし、あと、僕あんまりああいうことに対して怒ったりしないんですよ。

――あ、そうなんですか。

須藤　べつに作ってるわけじゃなくて、そういう感覚がないんですよね。……まあ、慣れてるのもあるんですけど（笑）。

――「なにやってんだ」って言われることに対しては慣れてると（笑）。『K－1 MAX』でも、その前もそうでしたしね。

須藤　言われてましたねぇ（笑）。結局、それは他の人がやってないことをやるからなんでしょうけどね。

――で、そんな『HERO'S』の興奮も冷めやらぬうちに、今度は『PRIDE武士道』のリングにも上がってしまったわけですが（笑）。

須藤　上がってしまいました（笑）。

――『武士道』を生で見るのは初めてだったんですか？

須藤　いや、2回目くらいですね。あれだ



2連続一本勝ちで見事決勝進出した元気だったが、前田日明スーパーバイザーは「フィッシング戦法」と、元気の闘い方を批判。ファンのあいだでそのゼヒが論争されたが、それだけ元気のスタイルが独創的だということだろう。

須藤元気

五味はホント天才ですよ。あの空気を読まない生き方は魅力ですね(笑)

け近くで見たのは初めてでしたけど。最初は「裏で見てますから」って言ったんですけど、木口先生が「来い来い」って。たぶん寂しかったんだと思うんですけど(笑)。

—で、リングサイドで見てたら五味選手に呼び込まれて。あれは五味選手のフライングだったんですか?

須藤　フライングっていうか、「上がってきてよ」とは言われてたんですよ。だけど、まさかあの状況でねぇ(笑)。

—他にも選手がいる状況で(笑)。

須藤　一番目立つ場面でしたからね(笑)。五味が一人だけリングにいる状況ならわかるんですけど、決勝に行く4人が全員揃ってるわけじゃないですか。

須藤　そこで「ユニークな友だちを紹介します」って(笑)。しかも五味の準決勝のときにマッハさんが隣にいて、ずっと話してたんですよ。今度、練習一緒にやろうよ」とか言われて、僕も「よろしくお願いします!」って。コミュニケーションとってたんで、リングで「五味とオレが優勝します」って言えないんですよ(笑)。

—マッハ選手も立てないといけないでしょうからね(笑)。

須藤　その場で可もなく不可もないコメントを考えましたけどね。

—あのとき元気さん、リングに向かいながらメッチャクチャ恐縮そうな顔してましたよね(笑)。

須藤　そりゃ恐縮しますよぉ! 「なんでここにオレが上がるんだ?」って(笑)。

—五味、マッハ、ダンヘン、ブスタマンチ……そしてなぜか須藤元気という(笑)。

須藤　『PRIDE』関係者の偉い人たちが周りにいないだろうな、と(笑)。

—思わず確認しちゃいましたか(笑)。ああいう場でああいうことをやれるっていうのは、やっぱり五味選手は天然の力がありますよねぇ。

須藤　ほんっと天才ですよ、あの空気の読めなさは(笑)。

須藤　魅力ですよね、ああいう空気読まない生き方って。

—逆に元気さんは空気を読みまくるタイプですからね。お互いにないものを持ってるからうまく付き合えるって部分があるんですかね。

—天然っていえば……ってそんなつなぎもどうかと思うんですけど(笑)、最近気になっているという美濃輪選手の試合はどうでしたか?

須藤　僕、美濃輪さんの試合だけ五味のところから離れてリングサイドで見たんですよ。〝スタンディング・リアル・フィスト8回〟でしたっけ、あれをやろうと思って。

—思いっきりファンですね、それは(笑)。

須藤　そしたら美濃輪さん、疲れちゃってやらなかったんですよね(笑)。

—さっさとリングを降りちゃいましたからね。

須藤　「これは準決勝、棄権するかな」と思ったんですけど、出てきましたね。

—あのペース配分のしなさ加減っていうのは凄いですよね。まさに天然というか。

須藤　いやぁ、いいっすねぇ(笑)。

—ちょっと天然の人に憧れたりします?

須藤　魅力ありますよね。天然って天才ですよ。同じですね。はい。

—五味選手もそうなんでしょうけど、ああいう個性は努力しても身につかない、天から与えられたものでしょうね。

須藤　一緒にいて楽ですよ。まあ、たまにムカつくんですけど。

—たまに(笑)。

須藤　「それ大丈夫かよ!」ってイライラする時もありますけど(笑)。でも素晴らしいですね、五味にしても美濃輪さんにしても。

—大会を見ていて、『HERO'S』と『武士道』の違いって何か感じました?

須藤　う〜ん。セ・リーグ、パ・リーグですかねぇ。もしくは早慶戦。それぞれ違うから盛り上がるっていうか。

—実際、同じ中量級なんですけど、選手を見ていると「上がるべくしてこっちに上がってるんだなぁ」っていう感じがしたんですよね。それぞれの〝ワールド〟がうまくできてるっていうか。

須藤　それはあるかもしれないですね。

—元気さんは『HERO'S』だからこそ、五味選手は『武士道』だからこそっていう。

須藤　そうですねぇ。あと思ったのは、やっぱり五味、強いっすね〜。

—あらためて感じましたか。

須藤　あらためて、はい。嫌ですよ。本当に。

—嫌ですか(笑)。

須藤　僕、五味とのスパーでいつもあれをやられるんですよね。

—パンチでガンガン圧力かけられて。

須藤　僕は打ち合わないから、いつも逃げまわってるんですけどね。

—五味選手って、『武士道』に出てだいぶ変わりましたよね。大化けしたっていうか。

須藤　変わりましたね。でも、もともとああいう選手なんですよ。ポテンシャルあるし。それが『武士道』っていう舞台で開花



五味隆典の呼びかけに応じて、恐縮しながらも9・25『PRIDE武士道』のリング上で挨拶を行った元気。いつの日か、同じリングで闘うことはあるのか?と、ファンに夢を抱かせるシーンだった。



したんじゃないですか。

―大舞台でこそ光る選手だったんでしょうね。

須藤　でも、そのへんは難しいんですよね。実力はあってもステージに上がれない選手もいるし。

―逆にステージに上がっても実力を出せない選手もいますしね。

須藤　結局、強さだけじゃないんですよね。その人のキャラクターとかも関係してるんですよ。

―今回、『HERO'S』では元気さんとKID選手、『武士道』では五味選手とマッハ選手が勝ち残ったじゃないですか。それを見ると大舞台に向いてる人、向いてない人っていう"人種"があるのかなと。

須藤　そうですねぇ。それはあるかもしれないですし、正直、大舞台って落とせないんですよ。もちろんちっちゃい大会だって落とせないんですけど。

―はいはい。

須藤　後楽園の1勝と、アリーナクラスの1勝って違いますよね、全然。これは本当に違うんですよ。

―地上波とCSの1勝は違うというか。

須藤　価値っていうより、影響力が違いますね。CSで流れる試合の10連勝より、地上波の1勝のほうが影響力って大きいですよね。僕もK―1に出て、一気に世界が変わりましたから。

―そういう大きい、影響力のある試合で勝てる、魅力を出せる選手っていますよね。そうできない選手との差ってなんだと思います？

須藤　いろいろコツがあるんですよね。結局、意識レベルの問題になってくるんですよね。三次元の世界っていうのは意識が投影されますから。

―意識レベルですか……？

須藤　それでゼロポイント磁場っていうのがあって。量子力学なんですけどね。必ず意識レベルがゼロポイント磁場っていうところに行って、ブーメラン状に返ってくるんですよ。だから「今日、大丈夫かな？」って思ってると、リングで固まっちゃうんです。

―抱いている不安が返ってくると。

須藤　逆に大舞台でも意識レベルで「オレはここで花を咲かす」っていう気持ちを持っていれば勝つんですよ。凄くシンプルなんです、真実は。自分の意識が現実に投影されるんですよ。

―そこでスターになれる人、なれない人っていうのが分かれるんですね。

須藤　魔裟斗選手も、アマチュアの頃から「オレはキックで世界チャンピオンになる」って言ってたらしいですもんね。その話は単純だけど、真実なんですよ。

―逆に力を出せない人は、ネガティブな考えに捉われてると。

須藤　結局、恋愛でもうまくいかない人っていうのは、哀愁ある曲が好きなんですよ。

―ほう！（笑）。

須藤　告白してフラれて、それに自分で酔っちゃうんですよね。それは結局、自分が望んでることなんですよ。本当に付き合いたい、って思ってないんですよ。

―むしろ悲しい曲を聴いて、それに酔ってる自分が好きだと。

須藤　せつない思いするほうがいいって。日本人ってそういう人が多いんじゃないですか。せつなさとか哀愁とか、敗者の美学みたいなものが好きで。そういう意識を持ってると、そういう結果になりますよね。

―だとすると大晦日のKID戦は、どっちがよりポジティブ志向かの闘いでもありますね。KID選手も自分が負けるなんて1ミリも考えないでしょうから。

須藤　そうですね。

―と同時に究極の理論派vs天然というか。

須藤 いや、KIDさんは天然じゃないですよ。

―あ、天然じゃないですか？

須藤 あの人は賢いです。うまいですよ、闘い方とか。決してあの人は天然じゃないです。ちゃんと自分をわかってますね。

―それは試合でも感じますか。

須藤 はい。あれは賢いやり方ですね。闘い方を知ってますよ。勢いで相手を呑んじゃうとか。

―あ～、あれは作戦っていう面もあるんですね。

須藤 だと思いますね。だからKIDさん、前に僕のこと「トリッキーなところが似てる」って言ってたんですよ。

―言ってましたね、記者会見で。

須藤 あれは真実なんですよ。僕はディフェンス型のトリッキーで、KIDさんはオフェンス型のトリッキーなんですよ。

―あ～、なるほど。

須藤 で、ちゃんとそういうふうに言えるっていうのは、自分でもわかってるからですよね。わかってるってことは、天然じゃないんですよ（笑）。

―「神の子」っていう発言にしても。

須藤 コメントには天才的なものがありますけどね。でもあれも、わかって言ってるんだと思いますよ。

―何かしら理屈があった上での「神の子」って言葉なんでしょうね。

須藤 そこだけ抜き出して何回も使うから、気付かないんでしょうけどね。それを言ったら魔裟斗さんが夜遊んでるシーンとか、コヒさんの根性焼きの再現VTRとか（笑）、そこだけ見たらみんな天然ですよね。

―じゃあ、KID戦はある種〝似た物同士〟の闘いでもあると。ただKID選手も、前田さんじゃないですけど元気さんの闘い方を「オレ、好きじゃない」って言ってましたね。

須藤 好き嫌いはどうでもいいですね。格闘技は好き嫌いじゃなく勝ち負けですから。それに嫌いってことは、やりづらいってことですからね。

―対戦相手に嫌われるというのは勲章ですよね。

須藤 逆にいいことですよね。「ああいう選手、大好きです！」って言われるよりは（笑）。そういうことも含めて、KIDさんには感謝ですよ。KIDさんが相手だから、みんな注目して、盛り上がってくれるんであって。これが違った選手だったら、違った形になってたと思うんですよね。



すどう・げんき
1978年3月8日、東京都江東区出身。総合、寝技、K-1、なんでもござれの天才格闘家。そのファイトスタイル、入場パフォーマンスは独創性に溢れている。『HERO'S』ミドル級トーナメントでは、見事決勝進出。大晦日に山本KIDと決勝戦を闘う。177cm、70kg。

「それは無理だろ」ということが当たり前に実現するようになるんです

須藤元気

―実際、トーナメントの結果とはいえ須藤元気vs山本〝KID〟徳郁ってとてつもなく凄いマッチメイクですからね。

須藤 それはもう、谷川マジックですね（笑）。

―谷川マジックだったんだ（笑）。まあでも、『武士道』も五味vsマッハ戦だし、いよいよ中量級が格闘技界の中心になってきたなって感じがしますね。

須藤 そうですね。いま一番きてますね。またいろいろなキャラクターが揃ってますからね。

―よくぞここまで揃ったなっていう。

須藤 時勢ですよね。時の流れ。中量級のいい選手がたくさんいて、中量級のブームが来て、その真っ只中にちょうど自分がいられるっていう。時勢のありがたみですよね。一人じゃ決してできないですから。

―ベストな時期に、ベストな自分がいたと。

須藤 だから本当にKIDさんにも、魔裟斗選手にも感謝したいし。きっかけはやはり魔裟斗選手だと思うんですよ。あの人がいたからMAXがあったんですよ。

―それは間違いないですね。

須藤 で、僕はMAXに出たからここまで来れたんですよ（笑）。で、KIDさんが出てきたから総合でも中量級が盛り上がって。他の人があって自分がいるんだなっていうのは、感じますね。前田さんがいたからこそ、こうやって盛り上がった部分もあるし。

―いろんな人が作用し合って、いま、この場があると。だけど中量級の盛り上がりとか自分自身の存在とか、ここまでになるっていうのは、昔から考えてました？

須藤 正直、なるとは思ってました。結局、みんなが「どうなんだろ、これ」とか「それは無理だろ」って思うことが、逆にやりがいがあるっていうか。人がやってないことだから、隙間がいっぱいあって、そっちのほうに行きやすいんですよ。歴史っていうのはそれの繰り返しですからね。いまは信じられないことでも、何年後、何十年後かには当たり前になるんですよ。だって飛行機が飛ぶなんて、たぶん僕らが幕末期にいたら信じられないことだし。

―いまは信じられないことでも、いつか現実になると。


須藤 だからすべてにおいて、断定できないですよね。もしかして、僕が宙を浮けるって考えたとして、いまはみんな無理だと思うんでしょうけど、実際浮けるかもしれないんですよ。

―宙に浮きますか！（笑）。

須藤 ありえますよ（笑）。みんなが無理だと思うことが、どんどん当たり前になっていくのがこの現実であり、時勢なんですよ。

―ではKID戦も、2カ月前のいまでは信じられないような試合になっていることを期待しましょう（笑）。というわけで今日はありがとうございました！

【05年10月5日／都内・某ホテルにて収録】



中・軽量級黄金時代
格闘ゴールドラッシュ
2005

ライト級で蘇った野生児が五味の前に立ち塞がる!!

桜井"マッハ"速人

"爆弾"の腰を抱えながら、パルヴァー、ハンセンを2タテ!!

「オレを見捨てた"時代"を自力で取り戻した」

桜井"マッハ"速人が、階級を落として挑んだ『武士道ライト級GP』で本領発揮!! 『武士道』のリングでは不調が続き、ウェルター級（83キロ以下級）戦線でドン底に突き落とされたマッハだったが、米シアトル修行や階級転向を経て、無敵を誇った修斗ミドル級王者時代の輝きを"自力"で取り戻した。一足早い"STARTING OVER"を果たしたわけである。パルヴァー、ハンセンを2タテした安定感、そして豊富な経験に裏打ちされる余裕や自信。蘇った野生児が五味の前に立ち塞がる!!

聞き手／ジャン斉藤　撮影／菊池茂夫　試合写真／乾晋也
designed by [illegible]（Two Three）

中・軽量級
黄金時代
格闘
ゴールドラッシュ
2005

桜井"マッハ"速人



正直言って、コンディションは ぜんぜん良くなかったですけどね

――『武士道ライト級GP』決勝戦進出、おめでとうございます！

マッハ　あ〜、どうもどうも。

――ジェンス・パルヴァー、ヨアキム・ハンセンという強豪ファイターを立て続けに打ち破っていくマッハさんは、本当に凄かったです！

マッハ　ん？　普通ですよ。

――普通？　あんな凄いことやってのけたのに。

マッハ　ま、当然ってことですよ。当然の勝利。

――闘う前から勝利を確信していたと？

マッハ　俺が勝って当たり前というかさ、じゃなかったら、おかしいでしょ？　最近よく思うんですけどね、なんでこんなこと聞かれるんだろうって。ダメだよ、もっと格闘技の勉強しないと！（ドンと肩を叩く）。

――いやあ、すいません（笑）。今日はマッハさんから勉強させてください！

マッハ　だってさ、あのメンバーの中では俺が一番キャリアもあって、体重も重くて、かつ年齢も一番上で、なんで子どもたちに負けなきゃいけないんだっていうかさ。

――マッハさんからすればみんな後輩ですからね。逆にそういった要素がプレッシャーになったりはしませんでした？

マッハ　ない。まったくないですよ（キッパリ）。

――心・技・体が万全だからこそ、マッハさんの現役生活のなかでいまが一番強いんじゃないかっていう評価も飛び交ってますけど。

マッハ　これからっすよ。

――これからまだ強くなる、と。

マッハ　そんなの当たり前でしょ。本当の強さの波に乗れるのは、30歳を超えてからって証明されてるんだから。35歳くらいまでが選手として一番いい状態になれるから、それまで身体を壊さないようにケアしていけばまた黄金期と呼ばれる時期がきますよ。

――『武士道』が始まった当初は、体重を増やしてウェルター級で闘ったことで思うように結果を出せなかったわけですけど、その時期を考えるとビッグカムバックを果たしましたよね。

マッハ　あのときはさ、83キロ級でやるしかなかったから。73キロ（ライト級）もビシッとやってたわけじゃないし。『武士道』の中心になる階級が83キロだったんで、そこに合わせたかんじですね。まあ要するに時代に狂わされたわけですよ。

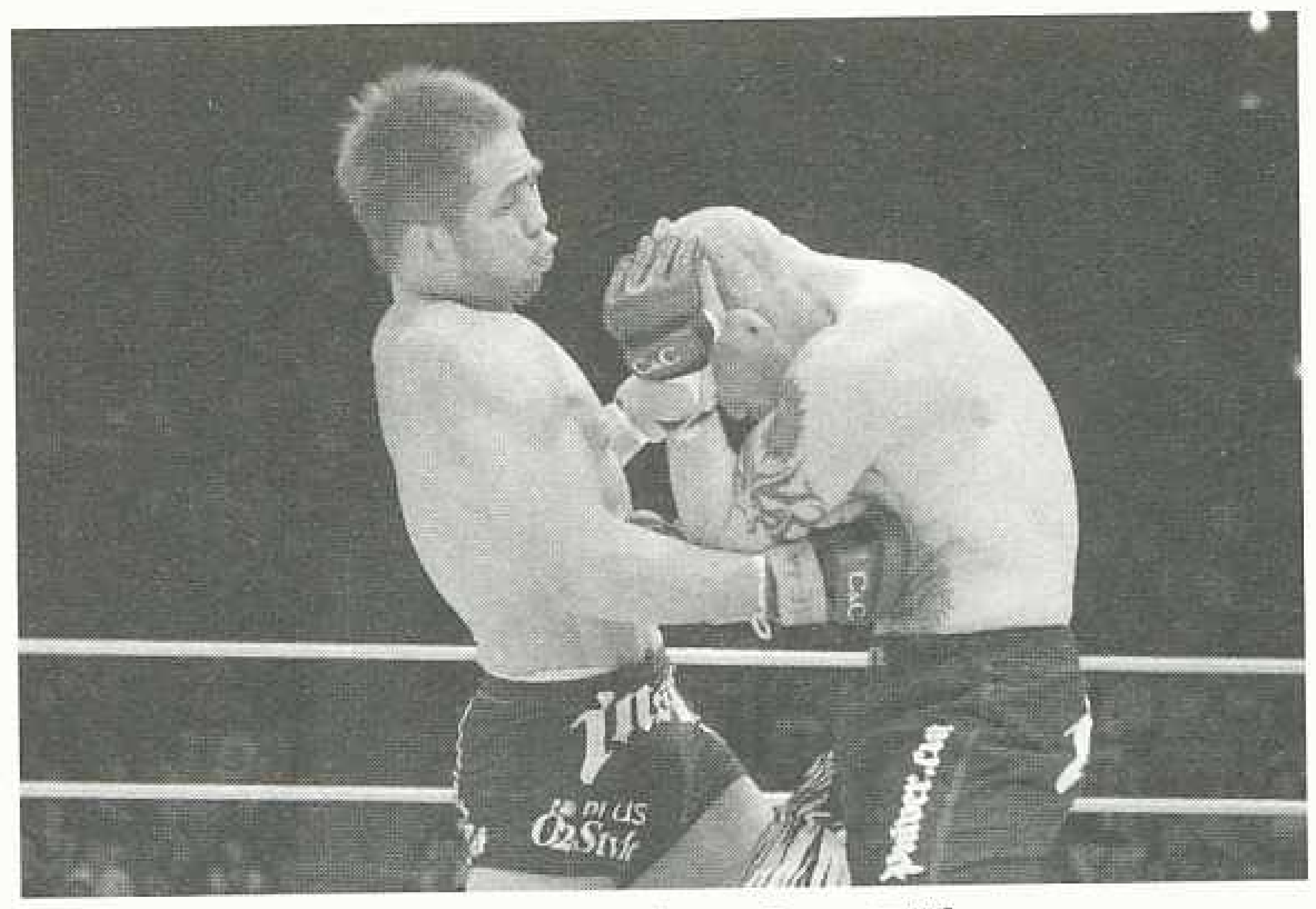
――時代に狂わされた！　いまはその時代を再び自分に合わせることができて。

マッハ　うん。自分の力で取り戻した。ただ、始めからこの73キロでやってればこういう結果になっていたと思いますよ。

――ライト級でマッハさんと五味さんが決勝に勝ち上がった一方、ウェルター級では外国人強豪ファイターの独壇場になってしまいました。そのことについてはどう思いますか？

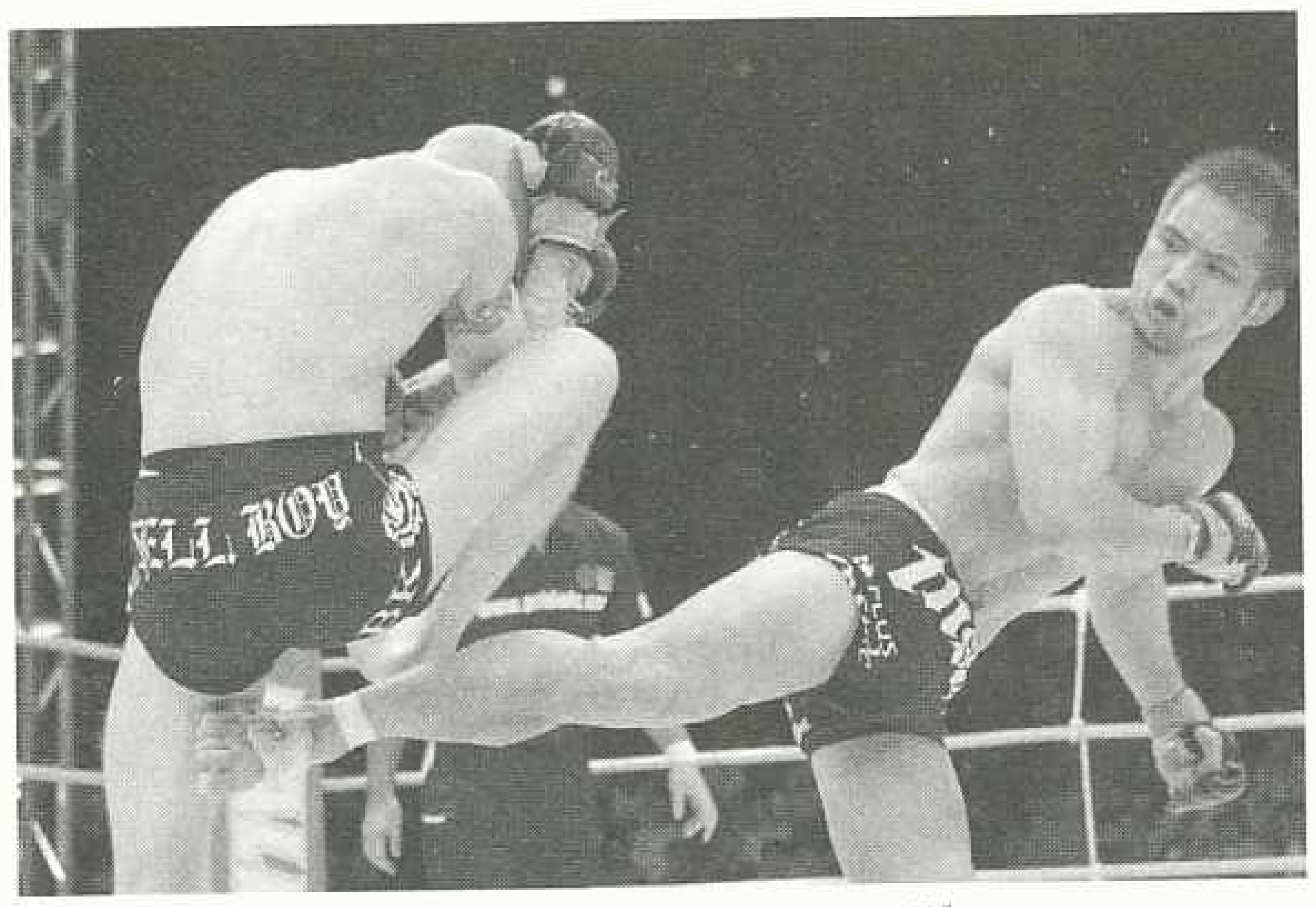
マッハ　ま、あの階級で日本人が活躍するっていうのは、かなり難しいでしょうね。俺も長く格闘技をやってますけど、やっぱ80キロを超えちゃうと、日本人が外国人の強豪ファイターを打ち負かすことはなかなかできないですよ、いまの段階では。日本人って身体が小さいんで、そういうところで身体能力とか、やっぱ外国人とは持ってるものが違ってくるんですよね。そこはしょうがないですよ。ご先祖様が肉を食ってたか、草を食ってたかの

違いだから。
―狩猟民族と農耕民族の比較論はよく耳にしますよね。
マッハ　俺だって73キロ級があれば最初からそっち行ってますよ。当たり前ですよ、そんなこと。要するに時代が俺のこと見捨てたんだよ。
―でも、マッハさんの体格で73キロに合わせることは大変だったんじゃないですか？
マッハ　たしかに苦しかったですけどねぇ（笑）。まあ減量はキツいっすね。試合前の調整が過酷すぎて、GPの2回戦とか力が入んなかったですもん。ヨアキムのほうは体力を温存してたからな、アイツ。
―ヨアキムの一回戦は確実に勝つことを徹底してましたよね。
マッハ　ねぇ。（一回戦は）ぜんぜん動かなかったからな～（笑）。でも、試合に関しては運命のいたずらがなくて良かったですよ。
―時代を取り戻したポイントでいえば、階級を下げたことと、あとはシアトルでトレーニングされていることも大きいと思うんですけど。名伯楽のマット・ヒュームがAMCパンクレイションできっちり指導してくれて。
マッハ　もちろんシアトルに行ったことも大きな要素になってますけど、シアトルの練習では身体がボロボロになるんで、この先生（＝足立区のボクシングジム「パワーオブドリーム」の古川氏）にコンディショニング調整してもらえることがじつは凄く重要な点ですね。
―シアトルでとことん身体をいじめて、日本でちゃんと調整してという。
マッハ　そうそう。（シアトルの練習は）キツイっすからね～。結局シアトルでは



［『武士道・其の九』ライト級GP一回戦］
○桜井“マッハ”速人vsジェンス・パルヴァー×
（1R 8分56秒 KO）

GP一回戦は全米屈指のストライカー、ジェンス・パルヴァー。しかしマッハは打撃戦を恐れることなく、パンチ＆キックを上下に振り分け、何度もパルヴァーをぐらつかせる。大晦日の五味戦もハイスピードな打撃戦を予感させるマッハの闘いぶりだった



［『武士道・其の九』ライト級GP二回戦］
○桜井“マッハ”速人vsヨアキム・ハンセン×
（2R 判定 3-0）

二回戦は“北欧の残虐超人”ヨアキム・ハンセン。ウエルター級GP決勝進出枠を外人選手が占拠した直後だけに、観客からマッハに“外人天国”打破を願う熱い声援が送られる。試合は一進一退の攻防の末、マッハが判定勝利！

身体をいじめたり壊したりすることが主なんで。で、日本で体力をしっかり回復させて。やっぱ回復させないと試合で自分の実力の本領を、発揮することもできないし。シアトルと日本の循環というか、いい流れになってますよね。
―そもそも、どうして修業先にシアトルを選んだんですか？　たとえば候補にシュートボクセやブラジリアン・トップチームなんかも挙がっていたと思うんですが。
マッハ　シュートボクセのスタイルは嫌いじゃないですけど、そのうち闘うじゃないですか。闘うヤツと一緒にいたくないっすね。その点、シアトルは選手がぜんぜんいないんで（笑）。
―ガハハハ。でも練習環境としては素晴らしいと。
マッハ　そうですね。やっぱりマットがいるんで。なんせジョシュ（・バーネット）のスパーリング相手までこなしますからね、マットは。
―ジョシュは『PRIDE・30』でミルコ（・クロコップ）戦が決まってますが、調子のほうはどうなんですか？
マッハ　ジョシュはめいっぱいコンディションを上げてますよ、マットを相手に。ていうか、マットしか練習相手がいないんだから（笑）。
―そ、それは不安を感じますけど……。
マッハ　でもマットは凄く強いから！　もうマットがミルコとやったほうがいいんじゃないかっていうぐらい（笑）。ま、そりゃちょっと言い過ぎかもしんないけど。
―マットが凄く強いという話はよく聞きますよ。
マッハ　うん。ジョシュもホント素晴らしい選手なんで、今度は期待大ですよ。マットのジムはいいところだから。
―そんなシアトルでの練習環境は、日本と比べてどうですか？
マッハ　内容はあんまり変わんないですね。あっちは気候的に乾燥してるんで汗が出づらいということはあるけど。
―練習を終えて、ふと日常に戻るとき日本とシアトルではかなり違うんじゃないかなって思ったんですけど。
マッハ　あ～、違いますね。まずシアトルでは日本語がしゃべれないですから。
―あ、そういう根本的な問題（笑）。でもストレスがたまりそうですね。
マッハ　まあ、でも1年も向こうに行ってたんでもう慣れましたけどね。最初はもうかなりホームシックでしたね（笑）。日本に帰りたかったですよ、すっごい。
―そういうときは、同じくマットのところで練習している小路（晃）さんが支えになってくれたり。
マッハ　ああ、そうですね。小路さんも含め日本人のみんなは俺にとってかなり支えになりました。最初はもう、日本人で輪とかになってましたから（笑）。グルー



「武士道GP」ほぼ一カ月前の8月20日には、約3年ぶりとなる古巣・修斗に参戦。マニア垂涎の青木真也戦がマッチメイクされた。マッハはPRIDEルールとの違いに戸惑ったこともあり寝技では守勢を強いられたが、無尽蔵のスタミナで底力を発揮して判定勝利！

プ行動はしないですけど、練習のなかで助けてもらったり、通訳してもらったり。そういう存在は大きいし、それに日本でも俺を支えてくれる周りの人間がホントに素晴らしいんで、その結果が今回の『武士道GP』の勝利だと思うんですよ。……正直言って、コンディションはぜんぜん良くなかったですからね。

——凄く勢いに乗っていて、調子が悪いようには見えませんでしたけど。

マッハ　いやいや、もう最悪。飛行機に乗ってたらまた腰を痛めてしまって、腰にブロック注射を打って試合をしてたんです。

——それはホント最悪ですね！　その上、相手はパルヴァー、ハンセンと超一戦級ですから。

マッハ　ねえ。もう、どうしようかと思いましたよ。

——ライト級決勝の日本人対決実現を期待するファンが大歓声を送ってましたけど、そんな状態でヨアキムに豪快な払い腰を決めてたんですか（笑）。

マッハ　たいへんだったよ〜。リングに上がってから、「ヤベ、腰痛てぇ」って（笑）。打撃主体の選手が相手だったからなんとかごまかせましたけどね。そんなふうに見えなかったのは俺の気合と、周りの先生たちの連携のおかげでしょうね。

——その『武士道GP』の前には、久しぶりに修斗にカムバックされて青木（真也）選手に判定勝ちを収められましたけど、古巣マットの感触はいかがでした？

マッハ　まあ、勝ったから使命は果たせたと思ってますけど。相手のセコンドが昔から俺のこと知ってる中井（祐樹）さんだったからね。そこで思うようにいかなかったところはありましたけど。

——今後も継続的に修斗に参戦されるんですか？

マッハ　また出たいは出たいっすね。でも、俺は『PRIDE』のルールが好きなんですよ。それに『PRIDE』自体も好きなんで、いまは『PRIDE』のことしか考えてないですね。要は、昔やってましたけど、俺は修斗でやってたバーリ・トゥード・ジャパンのルールが大好きなんですよ。

——グラウンド打撃の制限がないルール。練習するにしてもひとつのルールに絞ったほうがやりやすいでしょうね。

マッハ　それだと完全に相手を追い込めるでしょ。だからバリジャパのルールだったらいいけど、（修斗には）タイミングが合えば、かな〜。

——それに目下の目標設定は、大晦日の五味（隆典）さんとの王座決定戦になるでしょうし。マッハさん、五味さんvs川尻さんの試合はごらんになりました？

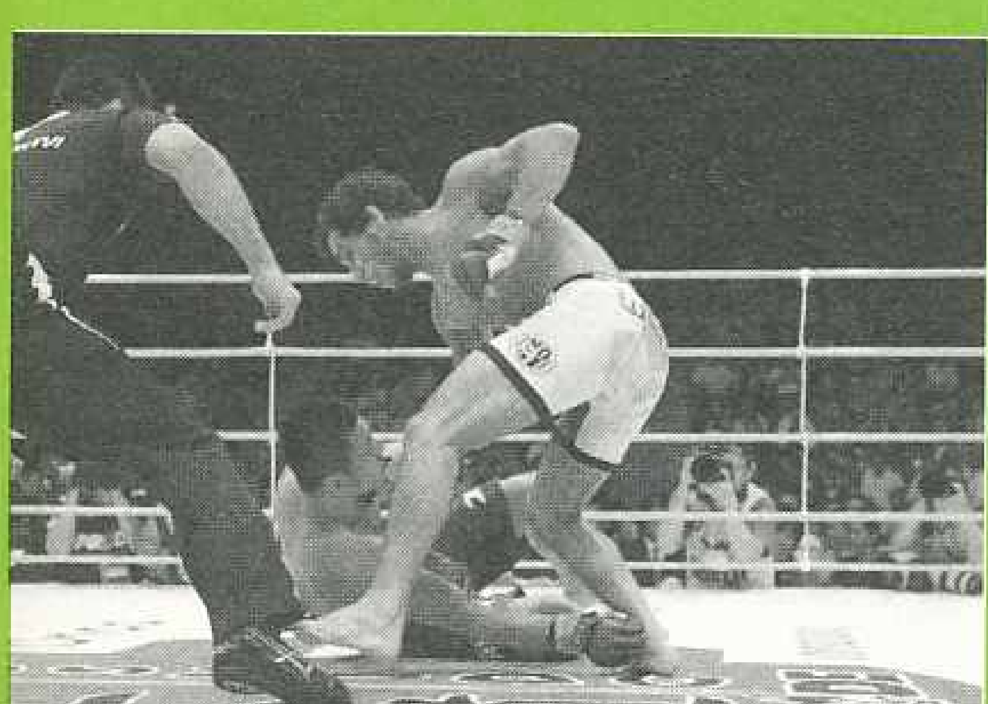
マッハ　見ましたよ。あのルールでは五味が一枚上手だったということですよ。川尻は修行が足りないね。もっと修行しろ

五味との試合？ 15分のあいだは先輩・後輩の関係はないよ



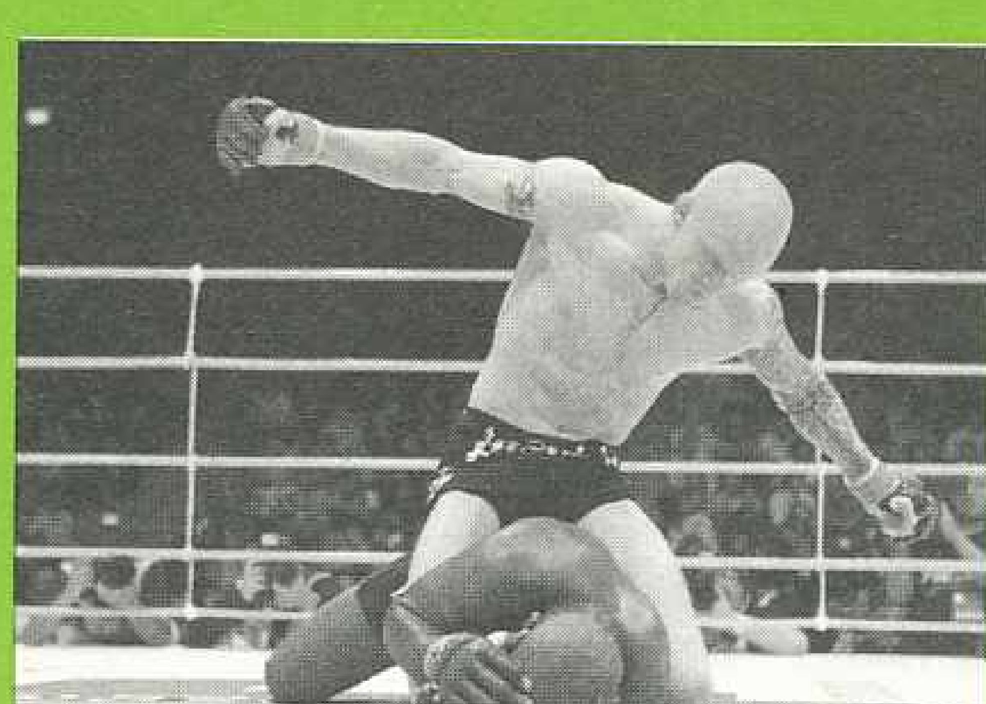
同門対決となる五味との決勝戦。マイクアピールでミドル級ＧＰで実現しなかったシウバvsショーグンになぞらえようとしたマッハだが、なんとショーグンの名前をど忘れ！　マッハらしさ炸裂！

五味、マッハ、川尻だけじゃない!! 人類激戦区ライト級GPレビュー



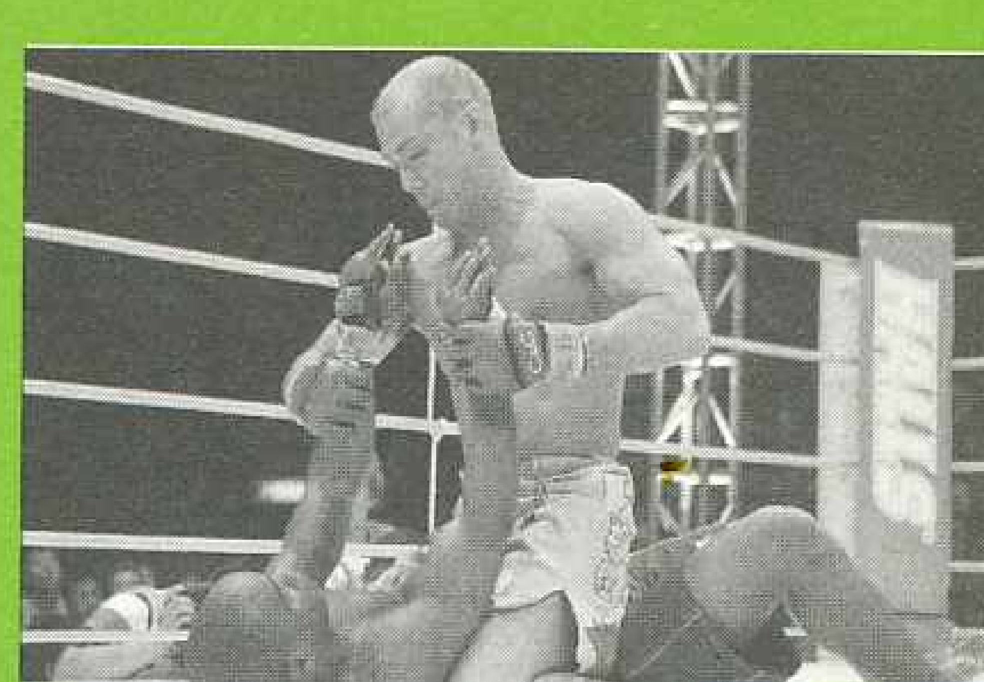
［『武士道・其の九』ライト級GP一回戦］
○ルイス・アゼレードvs小谷直之×
（1R 11秒 KO）

“査定試合をしなかった男”という肩書きを自ら名乗り（？）、“ZSTのエース”小谷直之が『武士道GP』にエントリー。『HERO'S』で名を挙げた所英男、レーミガに続くメジャー舞台での活躍が期待されたが、アゼレード（髪を伸ばしたら偽ニーノっぽい）の打撃コンボの前にわずか11秒でKO負け！　アゼレードはノーダメージで準決勝の五味戦へ。



［『武士道・其の九』ライト級GP一回戦］
○ヨアキム・ハンセンvsイーブス・エドワーズ×
（2R 判定 2-1）

実力派外人同士の潰し合い!!　8・20修斗の宮樫戦では精細を欠いたヨアキムは、今回も“UFCライト級最強”イーブスの卓越したスタンドスキルの前に苦戦。二回戦のマッハ戦の動きを見る限りでは体力温存、安全運転で臨んだようだが、どちらに軍配が上がってもおかしくないスプリット判定の勝利。冷や冷やながらの準決勝進出となった。



［『武士道・其の九』ライト級GPリザーブマッチ］
○三島☆ド根性ノ助vsチャールズ・“クレイジー・ホース”・ベネット×
（1R 4分4秒 足首固め）

前々回の『武士道』で前田良朗を失神KOに追い込んだ“馬鹿馬”クレイジーホースはリザーブマッチで三島と対戦。まるでメインイベンターのようにゆったりとした入場シーン、求められていないのにカメラ目線でアピールと相変わらずな馬鹿っぷり!!　試合後のコメントでは「坊主頭でイメチェンした！　とってもセクシーだろぉ？」と、とことん馬鹿を貫いた！

桜井"マッハ"速人



というか修行させせます。「チーム茨城」として、ベルトを神奈川に持って帰らすわけにはいかないから。五味に勝って俺が茨城に持って帰りますよ。

——大成功だった今回の興行を受けて、大晦日の試合も俄然内容を期待されると思うんですよ。

マッハ　大晦日はね、お客さんがみんな涙するような、勝ち負けを超越した試合をしたいですね。そのためにはお互いが勝ちを目指さなきゃいけないんですけど。俺と五味はもともと同じチーム（木口道場の先輩・後輩）なんで、シュートボクセの（ヴァンダレイ・）シウバと（マウリシオ・）ショーグンみたいなもんですよ。

——五味さんは「殺気を込めて殴れないかもしれない」なんて言ってましたね。

マッハ　あ、そんなこと言ってた（苦笑）。

——そうはいっても、五味さんも試合になれば吹っ切れるんでしょうけど。

マッハ　俺もね、さすがにそういうのありますけど、ただ試合のあいだ15分だけは先輩・後輩の関係はないでしょうね。どっちが勝っても負けても恨みっこなしで。

——大晦日は素晴らしい試合を期待しています！　あと格闘技のほうも勉強させていただきますので（笑）。

マッハ　はいはい。もっと勉強しないとね。

【05年9月30日／足立区「パワーオブドリーム」にて収録】

桜井"マッハ"速人
1975年8月24日、茨城県出身。第4代修斗世界ウエルター級チャンピオン。PRIDE戦績7戦5勝2敗。修斗戦績17戦14勝2敗1分。171cm、72,7kg。

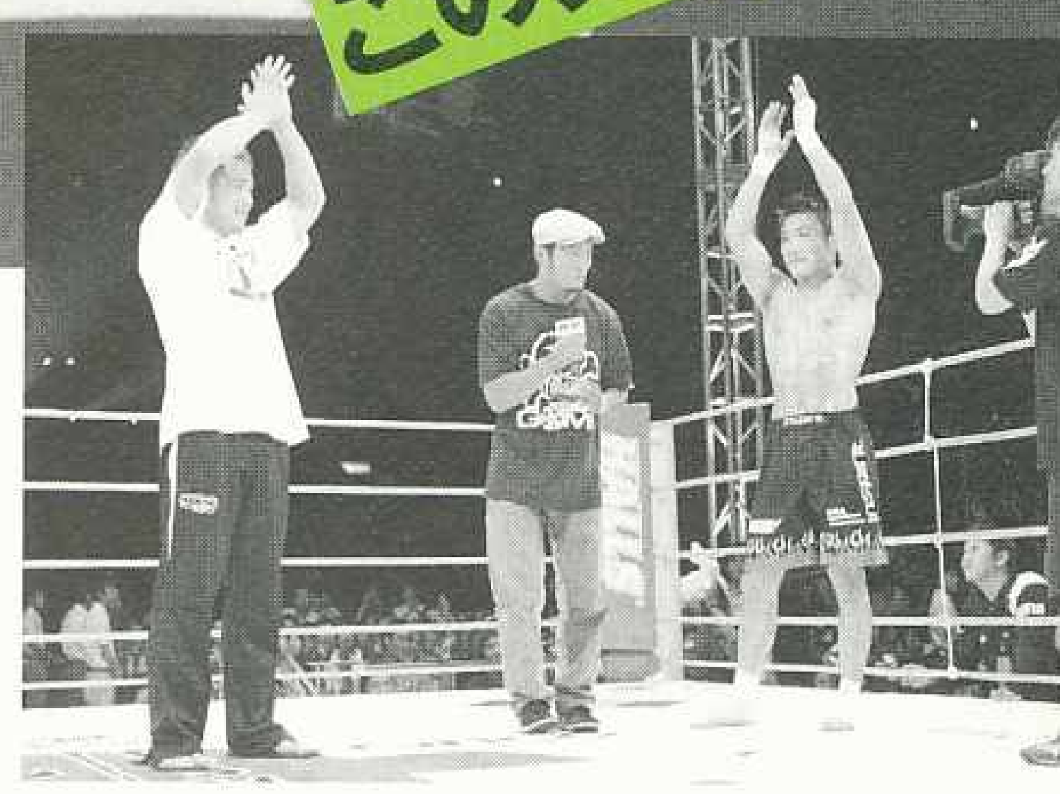
【取材協力】
『パワーオブドリーム夢ノ力』
（ボクシング・キックボクシング・トレーニング）
東京都足立区西新井5-42-1
TEL.03-3855-3366



木口道場会長

木口宣昭（きぐち のりあき）

五味、マッハ、元気、すべての源流はこの男にあり！



武士道GPライト級決勝、そして、HERO'Sミドル級決勝に残った、五味隆典、桜井"マッハ"速人、須藤元気、山本"KID"徳郁。この4人の共通点は木口道場での練習を経験していることである。日本が世界に誇る中軽量級を代表する4選手の強さの理由とは？　名伯楽・木口宣昭氏に"名選手製造工場"木口道場の秘密を語ってもらった！

聞き手／松澤チョロ　designed by Shiraki（TwoThree）

——早速ですが木口先生、先日の『武士道GP』での五味選手は、ホントにモノ凄い試合を見せてくれましたね！

木口　そうですね。私も大会が終わったあと、テレビで客観的に見させてもらったんですけど、あとからテレビでじっくり見て彼のホントの強さっていうのが改めてわかりましたね。

——夢のカードと言われた川尻選手との試合は期待どおりの好勝負となりましたが、終わってみると五味選手の完勝と言っていい内容でしたよね。

木口　試合全体の流れを見ると、実力の差は歴然としてましたね。

——木口先生は試合前からこの結果は予想されてましたか？

木口　予想はしてましたね。現在の段階で二人には実力差があると思いましたし、それがそのまま試合に出るのではないかという気持ちで見てましたね。

——川尻戦も凄かったですけど、あの激闘のあとで、準決勝でルイス・アゼレードに完勝してしまうというのも驚きでしたね。

木口　勝ち負けは別として、両者とも最後の最後まで気持ちを強く持って闘って、見てる人たちに感動を与えられた試合だったと思いますね。

——五味選手に限らず、元気選手、マッハ選手、それから山本ＫＩＤ選手もそうですけど、中軽量級は木口道場での練習経験がある選手の活躍が目立ってるわけですが、その強さの秘訣はどういうところにあるんでしょうか？

木口　私たちの指導っていうのは「楽しんでやろうな」っていうのが基本なんですよ。格闘技の世界ですから、勝ち負けというのは必ずどちらかに付くんですけど、そのことを追求する前に、まず自分がやってて何より楽しいかどうかを考えようと。楽しさを指導の中で味わ

打撃も組み技もできる五味選手と闘う相手は本当に脅威でしょうね

木口宣昭

わせていくことで、リラックスできると思うんですよ。苦しい練習ではあるんですけど、この苦しみも目標のためにと思えるようにね。五味選手なんかにしても、どこか気持ちの中に余裕があるんじゃないかって思うんですよ。ギリギリのところに自分を追い込んで、それがちょっと外れたら、すべてダメになるんじゃなくて、柔軟性のある気持ちで練習も試合も取り組んでますから。

——チビッコたちも含めて木口道場ではそういった指導をしているわけですね。

木口 全部同じですね。私たちは、この選手だけっていう特定の選手だけ待遇を良くすることは一切ないですし、マットに上がれば、選手はみんな対等だという発想でやってますから。そのへんがまた気楽でいいんだと思いますけどね。

——五味選手は木口道場に入ってどのぐらいになるんですか？

木口 高校生のときからだから、もう10年ぐらいになりますねえ。

——元気選手もちょくちょく練習に来てるんですよね。五味選手は、闘う可能性もあるので、なるべく格闘家とは仲良くしないようにしているとよく言ってますけど、唯一、元気選手とは気が合うみたいですが。

木口 ええ。元気選手は五味選手のことを好きなんですよ。で、五味選手も元気選手のことを好きみたいで。やっぱり、お互いに自分にないもの持ってるから尊敬できるみたいですね。五味選手に声を掛けられて、元気選手も「お願いします！」と弟子入りをしたんですよね。「じゃあ、みんなで楽しんで練習しよう」となって、我々も喜んで二人を見守っていこうとなったんです。

——KID選手は、いつぐらいまで木口道場で練習をしていたんですか？

木口 徳郁の場合は、ウチで10年ぐらいやってましたからね。

——えっ、KID選手も、そんなに長い期間練習してたんですか？

木口 彼は5～15歳ぐらいまで通ってて。お姉ちゃんたちに付いてきててね。彼は幼稚園の頃だったと思うけど、成長期を木口道場で過ごしているということで、彼の成長ぶりを親子関係みたいに見守ってましたね（笑）。

——KIDさんのお父さんもご存知なんですよね？

木口 もちろん。KIDのお父さんとは学生の頃からの友だちで試合もやったことあるんですよ。日体大の合宿所にいた関係で、家に行ってごはん食べたり、寝泊まりしたりね、兄弟みたいな付き合いでしたね。いまは徳郁の長男もウチに弟子入りしましたので、孫弟子になるんですよ（苦笑）。

——あ、そうなんですか。

木口 まあ徳郁に限らず、ウチの道場は故郷のように思ってくれてるんじゃないですか。何か悩みがあると木口道場に来て相談をするような、そういう心の故郷みたいなものになってるんじゃないのかな。

——そういう意味では木口先生にとっては、大晦日の五味vsマッハ、元気vsKIDっていう試合は見たいようで見たくないような、複雑な気持ちなんじゃないですか？

木口 そうなんですよねぇ。『HERO'S』も『武士道』も、両方でトーナメントをやるって聞いて、理想としては両サイドから知ってる選手が上がってくれれば嬉しいなと考えていたんですけど、現実にそうなると複雑ですよねぇ。正直言って見たくないっていう気持ちもありますしね。でももう一方で、一ファンとしての気持ちで言うと、これはたまらない最高のカードですからね。まあ、勝ち負けで考えずに、最高水準の技術と技量を発揮して、ファンをホントに喜ばせるような闘いを見せてもらえれば、それで満足ですね。

——これも聞きづらい質問なんですけど、大晦日は木口先生は、どういうご予定なんでしょうか？（笑）

木口 どうしようかと思ってたんですけどね、さいたまスーパーアリーナに行く予定です。五味選手の応援でウチの道場のチビッコとかも行きますし、木口ファミリーみんなで行く形になると思います。もちろん、KID vs 元気の結果もモノ凄く気になりますけどね（笑）。

——迷ったあげく、木口先生は大晦日は紅白出場を目指すんじゃないかと一部マスコミでは噂になってたんですけどね（笑）。

木口 ハッハッハッハッ！ ちょうど中立にね、「こうなったら紅白に出るしかないか」とか、そういう冗談も言ってましたけどね（笑）。でもやっぱり、現場に足を運びますよ。五味選手はウチの道場の選手だし、いままでもずっと行ってますからね。

——そうですよね。で、五味選手はレスリング出身ですけど、ここ最近は、ほとんど打撃で勝負を決めてますよね。

木口 組み技の基礎がしっかり確立した選手が打撃で勝負に来るということは、それだけで相手にとって凄いプレッシャーになるんですよ。組んだら不利だと、それなのに打撃もいけるとなるとね。これは徳郁にも言えると思いますけど。組み技をしっかりできる選手が、あえて組み技じゃなくて打撃で来た場合に、相手は対処しづらいんですよ。

——そうでしょうね。同じ間合いからタックルが来るかもしれないし、パンチが来るかもしれないと。

木口 そうなんですよ。しかも、五味選手の場合は打撃もスイッチできますからね。あれも相手にとって非常に嫌だと思いますよ。右足を出してパンチにいったり、タックルにいったりと、切り替えが即座に利きますからね。そのへんは五味選手は凄い器用なんですよ。

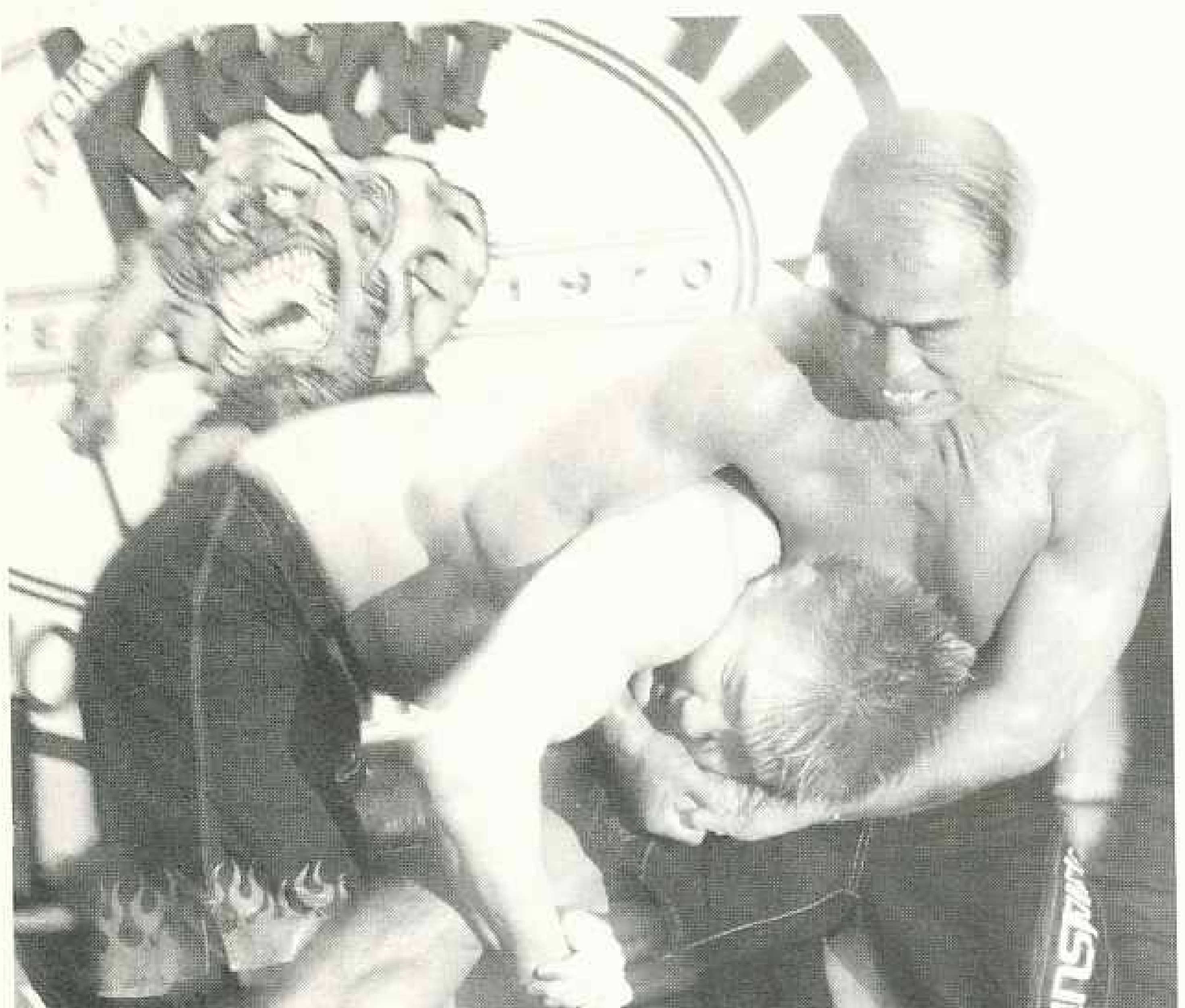
——最近、五味選手を知ったファンは、打撃中心の選手で、寝技はどうなんだって思って見てる人も多いかもしれませんけど、グラウンドもうまいですからね。

木口 もちろん。このあいだ、川尻選手に極めたチョークスリーパーなんかも、組み技の基礎がしっかりしてなければ極められませんからね。打撃で倒して、馬乗りになっての股裂きから流れるようにチョークを極めたっていうのは、組み技もしっかりやってるなってところをアピールできたと思いますね。

——木口先生が主催されているコンバットレスリングの大会でも五味選手は実績がありますからね。

木口 そうですね。打撃で勝負にいっても何かあったときにパッと寝技が出せますからね。そういう意味では、相手にと

中・軽量級黄金時代
格闘ゴールドラッシュ
2005



7月10日、『PRIDE武士道-其の八-』直前に行われた五味の公開練習。パートナーとして登場した木口会長を五味がリフトアップ。すると会長は上半身裸になって五味を極めるなど、驚愕のパワーを披露！ 集まった報道陣をどよめかせた。五味も凄いがやっぱり木口先生も凄い！

木口宣昭

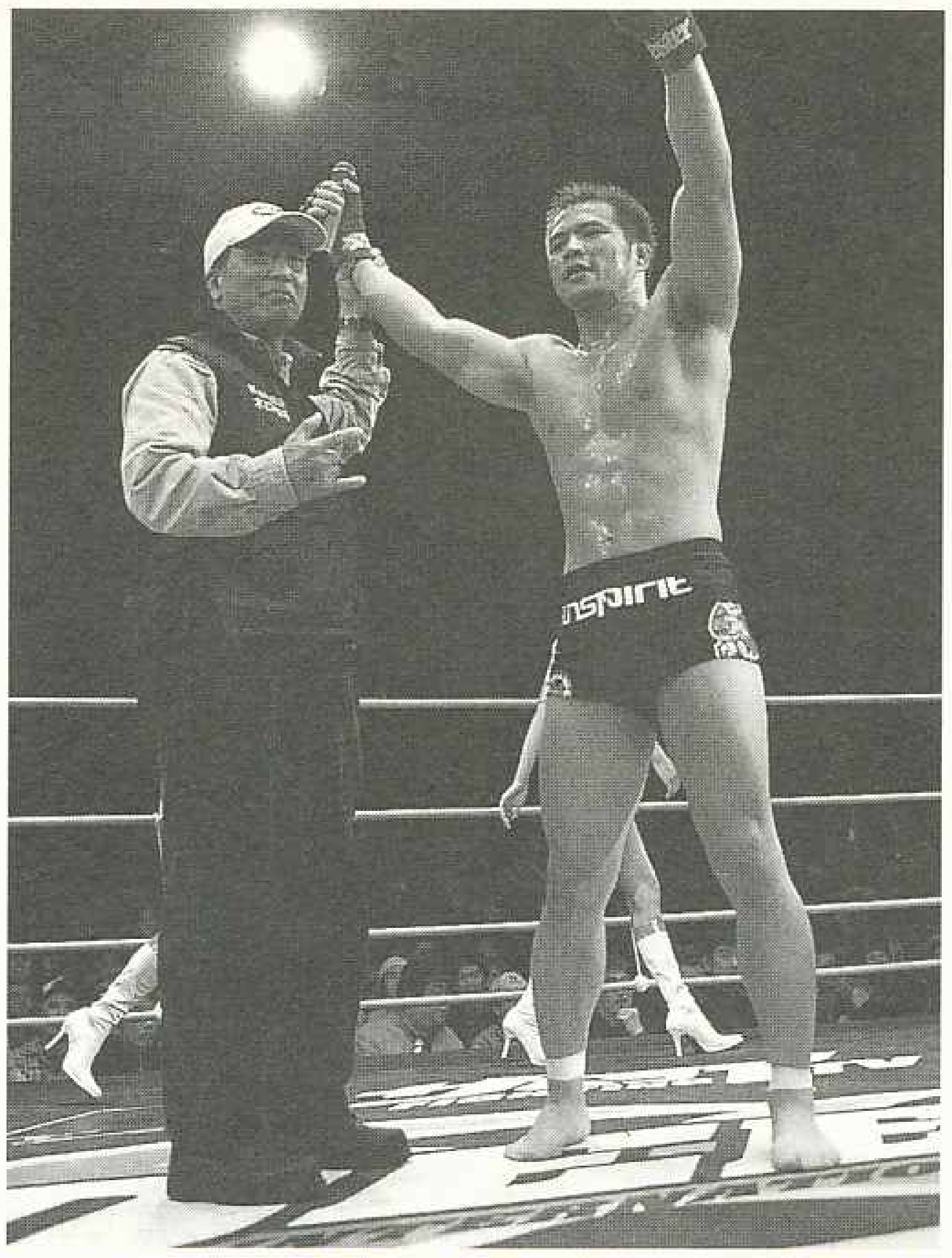
っては非常にツライ対戦相手だと思いますよ。

――総合格闘技も何年かの歴史の中で、柔術家が有利と言われたり、打撃系の選手が有利と言われた時期もありましたけど、五味選手や、ダン・ヘンダーソン選手のようなレスリング出身で打撃もしっかりできる選手の活躍が目立ってきてますよね。

木口　私の場合は、たまたま私自身がレスリング出身でレスリング道場を作って、その中で総合格闘技を教えるようになったという歴史がありますのでね。他のジムのことはよくわからないんですが、ウチに限っては、まずレスリングの基礎からスタートですから。そこから始めてますけど、それが結果として、いいほうに出ているなって感じですね。大事なのはレスリングの基礎体力だと思うんですよ。総合格闘技というのは、グラップリングのサブミッションの力は当然持ってないとできないスポーツですしね。

――あと、五味選手の凄いところって、相手のパンチもけっこうもらったりしてるんですけど、それでも引かずに前へ前へ出ていくところなんですよね。

木口　これはさっきの基礎体力につながるんですよね。鋼のような肉体を作ってますし、本人も「ボクは打たれて倒れることはありません」って普段から言ってますからね。そう言えるぐらいに基礎体力をやっている自信が本人にもあるでしょうし、精神面の強さでもありますよね。相手もパンチを打ってもキックを入れても倒れてくれないので、だんだん試合をやっててツラくなってくると思うんですよね。しかも、五味選手はドンドンドンドン前に出てきますから。そうすると気持ちの上でもそうですし、肉体的にも追い詰められて、最後は「これ以上、付き合いきれない」って気持ちにさせられてしまうと思うんですよね。



マッハが「DEEP」初参戦で上山を下した際には、マッハに呼び込まれリング上でギター片手に美声を披露した木口会長。大みそかのマッハと五味の対決のときには、勝者とともに紅白もビビって、たじろぐ歌声が聞けるかもしれない。そんな木口会長のもとで、楽しみながら強くなりたいというキミは、いますぐ下記のアドレスまで！　木口道場HPアドレスはコチラ
http://www02.so-net.ne.jp/~wrestlek/k-official.html

――ここ最近の総合格闘技界でとくに言われているのが、中軽量級では日本人は活躍できますけど、ウェルターや、それ以上の階級では日本人が第一線で活躍するのは難しいんじゃないかと。

木口　それは昔から言われますけど、体格の違いもありますし、日本人の平均体重や身長なんかも欧米なんかと比べると、かなり下回りますし。最近は欧米に近づいている部分もありますが、まだまだ格闘技界では、上から体重を下げてくる選手と互角に渡り合うのは難しいところはありますよね。

――そんな中で、五味選手はマッハ選手に勝ったあとの展望として、シウバ選手や、ヘンダーソン選手といった階級が上の選手との対戦を希望していますが、それについてはいかがですか？

木口　これはですね、体重をどのへんで調整するかという問題もありますよね。当然、五味選手に関しては体重を上げなきゃいけないでしょうけど、たとえばシウバ選手だったりヘンダーソン選手がどのへんまで下げて契約ができるのかっていう問題もありますからね。

――マッハ選手は83キロ級では活躍できなかった時期がありましたけど、五味選手は、あと何キロか増量して、いまと変わらない活躍ができると思いますか？

木口　いま74～5キロですけど、これが80キロ前後ぐらいまでね、しっかり体重が上がって、それに伴う体力とかが付いてくれば、まあ上の階級でも十分に闘えるんじゃないかなと思いますけどね。なんといっても本人の気持ちが前向きですから。彼は精神力で闘ってる部分がありますから、そのへんがキーワードになってくるでしょうね。

――自分の可能性を試したいっていうのはもちろんですけど、最近の五味選手の発言を聞いていると、ファンのために

五味、マッハ、KID、元気の総当たりリーグ戦を実現させたい！

夢の対戦を見せてあげたいというプロとしての考えもあると思うんですよ。

木口　それもあるでしょうね。ホント、そのへんはプロの精神ですよね。プロっていうのは、客あってのものですから。お客さんに喜んでもらえることが、彼の喜びでもありますからね。

――そういう意味では、五味選手は修斗時代から比べると、試合もそうですけど、発言とかも、かなり変わってきましたよね。

木口　違いますよね。ここ1～2年はとくに変わりましたね。ホントの意味でプロフェッショナルなファイターになったと感じますね。メインイベンターとしての責任感もあるでしょうけど、その重責を見事にはたして、ファンを満足させて帰らせるっていうのは、ホント、弟子ながらアッパレって感じですよね（笑）。

――弟子ながらアッパレ、と（笑）。

木口　ホントそうですね。私にはできないことですからね（笑）。

――いやいや、公開練習とかでは、木口先生は五味選手と互角に渡り合ってますから、いつの日か先生の試合も期待しています！（笑）。

木口　ハッハッハッハッ！　最後に総合格闘技で私の夢があるんですよ。

――ほう！　それはどういった夢なんでしょうか？

木口　私がやっているコンバットレスリング（※打撃なしのプロ＆アマ参加の組み技大会。五味はもちろん、ルミナ、今成など現在のトップどころの選手も度々出場している木口先生主催の大会。詳細は囲み記事参照）でなんですが、五味、マッハ、徳郁、元気の4選手の総当たりリーグ戦をやりたいんですよ。

――オ～ッ、それは凄いですね！　総合のリングでは不可能かもしれませんが、コンバットレスリングでなら十分可能性はあるんじゃないですか？

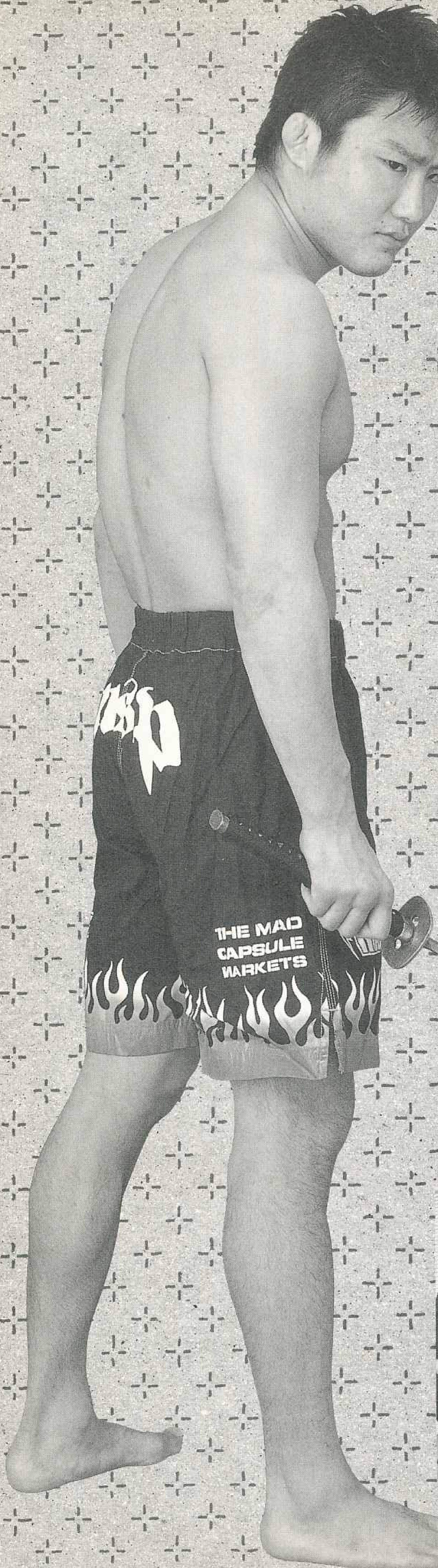
木口　グラップリングだったらやれるんじゃないかと。私が交渉すれば可能性はあると思うんですよ。元気選手と五味選手なんかは、しょっちゅうコンバットレスリングをやってますからね（笑）。それを一般の人たちに見ていただきたいっていうのはありますね。

――まずは4選手は大晦日に大一番が控えてますし、来年以降の実現を期待しています！

【10月6日／電話取材にて収録】

コンバットレスリングとは？

オリンピック種目の「アマチュア・レスリング」の2種類「グレコローマンスタイル」と「フリースタイル」のレスリングは、オリンピック種目として普及発展して行く過程において、ポイント制の採用、ルールの細分化など本来のWRESTLE（闘う）の意味から遠ざかってきているのが現実。この様な現実の中で「コンバットレスリング」は、もう一度レスリングの原点である「闘う」ことの本来の姿に挑戦するとともに、世界各地に広まった格闘技、すなわちアマチュア・レスリング、柔道、相撲、サンボの最大公約数として1993年に木口道場会長の木口宣昭氏により考案されたもの。



浅草キッドの『新しい教科書』
五味隆典論

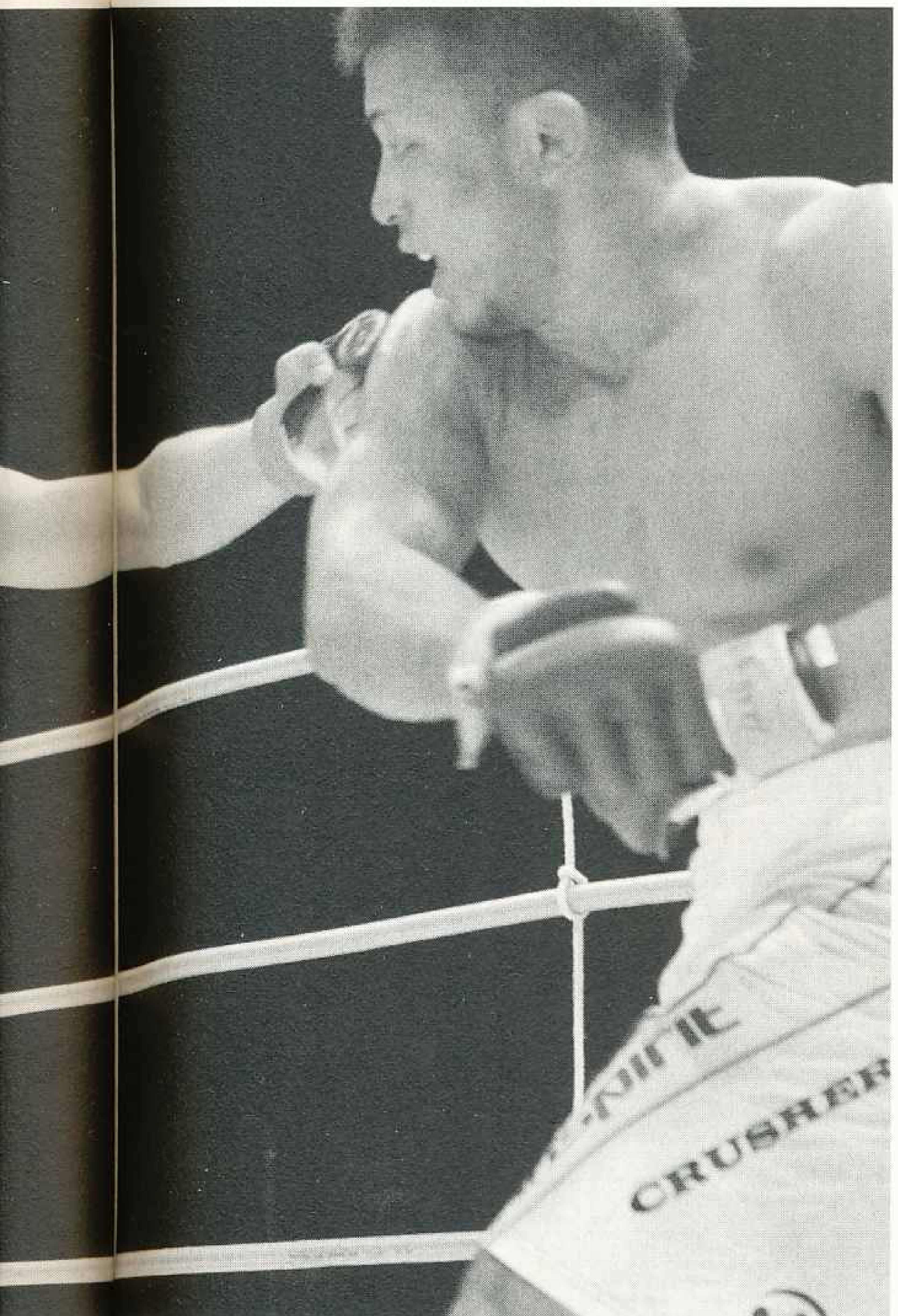


世代を超えて
魂を揺さぶる男
五味隆典は格闘技界の
「サンボマスター」だ!

9・25『武士道GP』で川尻達也を相手に年間ベストバウト級の闘いを見せ、有明コロシアムをスタンディング オベーションの嵐で包んだ五味隆典。その凄さを言語化し、さらに多くの人たちに広めるべく浅草キッドが立ち上がった! 青少年は五味に学べ!

聞き手／堀江ガンツ designed by Shiraki(TwoThree)

五味vs川尻戦は辰吉vs薬師寺戦以来の奇跡的な日本人対決ベストバウト（博士）



――今日は大爆発した9・25『PRIDE武士道GP』をたっぷり語っていただきたいと思いますので、よろしくお願いします！

水道橋博士（以下・博士） いやぁ、よろしくも何もないよ！　だってさ、今回の『PRIDE武士道』の炸裂ぶりは史上最高というか、日本の格闘技史上で指折りだったにも関わらず、翌日のスポーツ新聞の扱いが小さすぎるよぉお！

玉袋筋太郎（以下・玉袋） そうだそうだ、怪しいアガリクスの広告よりも小さいんだよ！（笑）。くやしんだよなぁ、これが。

博士 会場と紙面との温度差がありすぎ。今回の『武士道』はさぁ、大会の内容自体は100点満点。『HERO'S』だけでなく『PRIDE』本戦、『K―1MAX』などの最高の出来の大会と比べてもまったく遜色ない、今後の日本の総合大会の分岐点、エポックメイキングな興行だったわけじゃない。

玉袋 ターザン山本！以外はみんな絶賛してたからな。あの人もあれだけの試合数があるの最初からわかってるんだから、長かっただとか、二階級やる必要ないなんて誰でも言えるようなこと終わってから噛み付くなよ！入れ歯のくせに！

博士 DSEの榊原代表は大会当日、パンフで「客席はソールドアウト。でも審判の日になるだろう」って言ってたけど、たしかに審判が悪く下る可能性だって、あったわけだしさ。そのくらい丁半博打の怖さがあって、しかも実際、最後まで興行としては切羽詰ったスリルと綱渡りのハラハラありで、結果、あの大成功なんだからね。

――たしかに、その怖さは大会前だけじゃなくて、一回戦が終わったあとでもまだありましたからね。

博士 そうだよ。だってウェルター級GPの決勝進出者がダン・ヘンダーソンとムリーロ・ブタスタマンチに決まったときに「こりゃあ、ひょっとすると大晦日やばいことになる」と思ったもん（笑）。

玉袋 なんで大晦日に外タレで『武士道』の決勝なんだ？　っていう危険性があったよね（笑）。

博士 その脱力感は、いわば大晦日の紅白のトリが『恋のマイアヒ』になるみたいなもんでしょ（笑）。ある意味、96年の『バーリ・トゥード・ジャパン』の再現みたいな感じでもあるからね。

玉袋 朝日昇がホイラーに負けて、「日本最弱！」って見出しになったやつだよな。

博士 ライト級の決勝も、アゼレードvsハンセンっていう可能性だって限りなく高い確率であったわけじゃない。だから決勝が4人とも外国人の可能性もあったのよ。だってさぁ、五味ですら一回戦の川尻戦でのダメージでいうと……。

玉袋 小谷を秒殺してノーダメージで勝ち上がったアゼレードが絶対優位だわ。

博士 その窮地を土壇場でひっくり返した感じっていうのは五味であり、誰もが予想しえなかったマッハの完全復活劇だよね。だから、五味vs川尻の死闘だけじゃない、一大会にドラマが二重、三重と重層的に折り重なっている感じっていうのが、この大会をスペシャルなものにしたな。

玉袋 そうなんだよな～。普通、五味vs川尻だけでも、おなかいっぱいですよ。

博士 俺たちも、長く格闘技を見てるけどさ、あの五味vs川尻のベストバウトぶりは文句なしでしょう。髙田統括本部長が『PRIDE』史上5本の指に入ったって言ったけどさ。

玉袋 『PRIDE』はそういう勝負が多すぎて五本指じゃ指が足りないよ。

博士 思い出せば、日本人対決では薬師寺vs辰吉以来っていうぐらいの魂ワシづかみぶりだったなぁ。薬師寺vs辰吉って何年前だっけ？

――たしか94年だから11年前ですね。

博士 じゃあ、今回の五味vs川尻っていうのは10年に一度の奇跡的なベストバウトだったんだよ。俺、個人的には『PRIDE』史上でもアレクvsマルコ・ファス戦と、桜庭vsホイス戦に並んだっていう感じがあるな。だから個人史においても3本の指には入ったよね。

――長い格闘技観戦史上トップスリーにまで入りましたか。

博士 だって俺さ、帰り際にどうしても五味について語り合いたくて、大会後にフジテレビのアナウンサー宴会に混ぜてもらって、五味三昧でしゃべりまくったもん。言っとくけど、この宴会にはケツメイシもNEWSも

いないからね（笑）。

——ダハハハ！　未成年はいない（笑）。

博士　そこで「あの試合ならゴールデンでも放映できた」ってテレビ関係者も言ってたのに、翌日新聞見ると『武士道』の記事が小さいから……あれはガックリしたよ！

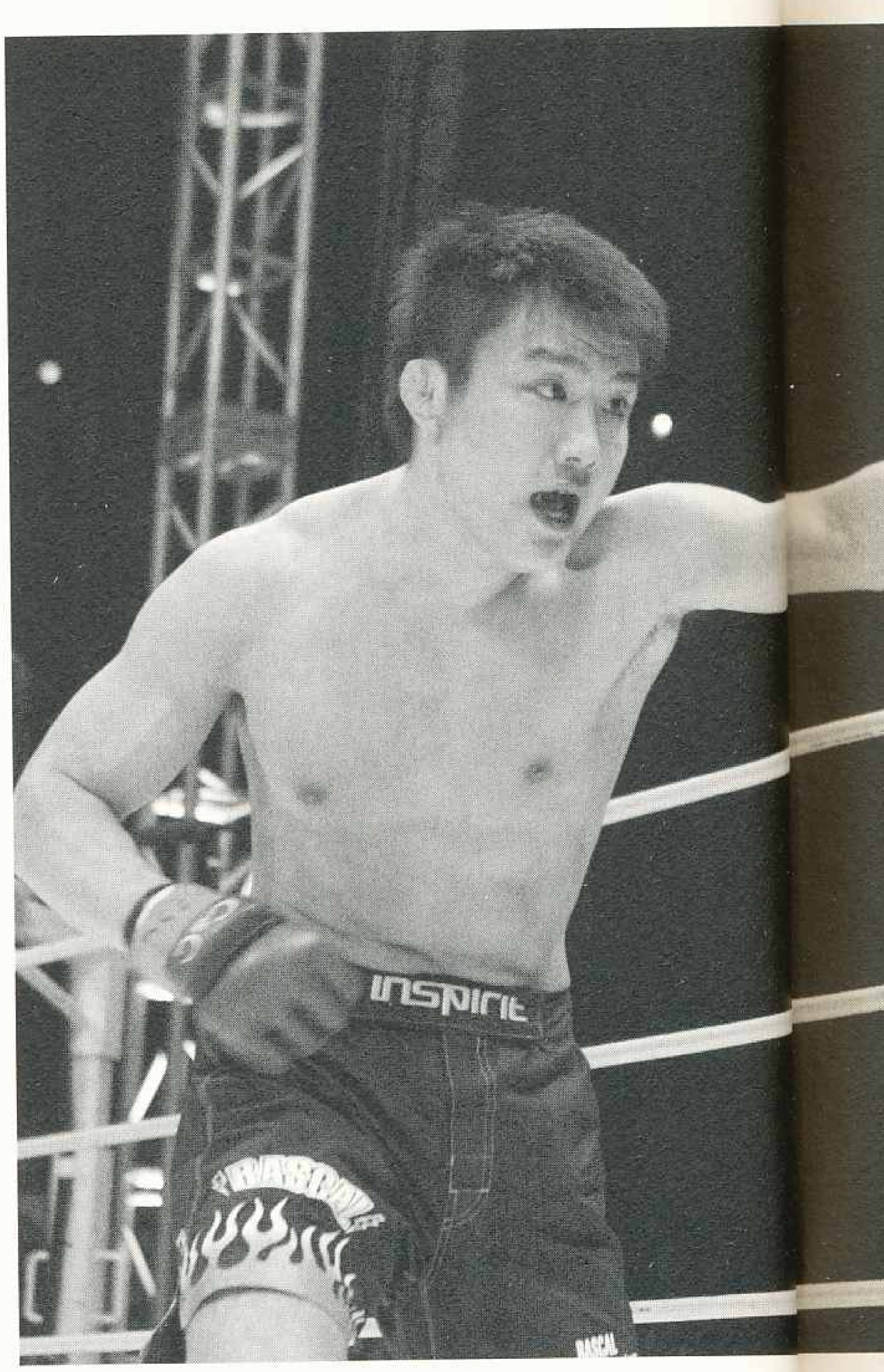
玉袋　ショックだったよな、ありゃ。漁師が沖で大漁でさ、大漁旗を振って「大漁で帰ったぞ～～！」って叫んでんのに港に誰も出迎えてくれてないっていう（笑）そういう悔しさなんだよな。

博士　でも、実際は近年稀に見る勝負の穫れ高だもんね。

玉袋　すごいぜ。大漁だよ！「エンヤ～」どころじゃねぇんだから。

——ダハハハ！「白鶴まる」どころじゃない（笑）。

博士　まあ、だからそれを世の中にわかってほしいよね。あの五味vs川尻の試合は、もう緊張感と歓声で何も聞こえなくなって、見ているほうが息をするのも忘れるくらい、時間の感覚がわからなくなって〝五味時間〟みたいな感じだったもんね。やっぱりそういう会場の空気を伝えてもらわないと。



五味は最近顔つきまで変わってきたよな　いまや朝青龍ぐらいの色気があるよ（玉袋）

玉袋　しかも試合前からよくぞ五味選手と川尻選手がいいストーリーをつくってくれたよ。ライバルストーリーとは別に、とくに川尻の熱視線に五味が付き合わないで試合前に、目を合わさねえってだけの単純な話。あれなんてストーリーとしては「中学生日記」レベルだよ。

——本来なら体育館裏でやるべき試合ですか（笑）。

玉袋　でもさ、カーッと熱くなる中学生のタイマンみたいなのを見てる感じで、そのピリピリ感と清々しい気持ちよさっていったらなかったな。

博士　今回、俺たち、小池栄子の代わりに解説席に座るから全14試合のデータを事前に読み続けていたけどさぁ。考えるに、『武士道』における五味の傑出した存在があったからこそ、今回のトーナメントができたようなものじゃない、どう考えても。五味の連勝街道がなかったら、この中量級のシーンは軸もなく散漫になっているよね。だから試合前に「これって五味の五味による五味のための大会。五味が勝たなきゃ、もう『武士道』終わるぞ！」って言ってたの。それに大晦日に続く道ということで言えば、川尻が勝ってもハンセンが勝っても成功じゃないなと内心思ってたね。

玉袋　そうだよな。それを知ってか知らぬかわからないけど、五味自身もなんかに憑かれたように顔変わってたもん。

博士　いや、全盛期の小林旭みたいな顔になってたよ。「さすらい」って感じ。本当に大スターの顔だったんだよね。

玉袋　五味もそうなんだけどさ、最近の『武士道』選手の顔のよさっていったらないよね。ここ3大会ぐらいでガラッと変わった。最初のころはジャージにサンダルの縁日のたこ焼売りみたいなカッコで出てきちゃってさ、あの当時は〝武士道〟じゃなくて、ただの〝無軌道〟だったもん！

博士　でもいまは、顔つきが全然違う。翌日の一夜明け会見のときも、五味、顔腫れちゃって朝青龍と同じ顔してたから。

——平成の大横綱と同じ顔！

玉袋　それくらい絵になる。いや、いまの五味は朝青龍ぐらいの色気はあるよ。

博士　朝青龍もさ、もう6連覇して相撲の歴史の中で3本の指に入るぐらいの記録になってきてるんだけどさ、その凄さがイマイチ一般には届いてないじゃん。それと同じように、五味も修斗時代に12連勝してて、そのあとに『武士道』で9連勝してんだけどさ、まだまだこの大記録も届いてないね。

——しかも、9連勝の相手だって蒼々たるメンバーですからね。

玉袋　もう相手が琴欧州どころのレベルじゃないんだよ。

——あの日は客席も〝爆発前夜〟らしく、そういうストーリーがわかってる連中だけ1万人集まったのがよかったかもしれないですね。

博士　長年、日本の総合を盛り立ててきた、コアにある修斗のファンのマグマを感

じたなー。『HERO'S』が明るい黄色い歓声があがるのと違って、野太い硬派な感じがしたよ。もちろんKIDと須藤も素晴らしいんだけど。

―歓声の声質が『HERO'S』とは違いましたよね（笑）。

玉袋　だから『武士道』の中にあるストーリーと『HERO'S』のストーリーが、どっちも本流なんだけどその流れが一つになると、それがまたでっかい河になって、しまいにはすべてのスポーツを飲み込む巨大格闘技文明が発生するんじゃないかって期待もあるんだよ。

博士　しかし、考えてみれば、須藤元気、山本KIDと合わせて4人とも木口道場と係わり合いがある。その木口先生の名伯楽ぶりの凄さもあるよ。

玉袋　木口先生もどっちに行きゃいいんだって、「大晦日は入院する」とか言ってたけどな（笑）。

博士　まあ、サムライTVでは『武士道』に行くって言ってたけどね。とにかく、いずれにしても試合後にリングでギター弾いて歌うって言ってたよ。だから、大晦日は木口会長がトリを締めるということだけは、すでに決定してるからね（笑）。

―サブちゃんでも、和田アキ子でもなく、トリは木口先生ですか（笑）。

玉袋　過去の長渕剛の紅白海外中継よりも迷惑ですよ（笑）。そういえば紅白の話で思い出したけどさ、NHKから「なぜ紅白はダメなのか」っていうような趣旨のディベート番組の出演依頼が俺たちにきたんだよね。

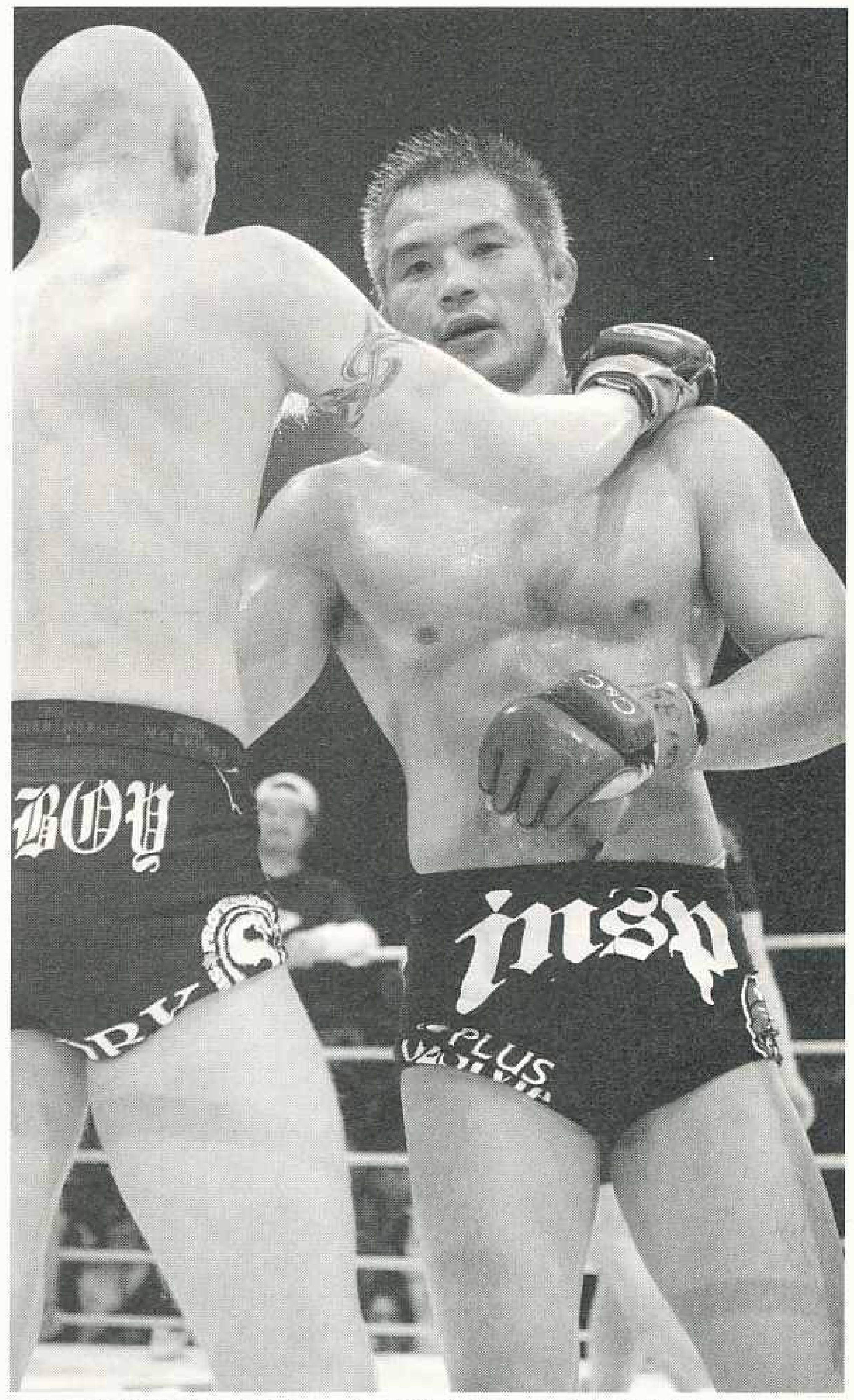
―あ、そうなんですか。大晦日〝格闘技側代表〟みたいな感じで（笑）。

玉袋　まあでもそんなの簡単なことだろ？　だっていまの紅白自体にはなんのストーリーもないだろうに。闘いの熱さもねえっていうステージに、国民の興味も湧くかって話ですよ。

博士　歌合戦っていってるわりには〝合戦〟じゃないもんな。

玉袋　合戦じゃないんだよ！　日本人は基本的に〝合戦〟が好きなんだからさ。だから、格闘技が大晦日にやるっていうのは根底の部分で当たってると思うんだよね。結局紅白はガチンコじゃねえもん。もう、その一言で終わりだよ。そういった部分でいうと、事務所の力なんかで紅白の初出場を決めた歌手とかよりも、俺は五味やマッハが実力で大晦日の『PRIDE男祭り』に出場を決めたっていうのが嬉しかったな。

〝伝説〟を実力で証明し完全復活を果たしたマッハの姿には感動したよ！（博士）



『PRIDE武士道』スタート時は“エース”と目されながらも、なかなか結果が出なかったマッハがついに完全復活！　五味vs川尻の陰に若干隠れた感はあるが、ジェンス・パルヴァー、ヨアキム・ハンセンを連覇したことは、もっともっと称えられていい。

―まあ、結果的に五味、マッハが勝ち上がって万々歳だったわけですけど、一回戦全試合終わったときにみんな「ここで終わりにしてれば最高なのに」って言ってましたよね（笑）。

玉袋　そしたら五味はいるし、マッハはいるし、美濃輪も郷野もいるもんな。

博士　そうそう。しかも二回戦で、マッハがハンセンに勝てる保証はないし、一回戦のダメージ考えると、五味がアゼレードに勝つ可能性は低いと言わざるを得ない部分もあったし。実際、アゼレード戦でも途中、もう五味も打ち疲れしてるんだよな。でも1R終わって「炎が消えるのかな……」ってときに、逆に目の中に炎がグワーって上がってたからね。なんだろう、炎（ほむら）立つって言うの。

玉袋　真っ白な灰になってないんだよ！

博士　実況の三宅さんなんかも、「目の中の炎は消えていません！」って言ってたけど、カメラが寄ると、本当にガーって！　炎が見えるんだよ。

玉袋　見えたよ、この目に！

博士　梶原一騎先生のマンガ以来だよ、あんなのが見えるのって。観客にとっては8月の『PRIDE・GP』のときにヒョードルと闘うミルコがさぁ、2Rに入って、目の中の炎が消えた瞬間を見たじゃん。

玉袋　ターミネーターが最後に骸骨の目の光がピューッと消えていくじゃん。あんな感じだったよ（笑）。でも、五味の目は燃えてたもんな。大阪でサブロー・シローのサブロー師匠に会ったとき、五味について「彼は凄いなぁ。本当、なんか憑いてるやろ！　俺はよー彼のこと知らんけど、亀田兄弟の凄さとキャラは、たしかに凄いけど、あれって作ってる部分あるやんか。でも五味っていう選手はそれとは別の闘いに対するハートが違うなぁ」って言ってたよ！

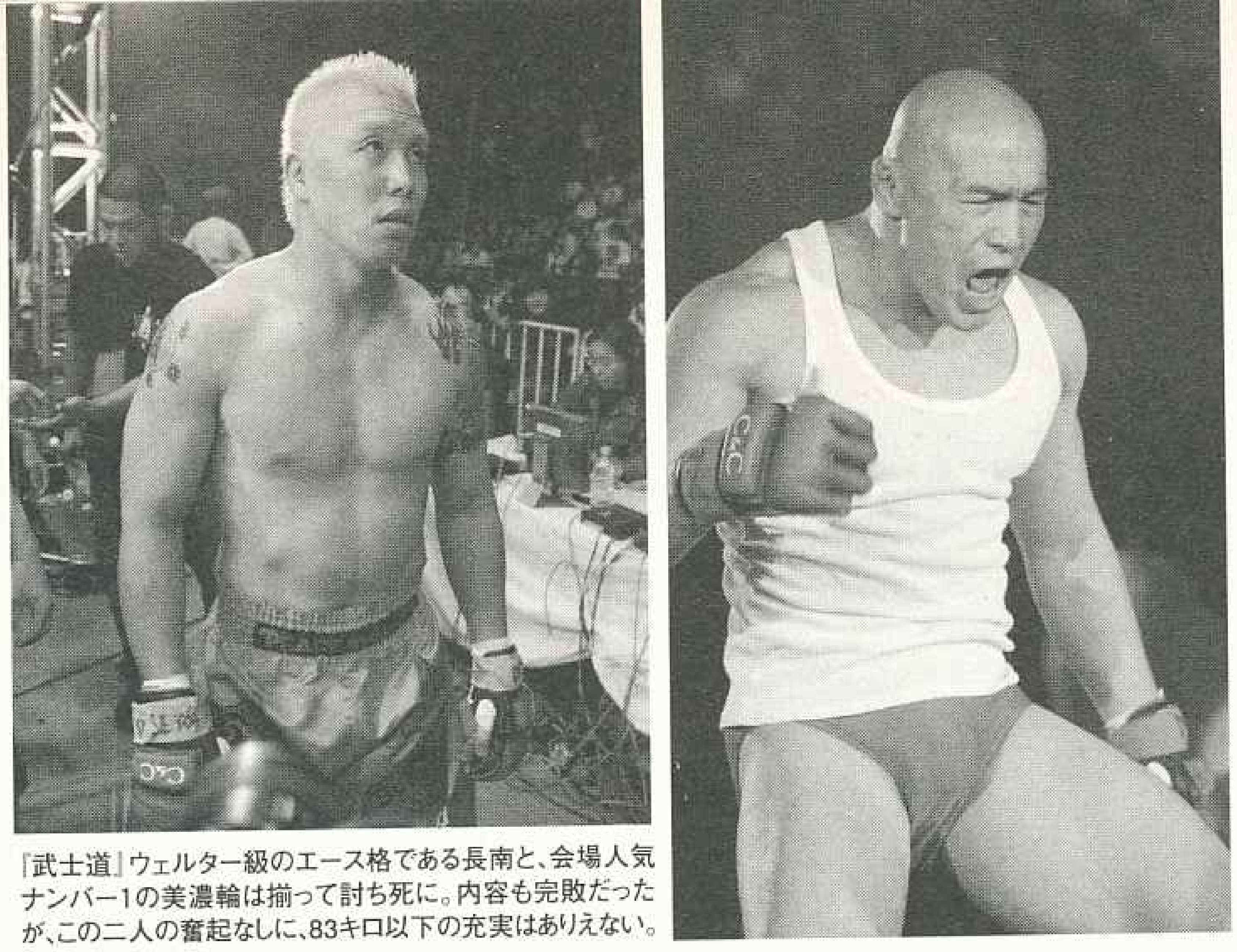
―西のファイター・サブロー師匠に、そこまで言わしめましたか（笑）

博士　それから、やっぱりマッハも、ここまで復活してくるとは予想しなかったよね、みんな。

―マッハは8月の修斗の試合（青木真也戦）のときは、あまり良くなかったですからね。

博士　今回の試合を見たら、みんなマッハは絶好調だったと思うかもしれないけど、実際は試合前まで身体が動かなくて、痛み止め打って緊急のマッサージ師を呼んで、大変だったらしいよ。

浅草キッドの『新しい教科書』
五味隆典論


『武士道』ウェルター級のエース格である長南と、会場人気ナンバー1の美濃輪は揃って討ち死に。内容も完敗だったが、この二人の奮起なしに、83キロ以下の充実はありえない。

玉袋　そこらへんをさ、試合後なら、もっと前面に出してもいいんじゃない。だから今回の大会が一回戦で終わっていたら、本当の合戦じゃない紅白歌合戦と同じになっちゃうんだけど、二回戦をやったっていう過酷な現実が、いまの紅白なんかよりリアルっていうストーリーを作ってるんだよ。だってマッハのエピソードって、病気を押して出た美空ひばりの最後の東京ドームコンサートレベルだぜ。

博士　まさに〝不死鳥〟なんだよ。だから、そこも含めて選手のあいだにある、レジェンド・ファイターである敬意を、実力で証明してみせたマッハには感動させられたよね。この前『Ｎｕｍｂｅｒ』で格闘技のオールタイムのベストを選出して、その5位にマッハvsフランク・トリッグ戦が入っているんだけど、他の試合に比べて実際に見た数を比べれば……。どれだけ記憶に刻んだ試合をやった男かってことだよ。あれが5年前なんだから……。

玉袋　でも、日本人のことばっかり言ってるけどさ、やっぱダン・ヘンダーソンも褒めてやんなきゃいけないところもあるよ。

博士　ヘンダーソンはリングスファンからすればさ、第一回のＫＯＫトーナメント（99年）の一大会で無差別で闘って、ギルバート・アイブル、アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ、レナート・ババル相手に3タテやってる人なんだって記憶があるからね。正直、そんな人がなんでウェルター級なんだよって思ってるし、あのときの強さを見てるからモノが違うってわかってるんだもん。長南はピラニアだけど、あのときのアイブルって本当にワニだったもんね。

——たしかにアマゾン河で暴れるワニと格闘する人間って感じでしたよね（笑）。

玉袋　まあ、だから本当は最初から呼んじゃいけないんだよ。

博士　呼ぶにしてもさ、どうやったって日本人が勝ち上がるような山組みにすべきなのよ。準決勝で日本人同士を闘わせたりさ、逆にブスタマンチとヘンダーソンを当てるとかさ。

——それをなぜやらないかなっていう疑問はありますよね。

博士　そういう意味なら、ああいう組み合わせになった以上、伝えるべきことは長南が「ダン・ヘンダーソン戦以外なら出ない。一回戦で死んでもいい！」っていう、小泉首相的な不退転の決意で闘ったことだよね。だから本当は俺も解説席で長南の男気っていうのを語りたいのよ。語りたいんだけど試合が一瞬で終わったからさ。

玉袋　俺も長南については言いたかったことあんだよね。『武士道』のカードが発表される前に後楽園にボクシング観に行ったんだけどさ、そのときに長南と横井選手と美濃輪選手が見に来てたんだよ。それで俺が長南のとこに挨拶にいったんだけど、なんか長南がニヤニヤしちゃってんの。「どうしたの？」って聞いたら「決まりましたよ、ダン・ヘンダーソン」って。だから俺「え!? 大丈夫？」って言ったのよ。でも「絶対やってやりますよ！」って。それぐらいノリノリだったんだよね。

博士　無念だろうなぁ。長南と小谷は。

——小谷選手はね……。

玉袋　小谷は本当に刀を抜けなくてもったいない。それだけ熾烈なんだよな、『武士道』って。

博士　そうそう、あとさ、いまは「『武士道』の選手たちのストリートっぽさとか、等身大のカジュアルさをなんとか浸透させなきゃ」って、プランもあるんだろうけど、俺は『武士道』って新渡戸稲造が、かつて世界に紹介した日本のモノノフ（武士）の精神性っていうか、もっとスピリッチュアルな凛とした空気こそ伝えてほしいって。逆にカジュアル性じゃないものがほしいなって思うのよ。

——そう考えると、五味がなんで良くなったかっていうのは、カジュアルじゃなくって、どんどん一般人とは違う雰囲気が出てきているとこなんですよね。

博士　やっぱ俺は五味の黒髪も眉毛を太くしたのも、おおいにアリだと思う。

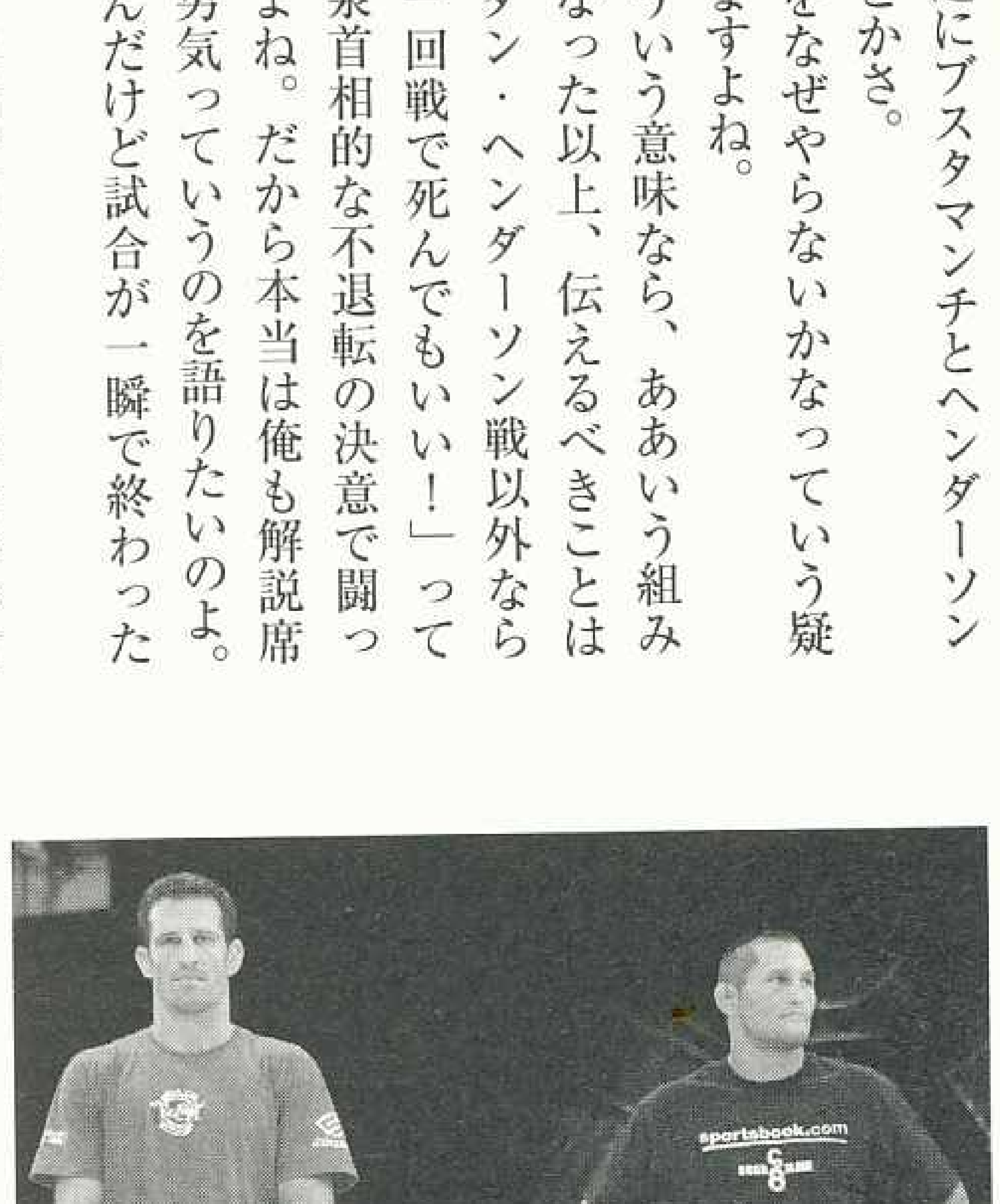
玉袋　清原だってピアスさえなければ今年は巨人に残ってたかもしれないのにね。

博士　だって、あのピアスが政財界の反発を買って、巨人に残してもらえないって話もあるからな（笑）。

——方向性が正しいかどうかは別にして、でもついに五味は尊敬できるというか見上げる星になってきましたもんね。

博士　俺も実際『武士道』初期のころは、まだピンと来てなかったし、もっと言えば修斗のリングに上がってる時代にも、こ

ヘンダーソンは呼んじゃいけないんだよ
でも、長南の心意気を買いたいよな（玉袋）


まさにブッチギリで決勝進出を決めたダンヘンとブスタマンチ。この二人に勝てるウェルター級の日本人は現れるのか？



れほどのヒーロー性を予感していなかった。だけど彼が辿った道を共有することは、もういまや、日本で唯一人の世界最強の〝誉れ〟で語れるヒーローになってきてるからね。夏目漱石風に言えば、「五味隆典と同じ時代に生まれ合わせた幸せを感謝しなければならない」んですよ。

玉袋　やっぱりさ、俺らって五味とは世代もぜんぜん違うからね。余計に乗れないって部分はあったわな。

――それが試合だけで翻弄させられちゃったわけですからね。

玉袋　世代を超えた俺たちを翻弄するのって本物だよ！　だから、最初は敬遠してたもん。それを試合で振り向かせて、俺たちに拍手させるっていうのは本物だ。格闘技界のサンボマスターだよ。もう流行歌は飽きちゃって、オレンジレンジなんかわかんねーよっていってる30～40代にさ、サンボマスターがスッと出てきた感じに似てるよね。

博士　サンボマスターの新譜のコピーを頼まれて、「25年前の漫才ブームのツービートの疾走を知る俺は、サンボマスターは、音楽界の〝ビートたけし〟の出現だと思う」って書いたんだけど、それと同じだよね。お膳立てありきで作られたスターじゃないもん。サンボマスターしかり、ビートたけししかりね。要するに既成のステージを蹴散らしながらさぁ、そこに自分でステージを作ってるわけじゃん。そういう意味であの大会は「五味の五味による五味のための大会」だったのよ。五味が自分で作ったステージだから。

玉袋　まあ、こういうことを言っちゃうと逆に他に出てる選手がヘソ曲げちゃうかもしれないけど、それは誰にでもチャンスがあるわけでしょ。あそこのステージはさ。追いかける連中も、五味を食えばいいんだから。

――そうですよね。あれだけ実力主義で、何の操作もなしのメジャーな舞台ってないですからね。でも、五味って修斗時代はそうじゃなかったように思うんですよね。「勝てばいいんだ」って試合も多かったですし。やっぱりそのへんで五味の意識を変えたのは、〝武士道のエース〟って呼ばれてからだと思うんですよ。それを聞いて自ら大会を背負うようになっちゃったというか。

博士　っていうかね、五味の昔のインタビューを読むと口ベタなんだよ。だってジムの中でさ、「こんだけ口をきかない子はいない」っていうぐらいの変人だった人なんだから。その五味がいま、あれだけマイクができるようになったのはさ、やっぱ責任感というか、エースでありスーパースターへ向かうっていう自覚だと思うよ。

――いまの五味は自分が目立とうっていうのを通り越してますもんね。

博士　試合前のインタビューもね「『HERO'S』の決勝に残った（山本KID）徳郁と元気君は負けても成立するけど、僕の場合はそれはない」って言ってたんだよ。それって本当に切ないけど、でも正しいんだよね。確かにあの二人はね、負けてもまだ絵になり、ストーリーが残るけど、五味は本当に負けることが許されな

い立場なんだよな。

――負けたら『武士道』自体が終わっちゃうっていうぐらいすべてを背負っちゃってるのを、自覚してるんですよね。

博士　そういう意味では「武士道とは死ぬことと見つけたり」というかさ、そういう武士道そのものの世界観がドンと五味の中にあるんだよ。

――それから〝武士道のエース〟と呼ばれて、重責を背負わされることを、それこそ武士の〝誉れ〟として、それを力に変えてますよね。だからこそ、トップなのにまったく守りに入ってなくて、「判定ダメだよ。KOじゃなきゃ」っていうあの迫り来るファイトスタイルですからね。凄いですよ。

玉袋　そりゃ、凄いよ。それで常に追いかけられる身としてさ、ときには川尻みたいな強敵と常にマッチメイクされるわけだから。I編集長がいまの五味の価値はヒクソン・グレイシーだって言ってたらしいけど、それだよ。

――いまの五味こそが、前田日明が昔言ってた「男子三日会わざれば刮目して見よ」ですよ。まさに五味のための言葉じゃないですか。志のある男子はこんなにも成長していくもんなんだなって。

博士　10年前は大晦日に雪の芝生でアマレスごっこをしてた子どもが、ここまで来た。でも木口会長をして「教え子のなかでこれだけ練習した子はいない」って言うんだからさ。もう、五味は教科書に載るべきだよ。

玉袋　浅草キッドの「新しい男教科書」つくろうよ！

博士　いや、冗談抜きに五味の評伝、書きたいと思ったもん。こういう人の凄みをもっと活字で伝えられないかなって。本人が言葉足らずだからさ、余計書きたいと思ったね。そういう感情は桜庭にも通じるところがあるんだよね。

――本当、桜庭以来ですよね。ああいう本物ぶりというのは。性格的にも似てる部分があるかもしれないんですけど、周りがお膳立てしてあげたわけじゃなくって、自力で上がってきたって部分も似てますよ。要は、五味が大好きな永ちゃんばりの〝成りあがり〟ですよね。

五味にはイベントの枠を超えてKID戦 元気戦をアピールしてほしいよ！（玉袋）



アゼレード戦後「ユニークな友人を紹介します」と、須藤元気をリング上に呼び上げた五味。人材の宝庫であるこの階級だからこそ、イベントの枠を超えた夢の闘いに期待したい。

博士　じゃあ、『kamipro』は早く五味と永ちゃんとの対談とかやってよ。

――いや、本当に動こうかなとか思ってるんですけどね（笑）。

博士　五味は永ちゃんと会えたら死んでもいいとか言ってるからね。俺らからすれば、永ちゃんもカッコいいけど、『そういうあんたもカッコいいね！』って思ってる部分はあるんだけど（笑）。

――五味の凄さっていうのは本当にわかるんですけど、でも今後も大会を見る側としては、あの人気をもっと上げてもらわないといけないわけじゃないですか。それにはどうしたらいいんでしょうかね？

玉袋　いや、なんにも言わなくても五味って勝手にステージ上げちゃうと思うな。結果出してって。世間的にも「五味ってなんだなんだ？」って話になってくるよ、自然と。それに本当ならトーナメントにも出る必要なかったんだけどね。

博士　だから来年からはトーナメント出ないっていうのは理解できるよ。

玉袋　そんなこと言ったら、シウバだってよくやったよな。べつにトーナメントやる必要ないんだから。しかも土つけられちゃってさ（8・28『PRIDE　ミドル級GP』ヒカルド・アローナ戦）。でもあれだよな。この前の試合でシウバに翳りが見えたっていう瞬間があったじゃない。あれ見て「シウバの連勝街道を追いかけてきた俺たちは、これから何を追っかけたらいいんだろう」ってなったけど、そこで五味がフッと出てきたもんね。

――あの大会は、シウバもミルコも負けて、格闘技ファンの中で何か一段落してしまった部分はありましたよね。

玉袋　そうだよな。実際、俺はあれが終点だと思って一段落ついてたんだよ。そこを五味っていう警笛に呼び起こされたんだよ！

博士　だから『PRIDE』は本当に乗り換えがうまくいってるんだよ。桜庭の連勝がちょっと止まったと思ったら、今度はシウバが来て、ミルコが来て。ミルコ、シウバが止まったなと思ったら、五味が来てさ。

玉袋　その「最強列車の乗り継ぎが待ち時間なしに成功！」に奇跡があるんだよ。でも、それも格闘技男としてはたまらない電車男も痺れる奇跡的な最強列車のダイヤなんですよ。

――『kamipro』も今号からリニューアルになるんですけど、それに合わせたかのように格闘技界に新時代が到来した感がありますよね。まったくの偶然ですけど（笑）。

博士　いやあ、五味の表紙でバンバン売れるようにしてほしいよ。サクの表紙で売れるようになったようにね。

玉袋　あとは団体の枠を超えたKID戦か須藤元気戦をアピールしてほしいな。そのストーリーで3年間ぐらいいけるよね。五味を中心にKID選手と須藤選手とどうなっていくのかっていうな。

――本当にいい具合に2大イベントの時代がきてますよね。

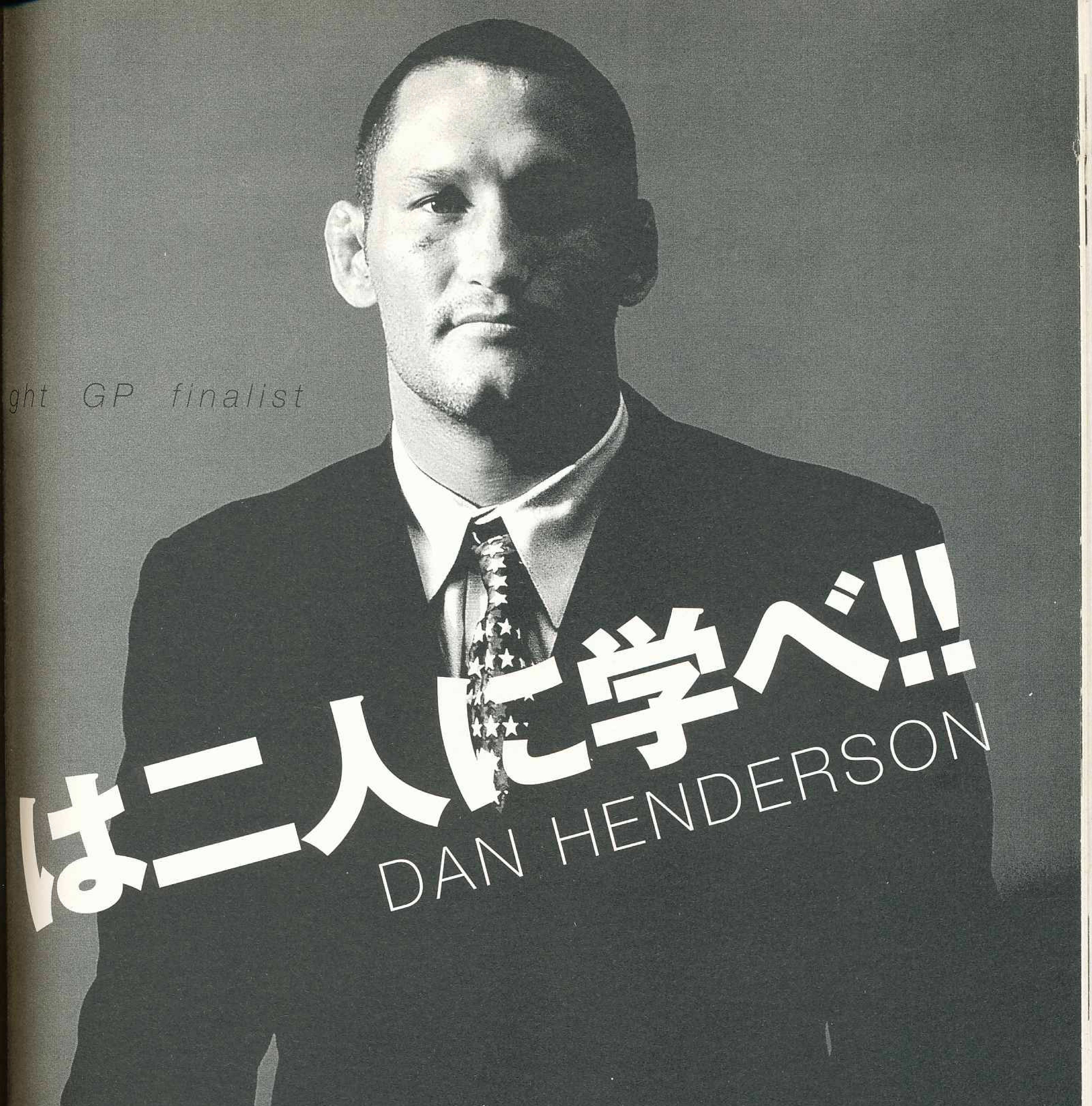
玉袋　♪最強列車の線路は続く～よ～ど～こまで～も～♪（突然歌いだす）。だからこそ、大晦日までガンガン煽ろうよ！

――では、大晦日の『PRIDE男祭り』に向けておおいに盛り上げていきましょう。

キッド　五味という名の最強列車出発進行ーーッ!!

――僕らも最強列車大好きな電車男なので、これからも乗り続けます。今日はありがとうございました！


【05年10月2日／都内某所にて収録】



ウェルター級は格闘技界のちょい不良（ワル）オヤジが制圧

見てみぃ、この『LEON』っぷり!!　『PRIDE武士道ウェルター級GP』のファイナリストは30代後半にして20代の選手に圧倒的強さを見せつけたこの二人。『PRIDE』のベルトを狙う姿はファイターとして、さらに男としてもお色気たっぷり。今回はモテるオヤジになりたい堀江ガンツ（32歳）とモテるオヤジにメロメロの松下ミワ（26歳）がかっちょいい二人にインタビュー。世の男たちよ、モテるオヤジの発言をしっかりと読め！

聞き手／堀江ガンツ、松下ミワ　撮影／菊池茂夫　試合写真／乾晋也　designed by bun-chan（Two Three）


PRIDE welterweigh
MURILO BUSTAMANTE
モテたいオヤジ

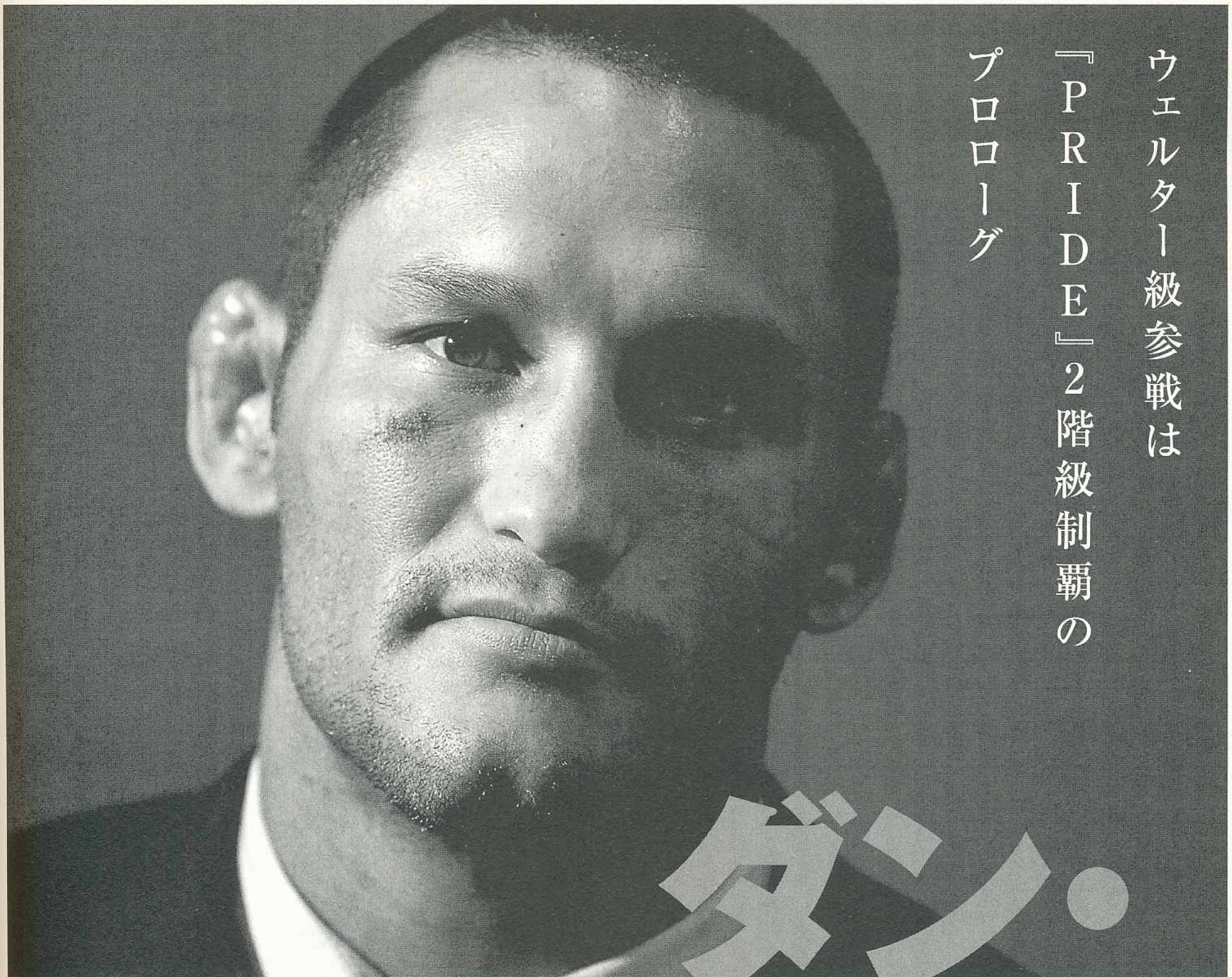
量を始めたのは来日してからだね。

ファーがきたときに、「また新しい目標が

N

ダン　ああ、ちょっとだけ。チョウナンも

かもしれないね。



ウェルター級参戦は『PRIDE』2階級制覇のプロローグ

ダン・ヘンダーソン

長南戦、郷野戦、ともに1RKO勝利という圧勝劇！　優勝候補という下馬評をまったく裏切らない闘いを繰り広げたダン・ヘンダーソン。ミドル級トップクラスの実力を持っていながらウェルター級に参戦した彼は、今回どんな思いでこの『PRIDE武士道』に参戦しているのか。そしてその先に目指すものは？

――昨日は長南戦、郷野戦ともに見事な1RKO勝利でしたね！

ダン　アリガトウ（ニッコリ）。

――まさに圧勝と言うにふさわしい試合だったと思うんですけど。

ダン　まあでも、あんまりイージーだったとは言いたくないな。そりゃあ決勝に進出する自信はあったし、自信がなかったらリングには上がってないけど、きっと昨日はボクの日だったんだよ。

――今回のトーナメントは実力、実績から言って、ヘンダーソン選手が優勝候補の大本命という下馬評だったわけですけど、唯一心配されていたのは、減量の問題なんですよ。さすがに今回の減量はかなり大変だったんじゃないですか？

ダン　どうして？　ぜんぜんそんなことなかったけど。

――え!?　ま、まあ、二度もオリンピックに出場しているヘンダーソン選手にとって、減量はお手のものであるのは充分承知してるんですけど、4月に93キロ以下の『ミドル級GP』に出て、今度は10キロ軽い83キロ以下ですから、30代半ばという年齢を考えても大変だったんじゃないかなと想像してたんですが……。

ダン　たしかに階級的には10キロの差があるけど、ボクの普段の体重からすると今回規定体重からは5、6キロぐらいしか減らしてないからね。そんなにキツいなんて思わなかったな。

――そうなんですか。ちなみに、今回の試合が決まったのは？

ダン　たしか6週間前だね。

――そんな短期間で5、6キロとか減量できちゃうもんなんですか!?

ダン　逆に6週間のあいだはあんまり体重を落とさずにトレーニングしてたよ。減

量を始めたのは来日してからだね。

――たしかヘンダーソン選手が来日したのは試合の5日前でしたよね？　それで5、6キロ落とせるって、そんな裏技があったんですか？

ダン　裏技も何も、とにかくハードなトレーニングをしただけだよ。まあ一応、食べ物はちょっと控えるかな。計量の前のときには野菜とかパスタとかにしぼって食べるようにしてたね。だから、ボクにとっては逆にミドル級のときのほうが体重を維持するのは大変なんだ。トレーニングをするとすぐに体重が落ちてしまうからね。前回の『ミドル級GP』のときは体重が落ちてしまう状況の中で闘わないといけなかったから、ちょっと不利だった部分があったんじゃないかな。

――87～88キロであの大きいホジェリオ・ノゲイラと闘っていたわけですもんね（笑）。

ダン　でも、ボクはやっぱりミドル級で闘うことが好きなんだ。いろんな意味でチャレンジできるからね。

――逆に言ったら、ミドルの頂点にチャレンジする身としては今回のウェルター級は取りこぼすわけにはいかないというプレッシャーもありましたか？

ダン　プレッシャーはないけど、絶対に負けられないという思いはもちろんあったよ。でも、それはウェルター級に限らずどんな試合でも言えることだよ。ヘビー級の選手とやるにしてもまったく同じさ。

――では、ミドル級のトップを目指すヘンダーソン選手にとって、ウェルター級のベルトというのはどういう位置づけなんでしょうか？

ダン　そうだなぁ。ミドル級のチャンピオンになりたいという気持ちはずっとあるんだけど、今回『ウェルター級GP』のオファーがきたときに、「また新しい目標ができた」と思って素直にうれしかったんだ。それにボクがウェルター級で闘ったらいったいどうなるんだろうって自分でもワクワクした。同じように、そういうファンの疑問にも答えたいと思ったんだ。だから、昨日の試合に限らず決勝戦でもその答えをキッチリ出すつもりさ。

――今回のウェルター級の大会は、やっぱりミドル級から階級を下げて参戦したヘンダーソン選手とブスタマンチ選手が頭ひとつ抜けてたと思いますが、今回の参加メンバー以外にもこの階級にはBJペン、マット・ヒューズといった強豪選手がいます。彼らについてはどのように評価していますか？

ダン　たしかにその二人は『PRIDE』の階級で言うと、ボクたちと同じウェルター級だけど、UFCでは77キロ以下をベストウエイトにしている選手だからね。83キロ以下で我々と闘うのは難しいんじゃないかな。まあ、彼らと闘うことになるにしてもボクは構わないけどね。

――なるほど。では昨日の試合をちょっと振り返ってみたいんですけど、今回対戦した二人の日本人選手に関しては、試合前に研究してたりしたんですか？

二人ともキックがうまいことは知っていたでもボクの作戦はそのキックの裏にあったんだ

DAN HENDERSON

ダン　ああ、ちょっとだけ。チョウナンもゴウノも比較的キックを得意とする選手だって印象があったよ。それに、キックを出したあとに無防備になるっていう二人共通の特徴も見抜いてたんだ。だから、両試合ともキックをかわしたあとに積極的にパンチを打ち込む作戦だったんだ。

――二回戦で対戦した郷野選手って、相手のパンチをよけ続けて、相手を疲れさせたところでパンチを打っていく戦法が目立つんですけど、昨日の試合は立場が逆でしたよね。ヘンダーソン選手が右のパンチを構えて「行くぞ、行くぞ」と見せかけて、でもなかなかパンチを打たないもんだから郷野選手はしびれをきらしてしまった。それでパンチを打ってきたところを、ヘンダーソン選手がカウンターで打ったという感じに見えたんですけど。

ダン　ボクの頭の中では相手にプレッシャーをかけてコーナーに追い詰めて最後に打撃で仕留めるというのが作戦だったから、カウンターというのは特別意識はしなかったけど、結果的にはそうなったかもしれないね。

――郷野選手にプレッシャーを与えた右のパンチの構えというのは、ご自身でも凄く相手の圧力になることは承知の上で使ってたんですか？

ダン　ボクの右パンチの威力はどのファイターも知っていることだからね。でも、じつはそれと同じぐらい左のフックも強烈だということをみんな知らないんだな（ニヤリ）。昨日の郷野戦でも決定打になったのは、じつは左のフックだったんだよ。

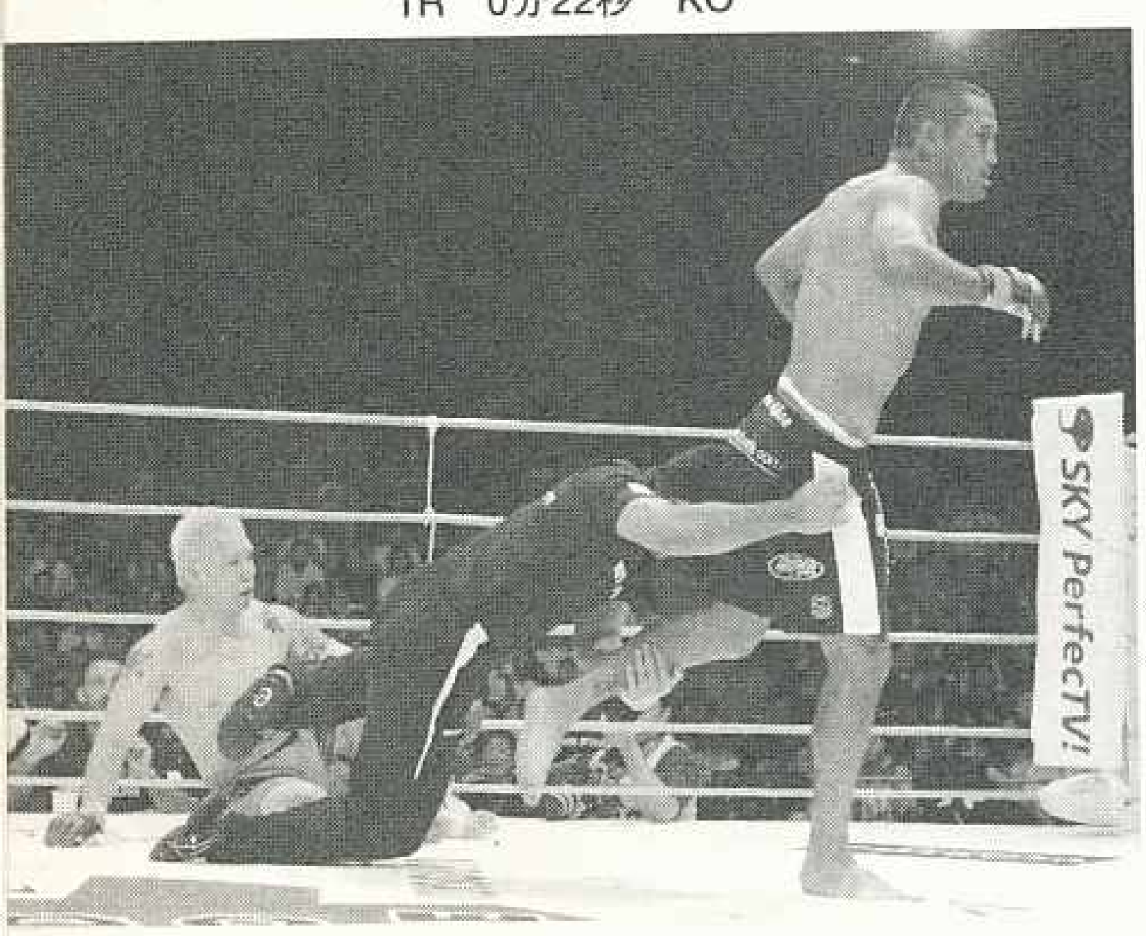
――レスリング出身ながら、ヘンダーソン選手のパンチの技術はかなりのものだと以前から思っていたんですけど、いったいどんなボクシングコーチに教えてもらってるんですか？

ダン　専属のボクシングコーチはいないよ。どちらかというとボクシングのテクニックはスパーリングの中で学んだことのほうが多いんだよ。

――え⁉　これまでたくさんのKOを築いてきたあのパンチは我流なんですか？

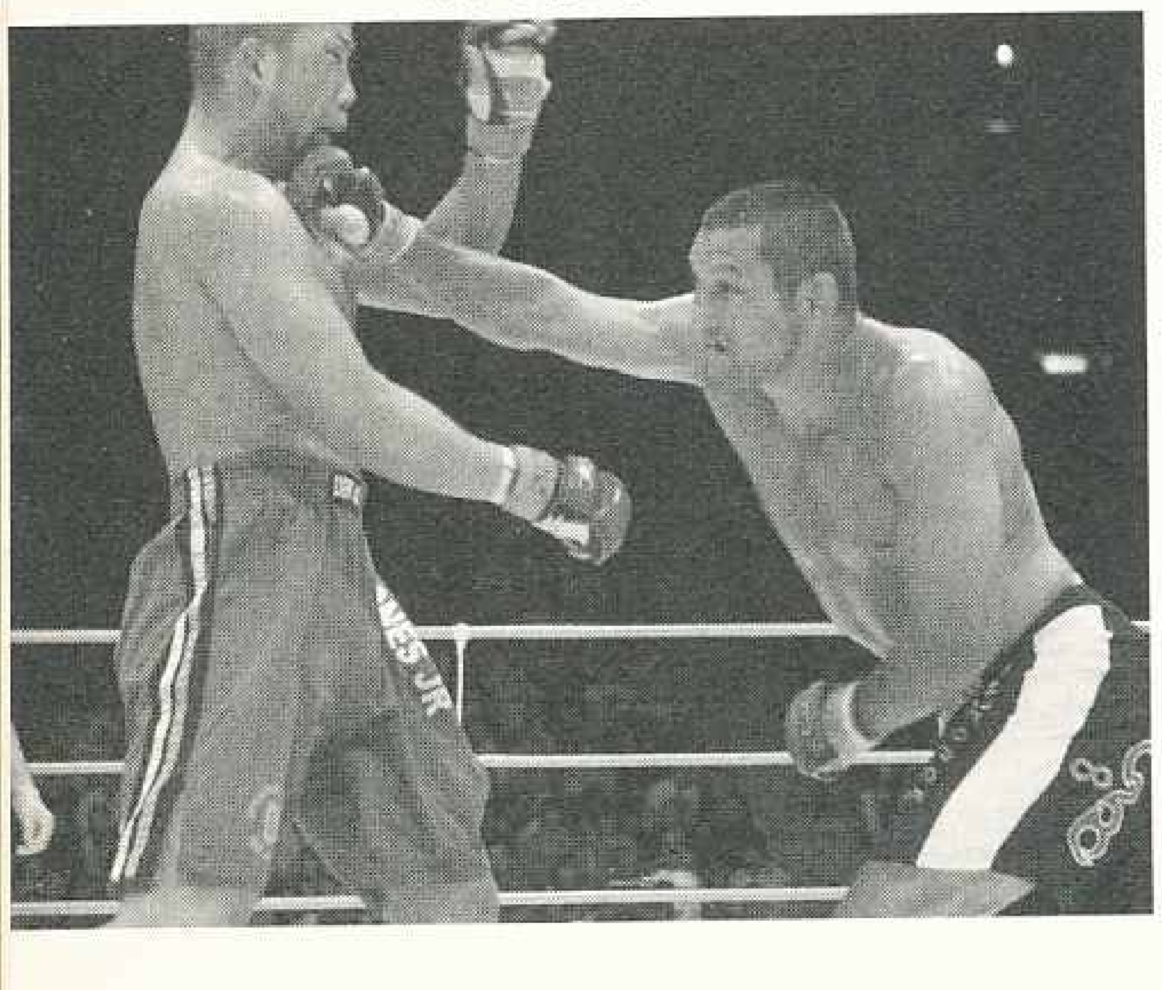
ダン　そうだね。もうひとつ言うならば、

『PRIDE 武士道―其の九』ウェルター級GP一回戦
○ ダン・ヘンダーソン vs 長南亮 ×
1R　0分22秒　KO

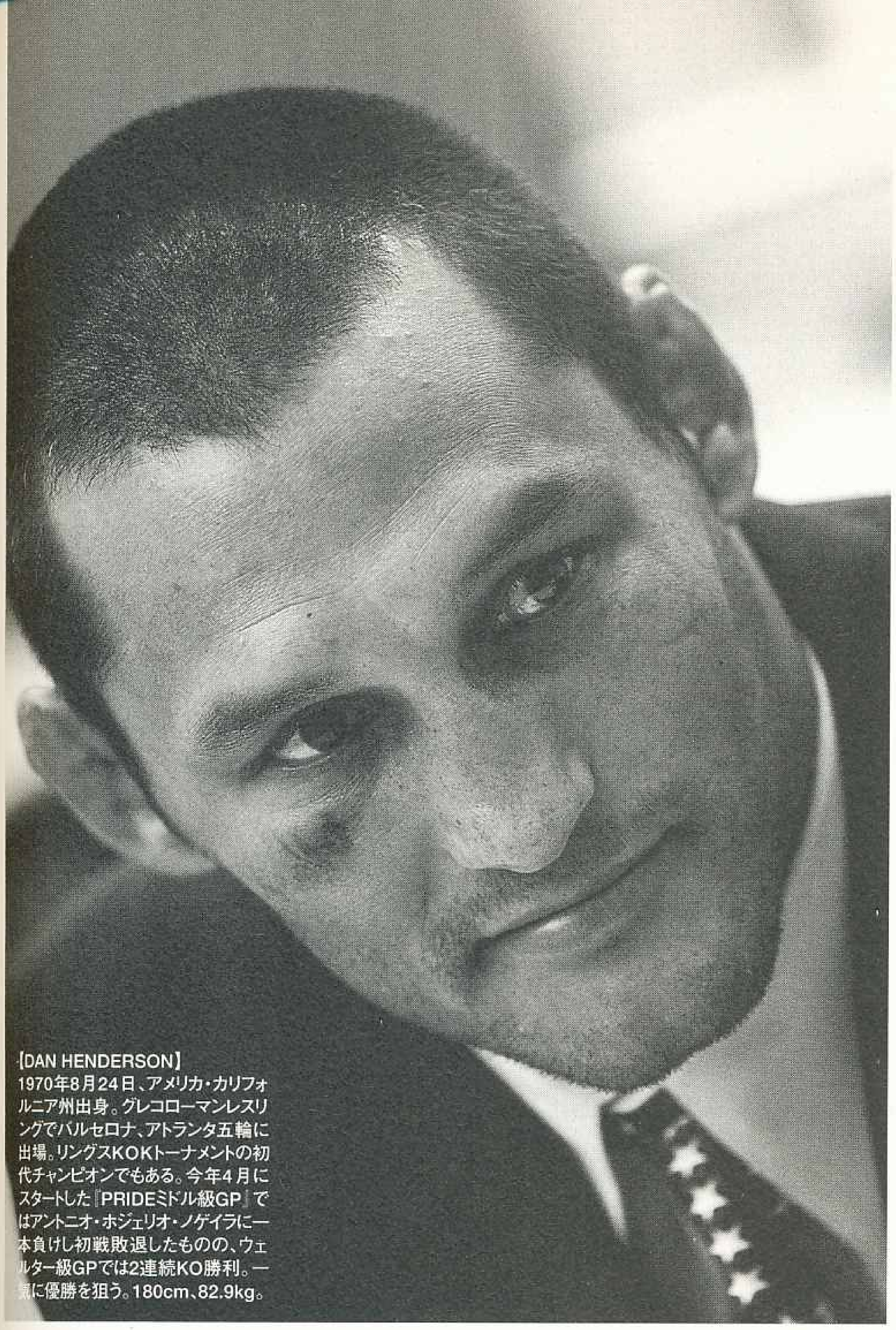


「ワンマッチのつもりで潰す！」と意気込んだ長南。ゴング早々キレのいい左右ローキックでダンヘンを牽制しペースをつかもうとしたが、開始からわずか20秒前後、ダンヘンの光速追撃右ストレートが顔面にヒット！　ダンヘンは1R22秒の早さでダメージなく二回戦へコマを進めた。

『PRIDE 武士道―其の九』ウェルター級GP二回戦
○ ダン・ヘンダーソン vs 郷野聡寛 ×
1R　7分58秒　KO



一回戦アカーシオとフルタイム闘った郷野は序盤、ダンヘンと互角の打撃を見せる。しかし、郷野が強烈な左ミドルを放ったつぎの瞬間から、ダンヘンは堰を切ったようにワンツーラッシュ！　郷野をコーナーに追いつめると、さらにパンチの連打。最後に鋭い右フックでとどめを刺した。



【DAN HENDERSON】
1970年8月24日、アメリカ・カリフォルニア州出身。グレコローマンレスリングでバルセロナ、アトランタ五輪に出場。リングスKOKトーナメントの初代チャンピオンでもある。今年4月にスタートした『PRIDEミドル級GP』ではアントニオ・ホジェリオ・ノゲイラに一本負けし初戦敗退したものの、ウェルター級GPでは2連続KO勝利。一気に優勝を狙う。180cm、82.9kg。

実践の中で身に付けたっていうぐらいかなぁ。試合は何よりも一番技術が身に付きやすいし、そこで得たものは一番の武器になるからね。

―実践だけでそれだけできるというのは、やっぱり才能なんですかね（笑）。

ダン そう言ってもらえるとうれしいよ。まあ、自分でも才能があると信じてるけどね（ニッコリ）。

―もし最初に始めたのがレスリングじゃなくてボクシングだったら、ボクシングでオリンピックに出場してたかもしれないですね（笑）。

ダン そうかな。レスリングは5歳から始めたし、そこできっちり格闘技のベースづくりができたのがよかったのかな。ひとつの競技をマスターして、他の競技につなげていくというのは比較的ラクだからね。まあ、それがボクシングができてるっていうすべての理由じゃないとは思うけど。そのへんはよくわからないな。

―なるほど。では決勝戦に向けてですが、相手は一度対戦して勝ったことのあるブスタマンチ選手です。

ダン 彼と闘えるというのは、ボク自身も興奮しているし、絶対いい試合になると思うよ。それは約束する。

―でも、ブスタマンチ選手は「前回の試合は負けたと思ってない」と言ってるようですが。

ダン それはおかしいな。世界中の人が彼は負けたと思っているし、ボクだって間違いなく勝ったと思ってる。それを負けてないというのは彼自身の問題じゃないかな。

『ウェルター級GP』の オファーがきたときに 「また新しい目標ができた」 と思って素直にうれしかった

―どちらにしても、一度勝った相手と再戦するっていうのはどんな心境ですか？

ダン 再戦とかどうでもいいんだ。とにかくボクはベルトがほしいと思ってるだけだからね。それに向けて一生懸命練習するし、大晦日までに万全の準備をするよ。

―わかりました。ちなみに、『ライト級GP』で決勝に進出した五味選手もヘンダーソン選手と対戦したいと言ってましたが。

ダン それはいいね！　でもボクはつぎはミドル級で闘いたいと思ってるから実現するのは難しいかもよ。彼にもっと体重を増やしてもらわないとね。

―じゃあ、やっぱり今後はウェルター級ではなく、ミドル級に再び返り咲きという感じですか？

ダン まだはっきりとは言えないけど、どちらにしても『PRIDE武士道』が終わっても、『PRIDE』のリングに上がり続けることはたしかだよ。どの時期に出るかというのは自分の身体と相談しながら決めようと思ってるけどね。つぎの結果が出るまで、ミドル級でいくのかウェルター級でいくのかというのもはっきりとは見えてないし。

―もしかして、ウェルター級から一気に来年の『ヘビー級GP』に出る可能性もなきにしもあらず？

ダン それはちょっと大きすぎるよ（笑）。まあ、オファーがあれば闘うけど。

―ヘンダーソン選手のミルコ戦なんて面白そうだと思うんですけどね。

ダン おお、それはいいアイデアだね（笑）。もちろんそれもOKだよ！

―OKなんですか！　わかりました。では、最後に大ダンヘンファンの編集・松下ミワから何か質問があれば。

松下 あ、はい。あのぅ……最後にひとつ聞きたいことがあるんですよ。

ダン なんだい？　その聞きたいことって。

松下 以前、個人のブログか何かにヘンダーソン選手が犬と闘って大ケガをしたという話が載ってたんですよ。それって本当なんでしょうか!?

ダン ……なんだ、そんなことか（ため息）。その話ならボクも聞いたことあるけど、あれはまったくのデマだ！　どこからそんな話が出たのか、さっぱりだよ（怒）。

松下 はぁー、そうだったんですか。でも、良かったです。個人的に凄く凄く心配していたので……。

ダン そんなくだらない事実はいっさいない（冷たく）。

松下 あぁぁ、なんだかすみません！

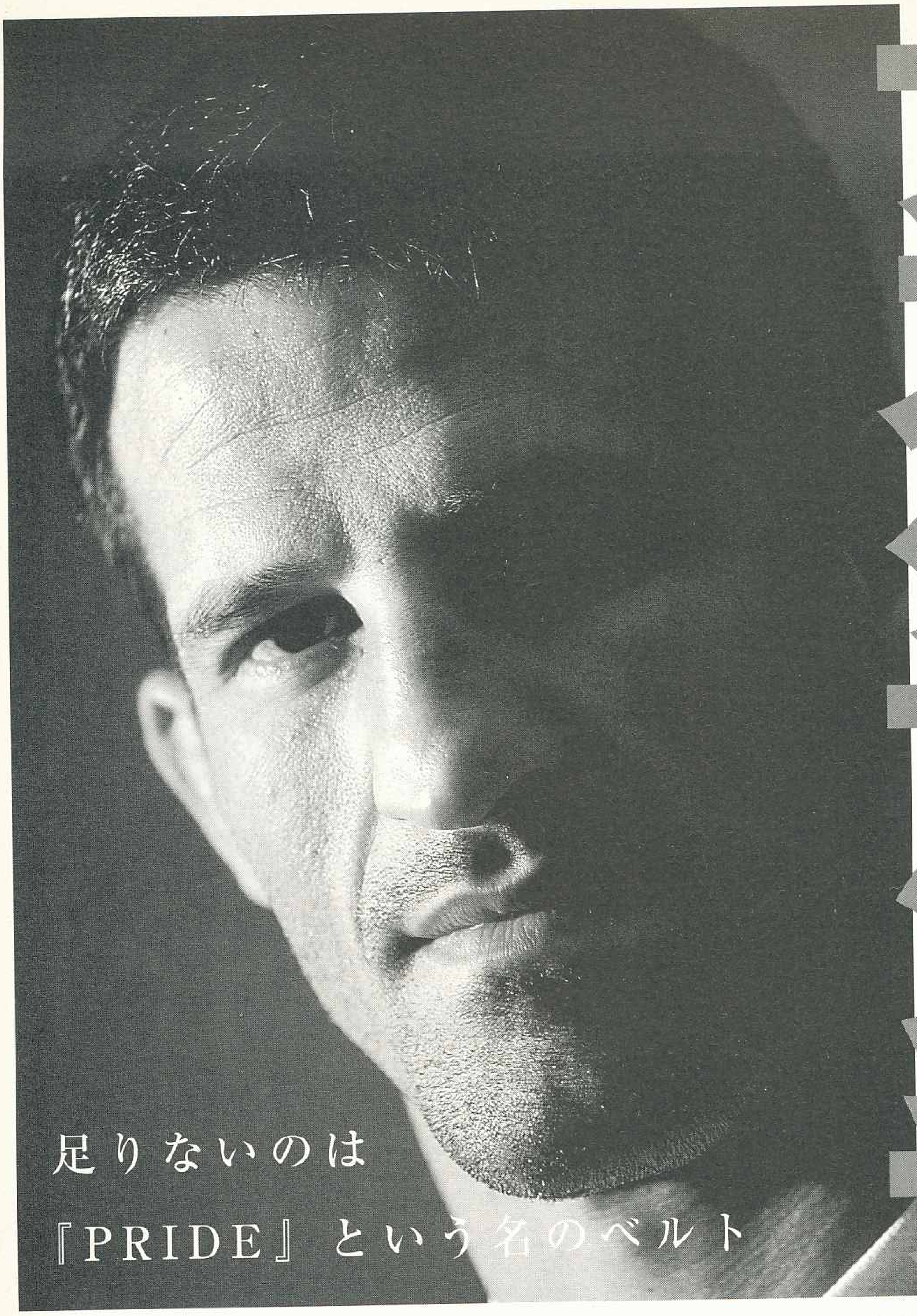
ダン 聞きたいことはそれだけか？

堀江 （ギロッ）。

松下 あ、いや、本当はもっといっぱいあるんですけど、堀江さんの視線が痛いほど冷たいのでもうこのへんで（逃げるように）。今日はありがとうございました！

【05年9月26日／都内・某ホテルにて収録】

ムリーロ・ブスタマンチ



足りないのは『PRIDE』という名のベルト

やはり今回の『ウェルター級GP』、BTTの重鎮ムリーロ・ブスタマンチが黙ってはいなかった。日本人の期待を背負った二人、現修斗ライトヘビー級王者・須田と、謎の富士山特訓で超人パワーを手に入れた(?)美濃輪を容赦なく完封。さらに大晦日の決勝戦に向け、2年前の『PRIDEミドル級GP』で秒殺KO負けを喫したダンヘンに牙を剥く!

——昨日は一回戦の須田戦、二回戦の美濃輪戦ともに見事な勝利、おめでとうございます！

ムリーロ　アリガトウ。今回は本当に最高のコンディションで試合に臨めたし、練習もベストな状態でできたんだ。試合に関してはこれ以上ないくらい準備万端だったよ。

——私たちの目から見ると危ないところってまったくなかったように感じたんですけど、ブスタマンチ選手はヤバイ！　と思った瞬間ってありました？

ムリーロ　そうだなぁ。強いて言うならば、一回戦のスダとの試合でバックブローを鼻にもらったときぐらいだよ。けっこういいパンチだったけど、ダメージに関してはそれほどでもなかったけどね。

——二回戦で対戦した美濃輪選手に関しては、2年前にブラジリアン・トップ・チーム（以下、BTT）で修行してたことがあった選手ですし、何か美濃輪選手の動きがすべて読まれていたように感じたんですけど。

ムリーロ　ミノワは本当にいいヤツで、彼がブラジルに来たときからBTTのメンバーはミノワのことが大好きだった。私個人も彼には凄く好感を持っていたしね。まあ試合に関しては、手の内がわかっていたというより、単純に私のほうが経験が上だったということなんじゃないかな。

——美濃輪選手と言えば前半苦戦しても奇想天外な動きで後半逆転することも多いんですけど、昨日の試合ではそれすらも見事に完封してましたよね。

ムリーロ　私自身、格闘技、とくに柔術やグラウンドにおいては何十年もの経験があるからね。ミノワがいろいろトリッキーな動きを出していると言っても、私に

『PRIDE 武士道―其の九』ウェルター級GP一回戦
○ ムリーロ・ブスタマンチ vs 須田匡昇 ×
1R　3分20秒　腕ひしぎ十字固め



序盤、BTTの重鎮ブスタマンチにテイクダウンをとられた須田だったが、これを凌ぎ再びスタンドへ。ここで須田の派手なバックブローがブスタマンチの鼻にヒット。一瞬グラリとしたブスタマンチだったが、すぐに冷静さを取り戻し、パウンドを放つ須田の腕を捕らえて電光石火の腕十字！

『PRIDE 武士道―其の九』ウェルター級GP二回戦
○ムリーロ・ブスタマンチ vs 美濃輪育久 ×
1R　9分51秒　KO



美濃輪はBTT留学時代の師匠でもあるブスタマンチと準決勝を闘うことに。しかし、かつての弟子にブスタマンチは容赦ない。1R終盤、美濃輪の足を払ったブスタマンチは猪木・アリ状態から美濃輪の顔面にサッカーボールキックをお見舞い！　さらに上からパンチラッシュを連発し、余裕のKO勝利を収めた。

とってはまったく新しい技だとは感じないよ。実際、昨日の試合に関しても全部予知できるようなものばかりだったしね。それは何もミノワに限ったことじゃない。それに試合前はミノワの試合をちゃんと研究していたんだ。

――もしかして、美濃輪選手がBTTで練習してたときに、いずれ美濃輪選手と対戦するかもしれないと思ってわざと教えなかった技とかもあったりしたんじゃないかとも思ったんですけど。

ムリーロ　正直そういうことまで深くは考えてなかったな。まあ、ミノワとはずっと一緒にいられるわけじゃなかったから、こういう日が来ても仕方がないとは思ってたけどね。たしかに闘いづらい部分があったことは否定しないよ。でも、それ以前に私たちはプロのファイターだからね。トーナメントの中でミノワと闘わなければいけないということは仕方がないことだし、決して負けるわけにはいかないからね。

――試合中、思いっきり顔面を蹴飛ばしてましたもんね（笑）。

ムリーロ　試合となれば容赦はしないよ（笑）。それに蹴飛ばすのもちゃんとルールに則った技だからね。やっぱり試合というのは自分が持っているすべての力を出さないといけないわけだから、そのあたりは恨みっこなしだ（笑）。

――ちなみに、美濃輪選手はBTTにいたころと昨日の試合とでは、技術的な成長って感じましたか？

ムリーロ　ミノワは以前と同じように素晴らしい選手だったよ。でも、ひとつ私からアドバイスを言わせてもらえるとするならば、彼はもう少しBTTの中で練習を続けるべきだったんじゃないかと思うね。彼のファイトスタイルを見ていると、やっぱりグラウンドでの展開が多い。我々BTTはそういったグラウンドが得意な選手が多いから、彼にとってもそのほうがいいんじゃないかと思ってるんだけどな。

――美濃輪選手はBTTに限らず、タイでムエタイを学んだり韓国でテコンドーの修行をしたりと、短期間ずつ留学しているんですけども、そんなふうに放浪するよりも一カ所に留まってじっくり練習したほうがいいということですか？

MURILO BUSTAMANTE

ミノワはもう少しBTTの中で練習を続けるべきだったんじゃないか？

ムリーロ　いろんなところで練習すること事態は決して悪いことではないんだけども、もう少し自分が留まる場所をつくって何かを極めるということをしたほうがいいと思うね。環境が変わることによって練習が散漫になることは多々あることだし、逆にひとつのチームに留まると応援してくれる人とか、練習する上で自分を追い込んでくれる人とかが現われてプラスにはたらく場合が多い。そこでひとつの自分の闘い方っていうのを決めるのもいいんじゃないかと個人的には思ってるんだけどね。

――その点、ムリーロ選手ははじめカーウソン・グレイシー柔術に所属していて、その後はそこから独立したBTTで練習してきたという経歴をお持ちですもんね。長期間同じチームで練習しているという。

ムリーロ　そうだな。BTTの練習スタイルというのも時代の流れの中で変化はしてるんだけど、やっぱり〝グラウンドで勝負する〟という大きな特徴というか、信条は変わってないからね。私自身もグラウンドの中で強いファイターであるということを誇りに思っているし、だからそれができるBTTでずっと練習しているんだ。もちろん、BTTではボクシング、レスリング、ムエタイといったグラウンド以外の練習もしているよ。いまの総合格闘技界ではそれをマスターしないと勝ち抜いていけないことは理解しているからね。

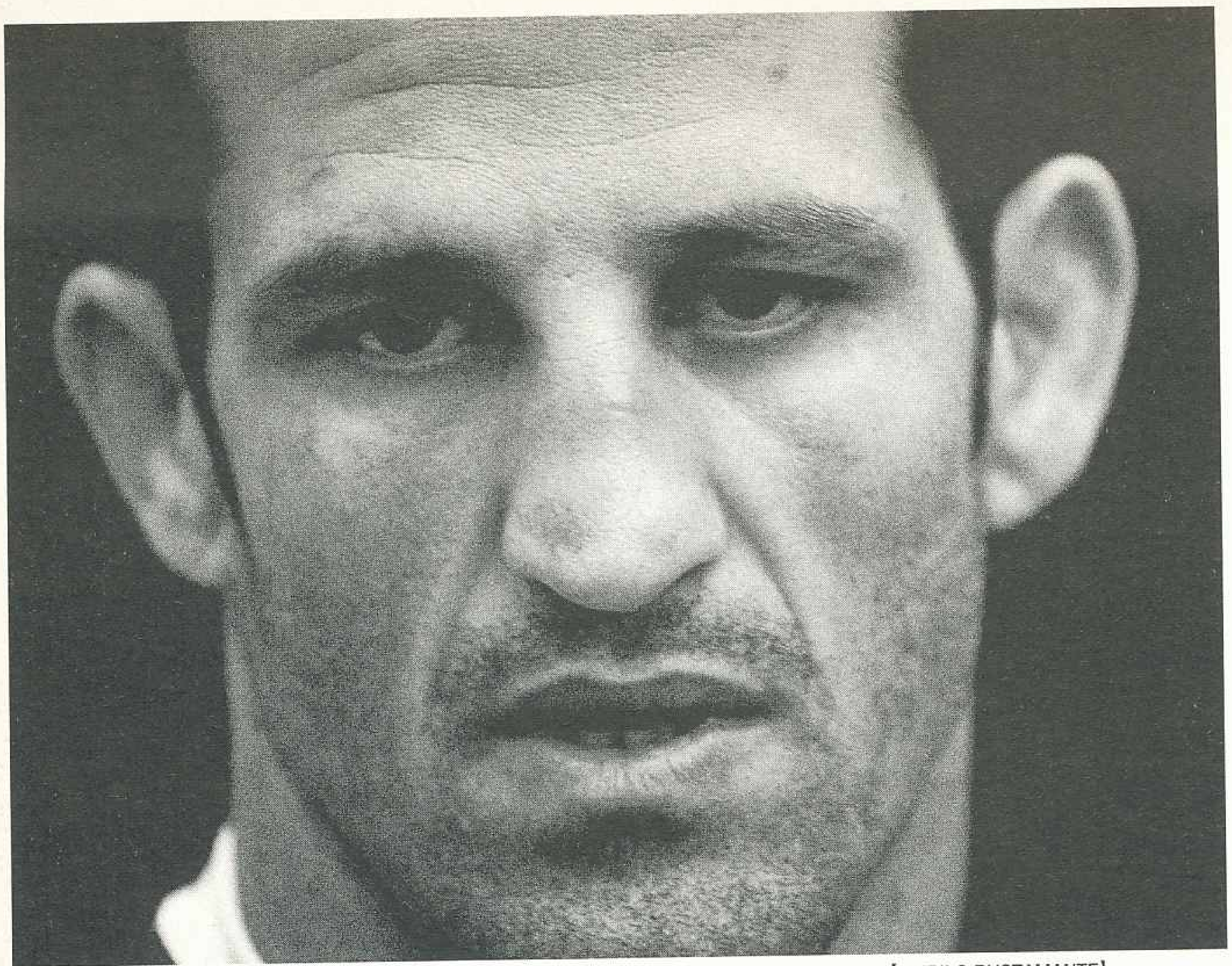
――それに、（アントニオ・ボドリゴ・）ノゲイラ選手が「ブラジルの格闘界の中で一番練習しているのは自分とヴァンダレイ（・シウバ）、そしてムリーロだ」と言っていたんですけど、39歳にしてそのモチベーションというのはいったいどこから湧いてくるんでしょうか？

ムリーロ　この年齢になってもこれだけ練習できるっていうのは、やっぱり私自身このスポーツを非常に愛しているからだと思うね。競技者である以上、肉体的にも精神的にもケアを怠るわけにはいかないとも思っているし。それに、アカデミーの中で子どもや若い人たちに私が学んだことを指導できるというのもモチベーションを上げている要素なんじゃないかな。まあ、もっと大きな視点で言うならば、ファイトに関わることすべてが私の人生の夢でもあるし、その夢を私がいまだ追いかけてる状態ということなんだろうね。

――しかし逆に言うと、闘い続けることは肉体的にも精神的にも大きなダメージを負うことだってあると思うんですけど、そのあたり、ご家族の方はかなり心配されてたりするんじゃないですか？

ムリーロ　うーん、それはどうだろう。私はこの競技をずっとやってきているし、これまでいろんなトーナメントで勝負して勝ってきてる。そんな姿を家族はずっと見てきてくれているからね。妻も普通の家庭と同じように私がやってることを信じて応援してくれているし、ときには私以上に妻が私のことを信じてくれて応援してくれることもあるよ。

――そのあたりはさすがに凄く理解があるんですね。では最後にお聞きしたいんですが、ムリーロ選手はこれまで柔術アブソリュート級ブラジル王座に4回、ブ



【MURILO BUSTAMANTE】
1966年7月30日、ブラジル・リオデジャネイロ出身。格闘経歴約30年。ブラジリアン柔術の世界選手権やUFCミドル級のリングでこれまで多くの栄冠を獲得。同門BTTに所属するヒカルド・アローナやアントニオ・ホドリゴ・ノゲイラの尊敬する師匠でもある。185cm、82.9kg。

ファイターとしてのゴールは何かって？ そんなのまだ私にも見えてないよ

ラジリアン柔術世界選手権ヘビー級王座に2回輝いてますし、UFCのミドル級チャンピオンも獲得してますよね。その他にもいろんな大会で輝かしい成績を収めてますけど。

ムリーロ　ああ、そうだね。

――これほど王座を獲得しているにも関わらず、まだ闘い続けるムリーロ選手は何を目標に闘っているのか私たちは非常に興味深いんですけど、ムリーロ選手のファイターとしてのゴールというのはどこにあるんでしょうか？

ムリーロ　私は12歳のときに柔術を始めたんだけど、そのときは格闘技は30歳ぐらいで終わらせようかなと思ってたんだ。でも、いざ30歳になったら「40歳までやろうかな」と、年を重ねるにつれてどんどんやめられなくなってきたね。いまでは格闘技の経験を重ねていくことが自分にとって一番大切なことになっているし、やっぱり目下の夢というのは君たちも知ってる通り『PRIDE武士道』でウェルター級のベルトを獲ることだ。そして今回ベルトを獲ることができたら、つぎはそれを守り続けていきたいという欲が湧いてくるだろうな。だからゴールというのはわからないけど、とにかくできるだけ現役生活を長く続けるつもりでいるよ。

――なるほど。では今後の目標として、まずはなんとしてでもウェルター級のベルトという感じってことですよね。その相手は一度黒星をつけられているダン・ヘンダーソン選手ということになりますが。

ムリーロ　ああ、わかってる。ついにこの日が来たという感じだよ。前回の試合はバッティングがあって負けてしまったけど、自分の中ではまだ決着がついたとは思ってない。ずっとあの試合の続きをやって決着をつけたいと思ってたんだ。

――今回優勝すれば、また歴代のチャンピオンベルトに加えて、『PRIDE』のベルトが飾られることになりますね。

ムリーロ　それが私の夢のひとつだからね。とくに『PRIDE』とUFCの両方のチャンピオンベルトを持ってるファイターなんていないだろ？　世界中で私が初めてということになるんだよ。

――たしかに！　でも、一度闘ったことがある相手は、やりにくくないですか？

ムリーロ　いや、私は逆だと思ってるよ。彼のファイトスタイルは経験済みだから免疫もできてるし。厳しい試合になることは間違いないけど、ベストを尽くしてがんばるつもりだ。

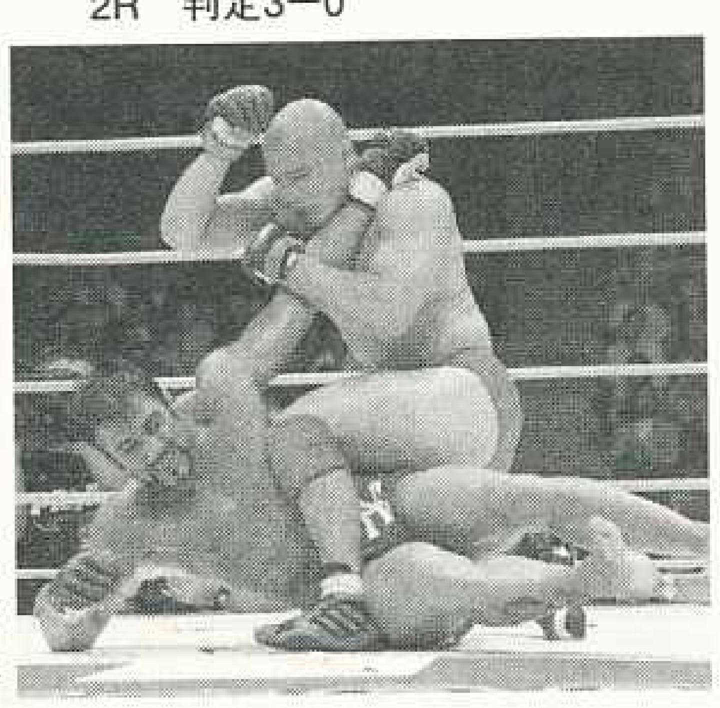
――わかりました！　では、大晦日の決勝戦もぜひがんばってください！

ムリーロ　アリガトウ。

【05年9月26日／都内・某ホテルにて収録】

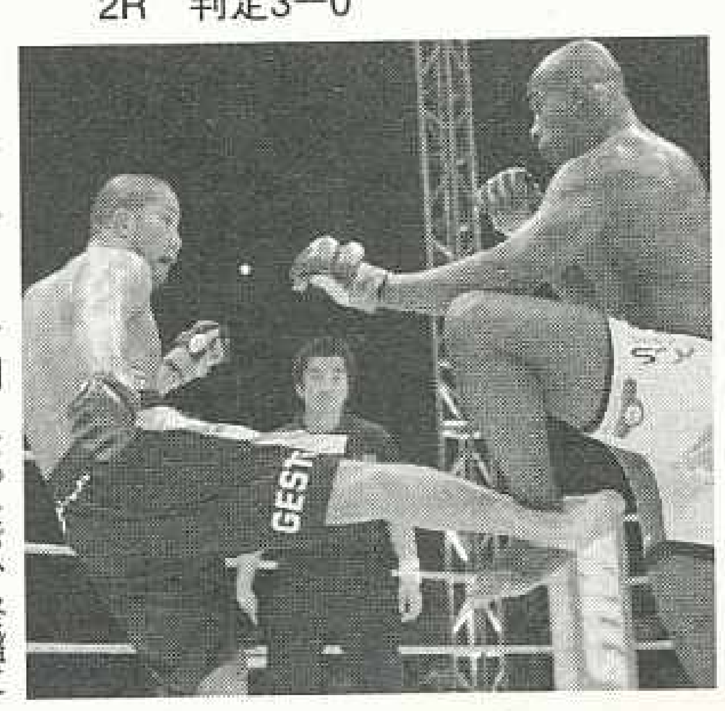
PRIDE BUSHIDO welterweight GP other fight

一回戦
○美濃輪育久 vs フィル・バローニ×
2R　判定3―0



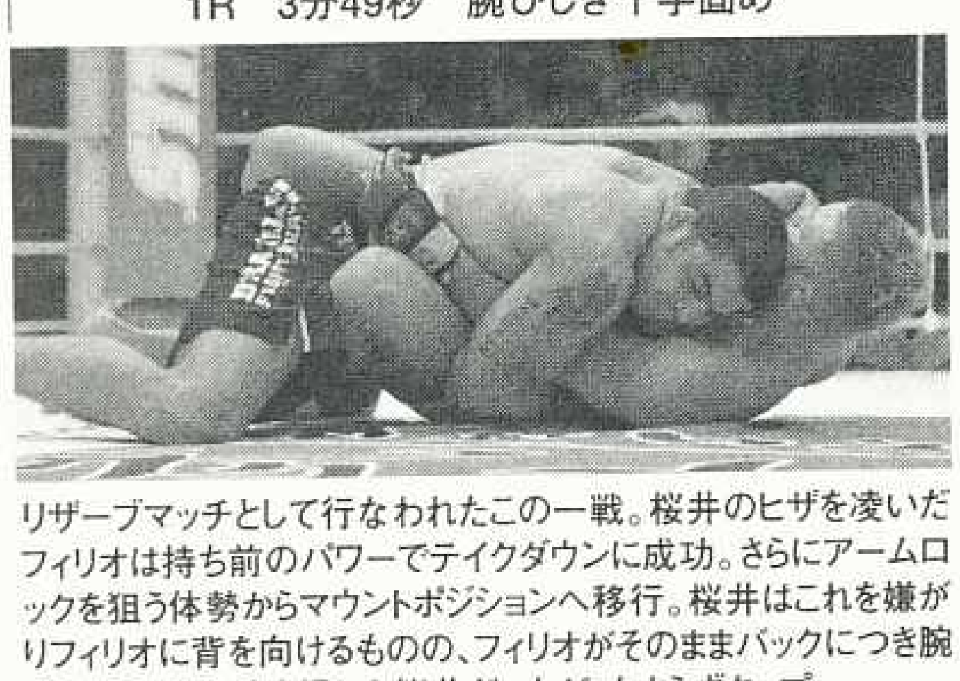
『PRIDE武士道―其の七―』で一度対戦している両者。前回、美濃輪がバローニの打撃に沈んだものの、今回は逆に美濃輪がアームロック狙いでバローニを追いつめる。極りはしなかったものの、判定3―0で美濃輪が勝利をものにする。

一回戦
○郷野聡寛 vs ダニエル・アカーシオ×
2R　判定3―0



両者譲らぬスタンド劇となったが、終盤に向かうにつれて郷野の打撃がヒットしだす。最後には猪木・アリ状態で上になった郷野がシュートボクセのお株を奪うような踏みつけ攻撃でダメージを与え、判定3―0と危なげなく郷野が二回戦へ。

リザーブマッチ
○パウロ・フィリオ vs 桜井隆多×
1R　3分49秒　腕ひしぎ十字固め



リザーブマッチとして行なわれたこの一戦。桜井のヒザを凌いだフィリオは持ち前のパワーでテイクダウンに成功。さらにアームロックを狙う体勢からマウントポジションへ移行。桜井はこれを嫌がりフィリオに背を向けるものの、フィリオがそのままバックにつき腕十字へ。しばらく我慢した桜井だったが、たまらずタップ。



中軽量級爆発元年
今度はフェザー（65kg以下）だ！



DEEP INTERNATIONAL 2001

フェザー級初代王者 決定トーナメント

1回戦／10·28　後楽園ホール　準決勝、決勝／12·2　後楽園ホール

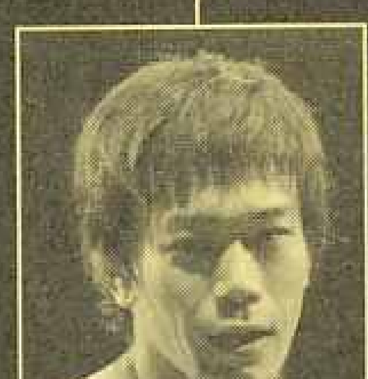
準決勝　組み合わせはシャッフル


前田吉朗

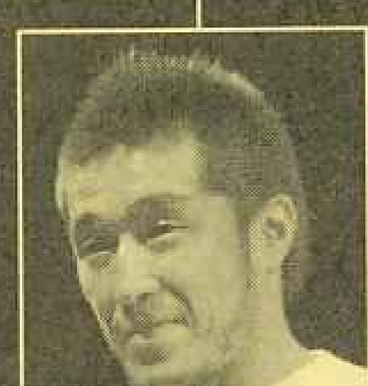

TAISHO


今成正和


ファビオ·メロ


山崎 剛

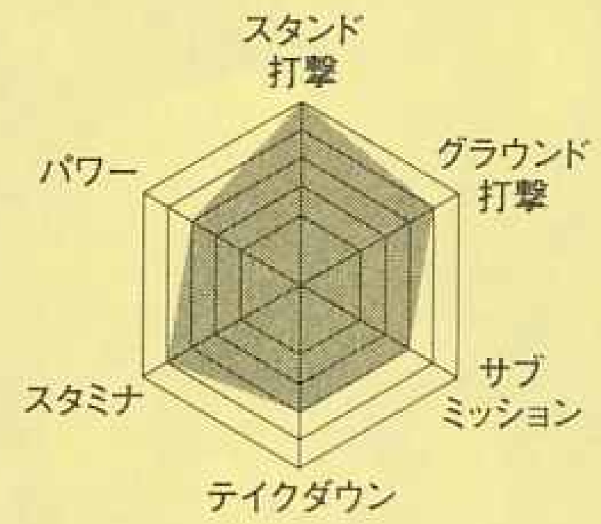

マイク·ブラウン


坪井淳浩

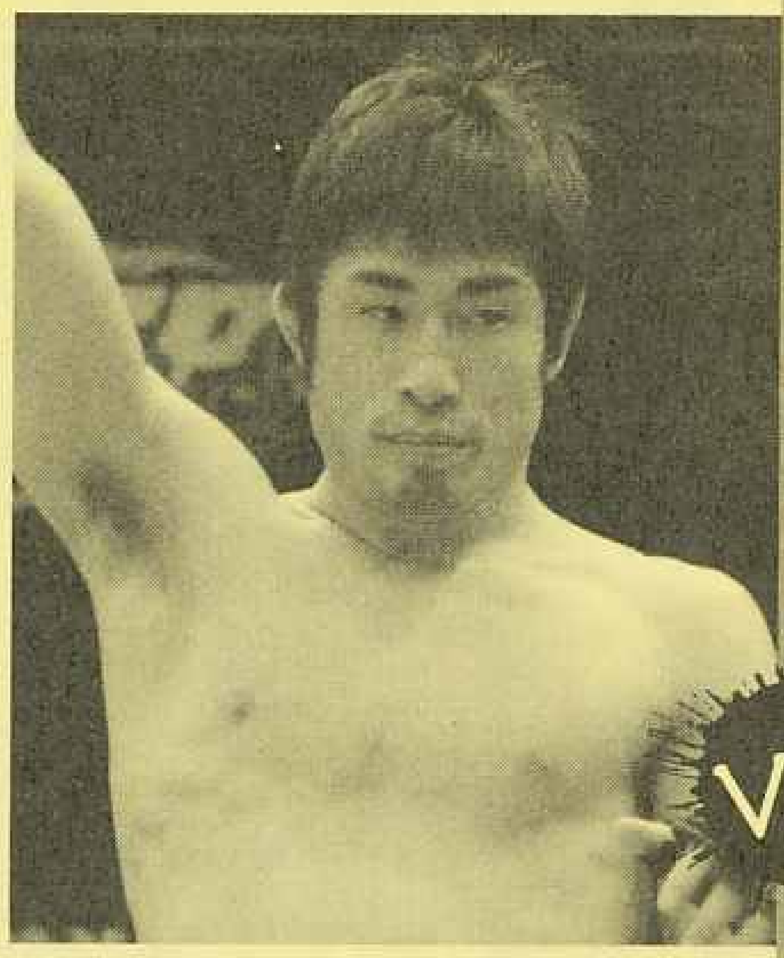

ムアンファーレッグ·ギャトウィチアン

『PRIDE武士道』、『HERO'S』と中軽量級の大ブレイクが続く格闘技界。しかし、それらはいずれも70キロ以上の選手を対象にしており、それよりも軽い選手たちは苦戦を強いられてきた。そんな中、ついに65キロ以下の大会開催が決定！　軽量級の醍醐味を見よ！

● 前田吉朗
JAPAN **YOSHIRO MAEDA**



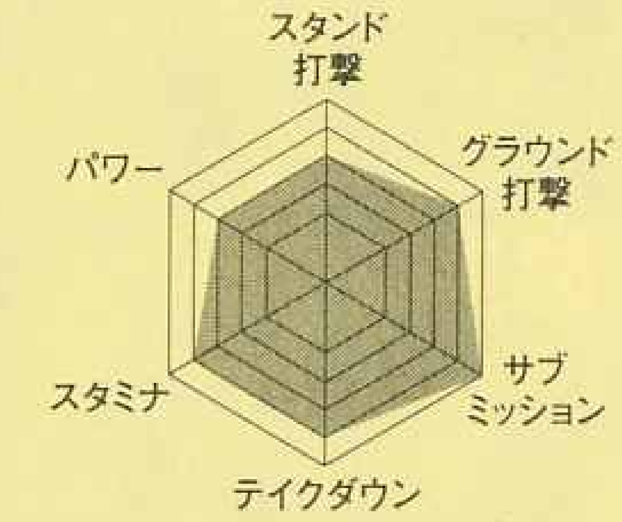
生年月日	1981年10月31日
身長／体重	170cm、63kg
所属	パンクラス稲垣組所属
タイトル	2003パンクラス・ネオブラッド・トーナメント優勝



VS

● TAISHO
JAPAN **TAISHO**





生年月日	1977年2月7日
身長／体重	164cm、65kg
所属	チーム・バルボーザ・ジャパン
タイトル	ヒクソン・グレイシー柔術大会青帯レービィ級優勝

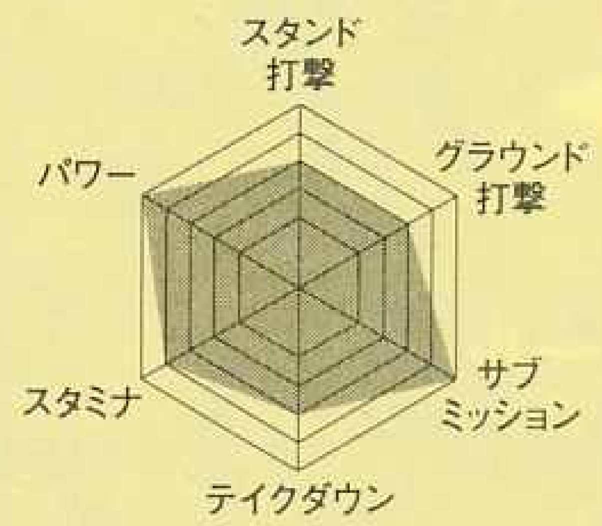
所を秒殺した柔術黒帯 引退を賭けた大勝負

TAISHOは柔術界でその名を知られ、DEEPではフューチャーファイトから叩き上げた実力者。03年には朝日昇をパウンドでTKO、一気に株を上げた。ブラジルで修行した柔術のテクニックには定評があるが、打撃も飛躍的に向上。『ZST GP』では所英男をパンチでKOし、さらには立ち技イベント『IKUSA』でキックルールにも挑戦している。選手生活最大の大勝負ともいえる今大会出場にあたっては負けたら引退も示唆。大きな賭けではあるが、それを〝吉〟へと転がすだけの実力は充分に持っている。

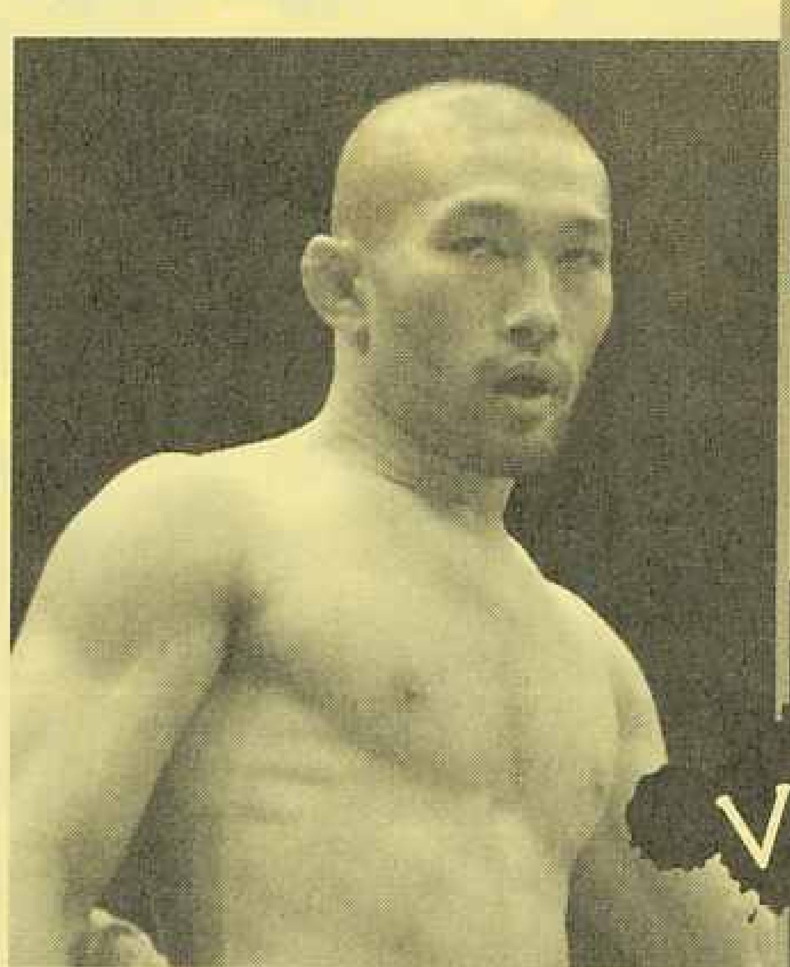
今大会優勝候補の筆頭 適正体重で本領発揮か

03年2月のプロデビュー以来、パンクラスでは15連勝（近藤有己をもしのぐ団体記録）。今年5月の『PRIDE武士道』ではクレイジーホース・ベネットにKO負けを喫したが、本来の階級である65キロでなら、本領を発揮するはずだ。相手に与える圧力は軽量級の域を超え、その打撃は鋭さ、重さともに破格。相手の隙を見逃さず一気に攻めきる勝負勘、反射神経も抜群。飛びヒザなど意外性のある技を使いこなしつつ、寝技も決して苦手ではない。間違いなく今トーナメントの中心人物であり、優勝候補の筆頭だといえる。

● 今成正和
JAPAN **MASAKAZU IMANARI**

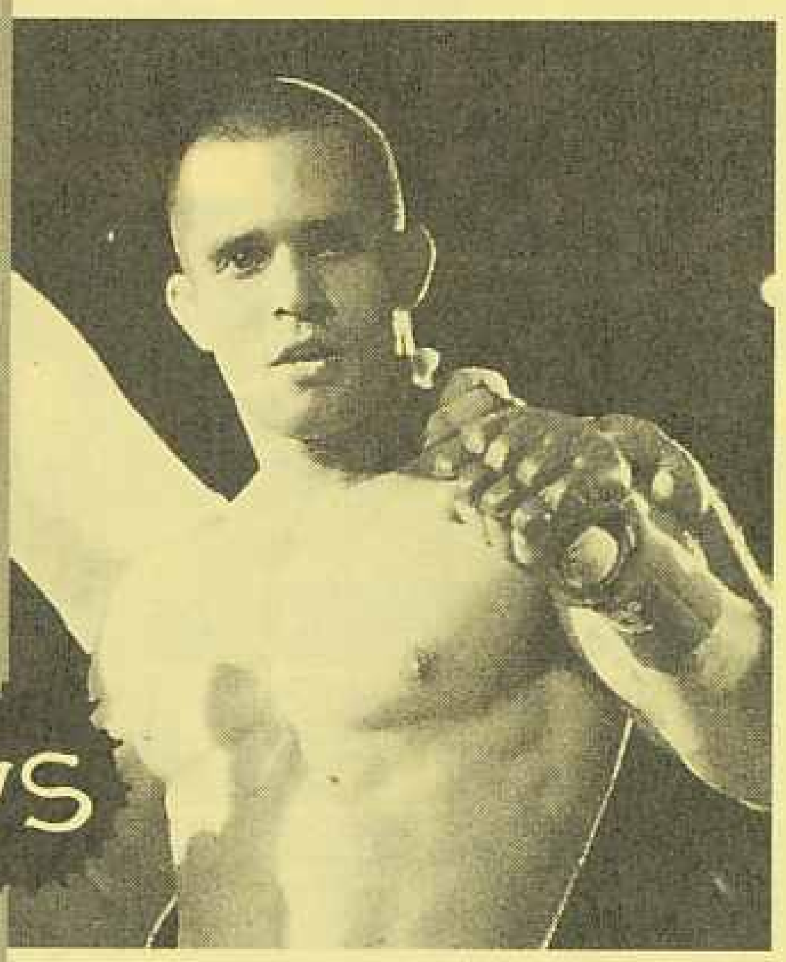


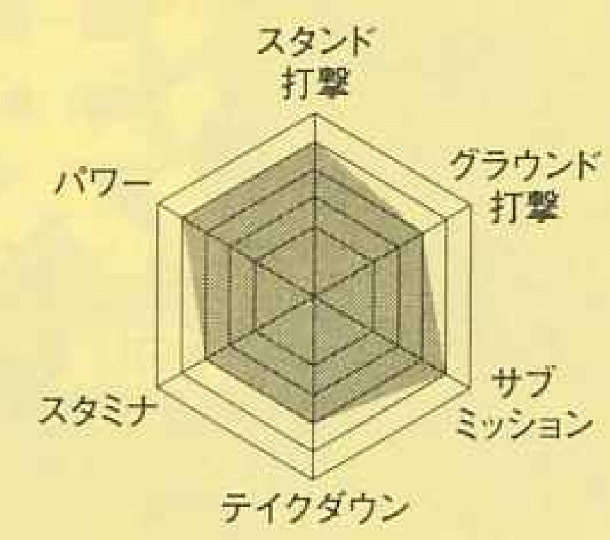
生年月日	1976年2月10日
身長／体重	165cm、65kg
所属	チーム・ローケン
タイトル	キングダム・エルガイツ初代ミドル級王者



VS

ファビオ・メロ
BRAZIL **FABIO MELLO**





生年月日	1975年6月28日
身長／体重	169cm、65kg
所属	ブラジリアン・トップチーム
タイトル	なし

名門BTT軽量級の雄 打撃の実力も侮れない

名門ブラジリアン・トップチームの軽量級を代表する選手。柔術、ムエタイ、サブミッションレスリングで州チャンピオンを獲得。日本では三島☆ド根性ノ助、五味隆典に敗れているものの、ヤノタクには圧勝を収めていることからも実力はうかがい知れる。日々、世界屈指の強豪グラップラーたちと手を合わせているだけに寝技の実力は保証つき。また打撃の能力はBTTでもトップだというから期待できるというものだ。本来の階級であり、相手の体格も小さくなる今トーナメントではさらなる強さを発揮するはずだ。

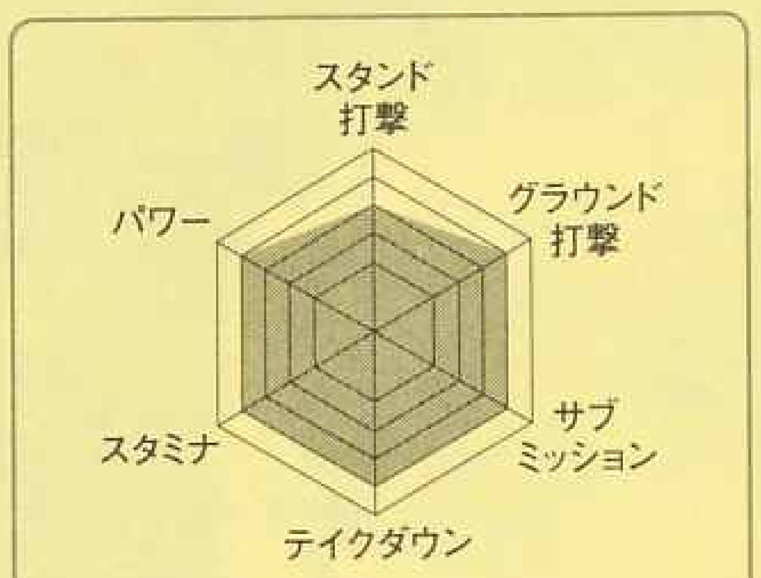
もう一人の優勝候補 狙うは全試合一本勝ち

今大会、前田と並ぶもう一人の優勝候補である〝足関十段〟。今年2月、同じDEEPでの前田戦はドローに終わっており、今回は完全決着も期待されるところだ。得意技はいうまでもなく足関節技。グラウンドでの上から&下からはもちろん、回転しつつ相手の足元に潜り込んで、あるいは顔面踏み付けをキャッチしながら、などなどありとあらゆる体勢から極めにいく足関はもはや芸術の域。『武士道』でもヨアキム・ハンセンをタップ寸前まで追い込んだ。ハマればー発。オールー本での優勝もおおいにあり得る。

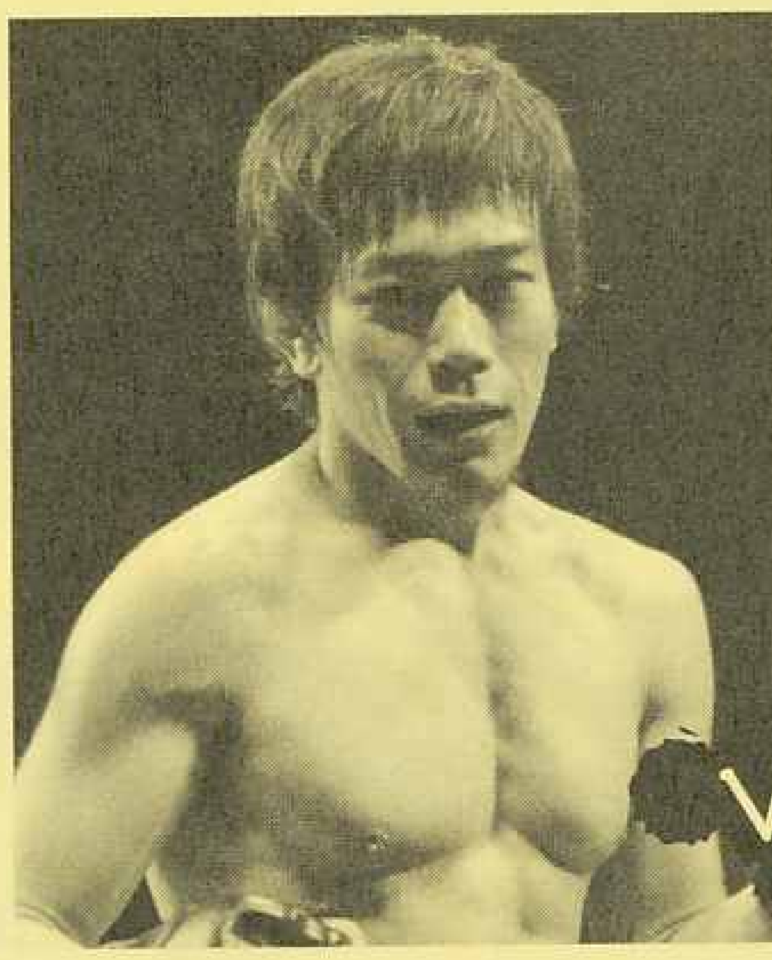


山崎 剛

JAPAN TAKESHI YAMAZAKI



生年月日	1977年5月25日
身長／体重	174cm、65kg
所属	GRABAKA
タイトル	なし



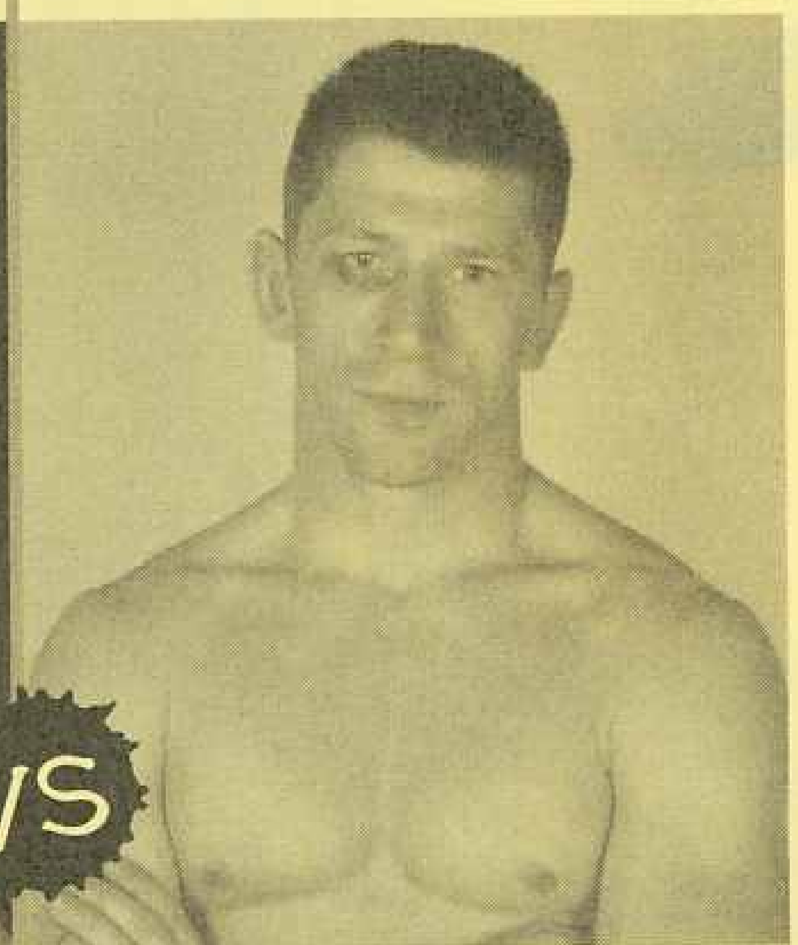
VS

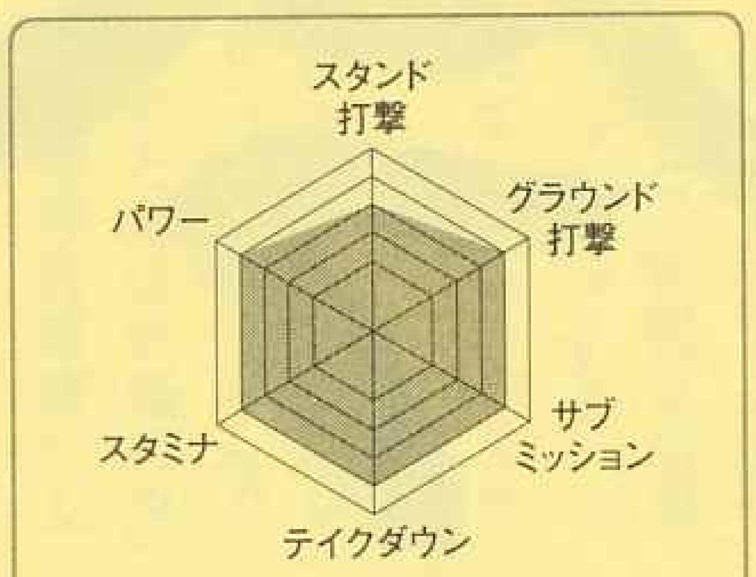
グラバカ軽量級代表 DEEPでついに開花か

グラップリングの安定度では、本トーナメントでも屈指の存在といえるGRABAKA軽量級の雄。柔術、修斗、DEEP、DOGなど様々な舞台で経験を積んだ寝技の実力がハイレベルなのはもちろん、〝極め〟が強いのも大きな魅力だ。9月のDEEPでも、4試合連続KO勝利中のBarbaro44にチョークで一本勝ちを収めている。いま現在の勢いでは、GRABAKAにおいてトップといっていいだろう。軽量級ゆえ、これまでは光が当たりづらかったが、このトーナメントをきっかけにブレイクする可能性は高い。

マイク・ブラウン

USA MIKE BROWN





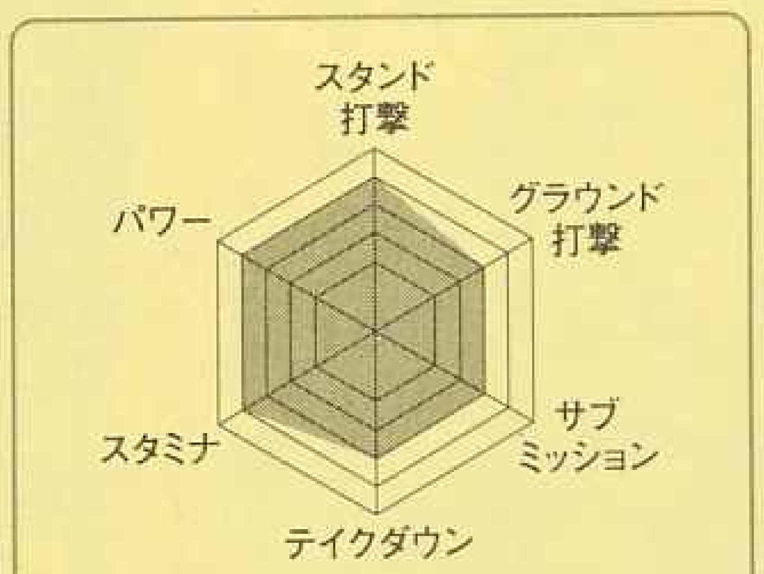
生年月日	------
身長／体重	170cm、65kg
所属	アメリカン・トップチーム
タイトル	なし

今大会のダークホース ATT入りで実力UPか

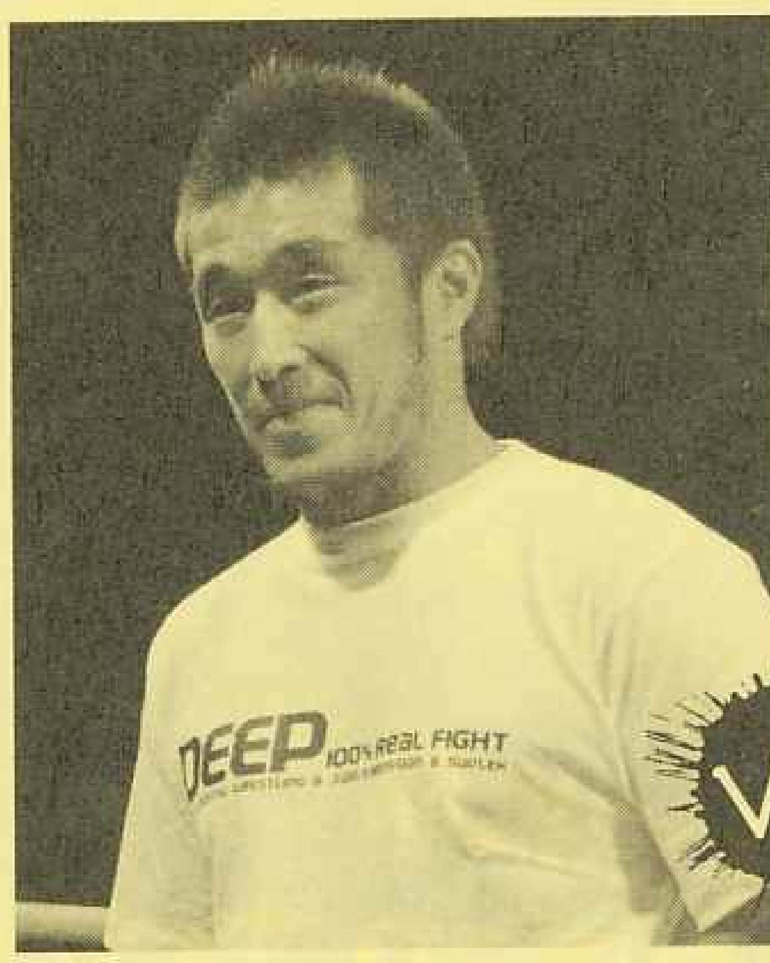
参加選手中、最もデータが少なく、それだけに不気味でもあるダークホース的な存在である。昨年4月のUFCでは須藤元気に一本負けしているのだが、途中まではほぼ互角の攻防を展開してみせた。今年5月にアメリカン・トップチームに移籍、6月のDOGでは中原太陽に一本勝ち（変形肩固め）して観客のド肝を抜いた。相手の打撃にまったく臆せずグイグイと圧力をかけていくスタイルはじつにパワフル。名門アカデミーでの研鑽でさらに成長していると見られる今回、果たしてどんな闘いを展開するのか……。

坪井淳浩

JAPAN ATSUHIRO TSUBOI



生年月日	1972年12月20日
身長／体重	167cm、65kg
所属	グラップリング・シュートボクサー
タイトル	なし



VS

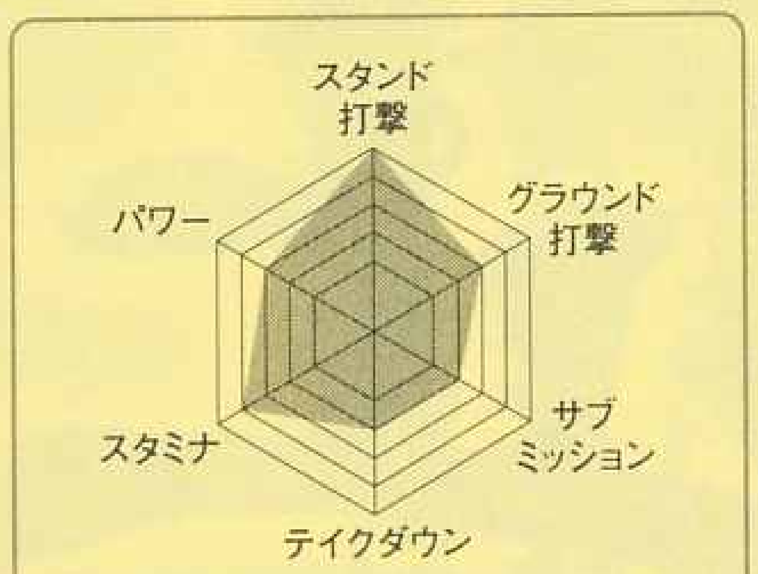
元SBランキング1位 総合でもトップを狙う

現在はZST、デモリッションン、DEEPなど総合で活躍しているが、もともとは立ち技格闘技シュートボクシングの日本ランキング1位で、タイトルマッチの経験もあるバリバリのストライカーである。総合参戦当初はグラウンドへの対処に苦しんでいたが、最近は課題を徐々に克服。総合でもその打撃テクニックを発揮するようになってきた。トーナメント一回戦ではムエタイ戦士ムアンファーレックと対戦。打撃対決が期待されるところだが、確実に勝利を狙うなら成長著しいグラウンドで勝負か？

ムアンファーレッグ・ギャトウィチアン

THAILAND MUANGFAHLEK KIATWICHIEN





生年月日	1971年10月13日
身長／体重	不明
所属	シュワタナジム
タイトル	元ラジャダムナン・スタジアム・フェザー級王者

ムエタイ&ボクシング王者が総合に殴り込み

総合格闘技は今回が初挑戦だが、こと打撃に関しては超がつく一流だ。なにしろムエタイの殿堂ラジャダムナン・スタジアムのタイトルを獲得（しかも層の厚いフェザー級）。国際式ボクシングでも国内タイトルを奪取し、今年5月には東洋太平洋タイトルに挑戦している。大げさでなく、これまで総合に挑戦したストライカーの中でも実績は最高クラス。さすがに寝技に難はあるだろうが、相手の動きを完全に見切った上で放つ蹴りは総合でも通用する可能性充分。〝軽量級のミルコ〟になれる逸材である。

text／橋本宗洋



今成正和

“足関十段”

本誌推薦

DEEPフェザー級GPは この男に注目せよ!

中・軽量級黄金時代
格闘ゴールドラッシュ 2005

人材豊富な中軽量級の中でもバツグンの存在感で異彩を放つ、“足関十段”今成正和に再びチャンスが訪れた！　今年、7月に行なわれた『PRIDE武士道 其の八』では、大物ヨアキム・ハンセンを得意の足関節技でタップ寸前に追い込みながらも、逆転KO負けを喫し、ZST時代の“弟分”所英男に続いてブレイクするチャンスを逃したが、今度はベストウエイトである65キロ以下でのフェザー級GP出場が決定。トーナメントに向けて、道場に泊まり込み体勢に入っている今成に、その意気込みを聞いた。

聞き手&撮影／堀江ガンツ　試合写真／乾晋也、平工幸雄



—今成さんに出ていただくのは、半年ぶりなんですけど、前回は所英男選手との対談だったんですよ。
今成　あ、そうっすね。いまやスターの（笑）。
—そうです。いまや"世界の所さん"となった人との対談だったんですけど（笑）、あのときは企画のタイトルが「中軽量級爆発前夜」だったんですよ。
今成　ひとりで爆発しちゃいましたね（笑）。
—対談やったころはまだ実感なかったと思いますけど、あれから半年経って、中軽量級への注目度がガラリと変わったわけですけど、どう感じてますか？
今成　そうっすね。いい感じにはなってますよね。でも、どうっすかね。世間的にはあっちのほうが注目されてますからね。
—「あっち」と言うと？
今成　所さん周辺のほうが（笑）。やっぱりテレビって凄いなと思いますよね。作り方が凄いうまいなって。「そこまで貧乏じゃねーだろっ！」っていうか（笑）。
—ダハハハハ！　やっぱり、ああいうの見ると「いいな〜」とか思います？

テレビの力って凄いですよね。所さんとご飯行ったら頼んでないものが来ましたから（笑）

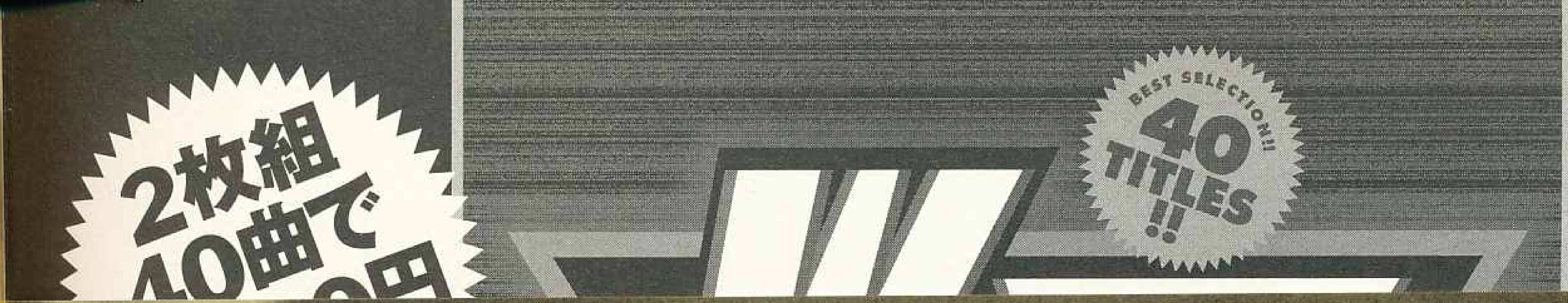
今成　まぁ、思いますね（笑）。
—所選手は女性人気も急上昇ですからね。会場でも「所く〜ん♥」って感じの黄色い声援が飛んだりして（笑）。
今成　もう30近くにもなって、所「くん」っていう歳じゃねぇだろって（笑）。俺と一コしか違わないんだから。でも、テレビの力は凄いっすよ、確かに。この前、所さんとかとご飯食べに行ったら、注文してないものがぞくぞく来たりして（笑）。
—「これ店長からです」みたいな

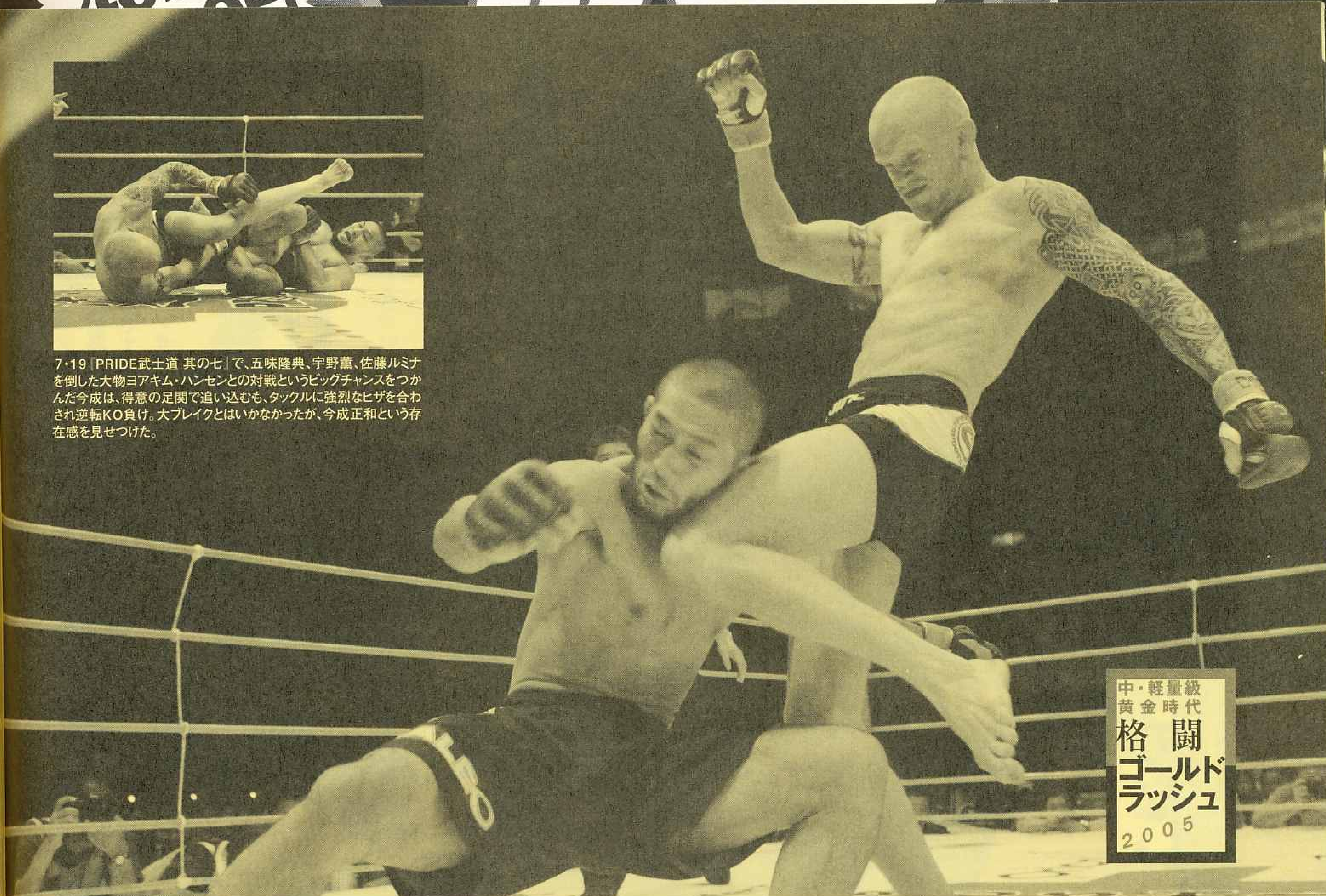


今年4月に発売された本誌NO.86では、軽量級推薦選手として今成と所英男を大プッシュ。それに応えるかのように、この3カ月後に所は『HERO'S』で大ブレイクしたのはご存知のとおり。次は今成の番だ！

やっぱり「こいつ（所）に練習で一本取られるわけにいかねぇな」とか思ったりはしますよ

のが（笑）。
今成　「ああ、こういうことか」って思いましたね。
—その所さんがブレイクしたのは、軽量級世界最強と呼び声高かったペケーニョ（アレッシャンドリ・フランカ・ノゲイラ）をKOしたのがきっかけですけど、ウチでやった半年前の対談では、所さんは「もし今成さんとペケーニョが試合したら、メチャクチャ見たいです！」とか言ってたんですよね（笑）。
今成　ハハハハハ！　……まぁ、ひどい男ですよ（笑）。
—ずいぶん前の話になりますけど、今成さんは所 vs ペケーニョ戦はどう見ました？
今成　凄いっすよね。なんか降りて来たんですかね。
—格闘技の神が所さんに降りて来た（笑）。戦前はどう予想してましたか？
今成　まぁ試合前は、普通に負けんじゃねーかなと思ってましたけどね（笑）。
—やっぱり（笑）。
今成　でも、あの男は注目されてるところでは力を出すんだなと。練習とかちっちゃい試合とかじゃ、本気出さないのかなと。本気出すところをわかってますよね。
—相変わらず練習は一緒にやってるんですか？
今成　たまにですけどね。
—練習では昔のまんまですか？
今成　いや、でも強いですよ。最近は。やっぱ注目されてるからでしょうけど（笑）。
—最近は練習でも「注目パワー」が出てる（笑）。実際、身近にいた人間が急にブレイクするっていうのは、どんな気持ちですか？
今成　やっぱり、嬉しい気持ちもあるけど、悔しいっていうか、「こいつに練習で（一本）取られるわけにはいかねぇな」とか思ったりはしますよ。
—ああ、知名度では先を越されたかもしれないけど、実力では負けるわけにいかないっていう意地みたいなものが。
今成　だから、いい刺激にはなってると思いますよ。
—実際、所選手がペケーニョを破った2週間後に、今成選手も『PRIDE武士道』でヨアキム・ハンセン戦があったわけですけど。
今成　散りましたけどね（苦笑）。頑張ったんですけどね。足関いったとき、足の組み方間違っちゃったん





7・19『PRIDE武士道 其の七』で、五味隆典、宇野薫、佐藤ルミナを倒した大物ヨアキム・ハンセンとの対戦というビッグチャンスをつかんだ今成は、得意の足関で追い込むも、タックルに強烈なヒザを合わされ逆転KO負け。大ブレイクとはいかなかったが、今成正和という存在感を見せつけた。

ですよね。ひねれない組み方だったんですよ。まあ、焦っちゃったんでしょうね。

――所選手なんかは『HERO'S』に上がってみて、「修斗王者クラスでもZSTのトップグループと実力的にそんなに差はない」って感じたらしいですけど、今成さんはどうでしたか？

今成 まぁ、勝てばなんとでも言えますからね（笑）。ペケーニョ破った人が言うんだからそうなんでしょうけど、ボクは負けちゃったんで。

――でも、今成さんも敗れながらも、手応えみたいなものはあったんじゃないですか？

今成 う〜ん、もっと普通に自分のやりたいようにやったほうが、よかったんじゃないかなとは思いましたね。

――自分の力を出してたら、一本取れるんだと。

今成 そういう気もしましたけどね。でも、取ってないんで。最後もヒザ蹴りで記憶飛んじゃって、その後のハンセンの煽りVTRみたいなので、あのヒザ蹴りがパコーンパコーンパコーンって繰り返し流されてたんで、ちょっと恥ずかしいですよね（苦笑）。

――『PRIDE武士道』が続く限り、あのKOシーンは使われそうですけどね（笑）。

今成 テレビ的にはいいシーンですからね（笑）。

――このあいだ、DEEPのフェザー級トーナメント出場発表のとき、「これに勝って、また『武士道』に出たい」って言ってましたけど、やはりあの「パコーン」の悔しさを晴らしたいと。

今成 そうっすね。でも、悔しさを晴らしたいというより、ああいう強いのに勝ちたいんですよ。でも強いのとやると必ず負けるんすよね。それをなんとかしないと。だからべつにハンセンにこだわってないですから。あそこに出てる選手で弱いのいないんで。強いヤツと闘って勝ちたい。

――このあいだの『武士道GP』はご覧になりましたか？

今成 途中まで見ましたね。

――なんで途中までなんですか？

今成 家でPPV見てたんですけど、ちょうどジムの指導がある日だったんで、五味vs川尻戦まで見て、あとはビデオセットして家を出たんですよ。でも、帰って来たら小谷vsアゼレードのあと休憩時間が長かったんで、親が「もう終わったんだ」と思って、勝手に録画止めちゃったらしくて録れてなかったんです（笑）。

――家に帰ってみたら、小谷vsアゼレードしか録れてなかった（笑）。

今成 しかも早かったですからね。小谷君はもったいなかったですね。

――う〜ん、実力はある選手なんですけど、打撃はああいうことがあるから怖いですよね。

今成 そうですよね。

――今成選手もあの大会にはやはり出たかったですか？

今成 そうですね。自分がそれなりに強かったら出たかったですけど、





ハンセンにリベンジしたいというより ああいう強いヤツに勝ちたいんですよ

足関十段

今成正和

もうちょい強くならないと。

——いままでは身体の大きさが違ったというのもあると思うんですけど。やっぱり73キロ以下というのはキツくないですか？

今成　いや、それは思わないですね。それぐらいの相手のほうが挑戦するっぽい感じがして、燃えますから。

——とりあえず次は65キロ以下のDEEPフェザー級王座決定トーナメントですけど。

今成　そうですね。それなりに勝てるんじゃないかとは思ってますけど。

——ほう！　このメンバーなら勝てる、と。

今成　大丈夫じゃないですか。たぶん。

——一回戦のファビオ・メロというのは希望通りなんですか？

今成　そうっすね。日本人とはやりたくないんで、強い外人とやりたいって言ってたんで。男も女もやるならブラジル人って感じで（笑）。

——「やる」意味が違いますよ！（笑）。日本人とやりたくないというのはどうしてなんですか？

今成　やっぱり知り合いが多いじゃないですか。狭い世界なんで。

——同じバルボーザのTAISHOさんとかもいますしね。

今成　やりたくないですね。

——でも、前田吉朗選手との決勝なんかは、興行的には一番望まれてると思いますけど。

今成　まぁ、それでもいいっすけどね（どうでもよさそうに）。それなら気にならないですね。

——前田選手とは前回ドローになりましたけど、トーナメントで決着をつけたいとかそういう気持ちはないですか？

今成　やるんなら極めたいですけどね。べつに違う相手でもいいし。

——相手は誰にしても狙うは全試合一本勝ちで優勝ですか。

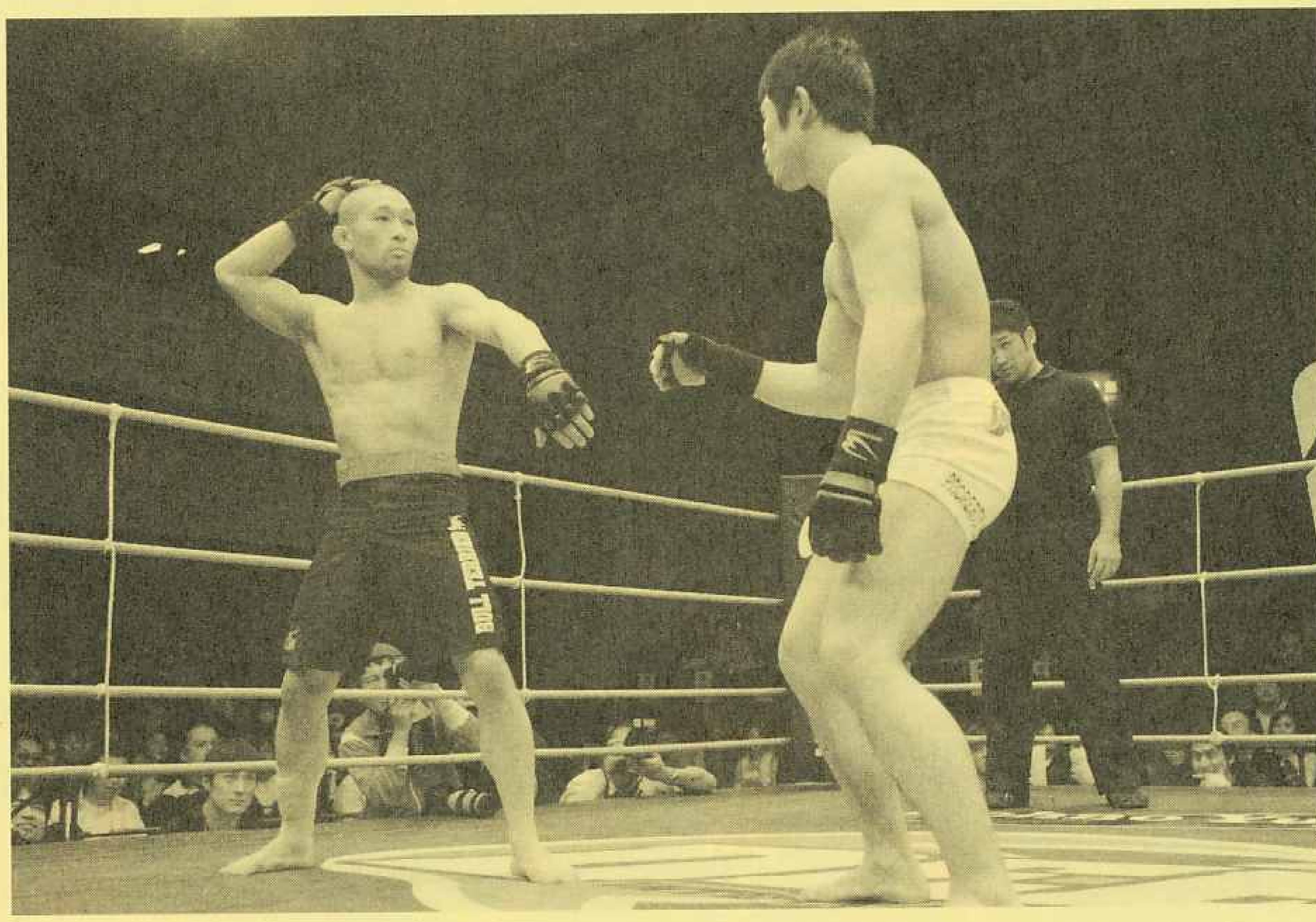
今成　そうっすね。とりあえず10月は1試合だけなんで。大丈夫じゃないですかね。

——おぉ～、たのもしいですね。もう10・28に向けて合宿に入るって聞きましたけど。

今成　もう合宿に入ってますよ。ここ（道場）で寝泊まりしますから。

——えっ!?　道場に泊まり込みですか？

今成　そうです。そのへんで寝袋に入って寝てますよ。だから合宿っていっても、ひとりで道場に泊まってるだけなんですけど（笑）。前回のハンセン戦の前から、試合前になるとなんとなく泊まり込みで追い込んでます。



2・12『DEEP 18th IMPACT』で前田吉朗と対戦した今成は、判定ドローで前田の連勝記録をストップさせることには成功したが、タップを奪うまでには至らず。はたして、このトーナメントで今成×前田の完全決着はあるのか？

——それは移動の時間も惜しいということですか？

今成　惜しいというか、めんどくさい（笑）。

——めんどくさい（笑）。ウチに帰ると集中力が途切れるとかもあるんですか？

今成　そうですね。ウチにいるとずっとインターネットやってたりするんで、寝れないときもあるんで。その点、道場だったら寝るしかないですからね。

——修行僧みたいな感じですか？

今成　そんないいもんじゃないですけどね。なるべく格闘技だけの環境にして。

——いまの1日のトレーニングはどんな感じなんですか？

今成　朝起きて、まずおもりを入れたザック背負って散歩して、午前中練習して、終わって風呂入って、昼寝して、夜また練習するって感じですかね。

——じゃあ、寝てるか練習してるかって感じですか。

今成　そうっすね。

——でも、高田馬場という土地柄誘惑があったりしないんですか？

今成　誘惑は……負けそうになったら負けることにしてますから（笑）。3日ぐらいはガマンできるし。

——何をガマンするんですか（笑）。

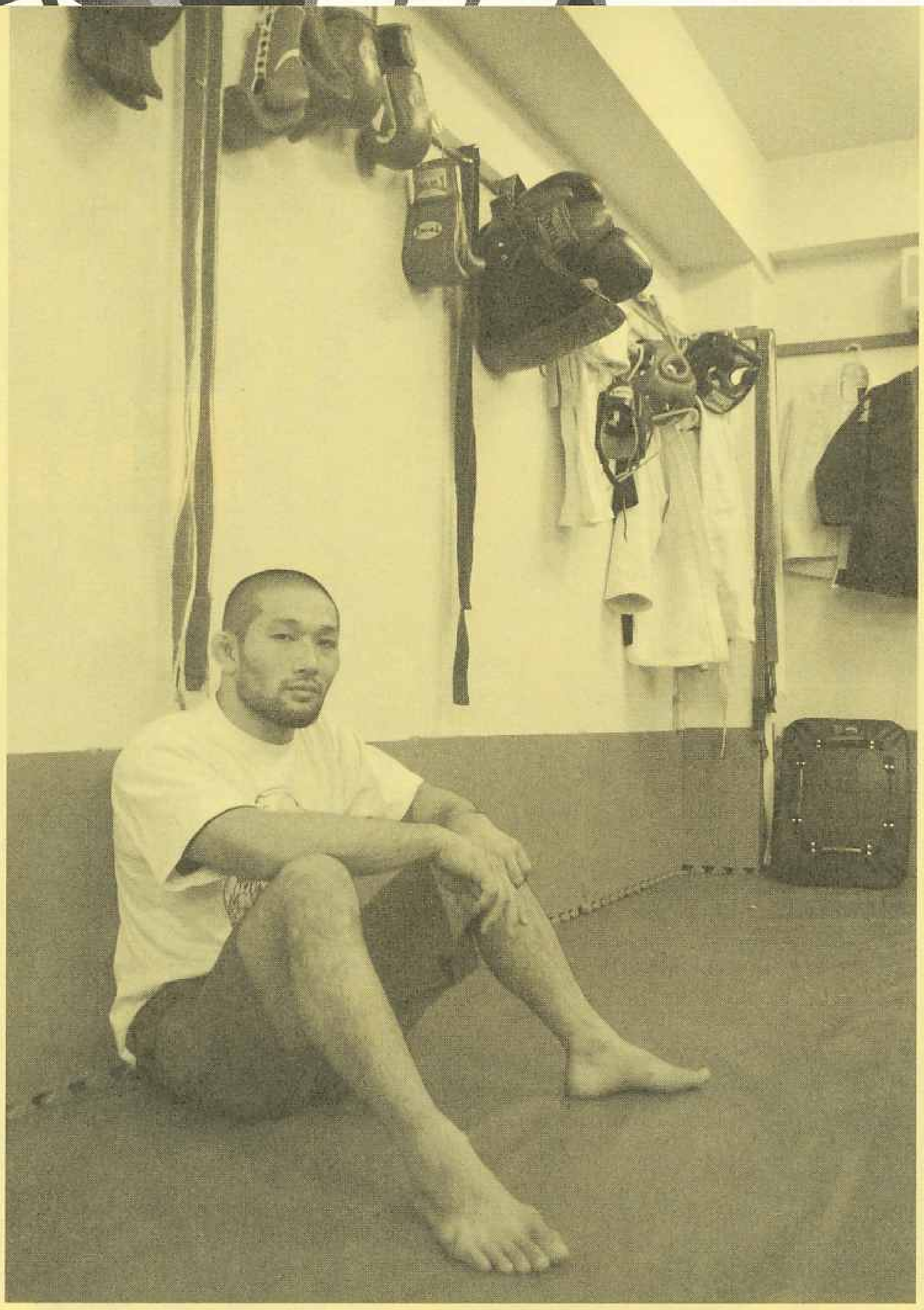
今成　そのへんの節制はする必要ないと思ってますから。

――試合直前でも大丈夫なくらいですか？

今成　直前はダメですね。2～3日前だったら（笑）。

――じゃあ、いずれにしても10・28の一回戦まで1カ月近く、道場に泊まり込みで自分を追い込んでいくわけですね。

道場に寝泊まりして、しっかり追い込んでるんで全試合一本勝ちいけるんじゃないですか。たぶん



足関十段

今成正和

いまなり・まさかず
1976年02月10日、神奈川県出身。"足関十段"の異名を持つ、異能派ファイター。初期UFO、キングダム・エルガイツと格闘技界の裏街道を歩みながら技を磨き、ZSTでその才能を開花。現在はDEEPを主戦場に、再び『PRIDE武士道』出場を狙う。165cm、65kg。

今成　そうっすね。まぁ、そんだけやりゃあ、なんとかなるかなと思ってるんで。

――ちなみに今日、記者会見やってるんですけど、世界の所さんは今度、K―1 MAXのリングに上がるらしいですよ。

今成　そうらしいっすね。（小声で）あ～、また所さん輝いちゃうな～。またおいしいの当ててもらって（笑）。いいとこで輝きますよねぇ。

――でも、「いいな～」とは思いながらも、今成さん的には自分が出るなら、そういう相手じゃないほうがいいんじゃないですか？

今成　それはそうですけどね。強いヤツとやったほうがいいです。でも（所は）強いヤツとやってますからね。そのボーナスってことでいいんじゃないですか。

――なるほど。でも、所選手はこのままいくと、大晦日出場の可能性も高いですよね。

今成　出そうっすよね。なんか曙とかとやるんじゃないですか？

――ヘタしたら（笑）。

今成　ありえますもんね。そうなったら、普通のオバちゃんとかも（所さんのこと）知ってる感じになるんですからね。凄いっすよね。

――今成さんは有名になりたいとかそういう気持ちはあるんですか？

今成　なりたいっていうか、強くて有名なヤツを倒したいですね。ホントそれだけっすね。……まぁ、でも所さん見てると……俺もチヤホヤはされたいですけど（笑）。

――ダハハハ！　やっぱりチヤホヤされたい（笑）。じゃあ、頑張ってチヤホヤされるようになることを願ってます！

今成　頼んでないものが勝手に来るように（笑）。

【05年9月29日／高田馬場・『バルボーザ・ジャパン東京』にて収録】

DEEP21th IMPACT
東京：後楽園ホール
2005年10月28日（金）試合開始18:30

［トーナメント以外の対戦カード］
滑川康仁vsムン・ジョン・ヒョク
佐藤隆平vs 村田龍一
長岡弘樹vs ミルトン・ヴィエイラ
大場貴弘 vs クリスチアーノ上西
藤沼弘秀 vs 高橋渉
宮本優太朗vs関直喜
白井祐矢 vs 大堀竜二

［チケット料金］
VIP（最前列）¥15,000　SRS ¥10,000
指定A ¥8,000　指定B ¥6,000 指定C¥5,000
※当日は¥500UP

［問い合わせ］DEEP事務局 052-339-0303



船木誠勝×所英男

“世界の所”さんに渦中の船木が“プロ魂”を伝授!!

新師弟タッグ結成……!?

『HERO'S』でのノゲイラ戦、そして敗れはしたものの名勝負を繰り広げた宇野戦で、またしても名前を上げた所英男。この号の発売時には、すでに結果は出ているが、その人気を買われてか10・12K—1MAXではスーパーファイトに出場。このシンデレラボーイに、先頃、マット界復帰を明言し話題となっている船木誠勝がプロ魂を伝授した!

聞き手／堀江ガンツ　構成／松澤チョロ　試合写真／乾晋也

―今日は船木さんと、"世界の所さん"のビッグ対談ということで、よろしくお願いします！

船木　お願いします。

所　いや、ボクは全然ビッグじゃないんですけど……（笑）。

―早速ですが、お二人は、もちろんお話しされるのは初めてじゃないですよね。

船木　前田さん家で1回会ってますね。あのときは突然呼ばれたんだよね。

所　は、はい。突然電話で呼ばれて。

船木　何してたの、あのとき。

所　あのときはちょうどで、ターザン山本！さんと吉田豪さんのトークイベントに呼んでいただいて。

―イベント終了後に呼び出しを食らったと？（笑）。

所　突然、前田さんから電話があってビックリしましたね。

―船木さんは、もともと所選手っていうのはどういうイメージがありました？　解説者としてリングサイドで見てますよね。

船木　最初に見たのは『HERO'S』のときですよね。いい選手だなと思って。嫌な癖がなくて、いろんなことをやらせたら、すごく面白いんじゃないかなって。なんか未来が見える。

―いろいろ吸収できそうというか。染まってない感じがしますね。

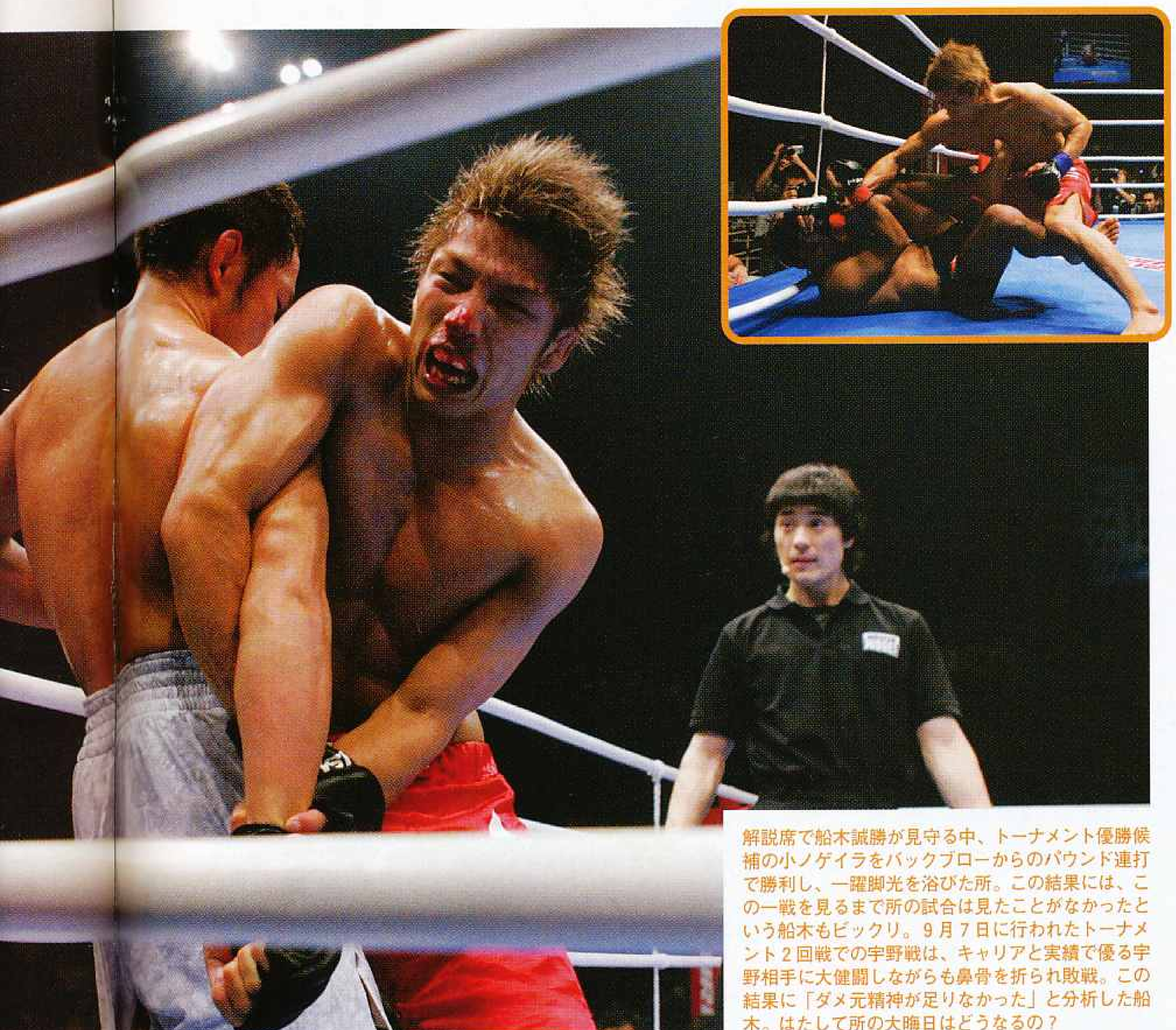
船木　そうですね。ほぼ自己流？

所　そうですねぇ……3～4年前にジムがなくなってからは出稽古ばっかりだったんで。

船木　それであそこまでできればたいしたもんだと思いますよ。研究心があるんだろうね、あとセンスと。

―もともと所英男っていう名前はご存知でした？

船木　それも知らなかったです。一番最初の『HERO'S』で（アレッシャンドリ・フランカ・）ノゲイラに勝ってビックリしたんですよ。ノゲイラ選手が凄く強いのは知ってましたから、1ラウンドで終わっちゃうのかなっていうような感じを見せておきながら、結構ズルズルと引き延ばして。まあ、食らいついて引き延びたんですけど。で、最後の最後で、これはもう時間切れだなと思った瞬間に、初っ端でバックブローみたいな技をだしてKOできるのって、やっぱりプロ向きだと思うんですよ。誰でもできるようなことじゃないと思うんで。お客さんの期待を裏切らない試合ができる選手だな、と。



解説席で船木誠勝が見守る中、トーナメント優勝候補の小ノゲイラをバックブローからのパウンド連打で勝利し、一躍脚光を浴びた所。この結果には、この一戦を見るまで所の試合は見たことがなかったという船木もビックリ。9月7日に行われたトーナメント2回戦での宇野戦は、キャリアと実績で優る宇野相手に大健闘しながらも鼻骨を折られ敗戦。この結果に「ダメ元精神が足りなかった」と分析した船木。はたして所の大晦日はどうなるの？

―いま、技術がある選手ってたくさんいると思うんですけど、なかなかそういうプロ向きというか、魅せられる人っていないですもんね。

船木　そうですね。でも比較的『HERO'S』っていうのはそういう選手が多いと思うんで。だからダメ元でもいいんで、とにかく常に一発狙うっていう姿勢は、今後もっと名前が上がっていっても忘れないで欲しいですね。

所　試合自体がダメ元なんで（苦笑）。

船木　ああいう名前のある選手っていうのは、逆にそういう選手とやるのは一番嫌なもんですから。何も失うものがなく突っ込んで来るのが一番嫌ですね。

―船木さんも現役時代は、そういう相手は嫌でした？

船木　嫌でしたね。名前がなくてもいきなり呼んでくる人とやらなきゃいけないっていうのは。資料もないし。でも、とにかく殴って蹴って関節を仕掛けてくる選手だっていうふうに思えば、どんなもんでも対処できると思うんで。

―9月にやった宇野選手と所選手の試合はどうでした？

船木　宇野選手っていうのは相手よりも先に動いてくるタイプなんで、逆にそれよりも先に動かないと仕留められてしまうっていうことを（試合前、所に）言ってあげたんですよ。でもまあ、向こうのほうがちょっと上行ってましたね。新しい宇野スタイルを出してましたね。そういう意味ではちょっと面食らいました。

―ボクなんか見てたら、そんなに差はないんじゃないかって思いましたけど。

船木　いや、でも先手取られてたんで。そういう意味では……その先手を取らなきゃいけないんで。ホントにもっとダメ元で行った方がよかったんじゃないかって。

―宇野戦はダメ元精神が足りなかったと。

船木　だと思いますね。

―ところで船木さん、ZSTってイベントはご存知でした？

船木　知らなかったんですよ。それでレミギウス（・モリカビチュス）とかもそこから出てきたっていうのを聞いて、そういうのがあったんだって思って。どういうスタンスでやってたんですか？　リングスの流れですか？

―そうですね、リングスの元社員の方が運営面で携わっていて。

船木　どこで興行やってるんですか？

―Zepp Tokyoとかですね。1000人弱ぐらいのキャパで。

船木　月1ぐらいで？

所　いや、今年は3ヶ月に1回です。

船木　いいですよね。そこでいい結果を出せば『HERO'S』に上がれるとか『PR

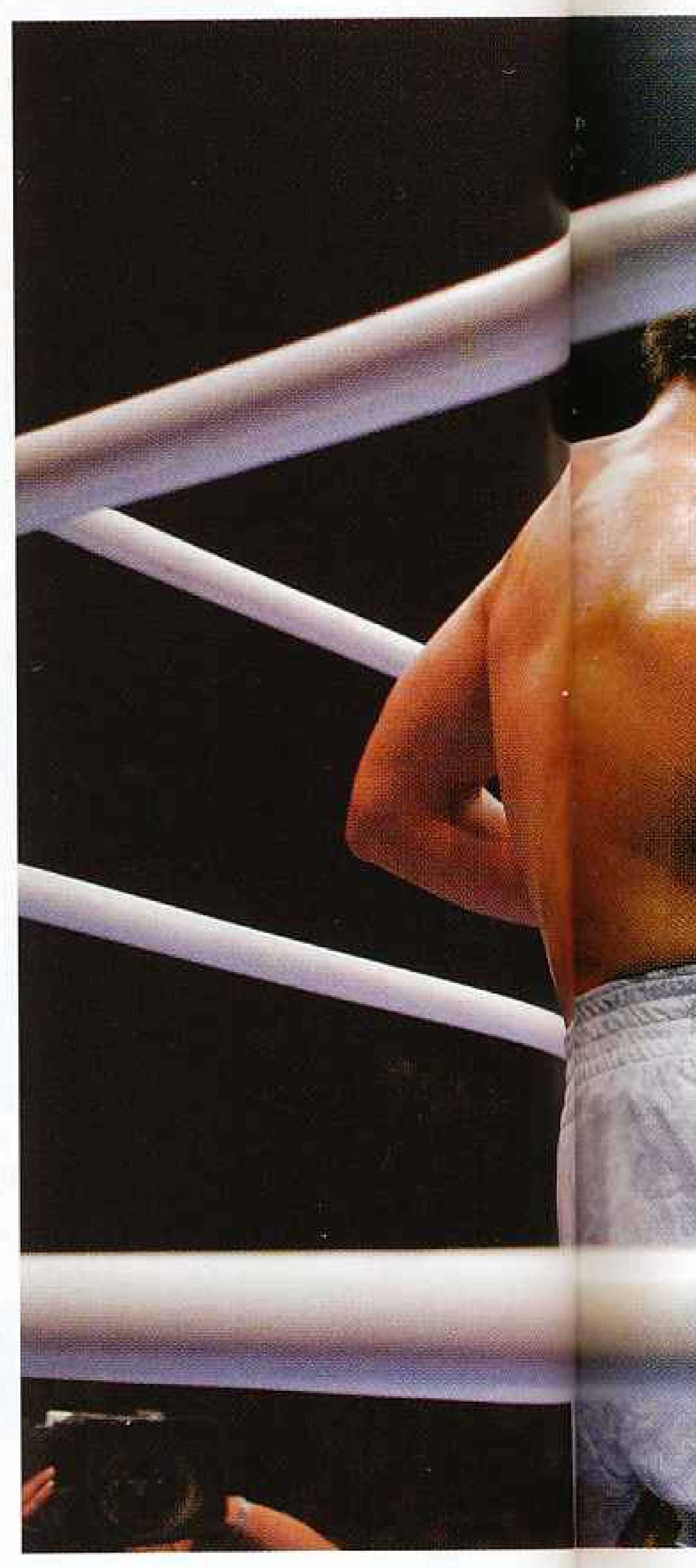
船木誠勝 × 所英男



宇野戦は、もっとダメ元で行った方がよかったと思いますね



でもボクは基本的に試合自体がダメ元なんで（苦笑）



IDE』に上がれるっていうようなそういう場所があるっていうのは。誰にでもチャンスが転がってるってことですからね。

――でも所さん、そういうチャンスがあると思ってました？

所　いや、まさか軽い階級の大きな舞台ができるなんて思ってもいなかったので。

――でもZSTで培ったものが『HERO'S』爆発したってことですよね。

船木　そうですよね。ただ誰にでもその運っていうのはあるわけではないんで。そこで頑張っていて、その先に『HERO'S』っていう大きな舞台があったっていうことは、ちょうどタイミングが合いつつ、ものにする実力があったんでしょうね。

――ZSTって面白くてですね、もちろん真剣勝負なんですけども、結果以上にいい試合をやれっていうような、主催者側の意向があって。だからブレイクは早いし、つまらない試合をする選手はいらないというような厳しさがあるんですよ。

船木　それはいいですね。飽きさせないっていうのが一番いいと思います。

所　やっぱりクロスガードもなしでしがみつくのもなしなので。で、判定もないっていうので一本勝ちしないと勝ちにならないっていうところでやり続けてきました。

船木　ということは、取らなければ引き分けですね。でも格闘技だったらそれがホントだと思うんですよ。俺も昔、パンクラチオンルールって、15分やって、どっちともギブアップもKOもなければ引き分けっていうのをやってましたけど、そういう一本勝ち以外は勝利にならないっていう方がいいと思いますけどね。

――ある意味それが格闘技であると。

船木　それは思いますね。スポーツという目で見なければ、試合終了して2人とも立ってれば、どっちが勝者でもないし、どっちも敗者でもないと思うんですよ。決まるときっていうのは、ギブアップかノックアウトで失神しますからね。我を失っちゃうわけですから。それがホントの負けじゃないかなって思うんですけど。

――所選手は勝っても負けても一本でしたよね（笑）。

所　やっぱり判定がなかったのがよかったみたいです。

――レミギウスと所選手の試合っていうのもあったんですけど、それこそ小さい船木vsバス・ルッテンみたいな感じで壮絶だったんですよ。

船木　へえ～。でもレミギウス選手もいいですね。最初は、あまり寝技知らないなっていうふうに見えたんですけど、それでも闘おうとする気持ちが見えるんで。やっぱりそういうとこだと思うんですよね。やっぱり気持ちが一番だと思うんで。あの変に技術がどうのこうのじゃなくて、やっぱり気持ちが一番だと思うんで。あの選手も好きですね。でも、2人は、お互い1回戦で負けてますから、スーパーファイトでどっかで当たる可能性はあるん

じゃないですか？　その勝者が今度、元気選手とKID選手の勝者と宇野選手がやると思うんで、その勝者とですよ。だから所選手は2度目の防衛戦の相手。

――あ、もうそういう流れができていますか（笑）。

船木　そうなるんじゃないですかね、なんとなくですけど。

――凄いですね、所選手。タイトルマッチの第2コンテンダーぐらいに来てるみたいですよ。

所　凄い次元の話ですねぇ……ハァ〜ッ（なぜかタメ息）。

船木　でもこないだ会場で試合見てて、KID、宇野、元気、所ってこの4人は声援凄いんですよ。

――ああ、他の選手とはまったく違いましたよね。

船木　だからそういう意味でその4大看板だと思うんですね、『HERO'S』も。結構女のファンが多いし、凄くやり甲斐を持ってもいいと思うんですけどね。応援してもらってるっていうのは凄いありがたいことですから。見る人、いつもお客さんの上を行くような驚く試合をして欲しいと思いますね。

――大変ですよ、所さん（笑）。

所　……見る人が慣れてくると、またこんな試合かみたいに思われちゃうんで、お客さんの目を超える試合っていうのはなかなか大変だと思うんですよ。でもそれができたらいいですよね。

船木　キャラクターとしてひとつ確立すれば、なにやっても受けるんですから。

――所選手は格闘技始めて何年でしたっけ？

所　21歳ぐらいからやってるんで、7年近くやってます。

――もともとリングスファンだったんですよね。

所　そうです。リングスのチケットを山本喧一さんの道場に買いに行ったのがキッカケで格闘技を始めたんです。

船木　へぇ〜、そうなんだ。

――じゃあ、格闘技を始めたのは船木選手が現役最後の頃になるんですね。

船木　そうですね。俺、2001年で引退してますから、引退の2年前ですね、ちょうどパンクラチオンルールをやってた頃。

所　過激なことやってるな、凄いなっていう目で見てました。雑誌でしか見たことなかったんで、あれなんですけど。

船木誠勝 × 所英男



リトアニアの選手は関節技での負けとか絶対嫌がりますね

船木　パンクラチオンルールが一番やりやすかったですから。正直、やるかやられるかで、噛みつき、目潰し、金的以外は全部OKだったんですよ。で、15分やって決着つかなかったらドローっていう、一番シンプルだったんで。ただ相手を極めるかノックアウトかすればいいんだっていう、それだけ考えて試合してればよかったですから。そういう意味では一番やりやすいし楽しかったですね。規制がない方が逆にやりやすいですから。

――所選手は、まだバーリ・トゥードは、やり始めたばっかりですよね。

所　まだ3試合……4試合ですからね。

――ZSTはグラウンドでの顔面パンチはなしですもんね。所選手もそろそろレミギウスあたりと、パンクラチオンルールでいかがですか？（笑）。

所　そ、それは……リング上がる前に逃げます（笑）。

――肘、ヒザ、頭突きありだったら絶対受けるでしょうね、レミギウスは（笑）。

所　喜んでやるでしょうね（笑）。

――船木さんは、いまのプロ格闘技もそういう試合があっていいと思います？

船木　いいんじゃないですかね、たまには。意外と怪我しないんですよ、ホントに。大怪我ないですから。

――前田さんなんかはどんどんルールを規制した方がいいって考えですけど。

船木　スポーツにするんであれば、そっちの方がいいと思いますよ。ただ格闘技という目で見れば、できるだけルールがない方がいいですよね。スポーツと格闘技って根本的に違うと思うんで。さっきも言ったように判定もないし、お客さんに見せ場とか作る必要もないし。ただそれだけ危険な、規制がないっていうのが売りなんで、そういう中でどれだけ頑張ってる選手がいるかっていうだけですから。

――じゃあ船木さんはスポーツとして始めたパンクラスを突き詰める気持ちが格闘技になったっていう。

船木　そうですね、やっぱり格闘技を突き詰めると、観客はいらないということになりますね。あとはどっちかが死ぬのが一番ベストですよね。

――し、死ぬのがベストですか！（笑）。

船木　それが格闘技ですよ。

――所選手、生半可な気持ちじゃ格闘技できませんよ！

所　は、はい（笑）。

船木　だからスポーツ格闘技なのか、ホントに格闘技か……そういう気持ちで闘ってくる選手いますから。そういう意味ではスポーツ格闘技の中にも「格闘技」という部分だけで、死ぬか生きるかの気持ちで入ってくるヤツはいますから。そういうときはホントに心してかからないと。いくらルールがあれど、気持ちの差がありすぎると危険な状態になるので。たまにそういうヤツもいるっていう部分で。

――リトアニアの選手って結構そういうの多いんじゃないですか？

所　ああ、そうッスね。リトアニア人とかはちょっと危ないです。

船木　生活かかってるからっていうの、あ

るんじゃないですかね。

——絶対負けを認めないですからね（笑）。

所　関節の負けとかって絶対嫌がりますね。「タップしてない」とか。

船木　じゃあ、脱臼させるしかないですね（キッパリ）。

——そんなあっさりと（笑）。船木さんは格闘技モードになると完全にそっち側ですね。

船木　だってギブアップしないんなら脱臼しかないでしょ。でも俺、いままで1回も壊したことないですよ。みんなちゃんとギブアップしてくれて。誰もいなかったですね、ギブアップしてくれない人は。

所　僕はちょっとまだ甘かったです（笑）。

——船木さんは引退してから5年ぐらい経ちますけど、1回燃え尽きたと思ったのが、いまもう1回燃えてきたって言ってましたよね？

船木　そうですね。見てて、やっぱり楽しいんで。もう1回その波が来てるなって自分で思いますね。特にこの中軽量級が凄いブームだし。正直、ヘビー級は、やっぱり外国人勢に押されてますから、あんまり長続きしないと思います。でも60～70キロっていうあの体重のクラスは、日本人でも外国人に勝てるギリギリのクラスなんで。そういう意味では『HERO'S』はそういう日本人選手が切れない限りは続くような気がします。

——船木選手はビッグマウス・ラウドで柴田選手とかを鍛えていきたいって言われてましたけど、中軽量級の格闘家とかも鍛えていきたいっていうのは？

船木　そうですね、一緒に練習をする分にはいいと思うんですけども、たとえば70キロの人と90キロの人、これが練習すると凄く大変なことなんですね。70キロにしてみれば力の差がありますから。あと重いし。で、90キロの人からしてみると、速いんですよ、相手が。押さえても逃げ、押さえても逃げで。だからお互いいい練習になると思うんですよ。そういう練習のメリットはありますから。もし道場ができたら一緒に。

——いいですね！　所選手、これは素晴らしい講師ですよ。もちろん前田さんも一緒に。

船木　前田さんがやると40キロ差とかになっちゃうじゃないですか。いや、50キロ差ぐらいですか？

——所英男vs前田日明のスパーリングは見たいですね（笑）。



じゃあ、脱臼させるしかないですね（キッパリ）

所　……し、死んでしまう。でも前田さん、5年間、身体動かしてないのに身体柔らかいし、凄いなって思いましたね。

船木　前田さんは身体柔らかいからね。

所　いやぁ、ビックリしました、ホントに。全然自分の方が固いんで。

——でも、ホントにいい環境じゃないですか、これから。前田さんがいて、船木さんまで協力してもらえるなら。

所　ホント、一昔前なら考えられないですよね。見てた側からこうやって対談させてもらったり、前田さんに教えていただいたり。何があるかわかんないですね。

——最初の師匠がヤマケンさんですし、ホント、UWFづいてるというか、縁があるんでしょうね。

所　パワー・オブ・ドリームに入ってホントによかったです！

——じゃあ、これからは機会があれば船木さんや前田さんに基礎練習からみっちり教えてもらいましょうか？（笑）。

所　そ、それはちょっと……。

——前田さんといえば1000本タックルですもんね。

船木　ええ。

所　……凄いですよね、1000本。やっぱりそういう練習もされてきたんですか？

船木　1回はやった方がいいと思うんですよ。毎日はやるもんじゃないです。

——ダハハハハ！

所　1回でもやっとけば、（胸を指さして）こっちの方が鍛えられるんでしょうね。

船木　そうですね、そこを乗り越えたらホントにトップのメインイベンターになるんじゃないですかね。

——いま、所選手はどういう練習とかしたらいいと思いますか？

船木　まず基礎体はしっかりやって、あとは外人に負けないパワーを付けるためにウエイトをやって。それと、ひとつひとつの技を磨くことですね。パンチならパンチ、蹴りなら蹴り、寝技なら寝技。それが完成されたら。状況、状況で自分がスムーズに動けるように。これって時間かかるものですから。彼はいま、全部道具は持ってますから、その道具をひとつひとつ鋭くして、あとはいつどの道具を使ってもいいような精神状態で試合をすればトップになっちゃうんじゃないですかね。そのためには経験が必要だと思うし。強い選手とできるだけやった方がいいですね。

——環境的には強くなれる環境にどんどんなってますよ。

所　は……はい。

——たしか山本小鉄さんからも一度指導を受けているんですよね？

所　はい、一度だけですけど。

——なかなかいないですよね。前田、船木、小鉄の3人から指導を受けられる人って。

所　やっぱり、そこまでしてもらったらトップにならないと……いけないですよねぇ。

——なるしかないでしょうね（笑）。で、所選手は、この本が出る頃には終わってるんですけど、K-1MAXで試合がありますよね。

所　はい。前回の試合で出せなかったこ

とが多かったんで、逆に今回は前回出せなかったことを出そうっていう目標もあるし、気持ちも切れてないんで、なんとかなるっていうか、大丈夫だと思います。

—また船木さんは解説者をやられるんですか？

船木 いや、K−1MAXなんでないですね。テレビの前で応援しますよ。でも出ますかねえ、テレビ？

—テレビのために組まれたカードのような気もしますし、出るでしょうね（笑）。

船木 じゃあ勝たなきゃダメですね、できるだけ早く。

所 早く……はい。

船木 相手が来る前に入る。打ってこなかったらこっちから打ってけば、相手は必ず打たなきゃいけない状況になるから。

所 先手で早く……はい。

船木 早く終わらせて、ノーカットで放送してもらえるようにしないと。くれぐれもダイジェストにならないように（笑）。

所 は、はい。

船木 2分以内に終われば、たぶん放送されると思うから、1分ちょいぐらいで。次に闘う選手はなんていうんですか？

—ガブリエル・リムレイ選手です。

船木 有名な選手なんですか？

—いや、日本では、まだ1試合しかしてないですね。5年前に村浜武洋選手に負けてます。

船木 じゃあもう、すぐに勝たなきゃ意味ないですね。

—意味ない（笑）。

船木 何が得意な選手なんですか？

—オールラウンドですね。

船木 ということは全部中途半端ってことですね（笑）。

—ダハハハ！　またズバリと（笑）。

船木 いろんなところに穴があるってことですよ。だったら攻めて攻めて。そしたらボコッとハマるから。

所 2分以内ですか？

船木 そう、2分以内で。

所 ……は、はい。

—勝ったら大晦日も、ほぼ当確と言っていいでしょうしね。

船木 大晦日はどうなるんでしょう、相手は。KID vs 元気は決まってますよね。あと宇野選手は誰がいいかなぁ……あ、番長（高谷裕之）かな。

—番長と宇野さんは一緒に練習もしてるみたいなんで、難しいかもしれないですね。

船木 あ、そうですか。じゃあダメですね。番長とやれば？

所 ボ、ボクですか？

—夢の対決として佐藤ルミナ選手vs所選手っていうのも期待されていますけど。

船木 佐藤選手はいまはどこですか？

船木誠勝×所英男



9・11ビッグマウス・ラウドの旗揚げ戦が行われた後楽園大会。休憩明け前田日明に呼び込まれた船木はリングに上がりマイクを持つと、BMLへの全面協力を宣言。その後、現役復帰を示唆した船木は「夢のあるプロレス、人々に勇気、希望を与えるプロレス、そして総合格闘家に負けないプロレスラーを誕生させるために努力していきたい」と挨拶。その後はリングサイドから前田とともに試合を見守った。

—修斗で、『武士道』にも『HERO'S』にもまだ出てないですね。体重からすると『HERO'S』ですよね。ちょうど体格も一緒ぐらいですし。

所 修斗でいうと同じ階級じゃないですかね。機会があればゼヒ！

船木 でも当面の目標はやっぱり宇野選手に勝つことじゃないですかね。それやったら向こうもいい刺激になると思うし。こうやって下から追い上げがあるほうが『HERO'S』も活性化されますから。いまは始まったばっかりで、ちょうどKID、元気、宇野っていう3人はキャリアもあるし強いってわかってる看板の中に1人食い込んでますからね。そういった意味では失うものは何もないですから、どんどんピラニアになって食べていかないと。

—ホイラーなんてどうですかね。

所 ああ、個人的にやってみたいです。練習でもいいんで。

—大晦日に所vsホイラー、セコンドには船木、ヒクソンで（笑）。

船木 俺、解説ですから（アッサリ）。

—そうでしたね。失礼しました（笑）。でも、テレビ的にはいいですよね。前田さんがセコンドに付いたり。

所 そしたらちょっと緊張して試合ができないんで（苦笑）。

—じゃあ、大みそか前にでも船木さんに鍛えていただきましょうか？

所 はい、できれば。

船木 まずスクワット300回！（笑）。

—ダハハハ！

所 ……………ぐらいの気持ちで頑張るので、お願いします！

船木 俺は、一緒にやらないですよ。

—ひたすらやらせるだけ（笑）。

船木 はい（笑）。でも最近思いますね、いろんなつらいことありますけども、格闘技とかスポーツでのつらいときって一瞬で終わるんですね。その試合なり練習が終われば。たとえば3分とか5分やって、その5分の間に途中で凄い苦しい山が来たとしますよ。だけどその1分半後ぐらいには、また今度元に戻れる時間が来るわけですよ。それを思えば、一流選手とそれ以外の選手っていうのは、思いっきり飛ばせるか、苦しいと思ってグダグダやってるかの差だと思うんですよね。

所 は、はい。

船木 苦しいときに苦しい顔するのは誰でもできますから。そうじゃないものをお客さんは見に来てるわけなんで。「この人、こんなにやられてるのに、なんで勇敢に立ち向かって行くんだろう」っていう勇気とか、苦しい状況なのにまだ頑張ろうとしてる姿を見に来てると思うんですよね。それを与えるのがプロだと思うんですよ。

—どうですか、所選手？

所　凄い勉強になります、はい。

──船木さんとか前田さんって、そういう技術面もそうですけど、プロとしてどうなのかっていう、そういった話を聞くのも凄い大きいんじゃないですか？

所　はい、技術じゃない部分を聞くことってなかなかできないですし。トップでやってこられた方々なので凄い勉強になります。

──プロ格闘技ってそれがちょっと受け継がれてない部分もありますよね。

船木　そうですね。やっぱり負けても「こいつ頑張った」って次が見えるような、それができる精神状態の選手がどんどん出てきて欲しいなって思いますね。自分という人間に自信を持って。負けても「俺は俺だ」って言い切れるような。要はバカなんですよね、バカが少ないですね。みんなバカを求めてますから。

所　バ、バカですか？

船木　そう。自分はバカになりたくないと思っても、バカが見たいと思って会場に来てるはずですよ。常人ではない、何かを見に来てるわけですから。勝敗を越えた場所に行けるような選手になるように、まずはスクワット3000回！（笑）。

──やっぱりそこに来ますか（笑）。でも、そうですね、昔の新日本やUWFみたいにバカを作ることでしょうね。

スクワット3000回……ぐらいの気持ちで頑張ります！

■ところ・ひでお　1977年8月22日生、岐阜県出身。2001年「クラブコンテンターズ」でプロデビューを果たす。『HERO'S』トーナメント初戦、ペケーニョ戦で大ブレイク。準決勝の宇野薫戦では判定で敗れたが、今、もっとも注目を集める格闘家であることには変わらない。所英男ブログ　http://blog.livedoor.jp/zst_tokoro/



■ふなき・まさかつ　1969年3月13日生、青森県出身。15歳でデビュー、2000年ヒクソン・グレイシー戦後に引退。「ビッグマウス・ラウド」旗揚げ戦で現役復活の可能性を示唆した。対談で着ているのは船木自身がイメージモデルを務めるブランド「マッドフェニーチェ」。詳細は「MADNESS」HP（http://www.madness.jp/）にて！

そんなバカが見たいと思って会場に来てるはずですから

船木　いや、だけどスクワット3000回やっても、いい選手になるって保証はないんですけどね（笑）。

──ダハハハハ！

船木　それをやることによって、「もういいよ」って思っちゃう選手もいるし。やったらやったで、達成したという自信につなげて、その次から活きる人間もいるし、これは2つに1つなんですけどね。それが勲章となるのか、ただの自分の心と身体に対するイジメになるのか、2つにひとつなんですけど。それをやってから解釈して、それを表現するのは選手の資質になりますから。そういう意味じゃ所選手がどっちの方なのかわかんないですけど、俺は自信になりましたね、自慢できますから。ホントに自慢なんですよ（笑）。

──ダハハハハ！　前田さんなんか最たるもんじゃないですか。新弟子時代の自慢大好きですもんね。

船木　そうですね（笑）。証拠ないですからね。でも自分でやったっていう、その自分が証拠なんですよ。

──所さんもそういう自慢ができるように頑張ってください。

船木　なんか自慢ないの？　これまで生きてきて。

所　生きてきての自慢ですか……。

船木　これだけは誇れるっていうの。

所　いや、いまのところ、まだないです。

船木　スケベの方向で1日何回ヤッたとかさ（笑）。

所　あ、あるんですけど、それも人並みなんで。……やっぱスクワット3000回ですね、それを自慢にできるように。

船木　それがスクワット3000回でもいいし、●●●●1日何回できるかとか挑戦でもいいし、とりあえず自分でできることから。

所　ああ、はい……ちょっと考えます。

──亡くなられた橋本真也さんって方は挑戦したみたいですけど（笑）。

船木　何回ぐらいイッたんですかね。

──2桁はイッたみたいです。

船木　それ、薬なしでですか？　バイアグラとかなしで？

──そうみたいです。

船木　2桁っていうことは20とか30とか？

──まあ、10回は越えたっていう。

船木　へぇ～っ、1日そのために空けたんですね、どこにも出ずに。よっぽど暇だったんでしょうね（笑）。

──ダハハハハ！

船木　じゃあ20回越えたら勝ちってことですね。っていうことは、最低1時間に1回はしないと。結構これも最後はキツそうですねえ。勃たないんじゃないですかね。勃たなくなったら嫌だよね？

所　は、はい。気持ちよくなくなったら、ちょっと……。

船木　何事もやりすぎるとよくないってことですよ。

──あ、なるほど（笑）。

船木　それが結論ですよ（笑）。

──でも、まあチャレンジしてみる価値はある、と。

船木　1回はやった方がいいと思います。極意というか、真髄は見えると思うんで。これはなんのためにあるかって。

所　はぁ、凄く勉強になります！　今日はいろいろとありがとうございました。

【10月5日／大田区『とんかつ自然坊』にて収録】



これはもはや"プロレス"ではない

ファイティングオペラ

ハッスル・マニア2005

最終戦争直前大特集

ハッスル・マニア2005
最終戦争直前大特集

文／坂井ノブ
撮影／山口比佐夫
写真提供／DSE
designed by matsu (TwoThree)

プロレスの"変質"は





ハッスル・マニアから始まる

2004年1月にスタートしたハッスルは、2005年の11月3日にひとつのクライマックスを迎える。

ここに来るまでハッスルはいくつもの紆余曲折を経てきた。小川直也&橋本真也と髙田総統の対立を主軸とする〝プロレス〟としてスタートを切ったハッスルは、気が付けばレイザーラモンHGとインリン様の対立がメインイベントとなる〝ファイティング・オペラ〟に変質していた。

ハッスルを読み解くときに、この〝変質〟というキーワードは非常に重要だ。

当初、ハッスル軍の前に立ちはだかったのは髙田本部長だったが、それは髙田総統に〝変質〟した。今年9月の『ハッスル12』ではハッスル軍の主要メンバーであり、日本のプロレスを象徴する存在だった川田利明もモンスター軍へと寝返り（川田の主張では「もともと心はモンスター軍だった」ということになるが）、ダイナミックな〝変質〟をしたばかり。常に観客の求めるものに応え、さらにその上を行こうという気持ちが彼らの〝変質〟を促進させているのは間違いない。髙田延彦PRIDE統括本部長の友人である髙田総統は「守る前につくれ！ 守るだけでなくつくり出せ！」と、ハッスルの中で唯一と言っていいほど変わらない〝キャプテン・ハッスル〟小川直也をアジったが、この言葉こそハッスルの本質である。



モンスター軍は常に〝変質〟して、バージョンアップを繰り返したことで、ハッスルを牽引する原動力となった。観客の反応を敏感にキャッチして、観客の想像を上回ることで、当初はアレルギー的なブーイングも発生していたモンスター軍や髙田総統に声援やコールが集中するまでになった。守るだけでは何も生まれないことを知っていた彼らが、自ら生まれ変わって新しい光景をファンに提供してきたからだ。

ヒールがベビーフェイス化するという〝ねじれ現象〟は、アメリカのWWEでストーンコールドが大ブレイクしたときやWCWでnWoが隆盛をきわめたときと同じ。いずれのムーブメントもプロレスがプロレスという枠を超えて社会現象を起こした。レスラーと観客の関係が成熟してくると、こういったケミストリー（化学反応）が発生する瞬間がある。

『ハッスル3』のときにインタビューしたケビン・ナッシュとスコット・ホールはnWoでケミストリーを起こした張本人だが、彼らは「日本にはまだビジネスを拡大するだけの決定的なアングル（ストーリーライン）がないんじゃないか？」と指摘していた。しかし、ハッスル最大の祭典となる『ハッスル・マニア』にはケミストリーが発生してビジネスが拡大する巨大なアングルがしっかり用意されている。

右のページの写真を見ていただきたい。いまお茶の間の注目を一身に集めるレイザーラモンHGはお笑いゲイ人。対するインリン様は世の男性を虜（とりこ）にする極上ボディの持ち主だ。髙田総統の思想にインリン様は共鳴し、HGは学生プロレス出身で本当にプロレスを愛する心の持ち主でもある。思想的にも、また芸能界的にも両者はお互いを激しく意識しており記者会見でのにらみ合いでも凄まじい火花を散らした。とくにハッスルに継続参戦することで唯一無二のポジションを確立してきたインリン様の怒りは凄まじく、HGが去ったあともド派手にテーブルをひっくり返して怒りを露わにしてみせた。ご存じのように両者とも舞台やTVなどエンターテインメントの第一線で活躍している。自分の見せ方は心得ており、太刀打ちできるプロレスラーは非常に限られてくるだろう。また、『ハッスル・マニア』には和泉元彌も参戦が決定した。日本の伝統芸能の叡智が骨の髄まで染みこんだ狂言師の中の狂言師であり、感情表現や間の取り方などではおそらく誰もかなわないのではないだろうか。こういった芸能人の参戦は、広く世間の注目を集める起爆剤となり、閉塞したプロレス業界に人が流れてくる突破口となるだろう。

『ハッスル・マニア』ではあらゆるジャンルのタレントたちが、同じリングで輝きを競い合う。これぞ、まさにエンターテインメントの他流試合！ 異文化同士の激突であり、そこには当然プロレスラーも加わり新たなる格闘文化の花が開くことになるだろう。

プロレスの〝変質〟は『ハッスル・マニア』から始まるのだ。

取材・文／坂井ノブ
撮影／平工幸雄
designed by matsu (TwoThree)

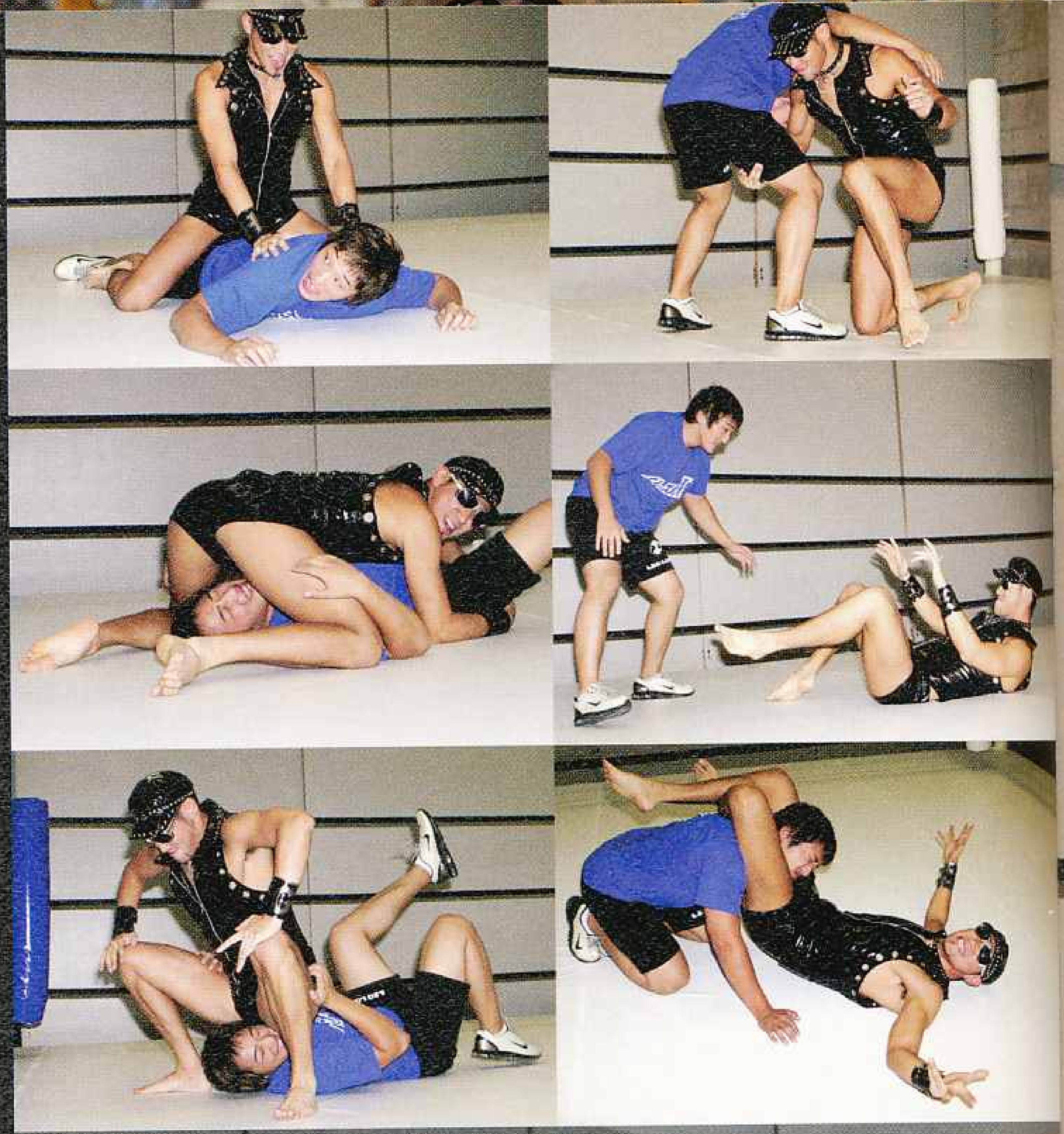


デビュー戦に向けて死角なし!!

レイザーラモンHG 下半身中心に 公開練習で猛ハッスル!!

しごきあい、フゥ〜ッ!! ハッスル軍入りしたレイザーラモンHGがかねてからの念願だった男同士の“しごきあい”という名の公開練習に臨んだ。“モンスターK”川田利明の裏切りによって、トレーニングの予定に大幅な狂いが生じてしまい、インリン様との会見ではいらだちを隠そうともしなかったHGが、ついに男同士が肌と肌でぶつかり合うトレーニングの機会を得ることとなった。たまりにたまった感情が弾けるように、HGは石狩太一を相手にハッスルしまくり! 集まった報道陣の度肝を抜いた公開練習の模様をお届けします!







この男は、やはり凄かった！　11月3日の『ハッスル・マニア2005』でデビュー戦に出陣するレイザーラモンHGが、10月某日に都内の道場で公開練習を行なった。準備運動もそこそこにHGはハードな絡み……ではなくてハードなスパーリングを開始した。

相手を務めたのは〝ハッスルI〟こと石狩太一。8月のビーチレスリング大会では小学生の女の子に投げられていたとはいえ、現役バリバリのプロレスラーである。元学生プロレスのチャンピオンのHGに壮絶なる〝かわいがり〟が待ちかまえているのではないかと関係者や報道陣も固唾を飲んで見守った。

しかし、その予想は見事に裏切られる結果となった。

まずガッチリとロックアップで組み合うとHGは片足を取ってするりとバックを奪う。さすが「プライベートでも得意技はバックを取ること」と言うだけのことはある。バックを取られて驚きと精神的なショックを隠せない石狩に、HGは猪木・アリ状態から本誌前号のインタビューでも語っていたスペシャルな三角絞め「HGトライアングル」を試し斬り。通常の三角絞めのように足で頸動脈を絞めながら股間を膨張させることでさらにスペースを殺して相手を精神的に追い詰めるという驚異の必殺技だ。

さらに石狩の顔面に股間をすりつけて悶絶させると仕上げはマウントポジションでパンパンに膨らんだ股間で圧迫！　仕上げは股間をまさぐりながらのコブラツイスト！　石狩の表情から苦痛の色が消え、全身から力が抜けてぐったりしているのがよくわかる。まさに昇天！

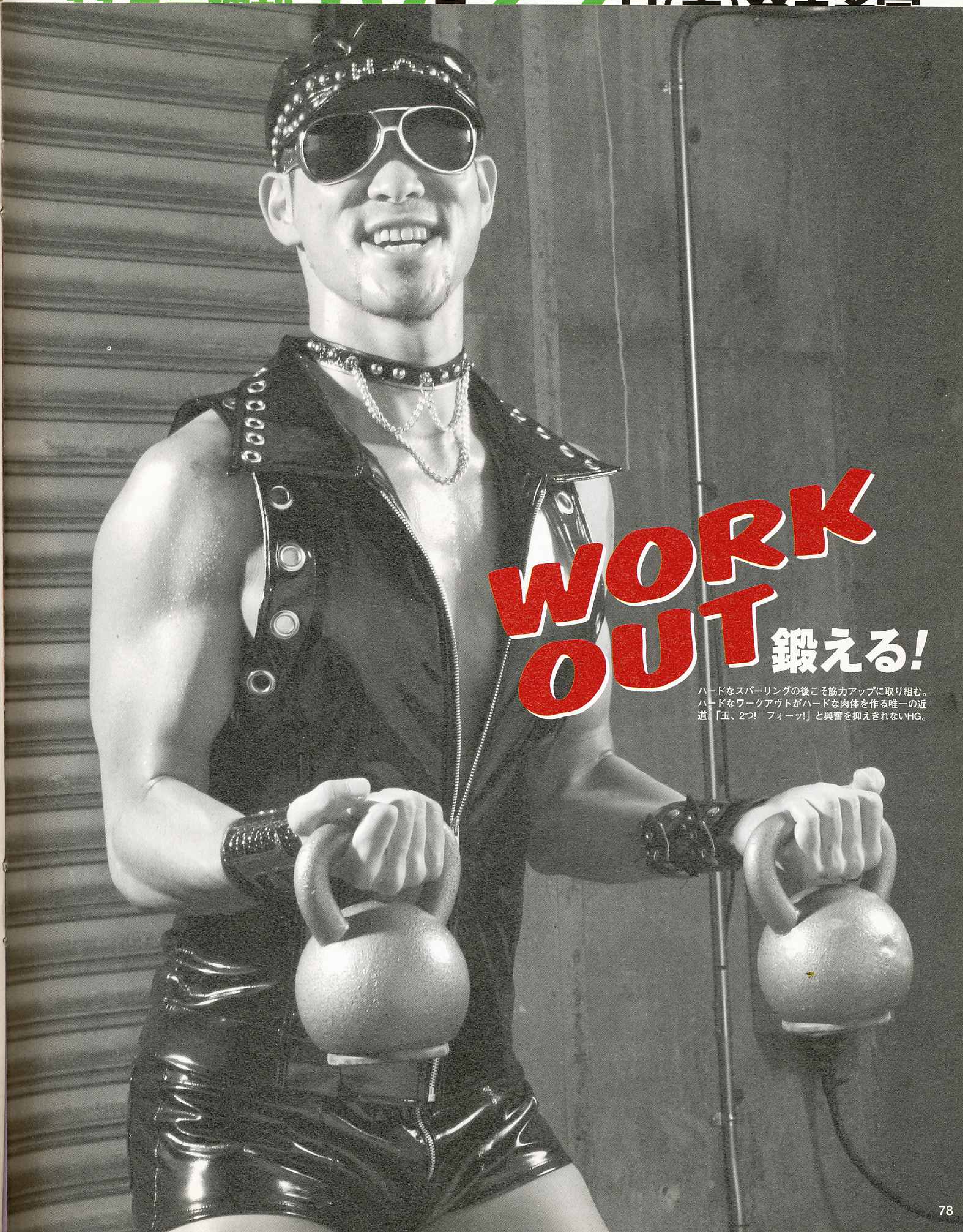
練習後、HGは「ゲイ能の仕事を1カ月休んでもプロレスの練習をしたい」とコメント。大ブレイクした売れっ子ゲイ能人の宿命でHGは現在、超ハードなスケジュールをこなす毎日だ。しかし、学生プロレスを4年間やっていただけに感覚を取り戻してしまえばあとは早い。「仕上がりはまだ30％、早いうちに69％にもっていきたい」と語るHG。なぜに69％？

「69％までいけばフィニッシュは近い」、さすがだ！

学生プロレス時代はストロングスタイルを標榜して、ジャーマンスープレックスが得意と言っているが……果たしてハッスルのリングで通用するか。注目ポイントだ。

気になるコスチュームは「（サングラスと帽子は）ポリシーなので外すわけにはいかない」と語る。並々ならぬこだわりを持つだけに素顔での登場はなさそうだが、マスクを着用することになるのだろうか？　ちなみにボディにも鋲が打ち込まれているので、受け身を取ったときにはダメージを免れそうにないが「ボクはハードゲイであると同時にハードMでもあるので」ということで問題はなさそうだ。

ちなみに、セ・リーグのペナントレースで優勝した阪神タイガースの赤星憲広がビールかけで、SMAPの中居正広がコンサートで、それぞれハードゲイのコスプレを披露しており、HGフィーバーはもはや社会現象となっている。そんな中で行なわれるデビュー戦には否が応でも注目が集まるはずだ。ハードスケジュールの合間を縫って、この日以外にも何度も道場でのトレーニングを行なっているHGが、その秘めたる才能を11月3日に解き放つだろう。ただひとつ問題があるとすれば対戦相手のインリン様が女性で武器となる股間が膨張しない可能性があることぐらい。もはや、この男に死角はない！（はず）。



WORK OUT 鍛える!

ハードなスパーリングの後こそ筋力アップに取り組む。ハードなワークアウトがハードな肉体を作る唯一の近道。「玉、2つ!　フォーッ!」と興奮を抑えきれないHG。

肉迫



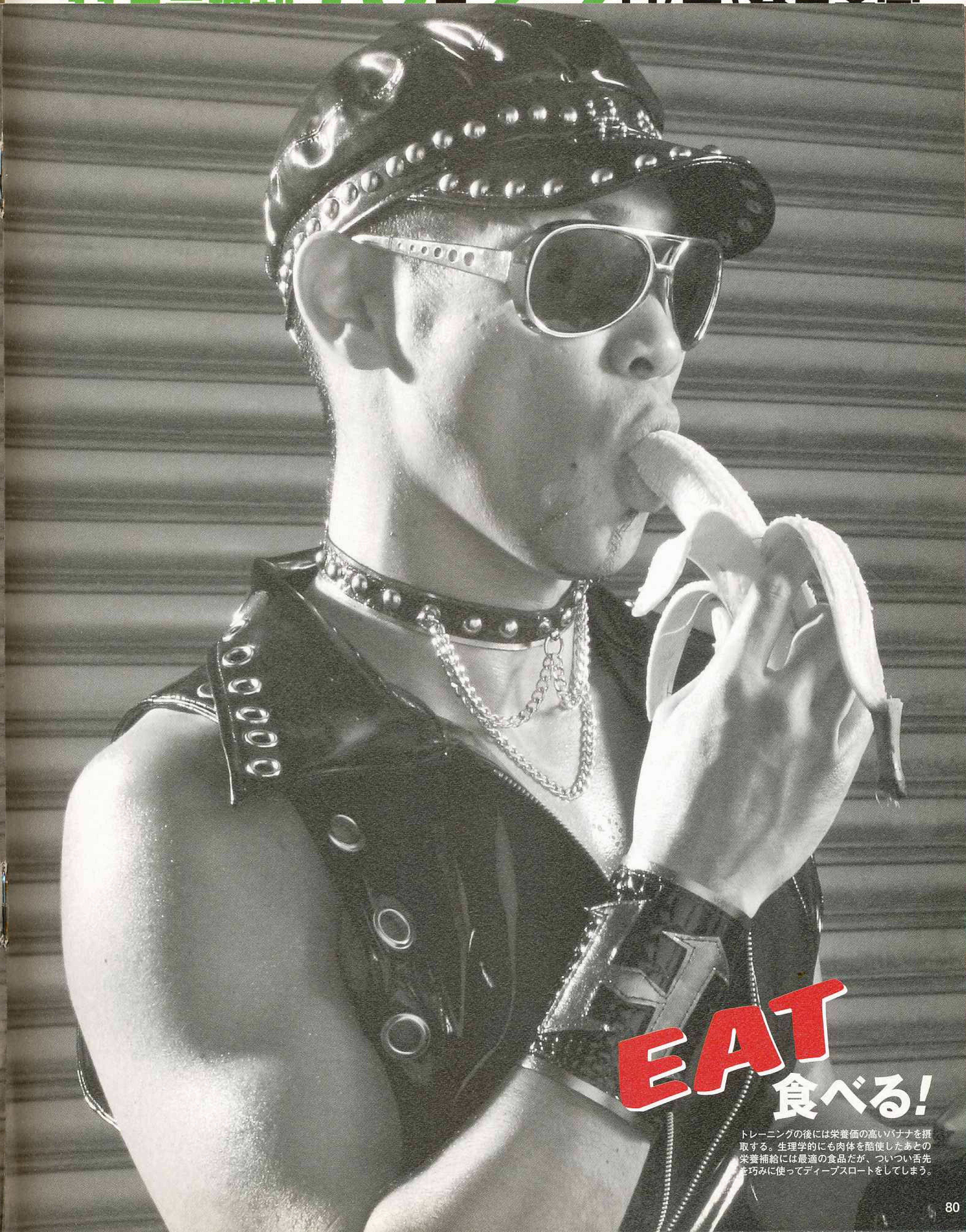
公開練習直後のレイザーラモンHGに密着&独占撮影!!

ハッスル軍・石狩太一との公開スパーリングを終えたレイザーラモンHGに、本誌は独占撮影を許された。デビュー戦を目前に控え、心と股間の高ぶりを抑えきれないHGはマスコミ陣のいないところでは何をやっているのか？　そこには、汗をしたたらせながら自らを厳しく律するひとりのハードゲイの姿があった。

ハッスル・マニア2005
最終戦争直前大特集

構成／坂井ノブ・真下義之
撮影／平工幸雄
designed by matsu（TwoThree）

フォ〜ッ!!



EAT
食べる!

トレーニングの後には栄養価の高いバナナを摂取する。生理学的にも肉体を酷使したあとの栄養補給には最適の食品だが、ついつい舌先を巧みに使ってディープスロートをしてしまう。



DRINK 飲む!

タンパク質とカルシウムを豊富に含む牛乳はHGの大好物。勢い余ってダラダラこぼしてしまい口もとを真っ白にしながらも、あっという間に1リットルを飲み干してしまった。

衝撃!!

"モンスターK"川田利明&インリン様が禁断の遭遇!!



11.3 ハッスル・マニアで MKタッグ実現!

メディア上では本邦初公開となる"官能の女王"インリン様と"モンスターK"川田利明の甘く危険なツーショット写真。ガッチリ握手し、KとMの融合を果たした両者の今後の展開は?

「女ごときにに、リング上でムチで打たれて黙っているわけにはいかない。(インリン様との)試合を組んでほしいと思います」。今年5月、札幌の『ハッスル・ハウス vol.8』終了後に、川田利明がクソまじめに切り出したセリフだ。『ハッスル9(新潟)』でインリン様にムチ攻撃、顔面をヒールで踏みにじられる辛酸をなめてはいたが、ハッスルに参加しつつ王道プロレスを継承する川田としては、いささか過剰な発言だった。

だが、ハッスルを知る(アンジョー司令長官とは別人の)安生洋二は、本誌前号で、川田とハッスルに関し「川田選手は(ハッスルで闘うことに)凄くジレンマがあったと思う。ただ、明らかにインリン様の登場あたりからハジけたよね。これは想像なんだけど、インリン様には『おいしいから、あのキャラに俺も絡んでみたい』『存在感の勝負でも俺が倒してやる』という部分があったと思う」と証言する。

ハッスルでインリン様を誰よりも意識し、ライバル視した川田。実際、ある種、色モノ的だった「インリン様の試合」が、堂々たる立ち振る舞いや物怖じしない度胸で、







このフォトセッションの時点では、まだ“ハッスルK”コスチュームだった川田だが、10月27日の『ハッスル・ハウスvol.9』後楽園ホール以降、“モンスターK”コスチュームで登場が噂される。常に限界に挑戦するインリン様の次なる過激コスチュームと合わせて注目したい。

絶大な評価を得たのは川田との絡み（『ハッスル12』の大阪の試合）を経たからこそだろう。

一方、ハッスルをよく知る（インリン様とは別人の）インリン・オブ・ジョイトイさんも本誌前々号で「川田さんは優しいから、（大阪の川田vsインリン戦の絡みで本気で投げなかったのは）少し遠慮したんでしょう。でも、そういう部分がハッスルKの魅力なんだろうな」と熱を込め語っている。

プロレス界で、抗争のあとに共闘する「昨日の敵は今日の友」状態は珍しくない。だが、〝プロレス価値観を破壊する〟インリン様と〝プロレスを守る先頭ランナー〟川田の邂逅は、髙田総統の「守る前につくれ、守る前につくり出せ」という言葉のようにプロレスのネクストレベルを体現している。『ハッスル・マニア』ではここにアン・ジョー司令長官を加えた髙田モンスター軍最高のトリオでの出撃。ハッスルの方向性は、王道レスラーの価値観も揺り動かし「もはやプロレスではない何か」に向け、踏み出した。

その歩みはプロレス界という軌道から外れ、広く世間へと照射されている。その最初のクライマックスが、11月3日、横浜アリーナであることは間違いない。（真下義之）



特報

ハッスル・マニア2005に
狂言師 和泉元彌が参戦!!

ハッスル・マニア2005
最終戦争直前大特集

構成/坂井ノブ



ハッスルにさらなる大物芸能人が参戦することが明らかになった。

その男の名は、狂言師の和泉流二十世宗家・和泉元彌！

最近では宗家継承問題やダブルブッキング問題などで一時期、スキャンダラスなイメージがついてしまったが、甘いマスクで女性を中心に幅広い層に人気を誇っており、2000年大みそかの『紅白歌合戦』で司会まで務め、翌年にはNHK大河ドラマ『北条時宗』で主役を張った国民的スーパースターである。格だけでいえば、いままでハッスルに登場した芸能人の中でもダントツだと言えよう。

7月の『ハッスル11』をリングサイドで観戦しており、おそらくハッスルの予備知識もバッチリ。順応するのも時間の問題であろう。

そもそも狂言とは歌舞伎や能といった他の日本の伝統芸能と異なり、素顔で演じるため感情表現が非常に豊かであるため、当然リング映えもする。特に、和泉元彌は物心がつく前から稽古を開始して3歳で初舞台を踏んでいる。生まれながらにして舞台に立つ宿命なのだ。

ひとつ気になるのはハッスルのリングで試合をするのかどうか、という部分だ。インリン様はムチが身体の一部として認められており、これからデビューするレイザーラモンHGには学生プロレスとしてのキャリアがある。彼らにあるアドバンテージが和泉元彌にはない。

……と思ったら大間違いだ。

和泉元彌には、あの最強の母・節子さんも付いているのだから。除名処分を決定した能楽協会に対して一歩も引かない強靭でタフな精神力は、息子にも大きな力を与えることだろう。おそらく試合にはセコンドとして付くことになるだろう。息子のピンチにジッとしていられるはずもないので試合にも介入してくるはず。

ハッスルは芸能人とプロレスラーが垣根を越えて、誰が最も輝くかを競い合うファイティング・オペラという名の特殊な他流試合のリングである。和泉元彌には生まれたときから背負い続けてきた狂言というバックボーンがある。もちろん舞台度胸もあるだろう。顔もいい。三拍子揃った日本を代表するエンターテイナーが、ハッスル・マニア以降にストーリー上の大きな鍵を握る存在になるかもしれない。

いずみ・もとや■1974年6月4日生まれ。A型。父は和泉元秀（和泉流19世宗家・重要無形文化財保持者・銀杯賜与）。姉は和泉淳子（史上初女性狂言師）、10世三宅藤九郎。母は和泉節子（和泉流宗家宗家会理事長）。1歳半から修行を始め、3歳で初舞台。先代が急逝した後、21歳の若さで20世宗家を継承。タレント羽野晶紀と2002年に結婚、長女・采明（あやめ）、長男・和泉流21世宗家継承者である元聖（もときよ）を授かる。ダブルブッキング問題、宗家継承問題などでマスコミからの激しいバッシングにさらされているが、現在も精力的に活動中。11月3日がデビュー戦となる。

ハッスル・ハウスvol.10

東京・後楽園ホール
10月27日（木）試合開始19:00（開場18:00）

［チケット］
ハッスルVIP席 10,000円／スタンドS席／5,000円
ハッスル軍応援シート 5,000円／モンスター軍応援シート／5,000円
スタンドA席 3,000円

ハッスル13

青森・青森産業会館
10月30日（日）試合開始18:00（開場17:00）

［チケット］
ハッスルVIP席 10,000円
アリーナS席 5,000円／アリーナA席 3,000円

ハッスル・マニア2005

神奈川・横浜アリーナ
11月3日（祝）試合開始17:00（開場17:30）

［チケット］
ハッスルVIP 最前列／20,000円
【特典：ハッスルマニアグッズ付】SOLD OUT
ハッスルVIP席 10,000円【特典：ハッスルグッズ付】
ハッスル花道シート 5,000円SOLD OUT／S席 5,000円
セイザーX応援シート 3,000円【特典：応援グッズ付】／A席 3,000円

［問い合わせ］DSE　03-5464-1531
http://www.hustlehustle.com

ハッスル・イラストレーター金子ナンペイ氏が
フィギュアイラストレーターのデハラユキノリ氏と
メンペ展2～エロが溢れて止まらない編～開催!!

金子ナンペイ氏とデハラユキノリ氏の2人が設立した「東京メンズペインティング協会」（略してメンペ）が「エロ」をテーマに2人展を開催!!



会場は原宿LAPNET SHIP（東京都渋谷区神宮前1-8-10FORET原宿4F TEL.03-5411-3330）、期間は11月9日（水）～20日（日）で行なわれる（会期中は無休、時間は11:00～21:00）。
また、金子ナンペイ初の画集出版を記念してサイン会を開催することが決定!! 11月12日（土）14:00～ブックファースト渋谷店で、11月20日（土）13:00～原宿LAPNET SHIPで行われる。
その他、イベントの詳細やメンペの活動などは金子ナンペイ氏のホームページをチェック!!
http://www.nampei.net/

はみ出しトピックス3連発!!

エージェント、ケイ・ササハラが元WWEのケンゾー&ヒロコ契約!?



10月6日、DSE事務所で行われた記者会見に笹原前GMが登場。草間GMに対して元WWEのケンゾー&ヒロコとエージェント契約を結んだことを明かした。今後はエージェントのケイ・ササハラとして活動する。いったい、何をたくらんでいるんだ!?

草間新GMはさらに改革を断行、ハッスルのタッグ王座も設立を発表!!

10月6日の会見では草間新GMもさらなるハッスル改革へ向けて新たなる試みを発表した。

①10月27日、後楽園ホールで行なわれる『ハッスル・ハウスvol.10』でErica&マーガレットvsアリシンZ&ブランカXのマスカラ・コントラ・カベジュラマッチが決定!!

②同じく『ハッスル・ハウスvol.10』でTV界のヒーロー、ジャスティライザーがプロレスデビュー。現在、ジャスティライザー・レッドは都内にあるモンスター軍秘密基地で、アン・ジョー司令長官・島田二等兵と特訓中だという。対戦カードはジャスティライザー・レッド&鬼蜘蛛・青&鬼蜘蛛・黄vsハッスル仮面レッド&ブルー&イエローに決定!!

③11月3日、『ハッスル・マニア2005』でセイザーX応援シートを発売中。セイザーXのフィギュア付きシートが3000円!!

④同じく『ハッスル・マニア2005』でハッスル初のタッグ王座、ハッスルスーパータッグ選手権の設立が決定!! HHH王座に勝るとも劣らない豪華なベルトが現在作られている。

島田二等兵&アン・ジョー司令長官がガチンコ漫才バトル「M-1」に挑戦するも……。

9月23日、東京・有明スタジオで行なわれた「M-1GP2005」の一回戦に、高田モンスター軍の島田二等兵とアン・ジョー司令長官が挑戦した。第1回「M-1GP」王者のますだおかだのますだに師事した両者だったが、ネタをやったあとの「♪モンスタ～、モンスタ～!!　♪ヤッホ～、ヤッホ～!!」が意外にもウケず、あえなく撃沈!!　漫才の奥深さを知ることとなった。10月15日にも再度、予選に挑戦するが……果たして結果は!?



チーム鈴木の明るい未来

ハッスル・マニア参戦記念で今月はカラーページ進出!!

ついにケンゾー＆ヒロコが動き出す！　7月にWWEを退団して以来、新たなる道を探し続けてきたケンゾーとヒロコのチーム鈴木が本格的に始動する。日本ではWWE退団後、ハッスルのリングで初登場となるが彼らはその先まで見据えている。

Q 日本での復帰を騒がれる中、9月24日にアメリカ・フロリダ州オカラの大会で復帰戦を終えた健想選手。今後の活動など、いまの気持ちは……？

健想　ドリー・ファンクJr.との復帰戦は正直、計画していたわけじゃない。始めは『ドリーのところにも挨拶に行こっか？』ってノリだった。

ヒロコ　その日、ドリーのところでの試合が決まってた澄ちゃん（坂井澄江）に『見においで！』って誘ってもらって。で、当日一応ギア（コスチューム等）を持っていったら…そのまま試合ができちゃった（笑）。しかもドリーと。あっさり復帰第一戦。でも、なかなかいい試合だったよね！　ま、マーティー（ドリーの奥さん）からの要望でTVも写真もNGだったから映像は彼らのサイト（http://www.dory-funk.com/）でしか見られないけど（笑）。

健想　ついでにヒロもスマエ（※注：健想は彼女をこう呼ぶ）の試合に乱入して（笑）。初DDTもなんとかちゃんと決まってたじゃん（笑）。

ヒロコ　私は全然出る気なんてなかったんだよ。だからギアも着物も一切持っていってなくて。けど、健ちゃんも試合するって言うし、誘われて『やってみるか……』って。けど、いずれにしても着物を持ってきてないから普通の格好で出るわけじゃない？　着物じゃないし、なんかしなきゃ……ってDDTを決めちゃった（笑）。

健想　結局、復帰第一戦の観客はなんと100人以下だった。けどスゲー気持ちが良かった!!

ヒロコ　そう！　決まりごとも、使っちゃいけない技とかもなくて、健ちゃんが久々に本当に自分の思い通りに試合をしてる姿を見てなんか私まで嬉しかったよ。

健想　その後も一週間で立て続けに3、4試合したけど、全部楽しかった。

ヒロコ　サイン会に顔を出したり、いろんな人に会いに行ったりしたら、その場で『これからうちで試合してくれないか？』って。突然〝ケンゾーが来る〟って聞いて、街の小さな団体ではファンも大声援（笑）。ありがたい気持ちでいっぱいだった。

健想　それぞれの団体で色もあるからね。とにかく飛び入りだからさ。一度なんてDDTのKUDO君と一緒に一晩で2試合した。昼間、偶然にあった二つの団体の人間が、その日の夜のショーで僕達を使いたいっていうから、思いっきり『Wブッキング』で（笑）。一つ目の会場で第1試合でやって、終わったらそのまま待ってた車に乗って、隣町の会場へ。待ってたのは元ECWのBALLS　MAHONEY（ボールズ・マホーニー）選手。会場に着いて30秒で僕らの出番。僕らの到着が遅れて観客を待たせてたせいで会場は沸いてる沸いてる（笑）。とは言え、僕もKUDO君もBALLSもそれぞれ『ハタケ』が違いすぎるじゃない（笑）？　それでもおもろい良い試合ができる。ああいう経験はいままでしたことなかったからね。いろんな場所で、いろんな条件で、いろんな選手と当たる――これっていまの僕に足りないものがぎっしり詰まってて。これまで『現場』を感じることって少なかったから、本当に凄く良かったと思う。

ヒロコ　皆、こういうのをバンバン乗り越えて自分のプロレス作っていくんだなって。そういうこと抜きにいままで来ちゃったから。

健想　『自分のやりたいこと』が見えた。だから、そういう意味で日本でもアメリカでの色んなリングにいまは立ちたいと思う。

Q 日本では『ハッスル参戦』との報道もありますが……。

健想　だからなんでもやろうと思う。僕は、正直これまで僕なりに苦労もあったし、努力してきたつもりだけど、新日本でデビューして、WWEに入って……運良く『王道』を渡ってきちゃった。いま初めてインディーの世界に足を踏み入れて、いろいろ考えて。いままで僕に足りなかったものを自覚して。逆に大きな目標をいまでも持ってるからこそ、いまはなんでもしようと思う。ポリシーが無いとか、《安売り》とかに見られるかもしれないけどそうじゃない。考えて、あえてそれを選んでる。基本的に、僕にとって依然としてアメリカが主戦場なのは変わらないから、絶対。ハッスルでも新日本でも出ようと思う。どんなリングにも対応したいから。

ヒロコ　なんのためにプロレスしてるのか、やっと気持ちがハッキリしたんだよね。これからもしばらくはサバイバルだね！

健想　楽しみながら頑張ろうぜ！

Q 最近降って湧いたように出てきたのが『健想・日本人初アメリカ興行』の話。その真相は……？

健想　やるよ。

ヒロコ　あっさり！（笑）。

健想　けど、きっとみんなの考えているそういうことと、僕が考えてる今回のアメリカ興行とは違うかもしれない。

ヒロコ　そうそう、そこを説明して！

健想　日本人がアメリカで生きていくってじつは凄く大変なことだと思うわけ。それは学生でも社会人でもね。親からの仕送りで学校行かずに遊んでるのとか、逆に全部会社がやってくれてる大手のエグゼクティブとかは別だけど。みんな戦ってる。やっぱり厳しいし、依然として人種差別はあるし。

ヒロコ　確かに。

健想　ところが、実際、日本ではそういうのを理解されがたい。だから、こっちで頑張っている人間の本当の姿を見せられる場所が欲しいと思った。それに、いままで学んできたことが本当に○なのか×なのかも試したかった。

ヒロコ　経営に関しては、本当に大きな違いがある。箱の大きさや組織の大きさを競う日本に対して、ここでは利益の大きさをとことん追求してる。WWEみたいな世界一の団体でも、裏側を日本人が見たら絶対に驚くと思う。けど、だから会社が大きくなる。そういう私達が日々学んでいく色々な要素を試したいわけ。

健想　だから自動的に最初のショーは大々的に金をかけて……とは





いかなくなる。

ヒロコ その通り。確実に堅実にやらなきゃ。それがここで学んだことなんだもん。

健想 というわけで、大きく話題にのぼるようなことがあるかないかはまだ未定。ただ自分たちの『身の丈』で、使える要素を無駄使いせず100%バッチリ使いきれば、なかなか捨てたものでもないかもしれないと……。

ヒロコ あとで『なるほど、そういうことか!』って納得してもらえるようなものであればいいと思う。『飛ばし』は必要ないんじゃないかな。

健想 スマエとの団結で始まってるしね。

ヒロコ そう。ビジネスは私。内側は澄ちゃん。パッカリ分かれてるのも新しい特徴。

健想 開催は12月から1月を予定。

ヒロコ プロレスファンの枠を超えて、アメリカで頑張ってる日本人の多くの共感を得られたらいいなって思う。

健想 バッチリ実るのを期待しよう!

検証 WWEレッスルマニアを超えるために

ハッスル・マニアに必要なのは"ダブルインパクト"である!

毎年プロレス最大の祭典レッスルマニアを現地で観戦している本誌アメプロ記事でもおなじみのフリーライター・阿部タケシ氏が緊急提言! ハッスル・マニアが日本のプロレス史を塗り替えるために何が必要なのか!?

文/阿部タケシ(フリーライター)

ハッスルもいよいよ第一章の完結となる。いま思えば『ハッスル1』に登場していた髙田延彦統括本部長の「テメェ、蹴ったなこの野郎!」のセリフも懐かしい。

『ハッスル・マニア』というイベント名も、WWEのレッスルマニアの名前をパクるなどというレベルを通り越して潔さまで感じてしまう。

現在、ハッスルには様々な著名人が登場している。『ハッスル11』では、"浪花のモーツァルト"キダ・タロー先生が登場したが、ボク的にはレッスルマニア2に登場したレイ・チャールズのシーンとダブってしまったほどだ(いやホントに)。

ハッスルを観て、いつも思うことがある。有名人がリングに上がりハッスルポーズを行なうが、これはどうも解せない。単にハッスルポーズだけでは、じつにもったいない。リングに上げたら、ファイティングオペラの住人にしてしまうべきである。

例えば、福岡の『ハッスル10』で"ドカベン"こと香川伸之氏が家族全員でリングに上がってハッスルポーズを行なった。そんなアットホームな光景に、あえて人狼を乱入させ、片っ端から子どもたちを泣かす。そんな人狼にドカベンは毅然と立ち向かい、圧殺プレス葬。これには全国のお父さんへのメッセージになったかもしれない(たぶん)。

『ハッスル11』に、和泉元彌with母・節子の姿があった。あの映像はかなり不自然な存在に映ったのだが、ダブルブッキング問題、20世宗家問題などスキャンダラスな人物(というか家族)なのは間違いない。これほどまでにおいしそうな親子は日本全国を探してでもそういないし、なんとかハッスルに絡んでほしいと思うものだ。

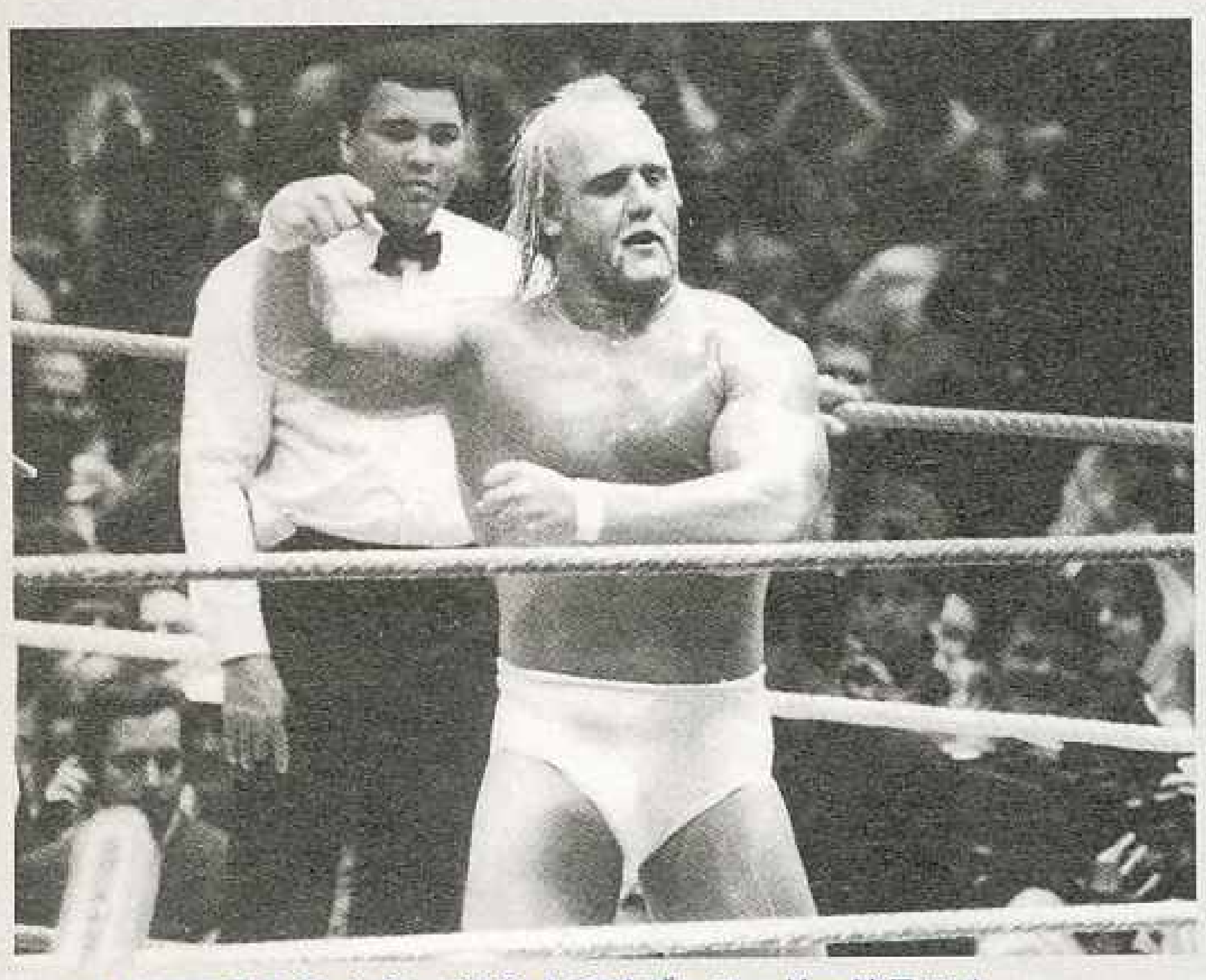
先日、突拍子もなく「ケンゾーはハッスル!」と世界の荒鷲が発言したことで、ケンゾーのハッスル参戦が浮上した(これも髙田総統の洗脳だろうか?)。これがもし本当なら、ケンゾーと元彌、共にトレードマークとしている肩衣(かたぎぬ)を巡って"肩衣コントラ肩衣"を実現してほしい。

『レッスルマニア』は、旬な各界著名人をリングに上げ、世間の視線を一気に集めた手法を取った。ミスターT(練習嫌いでホーガンもボヤいたほど)、シンディ・ローパー、オジー・オズボーンなどがリングに上がり、さらには世間から"悪"のレッテルを貼られてきたマイク・タイソンやピート・ローズといったスキャンダルまみれの著名人もいたが、彼らもWWEのリングに上がってしまえば瞬く間に"善"となった。WWEには悪を更正させ、大人を子どもにしてしまう、ある種の魔法のようなものがある。

また、レイザーラモンHGやインリン様のように、ハッスルに招かれた側がきっちり演者として登場すれば、ハッスルはもっとファイティング・オペラとしての完成度が増すはず。レッスルマニアには怒り、笑いもあれば、感動も存在するわけだから、壮大なファイティング・オペラであるハッスルの集大成には、それらを上回る破天荒なインパクトと、世間へのインパクトの"ダブルインパクト"を見せて欲しい。ファンはそう願っている。

例えば、抗争に負け、ブエノスアイレスに向かう髙田総統のヘリに小川直也がトルネードハッスル! このポーズが天国の橋本さんまで届き、ハリケーンを引き起こしへリに落雷! 爆発はCGやクロマキーみたいな演出じゃなく、石原プロ真っ青の爆破! かつてWWEでもひき逃げ事件や、クレーンから鉄柱をバスに落としたり、車をクレーンで落下させたりして、節目節目で破天荒な演出を見せ、世間を虜にした。

『ハッスル・マニア』では、様々なインパクトを散りばめて、プロレス界を真の意味で根こそぎ覆してもらいたい。



レッスルマニアⅠのメインイベントのサブレフェリーはモハメド・アリ! この豪華さはどうだ!? まさに歴史的大イベントだ!



1985年のレッスルマニアⅠ。スーパースターのホーガンが、お茶の間で大人気のミスターTと強力タッグを組んで世間の注目を集めた。

photo/George Naporitano

ハッスル & kamipro Collaboration Goods

全知全能!! 唯一無二!!
『髙田総統ライオンTシャツ』
驚天動地のリリース決定!!

NEW



髙田総統ライオンTシャツのモチーフ
「ラスタライオン」とは?
レゲエの発祥地、ジャマイカで崇拝されていた「王の中の王」ハイレ・セラシエ。世を祭った「絶対神」の伝統的なデザイン。唯一無二な絶対的存在である髙田総統に相応しいアイコンであり、百獣の王、ライオンにあやかった象徴的なマークとして現在でも人気を集めています。

髙田総統ライオンTシャツ (デザインは完成予定図です)
[S・M・L・XL　ホワイト] ¥3990(税込) ★発送は10月下旬になります。



「°c-pod」Tシャツ
[S・M・L・XL　ホワイト] ¥3990(税込)



「j-pod」Tシャツ
[S・M・L・XL　ホワイト] ¥3990(税込)



「ビビったか? たじろいだか?」Tシャツ
[S・M・L・XL　ブラック/ホワイト] ¥3990(税込)



「BITAAAAN!」Tシャツ
[S・M・L・XL　ホワイト] ¥3990(税込)



「SHUT UP!」Tシャツ
[S・M・L・XL　ホワイト×レッド] ¥4200(税込)

残りわずか!



「BITAAAN!」メッシュキャップ
[ブラック/パープル] ¥3150(税込)

ハッスル Goods

『kamipro』通販方法

★通販はすべて代引きです。お支払いは、現金、デビットカード、クレジットカードの中から選べます。
★全国どこでも送料一律500円です。
(何枚でも可。離島・山岳部の方はお問い合せ下さい)
★代引き手数料は315円です。
(代引き金額によって異なります)

『kamipro Hand』でご注文の場合
詳しくは『kamipro Hand』の通販コーナーをご覧下さい。ご注文後、確認メールを送りますので注意してご覧下さい。

電話でご注文の場合
平日15:00〜22:00
(株)ダブルクロス 03-5368-1797

メールでご注文の場合
郵便番号、住所、氏名、電話番号(携帯)、商品名、サイズ、枚数、年齢を書いたメールを
kapra@kamipro.com
までお送り下さい。申し込みメール確認後、佐川急便にて発送いたします(確認メールはいきませんのでご了承下さい)。

NEW



"モンスターK" Tシャツ
[S・M・L・XL　ブラック] ¥3990(税込)



キャプテン リストバンド [ホワイト/ブラック] ¥1050(税込)
あちち リストバンド [レッド] ¥1050(税込)



HUSTLEロゴフェイスタオル
[ブラック/イエロー] ¥2100(税込)



インリン様 Tシャツver2
[S・M・L・XL　グレー]
¥3990(税込)



HUSTLEロゴTシャツ
[S・M・L・XL　ホワイト/ブラック]
¥3990(税込)



HUSTLEロゴ メッシュキャップ
[ブラック/ブラウン/パープル]
¥3150(税込)



BACK



インリン様Tシャツ
[S・M・L・XL　ブラック]
¥3990(税込)



格闘技人気の源流はこの男にあり！

前田日明と激闘をくり広げた
“伝説の男”をタイでキャッチ!!

ドン・中矢・ニールセン

"KAMINARI-TE"DON NAKAYA NIELSEN

“現”WKA・US クルーザー級チャンピオン

86年に前田日明と激闘を展開し、90年には佐竹雅昭と対戦。そのエキサイティングな試合で多くのプロレスファンを“格闘技”に目覚めさせた“伝説の男”をタイでキャッチ！ 昨今、前田ー永田論争で話題となった前田vsニールセンとはなんだったのか、そして格闘技黎明期に彼が果たした役割とは？ いまこそ、現在のPRIDE、K－1人気の源流をたどる！

聞き手＆撮影／橋本宗洋　通訳／上杉HG　構成／堀江ガンツ
協力／全日本キックボクシング連盟　design by さおとめの事務所

USクルーザー級王座は剥奪されてないから、まだボクが王者なんじゃないの（笑）

――いや～、伝説のファイターであるドンさんにお会いできて、今日はホントに光栄です！

ニールセン　こちらこそ、わざわざタイまで取材に来てくれて嬉しいよ。でも、ボクはもう昔の人間だよ。ファンだって覚えてないでしょ。

――いや、じつは今年に入って、ドンさんの名前が日本のマット界でもなぜか出てたりしているんですけど（笑）。

ニールセン　あ、そうなの？

――その話はのちのち（笑）。ところで、ドンさんがバンコクにいるというのは全日本キックボクシング連盟の宮田興行部長に聞いたんですが、ここでお仕事をされてるんですよね？

ニールセン　カイロプラクティックの治療院を経営してるんだよ。もう14年になるね。

――タイではカイロプラクティックはポピュラーなんですか？

ニールセン　いや、ボクが初めてだね。現役時代からカイロプラクティックの専門学校に通っていて、タイで練習しているときも選手の身体を治療してあげてたんだよ。それが口コミで広がっていって、いつのまにか診療所を作ることになったわけ。

――この立派なクリニックを見る限り、ビジネスはかなり成功してるみたいですね。

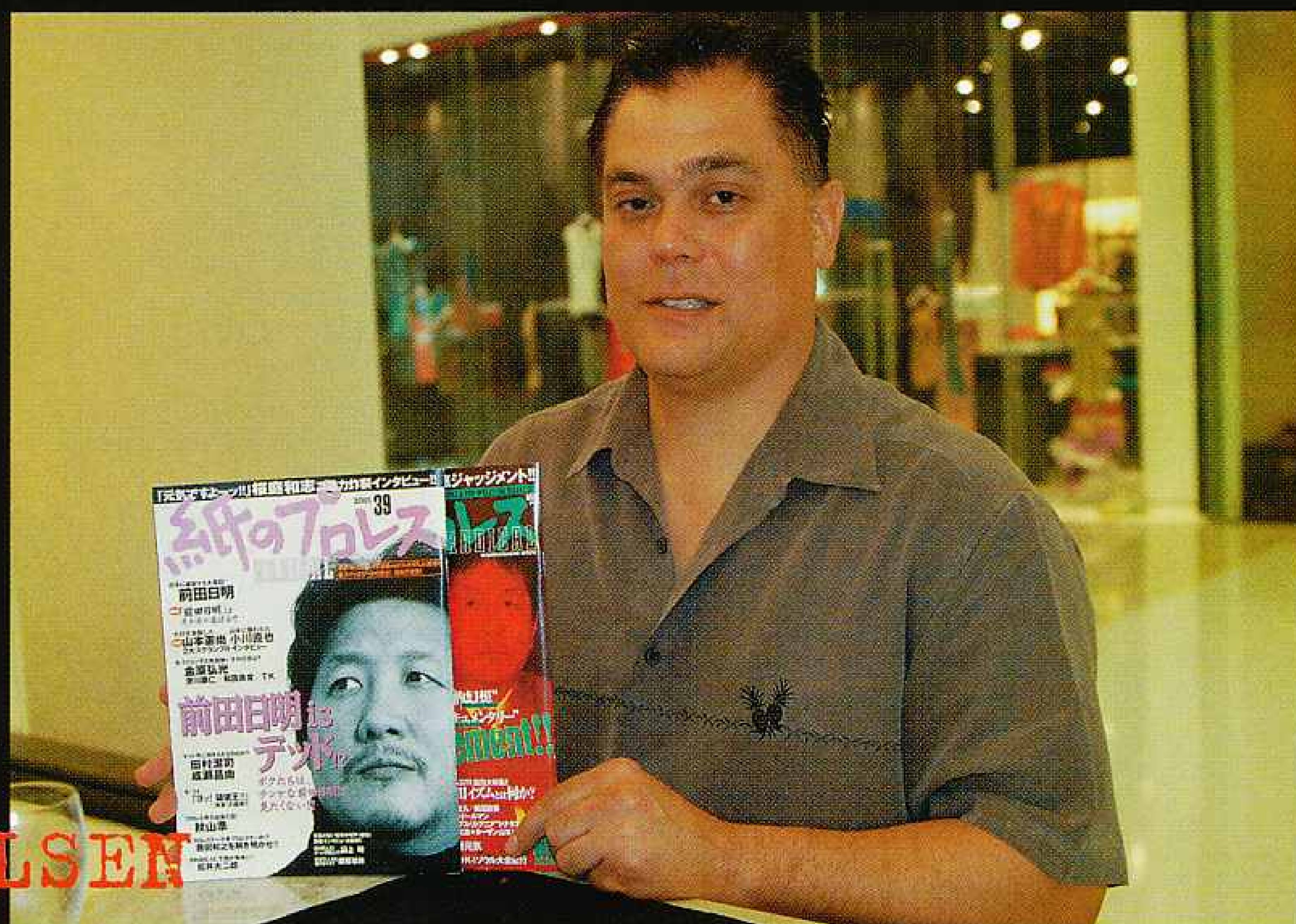
ニールセン　大使館の外交官や外資系企業の駐在員にも評判になって、5人のドクターで1日に100人くらいの患者を診ているんだよ。そのほかにも、今年、テニスの全豪オープンで優勝したマラト・サフィンのパーソナル・トレーナーとして彼のツアーについて世界中を回ったりもしているんだ。

――タイでのカイロプラクティックの第一人者ということは、いろいろと障害も大きかったんじゃないですか？　タイでは古式マッサージも有名ですし。

ニールセン　ボクはここではガイジンだからね。始めたころは警察に逮捕されたりもしたんだよ。

――逮捕!?

ニールセン　ライセンスなしで治療したからって理由なんだけど、そもそもタイにカイロプラクティックのライセンスがないんだよ（笑）。この件はいまも裁判所で係争中なんだ。でも、ボクのあとから10以上のクリニックが開業してるんで、実質上は問題ないんだけどね。



NAKAYA NIELSEN

――パイオニアならではの障害なんでしょうね。いまは生活は完全にタイがベースなんですか？

ニールセン　いや、ワイフと子どもはロスにいるんだ。だからけっこうイッタリキタリ（日本語で）。

――行ったり来たりですか（笑）。日本語、上手ですねぇ。

ニールセン　母親の家族がもともと愛媛県出身で、カリフォルニア州に移民したんだ。ボクは日系三世に当たる。だから小さいときに、母親とは少しだけ日本語で話をしてたよ。ハイスクールでも日本語を勉強したしね。

――ドンさんは選手としてのニックネームも″KAMINARI－TE（雷手）″と日本語でしたよね。

ニールセン　よく覚えてるね。でもその後、″KAMINARI－KEN（雷拳）″に変えたんだよ。そのほうがカッコイイでしょ。

――そもそもキックボクシングをするようになったきっかけは何だったんですか？

ニールセン　僕の従兄弟、イチカワ先生がチャック・ノリスの道場をマネジメントしていたのが空手を始めたきっかけなんだ。

――チャック・ノリスって、俳優のですか？

ニールセン　そう。彼の道場でタンスードー、韓国空手を習い始めたのが最初だね。9歳ごろかな。で、いろんな大会に出ているうちにベニー（・ユキーデ）を紹介してもらって、彼の設立したジェットセンターでキックボクシングの練習をするようになったんだ。

――プロデビューはいつ頃だったんですか？

ニールセン　1980年、20歳のときだね。でもプロといっても、キックだけでは生計を立てられなかったから、仕事もしてたけどね。バーテンダーとか。

――前田日明戦の前はバーテンダーでしたか（笑）。当時、確かドンさんはWKAのUSクルーザー級チャンピオンという肩書きでしたよね。

ニールセン　うん。そういえばあのタイトル、どうなったんだろうね。

――そんな人ごとみたいな（笑）。

ニールセン　タイトルを獲ったのは確かなんだけど、ベルトはもらってないしね。認定書だけだったような気がするなぁ。キックボクシングのタイトルは管理がズサンなんだよ。

――防衛戦はされたんですか？

ニールセン　いや、やってないよ（笑）。でも、誰かにタイトルを獲られてはいないし、剥奪された覚えもないから、まだ

サフィンのパーソナル・トレーナーとし

ないんだよ（笑）。この件はいまも裁判

でしょ。

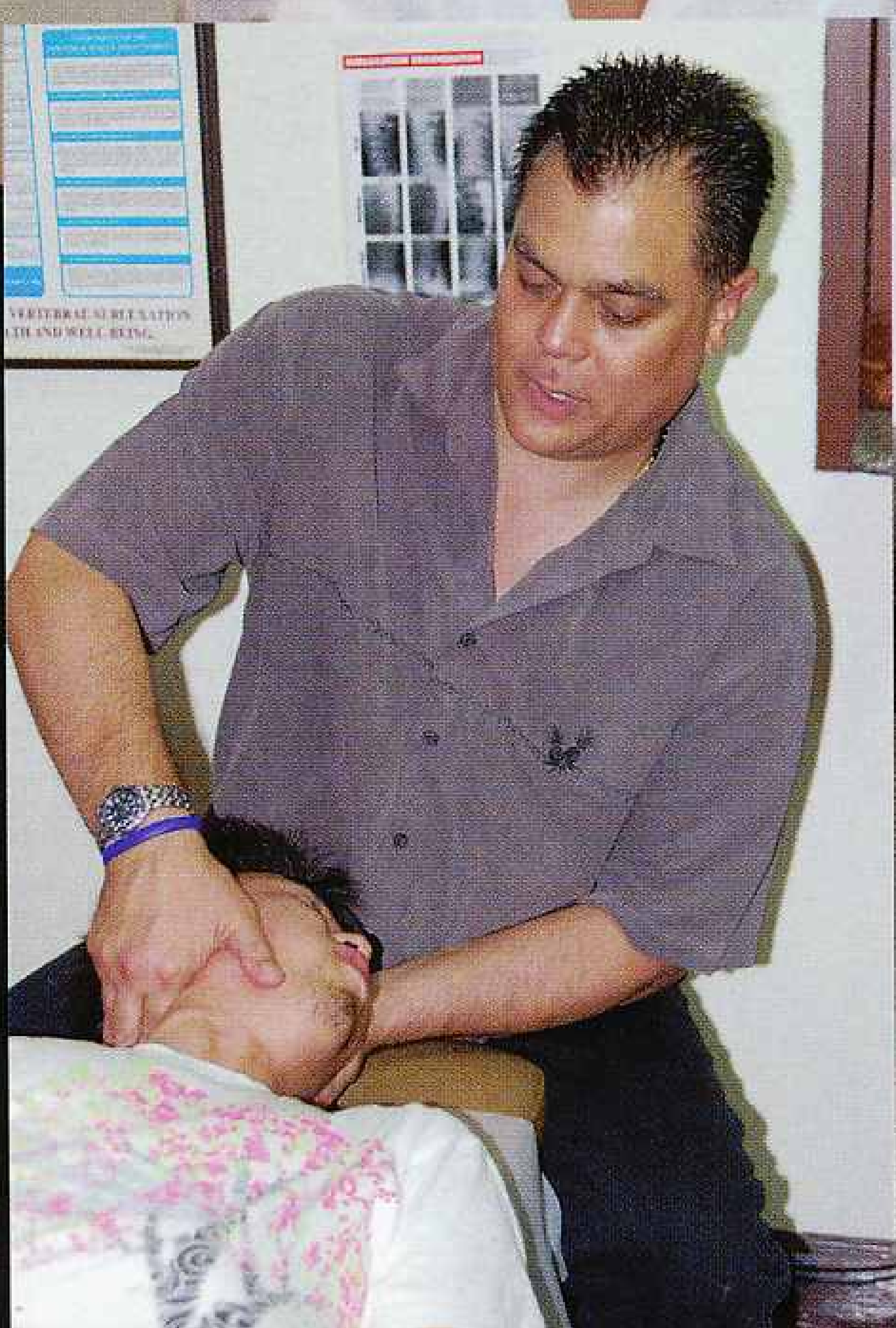
ボクがチャンピオンってことなんじゃない？（笑）。

——USクルーザー級の現役王者でしたか（笑）。ジェットセンターといえば、木村健悟という新日本プロレスの選手も一時期トレーニングしていたはずですけど、覚えてますか？

ニールセン　おー、ケンゴ！　ナツカシイネ！　彼とは仲が良かったよ。彼はいま、何をしてるの？

——いまや新日本プロレスのスカウト部長ですよ。







高級住宅街でもあるバンコク中心のスクンビット地区でカイロプラクティックの診療所を経営するドクター・ドン。5人のドクターに加え、4人の事務員を雇うほど、ビジネスは大繁盛とのこと。

"KAMINARI-TE"DON NA

ニールセン　それは凄いな。彼はカラオケがうまいんだよね（笑）。ケンゴが練習に来ていたように、当時ジェットセンターと新日本は業務提携をしてたんだ。それで新日本からキックボクサーを出してくれと依頼があって、ボクに話が回ってきたんだよ。

——伝説の前田日明戦ですね。それまでの試合はキックだけだったと思うんですが、異種格闘技戦のオファーが来たときはどう思いました？

ニールセン　興奮したよ。そして嬉しかった。自分のルーツである日本にはいつか行ってみたいと思っていたからね。異種格闘技戦にも非常に興味があった。ボクの前に異種格闘技戦をやったのは、イノキとモハメド・アリ、それにモンスターマンとかウィリー・ウィリアムスくらいで、限られた人間だけだったからね。そういう闘いを自分ができるのは嬉しかったよ。

——その当時、プロレスがどういうものなのかは理解してましたか？

ニールセン　プロレスのことは、よくわかってなかったね。レスリングがあって、ボクシングがあって、空手があって、という感じの認識でしかなかった。マエダとの試合の前も、キックボクシングの練習ばかりしてたんだ。プロレスのコーチについて組み技を教わったりもしたけど、まだまだ素人だったしね。

——あ、そうだったんですか。あの試合で、前田さんはプロレスのリングではありえないくらい殺気立っていたんですけど、覚えてますか？

ニールセン　普段の前田がどんな感じなのか知らないから、よくわからなかったな。ナーバスだったんだろうけど、それは試合前には当たり前のことだしね。

——試合も、シーザージムでかなりキック対策を練っていたみたいです。

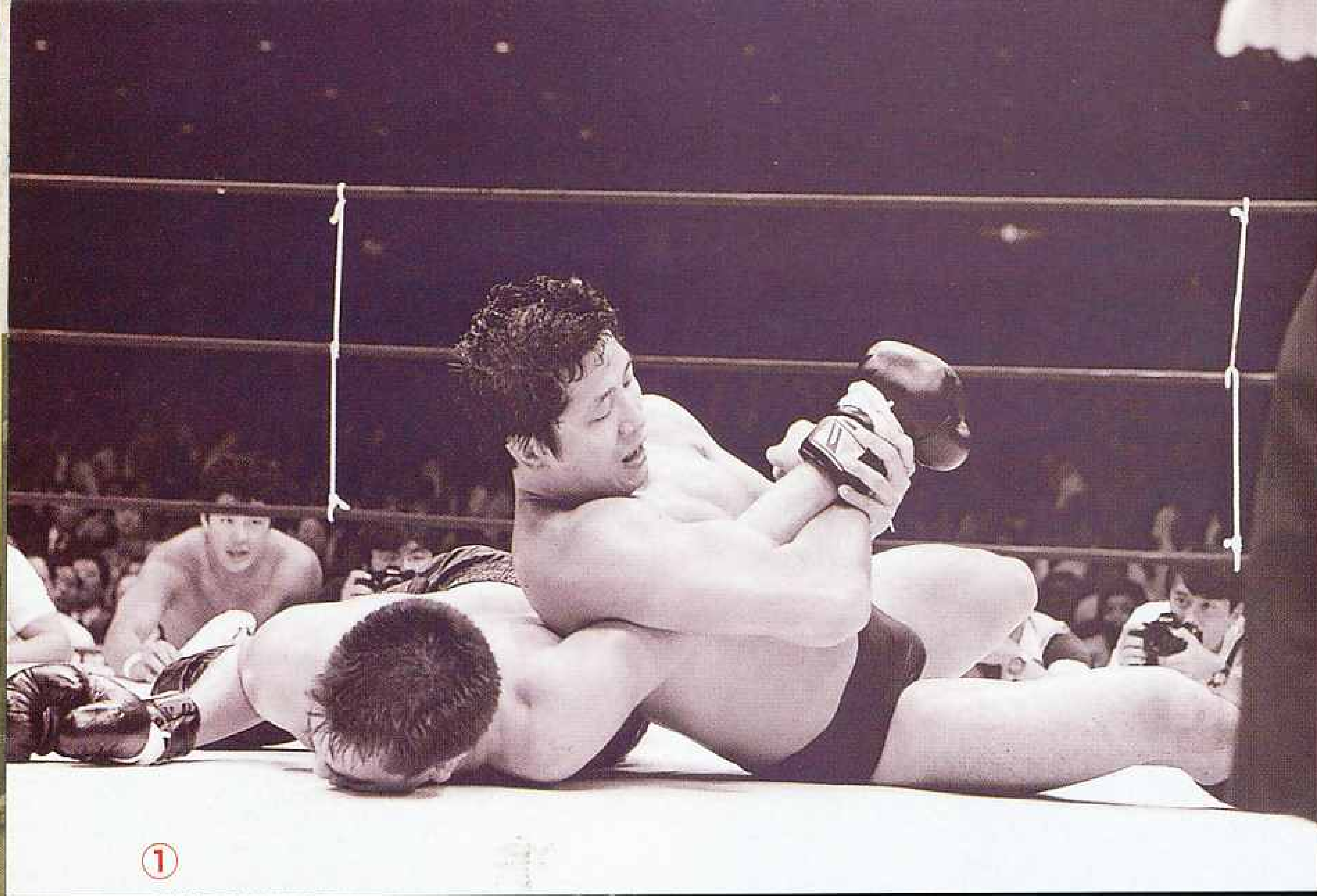
ニールセン　ああ、シーザー（武志）さんのところで練習していたんでしょ。雑

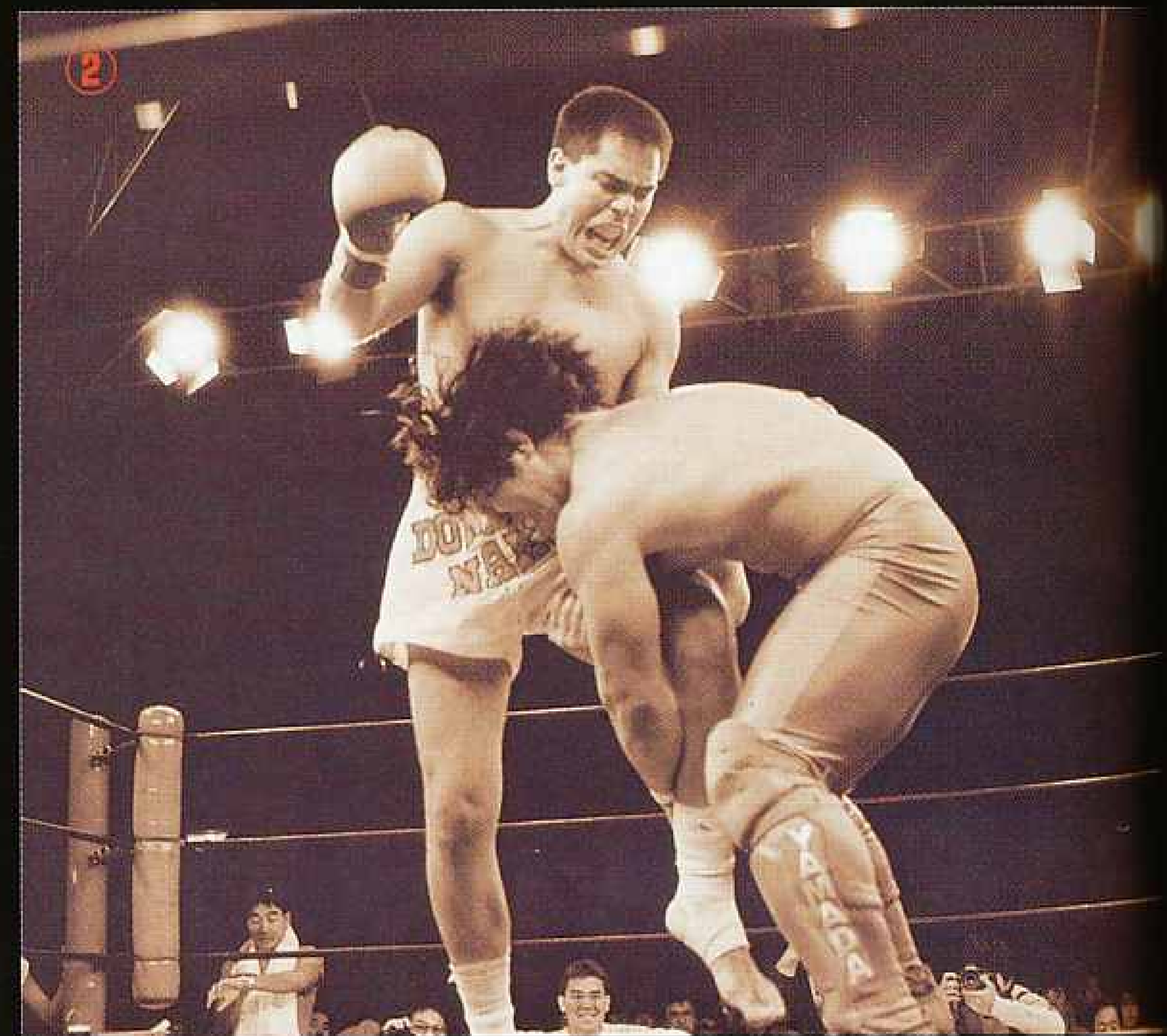
誌で写真を見たよ。
——試合前には、新日本からドンさんに何か話があったんですか？
ニールセン いや、マエダの身長と体重のデータだけは聞かされてたけどね。他にはとくになかった。基本的に、ボクに話をしてくるのはジェットセンターだったんだよ。新日本とジムが話をして、ジムがボクに話をする、と。でもそういう話って"ケッフェイ"なんじゃないの？
——ケーフェイですか（笑）。
ニールセン 日本のプロレス関係者に教わったんだよ（笑）。
——こういうことをなぜお聞きしてるのかというと、べつに暴露話をしてほしいわけじゃなくて、ドンさんと前田さんの試合が他の異種格闘技戦と比べてとてつもなく緊張感があったからなんですよ。前田さんが異様に殺気立っていたことも含めて、普通のプロレスとか、プロレス内ビジネスとしての異種格闘技戦とは違ったものがあったんじゃないかと。前田さんは当時の新日本プロレスでは異分子で、ドンさんとの試合は「降りかかった火の粉」だったと。
ニールセン なるほどね。確かに「ここでこうやって、その次はこう」と流れを決めたわけではなかったね。ボクが言われたのは「試合を盛り上げてくれ」っていうことだけ。
——あ、その程度ですか。
ニールセン うん。だから緊張感があったんじゃないかな。それから、あの試合では1Rにボクのいいパンチが入ったのを覚えてるかい？
——覚えてますよ。前田さんもインタビューで「普通、いきなり顔面パンチを狙ってこないでしょ。あれは俺じゃなかったら倒れてますよ」と言ってます。
ニールセン あれはKOできそうなパンチだったね。だけどセコンドに「アーリーノックアウトはダメだ」って言われたりして、そういうところで、キックボクシングとプロレスリングのスタイルの違いがあったけれど、自分の中ではキックボクシングをやっているときと同じ気持ちだったよ。
——格闘家としての前田さんの印象はどうでした？
ニールセン ん？ 大きくて、強い人だったな。でも反応がちょっと遅かったね。
——キックとかパンチはどうでした？
ニールセン UWFとムエタイのキックは違うでしょ。ボクとの試合でも、彼のキックはUWFスタイルだった。だからボクは心配する必要がなかったね。でも、この試合のあと、マエダのスタイルが認められたんでしょ。
——と同時に、ドンさんも日本で認められましたよね。新日本のリングでキックの試合をしたり。藤原（喜明）戦、山田（恵一）戦では見事に勝利して。
ニールセン ああ、でもあれはビジネスファイトだよ（あっさり）
——ビジネスファイトというと……。
ニールセン ビジネスファイトはビジネスファイトでしょ。
——わかりました（笑）。それにしても藤原戦、山田戦で連勝ということは、新日本のオフィスもドンさんにかなり期待をかけていたと思うんですよ。
ニールセン そうなのかな。ボクは新日本とは直接、話をしてないんでわからないけどね。いつも話をするのはジェットセンターの人間で。でも、日本でいろんな関係者と話をしているうちに、ジェットセンターがボクに対して言っていることと、現実とのギャップに気づいたんだよ。
——というと？
ニールセン まあ、一番の違いは金銭面かな。ボクはもらえるべき金額をもらえていなかったってことだよ。それで、ジェットセンターを離れたんだ。
——それで新日本に出なくなったわけですね。
ニールセン 新日本とは、まったく問題はなかったんだけどね。ボクがジェットセンターと離れたことによって、自動的に新日本とも切れてしまったんだ。
——そこから、全日本キックに闘いの場



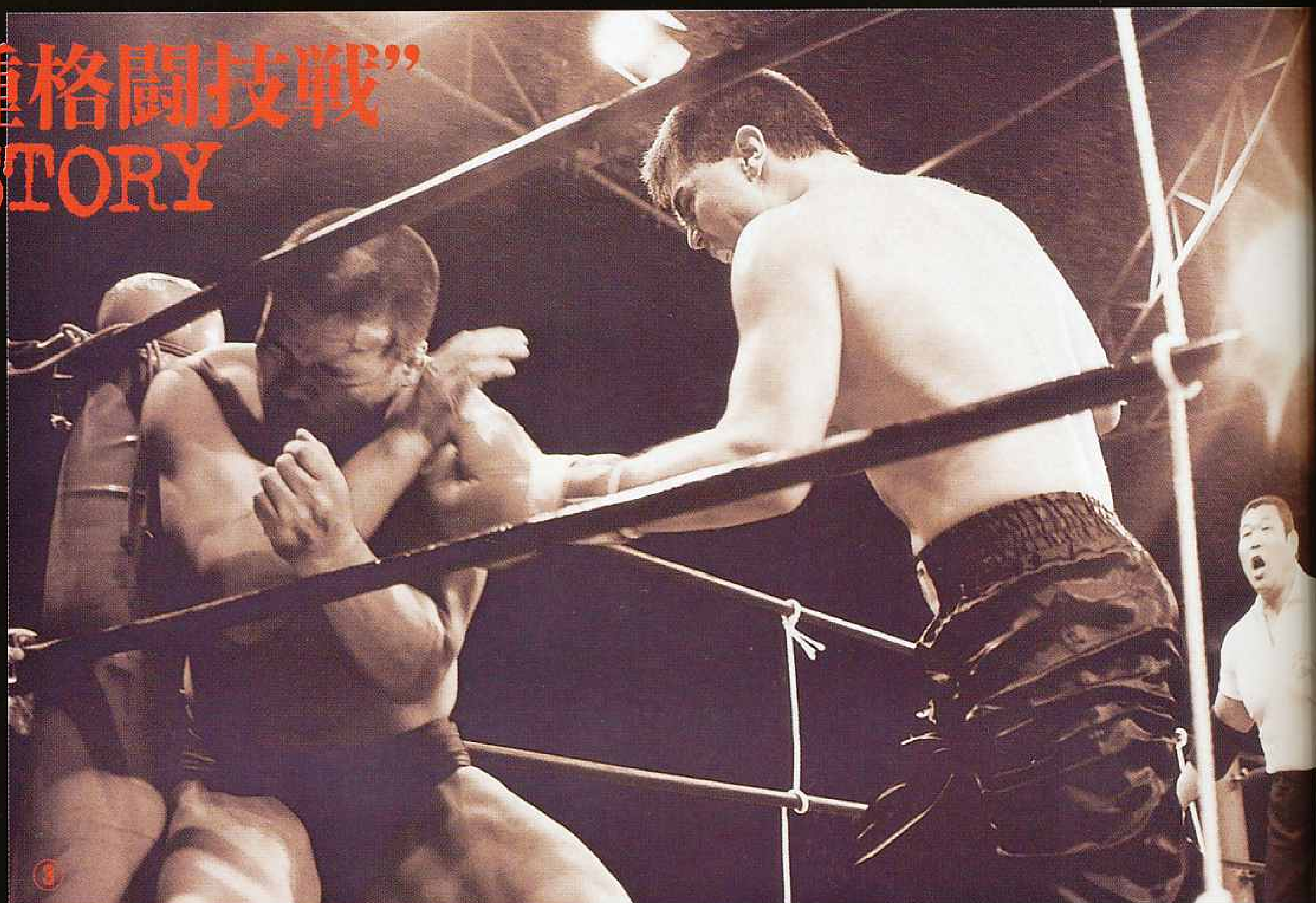
マエダ戦の前にボクが新日本から言われたのは「試合を盛り上げてくれ」それだけだったよ。

"KAMINARI-TE"
DON NAKAYA NIELSEN

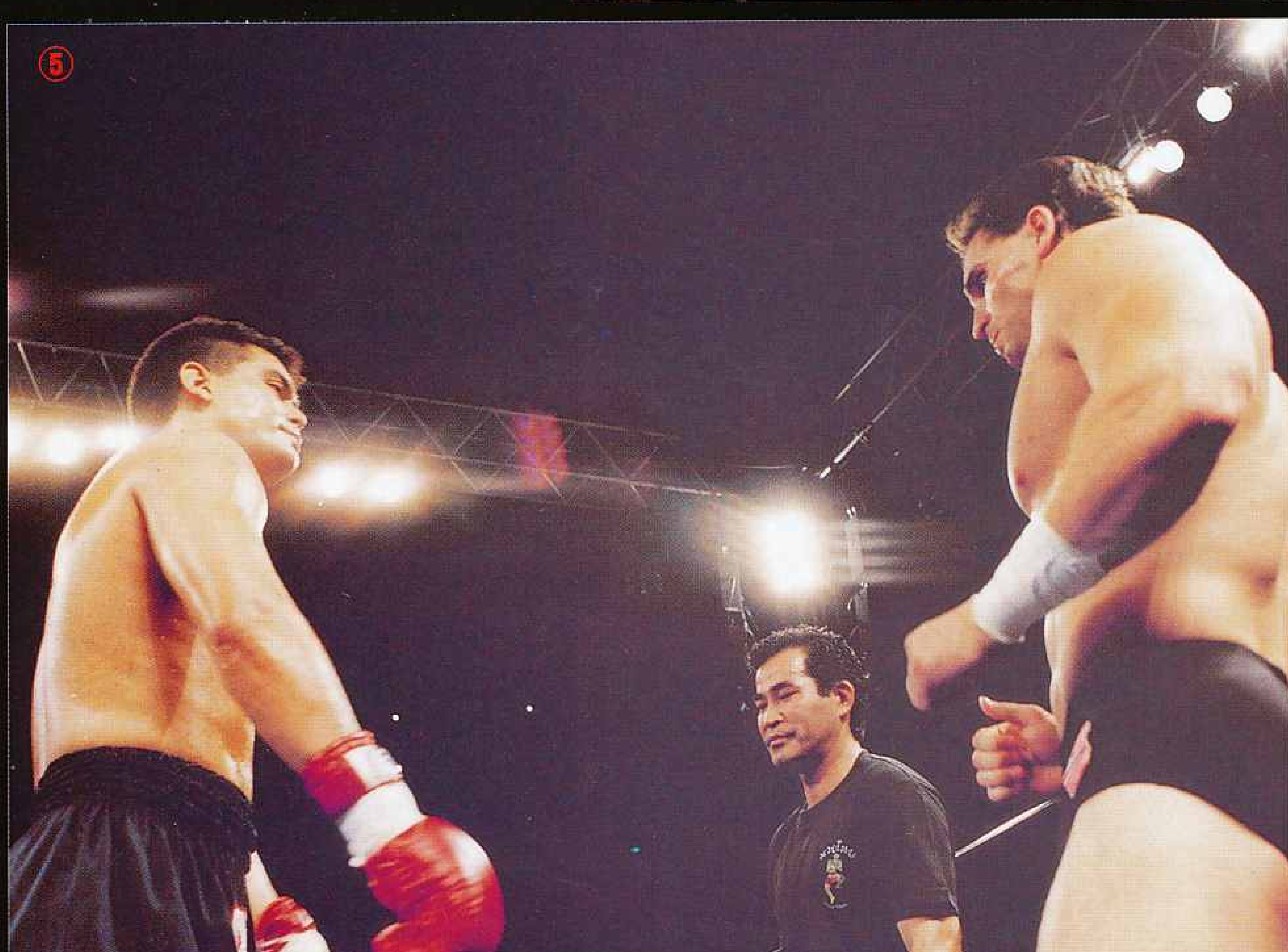


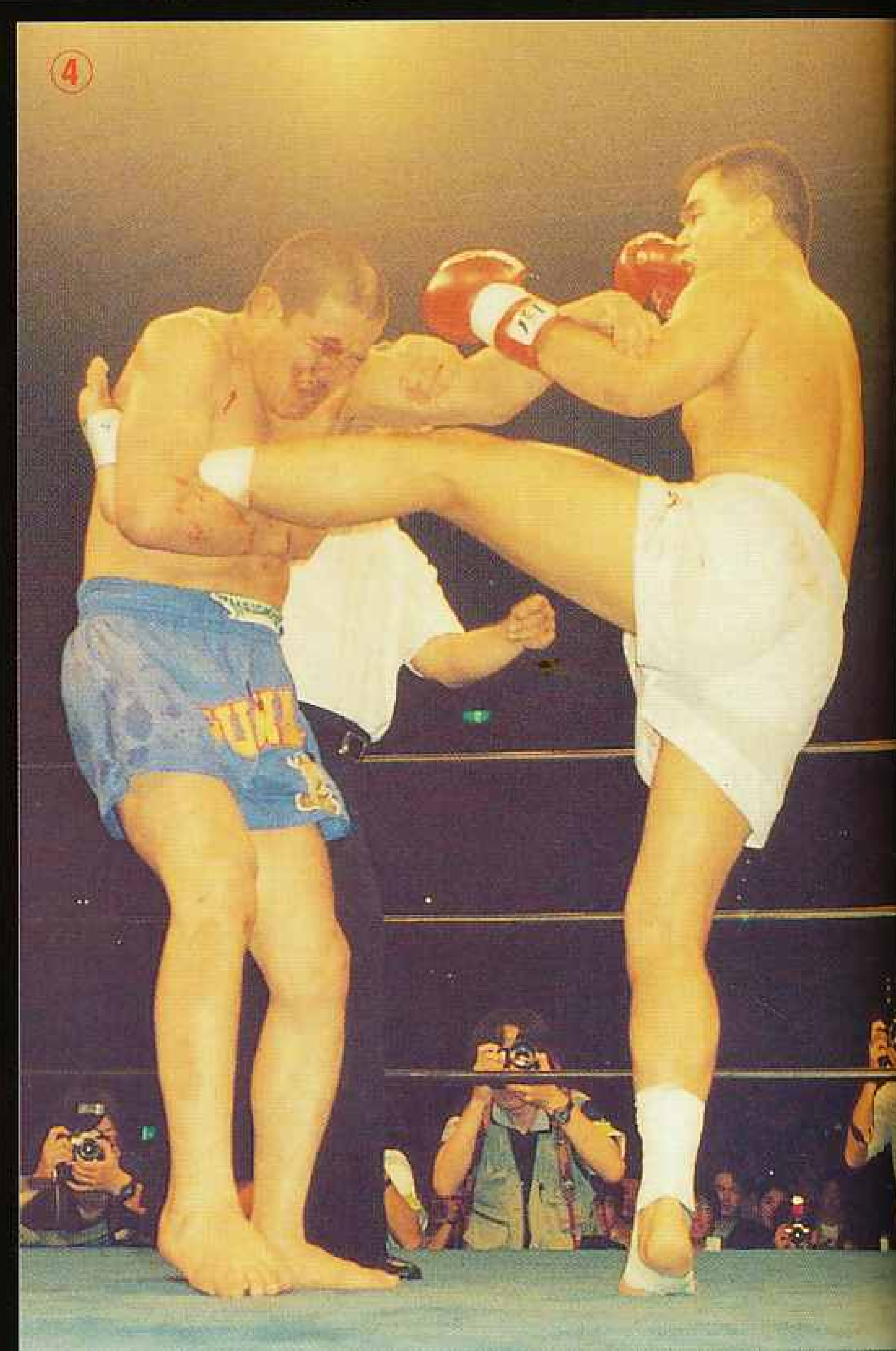


"ミスター異種格闘技戦"
BOUT HISTORY

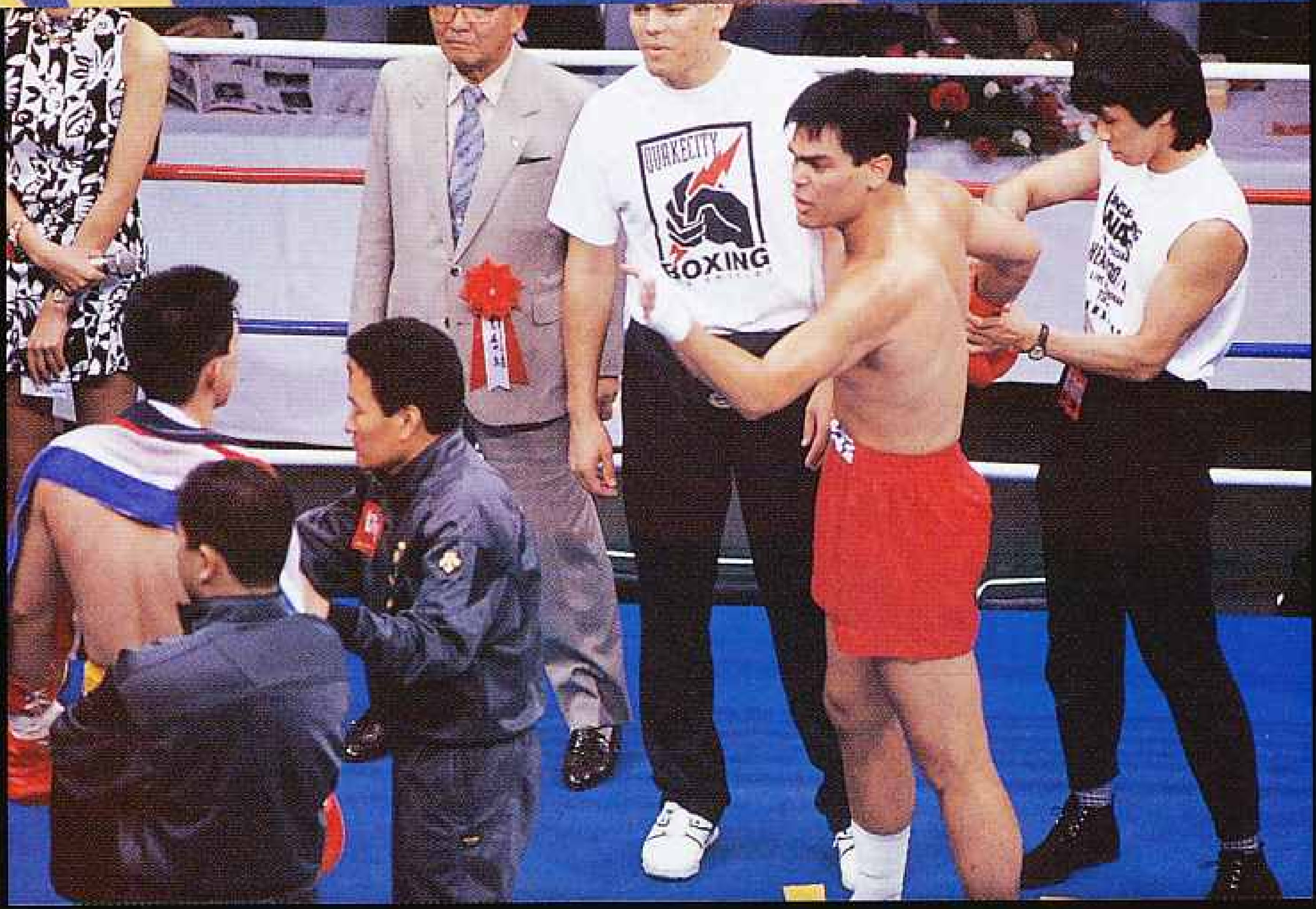


1　86年10月９日、前田日明との一戦は格闘技戦史上に残る名勝負に。この一戦がプロレスファンが"格闘技"に関心を持つスタート地点となり、雑誌『格闘技通信』も創刊。こんにちの格闘技人気の出発点となった。　2　88年５月８日、骨法を身につけた新日本のホープ、山田がニールセンに挑むもＴＫＯ負け。試合後、リングサイドにいた骨法・堀辺正史師範がニールセンに「俺と闘え！」と迫る場面も。　3　88年７月29日、愛弟子・山田が敗れたのを受け、藤原が満を持して登場するも、無念のＴＫＯ負け。　4　92年５月15日、場所を藤原組のリングに移し、組長が４年越しのリベンジ戦に挑んだが、開始早々、ニールセンの左ハイキックがコメカミにヒットし、まさかのＴＫＯ負け。　5　92年10月４日、東京ドームで行われた一戦は、シャムロックがタックルからのアームロックで秒殺ＫＯ勝ち。のちのパンクラスを思わせる試合が、ニールセン最後の異種格闘技戦となった。









1990年６月30日、日本武道館。新生ＵＷＦ全盛のこの時期、人気絶頂の前田日明と名勝負を展開したビッグネーム、ニールセンが全日本キックのリングで空手家・佐竹雅昭の挑戦を受けた一戦。佐竹はこの時点で正道会館・全日本選手権三連覇を果たし“フルコンタクト空手界の怪物”と呼ばれていたが、キックボクシングは初挑戦。下馬評では「ニールセン圧倒的有利」と言われ、事実、佐竹は技術的に荒削りであったが、団体を背負った佐竹は反則の頭突きまで繰り出し気迫で圧倒。１Ｒ２分７秒、右ストレートでニールセンをＫＯし、一躍その名を世に知らしめた。この佐竹の勝利が、３年後、Ｋ－１グランプリ開催へとつながっていったのである。

を移すわけですね。全日本キックのリングで、もっとも印象に残っている試合は?

ニールセン　それは難しいな。10試合くらいやったんだけど、ボクにとってキックボクシングは本業だからね。決して特別なことをやったわけじゃないから（笑）。ただタイに初めて来たのも、全日本キックの遠征だったんだよ。そういう意味で全日本キックはボクの人生に大きな影響を与えたね。

——佐竹（雅昭）選手との試合は覚えていますか?

ニールセン　もちろん覚えてるよ。彼はラッキーボーイだったね（笑）。

——試合中、佐竹選手がバッティングしてきて、それでペースが乱れたと。

ニールセン　言い訳はしたくないんだけど、ボクは試合の一週間前に練習でＫＯされてしまったんだ。そのダメージが残っていて、さらにサタケにヘッドバットされたんだ。

——佐竹選手は、「試合前にニールセンに『なんでもアリでＯＫだ』と言われたから、やったんだ」と言ってるんですよ。

ニールセン　ボクがそんなこと言ったの?（笑）。でも、キックボクシングなんだからはキックのルールでやるに決まってるじゃない（笑）。

——まあ、そうなんですけど（笑）。その後、藤原組のリングにも上がりましたよね。

ニールセン　全日本キックのスタッフとフジワラさんが仲が良かったんで、そのつながりから1年契約を結んだんだ。

——新日本と藤原組は、何か違いがありましたか?

ニールセン　一言でいうと、藤原組はギャラがよかった（笑）。

——ダハハハハ!

ニールセン　新日本のときはジェットセンターのマネジメントがひどかったからね。ボクの手元にはほとんど残らなかった。

——藤原組には大きなスポンサーがいましたしね。

ニールセン　メガネスーパーでしょ。

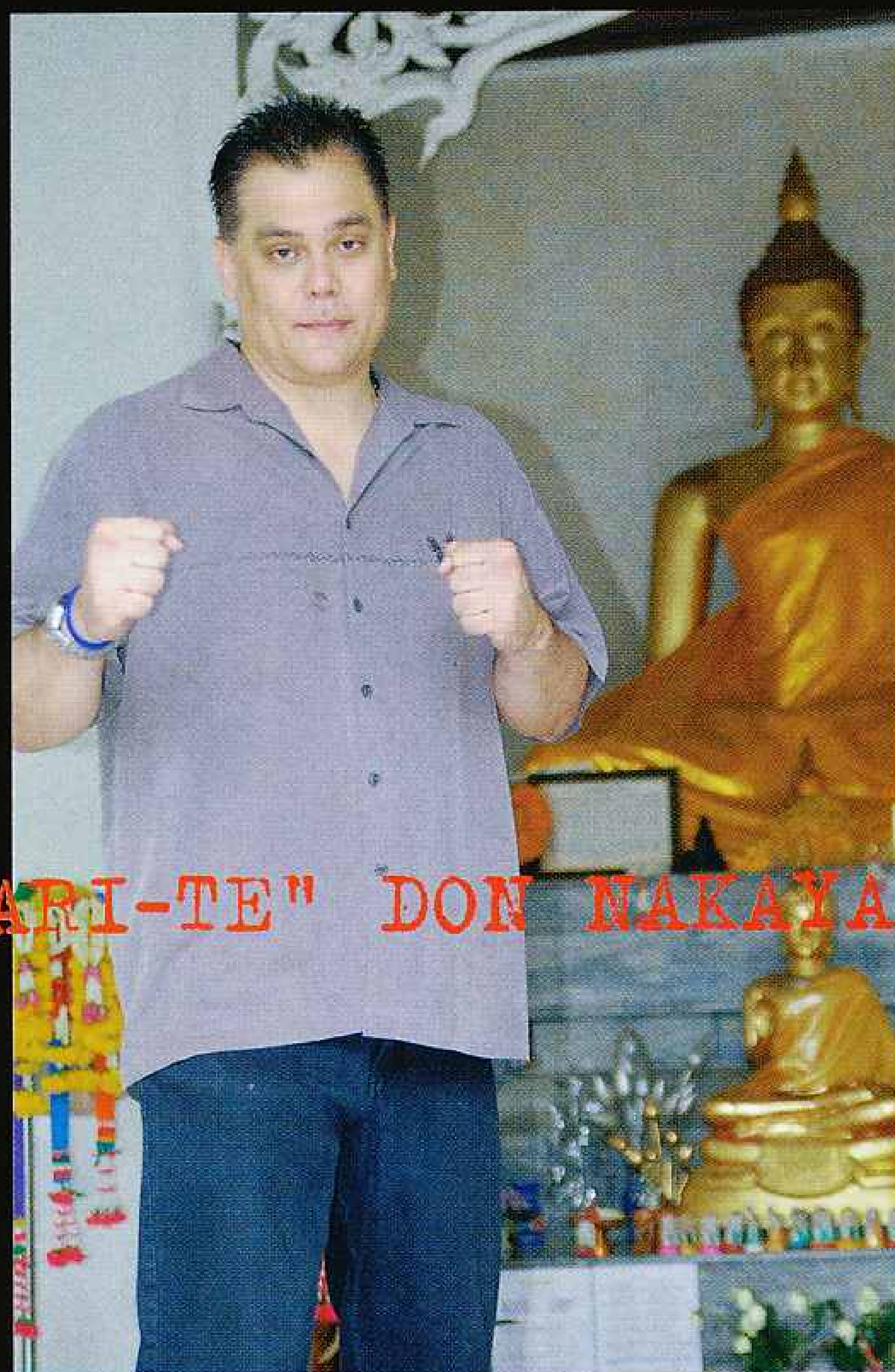
——よくご存じですね（笑）。リング上では何か違いはありましたか?

ニールセン　いや、新日本と同じだよ。

——あ、そうなんですか（笑）。
ニールセン　うん。やっぱりボクにとって一番思い出深いのはマエダ戦だね。それまでは1000人とか1500人とかの前でしか試合をしたことがなかったから。マエダとやった会場は1万人くらいお客さんがいたでしょ。もの凄く興奮したし、その場で闘っていることを誇りに思えたね。でもマエダさんとの試合がきっかけで日本で多くの試合をすることができたし、それがもたらしたモノは大きいよ。
——前田さんはいま、K-1と組んで『HERO'S』という大会のスーパーバイザーをしているんですよ。
ニールセン　へぇ？　彼とはもう2年くらい話をしてないんだよ。以前は連絡を取り合ってたんだけどね。
——最後に会ったのは、リングスでの前田さんの引退試合にゲストで来場されたときですか？
ニールセン　その後も一度だけ会ったね。マエダさん、なぜか会うとコンドームをくれるんだよね（笑）。
——なんでだ（笑）。マエダさんと再会したときはどんな気持ちでしたか？
ニールセン　まるで古い友だちに会ったような感覚だったね。
——ドンさんがリングスで試合をするっていう話もありましたよね。
ニールセン　あったね。でも契約するまでにはいたらなかった。

ボクが若い頃だったら、その永田って選手をブッ飛ばしていただろうね（笑）

——それはどういう理由で？
ニールセン　お金だよ（笑）。
——なるほど（笑）。そのときだったか、柔術衣を着たドンさんのプロモーション写真を見ましたよ。
ニールセン　うん、柔術も習ってたね。ジョー・モレイラに。
——トレーニングはまだ続けてるんですか？
ニールセン　たまにね。週6日働いているから、ほとんどできないけど。キックと柔術を練習してるよ。でも、さすがに歳だからもう試合はできないけどね（笑）。
——ところで、ご存知ないかもしれませんが、新日本の永田というプロレスラーが、PRIDE王者のエメリヤーエンコ・ヒョードルと闘って無策で敗れたことを、前田さんが批判したんですよ。それに対して永田選手はドンさんと前田さんとの試合を揶揄したんです。自分とヒョードルの試合と、前田vsニールセンはジャンルが違う、というような感じで。
ニールセン　まあ、そのナガタって選手がどう感じようと、それは彼の自由だよ。ボクは気にしないね、昔の話だし。20年前のことでいちいち目くじらを立てたってしょうがないよ。ただボクが若い頃だったら、ブッとばしていたかもしれないな（笑）。
——逆に前田さんは、あなたとの試合を、もの凄く誇りに思っているようです。
ニールセン　あの闘いには、単なる試合以上のものがあったと思うしね。そういえばあの試合のあと、ボクはディスコに行ったんだよ。でもマエダさんは病院に行ったんだよね。
——それだけドンさんのパンチがハードだったということですね。やっぱり前田戦には思い入れがありますか？



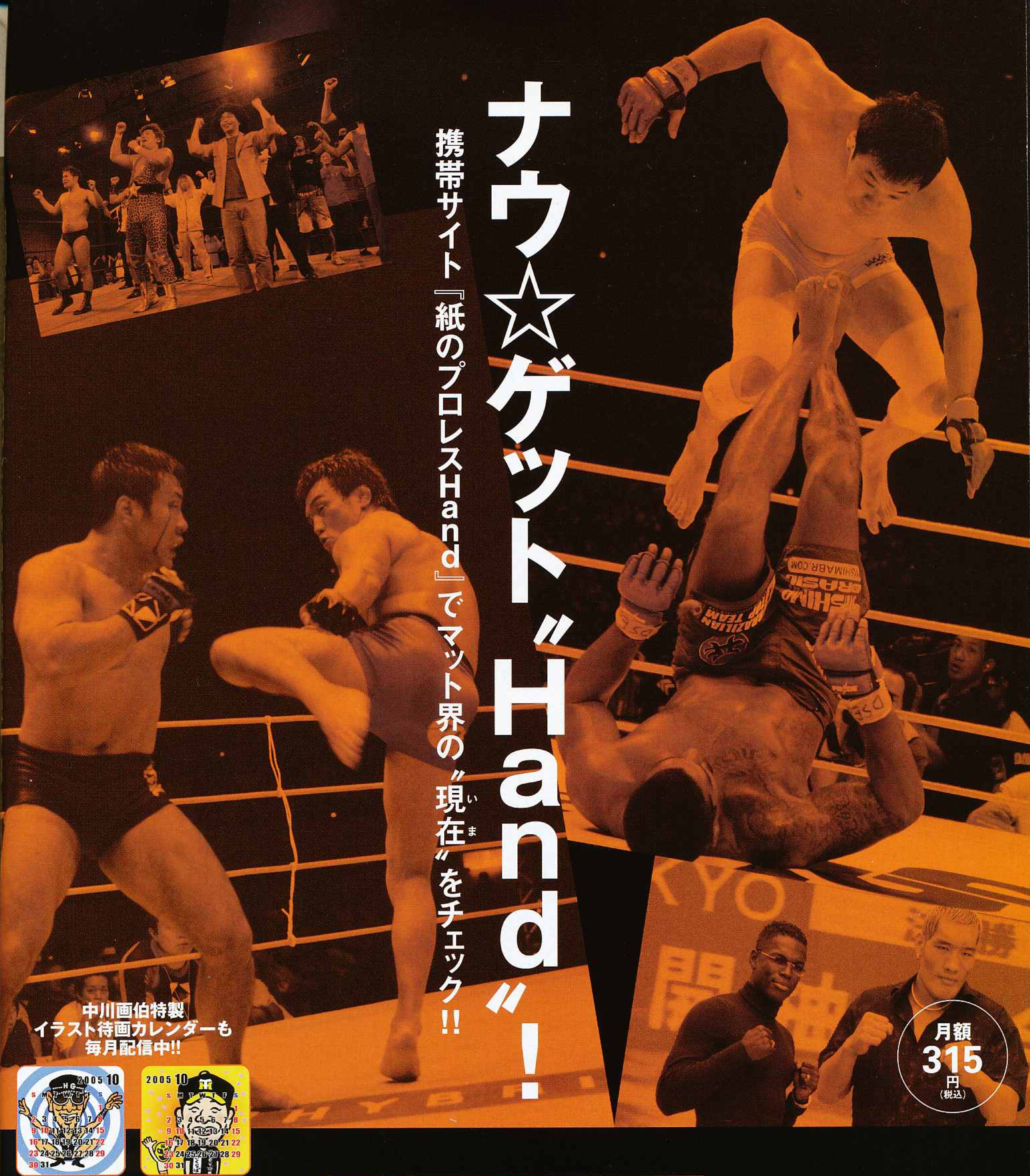
"KAMINARI-TE" DON NAKAYA NIELSEN

DON NAKAYA NIELSEN
1960年7月8日、アメリカ出身。80年代"怪鳥"ベニー・ユキーデのジム、ジェットセンターに所属したキックボクサーとして、WKA・USクルーザー級王座を獲得。86年に行われた前田日明との一戦は、格闘技戦史上に残る名勝負と絶賛される。その後、山田恵一、藤原喜明を撃破。格闘技戦での名声を買われ本業のキックでもビッグマッチに駆り出されるが、ロブ・カーマン、佐竹雅昭、ケビン・ローズイヤーに敗れた。現在はタイで整体治療院を開業。188cm、88kg（現役時代）

ニールセン　思い出深いものがある試合だね。試合自体がおもしろかったのもあるし、念願がかなって日本に行けたわけだし。
——日本のファンにとっても、ドンさんは凄く印象深い選手ですよ。前田さんとドンさんの試合が日本の総合格闘技ムーブメントにつながっていった部分もありますし、佐竹選手はドンさんに勝ったことでスターになって、そこからK-1にいたっているわけですから。いってみればドンさんは、格闘技の2大潮流のルーツにいるわけです。
ニールセン　そう言ってもらえると嬉しいね。ボクも日本で得たものは本当に大きかったよ。
——では、この記事を読んでいる日本のファンに何かメッセージをお願いします。
ニールセン　……ボク、マダイマス（日本語で）。
——そりゃそうですけども（笑）。
ニールセン　もう試合はできないけど、まだボクのことを覚えていてくれている人がいるのは、本当に光栄だよ。
——日本のファンの前にも顔を出してくれる機会があるといいんですが。日本のプロモーター、とくに『HERO'S』がゲストで呼んでくれればいいんですけどね。
ニールセン　ボクも久しぶりにマエダさんや、日本の選手、関係者と会いたいね。
——では今度は、ゼヒ日本でお会いしましょう！

［05年9月29日（現地時間）／タイ・バンコク市内のレストランにて収録］

佐山、三銃士、船木たちが通い詰めた思い出の場所



俺たちは21世紀の



『紙の破壊王』
発売記念特別インタビュー

新日本プロレスの青春は、このラーメン屋にあった

佐山、三銃士、船木たちが通い詰めた思い出の場所

等々力『中華　紅蘭』マスター

木村政一

『紙の破壊王』発売を記念して『kamipro』しかできないスペシャルインタビューが実現だ！　新日本プロレスを30年の長きに渡り間近で見続け、破壊王をよく知る男、ラーメン屋の御主人が登場！

聞き手／堀江ガンツ、ジャン斉藤　designed by Shiraki (TwoThree)



「新日本プロレスの昔話なら、『紅蘭』のマスターに聞くのが一番！」

武藤敬司や仲野信市が以前から本誌にそう勧めていたのは、等々力『中華　紅蘭』のマスター、木村政一さんのこと。木村さんは長年、神輿会の会長を務めている等々力の顔役で、新日本プロレスの選手たちと深くて長い付き合いがあるという。

このインタビュー企画は当初、現在絶賛発売中の本誌特別編集『紙の破壊王　ぼくらが愛した橋本真也』に収録する予定だったが、おそらく話題は破壊王以外の多岐にわたることが予想されたため、急遽本誌掲載に変更！　一度は本誌の取材依頼電話を「俺が出る幕じゃねえだろ！」とべらんめえ口調で断ってきたマスターだったが、なんとかインタビュー出演を了承してくれた。

こうして新生『kamipro』は、〝クロアチアの国会議員〟と〝等々力のラーメン屋店主〟が同居する〝マット界の総合誌〟ぶりを発揮することになったわけだが、この『中華　紅蘭』のマスター、やっぱりタダモノではなかったのだ‼　ぜひともいま明かされる破壊王＆新日本エピソードの数々を腹いっぱいたいらげてほしい！

マスター　（取材陣が店に入ると）いらっしゃい‼

――いや、昨日お電話した『kamipro』編集部の者なんですが……。

マスター　（一変して険しい表情になって）ああ……。ま、そこに座んなよ。

――はい！　お電話でお伝えしましたが。今日は橋本さんのお話を伺いにきました。お仕事中申しわけありませんが、よろしくお願いします！

マスター　……ホントはさ、俺なんかが出る幕じゃねえだろ！　って思ってたんだけどね。橋本のことだったら、しゃべれる人、俺以外にいっぱいいるだろ？　その人たちに取材をしなよ。

――ボクらもいろんな選手や関係者に橋本さんのことを聞いて回ってるんですけど、武藤（敬司）さんや仲野（信市）さんが「昔の新日本のことだったら『紅蘭』のマスターが一番知っている」と言われていたので、ぜひお話を聞かないといけないなって思ってるんです。

マスター　ああ、そう。……でもさ、橋本の思い出っていったって、いますぐパッと出てくるわけじゃねえからな。

――もう思い出がありすぎちゃって。

マスター　そうそう。橋本の人生の半分を俺は見てきたわけだし。あと俺は橋本だけの付き合いじゃないからね。ほかのレスラーともいろいろあったから。最近もさ、サイモン・ケリーの社長就任式パーティーに呼ばれてるんだよ。

――あ、マスターが呼ばれてるんですか？

マスター　うん。アンタらも行くんだろ？

――いや、ウチは昔から新日本さんとはなぜか距離がありまして（笑）。なかなかそういう場所にはお声が掛からないんですよ。

マスター　へえ～。じゃあ坂口（征二）さんの道場開きは？

――そちらも行ってません（笑）。ぜひ取材したかったんですけど。

マスター　坂口さんは本当はこの付近でやりたかったみたいなんだよね。ここらには地主さんはいっぱいいるから、俺とちょっと話をしたりね。俺はこのへんの神輿の会長をずっとやっているからさ。

――つまり、マスターは等々力の顔役なんですね。

マスター　まあ等々力では俺のこと知らないやつはいないから。

――それもあって新日本とは付き合いが深くなって。

マスター　新日本のパーティーや結婚式があるとしょっちゅう呼ばれてるんだよ。一度、呼ばれたときなんか、テレ朝のアナウンサーが並んでるところでさ。なんでこの席なんだろうって（笑）。

――テレビアナ軍団とラーメン屋の主人がどうして相席なんでしょうね（笑）。そもそも新日本とはどういうきっかけでそんな関係に至ってるんですか？

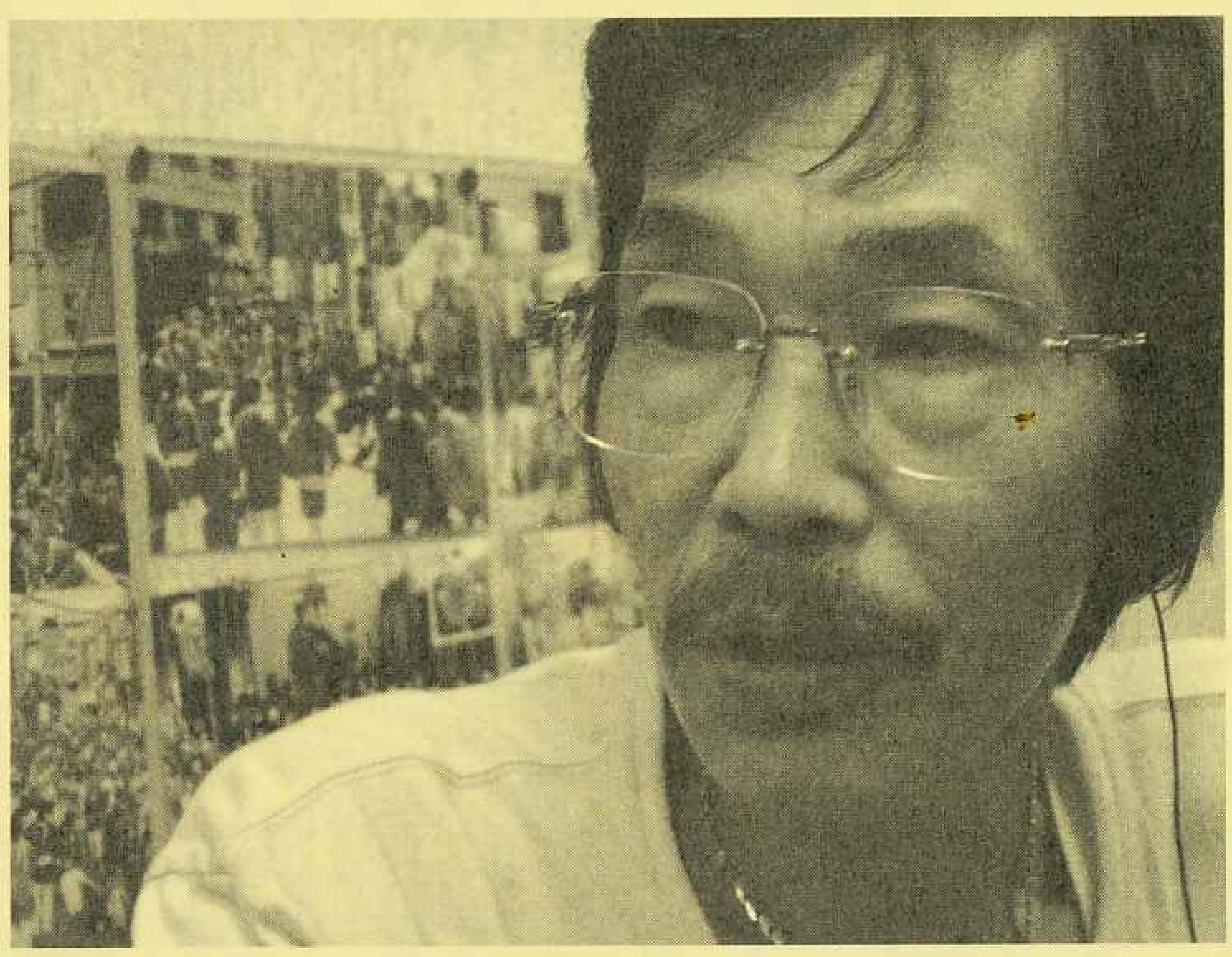
マスター　最初はね、俺の本当に仲の良かった友だちが32歳ぐらいで亡くなったの。そいつは肉屋をやってたんだけど、新日の道場に肉を運んだり、猪木さんが倍償（美津子、前アントン夫人）さんと代官山に住んでた時分に家にも行ったりしてさ。

――マスターの友だちが新日本と付き合いがあったわけですね。

マスター　で、そいつの葬式は俺が喪主をやったんだけど、新日の選手がみんな来てくれて。ヒロ斉藤はカルガリーから帰ったばっかだったんだけど、保永（昇男）とかみんなで棺をかついでさ。それからの付き合いだな。それからウチが新日本のたまり場みたいになっちゃってさ。髙田（延彦）なんかバナナやヨーグルトを持って遊びにきてたし、夜になるとここで麻雀やったんだよね。多いときは二卓も立ててよ。

――夜はレスラー専用の雀荘になってましたか（笑）。

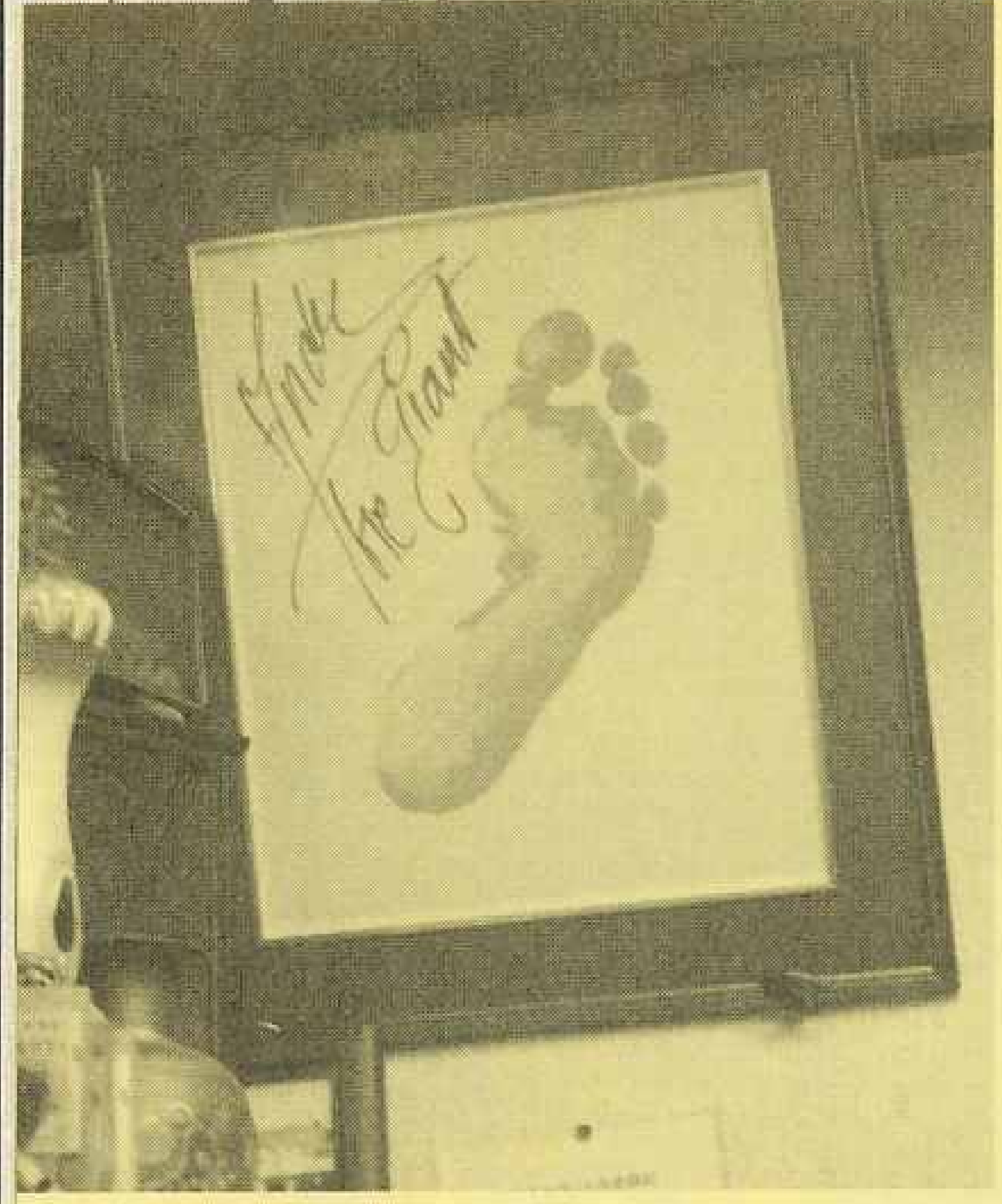
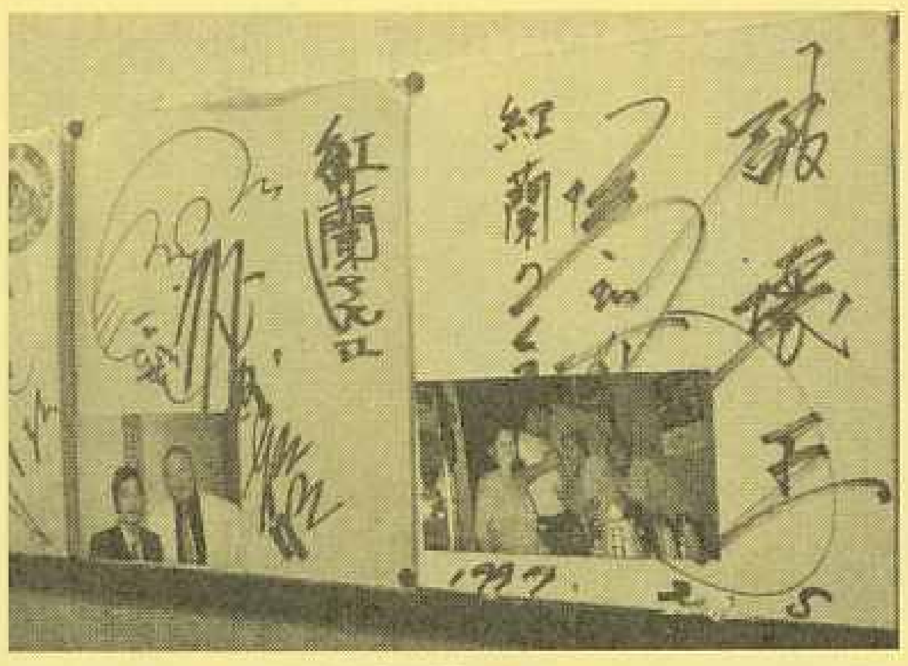
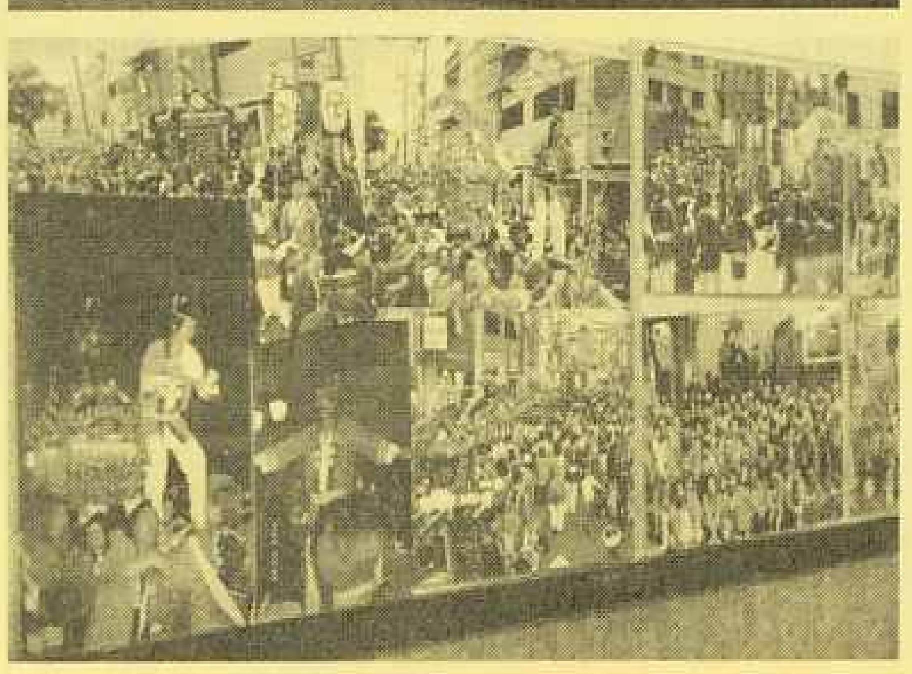
マスター　あと飲み会やったりね。選手がそこの厨房で何かつくったりして。あのころの選手は自分たちでちゃんこをつくってたでしょ。ホントうまかっ



「俺たちは21世紀の

ウチが新日本のたまり場になってたんだ。後藤達俊が2階に居候してたり

たんだよ。
—いまは小林邦昭さんが道場の管理人でちゃんこをつくってるみたいですけど。
マスター　みたいだね。保永君とかヒロ斉藤もちゃんこつくるのは上手だったよね。それで店を早く閉めちゃって、みんなでちゃんこ食ったりしたこともあったし。
—そこまでくると〝第二の新日本寮〟みたいなもんですね（笑）。
マスター　ああ、たしかにな。後藤（達俊）は半年ぐらいウチの2階に居候してたし。

等々力の顔役だけあって神輿に乗って暴れるマスターの写真も飾られている店内。インタビューで語っているように破壊王が「くそおやじ」と書いたサイン色紙もある（隣には藤波組長の色紙も）。店内を見上げれば、“大巨人”アンドレの足形があり、その脇にちらりと見えるのはジェット・シンの壺だ。

—ガハハハ！　どうして後藤さんが居候してたんですか？
マスター　住まいは名古屋でしょ、あの人。しばらく東京にいたり、巡業なんかでこっちに帰ってくるときは2階に住んでたんだよ。
—後藤さんは酒乱で有名ですけど、被害に遭われたりしませんでしたか？　酔っぱらうと包丁を振り回したという話をよく聞いてますけど（笑）。
マスター　いや、そうでもないけどね。それは度を越えたときっていうか、ウチでは暴れたときはねえな。っていうか、暴れようがないんだけどさ、小さい店だから。
—暴れたとしてもマスターに一喝されて終わりでしょうね（笑）。しかし、そんな深い関係だったとは驚きです！
マスター　いまでもみんなさ、しょっちゅう遊びに来るんだよ。だからホントは雑誌（の取材）はお断りなんだよ。ヘタにウチのことが知れ渡ってプロレスおたくが来ちゃうとね。
—すいません（笑）。なるべく場所が特定できないように掲載しておきます！
マスター　橋本も結婚してから奥さん連れて遊びに来てたんだから。蝶野（正洋）、ムトちゃん（武藤敬司）も来てた。闘魂三銃士ができたころは、新日本を背負って立とうという気持ちが強くて、3人が3人とも「俺がトップを取ってやる」なんてよく言ってたよな。
—将来の夢をマスターに語っていたんですね。
マスター　実際にそうなったでしょ。みんな大物になって。だから橋本の思い出というよりは、みんなの思い出がそれぞれあるよな。
—古くは前田（日明）さんから三銃士の時代まで、道場で練習が終わったらみんなここに来てたみたいですし。
マスター　佐山（聡）なんかもデビュー前から来てたよ。あのときは俺にちっちゃい子どもがいたんだけど、子どもにおもちゃ買ってきてくれたりね。新日との付き合いは30年近いあるから、選手と一緒にいろんなことやったんだよ。祭りになるとよく選手が神輿を担ぎにきたりさ。それで天山（広吉）なんかマジックで顔にペイントして担いでいたよ。
—それはやっぱり橋本さんの仕業ですか？（笑）。
マスター　いや、それはライガーかな。
—当時の新日本には橋本さん以外にも個性的な人間が集まってましたよね。
マスター　ジョージ（高野）と俊二（現・高野拳磁）なんか、ウチの二階で兄弟喧嘩してたし。
—なんで二階で高野ブラザーズが喧嘩してるんですか（笑）。
マスター　いや、さっき話した肉屋の葬式のときにYシャツを用意してなかったとかなんかで。ジョージはいま九州にいるんだけど、橋本が死んだときは、おいおい泣きながら電話をかけてきたんだよ。けっこういろんな面で橋本と交流はあったからさ。
—ジョージさんはZERO－ONEにも出てたこともありましたもんね。
マスター　だからジョージは橋本のことを信頼してたし、逆に橋本もジョージのことを信頼してたね。ジョージとは2時間ぐらい電話で話しをしたんだけど、「葬式に行きたいんだけど、行けない」って泣きながら言ってたよ。
—きっと時代の思い出が蘇ったんでしょうね……。武藤さんから聞いた思い出で一番おもしろかったのは、道場から『紅蘭』までランニングしてここでラーメンを食べて、また道場まで走って帰るレースをやってたことなんですけど（笑）。
マスター　そうそう。まず道場でスクワット100回やってからウチまで走ってきてラーメン食って。それで店の前でスクワット100回やって帰る。その模様を船木（誠勝）たちが俺の車に乗りながらビデオで撮ってたな（笑）。
—ガハハハ！　全員が全力で馬鹿やってたんです



ね（笑）。

マスター　何しろ昔は若手がみんなでまとまっていたからさ。新弟子のときはつらいことがあったかもしれないけど、それを乗り越えて一人前になってな。いつも思うんだけど、レスラーというのはああいう過激な仕事をやってて凶暴だと思われがちだけど、付き合ってみると人間味あんだよね。温かいんだよ、すごくちょっとしたことに気を遣ってくれて。

――橋本さんなんかもホント温かい人間性で。

マスター　そうだよね。橋本なんてのは、一番ウチに来てたし、新日を出てZERO－ONEになってからも顔を出してたよ。ウチの息子みたいなかんじで好き勝手やって。橋本の育った環境もあるんだろうけど、俺のことなんか「オヤジ、オヤジ」なんて呼んでくれてね。

――父親は橋本さんの幼少の頃、失踪しちゃってますからね。

マスター　しまいにはサイン色紙に「くそおやじ」なんて書きやがって。そこに飾ってあるんだけど、写真でその文字を隠してるんだよ。

――ホントだ！　でもくそおやじの「く」の字が見えてます（笑）。

マスター　フフフ。橋本は根が優しい子だったよな。口喧嘩ってわけじゃないけど、橋本がなんか言ったら俺が「うるさいよ、この！」って言い返したりさ。

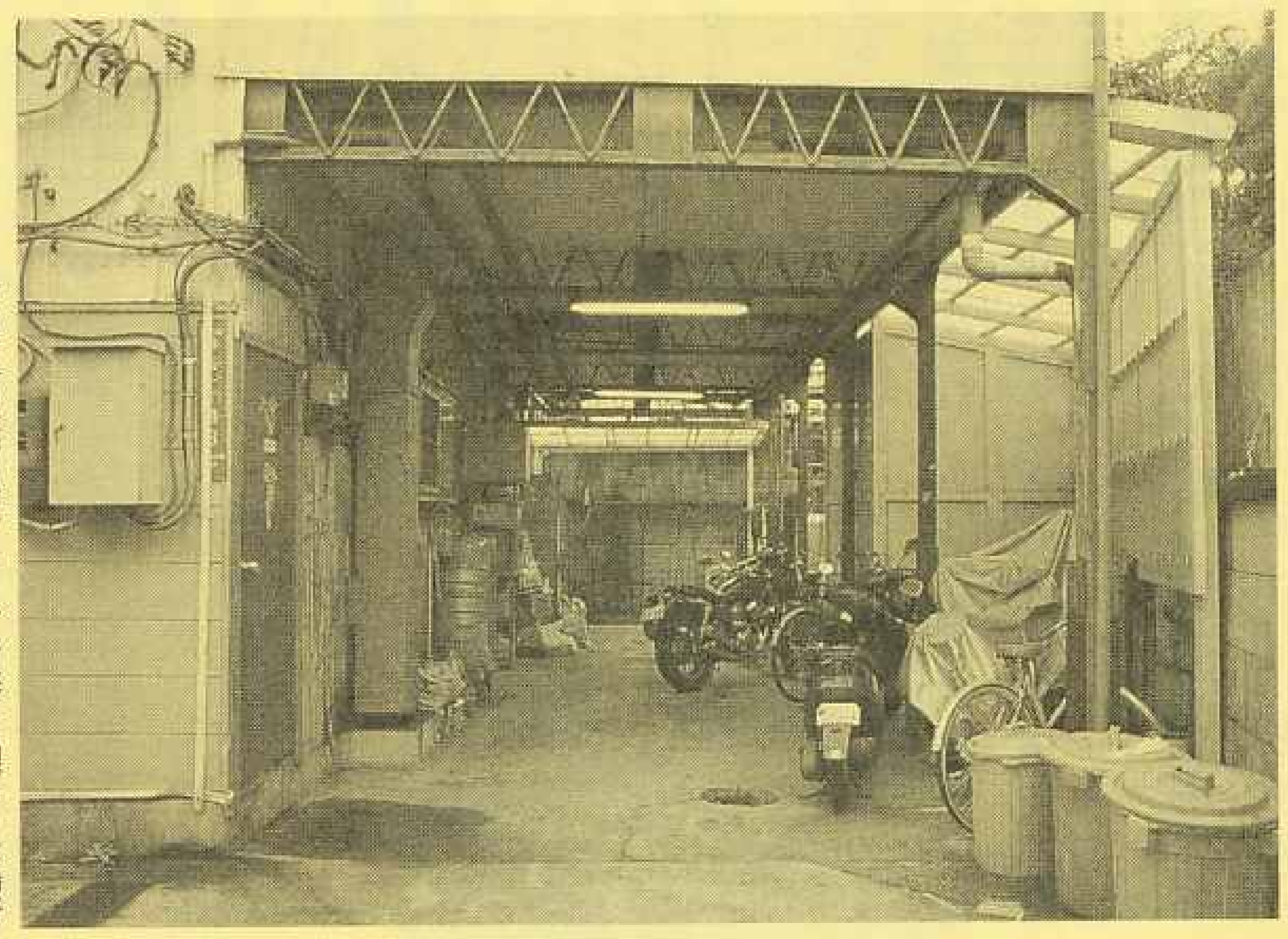
――この色紙一枚で橋本さんとの関係はよくわかります。

マスター　ムトちゃんも言っていたけど、好き勝手やって逝っちまって。まさか死ぬとは思わなかった。まだ若いのにもったいないよな……（しみじみと）。

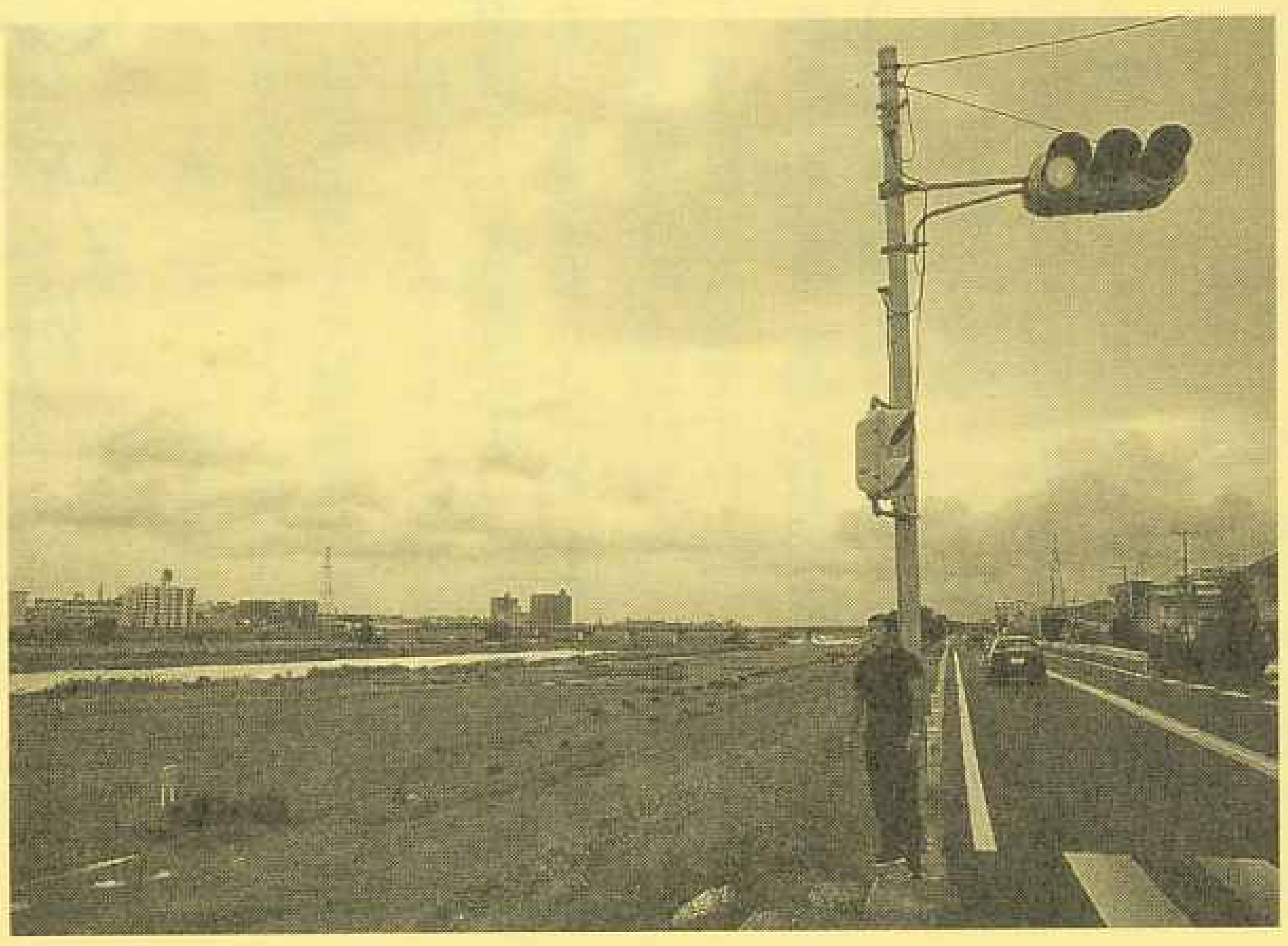
――橋本さんはまだ40歳でしたし、ボクらも初めはホント信じられなかったんですよ……。

マスター　俺が橋本のニュースを知ったのは、当日の11時ぐらいだったかな。もう信じられなくてさ、大谷（晋二郎）や新日本の人間にも連絡したけど、ちゃんとした確認が取れなくて。（新日本の）選手会長の飯塚（高史）に電話しても「ハッキリしたことはわからない」ってことで。ようやくわかったのは1時ぐらいだったかな。

橋本の人生の半分は、等々力で過ごしたわけだしな



破壊王の遊び場であり、青春を過ごした場所だった、新日本プロレス道場。かつてマスターは道場の鍵を預かり、ここで飼われていた犬（モモ＆ワカ）の面倒を見ていたそうだ。



多摩川の河川敷――。台風が都内に迫ると、待ってましたとばかりにマスターは破壊王やライガーを従えて、強風や大水のなか投網を仕掛けていたのだ。

――テレビで報道される前に知られたんですね。

マスター　うん。そしたらさ、その夜の9時頃、「橋本さんのことで取材させてくれ」ってことでテレビ局の人間が7～8人ぐらいでウチにやってきてね。橋本が通っていたラーメン屋があるって、どっかから聞いたんだろうな。俺が取材を断ったら、店の前で土下座されちゃってまいったよ。表に人がたくさん歩いてるのに。

――そのテレビ取材は結局、受けたんですか？

マスター　やったよ。坂口（征二）さんに電話したら「橋本のことだから取材を受けてやってくれよ」と言うもんだから。さっきも言ったけど、橋本の人生の半分は等々力で過ごしたわけだしな。

――橋本さんの若手時代に、いろいろ相談を受けたりとかもされたんですか？

マスター　悩みっていうか、雑談がてら、自分が育った環境を話してくれたよね。嫁さんが決まったときもすぐ連れてきたし。俺は新日本の選手の結婚式にはだいたい出てるんだよ。ライガー、飯塚、松田（納、エル・サムライ）、（佐々木）健介、小林邦昭、それから平田（淳嗣）、野上（アキラ）、佐野（巧真）、あと畑（浩和）ってのが昔いたんだけど。

――引退された畑さんですね。

マスター　あれは俺が仲人したんだよ。

――そんなことまで！（笑）。

マスター　あのときは大阪まで出かけて仲人したんだ。あとは誰だ……？　こないだ吉江（豊）の式にも行ったけど、永田（裕志）のは用事があって行けなかったんだ。

――そんな中でとくに印象的なレスラーって誰になりますか？

マスター　う～ん……。やっぱ、船木とか鈴木（みのる）かな。あいつらは派手な事故もやってたし。

――事故って交通事故ですか？

マスター　そう。オートバイで車に突っ込んで、ボンネットの上に跳ね飛ばされたんだけど、怪我もなんもなかったって。あれは凄いなあと思ったよ（笑）。

――プロレスラーらしいエピソードですね（笑）。

マスター　警察から連絡を受けて迎えに行ったんだ

木村政一

「俺たちは21世紀の



長州の維新軍団やユニバーサルプロレス（旧UWF）など、選手の大量離脱が相次いだ新日本だが、マスターは政治関係抜きの付き合いをしていた。長州とはパチンコ仲間だったというからビックリだ。

けど、この野郎すげえなあっていう印象があったよ。

―でも、どうしてマスターのところに連絡があったんですか？

マスター　だって新弟子や若手の時分に事故を起こして会社に連絡されたら怒られちゃうでしょ。だから俺が間に入って示談にしたりしたこともあったんだよね。

―マスターは保護者代わりというか（笑）。

マスター　最近もさ、●●が酒飲んで酔っぱらって他人の家の庭で寝込んじゃって。警察から俺んとこに連絡があったんだよ。

―ガハハハ！　●●さんらしい話で最高ですね！

マスター　とりあえずパトカーに乗せたんだけど、今度は降ろすことができなくなって警察の人が困ってたよ（苦笑）。

―でも、●●さんは新日本所属じゃないのにマスターも大変ですよね。

マスター　親身になってるというより、まあ困っていたら助けちゃうよな。そんなだから、辞めたレスラーや新弟子たちともいまだに付き合ってるよ。就職の世話をしてやったり。いろんなことで面倒みてやったからいまだに付き合ってんだけどね。

―●●さんみたいに、新日本を離れて他団体で活躍している選手とも親交があったり。

マスター　そうだね。ウルティモ・ドラゴンの浅井（嘉浩）だって俺がメキシコのプロモーターと後楽園ホールで会って交渉して、それで浅井がメキシコに行くことになったんだ。

―え？　そうだったんですか⁉

マスター　プロモーターの名前は、カルロス・マイネスだったな。

―カルロス・マイネスっていったら、メキシコの大物プロモーターですよ！　どうしてそんな展開に？

マスター　浅井は新日本でデビューできなかっただろ？　で、その頃、なんとかという女子プロが立ち上がったときにカルロスが来てたんだよ。それでコネをつくって、俺と浅井と（山本）小鉄ちゃんの3人でマイネスに会ったの。

―ウルティモ校長の成功の陰には、マスターがいたんですねえ（笑）。

マスター　あとカルガリー・ハリケーンズってあったじゃない。ヒロ、ジョージ、平田。あんときも俺が事務所に行ってなんだかんだ協力したこともあったね。昔は会社まで足を運んでいろんなこと言いにいってたんだよ。

―具体的にどういうお話を？

マスター　……いやあ、それはちょっと言えない話もあるけど。たとえば、「道場でこういうことやりたい」とか「これはやっていいか？」とかね。

―若手が直訴するわけにはいかないから、みんなの意見を吸い上げて会社に進言するというか。

マスター　そんなかんじだね。だから、テレビ朝日に事務所があったときは、そこまで行ったこともあるし。やっぱりタニマチや会社、仲間には言えないってこともかならずあるわけだから。

―辞める・辞めない、他の団体に「上がる」「上がらない」という相談にも乗ったり？

マスター　いや、そこまで俺は口出さない。だってみんなそれぞれ子どもじゃないんだから。それなりに判断できることには口を出す必要はねえじゃない。（新日本を）出てから「給料は出てるのか？」なんて話はするけどさ。出ていっても、高岩（竜一）も大谷もいまだに来るし。いまはZERO-1MAXの新しい子たちも来るんだよね。

―新日本出身以外の繋がりも広がってるんですね。

マスター　あと外人選手もウチに来てたんだよ。仕事のことでベイダーと話をしたり。

―え？　ベイダーとビジネスの話ですか？

マスター　そう。ベイダーがアメリカで焼きそばと冷やし中華の料理店を出したいから、いろいろ教えてくれってウチに来たことあんだ。ネコちゃん（ブ

長州さんとはパチンコへ一緒に行ったりしてたんだよ



ラック・キャット）が通訳でね。

——ガハハハ！　ベイダーに中華料理の指導ですか！　本当にお店を出したんですか？

マスター　どうだろう？　ちゃんと向こうでやってたんじゃないかな。

——一時期、橋本さんもラーメン屋をやりたがっていたみたいですけど。

マスター　うん。チャーシューの焼き方を教えろって俺に聞いてきたりね。あいつはウチにも来るんだけど、日本全国でラーメンを食ってくるから、いろんな店でレシピを聞いてくるじゃない。道場で鶏ガラのダシを取ったりしてラーメンつくってたよ。

——マスターも道場で橋本さんのつくったラーメンを食べたりしたんですか？

マスター　うん。俺は道場にもよく遊びに行ったからな。新弟子が少なかった時分は道場の鍵を預かって、道場の犬の面倒見たりしてたんだけどね。

——ワカとモモのことですね。しかし、道場の管理みたいなことまでやってるなんて（笑）。

マスター　道場はおもしろかったよ。たまにリングの上で暴れてみたりね（笑）。

——そんなに付き合いが深いと、何か騒動に巻き込まれたりしなかったですか？　とくに昔の新日本には酒豪が揃っていたから、酒に酔っての喧嘩が多そうじゃないですか。

マスター　そんなことはあんまりなかったけどな。ウチに来てもそんな馬鹿やる奴はいないけど、みんな酒は強かった。新弟子に無理矢理飲ませたりしてさ。コップでイッキ（飲み）させてられて、しょっちゅうブッ倒れてたよ。

猪木さんから闘魂棒をつくるように頼まれたんだよ

——船木さんみたいに15歳で入ってきた子にもそんな仕打ちが待っていて（笑）。

マスター　あの子はけっこう順調に運んだんじゃないの。途中で（第二次）UWFに行ったけど。

——選手が新日本を離れることは、マスターからすると寂しいもんですか？

マスター　いや、俺は団体とか関係ないから。だから（第一次）UWFが立ち上がったときもいろいろ手伝ったんだよ。大田区（体育館）でやったときなんて俺が宣伝カーに乗ってお客を集めしたりね。たしかに新日本との付き合いは長いけど、団体がどうだって難しいことは俺には関係ないから。こないだも『ビックマウス・ラウド』のポスターを貼っておいてくれって言うからさ。大会が終わるまで壁に貼ってたんだよ。

——上井（文彦）さんともつながりがあったんですね。新日本時代の長州さんと交流はあったんですか？

マスター　あったよ。保永君がよくウチに来てたからね。長州さんとはパチンコへ一緒によく行ったりしてたね。

——長州さんとはパチンコ仲間でしたか（笑）。

マスター　あとタイガー・ジェット・シンが長州さんのおみやげに壷を持ってきたんだよな。その壷を長州さんが「オヤジ、これやるよ」って。悪いもんじゃないと思って、いまも店に飾ってあるんだよ。

——そんな豪華ルートでおみやげを（笑）。そういう待遇だと滅多に選手の名前と顔を覚えない猪木さんにも声を掛けてもらっていたり？

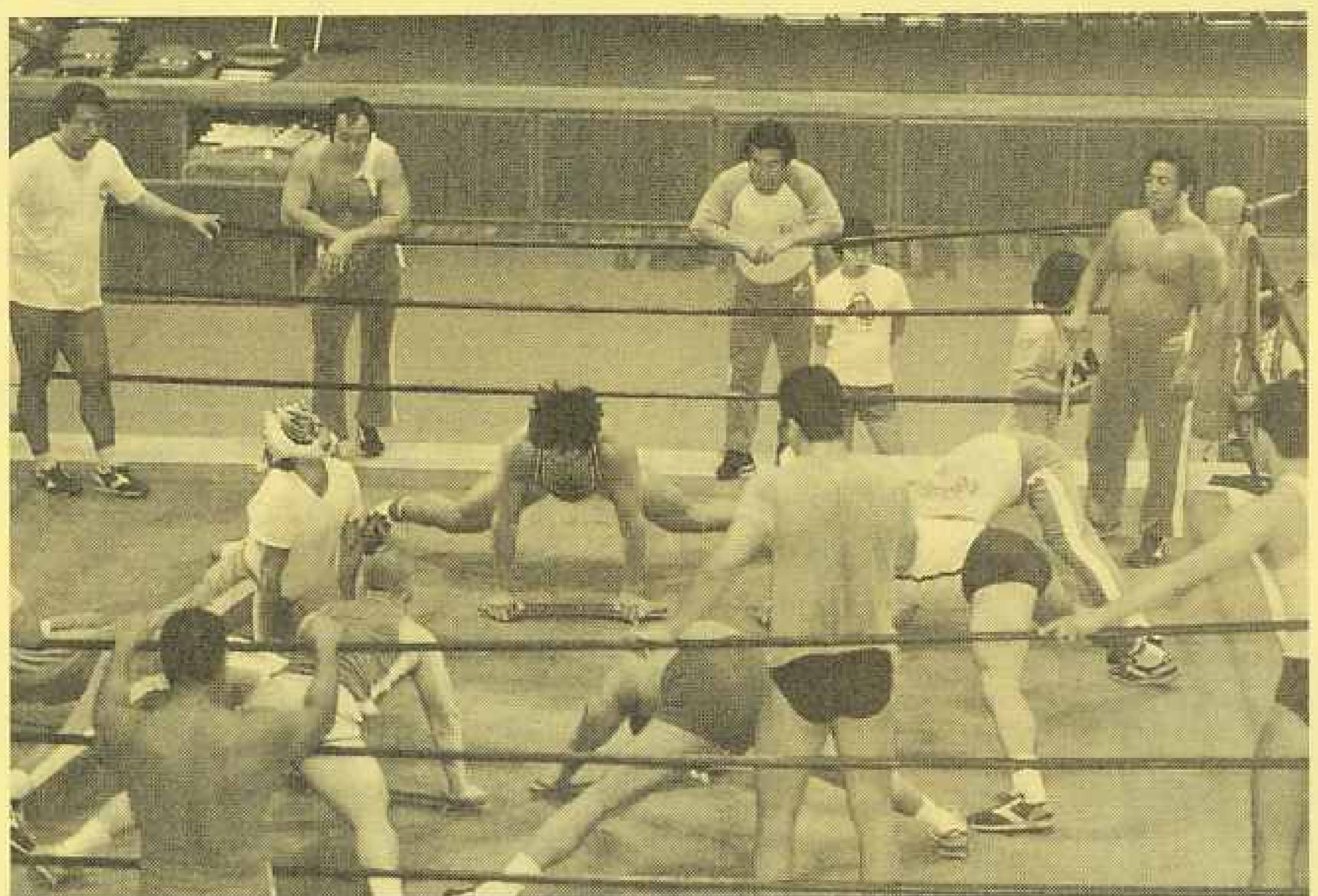
マスター　猪木さんはいつも俺のこと「オヤジ」って呼ぶんだけど、歳は俺のほうがひとつ下なんだよね（笑）。あと猪木さんからはプッシュアップの板や、なんて言ったけかな？　なんか棒をつくるよう頼まれたんだよ。

——もしかして闘魂棒ですか？

マスター　そうそう。闘魂棒だ。

——ガハハハ！　マスターがつくってたんですか！

マスター　プッシュアップの板にしても、それまでは木戸（修）さんに頼んでいたんだけど、一時期、木戸さんがいなくなったでしょ。それからつくるものがいなくて「なんとかなる？」って言うから大丈夫ってことでね。





驚ガク!!トレーニングで使用するプッシュアップ板、そしてアントンの闘魂棒作成の影にはマスターがいた！　非常にUFOらしい抜群のエピソードである。頼んだアントン、受けたマスター最高！

俺たちは21世紀の

さ。コップでイッキ（飲み）させてられて、しょっ

しかに新日本との付き合いは長いけど、団体がどう

ってことでね

―マスターは等々力の顔役だから、ここらへんの職人はみんな知ってるわけですからね。

マスター　プッシュアップの板もちゃんと計算してつくって。あれも結局、ファンがかっぱらっていっちゃうんだよ。だから年間、40個ぐらいつくっていたからね。

―そういえば、橋本さんは投網やマムシ捕りの道具をつくってましたけど、ひょっとするとマスターも関わっていたりするんですか？

マスター　ああ、橋本とは多摩川に投網をよく打ちに行ってたよ。



『紙のプロレスRADICAL NO.42』の仲野信市引退記念インタビューはここ『紅蘭』で収録された。この写真はそのとき撮影されたものだ。「昔の新日本の話が聞きたかったら、マスターに聞いたほうがいいですよ」（仲野）ということだったが、知られざる逸話の一部を明かしてくれた。塩ラーメンも美味しかったです。ありがとうございました！

―ガハハハハ！　そうだったんですか！

マスター　だって、俺が橋本やライガーに投網を教えてたんだから。

―あ、マスターが投網の師匠でしたか（笑）。

マスター　橋本は魚とか動物を捕まえるのが大好きでさ。大水が出ると、多摩川へライガーと橋本と一緒に行ってたんだよ。台風が来ると、橋本から電話があって「用意を頼みます」「よっし！　いくか!?」って。

―台風が来るとなると橋本さんの血が騒いだんですね（笑）。

マスター　それに大水だと上流から流木に混じってマムシなんかも流れてくるんだけど、橋本は平気でそれをつかむんだよね。捕まえたマムシは一升瓶の中に水を入れて道場に置いておくんだよ。そうするマムシは泥を吐きだすんだけど、ドジョウみたいな子どももいっぱい産んでさ。俺は蛇が嫌いだったけど、橋本はうれしそうに見てたよね～。

―橋本さんの動物好きは本当に有名ですからね。

マスター　ムクっていうヨークシャーテリアをウチに連れてきたりね。やっぱり巡業に出ると面倒見れなくなるからさ。あとプレーリードッグも。「チビタ」って呼ぶと立って返事してさ。

―かわいがる一方で、ボーガンで鴨を撃ったりもして。

マスター　そうそう。橋本はいまでいうエアガンも上手だったよ。新弟子を撃ったりさ、俺だってオートバイで出前に行ったとき撃たれたことがあるよ。

―ガハハハ！　出前中に狙撃されたんですか！（笑）。

マスター　オートバイのミラー、割れちゃったよ！あと車のミラーも撃たれた。そのミラーが高いんだ、また。橋本が自分で弁償してたけどね。

―当然ですね（笑）。

マスター　俺の車も道場で勝手に使ってたんだよな。だからこの周辺で用事があるときは俺の車をみんな使ってたから。後楽園で試合があったときかな。俺の車の鍵を持ったままバスで帰っちゃったこともあったんだ。

―勝手に使ってそのまま忘れて（笑）。結局、鍵を持って帰ってしまった犯人は誰だったんですか？

マスター　すぐバイクで持って来させてけど……誰だったかなあ。いろんなことがたくさんあったからなあ。いっぺんには思い出せないよ。

―それだけマスターは多くのヤングライオンたちの青春を見届けてきたってことですよね。

マスター　だから信ちゃん（仲野信市）も辞めるときにアンタらを連れてきたけど、きっと忘れられないんじゃないの（『RADICAL No.42』の仲野信市引退試合直前インタビュー収録は『紅蘭』で行なわれた）。

―あのときは多摩川や新日本道場で撮影をしてから、どこかのお店でインタビューしようとしたら、仲野さんが「もう『紅蘭』で飲んでますんで」ってことですぐ収録場所が決定しちゃったんですよ（笑）。いまは大卒である程度大人になってから入門する選手が多いから、昔のように馬鹿やって青春を謳歌するような雰囲気はないのかもしれないですね。

マスター　いまはそういう時代じゃないからな。いまはひとりひとり孤独というか、まぁプロレスラーってのはそういう職業かもしんないけど、当時はそういう交流が常にあったんだよ。昔は中学や高校を出て入門して、それで海外に2～3年行って一人前になって帰ってくるじゃない。そしてウチに顔を出してくれてね。

―選手にとってみれば、マスターは身内みたいなもんなんでしょうね。

マスター　身内っていうより、うるさいクソオヤジなんだろうけどね（笑）。ま、今日しゃべれることはこんなかんじかな。

―お仕事中、ありがとうございました！　まだまだ聞きたいことがあるので、いずれまた来させてもらいますので。

マスター　（即座に）いや、もう二度と来ないで。

―ガハハハ！　では、最後に塩ラーメンと餃子の注文をお願いします！

マスター　はいよ。ちょっと待ってて！

【05年9月28日／等々力「中華　紅蘭」にて収録】

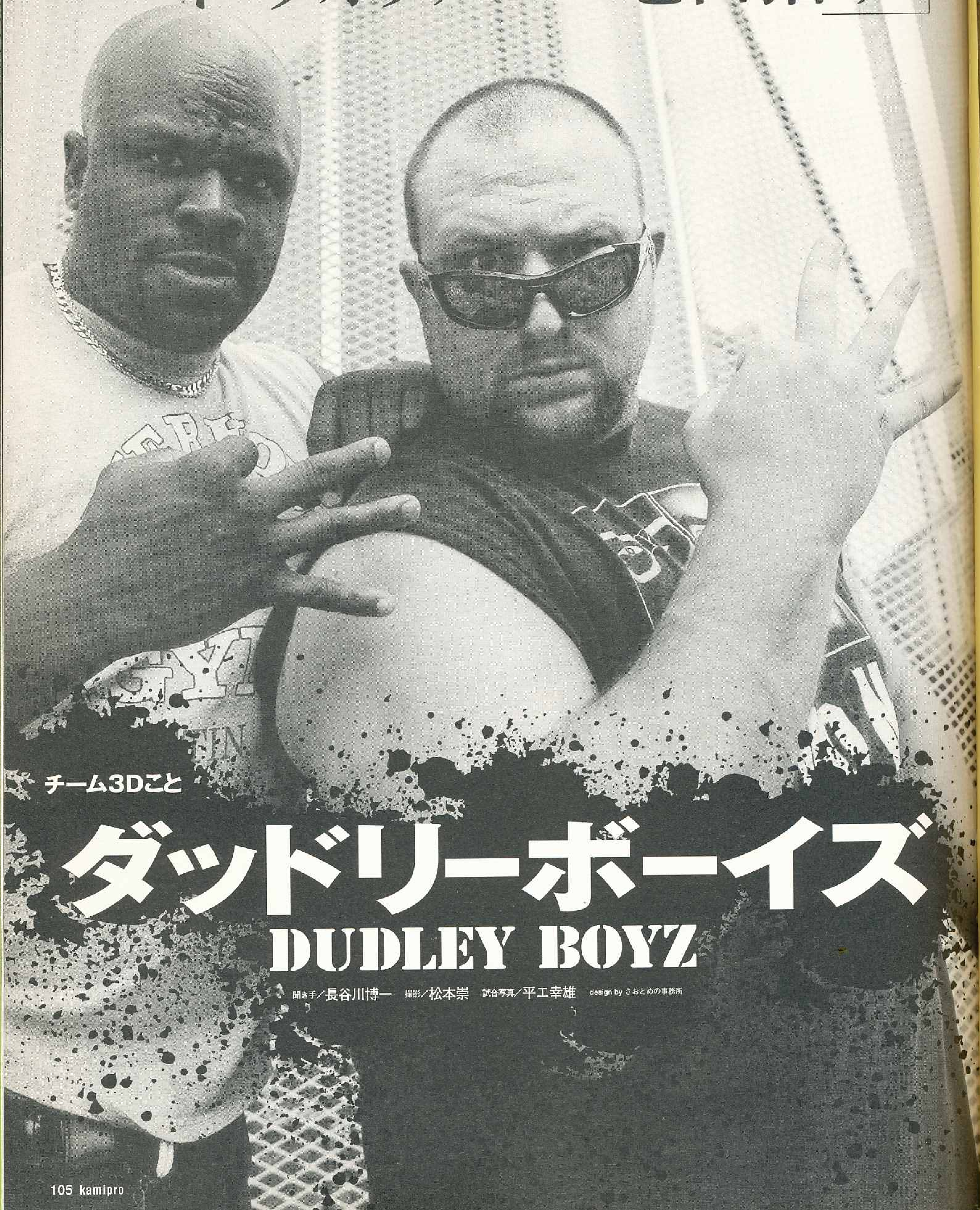
『kamipro』不親切グルメガイド



『紙のプロレスRADICAL NO.42』で場所を特定してしまっているが、「プロレスおたくが集まるのはイヤだ」（マスター）ということなので、ぜひ足を運びたい"昭和新日本"をこよなく愛する読者は自力で探すように！　ヒントは等々力のどこか！


携
ナ

「俺たちは21世紀のロード・ウォリアーズを目指す」



チーム3Dこと

ダッドリーボーイズ
DUDLEY BOYZ

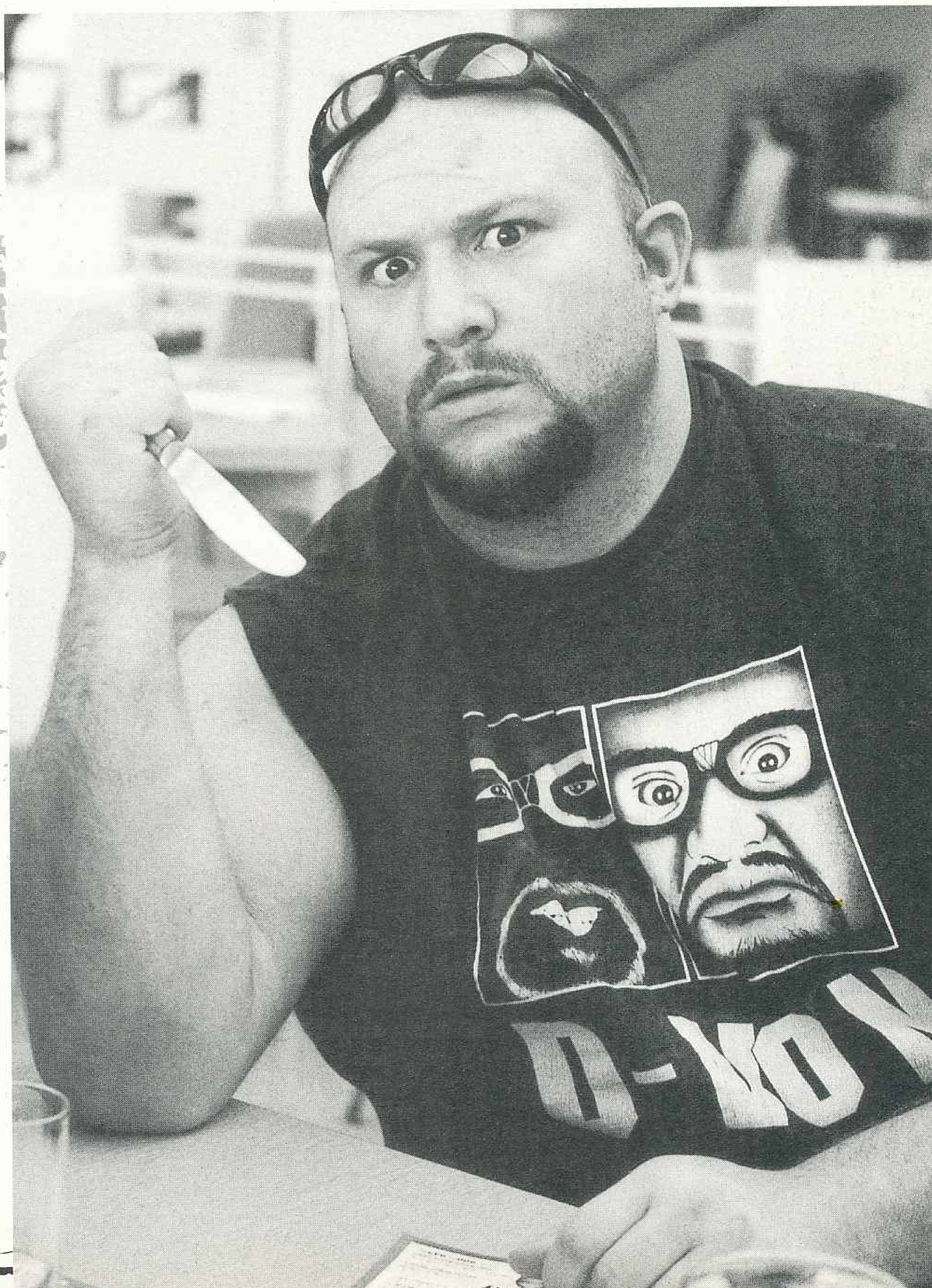
聞き手／長谷川博一　撮影／松本崇　試合写真／平工幸雄　design by さおとめの事務所

いよいよ日本に乗り込んできたダッドリー・ボーイズ、改めチーム3D。しかも登場するリングはゲストをすぐには潰しはしない全日本プロレス。その持ち味が充分に発揮される舞台であるに違いない。この取材の直後に行なわれた全日デビュー戦（VS本間朋晃、諏訪間幸平）もお見事。取材の席でも「登場する団体を調べるのはレスラーの義務」と語るババ・レイは、デビュー1年の諏訪間をわざわざ「スワマ～！」と呼び、WWEのTV放送でも滅多に見せなかった投げっぱなしジャーマンを発射。TVよりかなり長めの試合もテンションの高さは変わらない。全試合終了後、再び2人はリング上に現れYASSHIをテーブル上のパワーボムに切って取る。全日名物「パッケージショウ」に更なる花を添え、会場に充分すぎる幸福感を振りまいたのだった。

話を聞いてもババ・レイは想像通りのババ・レイ。キャラクターが出来上がっていて素顔との違いを見せない（恐らくこれが素顔でしょう）。ディーボンは一転して言葉遣いが丁寧で、意外と紳士的な印象。レスラーになりたくてなったディーボン。リング上での「業師」の野心を見せる。一方ババ・レイには夢の職業が2つあって一つはレスラー、もう一つはロックスター。ハードロック＆ヘビーメタル中毒でドラム、ピアノ、トランペット、フレンチホルンの演奏ができる。ディーボンはヒップホップ（特に2パック）が好きで趣味が違うから、控え室で流すBGMは折衷案でアイアン・メイデンなのだそう（妥当かしら?）。

これでまた全日本プロレスが面白くなった、という予感を抱かせてくれる彼らの本格参戦第一声を、いざ。

ECWはプロレスの革命だ！ プロレスをアダルト・エンターテインメントに変えた（ババ・レイ）

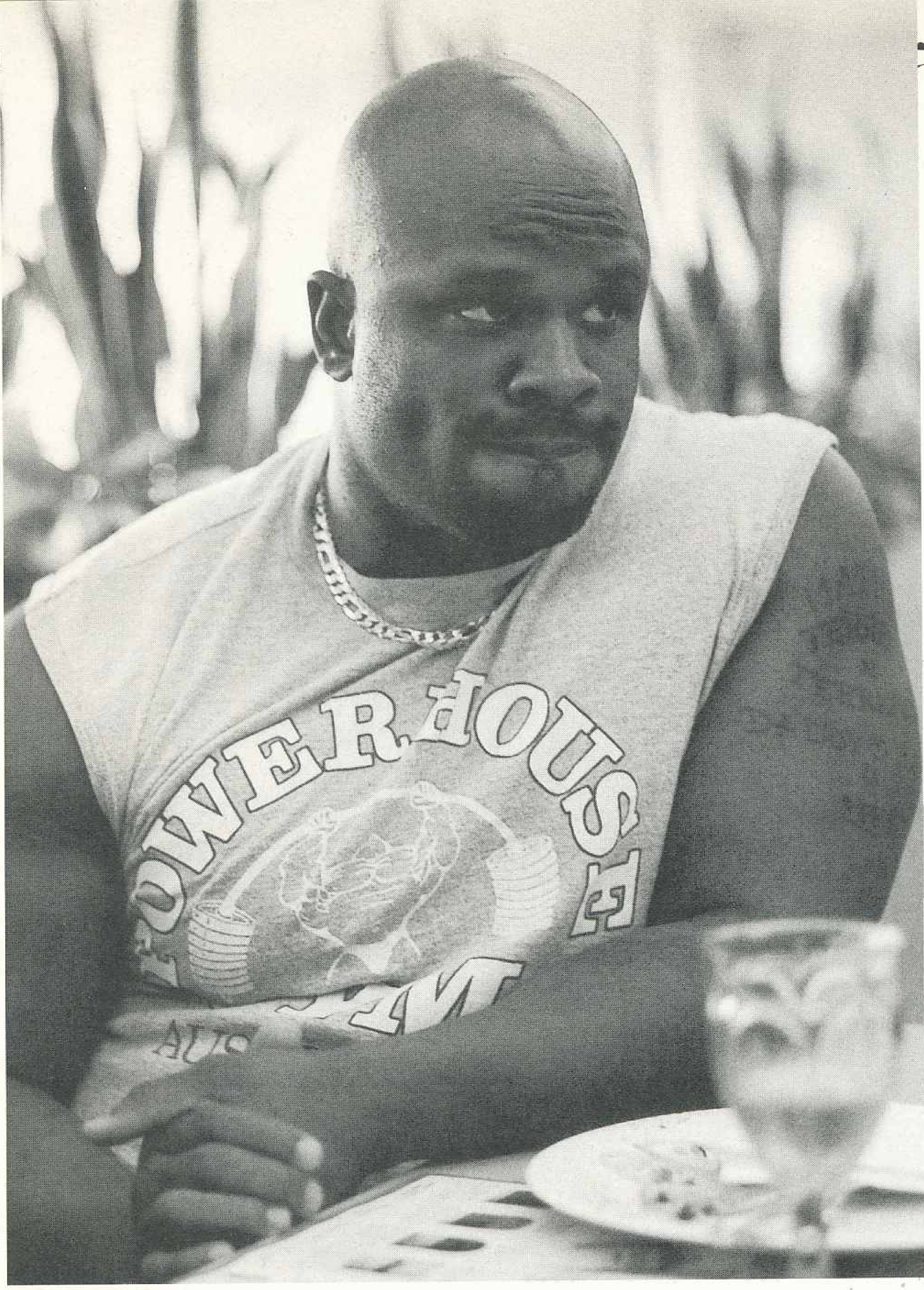


——改めて日本へようこそ！　数あるオファーの中から全日本プロレスを選んだ訳は?

ババ・レイ（以下B）　しばらく仕事をしてなかったからな。オレたちは爆発したいんじゃ！　WWEから次の契約を求められてた。でも応じなかった。アメリカにおいてはやれることはやり終えた気がする。ファンは俺らの力を知っている。俺達は団体で18回世界タッグ・チャンピオンの座に就いた。その理由を今度は日本で示さなくちゃいけない。

ディーボン（以下D）　WWEだけが全てではないからね。ちょっと限られた感じがしてたし、他のプロレスだってあるんだよ。私たちにとって新たなチャンスが生まれたということさ。ほら、ロード・ウォリアーズという偉大なタッグチームは日本でも世界でも大活躍してただろう?　彼らと同じ、いや、それ以上のことをやりたいね。

——なるほど、ロード・ウォリアーズか。まさにダッドリーズは現代版のロード・ウォリアーズかも知れません。全日本プロレスは1972年にショーヘイ・ババ



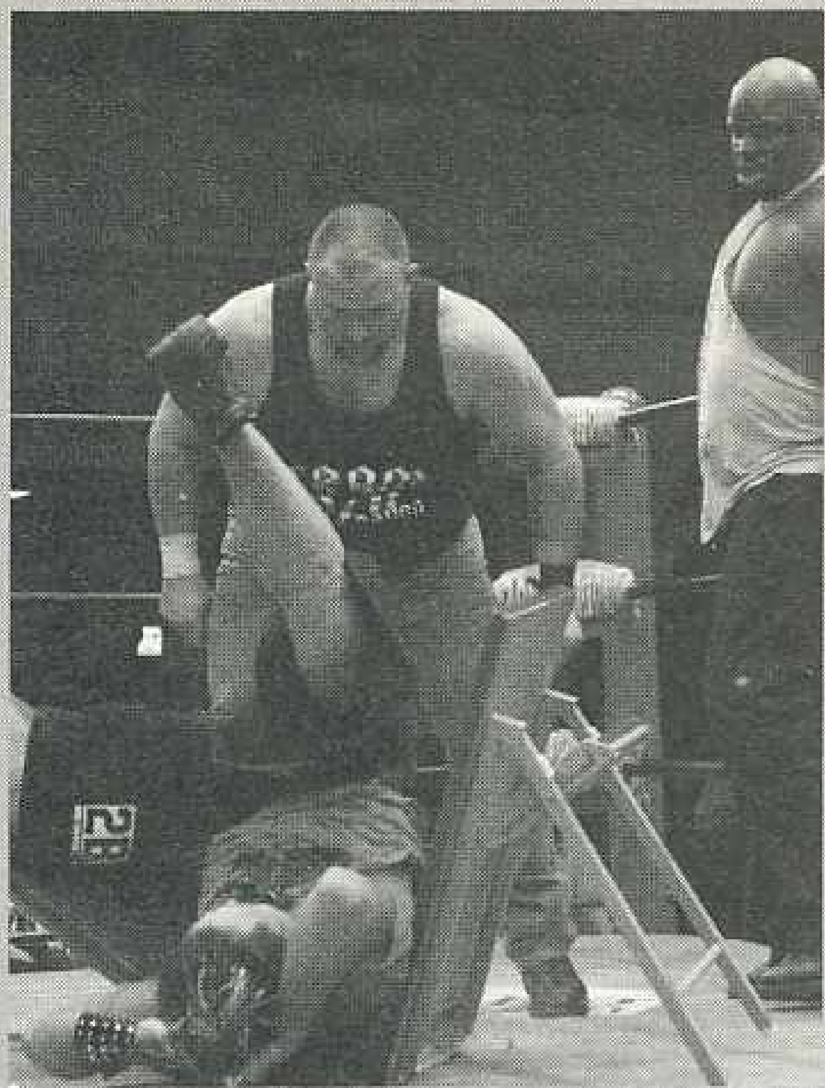
が設立した団体で2002年からはグレート・ムタが社長の座に就いてます。全日の歴史は知ってますか。
B　もちろん。特にタッグチームの歴史は良く知ってる。自分が上がる団体のことを勉強するのはレスラーの義務じゃ。
――さすがです。今日は最初にWWEの話をお聞きします。今年6月のPPV『ECWワンナイト・スタンド』こそ2人は出場したけれど、長らくWWEのTVには出ていませんでしたね。一体何があったんです？
B　『ワン・ナイト・スタンド』の翌日の『RAW』や『SMACKDOWN！』に出る予定もあったけどな。ちょうど再契約の時期だったが交渉は難航していた。あの大会のインパクトが強すぎてWWEが上手くコントロールできなかったという部分もあるだろうな。

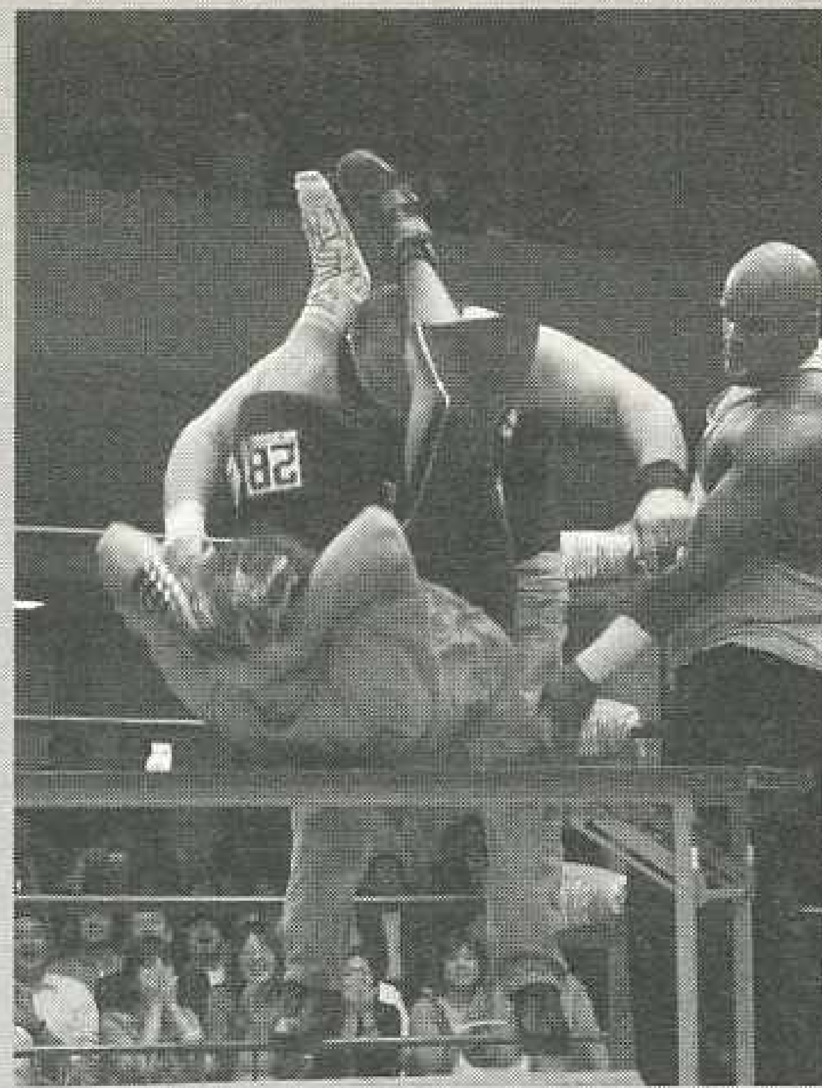
DUDLEY

D　WWEにいた私たちは100%のダッドリーズじゃない。もっとたくさんのカラーを提供できたのに止められていたんだ。他の選手の数も多いから自分の全てを出す余地もなかった。私たちの名前を広めたのは、むしろECWの方だよ。ECW！　ECW！（とコール）。
B　イエス！（テーブルのナイフを額にかざしてポーズ）。

WWEにいた私たちは100%のダッドリーズじゃない。自分のすべてを出す余地もなかった（ディーボン）

――恐いなぁ……。2人のレスラーとしてのキャリアもECWから？
B　その3～4年前からインディー団体のサーキットをそれぞれ回ってた。でも最初のヒノキ舞台はECWじゃ。ECWはプロレスの革命、プロレスをアダルト・エンターテインメントに変えたんじゃ。オレたちは革命を起こしたいと狙っていた。あれは大人も見られるプロレスの一例だったろうな。
――実際に血は繋がっていないし人種も違うのに我々はダッドリー兄弟である、という設定を考えたのは誰なんですか？
B　最初はポール・ヘイマンが9人兄弟のダッドリー・ファミリーというアイデアを思いついた。オレたちはそれをもっとシリアスなものに変えていった。それまで俺はベビーの立場にしたし、ちょっと飽きていた。ディーボンと組むことでヒール・ターンできたから、いい機会だったんだな。
――テーブルの上に合体パワーボムというダッドリーズの名刺代わりの得意技があります。初めてテーブルを壊したのはいつ？
B　テーブルは自分が発明した訳じゃない。サブゥーが初めてやって、たくさんの人がコピーした。ただパワーボムとテーブルを合体させたのはオレたちだけどな。
D　テーブルに叩き付けた最初の相手はボールズ・マホーニーだったかな。
B　ボールズ！　ボールズ！（とコール）。
――もう一つの合体技、3Dの名付け親は誰ですが？
B　俺だ！





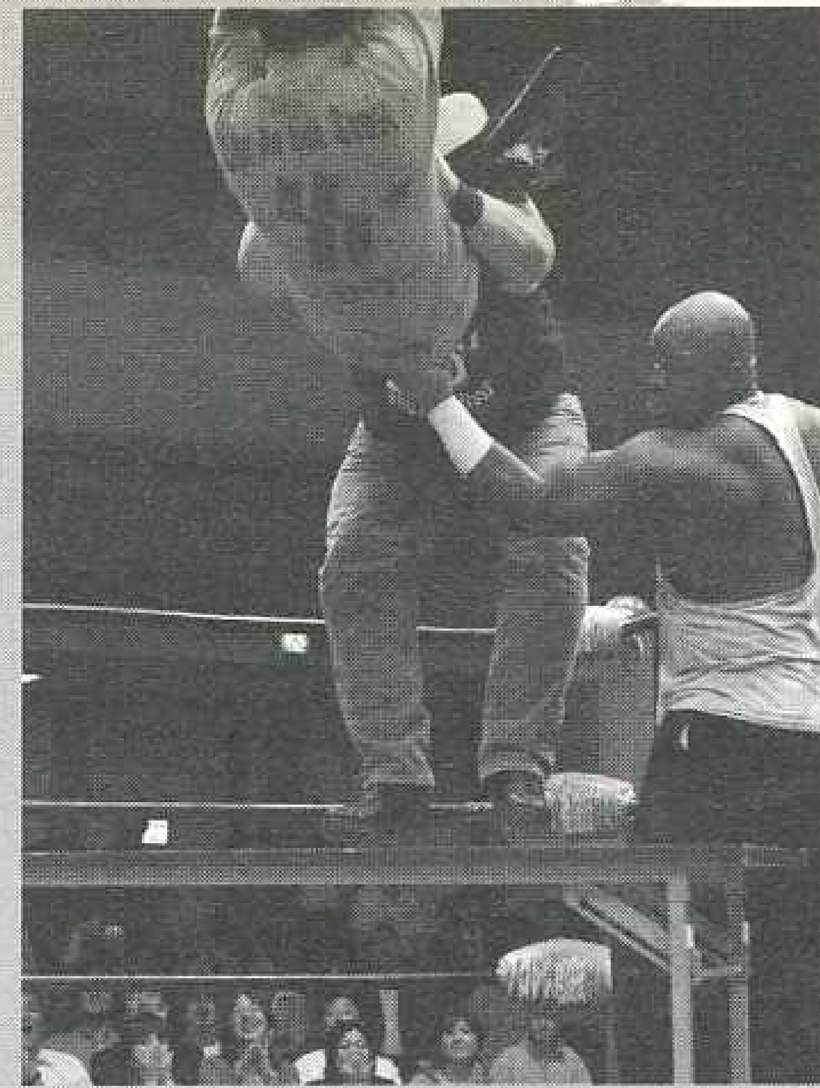


TABLE BOMB

ダッドリーズの代名詞的な技がこのテーブル・ボムだ。ババ・レイが「ディーボン、ゲット・ザ・テーブル！」と絶叫するとディーボンがテーブルをセット。コーナーの上からパワーボムでテーブルに叩き付ける！　WWEでは女子選手や老人（メイ・ヤング）も餌食になった。

――素晴らしいセンスですね。

B　ハイ（急にしおらしく頭を下げる）。

――こちらこそ、どうも（と頭を下げる）。日本のハードコア・ファイトの選手は、レスリングが余り上手くないから派手な見せ方を選ぶという場合が多いようです。でもダッドリーズはレスリングが上手いですよね。なんでまたハードコア・スタイルを？

B　ちょっと待った！　オレたちはハードコアを選んだ訳じゃない。相手がレスリングで来たらオレらもレスリングで返す。ハードコアで来たらハードコアで受ける。WWEではハードコアの部分が強調され、オレたちのトレードマークとなったが、引き出しはもっと広いんじゃ。ディーボンなんかじつはマット・レスリング（寝技）が得意。こいつはシューター！　明日でもいい、K―1のグランドチャンピオンに挑戦してチョークでタップアウトだ！

D　アマレス出身ではないけどね。レスラーを目指したとき、最初のコーチはジョニー・ロッツといった。WWWFでビンス・マクマホン・シニアの下で働いていた実力者なんだよ。彼がグラウンド技術を、みっちり教えてくれた。私はどちらかと言うとエンターテインメント寄りの試合よりもレスリングの試合の方が好き。これからもっとレスリングにこだわりたいね。

――ジョニー！　ジョニー！

D　そこはツボじゃないよ。

――あっ、違う……。あなたたちはとても日本向きだと思います。日本のファンはキャラクターがあって、しかもレスリングの上手い選手が好みですよ。

DUDLEY BOYZ

D　だから日本に来るのを楽しみにしてたよ（ニッコリ）。

――とはいえシリアスなファイトを続けてきたので怪我が絶えないのでは？

D　他の選手と比べたら少ない方かもしれないよ。ヒザの靱帯、上腕の筋肉の怪我。突き指、脳震盪……それくらいだな。

B　（3Dと同じ来い来いのポーズ）さあ来い、行くぞ！

――どうぞ！（笑）。

B　脳震盪が8回、鼻は3回骨折、アバラも2本折った。足首が粉々に砕けたことがあるし、頭も35針縫ってる。リング下の階段に顔から突っ込んだ時は、角にぶつかって頬に穴が開いたこともある。

――……凄いなあ。今日のババさんの額にも流血の跡がくっきりですね。

B　日本に来る前の試合だ。TNAでバーブド・ワイアー・マッチをやったんだ！

D　TNA！　TNA！（とコール）。

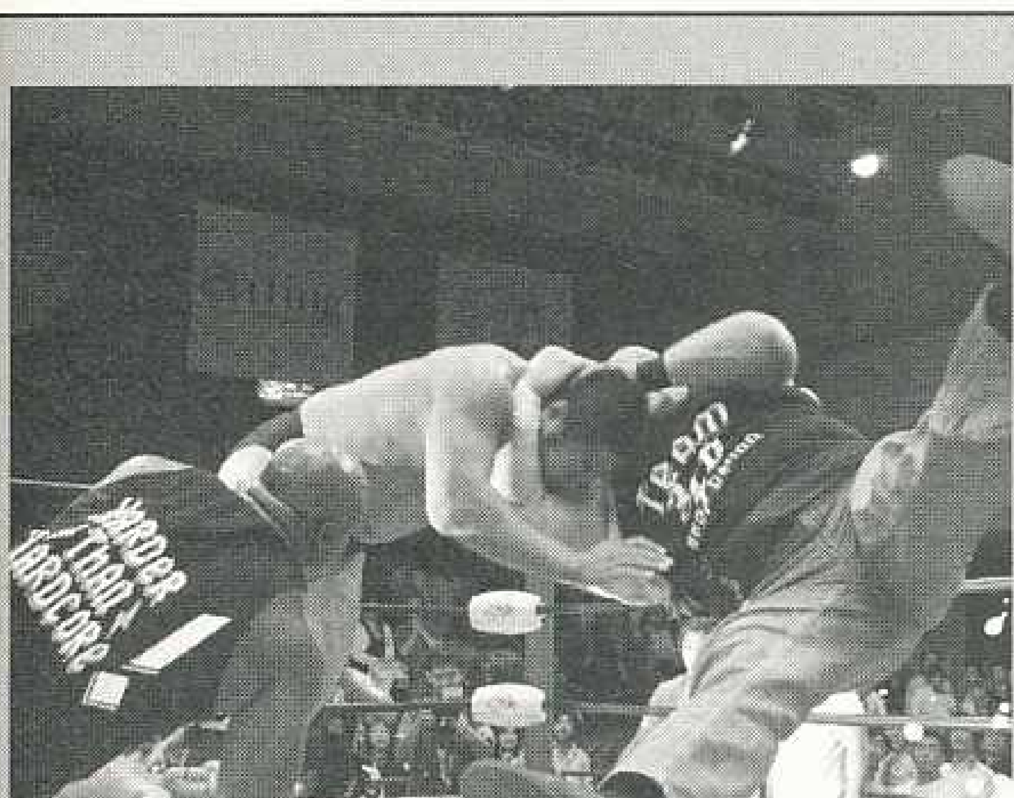
――これはアリ……。最近はTNAのリングにも上がってますよね。WWEとのTV戦争も始まったばかりですが、可能性のある団体ですか？

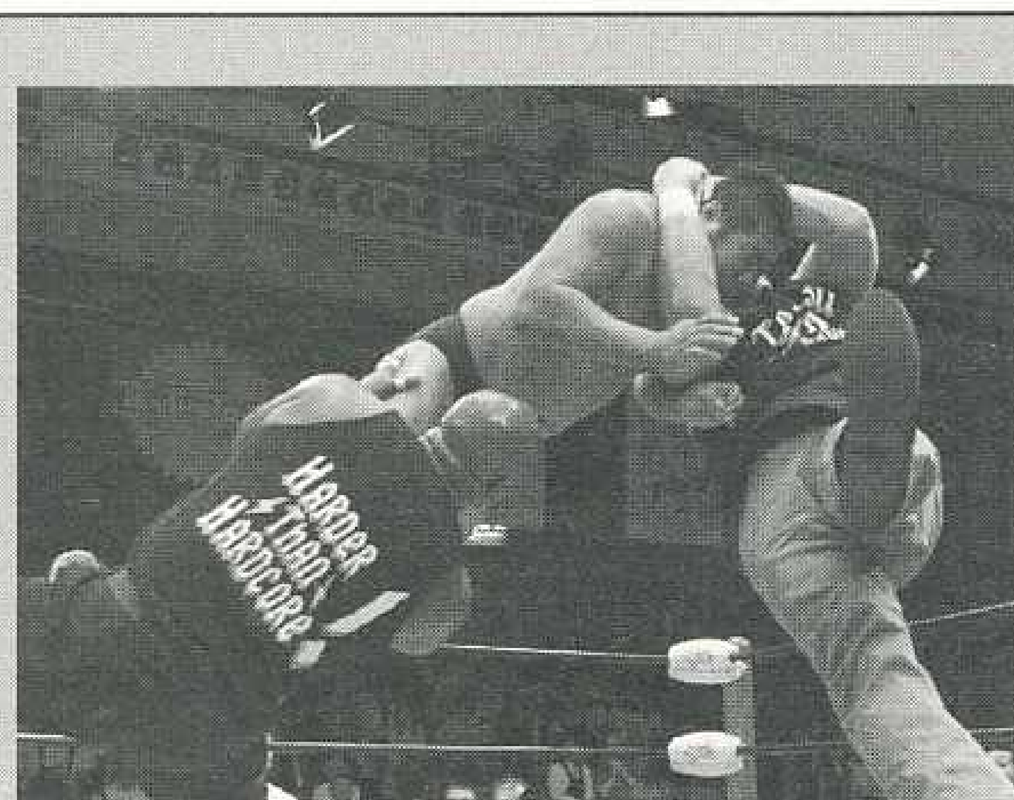
D　TNAのスタッフは、とてもよく働くんだ。小さな団体だけど昔のECWと同様、みんなで頑張ろうという心意気を感じるね。

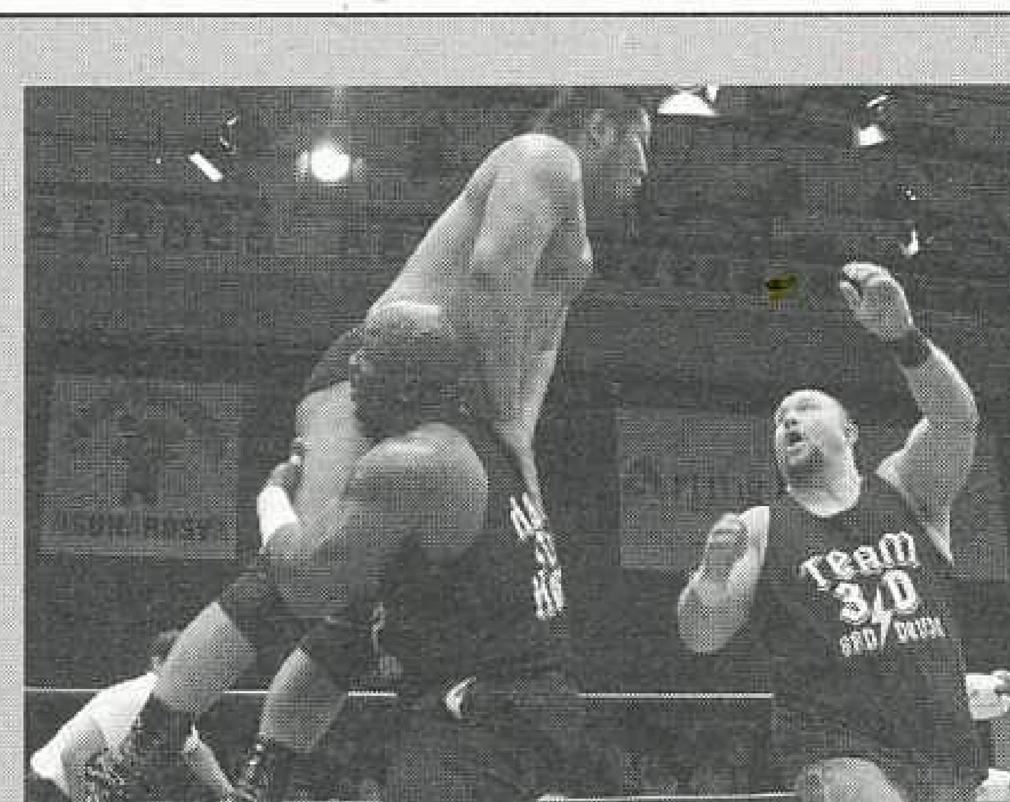
B　いま、ワシらはフロリダに住んでる。TNAのスタジオは車で20分くらい。何より交通の便がいいぞ（笑）。目的は金じゃない。WWEと比べたら段違いに低い。しかし、若い会社だし、新しい会社を助けてあげたいという気持ちがある。

――WWEに対する反骨精神も？

D　ないとは言えないね。WWEがレスリングの全てではないと感じてますから。







3D

ダッドリー・デス・ドロップ、略して3Dがダッドリーボーイズの必殺技だ。チーム名になるほどだから、この技のインパクトは相当に強烈！　まさに平成のWインパクトだ。ロープから返ってきた相手をディーボンが抱え上げて、ババ・レイが叩き付ける。

相手がレスリングできたらレスリングで返す ハードコアで来たらオレらもハードコアで受ける オレたちの引き出しはもっと広い！（ババ・レイ）

B　TNAはハードコアもあるが、とてもフィジカルで動きが早い。それにWWEのような馬鹿らしく長いトークがない。あんなものは省いて試合がリングの中心になっている。凄くいいタッグチームもいるぞ。ザ・ナチュラルズ。ロード・ドッグ（＝ジェシー・ジェイムス）＆ビリー・ガン。チーム・カナダ。アメリカズ・モスト・ウォンテッド……。

――なるほど。タッグが充実してるんですね。

B　ところで、私には夢がある。

――キング牧師みたいですね（笑）。何ですか？

B　全日本のリングでタッグベルトを獲る。そしてTNAで防衛戦をやりたい。もしくはTNAでNWAタッグ王座を獲って日本に持ち帰りたい。どうじゃ？

――凄くいいですね！　WWEだったら日本との対抗戦はまずありえない。TNAと全日本がぶつかるなんてファンにはたまりません。

B　しかも家から20分。

――分かってますって！　それよりテーブルのナイフで爪を研ぐのは止めてください。今日の試合（取材は05年9月30日）がとても楽しみなんですが、J SPORTSのWWE放送の字幕が優秀でダッドリーズの会話はすっかり有名なフレーズになっています。例えば〝What's up!?〟は〝ナンボのもんじゃ？〟。〝Get the table!!〟は〝テーブルじゃ！〟。全日本のリングではどうしましょう。

B　もう日本語はできている。〝What's up!?〟は「バンザーイ！」。〝Get the table!!〟は「テーブル、出せ！」。

――なるほど、さすがに日本をつかまえてる。

B　ババサーン、アタマイイネー（日本語で）。

D　じゃあ私はハルク・ホーガンの真似でもやろうか？

――え、なんですか？（笑）。

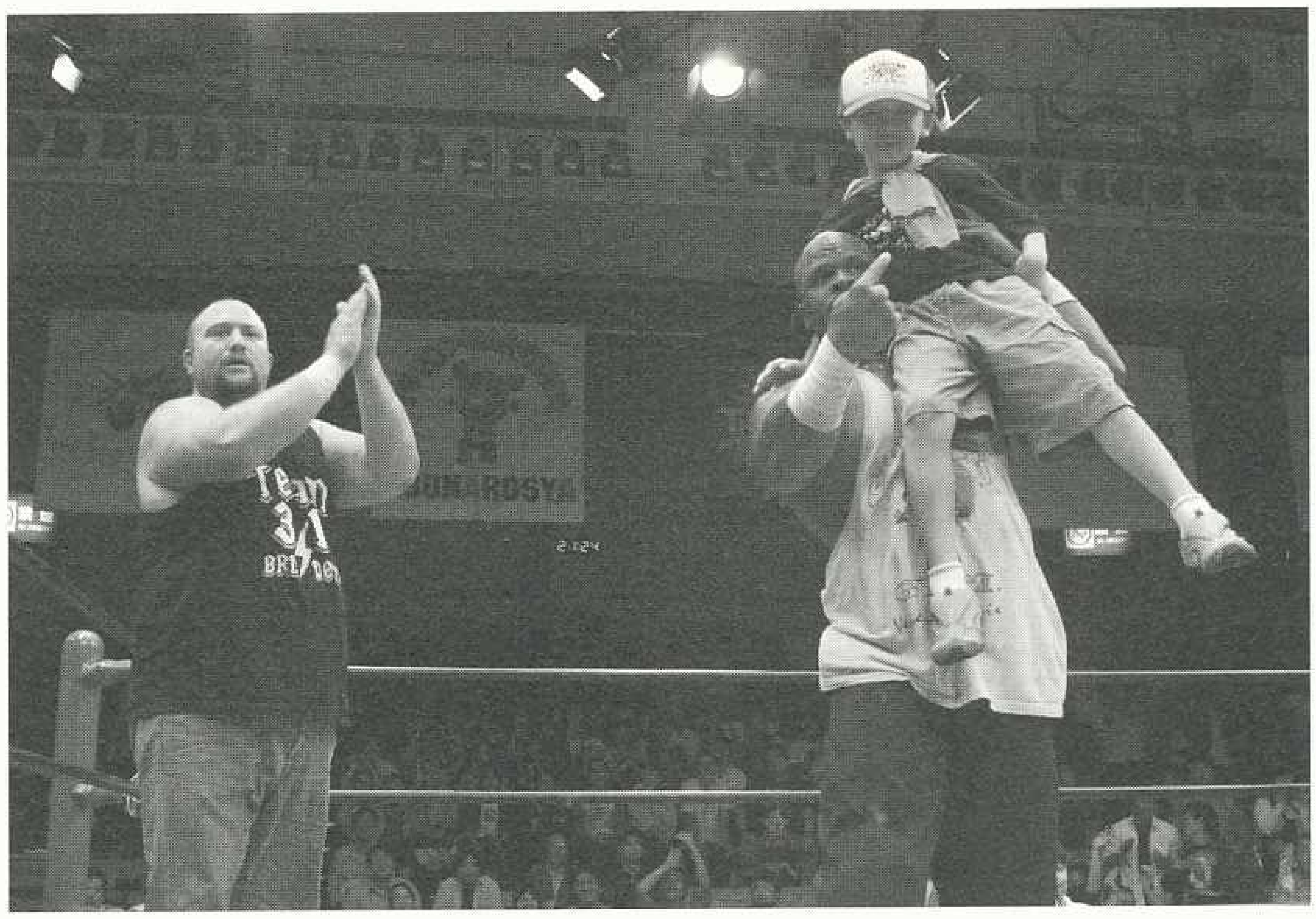
D　70年代のNYのレスリング、ブルーノ・サンマルチノやロッキー・ジョンソンやジャンクヤード・ドッグを見ていてレスラーになりたいと思ったんだ。でも一番好きなのはホーガンなんだよ。私はブラック・ホーガンになりたいんだ。

――じゃあ、ホーガンの真似をここで決めて頂きましょうか。

D　Hey,Brother!! Whatcha gonna do!?（とフレーズ完コピ）。ハハハ〜、テスティファ〜イ！

――役者が揃いすぎてて完璧です！　活躍を期待しております。

【05年9月30日、東京ドームホテルにて収録】



プロフィール■ババ・レイ（左）1971年7月14日、アメリカ・ニューヨーク出身。190cm、155kg。ディーボン（右）1972年1月8日、ニューヨーク出身。ECWでダッドリー・ボーイズを結成。当初はタイダイのTシャツにオーバーオールにメガネという出で立ちだったが、徐々にタッグで頭角を現し、WWEでもタッグ戦ではエッジ＆クリスチャン、ハーディー・ボーイズらを相手に数々の名勝負を残してきた現代プロレス界を代表するタッグチームだ。

チーム3Dもシリーズ全戦参戦決定!!
全日本プロレス『2005　SHINING SERIES』

10月10日(祝・月)	大阪・大阪府立体育会館 第2競技場(17：00)	
10月11日(火)	愛知・Zepp Nagoya	
10月13日(木)	群馬・ウェルサンピア高崎	
10月14日(金)	茨城・ひたちなか市松戸体育館サブアリーナ	
10月16日(日)	東京・晴海埠頭特設会場(14：00)	
10月18日(火)	新潟・新潟市体育館	
10月19日(水)	福島・福島体育館	
10月22日(土)	東京・後楽園ホール	

※時間表記のない大会は18：30開始

［問い合わせ］全日本プロレス　03-3288-0610
http://oudou.b2p.jp/

10・2 W-1にも参戦!!





10月2日に国立代々木第一競技場で行われた『WRESTLE−1』にチーム3Dが参戦。チャック・パルンボ＆ジョニー・〝ザ・ブル〟・スタンボリーのチームFBIと対戦した。元WWE同士の試合は他の試合とは違いがくっきりと浮き彫りになるようなハイレベルな攻防となった。ここでも試合に乱入してきたヴードゥー・マーダーズのYASSHIをテーブル葬！　リングサイドの子どもにテーブルの破片をプレゼントして大喝采を浴びた。

日本在住のメキシコ人3人組がアメリカンプロレスのウワサを追いかける

アメプロ★ウワサル〜ン ①

ビバ、アメリカ！ 前号まで『ネタバレ通信』としてアメリカンプロレスの噂を追ってきたコーナーが、『kami-pro』新装刊でリニューアル。日本在住のメキシカン3人組がアメリカンプロレスを語るという遠大なる企画だ。口の悪い連中だけど、どうか末永くお付き合いください。



イラスト／エロコエロオ　写真／George Napolitano

『RAW』3時間特番のおそるべき内容とは!?

ミゲル　なあ、どうしてオレたちがいきなり『kami-pro』で座談会を頼まれたんだ？

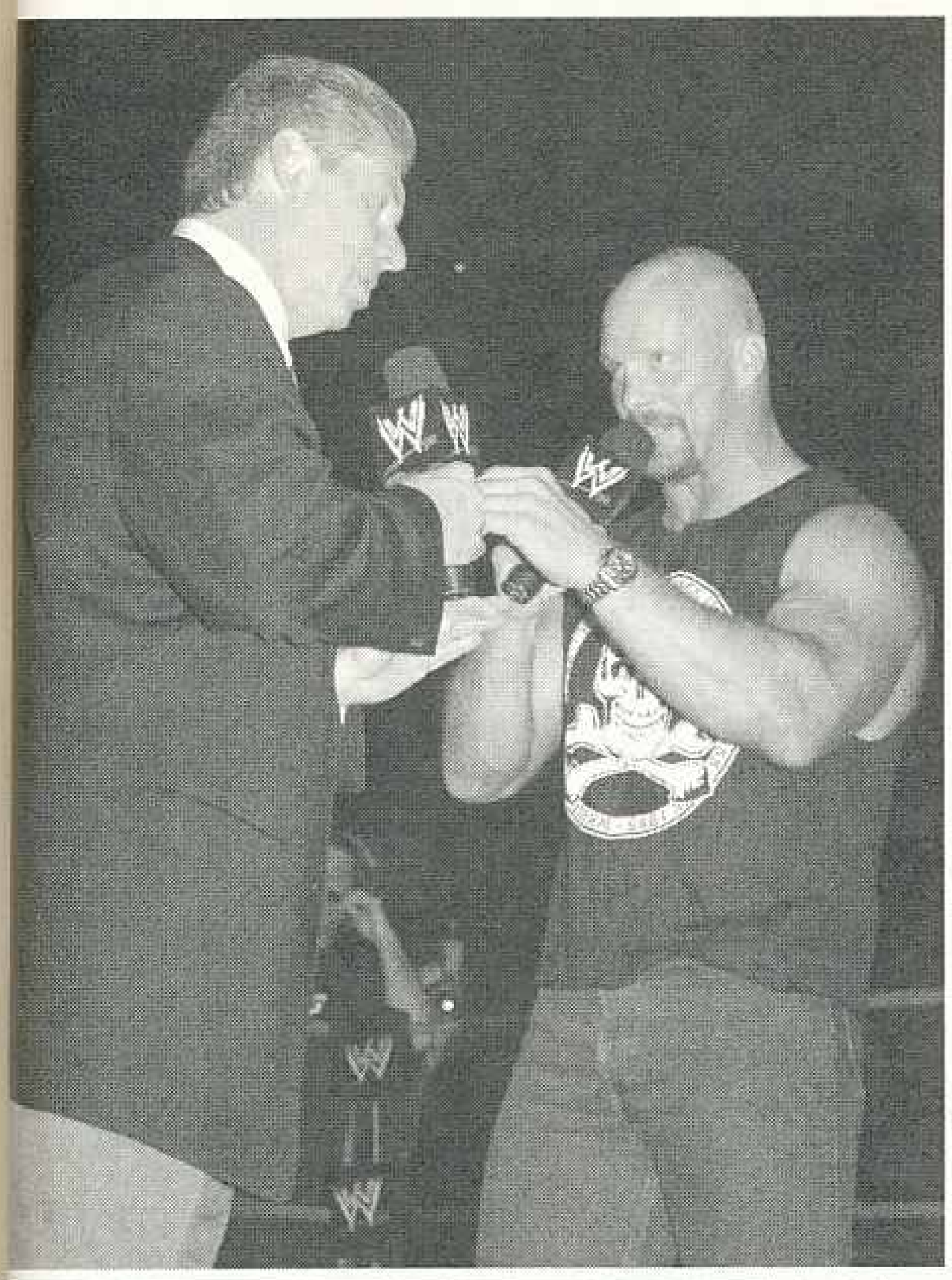
ホセ　知らんよ。「丸投げしとけ！」ってことなんじゃないのか？　〝日本在住のメキシコ人が語るアメリカンプロレス〟ってどうしてそんな遠回りな企画をやってんだ（笑）。

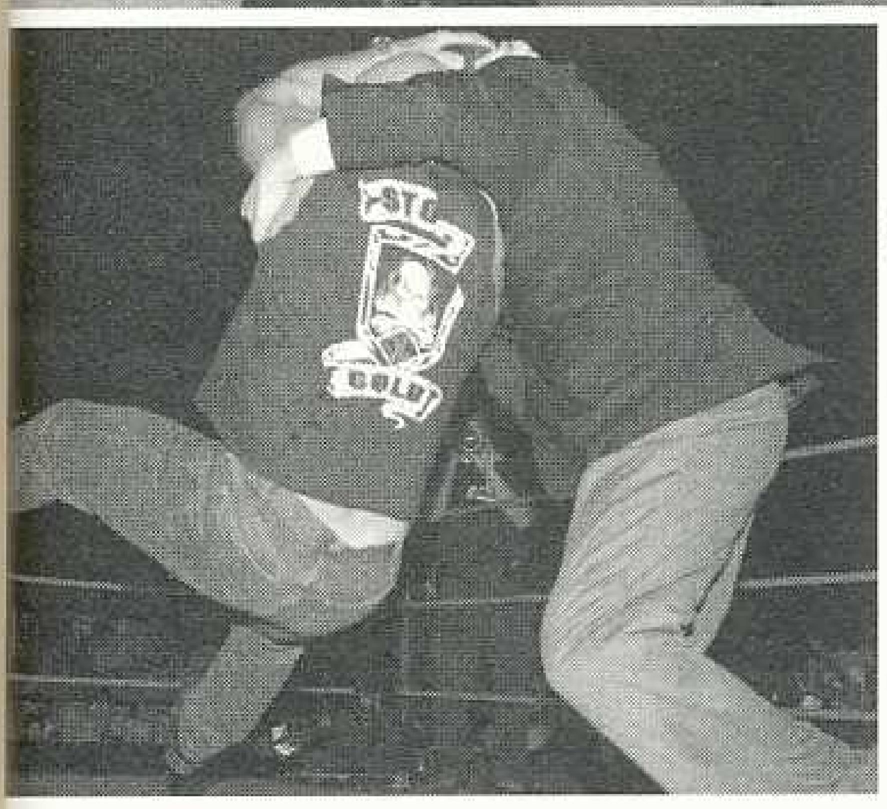
パンチョ　まあ、遠くでコソコソやるからいいんじゃないですか？

ホセ　なんだ、お前？　編集部の回し者か？

パンチョ　ちがうよ！　まあ、いままで似たような企画をやってたみたいだけど（※注『ネタバレ通信』のこと）、雑誌のリニューアルを機にオレたちに声がかかったんでしょ。

ホセ　読者の連中に最初に言っておくがオレたちはメキシコにもアメリカにも、もちろん日本にも情報網を張り巡らしている。業界内にも業界外にもだ。





10月3日（現地時間）、テキサス州ダラスで行われた『RAW』特番「HOME COMING」はすっかりご無沙汰だったストーンコールドとマクマホンも登場した。

ミゲル　ナメてもらっちゃ困るぜ。日本のJ SPORTSで放送される前の情報だって遠慮なくしゃべらせてもらうからな。いわゆる〝ネタバレ〟が嫌なヤツは読むんじゃねえ！　わかったか？

パンチョ　まあ、自己紹介はそんなところにして、今月はビッグなイベントがあったから、そのことを話そうぜ。10月3日の『RAW』が3時間のスペシャルバージョンだったんだよな。

ホセ　『RAW』の放送局が10月から変わったんだ。Spike TVから、もっと大規模なUSAネットワークになった。もともとはUSAネットワークで放送してたんだけどな。その一発目が19時57分から3時間にわたって放送されたんだ。

パンチョ　なんでそんな中途半端な放送開始時間なんだ？

ホセ　『RAW』を9月末まで放送していたSpike TVで、UFCの番組が20時からあったんだ。

パンチョ　なるほど。その機先を制するために3分前から始めたのか!?

ミゲル　WWEの本気度がわかるだろ？　ケンカのとき、まず鼻っ柱に頭突きを入れるような先制攻撃だよ。

ホセ　それで最高視聴率が5％を超えやがった！

パンチョ　すごい！

ホセ　ちなみに裏番組のUFCの名場面集は1％台でまったく振るわなかったみたいだな。USAネットワークで過去にやっていた『RAW』の記録を軽々と抜いてスポーツ中継の中でも3本の指に入るらしいぜ。前日に『RAW』の名場面集を放送していたらしいが、それもいい視聴率だったって話だ。

ミゲル　しかも、番組のタイトルは『MONDAY NIGHT RAW』になってたんだろ？　まさに「黄金時代よ、再び！」って な感じだな。

パンチョ　90年代を思い出すなぁ（遠い目）。

ホセ　内容も黄金時代の美しい記憶をキッチリとなぞった素晴らしいものだったようだぜ。最大の見どころはストーンコールド・スティーブ・オースチンがビンス、シェイン、ステファニー、リンダってマクマホン一家全員にスタナーを決めた場面だ。

ミゲル　おいしいところを全部もっていきやがったな！（笑）。最高だぜ。

ホセ　これをやったおかげでホーガンの出番が短くなって、ヘソを曲げたという情報も入ってきてるぐらいだ。まぎれもなくこの夜の主役はストーンコールドだったってことさ。

パンチョ　WWEの歴史でみたらホーガンの貢献度も凄いけど、『RAW』の主役は誰かと言われたら、やっぱりストーンコールドになるよなぁ……。

ミゲル　ホーガンは「ラトルスネーク（＝ガラガラ蛇、つまりストーンコールドのこと）

と試合をするぜ。ブラザー！」って言ってるらしい。来年の『WRESTLEMANIA』だろうな。

レジェンド大爆発！これがWWEの底力

ミゲル　この日の『RAW』には『SMACKDOWN!』の連中も出たんだろ？　『SMACKDOWN!』提供試合の最中に、GMのエリック・ビショフが会場の照明をすべて切ってしまったらしい（笑）。

ホセ　それで『SMACKDOWN!』のGMセオドア・ロングが怒ってクレームをつけて、最後には『毎度おさわがせします』みたいに『RAW』と『SMACKDOWN!』が入り乱れての大乱闘になって番組は終わったんだ。

パンチョ　アハハハ、最高だ！

ホセ　WWEは大乱闘をここぞという場面で使うよな。乱闘が観客や視聴者の心に与える効果をうまく利用する。『ECW ONE NIGHT STAND』もそうだったし。

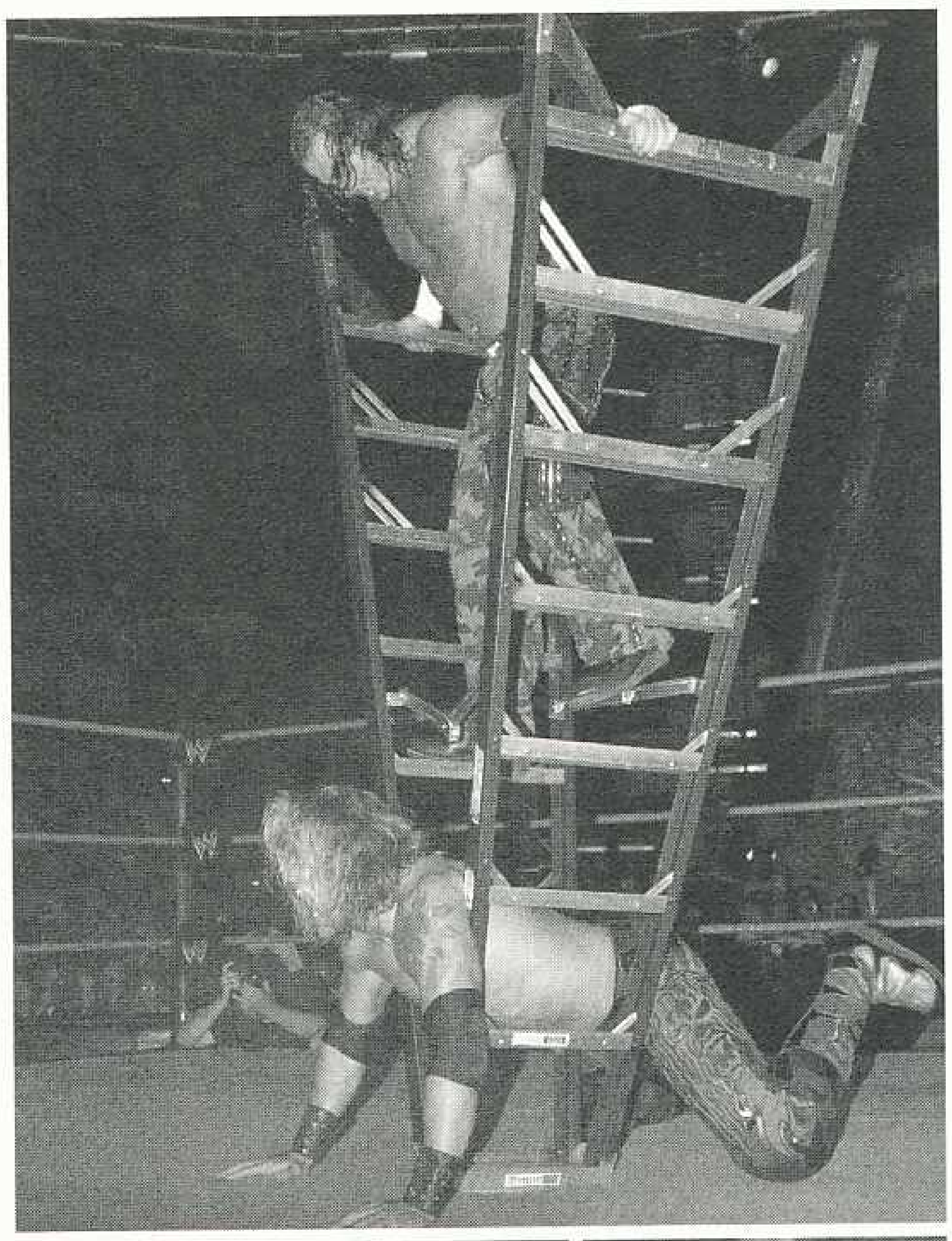
ミゲル　トリプルHも久しぶりに復帰したんだろ？

ホセ　ああ、リック・フレアーとタッグを組んでたんだが、最後にはハンマーを持ち出してフレアーを大流血させた。本来なら『SUMMERSLAM』で行なわれるはずだった一騎打ちだが、『TABOO TUESDAY』か『SUVIVOR SERIES』で決着戦をやるんじゃねえかと言われてる。他にも「ルーザー・リーブ・RAW」マッチでエッジとマット・ハーディーが闘って、エッジが勝った。マットが追放されることになったぞ。

パンチョ　他にもいろいろあったんだろ？　もっと『RAW』の話を教えてくれよ。

ホセ　話してもいいがほとんどネタバレだぞ。ロデ読みたくねえヤツは飛ばして読めよ。ロディ・パイパーの「パイパーズ・ピット」でミック・フォーリーが登場したら、そこにランディ・オートンが乱入してきて2人にRKOを決めたんだ。ミックとパイパーが『SMACKDOWN!』に乗り込んで、ボブ・オートンJr.も巻き込んで抗争になるらしい。

パンチョ　（吐き捨てるように）年寄りばっかりじゃねえか！







ホセ　バカ野郎！　レジェンドをリスペクトしろ！　リングサイドにもレジェンドが大集合だったらしいぜ。パット・パターソン、テッド・デビアス、トニー・ガレア、ビリー・グラハム、ファビュラス・ムーラ、メイ・ヤング、ジミー・ハート、ジミー・スヌーカ、スティーブ・カーン、ヒルビリー・ジム、ココ・B・ウェア、ニコライ・ボルコフ、グレッグ・バレンタイン、スティーブ・ウィリアムス、ハクソー・ジム・ドゥガン、アーン・アンダーソン、リッキー・スティムボート、ディーン・マレンコ、サージェント・スローター、ダスティ・ローデス、ハーリー・レイス……。

ミゲル　ちょっと待て、最後のほうはWWEのエージェントをやってる連中じゃねえか!?

パンチョ　自分のところの社員でまかなってるわけか（笑）。

ホセ　バカ野郎！　WWEのエージェントであろうとなかろうと、彼らレジェンドの功績は変わらねえ。（胸ぐらをつかんで）ナメた口をきくんじゃねえ。

パンチョ　わ、悪かったよ……。

ホセ　お前みたいなバカがやっぱりWWEにもいるんだよな。ロブ・コンウェイが出てきて「半分死んでるオヤジ連中め！」って罵声を浴びせた。当然、レジェンドたちも黙っちゃいねえ。ダスティ・ローデス、パット・パターソン、ハクソー・ジム・ドゥガンのパンチを立て続けに食らって、ケビン・フォン・エリックがアイアンクローを決めたあとにジミー・スヌーカがスーパーフライを決めたんだ。

ミゲル　うぉ〜！　話を聞いてるだけで興奮してきたぜ！

ホセ　だろ？　それを横で見てるユージーンも大興奮してたよ。燃えるよな！

パンチョ　これ、PPVみたいな内容だなぁ。このパッケージでツアーをやれば相当面白いよ。

『SMACKDOWN!』が来年2月上旬に日本ツアー？

ミゲル　ツアーといえば、来年日本ツアーの情報が入って来たぜ。今年と同じ2月の上旬にやるらしい。

ホセ　おい、ホントか!?　そんな噂は初めて聞いたぜ？

ミゲル　ああ、メキシコのマイナー噂サイトに『SMACKDOWN!』のツアーだって書いてあったぜ。

ホセ　……。

パンチョ　……。

ホセ　『RAW』がこれだけ盛り上がってるのに、『SMACKDOWN!』ってどういうことだよ（怒）。誰も口では言わねえけど『RAW』が1軍で『SMACKDOWN!』が2軍みたいな、明確な格差ができてるのに。

パンチョ　先月でユークスがやっていたWWE日本語版DVDの発売も終了してしまって、いよいよ日本をめぐるWWE環境が厳しくなってきたなぁ。

ミゲル　ファンがかわいそうだぜ。

ホセ　日本語版を出そうという動きはあるみたいだけど、まだ流動的な状況だ。何か起爆剤が欲しいよな。まあ、オレもいろいろ年末に仕掛けるから期待していてくれ。

［05年10月某日、静岡県某所にて収録］

50号記念企画てんこ盛り号

no.50 '02.05 880yen
「地方発世界」開始! 小川&橋本/リングスロシア軍団の軌跡/パンクラス取材解禁! 菊田、"尾崎の野郎"が登場!/ギョ!? I編集長が新日本に三くだり半!

揺るぎなきプロレスの確立

no.51 '02.06 880yen
両国国技館だよ、全員集合! 橋本真也/『PRIDE』の魅力をマン開! 小池栄子/天才が悩みに答える! 武藤敬司人生相談/新・超獣ザ・プレデター

戦慄の『LEGEND』前夜!!

no.52 '02.07 880yen
全身プロレスラー・高山善廣/USAの渡世人ドン・フライ/『PRIDE』侵攻開始!! ロシアン・トップチーム/戦慄の『LEGEND』前夜!

『Dynamite』ド直前号!

no.53 '02.08 880yen
ノーフィアー×無謀美・対談! 高山善廣×美濃輪育久/独占肉弾スクープ! マット・ガファリ/爆裂! 川村社長ガチンコ語録!/偽造王の知られざる半生!

『Dynamite』を大総括!

no.54 '02.08 880yen
"首の皮一枚"ホイス&エリオグレイシー/"青い目のケンシロウ"ジョシュ・バーネット/純プロ頂上対談! 武藤敬司×ウルティモ・ドラゴン

受け継げ、Uインター魂!!

no.56 '02.10 880yen
田村戦直前! その覚悟を読み解け!! 高田延彦/蘇れ! Uインター伝説!! 安生&金原&高山/『紙プロ』に世界一性格の悪い男が登場! 鈴木みのる

驚ガクの6周年記念号

no.57 '02.11 840yen
サップとタイマン勝負!! 高山善廣/新たなる"U"が始動!! 田村/悪魔の書、再び! ミスター高橋×大槻ケンヂ/北尾戦・セメントマッチの真実ジョン・テンタ

夢の対談、大連発号!

no.58 '03.01 880yen
夢幻のファンタジー対談 武藤×船木/Uスタイル対談 田村×高阪/Uインター座談会 宮戸×安生×鈴木健/カルガリー師弟対談 ヒト×ハシフ・カーン

最後の皇帝、PRIDE上陸

no.59 '03.02 880yen
いざノゲイラ戦!! E・ヒョードル/アメリカン・ドリーム ダスティ・ローデス/爆発!! WJマグマ語録/吉田道場の秘密兵器 中村和裕/UWFの再興と再考 田村

PRIDEは変貌&再生する!

no.60 '03.03 880yen
ノゲイラ撃破!! E・ヒョードル/驚愕の格闘芸術対談!! 武藤敬司×須藤元気/あのマーシーがすべてを告白!! 田代まさし/全日本中継の真実!! 倉持隆夫

ゼロワンvs新日5.2戦争!

no.61 '03.04 880yen
裏番組をブッ飛ばせ! 橋本真也×小川直也/1年間の沈黙を破った!! ヴォルク・ハン/プロレス・格闘技クロスオーバー対談 エンセン井上×金原弘光

地殻変動の予兆アリ!!

no.62 '03.05 880yen
ヴァーと笑顔で初登場!! 佐々木健介/現役復帰間近!? 船木誠勝/藤田と新日を一刀両断!! E・ヒョードル/新日本バードを徹底検証!!

マット界、超絶リボーン!!

no.63 '03.06 880yen
「お前は男だ」劇場炸裂! 高田延彦/『PRIDE』REBORNを大総括!!/憂国の虎 ザ・マスク・オブ・タイガー/芸能界一の川田番 ダチョウ倶楽部

PRIDEミドル級GP直前!!

no.64 '03.07 900yen
"異次元格闘技戦"田村潔司×吉田秀彦を大展望!!/『PRIDEミドル級GP』出場全選手インタビュー/ミスター高橋の盟友が放つ"猪木の裏側"

田村vs吉田、徹底検証!!

no.65 '03.08 880yen
"最後の皇帝"燃え上がる! ヒョードル/"反逆の妖刀"、遂に皇帝へ!! ミルコ/吉田秀彦戦の"謎"に迫る! 田村潔司/闘魂ストーカーを捕獲! イズマイウ

『PRIDE武士道』誕生!!

no.66 '03.09 880yen
緊急独占インタビュー! ミルコ/マッハの野望を砕いた"赤い暗殺者"登場!! 長南亮/"天才空手少年"VT秒殺デビュー!! 中嶋勝彦/『東スポ』とは何か?

ミルコvsノゲイラ、迫る!!

no.67 '03.10 880yen
ノゲイラ戦に向けて緊急インタビュー! ミルコ/『PRIDEミドル級GP』決勝戦出場全選手インタビュー/アントン"疑惑の時代"を知る男 加治将一

大晦日・格闘技大戦決定!!

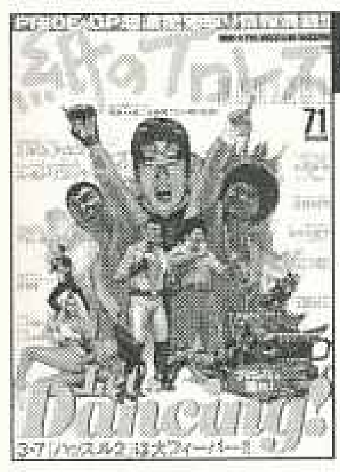
no.68 '03.11 880yen
大晦日三つ巴決戦に出撃宣言! 高田延彦/曙とは何者か!?/一夜ぶりの勝利でニコニコインタビュー 桜庭和志/"野良犬"『紙プロ』初登場! 小林 聡

ハッスル1開催、ド直前!!

no.69 '03.12 900yen
出てこい! 泣き虫!! 橋本真也&小川直也/『泣き虫』著者登場! 金子達仁/大晦日直前インタビュー! 田村潔司/ナイアムリアルプロレスラー 美濃輪育久

紙プロ大賞'03発表!!

no.70 '04.01 880yen
PRIDE征服宣言! ミルコ/シウバに宣戦布告! 近藤有己/ド真ん中の真実を語る! 佐々木健介&北斗晶/発表! 紙プロ大賞&マット界語録2003

ハッスル2で大フィーバー!

no.71 '04.02 880yen
『PRIDE GP』優勝宣言! ミルコ&ノゲイラ/待望の『紙プロ』初登場! 川田利明/理想のプロレスを追い求める! AKIRA/幻の猪木vsアミン戦の真実!!

PRIDEに格闘ロマンを見よ!

no.72 '04.03 840yen
GPの大本命をオランダでキャッチ!! エメリヤーエンコ・ヒョードル/K-1に暴力を持ち込んだ男 山本KID徳郁/全て見せます!!『突撃! 佐々木健介邸』

最も過酷な道を行く男!!

no.73 '04.04 880yen
GP出場決定、緊急インタビュー! 小川直也/PRIDE・GP出場全選手 パーフェクトガイド/キックの名伯楽登場! 伊原信一/魔界のニューリーダー 村上和成

感じろ、ハッスル魂!!

no.74 '04.05 880yen
PRIDE・GPでハッスル成功! 小川直也/リベンジロード発進!! 桜庭和志/"ハードコアのカリスマ"ミック・フォーリー/掣圏会館皇帝 佐山サトル激語り!!

英雄誕生の気運高まる!!

no.75 '04.06 880yen
シルバ戦直前に大ハッスル宣言! 小川直也/奇蹟の独占インタビュー! 高田総統/インド狂虎登場! タイガー・ジェット・シン/年金未納からUFOまで

プロレス爆発へ最後の挑戦!

no.76 '04.07 880yen
小川の"盟友"と"宿敵"が奇蹟の対談!! 破壊王×ノゲイラ/厳しくも、飄々と戦路を進む! 桜庭和志/新連載『月刊PG談(仮)』吉田豪×掟ポルシェ

小川vsヒョードル決定!!

no.77 '04.08 880yen
「相手がヒョードルだろうと俺はハッスルする!!」小川直也/狙うは皇帝の首ひとつ! ミルコ/サンボの神様降臨!! ビクトル古賀

PRIDE GP徹底総括号

no.78 '04.09 840yen
衝撃の敗戦直後、独占インタビュー! 小川直也/小川の敗戦をどう見る!? 高田延彦/K-1のトップが小川を語る 谷川貞治/壮絶インディー人生! 田中将斗

高田総統がビターンと降臨!

no.79 '04.09 840yen
キャプテンに休息なし! 小川直也/特別付録・高田総統ポスター/谷川さん推薦企画「曙は是か非か?」/ビビッたか? ボヤいたか!? 金原モンスター軍

守護神ミルコが外敵狩りへ!

no.80 '04.10 880yen
独占ロングインタビュー ミルコ/ハッスル軍お家騒動を激白!! 小川直也/新連載! 佐山サトルの右流々ン探訪紀/袋とじ企画 元全女・グリズリー岩本

究極のSADAME、迫る!!

no.81 '04.10 880yen
ヒョードルの弱点を発見!? ノゲイラ&ノゲイラママ/新日本でハッスル成功! 小川直也/スーパーひとし君登場! 草野仁/佐山サトル×船木誠勝

男たちの祭りは激化する!!

no.82 '04.12 890yen
"道場破り"の全てを激白! 安生洋二/WJの秘密を大暴露! 永島勝司×ターザン山本!×吉田豪/伝説の悪徳レフェリー降臨! 阿部四郎

大晦日格闘技戦争、大爆発!

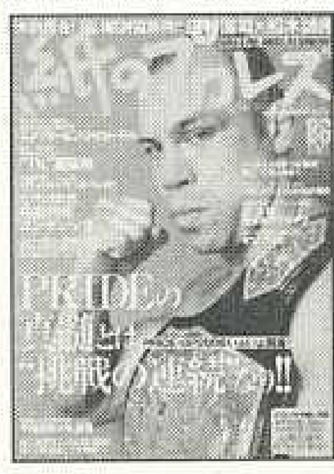
no.83 '05.01 880yen
『PRIDE男祭り』怒濤の大総括!/蘇る新日本黄金伝説!! 橋本真也×船木誠勝/『シベ超5』公開記念SP対談 水野晴郎×サスケ

RTTが皇帝に宣戦布告!!

no.84 '05.02 880yen
"殺人落下傘"が3強越え宣言!! セルゲイ・ハリトーノフ/"頑固者"がPRIDE GPを語る 田村潔司/"起爆剤"か、それとも"時限爆弾"か? 前田日明復活大特集!!

PRIDEvsHERO'S開戦!!

no.85 '05.03 860yen
PRIDE GP2005特集! 桜庭和志、田村潔司、高田延彦/パンクラス2大王者が揃い踏み! 高阪剛×近藤有己/"HBK"が大暴れ!? 草野仁×浅草キッド

PRIDE GP直前大解剖号

no.86 '05.04 860yen
大物再会! 超U総対談が実現!! 船木誠勝×田村潔司/ダンプ松本が全女解散の真実を語る!!/PRIDE GP&K-1 MAX出場全選手パーフェクトガイド

PRIDE GP開幕&大総括!

no.87 '05.05 860yen
敗れてなお咲く花あり! 吉田秀彦/船木誠勝のマッドネス対談シリーズ!! ゲスト・宇野薫/蘇れ! 新日本プロレス学校対談 金原弘光×池田大輔

幻想大国ロシアに潜入!!

no.88 '05.06 860yen
狼魂伝承対談! ハン×ハリトーノフ/メヒコで大激白!! 初代タイガー×ウルティモ・ドラゴン/新生『武士道』大爆発! 五味隆典/ADCC 17ページぶち抜き大特集!!

通販申し込み方法

▼バックナンバーは書店で扱っておりません。下記の通信販売をご利用ください。

①『紙プロHand』で注文 ②電話注文 03-5368-1797
③メール注文 kapra@kamipro.com

※通販方法はすべて代引きとなります。手数料は315円です(代引き金額によって異なります)。
※送料は一律500円(何冊でも可。離島山間部は除く)となります。

ご注意 郵便振替は現在受け付けておりません。ご了承ください。

ア館/ンピオン/タコシェ/レッスル池袋/書泉ブックマート/書泉ブックタワー/書泉グランデ/グレートアントニオ/東京イサミ

大日本掣圏道帝国皇帝が真の武士道を求めて全国行脚

佐山サトルの

日本右流々ン（ウルルン）探訪記



最終回 佐山聡が……吉田松陰と出会った。

文／中村カタブツ君（42歳）

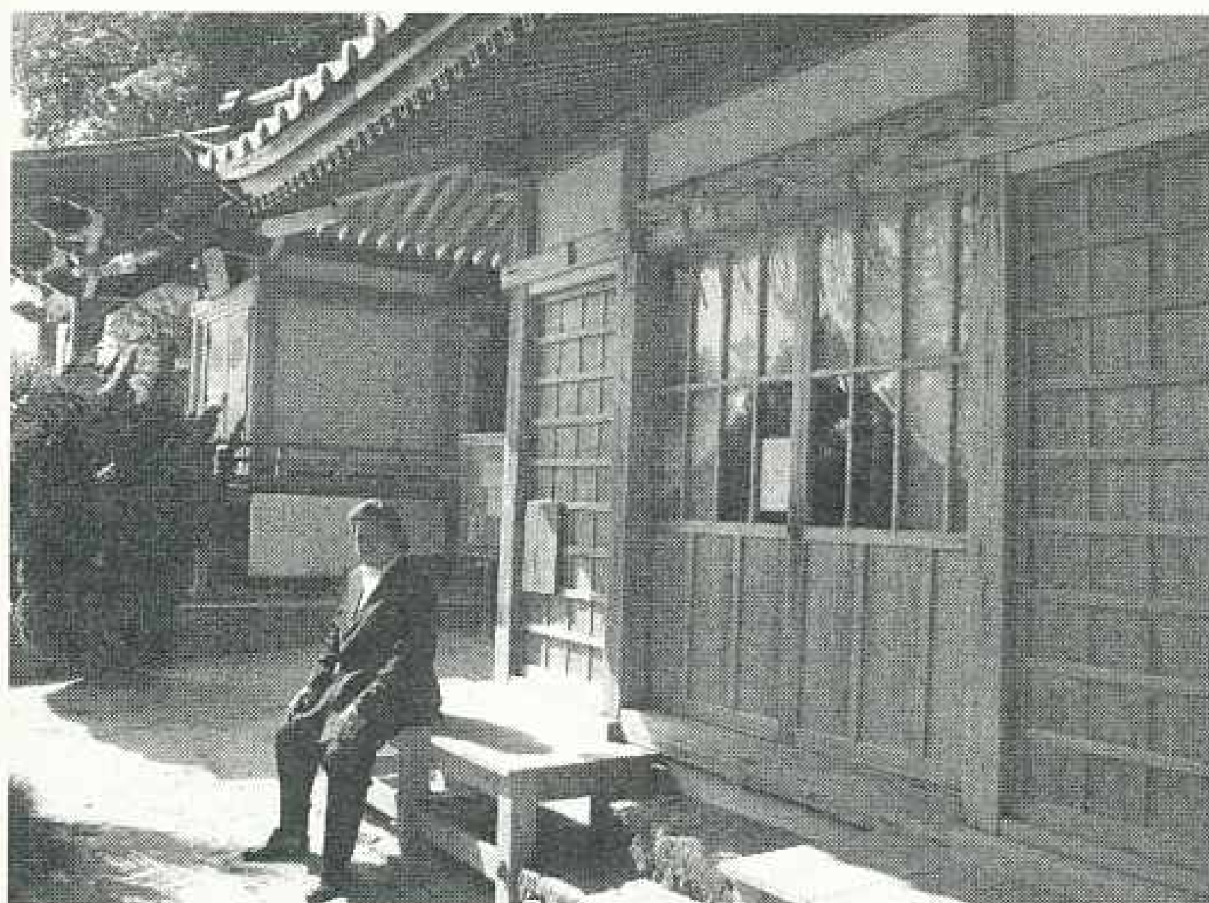
佐山皇帝が黒船の町・下田に上陸！ 吉田松陰の志に大和魂を学べ!!

最終回となる今回は、佐山皇帝ゆかりの地とも言える伊豆・下田を訪ねる。なにしろ、この地は皇帝と同郷の偉人である吉田松陰が下田沖に停泊中のペリー艦隊に命懸けで乗船を嘆願、受け入れられないと潔く幕府に自訴して獄に下った歴史的な場所。維新の激動が刻み込まれているのがここ下田なのだ。

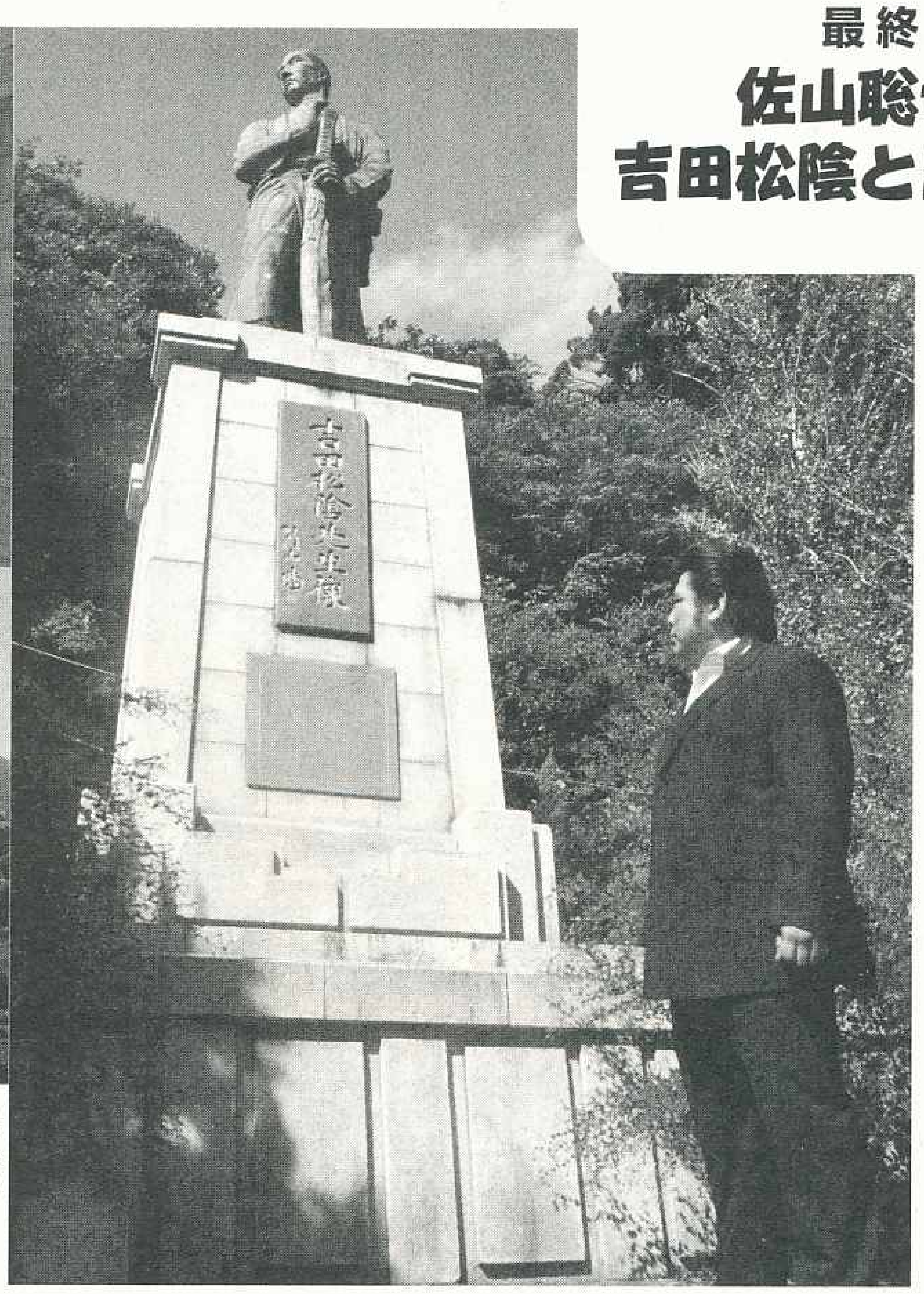
「やっぱりこういう場所では身が引き締まりますよ。吉田松陰はここから小舟に乗って黒船へと漕ぎ出した。当時とすれば命懸けの行為でしょ。なんとしても国を変えてやろうという気概って凄いですよ」と皇帝も身体を震わせる。

そんな中、今回は見て回る場所も多いため、タクシーを一台仕立てのだが、その運転手さんがいきなり、「あのぉ、もしかして佐山さんですか？　修斗の」と聞いてきたのだ。有名人の佐山皇帝が取材中に声を掛けられることはたしかに多い。しかし「修斗の」と尋ねてきた人はこの方が初めて。聞いてみると、なんと運転手さんは15年ぐらい前の修斗の合宿を紹介したテレビ番組を見たという。そう。皇帝が竹刀を振り回して厳しさの上に厳しさを重ねて弟子たちを血まみれにした、あの伝説のドキュメントの目撃者だったのだ。15年近く経っても色褪せない竹刀のインパクト！　さすがは皇帝なのである。

「よく覚えてますねぇ。でも、あの竹刀はCGですから（笑）」







幕府からは過激思想犯とみなされ、安政の大獄により刑死した吉田松陰。その先進性は、常に我々の10年先をバク進する佐山皇帝と相通ずるモノがある。「国を守るためにはアメリカを識るしかない」――松陰は黒船に乗り込みアメリカへの亡命を画策するが、ペリー提督に拒否され未遂に終わる。亡命計画遂行前日、松陰は弁天堂（写真上）で一夜を過ごし、そして翌日、皇帝が指さす沖に停泊していた黒船に向かい、同志とともに小さな船を漕いで行ったのだった。

相変わらず適当なことを言って、運転手さんを困惑させる皇帝。取材はこんな和やかな感じでスタートしたわけなのである。

で、最初に訪れた場所は吉田松陰像の前。「私は吉田松陰も好きだけど、弟子の高杉晋作も好きで、実家の近くには奇兵隊（高杉が作った長州藩最強の軍隊）の練習場跡があったんですよ。そこで私も子どもの頃、柔道の練習をしてたんですよぉ（笑）」と、若き日のことを懐かしむ。

そんな皇帝だが、いまや掣圏真陰流を創設し、現代の奇兵隊を造ろうとしているのだから、その身には志士の血がたぎっていると言えるのだ。

「それだけじゃないですよ。松陰の弟子の伊藤博文は私の家と関係があって、じつは伊藤博文が暗殺された時、私の家で遺骨を預かっていたことがあったんですね。母方の親族がみんな職業軍人で下士官だったからでしょうけど、自分でもちょっとルーツが気になりますね」

なんと、郷土の気質だけでなく、皇帝の先祖は実際に幕末の志士たちと交流があったようなのだ。佐山皇帝の日本を変えようとする活動はまさに必然だったのである。そう思ってみると、皇帝のお姿も一層輝いて見えるから不思議。そんな僕らの視線を感じたのか、皇帝は突然聞き慣れないリズムで「松下村塾〜」と言い始めたのだ。なんですか、それ？

「これは吉田松陰の歌。カラオケ行くとたまに歌うんですよ。松陰の歴史を知ってれば凄い泣けるから。カラオケで歌うのはこれと、軍歌とエルビス（笑）」

凄すぎる。カラオケの場にあっても、日本を思い、さりとて世界のことも忘れない本物の国士っぷりがこの選曲によく表現されていたのであった。

さて、続いて向かった先は弁天島。ここは松

陰が黒船に漕ぎ出す前日、弟子の金子重輔とともに、小さな社に隠れて一夜を過ごした場所だ。

「吉田松陰がこの社に潜んでいた時の心境は凄いものだと思いますよ。わかってほしいのは、その強さと高貴な志。やっぱり強い人間って純粋ですよね。〝俺が国を背負って立つ〟という気概が本当の強さなんです。だから、いまの国会議員なんて区議会議員レベル。徳川慶喜のような、明治天皇のような、国を背後に背負う人たちの心づもりと、いまの国会議員と言われる人たちの心づもりはまるっきり反対ですよ！」

と、ここでも国を憂う皇帝。ボクら取材陣も思わず襟を正しつつ沈黙すると、「だから、君たちは今日この社に一泊して明日、舟に乗って沖に漕ぎ出さないとね、私は帰るけど（笑）」と、適当なこと言い出す。すると、運転手さんは親切心から「あ！　なら、このすぐ沖の島でカジキが釣れるんですよ。そこに行くといいですよ。松方弘樹さんとか、梅宮辰夫さんも毎年来られますから」と、伊豆下田のレジャー情報を教えてくれるから抜群のタイミング。〝修斗の佐山さん〟発言といい、要所要所で場を盛り上げる。

そして3番目の訪問地が玉泉寺。日本で最初の米国総領事館となった同所には、アメリカ総領事タウンゼント・ハリスが着任し、日本の開国に向けて奔走した。また、境内にはハリス記念館もあり、ハリス使用のナイフやパイプ、唐人お吉のマネキンなどが展示されている。

「ハリスが尽力した日米修好通商条約は悪名高い不平等条約ですね。ただ、ハリス自身は日本のことを思ってくれて、55カ国の大使館を渡り歩いて交渉してくれたんですよ。それはなぜかと言えば、日本という国に驚いたから。崇高な精神性と高い識字率、町並みも清潔で、未開の地だと思っていたのが人間も国土も美しかったことに感銘したからなんですね。ペリーも同じようなことを書き残しているけど、本来の日本はそういう国なんですよ。誰が相手でも礼儀礼節を失わず、訪れた人たちが尊敬の念を持つような国だったはずでしょ？　私がやろうとしていることはそれを復活させようということですから。そのためにはやはり道場が必要だと思って、いま都内の物件を探してますよ」



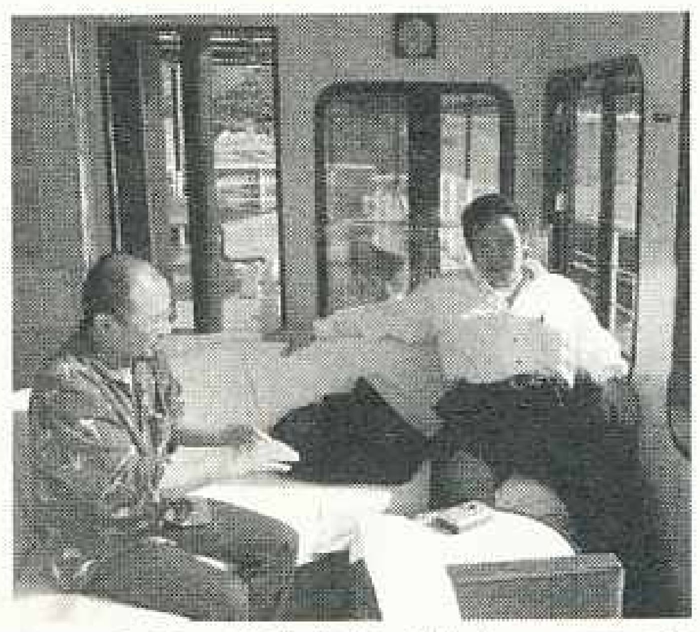


100円で売ってるカモメの餌（どう見てもかっぱえびせん）。船上から人懐こいカモメたちにダイレクトに餌を与えることができるのだ。好奇心旺盛な皇帝も早速挑戦。だが虎の気配を察したのか、なかなかカモメが近づいてこないため餌付けは失敗に終わった。



嘉永元年（1854年）3月、日米和親条約の締結により下田が開港し、その2年後、タウンゼント・ハリスがこの玉泉寺に米国総領事館を開設。ここを中心に幕末開国の歴史が動いていく。


伊豆の海から取れた新鮮な刺身に舌鼓を打ちまくる皇帝。塩辛が食べられないカタブツ君（42歳）に「催眠術で食べられるようにしてあげようか？　口に入れた瞬間に解いちゃうけど。うふふ」と悪魔の微笑を浮かべた。


約20分間の遊覧旅行は料金920円。庶民とは違い、地位も名誉もある皇帝陛下なので、400円をプラスした特別2階フロアでゆったり遊覧。我々取材班も皇帝に便乗し、クルージングを楽しんだのだった。押忍!!（敬礼）


ペリー提督率いる黒船のひとつ「サスケハナ号」を模した遊覧船。大きさも実際の黒船も同じぐらいとのこと。これでアメリカからやって来る（しかも蒸気船）なんて、ペリー提督も結構ガッツマンだ。

待ってました！　ついに、皇帝は本格的に動く決意をしたようなのだ。

「これは格闘技だけの道場ではないことを明言しておきますよ。正しい歴史も教えていくし、精神的にも強い人間を作って、大和撫子も作っていきますから。もうね、ミスユニバースを育てたいと思ってますからね」

は？　いきなりミスユニバースって唐突すぎませんか？

「じつはね、この前ミスユニバースの日本代表選考会があって、そこで優勝した子に会って催眠をかけてあげたんですよ（笑）。催眠というか、正しくはセラピーですけど、世界大会の大舞台でもアガらないようにしたいっていうんで、催眠を使ったセラピーをしてあげたわけ。いま私のセラピストとしての実力は凄いんですよ。ちょっとしたヒントをつかんで先月からまた急激に進歩してて、悩みを解決してほしいって人が凄い増えてるんですよ。だから、もしかしたら、この道場はそれがメインになるかもしれない。でも、そうなると掣圏真陰流じゃなくて掣圏診療所になっちゃうけどね（笑）」

どこまでが本気でどこまでが冗談だかわからない皇帝イズム。もっとも、このセラピーは、皇帝が精神の研究のためにやってるもので、その上に「やっててホント、楽しいよォ（最高の笑顔で）」という術者としての喜びも加わっているから、上達が日進月歩なわけだ。世のため人のため、そして皇帝自身の素敵すぎる笑顔のためにも掣圏診療所の開設を熱望したいのである。

で、この後は黒船を模した遊覧船サスケハナ号に乗船。船内では餌付けされたカモメや鷲にかっぱえびせんを上げながら「なんでこんなものを食べるんですかね？」「やめられない、とまらないからじゃない」（by皇帝）といった肩の力が抜けきった会話などを展開しながら、我々は下田の地をあとにしたのであった。

そして帰りの電車内、今回が『右流々ン』の最終回であることを改めて告げると、「じゃあ、次から〝左流々ン〟にする？　テーマは自由・平等・迫害（笑）。うそですよォ」と答える佐山皇帝。最後の最後まで面白くて物騒だったことを記して、しばしのお別れとしたいのである。

★狂気のコラム連載中！ 掣圏真陰流HP http://www.seiken-do.com/　★開国の町 伊豆下田HP http://www1.ocn.ne.jp/~gyokusen/

新 卓球少女(仮)松下ミワのハガキ愛ランド



前号で終わってしまうのかと危惧されていた『ハガキ愛ランド』。でも、リニューアル第1号で早くも復活を果たしました! これからも末永くよろしくお願いします。今月は上杉HGがタイに行ったり、松下ミワが念願のダンヘンインタビューを叶えたりと内容満載! ではぐいぐい行きましょう! 3、2、1、山の手、山の手、う～逆方向!(実話)。

RADICAL91号へのお便り紹介

レイザーラモンHG大特集、フォー! 最近、学校で「フォー!!」がとても流行ってます。記事もとても面白く読みました。ハードゲイ、フォー!! 最高!
【福岡県・組坂優起・中学生・13歳】

↓学校と言わず、いろんなところにどんどん広めてください! でも、あんまりやりすぎると通知表の成績が下がるので気をつけてね♥ ちなみに『kamipro』編集部でも、いちエリア(上杉HG)だけ「フォー!」と「下半身中心に」というワードが爆発的に流行っています。

安生洋二インタビューは最高です。自分を「ミー」と呼んで司令長官だと気づかれそうになったのが面白かった。
【東京都・桑本薫平さん・中学生・12歳】

↓かなり洞察力のあるご意見ありがとうございました。安生洋二さんが司令長官なのかはいまだ闇の中ですが、あの発言でその謎はいっそう深まりましたよね。

「破壊王、故郷へ帰る」の企画が面白かった。90号の「かずみさんインタビュー」や「ZERO1・MAX座談会」で破壊王のトンパチぶりを読んでいたので、今回の特集の寂しさはたまらなかったです。幼いひかるちゃんの写真も泣きました!
【大阪府・山内義久さん・アフリカ行き希望・36歳】

↓じゃあつぎは、その寂しさを吹き飛ばすために、『紙の破壊王』(たぶん、もう書店に並んでいるはずです)で再び笑ってください! 恥ずかしがらずに読むんじゃぁ。

長州小力のインタビューが面白かった。こういう人の話を聞くと、なんか自分にも自信が持てる気がしました。でも、あのパラパラは夢にまで出てきて迷惑です。なんとかしてください。
【福井県・立ち往生さん・パチンコ店経営・38歳】

↓"夢"の"中"と書いて"夢中"! そう、夢に出てくるということは長州小力さんに夢中な証拠! 立ち往生さんも91号104ページの小力さんばりに地面を強く蹴って踊ってください。

「さようなら、RADICAL座談会」が面白かった。というより、いろんな人が読んでる雑誌なのに日明兄さんのハードコミュニケーションの話をしても大丈夫なのかなと心配になりました。ガンツさん、身の安全をお祈りします。
【東京都・寺田純さん・豆腐売り・24歳】

↓ロシアから帰国後、堀江さんはずっと正拳突きをいただいた部分に湿布を貼っていたそうですが、最近は触っても痛くなくなったみたいです。ちなみに、いまのところ堀江さんは無事です。

「リングス・エカテリンブルグ旗揚げ戦」の特集が面白かった。コピィロフおじさんの娘さんの写真のところに"美人だ"って書いてあったけど、写真に口ひげを書いてみてください! コピィロフおじさんそっくり!!
【大阪府・千本一博さん・22歳】



ご自由にヒゲをお塗りください。

↓たしかに。美人だけどコピィロフそのものです! 教訓としては、美人とおじんは紙一重ということですよね! 素晴らしい発見ありがとうございます。梅宮アンナにも似ているのは気のせい?

I編集長の喫茶店トークは最高でした! 「格闘技にヘビー級もミドル級もフライ級もない! そんなもんがあってたまるか(怒)」というI編集長の発言を読んで、小さいことにクヨクヨしがちな自分を反省しました。僕もI編集長のように、「社長も部長も係長もない! そんなもんがあってたまるか」と言える人間になりたいです。
【福岡県・平さん・会社員・26歳】

↓それはあまり言わない方がいいと思います。もし言う場合は、ご家族と充分相談してからにしましょう。

ミルコの特集がダントツでした。あのインタビューで格闘技界の裏舞台の大変さがわかりました。これからミルコがどうなるかわかりませんが、復活に期待しています!
【大阪府・阪本昌嗣さん・専門学校生・23歳】

↓復活も何も、前出の通り、ミルコは10・23『PRIDE.30』への参戦が決定ずみ。しかも対戦相手はケンシロウ大好きっ子のジョシュ・バーネットです。それにしてもミルコ、超人すぎ。

「実況!紙の場外アナウンス」を読んで、日本以上に誘惑の多そうなブラジルで今後アローナがどこまでふんばれるのかが気になりました。ちなみに、僕はアローナの顔と肉体でブラジル人に生まれなかったことを凄く後悔しています。
【東京都・もやし友達さん・秋葉原担当・34歳】

↓個人的には、筋肉大好きっ子の私も世の中がアローナ選手のような肉体の人ばかりになればいいなと思っています。

僕はいつも目次の©マークのコメントを見てひっそり笑っています。あの一言は面白すぎ!
【埼玉県・浅田太一さん・会社員・33歳】

↓細かい部分までご指摘してくれて感謝、感謝です。ごく稀に理解不能なコメントもあるかと思いますが、わりと深い意味が込められていたりするので、勘ぐりまくって読んでください。今

91号・面白かった記事ランキング

順位	記事
1位	レイザーラモンHG特集
2位	ミルコ・クロコップ特集
3位	長州小力インタビュー
4位	さようならRADICAL座談会
4位	ミルコとシウバはなぜ敗れたのか(堀辺正史)

今月はミルコ特集&長州小力&レイザーラモンHGの三つ巴。その中でもトップを飾ったのは、まさしく下半身中心に輝きを放っているレイザーラモンHG特集。よくも悪くも反響ありすぎ! "『紙プロ』限定"といっても過言ではない『紙プロ』プレゼンツ・ミルコ特集は2位にランクイン! 第3位の長州小力インタビューには、なぜか「励まされました!」という声が続々。さようならRADICAL座談会も上位にのぼり91号はまさに面白特集目白押しのナンバーと評判でした。

上杉HGのハードゲイinタイランド



の帰国後のはなし

ドン・中矢・ニールセンインタビューにかこつけて、ライターの橋本さんとともにタイへ飛び、約4日間のバカンスを楽しんだ上杉HG。『kamipro』92号の締め切りまぎわのクソ忙しい時期に編集部一同から大顰蹙をかいながらも、タイの夜満喫ツアーを強行突破したのだ! そんな上杉HG、手ぶらで編集部に帰ってくるのをちょっと後ろめたく思ったのか、償いのタイ土産を持って帰国。編集部一同も、そんなHGの心遣いに一瞬、気を許そうをしたのだが……!

【土産】とは・旅先で求めて持ち帰る、その土地の産物(広辞苑)

編集部へのタイ土産



外国の土産ものでよくあるパターンの下ネタTシャツ。編集部内では「こんなの着れないじゃん」と怒られ気味なHGだったが、結局、このTシャツはチョロさんが引き取るハメに。

明らかに日本人観光客狙いの本品。「こんなのあるよ」と土産チョイス時に指さすことはありえるが、そのまま買い物かごに入れてしまうところがさすが上杉HG。バックプリントには使用方法までプリント。

スクープ! ザ・目撃!!

先日の『PRIDE武士道』の会場で、**ユン・ドンシク**選手を発見しました。ユン選手は自分の席が見当たらなかったのか、**オープニングを僕らと一緒に立って**見つめていました。僕はそんなユン選手を見つめていたのですが、その視線に気づいたユン選手は、**なぜかニヤニヤしながら**僕たちのもとから去っていってしまいました。【埼玉県・ソナタさん】

➲私は8・28『PRIDE GP』の会場でもニヤニヤしているユン様を発見しました。ちなみに、今回の読プレでは山口日昇の韓国土産、ヨン様メモ帳をプレゼント(福袋に入ってます)。



●もうだいぶ前になるんですけど、光が丘の銭湯に行ったときに**藤井軍鶏侍**さんを発見しました。軍鶏侍さんは**サウナ**に入ろうとしていたんですが、サウナに長時間入っていられない僕は、「さすがプロレスラー!」と感心して見ていました。が、なんと軍鶏侍さんは**わずか2分足らずで退出**。ちなみに、そのとき僕は眼鏡をかけていなかったので、あれが本当に軍鶏侍さんだったかどうか、真実は闇の中です。
【東京都・真下義之さん】

➲サウナでがんばりたいという心意気。それこそが素晴らしいですね!

●先日、恵比寿の高級ホテルで帽子を深々とかぶった**神取忍**さんを発見したんだけども、びっくりしたのが、そのちょっと後に同じ場所でバリッとスーツで決めた**小川直也**を拝見したんです。あの場所で一体何があったんじゃろかと、不思議に思いました。
【東京都・匿名希望・72歳】

➲1日のうちに二人の大物レスラーに会うとは、大変濃い1日でしたね。

●この前、全日本キックの試合を観に行ったら、リングサイドで**山本優弥選手のTシャツを着て**観戦している**摩邪**を発見してしまいました。試合中はあの素敵な声で惜しみない歓声を送っていた摩邪。マット界を生きる身として、何か相通じるものがあったのでしょうか。【東京都・M−2グランプリさん・27歳】

➲摩邪さんは今後、ハッスルでどんな絡みがあるのか楽しみですね。ちなみに、摩邪さんの好きなタイプはエレカシの宮本さんだそうです。



ここ3年『PRIDE』は会場で見ていますが、歓声で耳が割れそうになったのは五味vs川尻が初めてです。
【神奈川県・岡田健生さん】
➲会場の中で観戦できなかった私からすると、めちゃくちゃうらやましいコメントです! あの試合は10年に一度のベストバウトと浅草キッドのお二人も絶賛です。

後もお見逃しなく!

9月20日に放送していた「たけしの本当は怖い家庭の医学」にアントニオ猪木さんが出ていて、糖尿で死にそうな話をしていたのですが、そのときに再現VTRで猪木さんの役を演じていた人が「燃える情念」石川雄規選手に似ていたのですが、本人ですか?
【北海道・安倍正典さん・フリーター・33歳】

テレビ朝日に電話して問い合わせたところ、日曜だったので電話番のおばちゃんしか出てくれませんでした。「そんなこと言われてもさっぱりだからねぇ。でも猪木っていう人はわかるよ」と、逆に猪木さんについて10分ぐらい話を聞くはめになりました。

ちなみに、チョロさん情報によると本人だそうです。

もうすぐ4歳になる娘と一緒に『紙プロ』を読んでいたのですが、タンク・アボットのページを開いた瞬間、娘が泣き出してしまいました。それ以降、私が『紙プロ』を持っているだけで、娘はもの凄い形相で睨んできます。正直、自分が嫌われたみたいで凄く落ち込んでいます。
【京都府・リキヤ似さん・運送業・29歳】

ちなみに、私は子どものころに、西遊記のオープニング(岩から孫悟空が生まれるシーン)を見て泣いていました。



【福岡県・江本洋さん・44歳】
➲タンク・アボット、しぼんだバージョン。レイザーラモンHG同様、善し悪しに関わらずかなりの反響がありました。次回はもっと凄まじい暴れっぷりを見たい!



【埼玉県・稲葉聡さん】
➲WRESTLE−1で三沢選手と対戦した曙選手。さすがの横綱も負けてしまいましたね。残念! でも、四股を踏んだ姿はさすがに貫禄でした。



【石川県・シーザー孝志さん】
➲『PRIDE武士道』ルイス・アゼレード戦では残念な結果になりましたが、次回に期待!! あと、小谷選手には理解不能なおもしろ言動にも大期待したいです。

今月の衝撃写真!!



とある人物から『kamipro』編集部宛に上の衝撃写真をご投稿いただきました! 写真の氏は『Lady'sゴング』を編集されている名物編集者・[redacted]さん! さらにさらに、これまた、とあるルートから10月14日増刊号『Lady'sゴング』が3冊も編集部に届きました。内容的に、さささぃさんと松下ミワは見ないようにと忠告があったのですが、おかげさまで2人ともすっかり完読。ごちそうさまでした。せっかくですのでこの感動を読者のみなさまにもお裾分けしたく、『Lady'sゴング』をプレゼント提供したいと思います! 詳しくは読プレページへ急げ♥

感謝!感謝!のお便りコーナー



【大阪府・白河甚平さん】➲リニューアル一発目にふさわしいステキなイラストありがとうございました! これからも『kamipro』をどうぞよろしくお願いします!

おハガキ募集!!

復活した新“ハガキ愛ランド”に、これからもドシドシおハガキください! ご意見、ご感想、苦情、抗議、お悩み、ダメだし、ほめ殺しなど、どんなことでも結構! お便り、お待ちしています!

※『kamipro』になっても、いろいろ募集!!

- **ザ・目撃!!**
- **おもしろ写真投稿**
- **選手に対するご意見、試合の感想**
- **その他、読者ページでやってほしい企画**

以上、すべてのお便り・イラストのあて先&メールアドレスは
radical@kamipro.com
〒151-0051
東京都渋谷区千駄ヶ谷5-16-6　パレ・ジュノ2F
(株)ダブルクロス　『kamipro』編集部
「**まいっちんぐ増刊号**」係まで。

携帯サイト『紙のプロレスHand』からの投稿もできます

ROAD TOダンヘンの一部始終

ダンヘンインタビュー前夜。これはもうお祭り騒ぎだと言わんばかりに、上杉HGに手伝ってもらい徹夜で英語のラブレターを作成した松下ミワ。さらに明け方、自腹(¥7,000)で真っ赤なバラの花束を購入したのです!! この時点で早くも編集部はドン引き。

インタビュー当日、会場に姿を現わしたダンヘンは……、なんと! 一人だけ(※)スーツ姿で超男前だー!! そんな彼の姿にすっかりハイテンションになってしまった松下ミワは、その高揚を隠しきれずそのままインタビューに突入。そして、花束&ラブレターを渡すことができたのです。が、あまりのはしゃぎっぷりにこの時点でダンヘン自身もドン引き。しかも、インタビュー終盤には機嫌を損ねる質問をしてしまうなど、最悪のパターンだったのです。



さらにもっと悪いことに、前日徹夜で書いたラブレター、上杉HGの悪だくみでかなり破廉恥な内容に翻訳されていたという事実が発覚! もう、人生終わりです。本気で上杉HGを呪います。

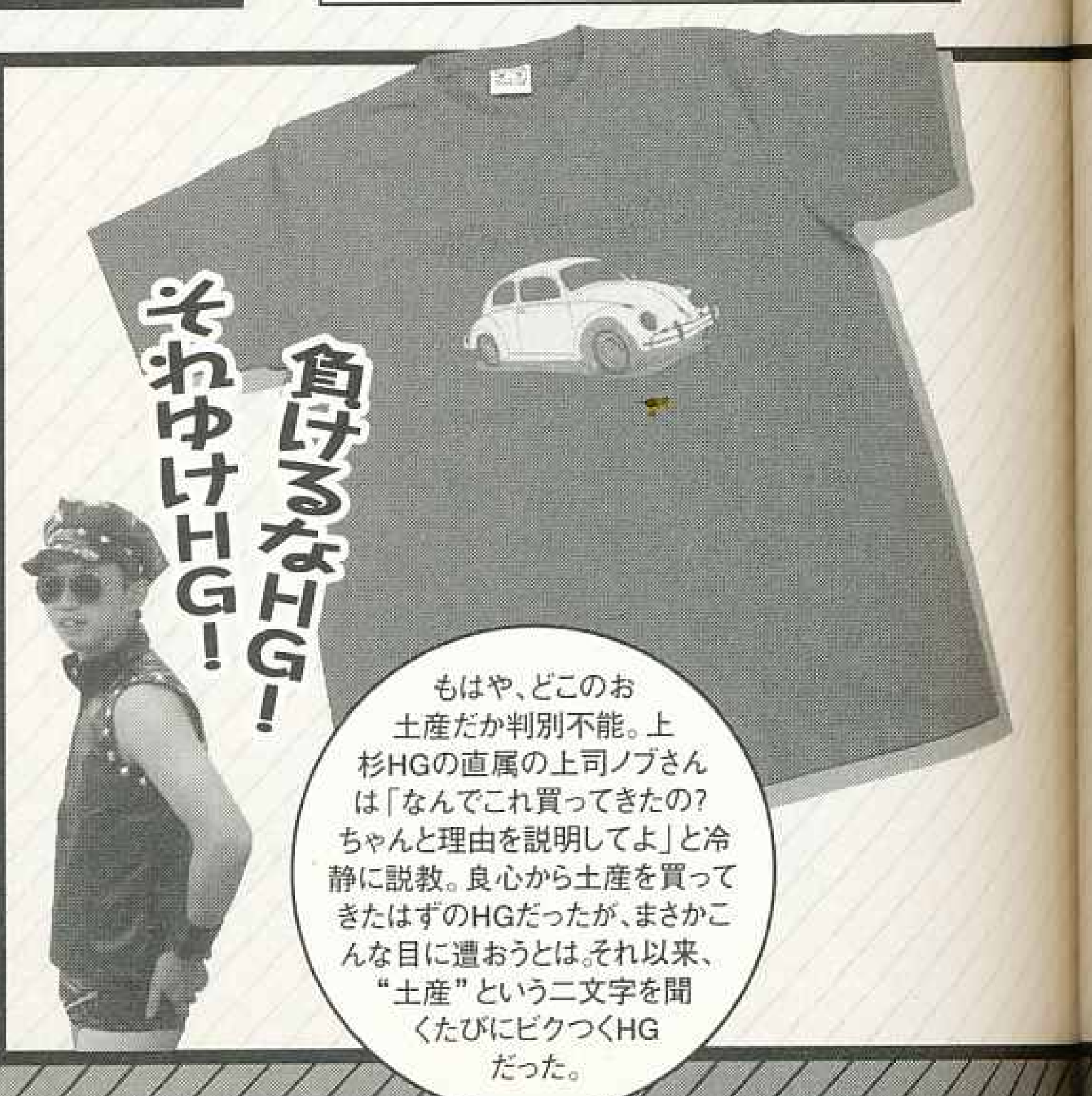
でも、一応、編集魂として直筆サイン入りの読プレグッズをいただいたので、ほしい人は158ページを見よ! ちなみに、Tシャツも卓球ラケットも自腹(¥3,800ぐらい＋¥1,000ぐらい)です。

※この日は『PRIDE武士道』の一夜明け会見があったので、会場には榊原代表や高田統括本部長、その他勝ち上がった3選手もいらっしゃいました。

I meet♥ ~~need~~ ダンヘン



【東京都・YAーさん】
➲いやー、申し訳ないですけど会わせていただきました、ダン・ヘンダーソン。やっぱ、生は最高です。**想像以上に!** その一部始終というにはスペースが足りなすぎるのですが、簡単なROAD TO ダンヘンストーリーを書いてるので見てください。



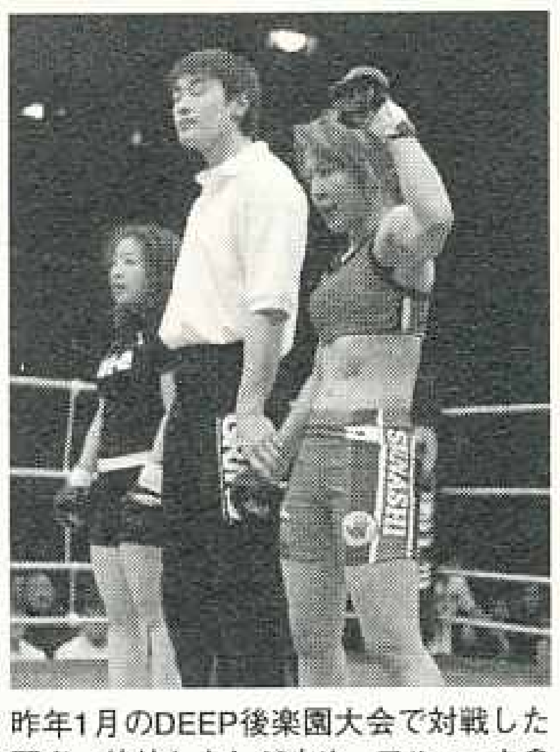
もはや、どこのお土産だか判別不能。上杉HGの直属の上司ノブさんは「なんでこれ買ってきたの? ちゃんと理由を説明してよ」と冷静に説教。良心から土産を買ってきたはずのHGだったが、まさかこんな目に遭おうとは。それ以来、“土産”という二文字を聞くたびにビクつくHGだった。

ハミ出し 情報局

注目大会が異常集中した10月2日、自分は泣く泣くW-1とパンクラスを断念し、マッスル・ハウス&大日本のファイヤーデスマッチへ。ちなみに両大会でサムライキャスター三田佐代子さんを発見。同日のアパッチプロレスでも目撃例が。3大会をハシゴする三田さんのアグレッシブさに感心しきりの三十路が担当する情報ページ。はじまりはじまり〜。

"サンボ姫"しなしさとこ 2年5ヵ月ぶりのスマック参戦!!

『SMACKGIRL〜最軽量記念日〜』
★日時　11月29日(火) 試合開始18:30
★会場　東京・後楽園ホール
★決定対戦カード
【スマックガール初代フライ級(-48kg)女王決定戦／5分3R】しなしさとこ(フリー) vs 大室奈緒子(和術慧舟會東京本部)
★チケット(当日500円up)
SRS席 10000円、RS指定席 7000円、A席 5000円、B席 3000円
★問　スマックガール 03-3324-8790
★HP　http://www.smackgirl.com/


昨年1月のDEEP後楽園大会で対戦した両者。終始しなしが攻め、フルマークの判定で勝利している。

馬場さんのお膝元・新潟で 小島vsバーナードの三冠戦が決定!!

全日本プロレス『2005 シャイニング・シリーズ』
★日時　10月18日(火) 試合開始18:30　★会場　新潟・新潟市体育館
★決定対戦カード
【三冠ヘビー級選手権】(王者)小島聡 vs ジャイアント・バーナード(挑戦者)
※王者4度目の防衛戦
★シリーズ参戦選手　TAKAみちのく、太陽ケア、ブキャナン、ディーロ・ブラウン、TARU、ジャイアント・バーナード、近藤修司、佐々木健介、中嶋勝彦、ババ・レイ、ディーボン、スペース・論・ウルフ、菊タロー、石森太二
★チケット(当日500円up)　アリーナS席 7000円、アリーナA席 5000円、2階特別席 4000円、2階自由席 3000円、2階小中高生 1000円
★問　全日本プロレス 03-3288-0610　★HP　http://oudou.b2p.jp/

元WJ戦士・福田力が参戦! パンクラスのド真ん中に立てるか!?

『SEGA SAMMY Presents PANCRASE 2005 SPIRAL TOUR』
★日時　11月4日(金) 試合開始18:30(開場17:30)
★会場　東京・後楽園ホール
★決定対戦カード
【ライト級戦／5分3R】
アライケンジ(パンクラス) vs ファジャル・デ・ヴィント(チーム・シュクライバー)
【ウェルター級戦／5分3R】
大石幸史(パンクラスism) vs ポール・ロドリゲス(グレイシー・バッハ・オーランド)
【フェザー級戦／5分2R】
のぶゆき(和術RJW/G2) vs 井上学(U.W.F.スネークピットジャパン)
【ライト級戦／5分2R】
井上和浩(インプレス) vs 山田崇太郎(TEAM JUNKiey)
【ミドル級戦／5分2R】
中村勇太(和術慧舟會福岡支部) vs 福田力(KILLER BEE)
★出場予定選手　野地竜太(パンクラスMEGATON)／竹内出(SKアブソリュート)石毛大蔵(SKアブソリュート)／小路伸亮(KILLER BEE)
★チケット(当日500円up)　SS席 12000円、A席 9000円、B席 6500円、C席5000円、D席 4000円、立見 4000円(当日のみ)
★問　パンクラス 03-5792-0815　★HP　http://www.pancrase.co.jp/

入江を倒せば100万円! 最強の挑戦者を大募集中!!

キングダムエルガイツ『BACK STREET HERO』
★日時　11月12日(土) 試合開始18:30(開場18:00)
★会場　東京・新宿FACE
★参戦予定選手　入江秀忠、RYOTA、草木原竜介、薬師寺浩之、さとる、GYARUO、ラサール☆おさみ(グレイシー・バッハJAPAN)、フジヤマ(U-FILE CAMP赤羽)、中西和宏(K-U FSG多摩)、木村プロ(wpy)、他 秋本道場、空柔拳会館、真戦組、格闘技道場 信から参戦予定
※現在、入江は対戦相手を募集中。入江を倒せばなんと賞金100万円! ルールはエルガイツルール・レベル4(ヒジ、頭突き、金的あり!)。我こそはと思う方は、氏名・体重・格闘技歴を明記のうえ、下記にFAXで申し込むこと。
★チケット(当日500円up)　SRS席 10000円、RS席 8000円(完売)、A席指定 6000円、B席指定 4000円、立見 3500円　※チケットとは別に1ドリンク制
★問&FAX　キングダムエイルガイツ 042-376-1639
★HP　http://homepage3.nifty.com/z-zone-kingdom/

Fight & Tichet

村上と池田が激突! NOAH勢もバチバチに登場!!

フーテン・プロモーション『BATI-BATI 3』
★日時　11月12日(土) 試合開始 18:30(開場17:30)
★会場　東京・北沢タウンホール
★全対戦カード
❶イナズマ⚡ジュンジ vs 森山大(U-FILE CAMP.com)
❷石井智宏(リキプロ) vs 原学(バトラーツ)
❸森島猛(NOAH) vs 伊藤博之(チーム・アライアンス)
❹佐々木恭介(U-FILE CAMP.com) vs 飯伏幸太(DDT)
❺本田多聞(NOAH) & 池田大輔 vs 村上和成(ビッグマウス・ラウド) & 臼田勝美(フリー)
★チケット(当日500円up)
SRS席 8000円、RS席 6000円、指定席 5000円
★問　フーテン・プロモーション 03-3373-7939
★HP　http://www.fu-ten.jp/


小雨と霧の中、しかもなぜか箱根で開かれた大会発表会見。集まったマスコミはわずか2社……。

柴田がGHCタッグに挑戦! メインでは田上火山が大噴火!?

NOAH『3rd GREAT VOYAGE'05』
★日時　11月5日(土) 試合開始18:00　★会場　東京・日本武道館
★決定対戦カード
【GHCヘビー級選手権試合】(王者)力皇猛 vs 田上明(挑戦者)
【GHCタッグ級選手権試合】(王者)[10／28大阪大会・鈴木みのる & 丸藤正道 vs モハメド ヨネ & 森嶋猛の勝者] vs KENTA&柴田勝頼(挑戦者)
★チケット(当日1000円up) アリーナS席 15000円、アリーナA席 10000円、アリーナB席 7000円、1階スタンド席 6000円、2階スタンドS席 5000円、2階スタンドA席 3000円
★問　NOAH 03-3527-5311　★HP　http://www.noah.co.jp/

静岡プロレス旗揚げ戦に 金村キンタローの参戦決定!!

★日時　12月25日(日) 試合開始13:30(開場13:30)
★会場　静岡・静岡市民文化会館3F大会議室
★参戦予定選手 "静プロのエース"佐野直、金村キンタロー、死神、バンジー高田、スタンガン高村　他
★チケット　全席自由 3000円　★問　静岡プロレス 054-287-8885

10・25 NWSプレ旗揚げ戦! 将軍KY若松が大会の妨害を予告!!

★日時　10月25日(火)試合開始18:30
★会場　北海道・函館市上磯町総合体育館
★参戦予定選手　佐々木健介、中嶋勝彦、松田慶三、チョコボール向井、維新力、竹迫望美、GOEMON、米山香織、他
★問　N・W・S 03-5560-9565


市議会議員になった現在でも"熊の穴"での特訓を欠かさない若松は、レスラーとしての殴り込みを宣言!!

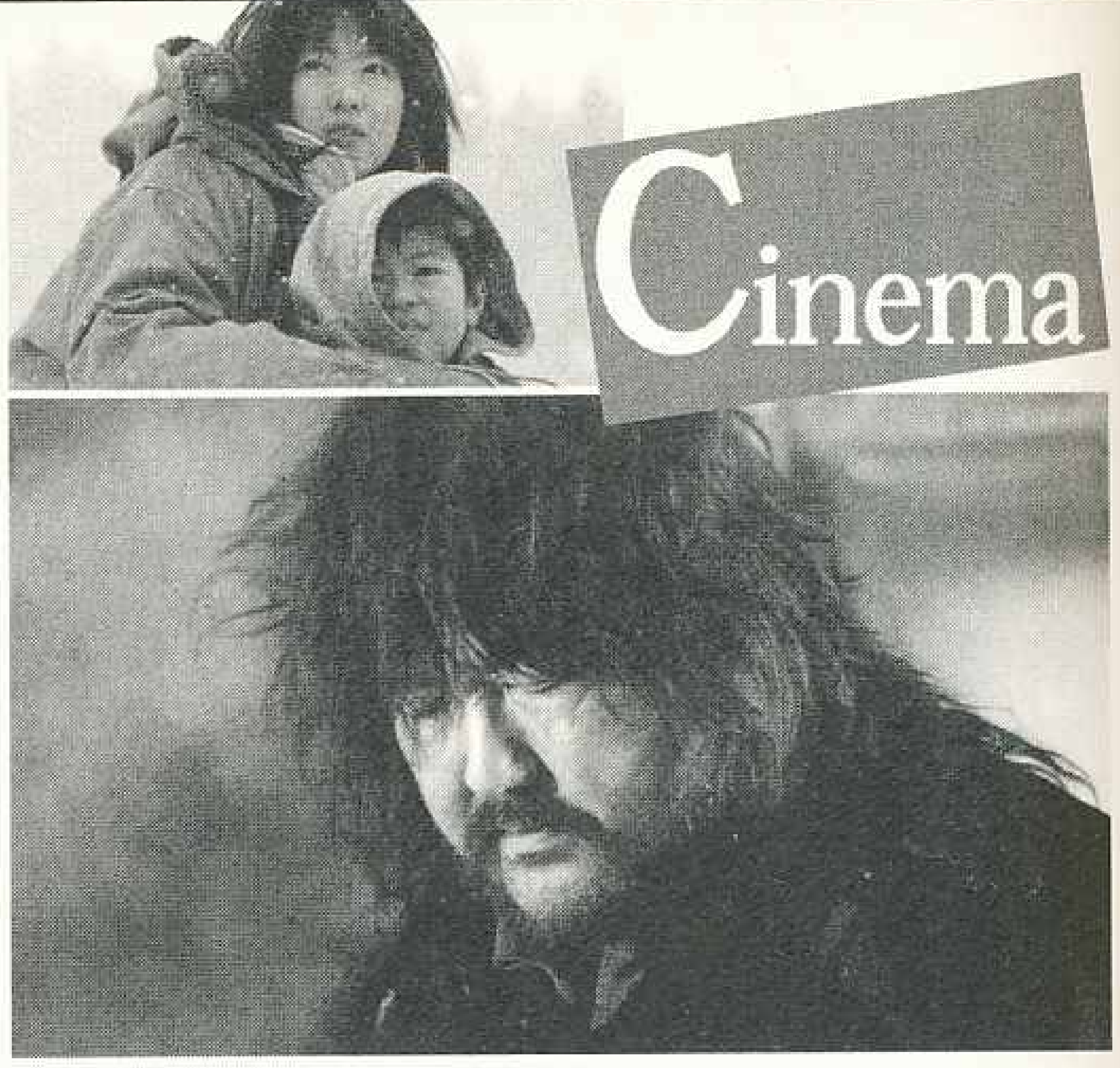
団体INDEX（50音順及びアルファベット順）

Cinema

怪優・矢口壹琅が悲しき"バケモノ"に挑戦!!

現在リキプロを主戦場に活躍する"ミュージシャンレスラー"矢口壹琅が、人間の中の狂気を描いた殺戮系ホラー映画でバケモノ役を怪演! 11月19日（土）～12月9日（金）渋谷シネ・ラ・セットにてレイトロードショーが決定!

今回は特別に3組6名様に映画鑑賞券をプレゼント! P158へゴー!!



『孕みーHARAMIー白い恐怖』
★監督　田尻裕司
★出演　前田亜季、矢口壹琅、絵沢萌子、高瀬アラタ、中山玲、他
★配給　ステップ・バイ・ステップ
★HP　http://www.harami.jp/

Others

目指せプロレスラー! K-DOJOで新期生を募集中!!

K－DOJOでは11月からスタートの新期生を募集中! 入門希望者は、履歴書に必要事項に加え、身長、体重、履歴（学歴、職歴、スポーツ歴等）、自己PRを明記し、全身写真と上半身アップの写真を同封の上、K－DOJO事務所宛に郵送すること。目指せ、第二のTAKAみちのく!!

★入門金（初回のみ）
男性30万円
女性15万円
★生活費3ヵ月分15万円（家賃、食費、光熱費込み）
以上を、一括で申し込み時に入金すること。（男性計45万円、女性計30万円を一括支払い）
★問　K-DOJO事務所 043-214-6960
★HP　http://www.k-dojo.co.jp

格闘技トーク最強タッグ! 『ターザン山本!と吉田豪の格闘二人祭り!! vol.23』

最強タッグ・ターザン&吉田豪と、マル秘豪華ゲストたちが繰り広げるガチンコ暴走トークバトル! 今回の乱入ゲストは一体誰だ?



★日時　10月19日（水）
開場18:30／開始19:30
★会場　東京・ロフト プラスワン
★出演　ターザン山本!&吉田豪、豪華マル秘ゲストが多数乱入!!
★チケット　2200円（飲食別）当日300円up
★問　03-3205-6864　★HP　http://www.loft-prj.co.jp/

"慧舟會キラー"井口摂が無料格闘技セミナーを開催!!

★日時　11月19日（土）17:00～18:30
★会場　FIGHTING SPACE ZERO竹ノ塚
（東京都足立区保木間3-2-12 ソアビル103）
★講師　修斗世界ランキング6位 井口摂
★参加資格　格闘技未経験者
（高校生以上／要電話予約）
★参加特典　当日入会者に限り入会金100%OFF!
★問　03-3883-7188
★HP　http://www.fightclub.co.jp/

シーサーのテーマ曲がシングルCDで発売!!

THE東西南北時代から久保田洋司の大ファンだったスペル・シーサーが熱烈オファーし誕生したテーマ曲『シーサー・コーリン』。会場使用音源をパワーアップしたオリジナル・フルコーラスバージョンで登場だ!!



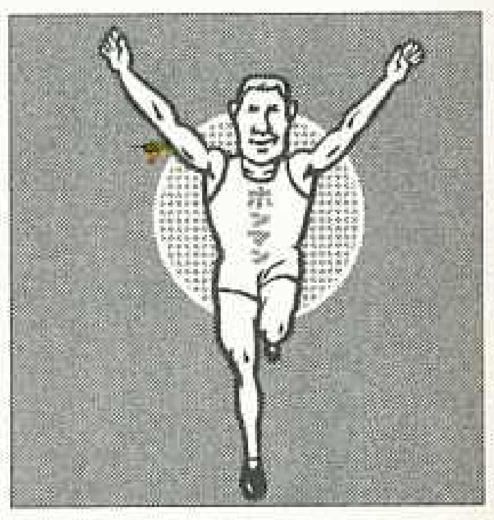
『シーサー・コーリン／naked care』1050円（税込）
★問　エムエムレコード 0426－31－1699
★HP　http://www.mmrecords.jp

佐藤ルミナプロデュース 修斗オフィシャルジムが小田原にオープン!!

『K'z FACTORY小田原支部 ROOTS』
★営業時間
月～土曜日14:00～22:00
（日曜日10:00～15:00）
★住所
神奈川県小田原市栄町1-2-38 ハローズビル3F
（小田原駅東口徒歩0分!）
★問　0465-22-2000
★HP　http://www.rootsgym.com/

Hand

宇宙一面白い携帯サイト『紙のプロレスHand』では、10・23『PRIDE.30』および11・3『ハッスル・マニア』の直前情報を毎日配信中!! 注目大会の試合結果は短評&総評つきでどの携帯サイトより読み応えアリ。会見情報や緊急ニュースも「最新NEWS」から一発チェック! 毎日更新のコラムでは I 編集長、ターザン山本! が激筆をふるっている他、『プロレスラー&格闘家50の質問』には伊藤博之が登場! これまであまり語られなかったその素顔に迫る! 写真は中川画伯によるチェ・ホンマンイラスト待画。毎月1日、着メロ&待画を更新中です!!



Docomo	i Menu ▶	メニューリスト ▶	スポーツ ▶	格闘技／大相撲
au/TU-KA	トップメニュー ▶	カテゴリで探す ▶	スポーツ ▶	格闘技
vodafone	メインメニュー ▶	メニューリスト ▶	スポーツ ▶	格闘技

紙プロHand

kamipro calendar

10 October

18 TUE
全日本■新潟・新潟県体育館（18:30）
NOAH■愛媛・アイテムえひめ（18:30）
桃のプロレス■神奈川・横浜赤レンガ倉庫（19:00）

19 WED
全日本■福島・福島体育館（18:30）

20 THU
NOAH■岡山・倉敷山陽ハイツ体育館（18:30）

21 FRI
NOAH■広島・三次市甲奴町ウイングドーム（18:30）
みちプロ■岩手・室根きらめきパーク体育館（18:30）

22 SAT
新日本■大分・別府ビーコンプラザ（18:30）
全日本■東京・後楽園ホール（18:30）
NOAH■徳島・徳島市立体育館（18:00）
みちプロ■福島・福島市体育館（18:30）
DRAGON GATE■栃木・鹿沼フォレストアリーナ（18:30）
K-DOJO■千葉・Blue Field（18:30）
SPWF■東京・西調布格闘技アリーナ（18:30）
NEO■長野・サンピア松本（18:30）
SUPER CREW■東京・新木場1st RING（19:00）

23 SUN
PRIDE.30■埼玉・さいたまスーパーアリーナ（16:00）
新日本■長崎・長崎県立総合体育館（15:00）
DRAGON GATE■新潟・新潟フェイズ（15:00）
DDT■東京・後楽園ホール（12:00）
IWA JAPAN■東京・新宿FACE（19:00）
大阪プロ■大阪・デルフィンアリーナ（14:00）
K-DOJO■千葉・Blue Field（15:00）
ターザン後藤一派■東京・東京キネマ倶楽部（17:00）
WWS■埼玉・本庄市民体育館（13:00）
格闘美■東京・新木場1st RING（12:30）
M's Style■東京・新木場1st RING（18:00）
U-FILE■東京・西調布格闘技アリーナ（14:00）
新日本キック■東京・後楽園ホール（17:00）

24 MON
新日本■鹿児島・鹿児島アリーナ（18:30）
NOAH■福岡・久留米リサーチ・パーク（18:30）

25 TUE
新日本■熊本・熊本興南会館（18:30）
NSW■北海道・函館市上磯町体育館（18:30）

26 WED
NOAH■愛知・豊田市東山体育センター（18:30）

27 THU
ハッスル・ハウス■東京・後楽園ホール（19:00）
新日本■福岡・西日本総合展示場（18:30）
DRAGON GATE■福島・郡山ビッグパレットふくしま（18:30）
DEMOLITION■東京・新木場1st RING（19:00）

28 FRI
新日本■福岡・博多スターレーン（18:30）
NOAH■大阪・大阪府立体育会館（18:00）
DRAGON GATE■長野・長野運動公園総合体育館（18:30）
大日本■北海道・旭川パレスホテル内特設リング
DEEP■東京・後楽園ホール（18:30）
修斗■東京・北沢タウンホール（18:00）

29 SAT
新日本■福岡・博多スターレーン（18:30）
DRAGON GATE■千葉・千葉ポートアリーナ（18:00）
大日本■北海道・札幌テイセンホール（17:00）
大阪プロ■大阪・デルフィンアリーナ（18:00）
K-DOJO■長崎・吾妻町町民体育館（17:00）
格闘美■岐阜・高山マウントエース（18:30）
新日本キック■東京・大田区体育館（18:00）
NKB■東京・後楽園ホール（18:00）

30 SUN
ハッスル13■青森・青森産業会館（18:00）
新日本■兵庫・神戸ワールド記念ホール（16:00）
みちプロ■新潟・新潟フェイズ（15:00）
DRAGON GATE■三重・四日市オーストラリア記念館（17:00）
DDT■福岡・博多スターレーン（14:00）
大日本■北海道・札幌テイセンホール（17:00）
K-DOJO■福岡・博多スターレーン（18:30）
東海プロ■愛知・名古屋市総合体育館第3競技場（13:00）
大阪プロ■大阪・デルフィンアリーナ（14:00）
NEO■東京・板橋グリーンホール（17:00）
格闘美■石川・石川県産業展示館2号館（17:00）
我闘姑娘■東京・板橋グリーンホール（13:00）
club DEEP■富山・イベントプラザ富山（16:00）
R.I.S.E.■東京・大森ゴールドジム（17:00）

31 MON
新日本■富山・高岡テクノドーム（18:30）
K-DOJO■長崎・九十九島観光ホテル大ホール（18:30）

11 November

2 WED
DRAGON GATE■東京・後楽園ホール（18:30）
大阪プロ■広島・佐伯区スポーツセンター（18:00）

3 THU
ハッスル・マニア■神奈川・横浜アリーナ（17:00）
新日本■東京・後楽園ホール（12:00）
DRAGON GATE■愛知・豊橋市総合体育館 第2競技場（18:00）
ユニオン■東京・新木場1st RING（13:00）
K-DOJO■長崎・小値賀町総合体育館（18:00）
大阪プロ■大阪・デルフィンアリーナ（14:00）
JWP■東京・板橋グリーンホール（13:00）

4 FRI
新日本■長野・飯田勤労者体育センター（18:30）
DRAGON GATE■大阪・大阪府立体育会館 第2競技場（18:30）
華☆激■福岡・さざんぴあ博多（18:30）
パンクラス■東京・後楽園ホール（18:30）

5 SAT
NOAH■東京・日本武道館（18:00）
DDT■千葉・Blue Field（19:00）
大阪プロ■大阪・デルフィンアリーナ（18:00）
NEO■東京・板橋グリーンホール（18:30）
格闘美■東京・新木場1st RING（18:30）
K-1 MAX■韓国ソウル・オリンピック第1体育館（13:00）
HERO'S■韓国ソウル・オリンピック第1体育館（19:30）

6 SUN
DRAGON GATE■福岡・博多スターレーン（16:00）
大阪プロ■大阪・デルフィンアリーナ（14:00）
修斗■東京・後楽園ホール（18:00）
J-NETWORK■東京・後楽園ホール（11:30）
MAキック■東京・ディファ有明（16:00）

7 MON
DRAGON GATE■長崎・NCC&スタジオ（18:30）

9 WED
DDT■東京・新木場1st Ring（19:30）

10 THU
ZERO1-MAX■千葉・成田市体育館（18:30）

11 FRI
大阪プロ■東京・後楽園ホール（19:00）
G-SHOOTO■東京・新木場1st RING（19:00）
長与千種自主興行■東京・新宿FACE（19:00）

12 SAT
DRAGON GATE■広島・広島県立福山産業交流館（18:30）
BATI-BATI■東京・北沢タウンホール（18:30）
大阪プロ■大阪・デルフィンアリーナ（14:00）
格闘美■東京・新木場1st Ring（18:30）
全日本キック■東京・後楽園ホール

13 SUN
ZERO1・MAX■長野・東御市ふれあい体育館(18:00)
DRAGON GATE■愛知・名古屋国際会議場（16:00）
K-DOJO■千葉Blue Field（15:00）
大阪プロ■大阪・デルフィンアリーナ（18:00）
FUCK!■大阪・デルフィンアリーナ（14:00）
息吹■東京・新宿FACE（12:00）
修斗＆MAキック■大阪・大阪府立体育会館第2競技場
新日本キック■東京・ディファ有明
TRIBELATE■東京・新宿FACE

16 WED
ZERO1・MAX■新潟・上越市厚生南会館（18:30）
DDT■東京・新木場1st RING（19:30）

17 THU
ZERO1・MAX■大阪・大阪府立体育館第2競技場（18:30）

18 FRI
NOAH■東京・後楽園ホール（18:30）
ZERO1・MAX■島根・出雲市立平田体育館（19:00）
NEO■東京・板橋グリーンホール（19:00）
天空■東京・ディファ有明（18:30）

19 SAT
NOAH■東京・後楽園ホール（18:30）
ZERO1・MAX■島根・出雲市立平田体育館（19:00）
NEO■東京・板橋グリーンホール（19:00）

20 SUN
全日本■東京・後楽園ホール（12:00）
NOAH■東京・ディファ有明（17:00）
K-DOJO■千葉・Blue Field（17:00）
M's Style■東京・新木場1st RING（18:00）
NJKF■東京・後楽園ホール（17:00）



イラスト◎師岡とおる

出渕誠の
レイザーラモン英知自慰(えいちじい)

第1回 HGの相方が、プロレス界に大提言!

イラスト◎出渕誠

どうも〜**レイザーラモンHGの相方、出渕です。**いや〜毎日のようにHGはテレビに出てますね。あ、僕ですか？　僕はHGが出たすべての番組をDVDに最高画質で録画し、相方に感想をメールで送ってます！　ま、返信はないんですけどね。

先月はついにHGの給料が、僕の10倍になりました……。さらに、先日『ターザン山本・吉田豪の格闘二人祭り』に久々にコンビで出演しましたが、山本さんには「君は見た目が典型的プロレスファンだよぉ〜。これじゃ売れるわけないよぉぉ！」と断言され、打ち上げでは「ファンが紛れ込んでるかと思った」と言われる始末。正直、芸人のオーラがなさ過ぎでしたね……。

そんな僕も大学生時代には、HGとともに学生プロレスに精を出したり、旧『紙のプロレスRADICAL』の投稿ページでは、出渕〝パパシャンゴ〟誠というペンネームで登場。現在、総合格闘技界で活躍中の村田卓実クン（詳細は各自調査！）らと誌面バトルを繰り広げたこともあるんです！　……そんな「プヲタ丸出し」（©吉田豪さん）の僕が『kamipro』でコラム書けるなんて夢じゃないよね？　HGと違いヒマだけはある僕が、プロレス界について考えてみましたよ。

プロレス業界外でプロレスを真に愛し、理解してる人種とは何か？「それは芸人だ！」と思うんです。そう芸人ほどプロレス愛に溢れた人種はいない。実際、お笑いを理解するほどプロレスがよくわかる！

たとえば大技を受けまくり、最後はあっさりスクールボーイで勝利……という戦法は「それで勝つんかい！」「そっちかい！」的、お笑いの〝裏切りの構図〟が見える、掟破りの逆サソリ攻撃などは、人のギャグで笑いを取る〝かぶせ〟の構造に酷似してます。また、藤波辰爾が天龍源一郎戦（96年4月29日、東京ドーム）でドラゴンロケットを3連発、場内を沸かせた試合。これはリピートで笑いを誘う〝しつこい笑い〟に通じると思いますし、じつは「鼻骨骨折してた」というオチも素敵すぎます。そう一流のプロレスラーはお笑いの構図もわかっている。突然、前髪を切る謎のアドリブ芸も含め、藤波は最高のお笑い芸人でもあるのです。

話は変わりますが、大学の「早稲田雄弁会」や「松下政経塾」に関する記事を読みました。政治家を育てるため、若者に政治や経済をより踏み込んで教育&研究させる組織で、実際に多くの政治家を排出しています。この早稲田雄弁会や松下政経塾を各地のプロレス研究会、永田町をプロレス界と置き換えて考えてみましょう。そう、プロ研は日々プロレスを考え、自ら興行を打ち、自ら学生プロレスラーとしても試合して、若くしてプロレス業界をシュミレートしているのです。僕も学生プロレス時代は「どうしたらお客が喜ぶか？」「レスラー同士の不満やいざこざはないか？」と頭をフル回転させてました。

いま、レイザーラモンHGがハッスルで大活躍中です。彼は最もプロレスを理解できる「芸人」であり、大学時代をプロレスシミュレートに捧げた純粋培養のエリート。彼がプロレス界を盛り上げるのは、必然だったのではないでしょうか？

そう、プロレス界は一刻も早く、芸人や各地のプロレス研究会らとコンタクトを取るべきなんです！　なんといってもHGと同じ道（途中まで）を歩いたこの僕、出渕がここに余ってますよぉ〜〜。



Izubuchi Makoto◎出渕誠（レイザーラモン）吉本興業のお笑いコンビ「レイザーラモン」のハードゲイじゃないほう。

第1回

武士道、そして10月の楽しみ

文庫『メカ★アフロくん』(幻冬舎)発売!
解説:水道橋博士★よろしく。

花くまゆうさく リングの汁ミニ

『紙プロ』が終わったので、もうやらなくていいのかなと期待してたけど、催促がきちゃったのでまたやらねばならぬ。書きたいことは、なにもないのだが。

こないだの『武士道』面白かったなあ、昔のダメな『武士道』とはまったく別物だね新生『武士道』は。おかげで昔の『武士道』チックなダメカードが、今度の『PRIDE・30』に一部入っちゃったね。それにしても、ジョシュとやるミルコすごいなあ、よっぽど自信あるのかしら? 重いし寝技もできるので、かなり危ないと思うんだけど大丈夫なのかミルコ。ここで負けたら後退しちゃうんで、スッキリ勝ってほしい。

五味は、ぶっちぎりで優勝しちゃいそうな強さで脱帽。バッティングをアピールしてから顔が弱気に見えてきた川尻と、かまわずガンガン前へ出る五味で、なんか差をとても感じた。マッハが言うように、川尻は73キロクラスでやる体ができてないのかもしれないが、修斗の階級もあるし今後体重どうするのかな。



五味は強い。このトーナメントの中でも、ひとり飛びぬけている。しかし、マッハが五味に殴られて負けたら、大晦日せつないなあ。大晦日は、マッハと須藤元気を応援します。

10月の楽しみは、ヒクソンが主催する道衣着用のグラップリング大会『ブドーチャレンジ』!『ゴン格』に書いてある、ガルシアとジャカレイとレオジーニョ、日本からは小室・青木・高瀬らが本当に出るんだとしたら必見だよ、ロスでやるからどうせ見れないけど! 極め重視のルールもいいよね、僕は見れないけど!! 日本で見れるのは、アメリカで試合出まくりコンビのジェフ・グローバー&ビル・クーパーの『GIグラップル』だね。あと『DEEP』のTAISHO vs 前田吉朗も注目。足関十段にも、キッチリ勝ってほしい。

そんでなんといっても10月の目玉は、東京国際ファンタスティック映画祭で上映される『狂い咲きサンダーロード』だよ! ひさびさに映画館で見れるよ!! それもあんなデカいミラノ座で!!! ただひとつ心配なのはオールナイトなので、おねむしちゃうことだな。



Hanakuma Yusaku
◎実際GIグラップル見に行くかは、残りのメンバーしだい……。

イナズマKの ハードコア・ドージョー

第1回 ミスターデンジャー、狂い咲き

Inazuma K
◎レコード買いの秋。新譜熱が高まってます。

ごぶさたしております! そして初めましての方、こんにちわ!

紙プロの長い読者の方なら、覚えていてくださる方もいるかもしれませんが、以前は、プロレス・格闘技好きのアーティストを紹介する連載『プロレスファン列伝』をやっていたり、W★ING、大日本プロレスなどの選手インタビューと、ちょこちょこ顔を出していたオレ様(ミスター・ポーゴ風)です。普段は土屋恵介の本名で音楽を中心にライター仕事をしてるんですが、紙プロではこっちの方が通りが良いので、イナズマ★Kとしての帰還です。

で、この新連載『ハードコア・ドージョー』は、いわゆる過激さのハードコアってよりは、言葉の本来の意味でもある、核心をついたほんとに面白いものを取り上げようという主旨のもと旗揚げとなりました。最近の本誌では、なかなか取り上げるチャンスのなかったイキの良いインディー系の選手、試合、そこから脱線しミュージシャンなどなど、そこにプロレス・格闘技に通じるものであれば何でも紹介していこうと思ってます。気さくでバカで面白い猛者の集う道場、それが『ハードコア・ドージョー』だぁッ!!!!!

さあ、一通り挨拶も終わったとこで、旗揚げ戦の本文に突入。今回は第1回目だし、初心に返る意味で、デスマッチでいきます。

かつて90年代前半は、大仁田FMWを筆頭にデスマッチが狂い咲いた時代。中でもコアなデスマッチで絶大な支持を集めたのがW★ING。その団体のエースこそ、ミスターポーゴと血だらけの試合を繰り広げていた松永光弘だ。まさにヒップホップでいうところのデスマッチ・オールドスクール代表である。松永は、この1年は試合から遠ざかりステーキ屋を営む日々だったが、今年の夏、ZERO1・MAXのリングで空手軍の一員として突如復活。だが、空手とは全く関係なくデスマッチファイトをヤングMAX勢相手に繰り広げ、中村代表、リングアナのオッキーまで、火祭りならぬ血祭りにあげる始末。

さらには火祭りの後楽園の会場で、休憩時間中に突如乱入し、自作の有刺鉄線万力(!)で不動力也の頭蓋骨をキュリキュリ締め上げる暴挙まで敢行。会場に恐怖と悲鳴を巻き起こしている。っていうか、有刺鉄線万力なんてものを考える発想がステキすぎる。

そんな彼のステーキ屋ミスターデンジャーのHP(www.mrdanger.jp/)でも、マッドぶりは全開。『Danger News』では、食事メニューの更新、出場試合情報などがミクスチャーで紹介されているが、中でも『Mr.デンジャーの未発表デスマッチ』は必見。「大型扇風機に蛍光灯ボードを取り付け、回転する蛍光灯を4コーナーに設置して行う」『旋廻蛍光灯デスマッチ』や「試合はバーリ・トゥードルールで行う。しかし、ロープに振られたら戻って来なくてはいけない」『バーリトゥードロープスウィングデスマッチ』、『画鋲レンガ倒壊デスマッチ』『建設現場バルコニーストリートファイト』と突拍子もないアイディア炸裂。全部見てぇ!!

『information』では、「リングの中と同様、『味で勝負』」「一度食べると、忘れることの出来ない衝撃を感じていただけること間違い無し」と宣言。試合では恐怖、普段は味のうまさと、お客さんに対し衝撃とトラウマを残すことに、彼は人一倍の情熱を持っている。松永の狂気は今も全然衰えちゃいなかったのだ。



ZERO1・MAXのリングで無法かつ非道な行為をくりひろげるミスターデンジャーの勇姿。

椎名基樹のサムライ二味

第1回

マッハvs五味への素人提言！

今号より『紙のプロレスRADICAL』から『kamipro』へリニューアルということで、当方、細々連載「ザ・検証」も心機一転、否、イッキシンテン、タイトルを変えてスターティング・オーバーさせていただきます。よろしくね。

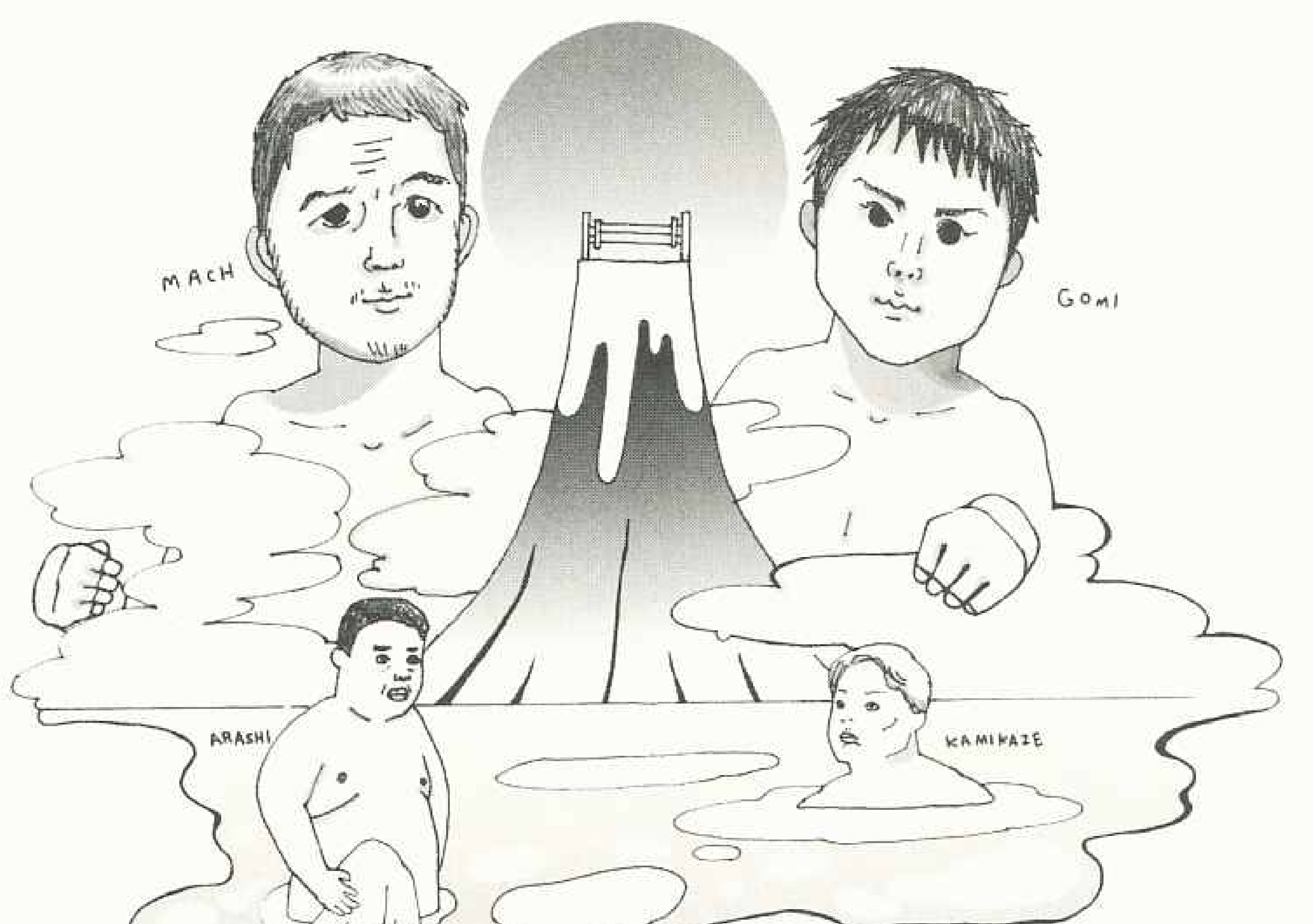
とはいってもまあ、中味の方は昔と同じく、マット界を外野から無責任に語らせていただくだけでござりまする。しかし、どこぞのプロレスラーが「指一本角度が違えば、オリジナルホールドだ」とうそぶいたのと同じく、「タイトルが違えば、新連載だ」という意気込みで、無理矢理新鮮な気持ちを盛り上げていきたいと思います。ハッスル、ハッスル、ハッスル！

それにしてもこの『kamipro』という誌名であるが、知らぬ人が見たら「KAMI」は「神」だと思う者が多いのではないだろうか？ 誌名に「神」を掲げる雑誌もなかなかない。神のプロとは、これまた狂った感じが雑誌カラーにピッタリではないか。このまま狂った精神を保ったまま頑張って欲しいと思うしだいである。そしてプロレスで「神」といえばやはりZERO1・MAXの神風選手であろう。それにしても神風とは、ものすごい名前がついたものだ。そして神風という名前と、あの茶髪&色白&普通っぽい顔のギャップはどーしたことだろう？ ガンズのテーマで若翔洋がせり上がってきた時のようなガックリ感を感じずにいられない。神風選手はあの体格で、ものすごく安定した空中姿勢の空中殺法（←“殺法”という大仰な言い方が、書いてててちょっと気恥ずかしい&楽しい。プロレスっていいなあ）を使いこなす。トップロープから回転系プレスの狙いの正確さは驚くべきものがある。なのにあの風貌は普通すぎてもったいない。若作りの茶髪でキャバクラに行って、違和感なくモテようとする魂胆ではダメですよ。あの顔は五厘刈り&眉毛剃りでサイコな感じが似合うと思うのだがどーだろう？

さらにイメチェンを提案したいのが全日の嵐選手だ。ちょっとブヨっているが、嵐選手の背筋の充実ぶりは目を見張るべきものがある。ありゃ相当パワーがありますよ。なのにあの「ショッパイ試合してスミマセン」的な、マスクを自らはぎ取った平田のような地味なキャラはもったいないですよ。そんな嵐選手は思いきって弁髪はどーだろう？ 類い希な才能に恵まれた両選手のさらなる飛躍に期待しております。

さて、漫☆画太郎の漫画のように脱線したままどうにも軌道修正ができなくなっていたが、ここからやっと本題である。二階級のトーナメントが行われたPRIDE武士道のことである。

この大会の感想として、多くの人が「マッハが勝ち上がってよかった」と思ったのではないだろうか？ そういう筆者もその一人である。総合格闘技ファンの多くはマッハに夢を見てきただろう。だから最近のマッハの不調に、時の流れを感じ、認めたくないものを認めざるを得ないジレンマに駆られていたと思う。したがって今回の決勝進出は、ホッとしたというのが一番正直な感想だ。そして、決勝の相手は五味選手。修斗のリングでは実現しなかったこの対戦は、正にマニア垂涎のドリームカード。これでこそ二人が、修斗のリングを飛び出して、大きな舞台に歩を進めた意味があるってもんだ。



イラスト◎加藤遼子

それにしても、今回のPRIDE武士道、と、いうか最近のPRIDEは書くべきことが見あたらない。それはつまらないからでなく、もう隙がなく完成されているからだ。「見ればわかる」である。あとはもう技術的なことしか書くべきことが見あたらず、それはさすがに自信がない。だが、元来のイチビリ根性で、マッハと五味選手の試合の素人意見を書かせもらうことを、お許し願いたい。

と、いうことで、今回のマッハの闘いぶりであるが、パルバーをボディーフックで倒したことでもわかるように、打撃のコンビネーションがすごく良くなっていた。解説の髙田本部長も言っていたが、左右のパンチ、キックを全て使って上下に打ち分けていたのが一番目をひいた。一発で倒してやるって感じの昔よりも、落ち着いて打撃を出しているように見えた。それとは逆に昔から変わらず気になるのは、アゴが上がって、フイにポンポンと打撃をもらう場面があるところだ。あともう少し勝ちに徹するポジションを選び、不用意な攻撃をなくすこともできるように感じるが、それはそうしないのがマッハの魅力であろう。しかし、応援して観ているのでついヤキモキしてしまう。

一方、五味選手は、アゴが引けたフォームで、顔面に打撃をもらって倒されるイメージがまったく浮かばない。そして、常に前に出て相手にプレッシャーをかけ続けるスタイルは、格闘技の基本であり闘う精神が全面に出ていて非常にカッコいいし好感がもてる。前に出ることが逆に防御になっているように感じる。レッスル&パンチのクートゥアーを思い起こさせる。しかし、あの前傾姿勢では、蹴りを出しにくいだろうし、ローキックのカットもしづらいだろう。今回、空手の道場に行って蹴りを習ってきたと試合前に言っていたが、ローを2発くらい出したと思うが、蹴りを使おうという意志はあまり感じられなかったし、蹴りを使うとなると、フォームも変えなければならないと思う。だとすると、空手道場うんぬんは蹴りを使わない自分のスタイルへのエクスキューズなのかとも深読みしてしまった。武器という観点から見ると、遠い距離から攻撃できるということが一番有利なことだ。そう考えると実力が伯仲してくると、蹴りの有無が明暗を分ける場面があるかもしれない。しかし、人間の牙はやっぱり拳であり、その技術を特に研ぎ澄ませる五味スタイルが、攻撃力をアップする一番の近道なのかもしれないとも思える。でも、負けた選手に勝利者メダルをかけるのはよくないです。

同じように打・投・極すべてに秀でた二人であるが、微妙にスタイルは異なる。しかし、なんにしても、今一番完成された総合格闘技たる試合ができる選手であることは間違いないだろう。

それにしても、今回のトーナメントで勝ち残った4人、誰がチャンピオンになっても、実にいい顔ぶれである。これで大晦日にPRIDE四階級のチャンピオンが決まることとなり、総合格闘技PRIDEの体系が完成されつつあるのは明白だ。前田日明は「今は総合格闘技の黎明期」だと言ったが、筆者もずっと前からそう思っていた。しかし、今年の大晦日がその黎明期の記念すべき日になるような気もする。

Motoki Shiina◎静岡県出身の37歳。リニューアルになってもがんばります。

金ちゃんのどこまでやるの?



イラスト◎中川画伯

第1回 俺が菊田とやってやるよ!

Hiromitsu Kanehara
◎本音炸裂コラムほぼ毎日更新中!
金原弘光オフィシャルHP
http://www.hiromitsu-kanehara.com/

いや〜、『紙のプロレス』が『kamipro』に変わって、「俺の連載もついに終わりか!?」と心配してたんだけど、なんとか生き残ってほっとしている金原です。今月からタイトルが『金ちゃんのどこまでやるの?』に変わりますが、内容はまったく変わらないので、これまでどおりよろしくお願いします（笑）。

さて、リニューアル一発目ということで、10・2近藤有己戦にスパッと勝って、景気いい話にしようと思ってたんだけど、なかなかうまくいかないね〜。

自分としては2ラウンドまでリードしてると思ってたから、3ラウンド前のインターバルで「悪くてドローかな」と思ってしまったのが失敗だったね。パンクラスは初参戦なんで判定の基準がわからなかったんだけど、テイクダウン取ったり、上のポジション取ったほうがいいみたいで。逆に俺がいい左フック入れたり、腕の上から右ミドルばんばん蹴ったのは取ってもらえなかったみたいだからね。今回、俺のセコンドはムエタイのコーチについてもらったから、コーチからもムエタイの基準で「ポイントリードしてるよ」って言われて安心しちゃったんだけど、それを考えたのが間違いだったのかな〜。リングスのときみたいに、打撃のポイントとってくれる藤原敏男さんがジャッジだったら、俺の勝ちだったろうな、とかも思っちゃったけど（笑）。

アウェーということもあるし仕方ないけど、2ポイント差で俺の負けとか、3−0のフルマークはないよね? たしかに3ラウンドは取られたと思うけど、あれもガードからの試してみたい技がかからなかったから、返しやすいようにマウント取らせただけだし。悔しいな〜。前半もっとラッシュしてればよかったかな〜。

でも、近藤クンはやっぱり根性あったね。こっちの打撃はかなりいいの入っていたはずなのに、最後まで下がらなかったから、それが判定にも反映されたんだろうし。さすがチャンピオンだよ。尾崎社長からも「またやってください」って言われたし、俺も学ぶことが多い試合だったから、リマッチができるようにがんばるよ。で、ここまではいいんだけど……

それにしても腹立つのは菊田だよ! あの野郎、人の試合のあとリング上がってきやがってさ。ふざけんなって。試合前は俺んところに挨拶来て、「金原さん、よくこれだけ短期間のオファーで受けましたね」とか言ってたくせにさ。俺がお前の穴埋めてやったのに、なにマイクアピールしてんだって! あれはムカついたな。近藤クンとやる前に俺が菊田とやってやるよ。いままでは、あいつも昔Uインターの練習生だったこともあって、後輩としか見てなかったけど、ああいうことやるならやってやるって。まったく。

まぁ、その前に11・5韓国でやる『HERO'S』に出そうだからきっちり勝って、再出発したいね。まだ契約はしてないんだけど、前田さんが「決定や」って言ってるから、まぁ大丈夫でしょう（笑）。

10月5日で俺も35歳になって、あと何試合できるかわからないけど、これからも頑張るので、応援よろしくお願いします!



「前号のエカテリーナの写真、ぜんぜんかわいく撮れてないじゃん! ちゃんとかわいいのもう一回載せてよ!」という金ちゃんの申し出により、お蔵だしツーショット写真を掲載! でも、本物はもっともっとかわいいのだ。

ブッカーKのぶっかけ! 格闘裏情報

第1回 私だけが知っているズールの話

Booker K◎本名、川崎浩市。シュートボクセをはじめ世界各地の強豪外人を招致する敏腕ブッカー。

『kamipro』読者のみなさん、こんにちは。ブッカーKこと川崎浩市です。

ご存知の方も多いと思いますけど、私は選手のブッキングやマネジメントを主な仕事としていて、その関係で世界中のいろいろな選手と交流があるので、これから毎月、選手の知られざる素顔や私が知っている裏話を書いていきたいと思います。

第1回目となる今回は、10・23『PRIDE・30』で初来日するズールこと、ズルジーニョについて、私が知っていることを紹介しましょう。

ズルジーニョの父レイ・ズールといえば、かつてのヒクソン・グレイシーのライバルとして、日本でも多くのファンに名前は知られていると思います。じつは以前ズールのマネジャーとブラジルで会ったことがあり、売り込まれたことがあったんですが、私はプロレスラーとしてどこかひっぱってくれないかと思っていたんですけどね。

私自身、ズールの試合を生で見たことはないのですが、ブラジルの関係者の話によると、ズールっていうのは、いろんな街に行っては「この街に俺と闘える男はいるか?」って挑戦を受ける旅をするという、まさに〝魔人〟と呼ぶに相応しい選手だったようです。80年にヒクソンと闘った時点ですでに70戦のキャリアがあったと言われていて、じつはシュートボクセ代表のフジマールさんなんかも昔、ズールと闘ったことがあるんですよ。さすがに体格差があるから、バーリ・トゥードではなく立ち技だけで闘ったみたいですけど、フジマールさんは「ズールは立派な男だ」って言ってました。

そんなズールに息子がいて、格闘技をやっているということが世に出たのは、私の友人でもある『グレイシー・マガジン』編集長のルカ・アタラが彼の家まで行って、そのときの模様を記事にしたのが最初なんです。それで、去年ヘンゾから私のところに連絡があって「ズールにセガレがいてデッケーぞ」って話をしてくれたんです。

そんな関係から、ズルジーニョを私がシュートボクセかバッハ・グレイシーに紹介しようかってという話もあったのですが、その記事を見た人間がズルジーニョに手をつけて、日本の格闘技プロモーションに売り込もうとして、なにか「マネジャー」を名乗る人間が複数いて揉めたって聞きました。じつはそのちょっと前に彼に目を付けていたのが『紙プロ』でもインチキ野郎としておなじみヴァリッジ・イズマイウなんですけどね（笑）。

そういうこともあって、私自身は揉めたくないんでズルジーニョのことについては関わりたくはないなって思いました。しかし、ルカから聞いたのですが、彼らは貧乏でFAXもパソコンもなく、電話しかないとてもシンプルな暮らしをしているそうです。もう本当にブラジルでも北の方だったか田舎に住んでいて、今号のP142の写真を見てもらえばわかりますけど、なにかTVの「世界ウルルン滞在記」に出てくるような所なんですよね。

だからこそ、ハングリー精神旺盛で、『PRIDE』でも一生懸命闘ってくれるんじゃないかと思います。私がブッキングした選手じゃありませんけど、応援してあげてほしいですね。



「紙プロの原記者」の名をほしいままにする妄想系女子プロ番コラムニスト・掟ポルシェが、総合格闘技雑誌化著しい『kamipro』（一瞬『kämpher』と見間違えて背筋の凍る雑誌名）を、鍋野ゆき江の連載があったあの頃の感じに無理矢理引きずり戻す女子プロレスとばし記事連載開始！ 記念すべき第一回目のゲストは、我闘姑娘（がとうくーにゃん）の選手兼萌え萌え広報こと、闘うダメっ子・春日萌花（はるひ・もえか）ちわん！ 選手の中に小学生女子（！）までいることで一部のプチトマトな人々から絶大な支持を得ている我闘姑娘だが、その小学生にすらフォール負けし（!!）、最弱街道を驀進中の萌花。そのやられっぷりの良さには萌え死に者続出！ 本来妄想でゴチャゴチャごまかすコラムページの予定を変更して、そのドジっ娘広報の仕事ぶりをインタビュー形式でお届けします！ 一人一萌殺！

掟 じゃあまず、広報らしく名刺交換とかしましょうか？

春日萌花（以下・萌） ……あの、じつは名刺を忘れまして……。

掟 うわ！ いきなり期待を裏切らないダメっ娘ぶりじゃないですか！

萌 あの、いま手書きで名刺作ってもいいですか？

掟 ……ハァ。しかし、萌え萌え広報はやることがいちいち萌えさせてくれますねぇ～。

萌 （自分の名前を書いた時点で固まる。しばらくして思い詰めた表情で池須代表に向かって）私のメールアドレス、なんでしたっけ？

掟 ……。あのー、萌花選手は我闘姑娘の選手として活動する傍ら、団体の広報の仕事もしているんですよね？ しかも日本初の『萌え萌え広報』を自認するということで。仕事はいろいろ大変じゃないですか？

萌 ホントにパソコンがわからないんですよ！ でも最初は人差し指一本でキーボード打ってたのが、いまは両手で構えて打てるようになりました！ そんな自分が偉いと思ってるんですよね。

掟 ブラインドタッチができるようになったと……。

萌 そう、ブラインドタッチだけど、手元は見てます！

掟 あー、それは「見て見てタッチ」ですね。萌え萌え広報だから許されるズルです。でもそれじゃあんまり仕事にならないっぽいですね。

萌 このあいだも他の人がパソコンのイラストレーターってソフトでやれば5分で終わるパンフレット制作の仕事が、他のでやってたので一日かけても終わらなくて……。

掟 えっ、なんのソフトを使ってたんですか？

萌 『筆ぐるめ』っていう、ハガキを作るソフトなんですけど。

掟 それ、年賀状制作ソフトですよ！ 一生やってもパンフできません！ しかしまた、なんで広報の仕事をやろうと？

萌 我闘姑娘は池須代表もさくらえみさんも他に仕事があって忙しくて、興行日程のマスコミ向けリリースを基本的にしない団体だったんですよね。ホームページの更新も滞っていてトップページが真っ白とか。

掟 ずいぶんユニークな団体なんですねぇ……。そのマジカルミステリーツアーみたいな状態でよくお客さんが来たというか。

萌 興行の宣伝をしないばっかりに逃しているお客さんもいるんじゃないかと思って、だったら私が広報やりますって。

掟 団体思いなんですねぇ。で、選手としてもデビュー以来ぶっちぎりの連敗街道をひた走っていて、見ているほうとしては萌えてきちゃいますよねぇ！ 先日も体重25キロの女子小学生にフォール負けしたとか。

萌 あれは小学生3対大人2のハンディキャップマッチだったから……。

掟 全然ハンディになってないですよ！

萌 シングルでやることになったら必ずひねり潰してやります！

掟 小学生相手に息巻いていて、弱さが伝わってきて最高ですねぇ！ 萌えが売りってことは負ければ負けるほどファンは喜ぶから、このまま負け続けたほうがいいんじゃないですか？

萌 私は勝ちたいですよ！ 上昇志向がありますから。

掟 上昇志向、ね……。まぁ確かに本人は勝ちたい気持ちでいっぱいなのに、小学生にすら負けるってところに色気があるんだろうなぁ。ちなみにプロレスには子供の頃から興味があったんですか？

萌 いや、数年前にK-DOJOを見る機会があって、もうこれはやるしかないと思って、それからですね。学生時代の友達は、私がプロレスラーになったなんて聞いたら驚くと思いますよ。ずっと図書室にいるタイプでしたし。

掟 本の虫って感じですかね。活字中毒みたいな？

萌 そうですね。手元にある物はなんでも読んじゃいます。

掟 最近読んで面白かった本ってありますか？

萌 『VOW!』、あれは面白いですよ！

掟 あー、確かに大笑いですねー……。あ、そういえば今度DVDと写真集が出るんですよね？

萌 はい！ バリ島で撮影したんですよ。

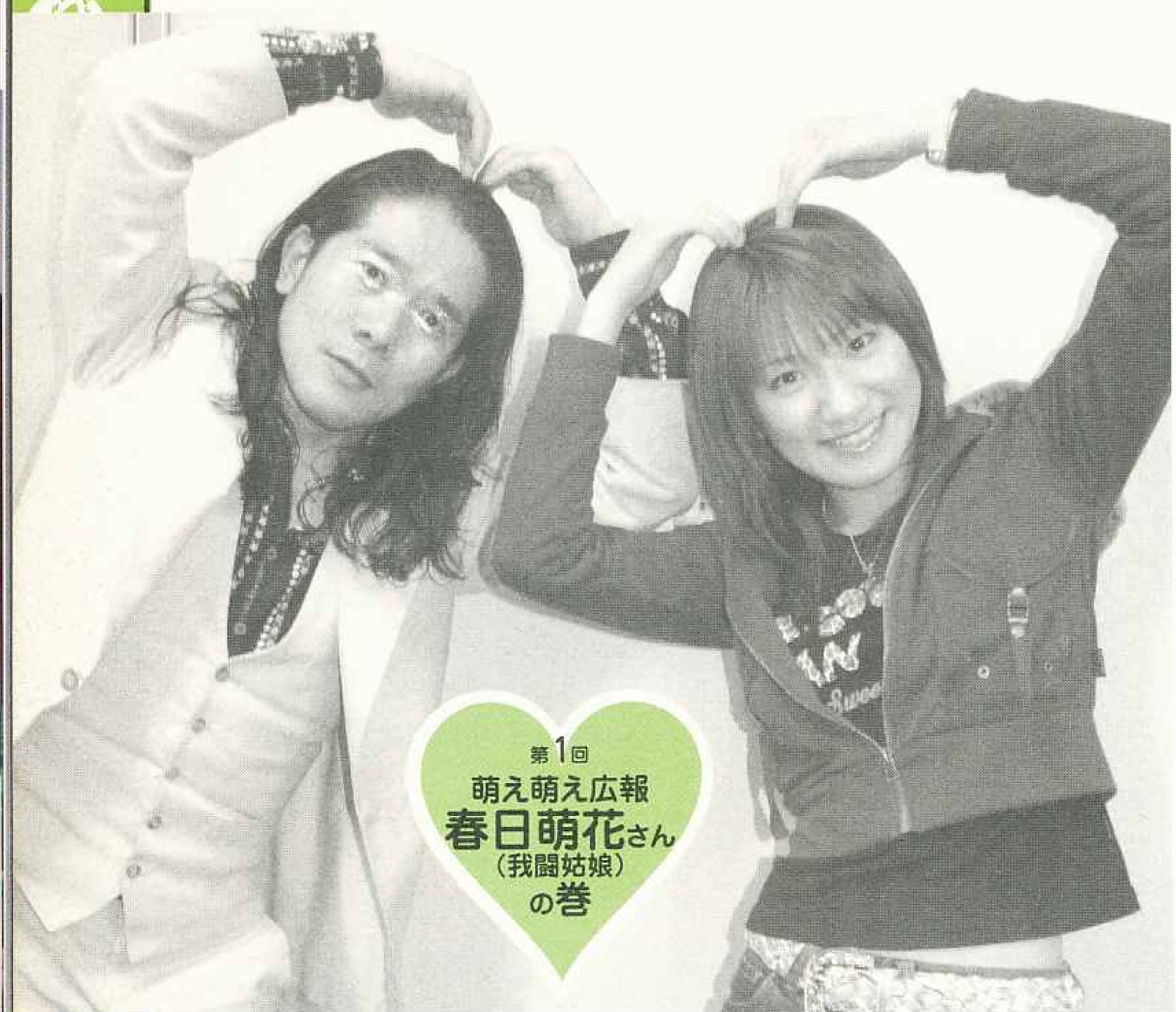
掟 どうでした、バリの印象は？

萌 「がめつい」です。日本人だと思うと物の値段ふっかけてくるし。

掟 バッサリ一言で切られました、インドネシア人。

萌 我闘姑娘が少しでも潤うように、私もこれからバリの人のようにがめつくなってがんばります！

掟 なんだかなぁ……。



市井舞選手とのユニット「舞組」のキメポーズを掟ポルシェと披露してくれた萌花ちゃん。萌え〜。



萌花ちゃんが（代表にメルアドを聞きながら書いた）手作り名刺がコレ！ ちなみにメルアドは、個人アドレスでなく、我闘姑娘のオフィシャルのもの。残念！

■「我闘姑娘」試合情報
○10月23日（日）IWA JAPAN（新宿FACE）試合開始：午後7時〜。「我闘姑娘」提供試合：さくらえみvs春日萌花
○10月30日（日）「我闘姑娘」旗揚げ一周年大会（板橋グリーンホール）。試合開始：午後1時〜。
★春日萌花の「DVD付き写真集」は、日本スポーツ出版社より年内発売予定。

春日萌花（はるひ・もえか）
本名、出身地は非公開。昭和59年10月8日生まれ。160cm、50kg。平成17年2月13日、対高橋李佳戦でデビュー。独特のハルヒムーブで人気急上昇。市井舞とのユニット「舞組」のサブリーダー。この度、我闘姑娘の選手件広報担当に就任。我闘姑娘公式サイト『ねっとdeくーにゃん』http://www.gtkn.com/



Okite Porsche◎掟ポルシェ（おきて・ぽるしぇ）
11/9 ロマンポルシェ。のDVD『独占！ オトコの120分』（¥3990）を発売。内容は2年前出たDVDと5年前出たビデオをニコイチにしただけのもの。以前の在庫が倉庫の火事で焼けたため泣く泣く再リリース！ 涙なしには出せません！

〝STAND BY ME〟(仮)

地方出張版

ちわっす！　ささきぃです！　前回で最終回になったはずの『STAND BY ME』ですが、今回は地方出張版です！　素手の原始格闘技ミャンマー・ラウェイを見に長崎まで行って参りました！　地方出張〝拳闘・長崎〟編。〝ケンドー・ナガサキ編〟とお読みください！　あれ？　ハズしました？……では、ライターの橋本宗洋さん、宜しくお願いします！

ささきぃ　今回なぜ長崎くんだりまで行ったかというと、素手の原始格闘技、ミャンマー・ラウェイを見に行ったんですね。ミャンマー・ラウェイとは何かというと、ミャンマーで生まれた素手の立ち技格闘技で、投げアリ、頭突きアリ、それにヒジや脊髄への攻撃もアリという〝超・なんでもあり格闘技〟で、ムエタイ700年に対し1000年という歴史を持っています。

橋本　そもそもタイの王様がミャンマーの軍隊に捕まって、脱出したときに使った技がムエタイの源流って言われてるよね。

ささきぃ　ミャンマーの他から閉ざされた政治的背景もあって、他の国とほとんど交わることなく残っていた原始格闘技ラウェイなんですが、そこに去年、田中塾と和術慧舟會総本部がミャンマーまで乗り込んでいったと。

橋本　そこで2連敗した和術慧舟會が、今回、初めて日本に呼んでリベンジを行なった。しかも長崎平和記念館という、平和の象徴みたいなところで（笑）。

ささきぃ　平和祈念像とかあるところで（笑）。橋本さんは今回、初めてラウェイを見ていかがでした？

橋本　なんか、初期UFCを見たときのような刺激があったね。素手で殴るとか、頭突きもあるとか、脊髄への攻撃もあるとか、極端に縛りのゆるい危険なルールってことがひとつ。やっぱりバーリ・トゥードが競技化されていくうちに「これ以上のものはない」っていう勝手な思い込みができてたんだよ、こっちに。

ささきぃ　なるほど。

橋本　『PRIDE』ルールが競技としてのギリギリの線だろうと。そういうグローバル・スタンダードができ上がってるもんだと思ってたところへ、頭突きも脊髄への打撃もある格闘技を見ちゃった驚きね。それもVTの世界的な流れなんてまったく関係ない、別の文脈なわけでしょ、ラウェイって。こっちが捨てたと勝手に思ってたものが真空パック保存されてたんだよね。しかもミャンマーに（笑）。

ささきぃ　こんなのがまだあったか、と。私もラウェイを初めて見たとき「世界は広いな」って感じましたね。

橋本　素手だったらパンチの打ち方ひとつとっても違うんだろうなぁとか、じゃあ練習はどうやってるんだろうとか、知りたいことは非常にたくさんあるよね。

ささきぃ　前回の日本vsミャンマー4対4で、日本側の投げやタックルがけっこう有効だったんですよ。今回、メインに登場した若杉成次選手はたぶんその戦法を自分なりにアレンジしてドローに持ち込むことに成功した。負けからドローへステップアップした彼も凄いんですけど、ミャンマー人のほうも投げに対する方法を考えてきたというのが素晴らしかったですね。

橋本　今村洋戦ね。投げられるときに相手の首をがっちりホールドして離さない。身体を密着させて衝撃を逃がさないことで、逆に相手へダメージを与えるという。

ささきぃ　首が本気で危ない倒れ方でしたからね。戦慄でしたよ。でも、同時にそんなこと考えてきたかっていう感心もしちゃいましたね。

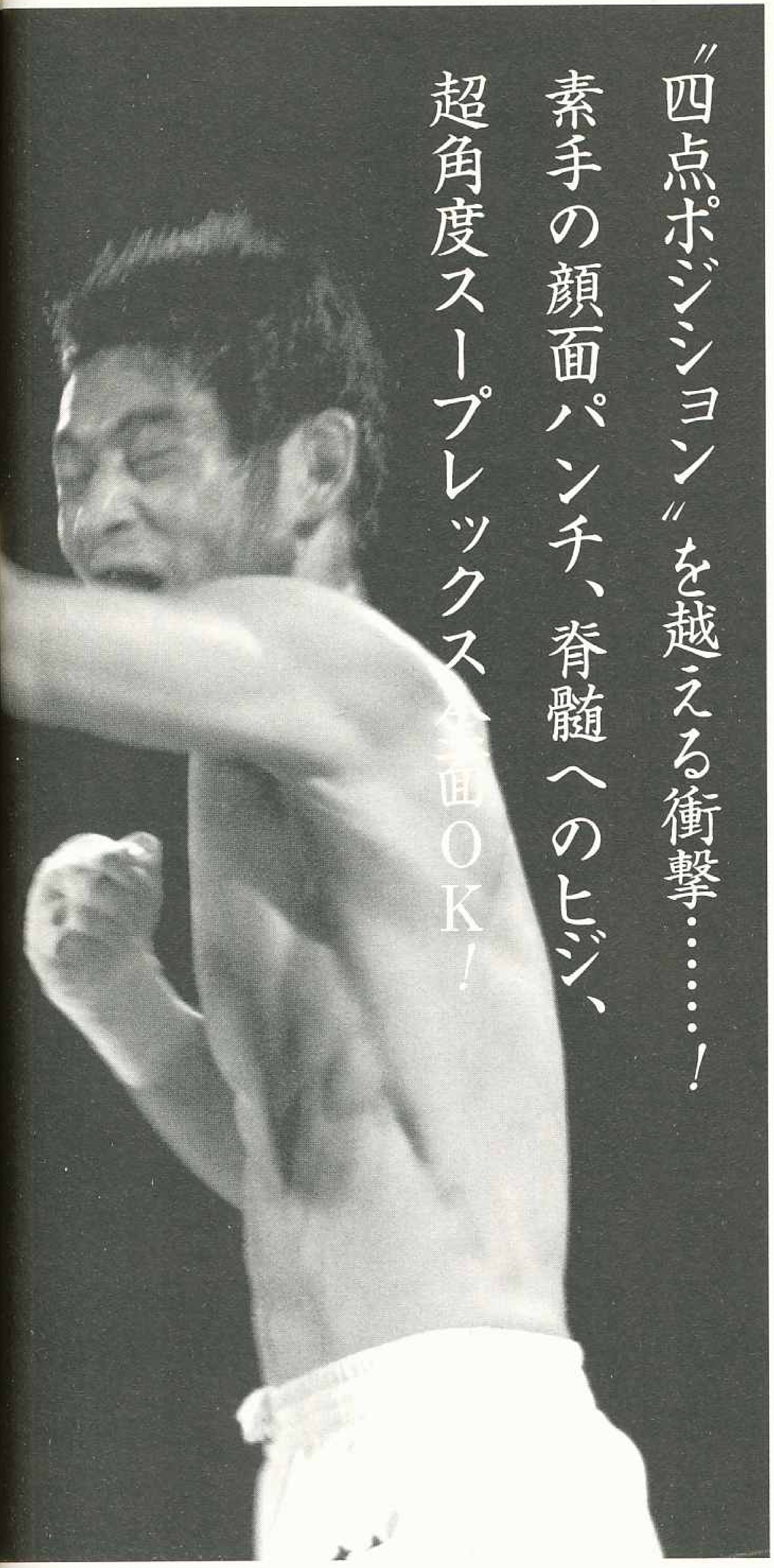
橋本　ああいうやり方もあるんだなぁってね。新しい発見が凄くある。

ささきぃ　これを後楽園レベルの大会じゃなくて、長崎のちっちゃい大会で、ミャンマー人を二人呼んで実施にこぎつけたっていう、西さんのおかしな情熱もすごいですよ。

橋本　次は東京でやるって言ってたからなぁ。

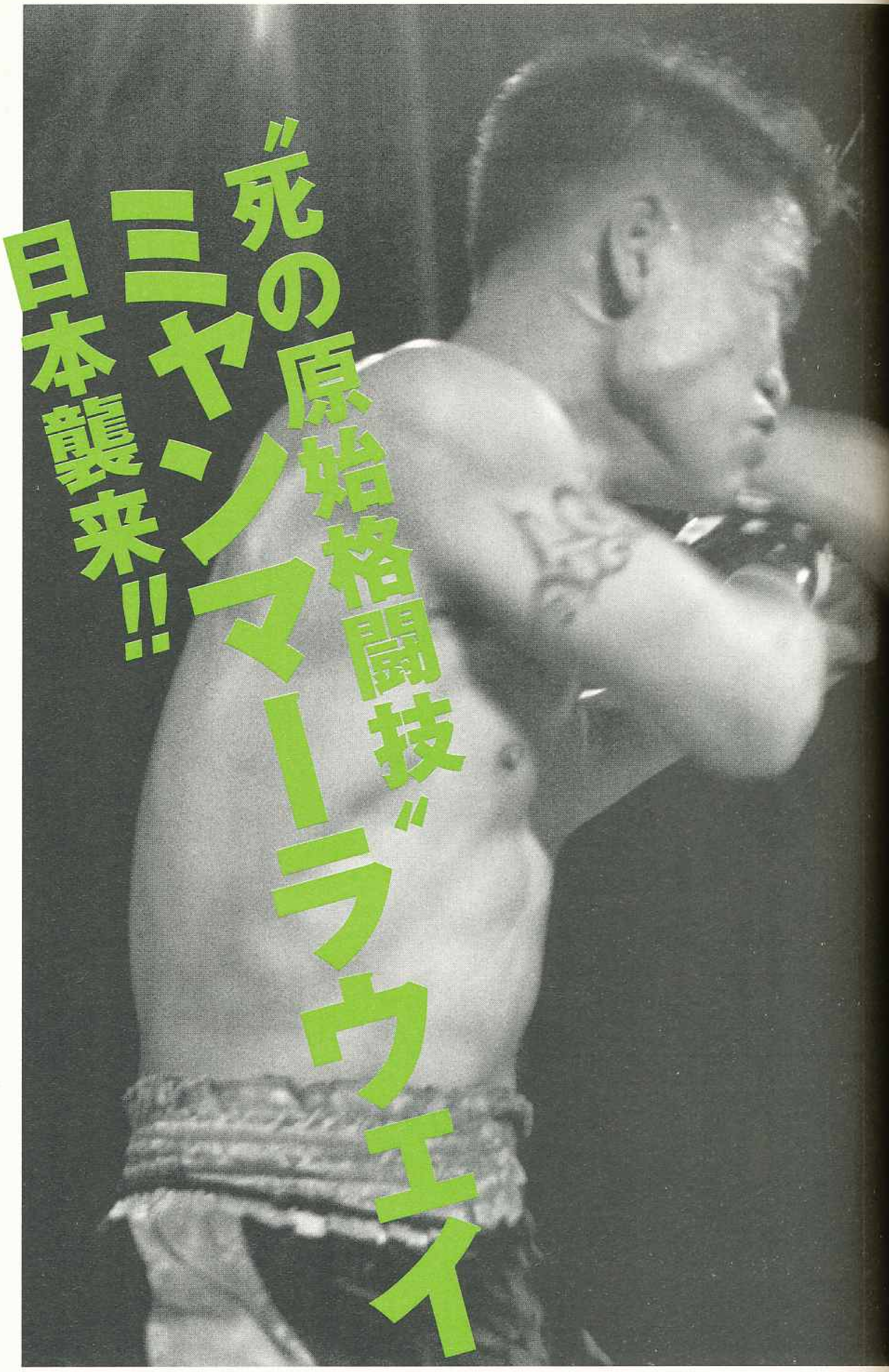
ささきぃ　西さんは1年前「慧舟會の武器はしつこさですから」って言ってましたからね。

橋本　まだ（ロブ・）カーマンもヒクソン（・グレイシー）も追いかけるっていう、そのしつこさは美しいね（笑）。で、今度ラウェイを呼ぶときには、キックなり総合なりのトップどころとの対戦が見たいね。そうすれば技術体系の違い、ラウェイならではの強さみたいなもの

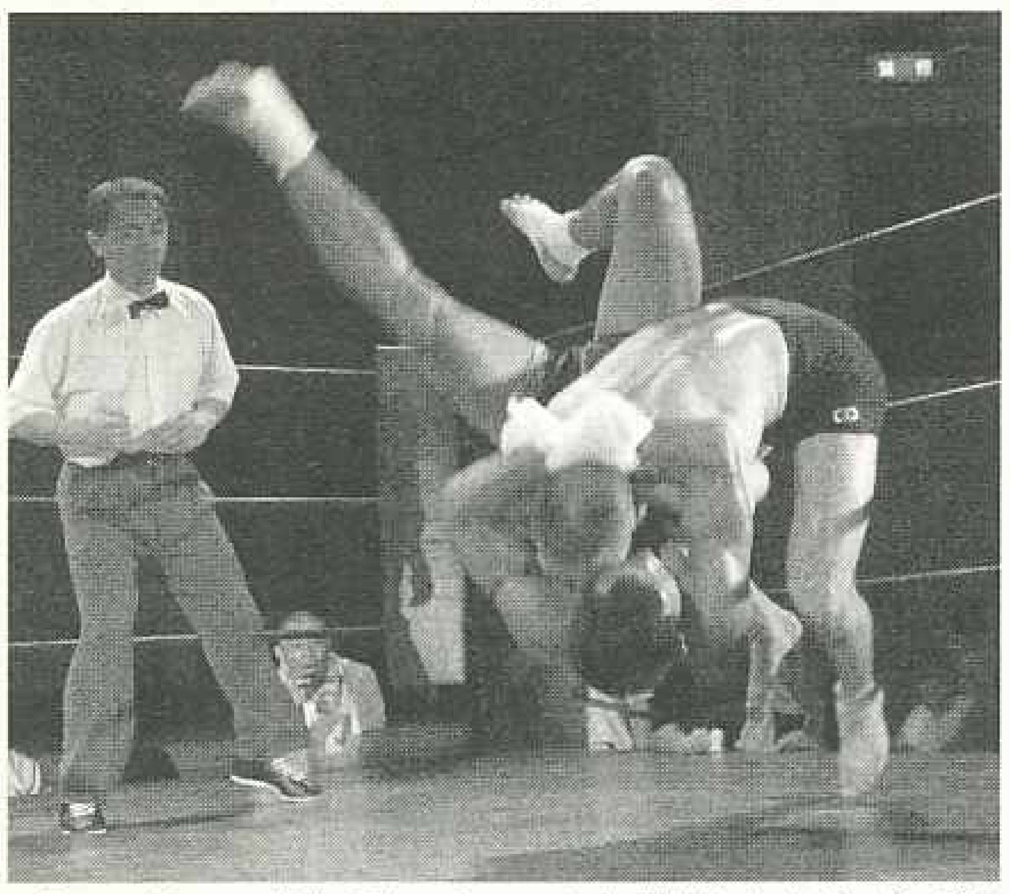


〝四点ポジション〟を越える衝撃……！ 素手の顔面パンチ、脊髄へのヒジ、超角度スープレックス全面OK！

“死の原始格闘技”ミャンマーラウェイ日本襲来!!

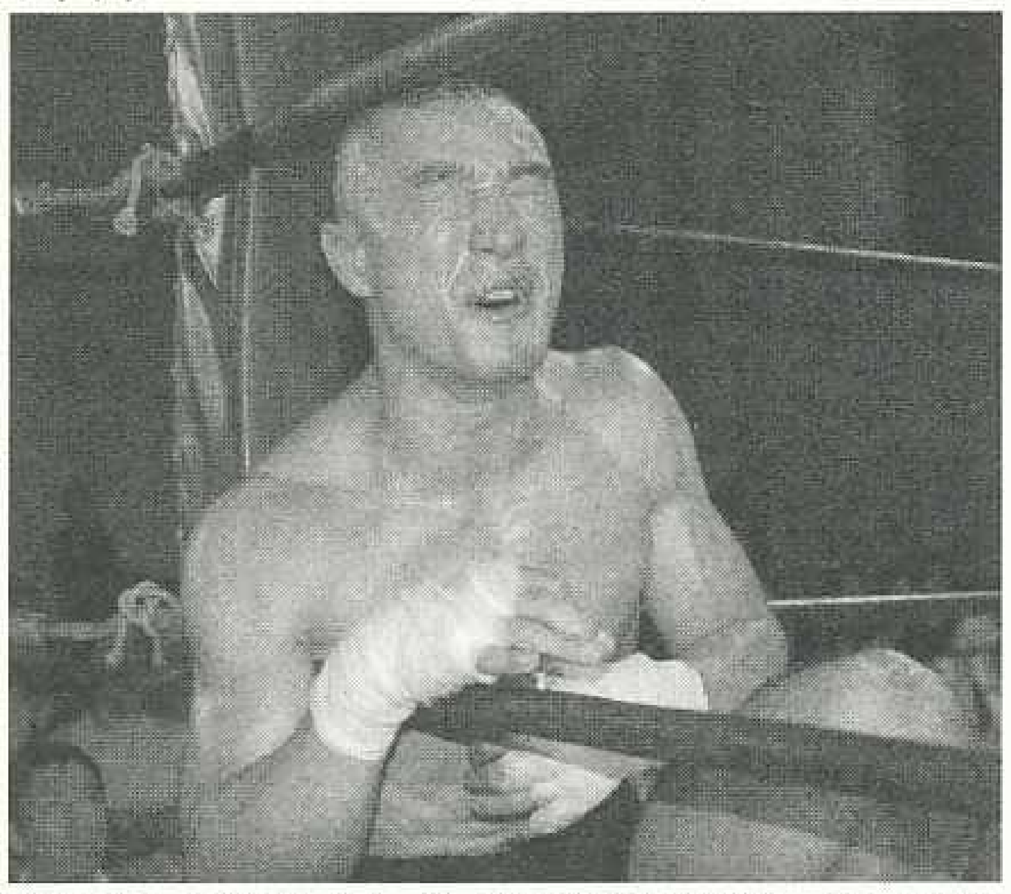


投げに対する戦慄の逆転技!!



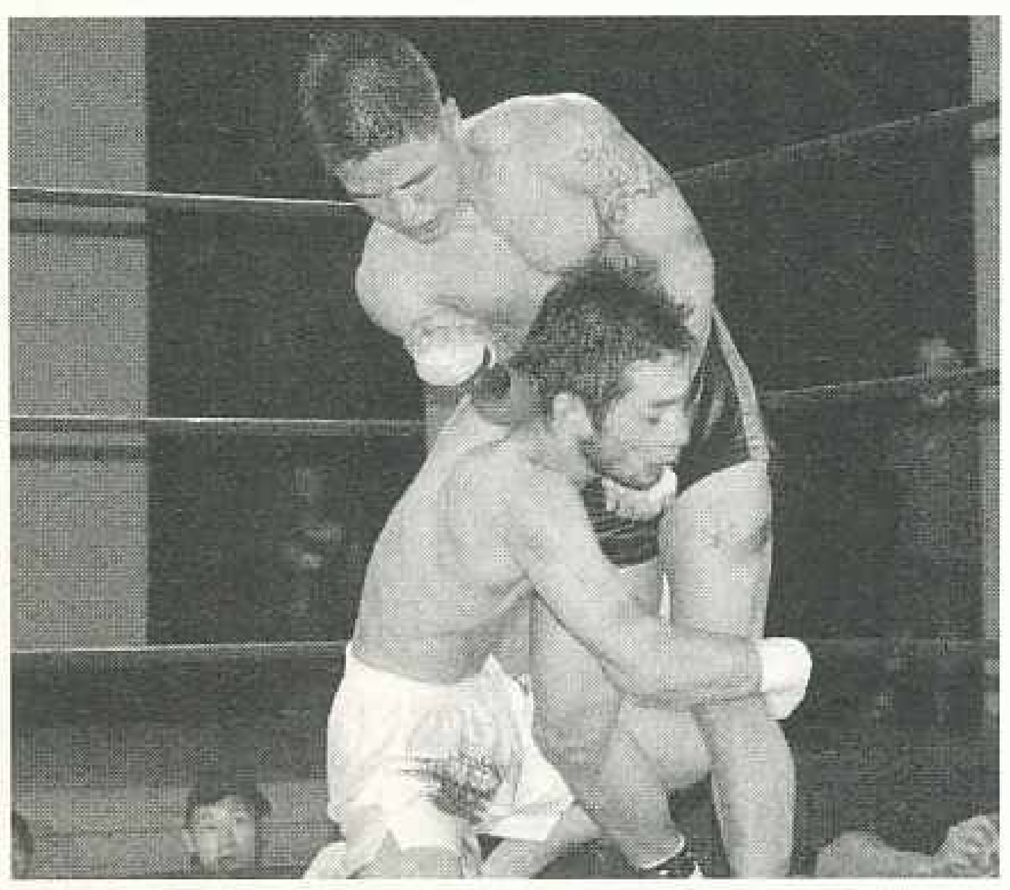
セミファイナルに出場、ラウェイルールに初挑戦した今村。ゴング直後、今村が豪快な投げを披露! しかしロン・チョーは投げられながらも今村にしがみつき、ガッチリ首をホールド。逆に今村の首へ大ダメージを与えてしまった。

驚愕の“スペシャル・レスト”ルール!?



投げられた今村は大ダメージ。普通のVTならドクターストップとなるところだが、ラウェイには“スペシャル・レスト”(つまりは「タイム」が出来る)が存在するため、回復を待って試合再開。しかし、直後にロン・チョーの飛びヒザでKO負けとなってしまった。

後頭部、脊髄へのヒジ攻撃全面OK!!



タックルで組み付いた若杉に対し、ソーゾーはガツンとヒジを叩き込む。他ルールでは考えられないが、ラウェイでは脊髄への攻撃もOKなのでタックルも命懸けだ。頭突きもOKなため、クリンチの状態でも頭突きを叩き込まれる可能性があり、休むことはできない。

が、より浮き彫りになると思うから。

ささきぃ 個人的に、このルールで一番見たいのは山本KID徳郁選手なんですよ(笑)。地上波では流せないでしょうけど、最高に面白いと思いますよ。

橋本 KIDは見たいなぁ。

ささきぃ もう一人は後藤龍治選手(笑)。彼は絶対このルールで光ると思いますよ。

橋本 立ち技バーリ・トゥーダーだからね(笑)。ただどの選手にも絶対無理強いできないし、確実に言えるのは、ラウェイが大ブームになることはありえないから(笑)。あくまでも珍味だからさ。珍味にハマる人もいるわけだけど。

ささきぃ ブラジリアン柔術みたいに町道場ができるようなブームは来ないと。

橋本 でも、これをやってみたいと思える選手は、なんか信用できる感じがするよ。西さんも「結局、格闘技をやる男はケンカの強さに憧れてるんですから」って言ってたじゃない。ラウェイはホント、もっと見たいし、知りたいことだらけだね。現地の練習とかも見たいし。いまミャンマーに行きたくてもなかなか入れる状況じゃないっていうのが、また幻想を湧かせるね。

【10月5日・ダブルクロスにて収録】

和術慧舟會総本部主催

『kushima's Fight 10』

長崎・長崎市平和会館ホール

メインイベント／60kg契約

ミャンマー・ラウェイルール3分5R

△若杉成次(和術慧舟會福岡支部 172cm) vs
ソーゾー・レイ(ラウェイライト級王者 172cm)△
[5R引き分け] ※ラウェイルールの規定により勝敗なし

セミファイナル／75kg契約

ミャンマー・ラウェイルール3分3R

◯ロン・チョー(ラウェイミドル級王者 176cm) vs
今村洋(和術慧舟會総本部 178cm)✕
[1R KO] ※飛びヒザ蹴り

〝火の玉ボーイ〟五味隆典がラジオパーソナリティに初挑戦!!

9月25日のPRIDE GPライト級トーナメント（有明コロシアム）にて強豪を次々と撃破！ 見事に大晦日（PRIDE男祭り）での決勝進出が決定、いまや押しも押されぬPRIDE武士道の絶対エースとなった、五味隆典選手。その五味選手がなんとラジオのパーソナリティに初チャレンジ！ 今後はリングの世界と並行してラジオの世界にも舞台を広げて活躍することになった。今回は、緊張の初収録現場におじゃましました。


初のラジオ収録にやや緊張の面持ちで挑んだ五味選手だが、徐々にリラックス。見事に収録を行なってみせた。

五味隆典選手がニッポン放送にてパーソナリティをつとめるラジオ新番組、『五味隆典　天下無双』が10月8日（土）よりスタートした（毎週土曜日、夜9時〜9時30分）。

この番組は、いま格闘技界でもっとも注目と人気を集める日本人ファイター、五味選手が初めてラジオパーソナリティに挑戦。PRIDEでの試合や日々の練習、その強さの秘密に迫るだけではなく、自身の生活や趣味、友人といったプライベートトークも含んだ五味ファンにはたまらない内容で、その知られざる素顔と魅力に迫る30分番組だ。

このフレッシュな第1回ラジオ収録現場におじゃましました。五味選手は今回が初収録ということもあり、緊張もあったようだが、番組アシスタント福永一茂さん（自他ともに認めるニッポン放送一の格闘技好きアナウンサー）のナビゲートや番組スタッフのサポートで、徐々にリラックスムードに。ときには真剣なガチンコトーク、ときにはジョークも交えたり、悩み相談に答えたりしながら、和やかに収録は終了した。

収録後の感想を聞かれた五味選手は「いや〜ラジオで話すのはやっぱり難しいです。これなら練習や試合をしてたほうが楽ですね（笑）」と謙遜していたが、リング上での堂々としたマイクパフォーマンスにも劣らない滑らかなトークを披露した。

『五味隆典　天下無双』は五味選手のトークを中心に、五味選手がイメージキャラクターをつとめる本格派カードゲーム『ディメンション・ゼロ』（ブロッコリー）の最新情報コーナーも満載！ 格闘ファンもカードゲームファンも要注目の、この新番組。土曜日の夜は、ラジオから流れる五味選手の肉声に耳をかたむけてみてはいかがだろう。


知的総合格闘技『ディメンション・ゼロ』のイメージキャラをつとめる五味選手。番組では『ディメンション・ゼロ』の最新情報も満載！


『五味隆典　天下無双』（ニッポン放送）は10月8日（土）よりスタート（毎週土曜日、夜9時〜9時30分）。アシスタントの福永氏とファイティングポーズで記念写真。

賞金総額なんと2000万！ 真剣勝負の超大型カードゲーム「ディメンション・ゼロ」とは何か？

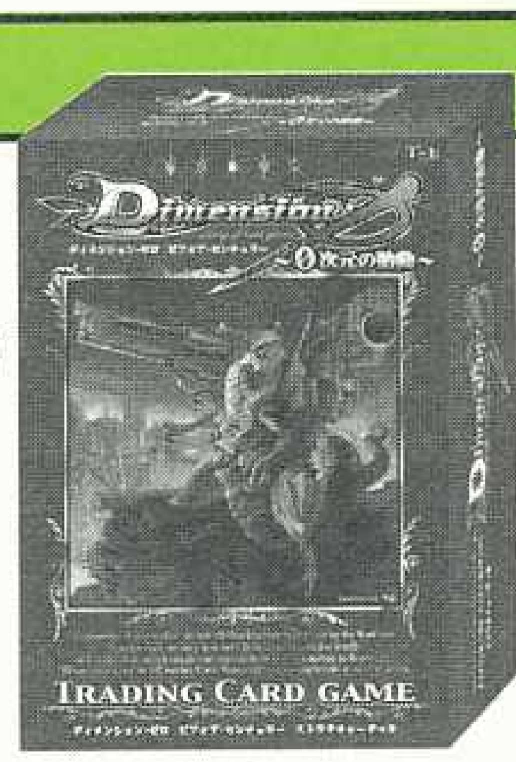
「大会の賞金総額はなんと2000万円！」「かつてない真剣勝負（ガチンコバトル！）」。まさにPRIDEを連想させるような強烈なキャッチコピー。これは決して格闘技の世界の話ではない。PRIDE武士道で大活躍中のエース、五味隆典選手がイメージキャラクターをつとめる新世代の本格カードゲーム『ディメンション・ゼロ』（ブロッコリー）のコピーなのだ。

『ディメンション・ゼロ』とは、過去のさまざまなカードゲームの長所や短所を徹底的に分析した上で、練り上げられた〝知的な総合格闘技〟であり、いままで類を見ない真剣勝負（ガチンコバトル）のカードゲームとして登場する。この『ディメンション・ゼロ』は将棋や囲碁のように「プロ契約」や「賞金制度」も準備。年4回予定されている公式大会では、賞金総額はなんと200万円以上！ 日本選手権での優勝賞金は300万円が予定され、カードゲームの常識を超えた、競技性の高い、新しい戦いの世界が広がっている。

これらのゲームデザインは『デュエルマスターズ』のテクニカルデザインを担当した中村聡氏が担当し、カードの本製品の発売は11月を予定。現在、これに先駆け40枚のカードを収録した「ディメンション・ゼロ ビフォア・センチュリー ストラクチャーデッキ」が絶賛発売中！ 構築済のデッキ（カード）のほか、ルールブック、ゲームマットとゲームを遊ぶ上で必要不可欠なアイテムがすべて入って、税込1000円の特別価格。

今後、大きな話題を呼ぶことは確実なこのカードゲーム。ライバルに差をつけるべく購入し、〝知的総合格闘技〟『ディメンション・ゼロ』の戦いに参戦しよう！




「Dimension0 ビフォア・センチュリー ストラクチャーデッキ 〜0次元の胎動〜」
【税込価格】1,000円【デッキ内容】カード40枚、プレリリースルールブック、プレイマット

05年8月24日の『ディメンション・ゼロ』制作発表会に出席した五味選手。イメージキャラとしての活躍に期待。




SAKU
10.23 PRIDE.30
STARTING OVER
CHUTE BOXE
MUAY THAI
VALE TUDO



シュラスコ食べてパワーUP！　10・23ケン・シャムロック戦に出陣！

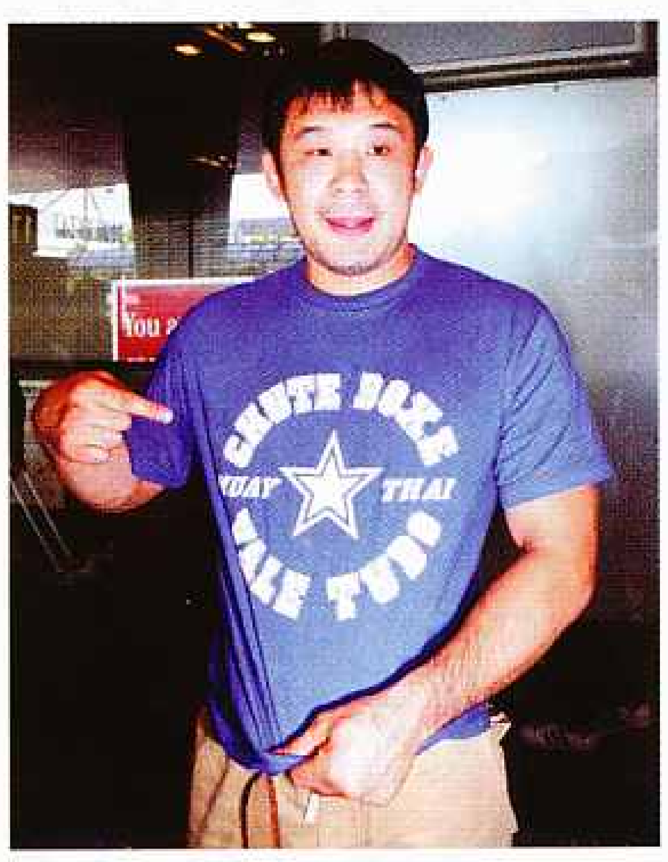
桜庭和志


［髙田道場／『バイオハザード4』マスター］

ブラジル修業の日々を本誌だけにポコッと激白！

なぜサクは〝宿敵〟シュートボクセの門を叩いたのか？

地球の裏側に位置するブラジルに渡り、一カ月半に及ぶシュートボクセの修行生活を送った桜庭和志。長旅嫌いで知られるサクだが、その上、叩いた門は〝宿敵〟シュートボクセ！　いったいどういうことなんだろう？　血に染まったアローナ戦後、堅く口を閉ざしていたサクがブラジルへ渡った理由や『PRIDE・30』への意気込み、いまの心境をポコッと語ってくれた！　え？「ポコ」の意味？　読めばわかりま〜す！





SAKU is STARTING OVER

聞き手／山口日昇（ポルトガル語7級）
構成／ジャン斉藤（ポルトガル語10級）
撮影／森“モーリー”鷹博
designed by matsu（TwoThree）

—今日はブラジル帰りの桜庭さんにポルトガル語をいろいろ教えてもらおうと思って来ました。

桜庭　ポルトガル語？……あ、ポコ！

—は⁉「ポコ」？

桜庭　ポルトガル語で「ちょっと」という意味です。

—いやぁ、立派なもんです！　もうすっかり心はブラジル人ですね！

桜庭　……馬鹿にしてるでしょ？

—いや、ちゃんとしゃべれるじゃないですか。「ポコ」って。（笑）。

桜庭　数字なんか「5」までしか数えられませんよ。「6」からはわかんない……。

—まるで保育園児みたいですね（笑）。シュートボクセのセコンドがいつも試合で「ヴァモス・チメー！」って叫んでますけど、あれはどういう意味なんですか？

桜庭　う〜んと……たしか、「行け、チーム！」とかいう意味ですね。

—「行け、チーム！」。「チームの魂を見せろ」みたいなかんじなんですかね。

桜庭　まぁ「ファイト！」と似た意味なんですけど、「行け、チーム！」ってかんじ。「行けーッ！　行けーッ！」っていうか……よく練習中にもコーチが叫んでるんですよ。でも最初、ボクには「笑ってんな！」って聞こえたんで、それを聞いてもうアッタマきて！

—「ヴァモス・チメー！」が「笑ってんな！」に聞こえた。字面にするとぜんぜん違うけど、発音にするとそう聞こえるんでしょうね。

桜庭　だから、ボクも「笑ってんなぁぁ〜ッ!!」って叫んでみたら……逆にみんなに笑われました（笑）。

—そういえば、桜庭さんの「アチャ〜ッ！」という口癖が向こうで流行ったらしいですね（笑）。

桜庭　ああ。みんな「アチャ〜ッ！」「アチャ〜ッ！」って言ってましたよ。「それ、どういう意味だ？」って聞かれたけど、べつに意味もないし。「アチャ〜ッ！」は練習がキツいからよく叫んでたんですよ。

—やっぱりそうとう「カンサード」（ポルトガル語で「疲れる」の意）な練習が続いたわけですか？



桜庭　カンサード!!　なんでそんな言葉がいっぱい出てくるんですか？（笑）。

—今日の取材のためにボクもポルトガル語を勉強してきたんですよ！　シュートボクセの練習はやっぱりカンサードでした？

桜庭　1日3回の練習をしてましたね。一回一回の練習はそんなに長い時間やらないんですけど。

—シュートボクセはパーツによって練習を分けてるんですか？

桜庭　そうですね。ボクシングだったり、キックボクシングだったり、柔術だったり。

ブラジルは凄い良かったです。ひたすら練習に集中できました

で、朝は10時から1時間半ぐらい練習して、お昼は水泳かウエイト。ウエイトはほかの人は1時間ぐらいやってるんですけど、ボクはちょこちょこっと（ニコニコ）。

—ちょこちょこっと地球の裏側でウエイトをやってきましたか。

桜庭　それで夜は6時半くらいから8時ぐらいまで練習して。

—朝・昼・夜とホントに練習漬けの毎日だったんですね。

桜庭　「せっかくブラジルまで来たんだから存分にやっていってくれ」ってチームのみんながやらせるんですよ。

—もしかしたら桜庭さんだけのスペシャルメニュー？（笑）。

桜庭　だからよ〜く周りを見てたら、疲れたら練習に来てない人もいましたよ。

—でも、シュートボクセの掟には無遅刻無欠席というのがあるんですよね？

桜庭　いや、がんじがらめにずっと練習してるわけじゃなくて、やっぱり抜くとこは抜いたほうがいいんですよ。ボクも「頭が痛いから」って休みましたもん！　夜寝られなくて調子が悪くて、朝の練習を1回だけ休んだんですよ。

—ブラジルに1カ月半滞在して、休んだのは朝練を1回だけ！　偉いなぁ。ボクは長旅嫌いの桜庭さんが飛行機でブラジルに行ったことが、いまだに信じられないでいたんですけどね（笑）。向こうではホテル住まいだったんですか？

桜庭　はい。4階建てくらいの普通のホテルでした。

—ブラジルは物騒だって聞いてますけど。ホテルのロビーで人殺しが起きたりしてませんでした？（笑）。

桜庭　そういうのはぜんぜんないです。クリチバは治安が良くてけっこう安全みたいですよ。

—食事面はどうでした？

桜庭　ぜんぜん合いましたね。シュラスコ（ブラジルの肉料理）は食べられないだろうなって思ってたんですけど、実際に食べてみたらおいしかったです。週に3〜4回はシュラスコを食ってました。

—桜庭さんって一旦気にいると、とことんハマるタイプですよね。

桜庭　なんか肉につけるオガクズみたいなのがおいしいんですよ。

—オガクズは肉につけないと思いますけど（笑）。日本のカツオブシみたいなもんですか？

桜庭　いや、ツブツブの粉のやつ。「ファローパ」っていう名前で芋からつくるみたいですけど。それを肉につけて食べると、これがまたおいしいんですよ！（満面の笑みで）。

—そんなにおいしいんだ。そのシュラスコをおかずにご飯と一緒に食べるんですか？

桜庭　そうですね。米はあるんですけど、日本のと違ってパサパサしてるんですよ。ボクはパンよりは米を食ってたんですけど、わりと普通に食えました。シュラスコがおいしいから、もう1回シュラスコを食べるためにブラジルに行きたいです（ニコニコ）。

—グルメツアーじゃないんですから（笑）。

「短期間では身につかないと思いますけど、少しだけ打撃に対する怖さがなくなってきましたね。もっと前に出れるようになってきたとは思いますけど」

—改めて聞きますけど、そもそも桜庭さんがブラジル修行を決意したきっかけ

はなんだったんですか？

桜庭 日本にいるとめんどくさいから！

―あ、それが理由（笑）。

桜庭 ボクは練習と試合だけをやっていたいんですよ。

―桜庭さんは昔から取材を嫌がってますけど、ズバリ言って、取材等がめんどくさいんですか？

桜庭 はい！（キッパリ）。

―こっちが取材している最中に、よくもそんなことをキッパリ言いますね！（笑）。

桜庭 ブラジルでも余計、取材が嫌いになりましたもん。もうバカすぎてやってらんないですよ。

―現地で何かイヤなことでもあったんですか？

桜庭 現地の格闘技雑誌のインタビューを適当に答えてたんですよ。そうしたら、高橋（渉、髙田道場）がDVDを買っただの、ボクの海パンがちっちゃいだの、そんなわけのわかんない話ばっかり載せて。

―いいじゃないですか！ それ、きっとアイドル扱いなんですよ。「海外アイドルのプライベートを聞く」（笑）。

桜庭 あ～、そんなかんじですかね。もう格闘技雑誌じゃなくて、完全に写真週刊誌とか暴露系雑誌みたいでしたもん！「桜庭はどこそこの店でいくらお金を使ってきた」とか。

―は!? ごていねいに、そんなことまで書かれちゃったんですか？

桜庭 そうなんですよ！

―凄いなぁ～！ まるで韓流スターですね（笑）。

桜庭 もうマスコミが本当に嫌いになりました。返す刀で日本のマスコミも嫌いになりましたね。だから、こないだの記者会見（10・5ケン・シャム戦発表会見）もあんまりしゃべらなかったんですけど、じつはもの凄いイヤだったから初めからムッツリしてたんです（笑）。

―そういえば桜庭さんは（ヒカルド・）アローナ戦が終わってから、取材を受けてないですよね。おそらくロング・インタビュー形式での取材は今回が初めてじゃないですか？

桜庭 取材はイヤだって断ってましたから。だからブラジルに行ったんですよ。

―マスコミ嫌いが高じてブラジルへ！（笑）。でも、まさかそれが主なブラジル行きの理由じゃないですよね？

桜庭 まぁ、『PRIDE』の会場とかでフジマール（シュートボクセ会長）に会うたびに「シュートボクセに来い！」「俺が打撃を教えるから」って言われてたんで。フジマール会長は、シュートボクセの選手が試合に負けると、ボクにいろいろ言ってくるんですよ。決して普段はズカズカと表に出るタイプじゃないんですけど、もの凄くチームのことを考えていて。そんなことからちょこちょこ話してたのがきっかけにはなりましたね。





これは珍しいサクの柔術衣姿!! サクはシュートボクセで打撃の修練だけではなく、柔術クラスにも参加していた。サクと一緒になぜか「アイ～ン!」ポーズを決めているのは、シュートボクセの柔術トレーナー、クリスチアーノ・マルセロと、一緒にブラジルに渡った髙田道場の高橋渉（一人だけブラジルに置き去りにされた過去あり）。いまクリチバでは、サクは口癖の「アチャ～ッ!」と、この「アイ～ン!」が大流行だとか（もちろん大ウソだ）。

SAKU is STARTING OVER

―フジマール会長は、リング上のシュートボクセ勢のイメージと違って、じつに謙虚な人ですよね。

桜庭 はい。人としていいなってボクも前から思っていて。ブラジルで「なんでブラジリアン・トップチームに行かなかった？」って聞かれたんですけど、トップチームとはそういうつながりはないですからね。

―それにしても、さいたまスーパーアリーナに行くのさえ嫌がる出不精の桜庭さんが、はるばる地球の裏側のブラジルに渡るなんて一大決心ですよ！

桜庭 いや、ただ日本にいたくなかっただけです。

―まるで家出だ（笑）。

桜庭 ま、家出といえば家出ですね（ニコニコ）。

―ブラジルに渡って心身ともにリフレッシュできました？

桜庭 凄い良かったです。みんな良くしてくれて、ひたすら練習に集中できました。ハードさっていう面では日本もブラジルも変わらないんですけど、向こうに行くと適当に力を抜いてるヤツもいて、リラックスできる雰囲気もあるんですよ。練習に来ないヤツがいても、来ない者は来ないからしょうがないってかんじで。

―そんなシュート・ボクセの雰囲気にはすぐに馴染めたんですか？

桜庭 ……1週間ぐらいかかりました。最初は、どのタイミングで手を抜いていいのかわからなかったし、最初はどういうメニューで練習するのかわかんなかったんですよ。最初、ボクは（ダニエル・）アカーシオと（レスリングの）差しの練習してたんですけど、アカーシオがもの凄い力を入れてバチバチバチバチやってくるんで、最初の5分だけで死ぬ思いをして。でもフッと周りを見たら、みんなけっこう適当にやってるんですよね。「あれ、ちょっと待て！ なんで俺だけこんなにキツイんだ？」と思って。

―1週間ぐらいするとマイペースというか、サクペースで練習できるようになったんですか？

桜庭 はい。自分で集中するとこは集中して。

―ダニエル・アカーシオ以外とは主に誰と練習したんですか？

桜庭 ニーノ（・"エルビス"・シェンブリ）と（ルイス・）アゼレードですね。

―じゃあ比較的体重の軽い選手と練習してたんですね。

桜庭 あと重い人だと、サイボーグ。

―あ、エヴァンゲリスタ・サイボーグ！

桜庭 ああ、そういう名前。サイボーグって名前しかわからない……。

―あいかわらずですね（笑）。日本でいうところの道場長というか厳しいコーチみたいな存在はシュートボクセにもいまし

ニーノに寝技のことをいろいろ聞いて、ニーノも逆にいろいろ聞いてきて

た？

桜庭　コーチはいっぱいいましたけど、そんなに厳しくはないんですよ。

——わりとフレンドリーなかんじで。

桜庭　はい。

——ブラジルが性に合ったというのは、そういったわりとフレンドリーな練習環境のせいもあるんですか？

桜庭　はい。

——「はい」「はい」って久しぶりの取材だから、新入生みたいになってますよ（笑）。

桜庭　はい（ニコニコ）。

——シュートボクセ名物の顔を踏みつけたりする地獄のバーリ・トゥードスパーリングも桜庭さんは体験したんですか？

桜庭　やりました！　でも、踏みつけの練習をするのは初めてだったんですけど、ジャンプしてパスガードするのと似たところがあるんで、そんなに抵抗感はなかったですね。

——そういった練習をすることで、今回、全般的に「打撃が上達したな」っていう感触はあります？

桜庭　それはないですね（あっさりと）。

——ダハハハ。でも、フジマール会長は「サクラバの打撃はもの凄く良くなった」って言ってましたよ。

桜庭　ああ、たしかにブラジルに行ってすぐのときは、打撃の練習でヒ〜ヒ〜言ってましたからね。怪我をして日本ではウエイトしかやってなかったから、要はスタミナが落ちてたんですよね。でも、それを差し引いても以前よりは打撃に慣れたと思います。

——逆に考えると、いままで桜庭さん自身が「慣れてなかった」というレベルの打撃技術でヴァンダレイたちと闘ってきたわけですから、凄いですよね。その上で本格的な打撃を身につけたんなら、〃ニュー桜庭和志〃への期待はガ然膨らみますよ！

桜庭　でもそんな短期間では身につかないと思いますね。少しだけ打撃に対する怖さとかはなくなってきたんで、もっと前に出られるようになってきたとは思いますけど。

——たしかにすぐに身につくほど甘くはないでしょうけど、桜庭さんの場合は、コツを吸収して自分なりにアレンジして使うのがウマイから楽しみですね。ニーノやいろんな相手とグラウンドのスパーリングもやったみたいですね。

桜庭　はい。でも正直言うと、グラウンドはそんなに一生懸命やんなかったんですよ。グラウンドだと相手が何してくるかわかんないんで、怪我したら困るなと思って。でもスパーでニーノに三角締めを極められましたよ（くやしそうに）。「スッゲェなあ、コイツ！」と思って。だって聞くところによると、ニーノは10年間も柔術の世界チャンピオンだったらしいですよ。

——それはみんな知ってますよ！　というか、桜庭さんはニーノと2回も闘っているのにいまごろ知ったんですか（笑）。

桜庭　初めて知りました。だからボクもニーノにいろいろ聞いたし、ニーノもボクにいろいろ聞いてきて。ボクの、相手にバックを取らせて腕を極める技があるじゃないですか？

——外人選手のあいだで「サクラバ」と呼ばれているアームロックですね。

桜庭　ニーノに「あれはどうやって極めるんだ？」っていきなり聞かれて、ボクが教えたらその場ですぐマスターしてましたよ。

——さすがセンスありますね。ニーノのベースはブラジリアン柔術ですけど、フジマール会長も「サクラバは柔術とは違うテクニックを持っている」って言ってましたし、シュートボクセの選手にはその柔術とは違うテクニックを学びたいという気持ちがあったと思うんですよね。

桜庭　それはあったでしょうね。ホントにちょっとしたことなんですけど、ボクが「そうじゃなくて、こうやったほうがいいんじゃない？」って言ったら、みんな聞いてすぐに実行してたし。

——向こうも抵抗感なく桜庭さんを受け入れてたんですね。

桜庭　ボクもいろいろ教えてもらいましたし。

——技術的にはどんなものが習得できたんですか？

桜庭　………いや、とくにないです。

——舌の根も乾かぬうちにそうきますか！（笑）。

桜庭　ウソです。ちゃんとあります（ニコニコ）。

「ウェルター級って83キロですよね？……まあ、両方やりゃあいいかなって」

——それにしても、かなりでっかくなりましたよね。

桜庭　シュラスコをたくさん食べてましたから（笑）。

——シュラスコ太り（笑）。ちなみにいま何キロぐらいあるんですか？

桜庭　92〜93キロぐらいです。

——じゃあ、これからもミドル級で闘っていくんですね？

桜庭　はい。

——こないだPRIDEウェルター級&ライト級GPがあったんですけど、ウェルター級のほうでは日本人が全滅しちゃって、大晦日はダン・ヘンダーソンvsムリーロ・ブスタマンチという決勝戦になるんですよ。さらに言えばウェルター級の決勝戦は、ミドル級からウェルター級に転向した選手同士の対決となったわけです。アカーシオの試合だけですけど。

桜庭　ボクもブラジルで見ましたよ。アカーシオの試合だけですけど。

——桜庭さんの普段の体重からいくとウェルター級のほうが合ってますよね。現状の日本人選手が歯が立たない現状にしびれを切らしたファンや関係者からは、桜庭さんのウェルター級参戦を期待する声も挙がってますよ。

桜庭　ウェルター級って83キロですよね？……まあ、両方やりゃあいいかなって。

——え？　ウェルター級に落とすこともやぶさかではない？

桜庭　……いや、もう、めんどくせぇや！と思って。どっちでやるとかやらないとか。だから「やってもいいかな」と言っておけばみんな騒がないかなぁと（ニコニコ）。

——本音を言えば、どこでやろうが俺の勝手だろ！　ということですね（笑）。

桜庭　そういうのがめんどくさいからブラジルに行ったんですよ。せっかく体重を増やしたのにまた落とすのなんて……（ボソッと）。

——なにをボソボソ言ってるんですか。じゃあ当面はミドル級ですね。

桜庭　はい。フジマールには「普段を95キロぐらいにキープして、試合のときに93キロに落とすっていうサイクルにすればなんも問題ないよ」って言われましたよ。

——でも普段から95キロを維持するためには、そうとうウエイトをやって食わないとダメですよね。

桜庭　そうですね。でもシュラスコを食えば大丈夫ですよ（笑）。ブラジルでは凄く集中して練習してたんで、1日に6〜7回はメシ食ってましたし。

——逆に日本だとそんなに食べれないし、



6・26『PRIDEミドル級GP 2ndROUND』のヒカルド・アローナ戦では、両まぶたは塞がり血まみれという、ショッキングな敗戦を喫してしまったサク。体重差によるパワー不足がこの惨劇を招いただけに、ブラジル修行での体重増加は朗報だ

体重は増やせないんじゃないですか？

桜庭　日本だと、ご飯だけでお腹がいっぱいになっちゃう。だからなるべくおかずを食うようにして。減りそうになったらまたブラジルに行ってシュラスコ食います（ニコニコ）。

——今度、ブラジルにはいつ行くつもりですか？

SAKU is STARTING OVER

桜庭　今回の試合が終わったら、11月ぐらいにまた行こうかなと思ってますけど。

——ということは、大晦日の『男祭り』には試合をするってことですよね？

桜庭　今度の試合で怪我がなければですけど。

——ところで今回の『PRIDE・30』には〝スターティング・オーバー〟というサブタイトルが付いてるんですけど、そのテーマというか意味合いは意識してますか？

桜庭　……あんまり意識してない。

——そう答えるのはわかってました（笑）。まぁ今回は桜庭さん自身がリニューアルしてるから、逆に相手は誰でも構わないところがあるかもしれないですね。たとえば、相手は稔クン（豊永）でも（笑）。

桜庭　いや、ちょっとそれは……もし闘ったら、（稔は）死んじゃうかもしれないですよ！

——おお～！　稔クンが死ぬ恐れがあるぐらいレベルアップをしてきてる！　それは試合が楽しみです！　対戦相手のケン・シャムロックにはどういうイメージがあります？

桜庭　どういうタイプなんですかね。ボクシングがうまいのかな？

——スタンダードな型ではないけど、どちらかというとパワーで打撃を打ってくるタイプですよね。

桜庭　ドン・フライみたいなかんじ？　たしかケン・シャムロックってレスリングやってましたよね？

——たしかにやってましたけど、テクよりも力で持っていくイメージがありますよね。

桜庭　でもボクがテイクダウンを取れるかどうかがわかんないんで。あと、やっぱり力が強そうだなっていうイメージはありますよね。いったいどのぐらい力が強いんですかね？

——ボクはケン・シャムと闘ったことがないからわかりません！（笑）。

桜庭　な～んか吹っ飛ばされるイメージがあるんですよねぇ。でも、さすがに（ケビン・）ランデルマンほどではないですよね？

——ボクはケビンと闘ったことがないからわかりません！（笑）。そんなにケビンは力が強いんですか？

桜庭　つ、強いですよ！　もう三角締めの体勢から腕を取ろうとしても、ビクともしなかったですから。ランデルマンに比べたら……ほら、ボクがこないだ闘ったヤツって誰でしたっけ？

——こないだ闘ったやつ？……もしかしたら（ヒカルド・）アローナのことですか？　仇敵を忘れないでください（笑）。

桜庭　そう、アローナだ。アローナって凄く力がありそうに感じるでしょ？

——全身が筋肉の鎧で包まれてますからね。

桜庭　でもランデルマンに比べたら、だいぶ落ちますね。

——ああ、そうなんだ。じゃあランデルマンを想定しておけば、ケン・シャムも問題ないんじゃないですか？

桜庭　う～ん。いや！　こればっかりはやってみないとわかりません!!

——ズコッ！　これまでの話を真っ白にしますね（笑）。

「ヴァンダレイ・シウバとヒカルド・アローナ、自分が闘ってみたいのは……」

——先ほどアローナの名前が出ましたけど、そのアローナ戦をいま振り返ってみてどうですか？

桜庭　どうなんですかね？　ボクの体重が軽すぎて、やる前から「これはヤバいなぁ」って思ってました。

——あのときは前日軽量で87キロぐらいでしたよね？

桜庭　当日で85キロちょっとでした。

——85キロ！　しかもなぜか当日のほうが落ちてる。聞くところによると、アローナは当日97キロ近くあったみたいですけど。

桜庭　だいぶ軽すぎるなぁ、こりゃヤバいな！　と思いましたね。

――アローナ戦っていうのは率直に言って、無茶苦茶くやしかったんですか？

桜庭　負けたってことに関しては、しょうがないなぁ……ってかんじですね。

――あれ？　負けず嫌いの桜庭さんにしては珍しい感想ですね。

桜庭　だって2ラウンドが終わった瞬間、目が完全に塞がっていたから「無理、無理ッ!!」って言ったんですよ。「もうできねぇ！　無理、無理ッ!!」って。それで野口（レフェリー）さんが止めたんですから。

――たしかに両目が塞がっちゃったらちょっとキツイですよね。まぶたをカットしたとき止められてもおかしくはなかったですけどね。

桜庭　だいぶイッてました？　自分では見えないからわかんないですけど。

――見た目はかなりヤバかったですよ。あんな目に遭ったんだから、アローナにリベンジしたいっていう気持ちは当然湧き上がってきますよね？

桜庭　そういう機会があればやります。

――アローナとヴァンダレイだったら、いまはどっちと闘いたいですか？

桜庭　ん!?　それはわかんないなぁ。

――桜庭さんが絶好調だとして、どっちと闘ってみたいですか？

桜庭　闘ってみたいのは……ヴァンダレイ。（急に小声になって）でも、もうできないなぁ。シュートボクセのお世話になったから。

――ヴァンダレイとは練習したんですか？

桜庭　してないです。

――だったらまだ闘えるんじゃないですか？

桜庭　でもシウバと話とかしたし。誰かのパーティにシュートボクセのみんなと出かけたりもしたんで。

――でも、ヴァンダレイとはもう一度闘ってみたいわけですよね？

桜庭　そうですね。シウバとはおもしろい試合ができますから。

――じゃあアローナ戦は桜庭さんにとって、そんなにおもしろい試合ではなかったんですか？

桜庭　う〜ん。やってる自分としてはおもしろくなかったですし、どっちと闘って楽しいか？って聞かれたらヴァンダレイです。負けて言うのもなんですけど、アローナって次に何をやってくるのかなんとなくわかっちゃって。"コイツ、なんか殴りに来そうだなぁ"と思ってボクが下がると、もう何も仕掛けてこないんですよ。同じ状況でシウバだったらフェイントをかけて、さらに前に出てくるんですよね。だから闘ってて、もの凄い緊張感があるんですよ。

――たしかにアローナの闘い方自体は相手の動き待ちで、そんなにスリリングではないですよね。あの上からガブられてヒザで打たれるのってあとで頭にきませんか？

桜庭　あれも一種の攻撃方法なんで、それはしょうがない。

――でも、桜庭さんはああいう勝ち方をしたいとは思わないですよね？

桜庭　思わないです。あそこまで相手を追い詰められるんだったら、バックを取ってチョークスリーパーを狙ったりとか、サイドを取って腕を極めたりとか、自分としてはそっちのほうがやりやすいですね。

――ガブリでのヒザや、上四方からのヒザ攻撃とか、5〜6年前にはなかったようなテクニックがどんどん主流になってきてるという状況がありますよね。簡単に言うと『PRIDE』のレベルがどんどん上昇している。桜庭さんはそこをどう突破していこうと思ってるんですか？

桜庭　突破？　ん〜……わかんない！

――わかりませんか！

桜庭　ま、自分が持ってない技を身につけていかないといけないと思いますけど。

――そうすると、これからも出稽古を組み入れていく気持ちはあるんですよね。

桜庭　はい。またブラジルに行きますよ。

――シュートボクセに限らず、「次はロシアに行こう！」とかは思わないですか？　桜庭和志、なぜかヴォルク・ハンに弟子入り！とかおもしろそうですけど（笑）。

桜庭　いやぁ、ロシアはちょっと……それはまったくないですね。

――もう出稽古自体をゲームみたいな感覚にして、世界各地を回って自分の武器を身につけていこうというイメージは湧かないですか？

桜庭　ないです。シュートボクセの場合でも、シュートボクセのテクニックを学びに行くんじゃなくて、シュートボクセには何十人も選手がいるじゃないですか。それでその個人個人にはいろんなテクニックがあるんですよね。たとえば、そういうテクニックを全部マスターしてしまえば、かなり得るものがあると思うんですよ。だって選手が何十人もいて、そのひとりひとりがまったく違ったカラーでやってるわけですから。

――それを吸収してしまえば、世界を回ったのと同じ効果を得られるかもしれないと。

桜庭　……かもしれない。

――「かもしれない」（笑）。

桜庭　でも、いい勉強になりますよ、ホント。

押さえ込んだほうが楽なんだけど、クセで顔面を踏んづけちゃう

「自分のスタイルが変わることは絶対にない。でも、寝技にちょっと打撃をプラスしたスタイルを試合でやってみたい」

――さっきたまたま道場の壁の「髙田道場訓」を改めて目にしたんですけど、そのなかに「修練するは即ち、自分を創造するに然り」という一文があったんですよ。いまの桜庭さんには、修練して自分を創りあげていく感覚ってあります？

桜庭　新しい技やテクニックが身についてくればそれは感じます。でも、そうすると……前の技を忘れちゃうんですよね。

――ガハハハ！　桜庭さん、それじゃあプラマイゼロですよ（笑）。

桜庭　いや、ホントですよ！　だからどれくらい自分の技術を維持できるかっていう勝負になりますよ。たとえば、いままでタックルしかやってないから投げ技を使ってみようとか思うじゃないですか？　で、ズ〜ッと投げ技やってるとタックルの感覚を忘れちゃうんですよね。

――どんなに身についているものでも忘れちゃう瞬間がある。

桜庭　またやりだしたら思い出すんですけど、常に使ってないと忘れちゃう。

――でも今回のブラジル修行では、いままでの技を忘れてしまうほどの新しい収穫があったってことですよね。そういうなかで、今回のブラジル行きで一番メリットがあったことってなんですか？

桜庭　メリット？……友だちが増えた（ボソッと）。

――異国の友だちが増えたことがメリット（笑）。

桜庭　はい。シュートボクセの人たちが日本に来ると、会場に行きたいなぁって思うし（ニコニコ）。基本的にボク、会場

に行くのが好きじゃないんですよ。

——メリットが「友だちが増えた」ことなら、一番苦痛だったことはなんですか？

桜庭 ……とくに。でも、しょっちゅう飲みに誘われるのはイヤでしたね。飲みっていうかメシ食いに行こうって誘われるんですけど。「俺は行かない。もう疲れたから行かない」って断って。

——友だちが増えたのが嬉しいということと、誘われても行きたくないっていうことが同居してるのがおもしろいですよね（笑）。普段から積極的に友だちをつくるタイプでもないんだろうけど、でも友だちが増えると嬉しいんですか？

桜庭 はい（ニコニコ）。

——まぁ極端に言うと気分屋なんですよね、桜庭さんは（笑）。いま試合に向けて気分は盛り上がっています？

桜庭 はい。

——あえて聞きますけど、〝再出発〟というタイトルがついた大会で桜庭和志の何を見せたいですか？

桜庭 ん？ とくに何もありません。

——ガハハハ！ いや、そう答えるのはわかってました。

桜庭 〝再出発〟という年齢でもないし。そんなことといったら過去に何回も〝再出発〟してますよ。だから、とくにはないです。ただ、シュートボクセで習ってきた打撃なり組技を試合に出せればいいかなって思いますね。自分のスタイルが変わることは絶対にないので。

——桜庭さんがガラリと変わったら、こっちも戸惑いますよ。いきなりアローナやランデルマンみたいになってたら困る（笑）。

桜庭 たとえば、ショーグンやシウバが寝技でネチネチやるってことはないじゃないですか？ でも、ああいう打撃のスタイルに関節技を持ってくることはありえるんで、ボクの場合はその逆ですね。寝技にちょっと打撃をプラスしたスタイルを試合でやってみたい。

——寝技で一本極めるよりも打撃でKOしたい欲求も出てくるんじゃないですか？

桜庭 それはないですね。ただ、スパーリングをしてると、クセで顔面を踏んづけたりしちゃいますけどね。相手が四つん這いになってたら蹴り上げちゃう。黙って押さえ込みいってたほうが楽なんですけど、勝手に足が出ちゃう。

——足癖が悪くなって帰ってきた（笑）。

やっぱり環境の問題なんですかね。普段からそういう動きに慣れているか、慣れてないかの違いというか。

SAKU is STARTING OVER



1969年7月17日、秋田県出身。高田道場所属。『PRIDE』戦績24戦17勝7敗。180cm、87kg……は前回の試合軽量時。いまは94～95kｇ。身体つきを見ればあきらかにデカくなっている。試合前日までに93kg以下までギュッと絞るのだ

桜庭 それはあるかもしれないですね。いままでは寝てる人間がいたら、パスするためにジャンプしてたのが、いまは顔を狙っていきますね。顔を狙っていった上で、うまくいけばパスできるといいなって。

——欲張りすぎですよ（笑）。シュートボクセではそうやって顔を蹴り上げる練習を普通にやってる。そんな練習を見てたら、「こういう練習をやってる連中相手じゃ、やっぱり日本人ではかなわないなぁ」という感覚は芽生えませんでした？

桜庭 いや、ぜんぜん！

——おお、やっぱり桜庭和志は頼もしい！ 日本でもそういう練習をやったほうがいいという感覚はありませんか？

桜庭 すこしはやったほうがいいと思いますけど、すべてがいいとは限らないですから。だって「右のパンチ出しながら、右のキックを出せ！」とか言われるんですよ！

——右のパンチ出しながら、右のキックを出す！ それって、シュートボクセの選手はみんなできるんですか？

桜庭 いや。できてない（笑）。

——それは無茶ですね。コーチ陣はそんな無茶なハードルをつくって、それを乗り越えさせるのがうまいんですか？

桜庭 いや、そこはやる側の意識の問題。やっぱり強い人は毎日練習してるし。

——桜庭さんもブラジルに行ってまで強くなろうとしてるんですから、右のパンチと右のキックを同時に出せるようになって、新たな桜庭時代をもう一度築いてほしいですね。

桜庭 ……難しいなぁ。っていうか、めんどくさい！

——いまやってる取材とか（笑）。でも、これだけは聞きたいんですけど、試合をすることはめんどくさくないですよね？

桜庭 そうですね。試合は楽しいけど、ほかに付属するのがめんどくさい！

——めんどくさくてスイマセン！（笑）。いまは、あくまでも試合と練習だけやっているのが理想だと。

桜庭 それが最高です！

——自分を見つめ直す時期だということなんでしょうね。でも、桜庭さんの場合、試合と練習だけやっていたらそのうち絶対に飽きると思いますけどね（笑）。

桜庭 ……飽きたら、またブラジルに〝家出〟します（ニコニコ）。

——では、10・23での〝スターティング・オーバー〟、新たなる桜庭和志を心の底から期待してます！

【05年10月6日／高田道場にて収録】

シュートボクセ会長が語る

サクinブラジル

フジマール・フェデリゴ会長



できれば、シュートボクセ・サクラバ道場を作りたいと思ってるんだ（ニッコリ）

10・23『PRIDE.30』でのケン・シャムロック戦が決定している桜庭和志。シュートボクセ・アカデミーでの特訓を経て"新生"桜庭スタイルが見られるのか？　はたして桜庭のブラジル修行とはどんなものだったのか？　フジマール会長とニーノが語る、サクinブラジル!!

聞き手／松澤チョロ
写真提供／"ブッカーK"川﨑浩市

——今回はフジマール会長に、桜庭さんのシュートボクセ・アカデミーでの特訓の様子を聞かせてもらえればと思っています。

フジマール　昨日の『武士道』ではウチの選手は結果が出せなくて、残念なんだけど、私の〝息子〟のサクラバについてだったらなんでも話すよ（ニッコリ）。

——いつの間にか桜庭さんはフジマール会長の息子になってましたか（笑）。

フジマール　そうなんだ。サクラバがブラジルに来たばっかりのときに「今日からキミはボクのブラジルの息子だ」って冗談で言ったら、最初はちょっと戸惑ってたけど、2日後にはオッケーしてくれたよ（笑）。

——それはそれは、おめでとうございます（笑）。

フジマール　今回の『武士道』は息子をブラジルに残してきたんで、心配だったから何回か電話して話したりしてたんだ。

——今回、桜庭さんをシュートボクセに迎え入れたわけですけど、以前は桜庭さんとは、どういった関係だったんですか？　セコンドとして対戦相手側にいるシチュエーションが多かったと思うんですが。

フジマール　そうだね。大会や会見のときに会って挨拶を交わすぐらいで、長い時間話をするということはなかったけど、いい人だなっていうのはわかっていたよ。もちろん、技術的にも素晴らしいものを持っている選手だと思っていたんで、前から何度か「（シュートボクセのジムがある）クリチバに来てください」と言ってたんです。

——そういう経緯があったんですか。今回の桜庭さんのシュートボクセ修行は、どちらサイドからの話になるんですか？

フジマール　どちらからというよりも、お互いにタイミングがちょうど良かったんだと思う。私たちもサクラバに来てほしかったっていうのもあったし、サクラバのほうも

そういう気持ちがあったんだと思う。今回のチャンスを与えてくれたのはカワサキ（同席したブッカーKにウインクして）だと思います（笑）。

——ブッカーKのブッキングだったわけですか（笑）。

ブッカーK　いやいや、ボクは間に入っただけだから。基本的にはDSEのほうから、桜庭選手を再生させるというか、リフレッシュさせるためにシュートボクセに行って練習するのがいいんじゃないかって話になってね。ただ、今後も対戦の可能性もあるだろうし、そういうのを考えるとどうなんだろうかっていうのもあったけどね。

——一緒に練習してしまうと、闘いづらいってよく言いますからね。しかも、シュートボクセには桜庭さんの永遠のライバルで



シュートボクセ・アカデミーのド真ん中で柔術衣を着て練習に励む桜庭（下は高橋）。ブラジル滞在中、ほとんど休みなく練習三昧だったという桜庭。唯一の楽しみはトレーニング終わりで食べるシュラスコだったという

もあるシウバもいるわけですし。

ブッカーK　そうそう。シウバに限らず、今後も十分に闘う可能性があるわけだから。ただ、フジマールさんは、そういう部分でも心広く受け入れるという部分があって。先々また試合があるかもしれないけど、全体的に『PRIDE』のことを考えてフジマールさんはウェルカムって言ってくれるんじゃないかなって思って伝えたんだよね。

フジマール　私もサクラバは好きなファイターの一人だし、『PRIDE』のこれからを考えたら、今回の技術交流は必ず意義のあるものになると思ったんだ。だから、迷わず受け入れることにしたんだよ。

——フジマール会長はそういう考えだったとしても、選手の中には、これまで対戦相手として反対側のコーナーにいた桜庭さんを受け入れることに関して抵抗もあった人もいたんじゃないですか？

フジマール　いや、それはなかったね。基本的にシュートボクセの選手はサクラバのファンが多いんだ。それにじつは私の奥さんも彼のファンなんだよ（笑）

——そうなんですか（笑）。

フジマール　さっきも言ったけど、これが2〜3年前だったら、少し抵抗もあったのかもしれないけど、そういう意味ではホントにタイミングが良かったんだろうし、プラスマイナスで考えたら、プラスのほうが大きいと思ったから私は喜んで受け入れたんだ。実際、サクラバがいたのは短期間だったけど、我々に

サクラバがいたのは短期間だったけど、我々にとって大きなプラスになったよ

とって大きなプラスになったよ。

——桜庭さんは打撃を総合に融合させたシュートボクセの技術を習得したいっていう気持ちもあったでしょうし、会長的にも桜庭さんの技術を吸収したいという狙いがあって、利害が一致したわけですね。

フジマール　そうだね。具体的に言うと、ウチのジムにも、ここにいるニーノ（・〝エルビス〟・シェンブリ）のように柔術のトップクラスの選手は多いけど、サクラバはそういった選手とは、また違ったグラウンドテクニックを持っているので、それを学ばせてもらいたいと思っていたんだ。

——桜庭さんのグラウンドテクニックは柔術スタイルとも、また違うところがありますからね。

フジマール　それもあるし、柔術系の選手でも、人それぞれ微妙にスタイルは違うから、いろんな選手とトレーニングできる環境というのはサクラバにとってもプラスになっただろうし、いいチャンスでもあったと思う。

——たしかに、シュートボクセには、たくさんのプロ選手がいますから、いろんなタイプの選手と練習できるんでしょうね。

フジマール　そうだね。シュートボクセには、それぞれの階級のプロのファイターがいるし、彼らとのトレーニングがサクラバにとって凄くいい経験になったと思うよ。

ブッカーK　去年は同じ高田道場の高橋（渉）君がシュートボクセに来て練習して、あのときはホントは高田さんとかがブラジルに視察に行くだけの予定だったんだけど、「せっかく行くんだったら練習をさせたい」って相談があったんで、あのときもフジマールに頼んだんですよ。当の本人にはそれを伝えないで連れて行かれたんですけどね。で、ボクのほうからDSEさんに折角向こうに連れて行くんなら、フジマールのプロモートしている『MECAVALETUDO』っていう大会があるんで、それに出したらどうですかって話をして、同時にフジマールさんにも、もう1試合追加できるかって頼んだんです。で、試合後、高橋君は我々と同じバスで帰ろうとしたところを高田さんから「この後はシュートボクセでしばらく練習させてもらって帰ってこい」と……。

——心の準備もなく、シュートボクセで修行をすることになったわけですね（笑）。

フジマール　タカハシは、ウチのジムの選手からも気に入られているし、もちろん、ファイターとしても可能性がある選手だし、できれば、このままブラジルに移住してもらいたいぐらいだよ。タカダさんにオッケーかどうか聞いてもらえないか？　ちょっと、それは勇気がいるなぁ（笑）。

——ボ、ボクがですか？（笑）。

フジマール　彼はまだ年齢的にも若いし、打撃もスタミナ面も、我々シュートボクセから吸収して自分のものにしてるんで、次の試合が楽しみだね。それと、このあいだサクラバと話をして、まだ全然確定ではないんだけど、できればサクラバ道場をクリチバでやりたいという話をしたんだよ。

——シュートボクセ・サクラバ道場⁉

フジマール　そうだね（笑）。ちょうど、いい空きスペースもあったんで、そこでやってもらえたらいいねって話をしたんだ。これもタカダさんに聞いてみないとどうなるかわからないけどね（笑）。

——それを伝えるのはボクには荷が重すぎます（笑）。

フジマール　じゃあ、タイミングを見て私のほうから話してみるよ（笑）。

——桜庭さんは『武士道』参戦直前のダニエル・アカーシオ選手と主に練習をしていたみたいですが、他にはどういった選手と

SAKU IN BRAZIL

トレーニングをしていたんですか？

フジマール　だいたい、全員と練習していたよ。よくやっていたのは、アカーシオ、ニーノ、ルイス・アゼレード、クリスチアーノ・マルセーロ、コーチのラファエル、あとはマーロン。彼らとの練習が多かったと思う。

――期間的には、それほど長くはないんですけど、この期間の中で桜庭さんが一番変わったところは、どういった点ですか？

フジマール　一番変わったところは、スタミナ面だと思う。あとスタンドに関して言えば、構え方だね。具体的に言うと、これまで以上に、しっかりガードできるようになっている。そこが前とは全然違うと感じるだろうね。彼は凄く才能がある選手なので、吸収するのがとても早いし、これからもっと時間があれば、彼のスタイルにシュートボクセスタイルを取り入れた新しいスタイルの闘いを見せてくれると思うよ。

――ほぉ！　早く桜庭さんの試合が見たくなってきましたね。

フジマール　私も一緒だよ（ニッコリ）。サクラバは、とても謙虚な人で、生徒の立場でありながら、彼の持っているモノを私たちに教えてくれたりと、いろいろと感動させられっぱなしだったよ。

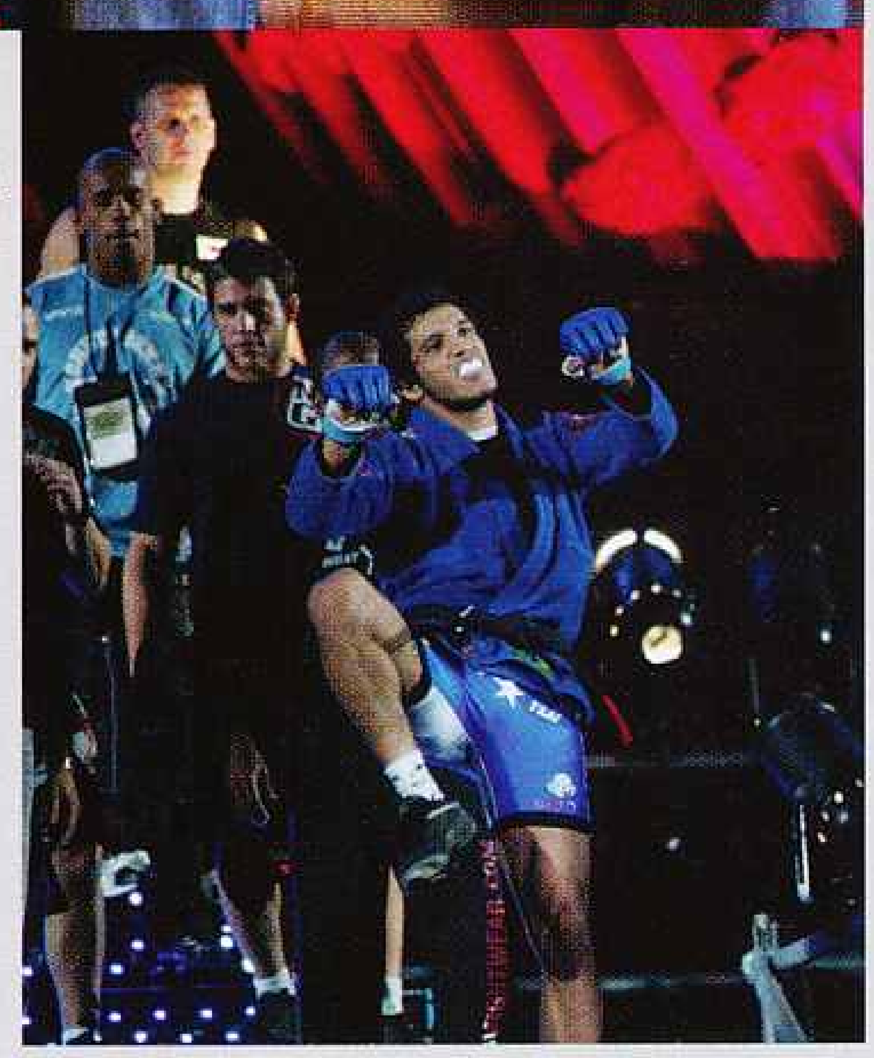
――先ほど、スタミナ面が強化されたと、おっしゃってましたけど、年齢的なものは、それほど問題はないという感じでしょうか？

フジマール　まったく問題ないよ。彼のファイター人生はこれから先まだまだ長いと私は思う。ブラジルでのトレーニングメニューは、ウエイトトレーニングをやったり、水泳をやったりして、午前中と夕方の一日に2回のトレーニングを毎日やっていたんだ。そのハードな練習も一度も欠席することはなかったし、これからも長年試合をやり続けることは十分可能だと思うよ。

――毎日練習って、一日も休みはなかったんですか？

サクラバとニーノのスパーリングは お金を払いたくなるほど素晴らしかったよ





突如、プロレスデビューを表明（？）したニーノ。大好きなエルビスキャラでハッスル登場なるか？　さらに同門のアゼレードにプロレス経験があったことが発覚。シュートボクセから初のタッグチーム誕生なるか？　やっぱり高田モンスター軍!?

フジマール　シュートボクセでは週末とかまったく関係なく、月曜日から日曜日まで毎日トレーニングをしているんだ。それが普通になってるからね。

――最初から休みはないんですね（笑）。

フジマール　そういうことになるね（笑）。サクラバもブラジルに着いたその日からトレーニングを始めていたからね。

――着いたその日からですか!?　でも、ブラジルというと、キレイな女性も多いし、何かと誘惑も多いと聞くんですが、何かバカンス的なものを楽しんだりという機会はなかったんですか。

フジマール　バカンスを楽しむ暇なんて一切なかったよ。サクラバはホテルからジムに来て、あとは水泳をしに行ったり、それぐらいしかしてないはずだよ。ただ、シュラスコが気に入って、練習が終わったらしょうちゅう食べに行ってたけどね（笑）。バカンスといったらそれぐらいかな。

――シュラスコが唯一のバカンスだったと（笑）。それと、小耳に挟んだのが、桜庭さんをホテルからジムまで車で送迎していたのがアカーシオ選手だったと聞いたんですけど。

フジマール　ハッハッハッハッ！　それはホントだよ。アカーシオにとって初めての車で、まだ免許も取り立てでだったんで、サクラバも乗ってて怖かったって言ってたね。アカーシオはギアチェンジしないから「ギアをチェンジ、チェンジ」って言われたみたいだよ（笑）。（※ブラジルではマニュアル車が普通）だから、その後は自分の車をサクラバに貸して乗ってもらってたんだ。

――そんなことがありましたか（笑）。

フジマール　「もう、アカーシオの車には乗りたくない」って言ってたからね（笑）。でも、サクラバさんには今後もシュートボクセに練習に来てもらいたいし、逆にシュートボクセの選手も高田道場で練習したりと、そういった形で提携できれば最高だね。次の機会にでもタカダさんと具体的にそういう話をできればと考えているんだ。

――それは十分可能性があると思います。

フジマール　あと、ウチのジムでは練習を始めるときに「ヴァモス・チメ！」ってかけ声をかけるんだけど、サクラバも少しずつポルトガル語を覚えてきて、そのかけ声を自分からかけるようになったんだよ。

――他には何か覚えたポルトガル語はあるんですか？

フジマール　あとは「カンサード」っていう日本語で「疲れた」っていう意味の言葉もしょっちゅう言ってたよ（笑）。

――ホントに「カンサード」なトレーニングを続けてたんでしょうね（笑）。

フジマール　たぶんブラジル滞在中、「カンサード」って言葉を一番多く発していたと思う（笑）。

――来日した外国人選手は、よく関係者からへんな日本語を教えられるって話を聞きますけど、桜庭さんにへんなポルトガル語を教えたりする選手はいなかったんですか？

フジマール　全員だよ（笑）。ブラジルでも日本と同じように、みんなへんな言葉しか教えてないと思うよ（笑）。

――それは万国共通なんですね（笑）。先ほど、髙田道場と提携できれば、みたいな話をしてましたが、髙田さんも桜庭さんも、お酒を飲むとかなり凄いという評判ですけど、シュートボクセ勢と髙田道場勢で飲み会みたいなことをされたことはあるんですか？

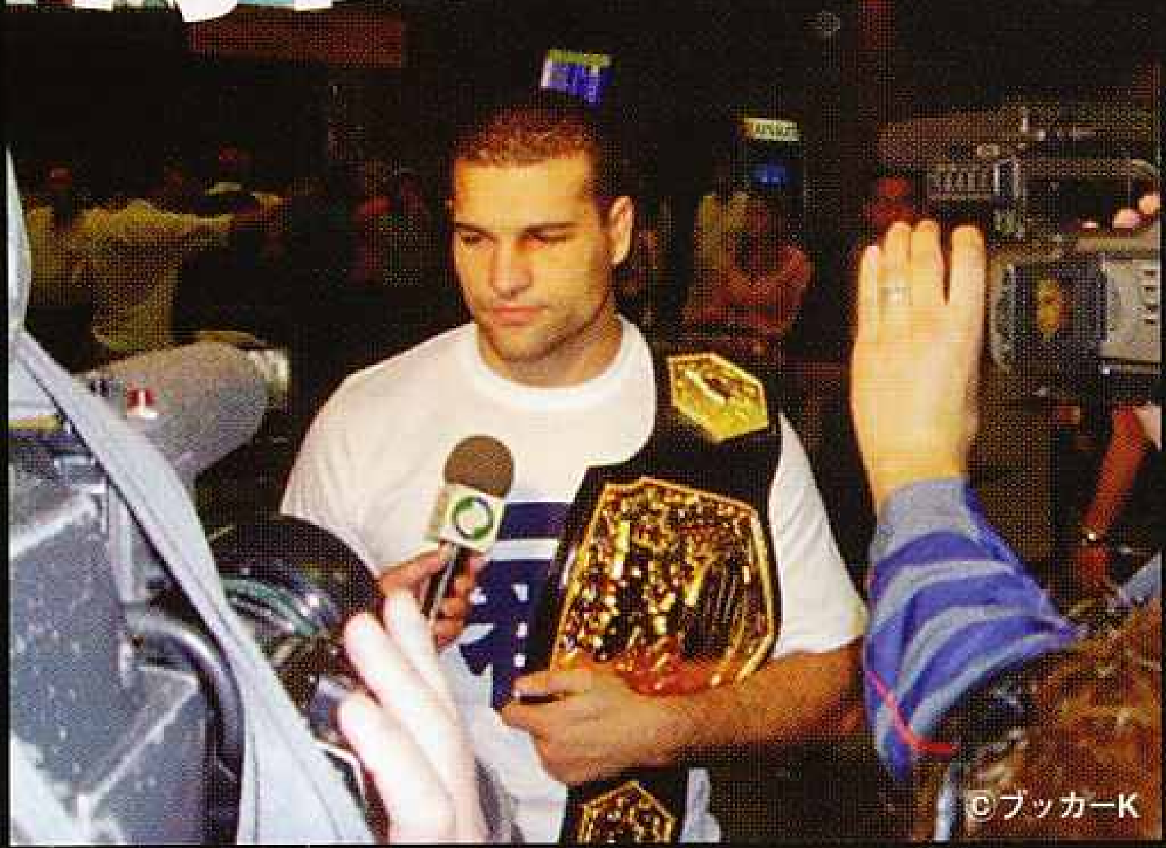
フジマール　残念ながらまだないね。でも、基本的にウチのジムのファイターはアルコールを飲む選手がほとんどいないんだ。

――そうなんですか。それは残念というか、ホッとしたというか（笑）。髙田さんと桜庭さんといえば、「モンゴリアンチョップ」というジンギスカン屋を共同プロデュースしているんですけど、次に日本に来たときにはゼヒ、シュートボクセ勢も食べに行ってもらいたいですね。

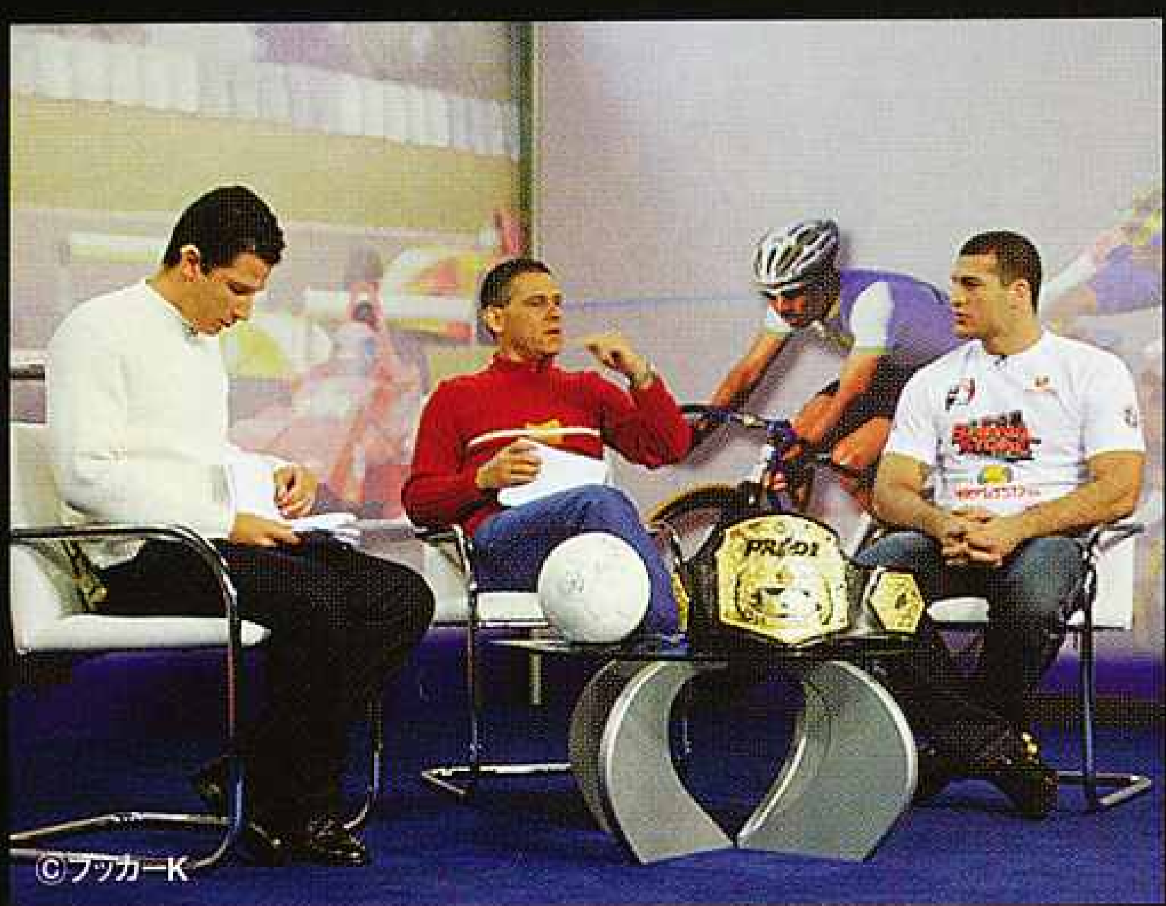
フジマール　機会があったら行ってみたい

PRIDEミドル級GP王者

ショーグンの母国凱旋!!



見事、PRIDEミドル級ＧＰを制したマウリシオ・ショーグンが母国ブラジルへベルトを手に帰国すると、空港には祝福するファンが多数詰めかけた



帰国後はテレビ、ラジオに引っ張りだこ状態のショーグン。宿敵ＢＴＴのアローナを破っての優勝だけに、ブラジルでの知名度も一気に急上昇！



若き王者とその仲間たち。今回は実現しなかったがシウバとの同門対決が実現する日は来るのか？　そしてショーリンのデビュー戦はいつになる？

ね。でも、ニーノはもの凄くたくさん食べるけど大丈夫ですか？（笑）。

——エッ、見かけによらず、ニーノ選手は大食いなんですか？

ニーノ　まかせてくれよ。シュートボクセの中では自分が一番食べると思う（笑）。

ブッカーK　（同席したニーノに向かって）そういえば、ニーノは桜庭さんと闘う前は、凄い桜庭ファンだったんだよね？

ニーノ　いまでも大ファンだよ（ニッコリ）。

——あ、いまでもファンでしたか（笑）。

ニーノ　一緒に写真も撮ってもらったしね（嬉しそうに）。

——ニーノ選手は桜庭さんと二度対戦してるわけですけど、一緒に練習してみて印象が変わったところってあります？

ニーノ　テクニックはもちろんだけど、サクラバは凄くプロフェッショナルだな、とあらためて感じたよ。

——プロ意識を学んだわけですね。

ニーノ　凄く勉強になったね。それに今回、サクラバはシュートボクセの一生徒という立場でトレーニングに参加したんだけど、日本ではスーパースターなのに、とても謙虚で、ボクをはじめ、みんなと一緒にトレーニングしてくれたのは驚いたよ。

——桜庭さんは柔術衣を着て柔術の練習もされていたみたいですけど、寝技のスペシャリストのニーノ選手から見て、桜庭さんの柔術テクはどう感じました？

ニーノ　やっぱり素晴らしいものを持っていたね。世界でもトップレベルの技術を持っていると思う。打撃なしでボクと闘ったら最高の試合が見せられると思うよ。

——その試合は見たいですね。

フジマール　ホントにサクラバとニーノのスパーリングは見てるだけでエキサイトできる内容なんだ。ゼヒ、『ＰＲＩＤＥ』のファンにも見てもらいたいね。

——お金を取れるぐらいのスパーリングをバンバンやっていたわけですね。

フジマール　私でも払いたくなるほど素晴らしい試合だったよ（笑）。

——でも、さすがに一緒に練習をするとニーノ選手に限らず、今後『ＰＲＩＤＥ』のリングで桜庭さんと闘うというのは難しくなるんじゃないですか？

フジマール　そうだね。エキシビジョンなら可能だろうけど。

ニーノ　（日本語で）「プロレス」でやりたい！（笑）。

——アハハハハ！　それはいいアイディアですね（笑）。

ニーノ　（真顔で）どこかで組んでもらえないですかね。

——ニーノ選手はエルビスキャラもできますし、プロレスもありかもしれませんね。

ニーノ　それができたら最高だね（ニッコリ）。

——髙田さんの古くからの友人の髙田総統に頼むのもいいかもしれませんね（笑）。

ニーノ　それはいいね。ハッスル！　ハッスル!!（腰を振りながら）

——バッチリじゃないですか！（笑）。

ニーノ　もしハッスルに出れるんだったら、チキンともやりたいね。

——チキンって、もしかして？

ニーノ　オガワ！（笑）。

——アハハハ！　じゃあ、モンスター軍で決まりですね。でも、フジマール会長的に、シュートボクセの選手がプロレスをやりたいって言ったらどうされるんですか？

フジマール　なるべく本人の希望にそうようにやらせてあげたいと思ってるよ。（ルイス・）アゼレードもブラジルで少しプロレスをやったことがあるんだ。

——エッ、それは初耳です！　たしかにアゼレード選手はパフォーマンスとか、かなり好きそうな感じはしましたけど。

フジマール　ブラジルではプロレスはそんなに盛んじゃないけど、サンパウロでたまにやったりしてるんだ。

——じゃあ、ニーノ&アゼレード組でシュートボクセ初のタッグチームとしてプロレス界に殴り込みますか？

ニーノ　それができたら最高だね！　昨日もホテルに帰ってきたらプロレスをやってたんで、ずっと見てたんだよ。

——『武士道』の翌日の深夜というと……あ、ＮＯＡＨ中継ですね。

ニーノ　そうそう、ＮＯＡＨっていう団体の試合だった。『武士道』を見てエキサイトして、夜はＮＯＡＨを見て、またエキサイトしてしまったよ（嬉しそうに）。

——まあ、ＤＳＥ的にはＮＯＡＨに出場するよりはハッスルに出てもらったほうがいいでしょうし、ここは髙田総統のビターンを受けてもらうしかないですね（笑）。

ニーノ　ビ、ビターン？　ちょっと、それは知らないけど、ボクはなんでもやるよ！

——フジマール会長、ニーノ選手はそう言ってますけど、いかがでしょうか？（笑）。

フジマール　タカダさんにお願いしてみましょう！（ニッコリ）。

【9月26日／都内ホテルにて収録】



仰天写真GET!!
ボクらが失った“格闘ファンタジー”がここにある!

戦闘竜vs.ズルジーニョも見たいが……

ズール親父が猛烈に見たい!!

提供/“ブッカーK”川崎浩市
撮影/Luca Atalla/Gracie Magazine
構成/ジャン斉藤
designed by matsu (TwoThree)

10・23『PRIDE・30』で戦闘竜と対戦する“伝説の魔神ズールの息子”ズルジーニョ(正式リングネームはズール)。

その“未知の強豪”の写真を“ブッカーK”こと川崎浩市氏から提供してもらったが、一緒に添付されていたズール親父の写真があまりにも素晴らしいのでカラーでお届け!! ごらんいただければ一目瞭然だが、もう問答無用の“格闘ファンタジー”爆発! アウトドア・トレーニングはあの美濃輪を超える“ヘブン”ぶりなのだ。

“ヒクソンを最も苦しめた男”として知られるズールは、現在60歳という高齢でありながら、なんといまだに現役選手としてVTで活躍している。見てみぃ、この歳でマスカラスばりにビルドアップされた身体、カール・ゴッチのように“人を殺す練習をしている”その姿勢、ボボ・ブラジルのような圧倒的存在感——我々はこのような偉大な戦士をかつては“プロレスラー”と呼び、そして“男”として崇めていた。ズルジーニョも見たいが、ズール親父のほうが猛烈に見たいよ!

このズール親父が『PRIDE・30』で息子のセコンドとして来日するかどうかは不明だが、そんな“男”にはぜひ“男の中の男”が立つリング、『PRIDE男祭り』に上がってもらいたい。ぜひ!

え? ムチャだって? やる前から負けること考える馬鹿いるかよ! 相手はもちろん美濃輪育久、もうやるしかない!!

科学トレーニングなんかクソ喰らえ!! これがズール親父の怒濤の練習風景だ!



犬が駆け回り、洗濯物が干されたのどかな庭で巨大なタイヤを引っ張り足腰強化! 60歳を過ぎてこんな原始的な練習をしているのは世界でズール親父だけだよ!!



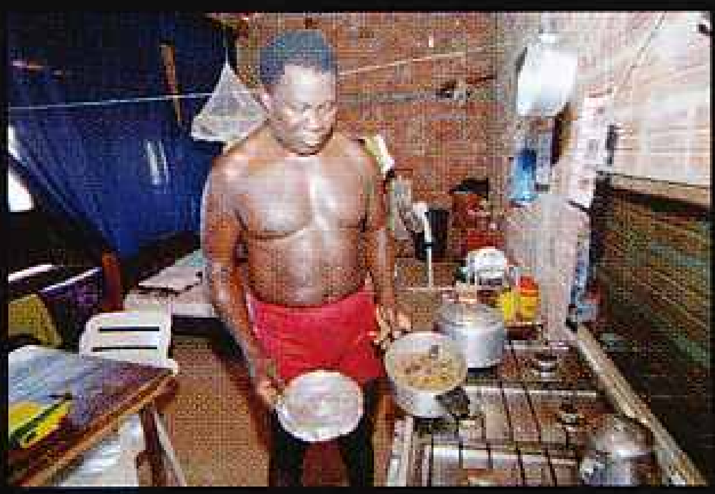
巨大タイヤ引き・その2。なんてこったい! ガチョウやニワトリの集団が邪魔で前に進めない!! おそらく予測不能の対応術もこのトレーニングには含まれているのだ



オーディエンスのガチョウや犬が見守る中、息子のズルジーニョとにらみ合いの臨戦態勢! 息子よりもビルドアップされた肉体が日頃の鍛錬をよく表わしている



家の中で丸石をビュンビュンを振り回すズール親父。家の中で行なう必然性が見当たらないが、これは昭和・新日本名物のコシティ特訓みたいなもんなんだろう、きっと



腹が減っては戦はできぬ! とばかりに自ら鍋を振るうズール親父。他人に食事管理され“野生さ”を失った現代格闘技社会に警鐘を鳴らす光景とは言い過ぎか? (言い過ぎ)



自宅前で力強くファイティング・ポーズ! うしろに見えるのはズール親父の奥さんと子どもかな? ズール親父はいまだにVT現役で一家の生計を支えている。絶対にリスペクトだ!



前田さん、船木さんとはU系“2派”として
ライバル関係で競い合えればいいと思う

潔司

ビッグマウスの“UWF構想”に宣戦布告か!?

STARTING OVER U-STYLE

11・23 有明コロシアムで開催決定! U-STYLE Axisとは何か?



田村潔司がついに動き出した! 昨年12月以来、活動休止状態だったU-STYLEを再開。なんと今度はDSEとタッグを組み、『U-STYLE Axis』として、マット界に“U”の存在意義を問うというのだ。その情報をいち早くキャッチした本誌は、さっそく田村を直撃した!

聞き手/堀江ガンツ
助手/松下ミワ
試合写真/菊池茂夫

田村



自信はないけど、"U"を残さなきゃいけないという使命感はあるから

田村　今日はなんで来たの?

—えー、今日はですね、田村潔司がまた何か新たなことを企てているというウワサを耳にしたので……。

田村　アハハハ! ウワサねぇ。

—その真相をたしかめるべく、約束通り19時にジムにやってきたんですけど、見事に2時間たっぷり待たされて、やっといまインタビュー開始となりました。

田村　はっ!? なんで? 約束って21時だったじゃない?

—いえ、僕は19時とうかがってました(冷たく)。

田村　そんなはずないよ! ちょっとヤマちゃん(ジム生の名前)!

ヤマちゃん　(スッ飛んできて)は、はい!

田村　取材、21時からって伝えた?

ヤマちゃん　あの……い、いや……。

田村　伝えたの?

ヤマちゃん　……あ、ちょっとすみません!(逃げるように)。

田村　あっ! 逃げた!!

—とりあえず、2時間待たされた真相は、なんとなくわかりました(笑)。

田村　わかった?(笑)。だから、そういう文句は彼に言って。

—まあ、いいです。それより、11月に何か企んでるんですよね?

田村　企んでるっていうか、う~ん……俺は石橋を叩いて渡るタイプだから本決まりじゃないことはあんまりしゃべりたくないんだよね。記者会見で発表してから来てくれればいいのに(このインタビューは10月10日に行なわれた会見よりも前に収録)。

—いや、締め切りの都合というものがあるもので。それにこのインタビューが掲載されるころには、とっくに発表されてるって聞いてますけど。

田村　誰に聞いてるんだよ、まったく(笑)。じゃあ、会見が行なわれたっていう前提でしゃべるけどさ。まあ、『U-STYLE』をもう一回やろうかなという話なんだけどね。

—おぉ~っ、『U-STYLE』ですか!



10月10日、都内ホテルで開かれた「U-STYLE Axis(アクシス)」旗揚げ会見で、田村は「ビッグマッチということでそれ相当の相手を呼ばないといけないと思ってます」と改めて大物参戦を示唆。11・23有明コロシアムで「キング・オブ・プロレスリング」「他に比類なきプロレス」の実現を目指すという。

田村　わざとらしいな~。

—はい。それは知ってました(笑)。面倒くさいんで、ボクの口から言っちゃいますけど、11月23日に有明コロシアムでやるんですよね?

田村　そこまで知ってるの!? 凄いね! まあ、頑張りますよ。これぐらいでいい?

—いいわけないじゃないですか! ボクが知ってる話以外まだなんにも聞いてませんよ!

田村　アハハハ、そうか(笑)。

—『U-STYLE』は昨年12月から活動休止状態でしたけど、ここに来てなぜ復活させようと思ったんですか?

田村　まあ、俺自身このまま『U-STYLE』をやり続けててもどうなのかな? っていう不安があったし、一度リセットしたいという気持ちはあったのよ。それがここに来て、再出発する機会に巡り会えたというか。まぁ、流れかな。

—リセットして再出発するにも、これまで後楽園ホールやディファ有明など、わりと小規模な会場でやってきた『U-STYLE』が、いきなり有明コロシアムという大会場でやるということは、何かしら目玉や秘策があるってことですよね?

田村　ん~……そうねぇ。だから言っちゃうと、要はこれまでちょっとおつきあいがあるなかで、DSEさんに協力していただくイベントなんですよ。

—えぇ!? 『U-STYLE』とDSEの合同イベントですか!

田村　アハハハ、わざとらしいよ! 合同イベントというよりも、演出面や運営・制作の部分では、これまでDSEさんは『PRIDE』をやってきて一流であるというのを証明してるし、俺もそれは間近で見て知ってるわけでしょ。だから、そういったハード面でDSEさんの力を借りたりノウハウを投入してもらって、ソフト面、つまりマッチメイクなんかは俺がやるという感じですよ。まぁ、ソフト面でもちょっとDSEさんからアイデアをもらったりもするし、選手招聘の部分でも力を借りるかもしれないけどね。

—つまり、田村潔司とDSEのコラボレーション・イベントをやる?

田村　お、いい言葉! コラボレーション! そういうこと。

—DSEは『PRIDE』と『ハッスル』のふたつのイベントをやってますけど、もうひとつ『U-STYLE』という、"U"のプロレスイベントを田村さんとともにスタートさせるって考えていいんですか?

田村　DSEさんからは、そうなるように全面協力します、というありがたいお言葉をいただいてるし、まぁ、そう捉えてもらっていいかな。向こうの本音はどう思ってるか知らないけどね。

—ここまできても、まだそういうヒネくれた発言をしますか(笑)。

田村　でも、あくまでも主催はDEEPの佐伯さんが実行委員長の、"U-STYLE Axis実行委員会"だし、中身はこっちが主導。佐伯さんはDSEさんの広報もなぜか務めてるから、その流れもあって、今回ハード面でDSEさんの力を借りることもできた……ということにしとこう。

載されるころには、とっくに発表されてるって聞いてますけど。

いけないという使命感はあるから



昨年2月の「旗揚げ一周年記念興行（後楽園ホール）」では、元リングス・ジャパン、高阪剛と対戦。15分間動きのとまらぬ至高の攻防に、超満員の観客から惜しみない拍手が送られた。また、田村の表情に注目。こうした感情をあらわにした表現も“U”の魅力のひとつだ。

――しときますか！（笑）。

田村 まぁ、いまの発言は、佐伯さんを立てるほど俺は大人、ということで捉えて。

――はい（笑）。

田村 で、これから『U-STYLE』をどこまで確立できるかっていう不安もあるんだけど、DSEとタッグを組んでやるイベントと、もちろんいままでの自主興行も再開するつもりだから。

――DSEとのコラボ・イベント以外に、U-FILE CAMP主催の『U-STYLE』の大会もやると。

田村 そう。だから的を射てる言い方かはわからないけど、DSEさんの力を借りる大きい大会はイメージとしては1軍という感じ。本当は1軍、2軍という表現はしちゃいけないんだけど、わかりやすくね。で、U-FILEが自主的にやる大会は若手中心の興行で、2軍選手になるのかな。でも、それは1軍につながる大会にしていこうとは思ってるけど。

――じゃあ、これは単発の打ち上げ花火的なイベントではなく、定期的に行なっていく大会になるんですね？

田村 そうしていきたいんだけど、正直言うと11・23の大会次第なのよ。

――あ、いきなり旗揚げで審判を下される可能性もある（笑）。

田村 だから、先のことはまったくわからないけど、計画としてはDSEさんとのイベントは1年間に2回。自主的な大会は中規模なのを年に3～4回。小規模な大会も年に3～4回かな。その3段階ぐらいでやろうかなと思ってるんですよ。

――これまでコツコツやってきた『U-STYLE』をDSEの協力のもと、より大きく展開しようと、そういう話でもあるわけですね？

田村 うん。もっと認知されるきっかけになればね。ただ、DSEさんとはビジネス上ではいいお付き合いをさせてもらってるんだけれども、やっぱりどっかで反骨精神がないとダメかなとも思ってるから、U-FILE主催でやる興行も盛り上げなきゃいけないなと思ってるのよ。有明コロシアム級の選手とディファ有明クラスの選手を比べるのはあれだけど、若手を育てるという意味で中規模や小規模クラスの大会は重要だから。DSEさんとやる大きなイベントとU-FILE主催でやる自主興行的なものが、いい意味で競っていければいいなと。

――でも、総合格闘技が全盛の時代にあって、なおかつその対極にある『ハッスル』みたいなエンターテインメント・プロレスが台頭しているなかで、『U-STYLE』で仕切り直しというのは、なかなか大変な作業だと思いますけど、自信のほどはいかがですか？

田村 自信はね……正直言って、ない！

――ダハハハ！ そんなことを大声で言わないでくださいよ！（笑）。

田村 自信はないんだけど、（U-STYLEを）やらなきゃいけないという、使命感はあるから！ いま、ビッグマウスの上井さんが“U”に近いスタイルの興行をやってるじゃない。だから、いまは“U”が来る時期なのかなっていう気持ちはあるし、ビッグマウスのプロレスとはいい意味でライバル関係を築いていけるかなと思ってるんだけどね。

――ビッグマウスとはライバル関係！

田村 だから、やっぱりひとつが独占するのはよくないからさ。こっちにもあっちにも“U”があるっていう図式のほうが頑張りがいがあるのよ。だから業界的に

ビッグマウス・ラウドとはいい意味でライバル関係を築いていけると思う

言うと、「総合格闘技」「エンターテインメント」「U」の3つが残っていくのかなとね。あとは純プロレスのNOAHかな。

——4本柱のひとつに「U」がなれるんじゃないか、と。

田村 そう言われるように頑張るけど、不安のほうが大きいのはたしかです。

——ビッグマウスで上井さんや前田（日明）さんが目指しているのは〝総合格闘家に負けないプロレスラーの育成〟であり、最低でも〝顔面が腫れるプロレス〟というような表現なんですけど、田村さんも方向性としては同じですか？

田村 いや、ちょっと違うな。たぶん前田さんが言ってる〝顔面が腫れるプロレス〟っていうのは、お客さんに何かを伝えなきゃいけないという意味で表現してることだと思うからさ。実際に顔をバチバチやるんじゃなしに、〝U〟の闘いを通して、お客さんに何が伝えられるかということだと思うから。

——その『U-STYLE』の〝ライバル〟である『ビッグマウス・ラウド』では、先月、船木（誠勝）さんが現役復帰を匂わせるような発言がありましたけど、それについてはどう思いますか？

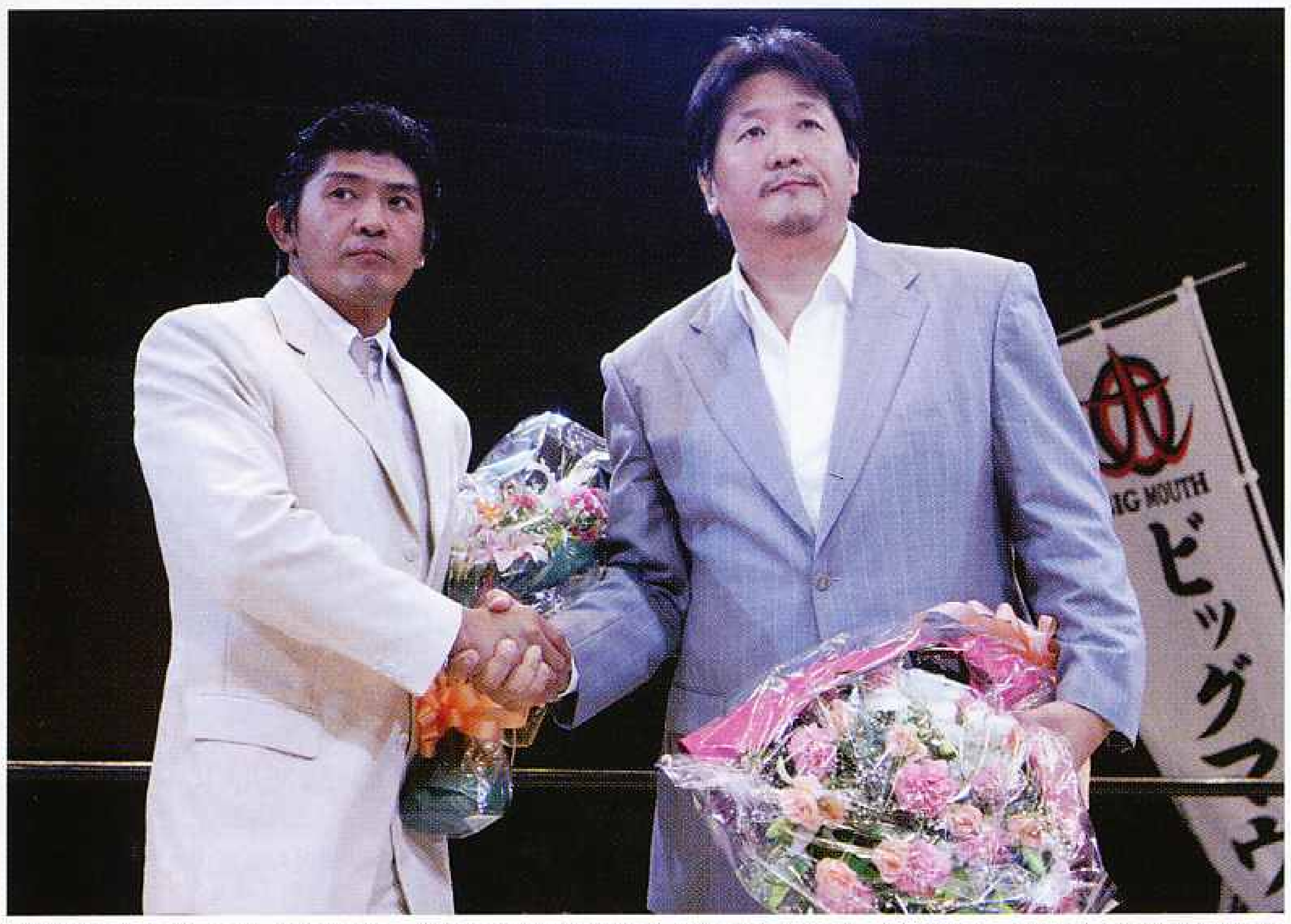
田村 船木さんねぇ……面白いんじゃないの？ 船木さんの性格だと、復活なんてしないんじゃないかと思ってたんだけど、人にはいろんな諸事情があるみたいだからね（笑）。

——まあ、あるんでしょうねぇ（笑）。

田村 なんか船木さんの復帰を反対している人もいるみたいだけど、結局みんなファンなんだから応援するのよ。復帰前に中傷とかいろいろあっても、リングに上がっちゃえば一緒かなとは思うね。

——船木さんがもし復活したら、いやが応にも田村さんと比較されると思いますけど、そのへんはいかがですか？

田村 まあ、船木さんじゃなくても誰かしら比較はされてると思うからべつに気にしてないけどね。



前田と船木がガッチリと手を組み、"第3次UWF構想"とも言われるビッグマウス・ラウド。前田&船木派と田村派があらたなる"U系2派"の対立概念となるのか？

——でもへんな話、上井さんはかねてから「田村さんを上げたい」って言ってましたけど、DSEとの話がまとまる前に、ビッグマウス方面からお誘いがあったりとかはなかったんですか？

田村 誘われてるのはいまでも誘われてるけど。

——え!? やっぱりあるんですか！

田村 でも、向こうは向こうで気を遣ってくれてる部分もあるみたいなんだよね。だって、直接俺に話がきてるわけじゃないからさ。

——田村さん自身は、前田さんとお会いしたりはしないんですか？

田村 前田さんとは会ってないねぇ。ま、会ったとしても何も言えないけどさ（笑）。

——わかりました（笑）。では、大会の話に戻りますけど、大会の正式名称である『U-STYLE Axis（アクシス）』。この、〝Axis〟と付けたのはどういった理由からなんですか？

田村 辞書で調べたら出てきたの。ただそれだけ。あとは企業秘密。

——どんな企業秘密なんですか！（笑）。

田村 〝Axis〟は「軸」って意味なの！ だから『U-STYLE』のあとにつけるといいなと思ってさ。文句ある？

——いや、文句はないですけど、それは〝Uスタイル〟の「軸」はこっちだという挑戦的な意味合いも含んだ意味だったりするんですか？

田村 意味は……とくにない！

——とくにないって（笑）。

田村 でもさ、センスあるネーミングでしょ。

——諸事情により、あっという間に消えた〝UWF JAPAN〟というのもありましたけど（笑）。

田村 あ、それは佐伯さんがつけた名前だから。

——すぐ消えるのは佐伯さん命名だと（笑）。まぁ、名前の話はいいとして。いまのマット界の風潮で言うと、『PRIDE』みたいなものがある中で、UWFスタイルのような〝格闘プロレス〟は過去のものだって言う人はここ数年でさらに増えてるじゃないですか。それでも、やっぱり田村潔司はそういう流れに反発したい？

田村 反発じゃないけど、『U-STYLE』って見て余韻を楽しめるようなスタイルだと思うから、ビッグマウスのプロレスと切磋琢磨していけば、なんとかなるんじゃないかなっていう。

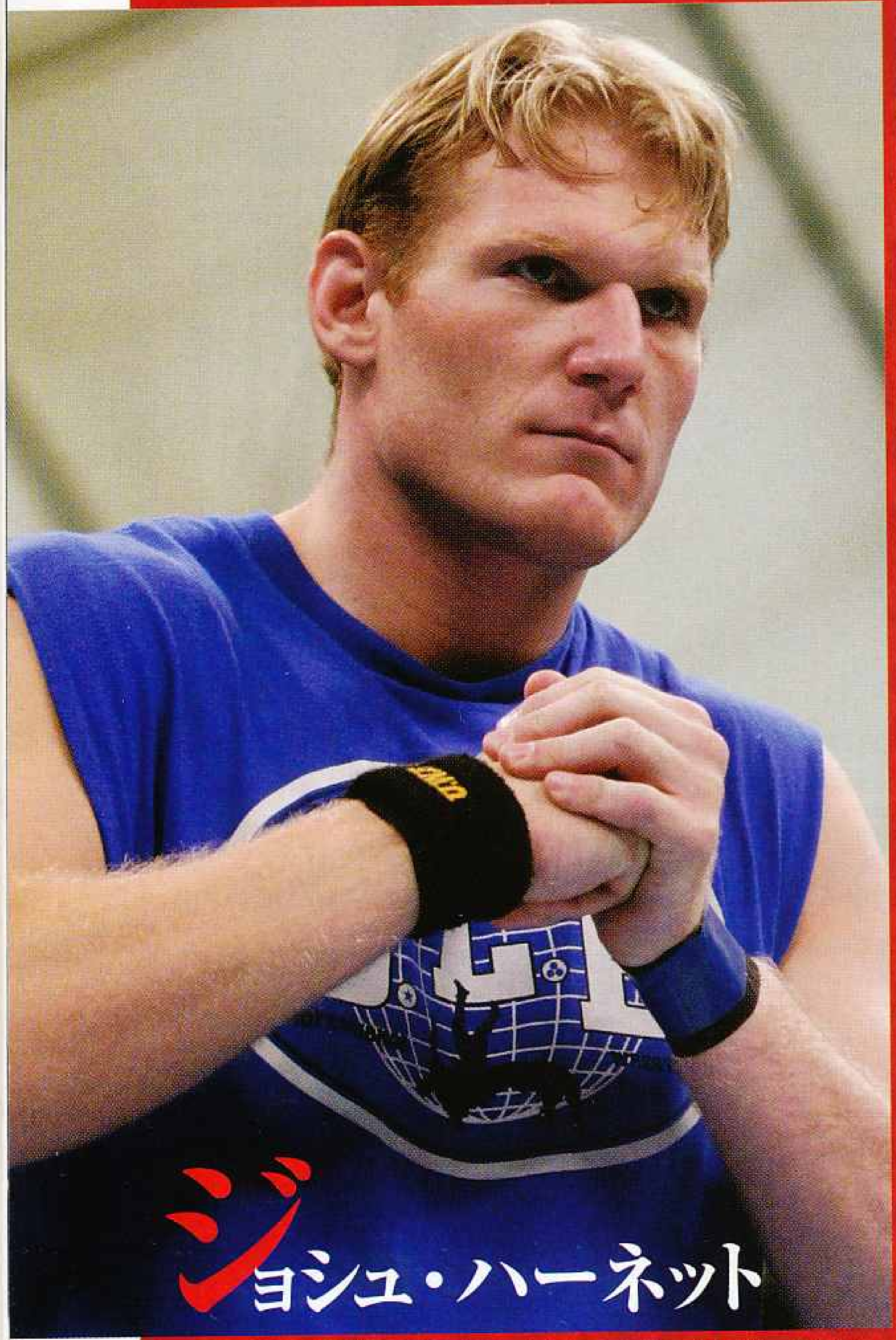
——さっきから〝向こうには負けない〟という自信が何気に漂ってきてますね（笑）。

田村 いや、自信はないって言ってるじゃん。要は『U-STYLE』の見方や面白さを、どうお客さんに伝えられるかだと思うから。『ハッスル』だって、最初は苦戦してたけど、やり続けることでお客さんが『ハッスル』の見方をわかってきたじゃない。それと同じだよね。

——総合格闘技とも、純プロレスとも違う、『U-STYLE』独自の見方や面白さを伝えていくことが必要だと。

田村 そうだね。一人でも多くのお客さん

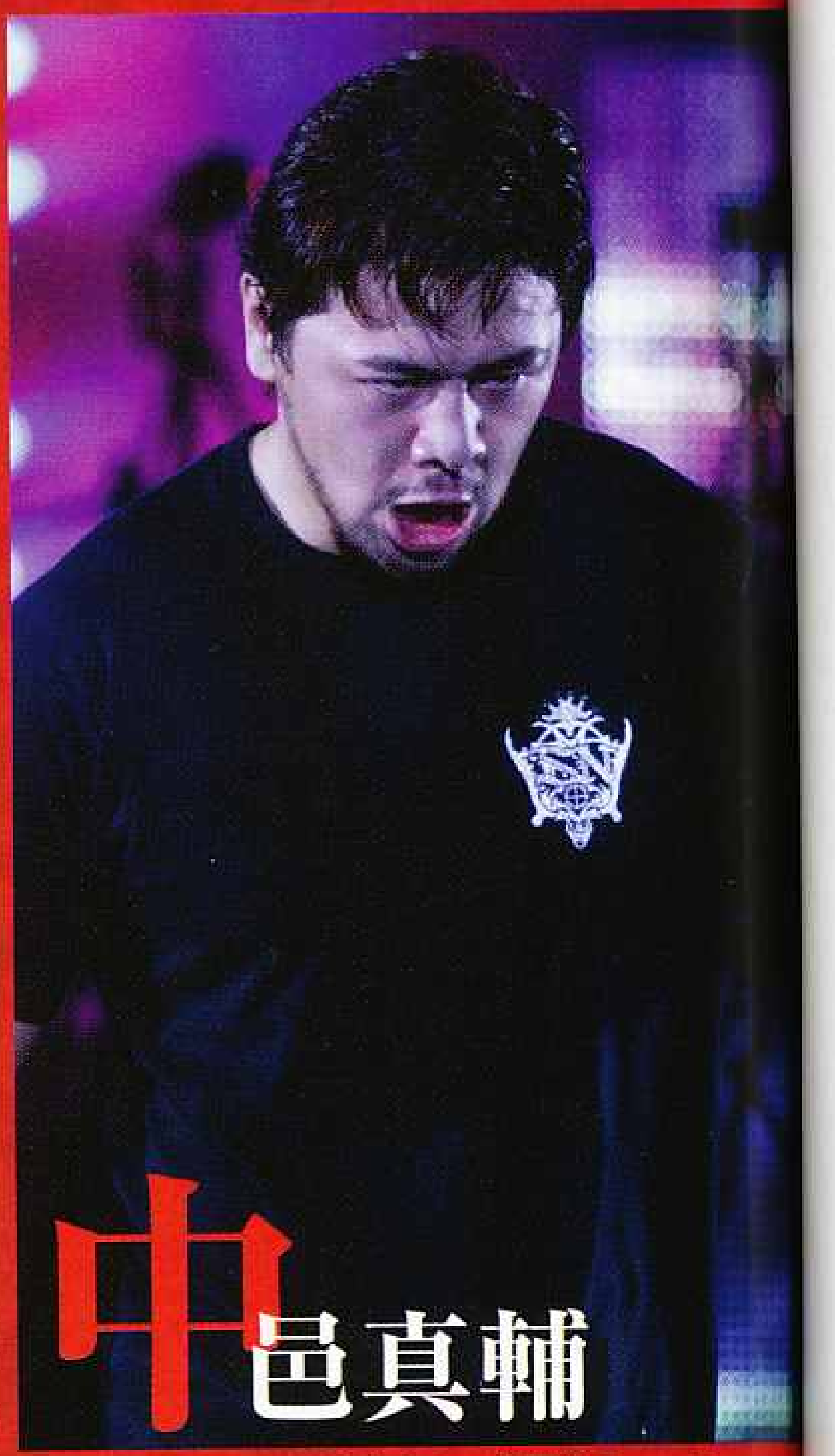
11・23
有明コロシアム U-STLE Axis
出場予想&希望メンバー



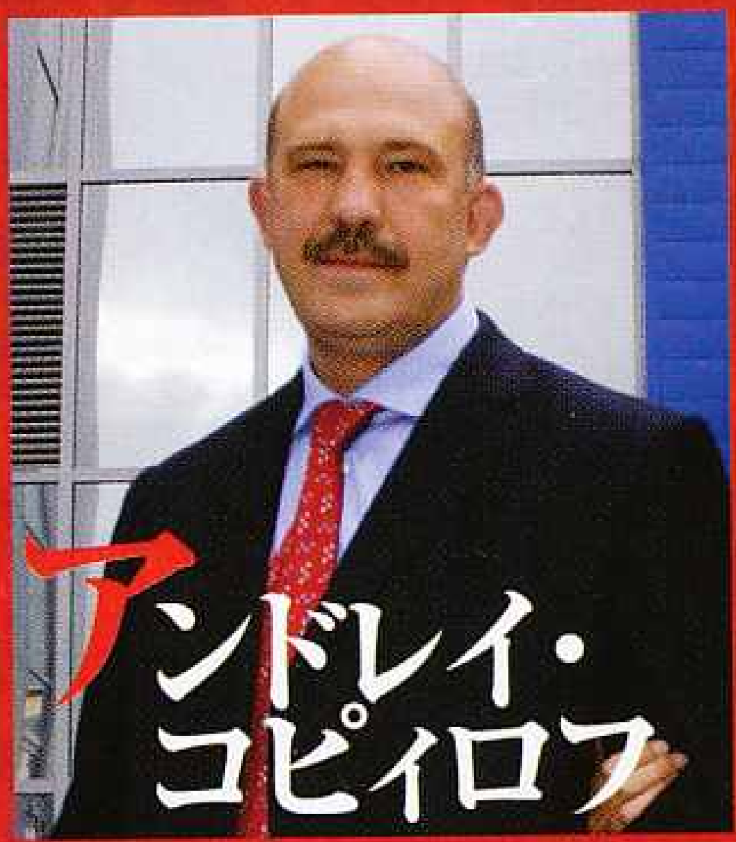
誰もが認める格闘技の実力があり、なおかつプロレス心もあり、なんといってもUWFへの思い入れを誰よりも持つジョシュは、まさにU－STYLEにうってつけの人材。11・23有コロでは、田村潔司と夢の対決が実現か？



UWF（リングス）スタイルの"リビング・レジェンド"と言えば、もちろん我らがヴォルク・ハン。ブランクがあるので体調面の不安はあるが、ファンなら来日しただけで涙ものだろう。



新日本にオファーを出すなら、新世代のエース、中邑真輔が面白い。もし田村戦が実現すれば、その潜在能力を爆発させる可能性もあるだろう。



リングスと言えば、忘れちゃいけないのがコピィロフおじさん。その寝技のレパートリーは5000の技を持つと言われる。



田村と『リングス・メガバトル・トーナメント』決勝を争ったこともあるミーシャの実力は本物。早くも出場当確か!?



DSEと結びつきが強い川田の出場も濃厚。かつてUインター神宮球場に出場して以来の"U"でどんな闘いをみせるか？



田村のデビュー戦の相手でもある鈴木。船木がビッグマウスの中心人物になったいま、逆に鈴木はU－STYLEということも考えられる。



"前田に喧嘩を売った男"永田は、かつて新日vsUインター対抗戦で、桜庭&金原と伝説の名勝負を展開しただけに、新日本でもっともU－STYLEに向いている男と関係者の評価は高い。

やりたいのは船木さんぐらい。俺に興味を抱かせる人が現れてほしい

に楽しんでほしい。

――田村さん自身は、有明コロシアムでは誰と闘いたいと思ってるんですか？

田村　う〜ん、それがいないんだよね。それも悩み。俺、好き嫌いが激しいからさ、コイツはちょっと違うなっていう選手とはやりたくないから。まあ船木さんが復帰したら船木さんとはやりたいけど、それが実現する可能性は皆無に等しいしね。

――興味っていう点では、何かないんですか？

田村　興味ある選手は……とくにないね。偉そうな言い方になるかもしれないけど、逆に俺に興味を持たせるような選手に出てきてほしいね。

――なるほど。では、現時点で『U―STYLE　Axis』のリングに上がる候補の選手は決まってるんですか？

田村　それはね、上山龍紀でしょ、佐々木恭介でしょ……。

――それって、いままでも『U―STYLE』に出てるU―FILEの選手じゃないですか！　そうじゃなくて、聞きたいのは何かサプライズ的な選手の参戦ですよ。たとえば『PRIDE』の選手が上がるとかそういうことはないんですか？

田村　それはあるだろうね。ただ、選手側も『U―STYLE』に対して好き嫌いがあると思うからね。総合格闘技やってる人でも、多少プロレス心がないと難しいスタイルだしね。だから、いまは案を出して各選手におうかがいを立てて調整をかけてる感じかな。

――ヴォルク・ハンが出てきたら、涙がちょちょ切れますけどね！

田村　……そのへんはちょっと考えなかったね。でもヴォルク・ハンはロシアから出られないんでしょ？

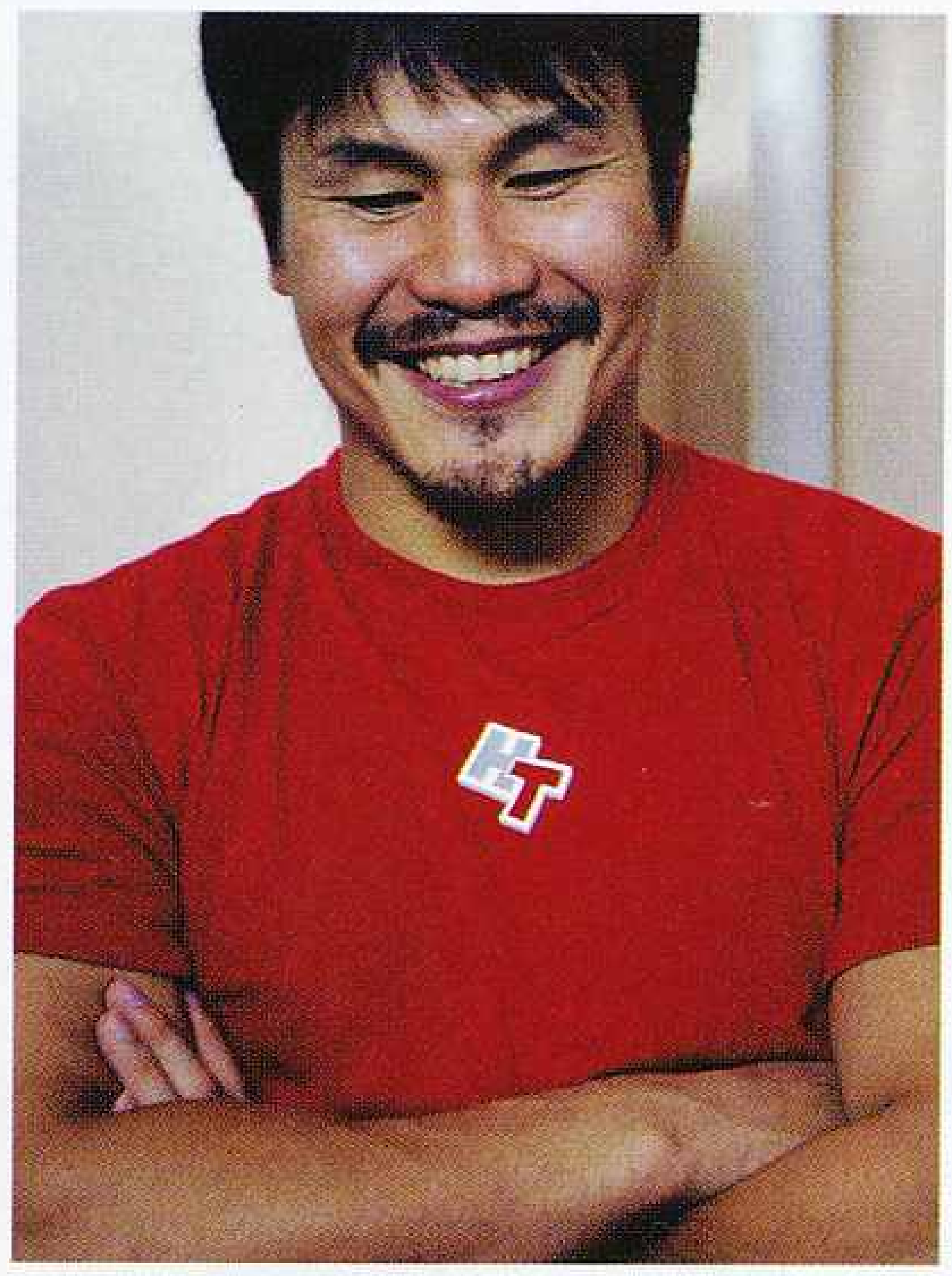
――もう大丈夫になったと本人は言ってるみたいですけど。

田村　あ、そう。

――じゃあ、（イリューヒン・）ミーシャとかは？

田村　だから向こうが興味があればばって感じだから、いまはまだなんとも言えない。まぁ、選手としては意外性のある選手だよね。

――DSEがどんな選手を出してくるのかも楽しみですけどね。



1969年12月17日、岡山県出身。第2次UWF、UWFインター、リングスを渡り歩いた生粋のU戦士。97年には初代リングス無差別級王者に輝く。2003年2月には『U-STYLE』を旗揚げ。さらに11月23日にはその進化系とも言える『U-STYLE Axis』で格闘プロレスの再起に挑む。180cm、88kg。

田村　俺に関しては、まぁDSEにもあまり迷惑かけられないからタイミングが合えば誰かとやるっていう感じ。なんせ2回目が保証されてない大会だから（笑）。

――じゃあ、まずは11・23次第ということですね。そして大晦日は『男祭り』ということで（笑）。

田村　アハハハ！　えらい先の話やな。

――もう、そういうことが話題になる時期ですよ！

田村　いや、俺だっていっぱいいすることがあるのよ。

――大晦日もちゃんと視野に入れてくださいよ。

田村　視野？　う〜ん。オファーがあったら視野には入るけど、いやらしいでしょ？　オファーもないのに、視野に入れてますって。

――いやらしいも何も、オファーなんて毎年しつこいぐらいあるじゃないですか（笑）。

田村　そう？（ニヤニヤ）。

――いずれにしても、田村潔司がまた大きく動き出したということで、今後ますます見逃せないということですね。

田村　そうだね。まぁ、『U―STYLE』は頓挫するかもしれないけど。

――人がいい感じでシメようとしてるのに、なんで田村さん本人がネガティブな話にするんですか！（笑）。

田村　いや、いろいろ心配なのよ（笑）。

――じゃあ、今日は2時間待たされた上に、素晴らしくネガティブなシメができたということで、ありがとうございました！

田村　なんか、最近さらりとイヤミを言うようになったよね？

――いや、これも潤滑油ですよ、インタビューの。

田村　そうなの？

――もちろんです（笑）。

田村　まあいいや。じゃあ、そんな感じでヨロシク！

【05年10月5日／調布市・U―FILE CAMP調布にて収録】

『U-STYLE Axis』

東京・有明コロシアム
2005年11月23日（水・祝）
試合開始16:00（予定）

［出場予定選手］
田村潔司、上山龍紀、大久保一樹、佐々木恭介、中村大介、イリューヒン・ミーシャ、その他強豪選手参戦

［チケット料金（全席指定・消費税込み）］
VIP（記念グッズ付き）¥20.000 RS ¥10.000
スタンドS ¥7.000 スタンドA ¥4.000

［チケット販売スケジュール］
先行予約：2005年10月15日（土）10:00〜16日（日）24:00
U-STYLE CAMPオフィシャルサイト
www.u-filecamp.com
DEEPオフィシャルサイト www.deep2001.com
PRIDEオフィシャルサイト www.pridefc.com
PRIDEオフィシャル携帯サイト
一斉発売：2005年10月23日（日）〜
チケットぴあ、ローソンチケットなど全国プレイガイドにて発売予定

［問い合わせ］DSE 03-5464-1531

『U―FILE・19』

西調布格闘技アリーナ
（U―FILE CAMP調布ジム）
2005年10月23日（日）
試合開始14:00（開場13:30）

［対戦カード］

STYLE―U
西内太志朗（U―FILE CAMP.com） vs 市川直人（原宿道場）

STYLE―V
竹田誠（U―FILE CAMP町田） vs 野津陽介（C@ GIRLS）

STYLE―G
新井正剛（U―FILE CAMP登戸） vs 長井憲治（U―FILE CAMP赤羽）
※その他、初級ワンマッチなどもあり

［問い合わせ］
U-FILE CAMP調布　0424-80-3731



野獣と大巨人が怒濤の殴り合い!! だが、後半はスタミナ切れの失速で、笑うホンマン、涙目のサップのお見合いが続く! 最高視聴率は27％をマークした"This is K-1"ファイトはホンマンの勝ち!

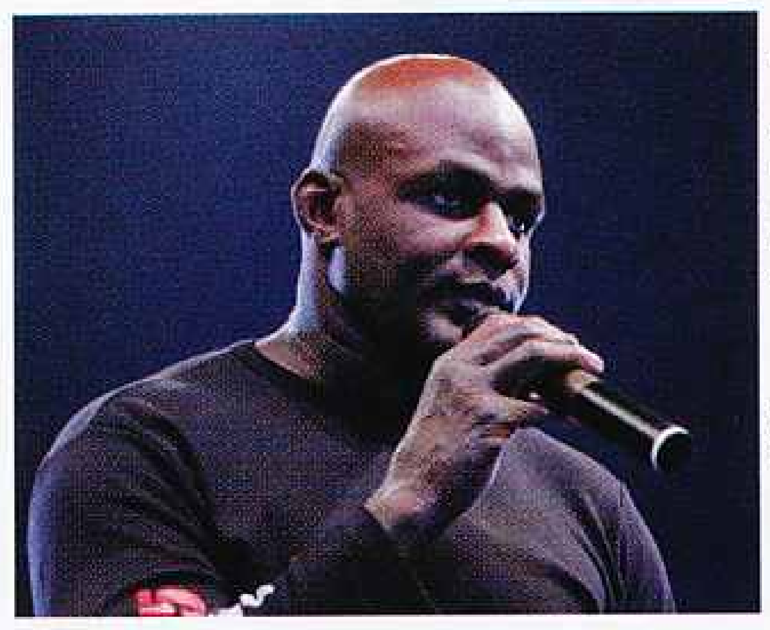
K-1

ショック！ 角田が"鋼鉄獅子"に敗れる!! 大巨人ホンマンは野獣サップを泣かす!!

9・23■K－1 WORLD GP開幕戦／大阪ドーム



待望の地元・大阪カムバックを果たした我らが角ちゃん（44歳）が、スタン・ザ・マンの弟ジョージ"ザ・アイアンライオン"にまさかの判定負け! 感動の勝利マイクは実現せず!



左足負傷のため今回のトーナメント出場を直前で辞退したアーネスト・ホーストがリング上からお詫びの挨拶。ワンマッチのカムバックを約束した



マニアのあいだでK－1最強の呼び声が高いシュルトがグラウベ・フェイトーザを寄せ付けず。決勝で不遇の格闘人生は報われるか……



I編集長お墨付きのイグナショフはボンヤスキーとハイレベルな攻防を繰り広げたが判定負け！ "殺し"が足りないんだよな!!



昨年は決勝戦で涙を飲んだ武蔵はボタを見事な判定勝ちで破り決勝ラウンドに進出！ 日本人初となるK－1GP制覇を目指すぜ！



ピーター・アーツが往年の強さを発揮！ 強打のマイティ・モーをロー主体で攻め込めマットに這いつくばらせた！

K-1 WORLD GP 2005決勝戦 対戦カード

レミー・ボンヤスキー［オランダ／メジロジム］	vs	チェ・ホンマン［韓国／フリー］	①
レイ・セフォー［ニュージーランド／レイ・セフォー ファイトアカデミー］	vs	セーム・シュルト［オランダ／正道会館］	②
ジェロム・レ・バンナ［フランス／Le Bnnna X tream Team］	vs	ピーター・アーツ［オランダ／チームアーツ］	③
武蔵［日本／正道会館］	vs	ルスラン・カラエフ［ロシア／マルプロジム］	④
［準決勝］①の勝者	vs	②の勝者	⑤
③の勝者	vs	④の勝者	⑥
［決勝戦］⑤の勝者	vs	⑥の勝者	

※全てK-1ルール／3分3R延長1R

PANCRASE HYBRID WRESTLING

近藤、金原に僅差の判定勝ち！ TKは"ミルコの刺客"に不運な負け！

10・2■パンクラス／横浜文化体育館



UWFの流れを汲む日本人同士の対決。スタンドでは優位に進めた金原だったが、最終Rにマウントを奪取され判定負け。しかし"金原ここにあり"の試合内容だった



タックルを"ミルコの刺客"マイク・カイルのヒザ攻撃に合わせられたTK! 3R途中には偶然のサミングで右目角膜の損傷! その時点の判定でカイルに凱歌!



負傷により欠場した菊田がメイン終了後、近藤に対戦をアピール！ 熱戦の余韻を打ち消す登場に一部の観客から厳しい野次を浴びた。



元全日本プロレスの河野真幸はパンクラス2連勝ならず！ アスラン・デゼボエフの打撃の前に戦慄のKO負け。



階級上のポアイ菅沼に判定負けした佐藤光留になぜか竹内出が対戦表明。「こんなボクと闘って、意味があるんでしょうか」と佐藤に頷く観客。



第一試合に登場した髙橋義生はケステゥシャス・アルボーシャスと対戦。有効打はないが判定勝ちを収めた



"逆転男"掣圏会館の桜木裕司は、和術慧舟會RJWの李世学の肩固めにまさかのタップ！ 今回は逆転ドラマを作れなかった。



言うちゃ悪いけど今月の直言!!

長州を戻すくらいならケロちゃんを抜擢せよ!!

プロレス・マスコミの“生きる伝説”

I編集長の喫茶店トークラウンド

〝リビング・レジェンド〟井上さんのインタビュー連載が装いも新たにスタート! その名も『喫茶店トーク・ラウンド』! 第1回目の今回は10・8新日ドームをいつものように大声でブッタ斬ります!!

聞き手／堀江ガンツ

designed by bun-chan (Two Three)



I編集長とは?

井上義啓。元「週刊ファイト」編集長。「活字プロレス」の創始者であり、その影響を受けたプロレス者の数は計り知れない。70歳になったいまも、毎日、プロレス&格闘技のことを考える哲人だ。



あれはドームじゃなくて大阪府立のカード 新日本の上層部は何をやっとるんだ！

――さて、井上さん。今回は昨日行なわれた新日本の10・8東京ドーム大会について総括していただこうと思うんですけど、PPVでご覧になりましたか？

井上　見てまへん（あっさり）。

――そうですか（笑）。

井上　PPVだってタダじゃないんだからね。あのカードじゃ見んだろう。俺の周りのプロ格者もみんなそう言うてますよ。だからまあ、率直な私見として言わしてもらうとやね、いったい新日本プロレスの上層部は何をしとったんだと！（ドンッ）。

――カード発表が後手後手でしたもんね。

井上　メインの3WAYこそ早く発表されたけどやね、あとは直前になってドタバタやっとったわけやろう。たしかに昔は猪木vsシン、猪木vsハンセンといったメインだけきっちりしたものを出せば満員になったけどやね、今回はブロック・レスナー呼んできて満員と、そんなわけにはいかんだろ！あのカードで大阪府立体育会館だっていうならわかるよ。でも、そうじゃないんだから！

――東京ドームですからね。

井上　俺は読んでないけど『夕刊フジ』かなんかで新日本はなんか書かれたんだろ？

――大会の前日に草間前社長のインタビューが載って、「猪木新日本、破綻」という一面になってました。

井上　こりゃもうね、『夕刊フジ』がどうの、草間が裏切ったどうのじゃないのよな。こりゃもうはっきり言えば、マスコミ関係にしたってファンにしたってうすうす感じとることだしね、そういった危機感というのはずっと前からあったわけですよ。それでフタを開けてみたらこんな騒ぎだ。いま言ったように、メインがしっかりしていて、それでドームが満員になるんだったらこれはなんにも言わんよ。ところが今回の大会は5・14東京ドームに毛が生えたような感じだったって記者連中も言っとるしね。それじゃ話にならんだろ！　そもそも10・8にドームでやると5月の時点で発表されとったけども、もう去年の10月に会場を押さえとったはずなんだよな。そうなるとそっからみんなが動き出して1・4でどうする、5・14でどうする、10・8でどうするということをね、朝から晩までキャンキャンキャンキャンキャンキャン会議でもやっとかなくちゃいけない。ところがフタを開けてみたらこんなカードですよ。いったい1年間、何をしておったんだよ！

――ドームのために時間をかけて練ったカードとはとても思えませんよね（笑）。

井上　それでもフロントにしてみたら、モーガンも呼んだし、ブラック・タイガーも呼んだ、おまけにZERO1・MAXの大谷も出てますよと。そういうことを言うだろうけど、それは大阪府立のカードだと！東京ドームを満員にするカードじゃないと。現に半分も入ってなかったというやないか。

――かなり席を潰してました（苦笑）。

井上　だから、このカードじゃダメだということなんだけれども、ドヒャーっというようなカードを組みたかったら、もう東京ドームでやると決まった時点で交渉しとかなくちゃいけないわな。その点でNOAHなんかはちゃんとやっとるだろう。

――NOAHはすでに来年1月の武道館のメインが、小橋vsサップ戦で内定してるみたいですからね。

井上　だからこの間の『W―1』（10・2代々木第一体育館）なんかを見るとやね、NOAHの戦略が見える。普通、秋山vsサップ、曙組vs三沢組となったら、「あ、これは秋山が優勝するんだな。となると三沢が負けないといけない。でも、三沢に土をつけるわけにいかないからタッグなんだな」と思うだろう。

――そうでしょうね。

井上　ところが秋山が負けて、タッグなのに曙がフォールされるという、どんでん返しがあったからね。これは非常にいい手なんですよ。そうするとNOAHとしたら「次はサップvs小橋だ」となるし、『W―1』にしても「次はどんなサプライズがあるんだろう」となるわけだ。しかも、ノルキヤ、サム・グレコといった本格派もおるわけだから。

――あ、井上さんはノルキアも買っているんですね（笑）。

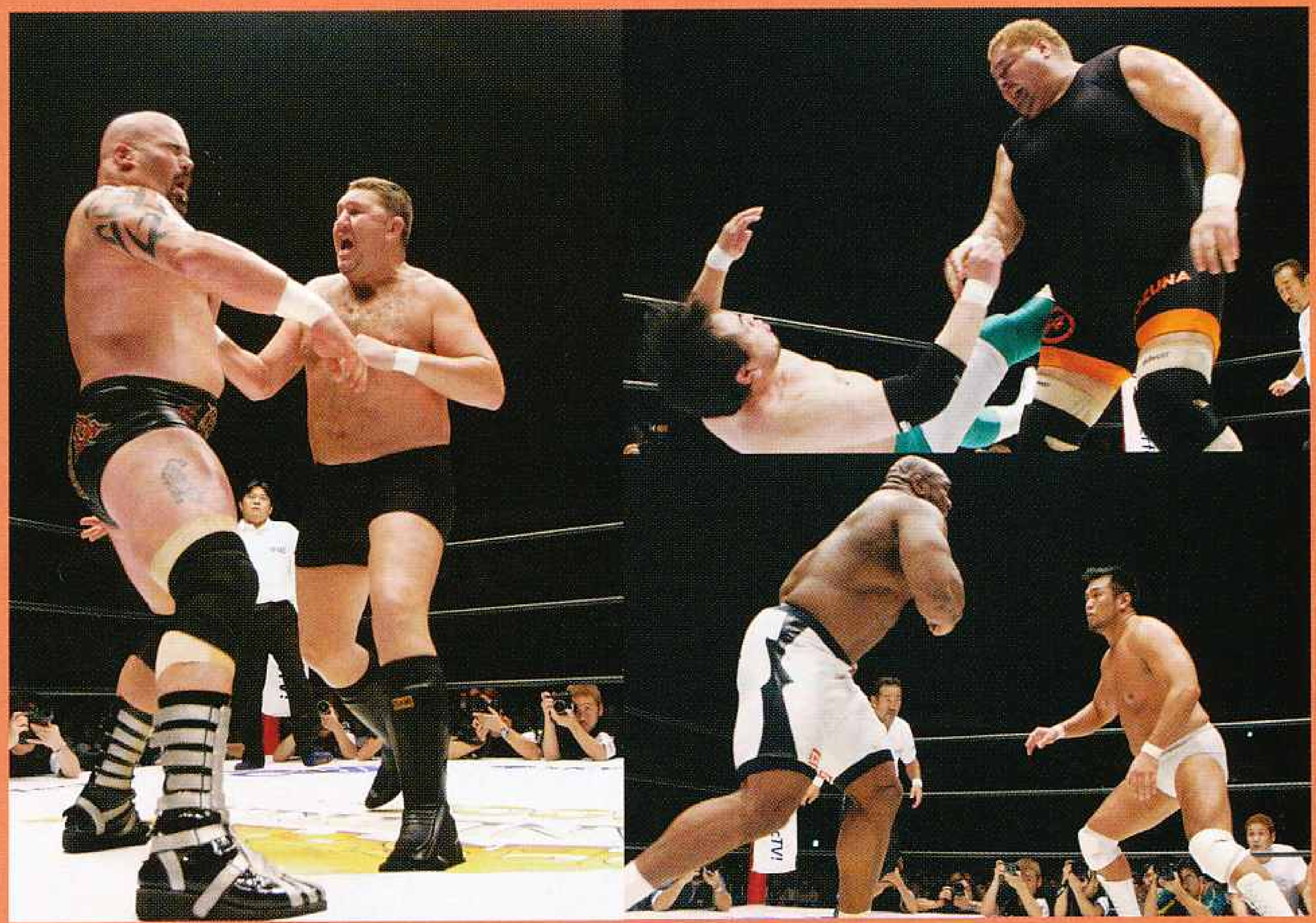
井上　あの男はやるからね～。まぁ、今回はとってつけたような結果だったし、ヘタな台本を書くからダメになったけどね。やるんならね、もう少しWWEみたいにきっちり脚本を書いてレスラーに渡して関係者にも渡してリハーサルを何回もやると。

――プロレスにはやっぱりリハーサルが必要ですか（笑）。

井上　これはプロレスだけじゃなくて、ドラマでもなんでもそうですよ。ウソだと思うんなら京都の太秦撮影所に行ってみたらい。とことんやるよ。あの里見浩太朗大先生をつかまえて「ああしてください、こうしてください」と言うらしいからな。

――里見浩太朗すらダメだしされるぐらいの厳しさが必要なわけですね。

井上　だからWWEは納得のいく試合をす



10・8新日ドームは買わなかった井上さんも10・2『W-1』のPPVは購入。試合内容には満足していないものの、秋山、曙が敗れるサプライズとK―1ファイター、ジャイアント・ノルキアに可能性を見いだしたようだ。



猪木は新日本の社長ではなく、永久電機のほうをサイモンにやらせればいいんだよ！

るんですよ。でも、このあいだのノルキヤなんてのは負ける直前までピンピンしてますからね。それで時間がきたらしょうもない手でね、バーナードがガーンとフォールしてしまったじゃないか。これじゃダメですよ。俺だったらノルキヤを場外に叩き出してね、プレデターという凄いのがおるんだから、さんざん暴れ回ってリングアウトだと。そういう結末に持っていくけどね。

――スーパーヘビー級の外人対決はやっぱり、そうじゃなきゃいけませんよね（笑）。

井上　あれだけの凄い男がそろったんだから、やはりパワーで見せて「筋書きはあるけど凄い試合だった！」と言わさんといかん。

――ちょっと話がそれてしまいましたけど、ノルキヤのいない新日本は、どういったものを提供したらいいんでしょうかね？

井上　そんなもん、俺がもうなんべんも言うとるけどね、やっぱり真剣勝負を取り入れなきゃいかんということですよ。今回だって猪木軍 vs 前田軍の全面対抗戦を真剣勝負でやってごらんよ。これは超満員になったはずですよ。何年か前のUインターとの対抗戦なんか、チケットが売れて売れて社員でも手に入らなかったらしいからね。

――時代が違うにしても、あのときは凄かったですよね。

井上　だから今度も上井さんのBML（ビッグマウス・ラウド）あたりにプロレスじゃなくて総合ルールの真剣勝負でやろうじゃないかと。例えば中邑と柴田あたりが総合ルールでやるとなったら、それだけで2000人は増えますよ。新日本プロレスというのはもともとストロングスタイルがどうの、真剣勝負がどうのと言ってきた団体なんだからね。武藤のように「プロレスはエンタメなんだ」と信念をもってやってるならいいんですよ。でも、新日本は違うからね。いつまで経っても「真剣勝負でございます」というような顔をして筋書きのあるプロレスをやる。だからお客が来ないんですよ。

――看板にいつわりありと（笑）。

井上　だからそうならんためにも柴田 vs 中邑を真剣勝負をやると、真壁 vs 村上とかもやると。そういうようにプロレスから脱却しない限りダメですよ。こんなね大阪のバカが考えつくようなことは、当然猪木にしろ新日上層部の連中は気付かなくちゃいけない。それがな～んか気付いていない。しかもサイモン猪木にしたって、日本におらんでしょうが。あれ。

――そうですね。ロスと二重生活ということになってるみたいですけど。

井上　そんな男を社長に据えてね、うまくいくはずがないんだよ！　それで猪木が思いついたことをポンと言って、それに従っとるわけやろ？　もうあきれてものが言えない。だいたい猪木がサイモンを社長にした時点でおかしい！　もしサイモンを使うならね、永久電機なんてのはもう成功するわけないんだから、そっちをサイモンにやらしたらいいんだわ！

――ガハハ！　その手がありましたか！（笑）。

井上　それで猪木は朝から晩まで新日本の事務所で会議をやって、谷川の旦那とか上井さんとかそういう連中も巻き込んで、それで新しい真剣勝負の方向を考えると。そういうことをやらんとダメや。それをやってないんだから。おまけに言うに事欠いて、現場監督に長州を迎え入れますだって。なんなんだよ、それは！！！！！！！！！！

――怒ってますねぇ（笑）。

井上　そりゃ怒りますよ、アンタ！　長州はね、昔あれだけなんでもできる権限を持ってたときでもうまくいってなかった男だぜ。それが、いまはよその人間なんだから。それで「こうせい、あれせい」って言ってもいうこと聞くわけがない！　実際に天山とか吉江だって口汚く「必要ない」とか言っとるんだから。だからさっきも言ったように、長州が帰ってきてもなんの意味もないんですよ！　こんなもん、俺や君が現場監督やるのと変わらん！

――ガハハハ！　ぜひ井上さんに現場監督就任してほしいですけどね（笑）。

井上　「恐いオヤジが必要だ」と猪木は言ってる。ところが恐いオヤジじゃないんだもん。「コラ、お前らこんなマッチメイクせい」って言っても、誰が言うこと聞くかと。内部から拒否反応が起こってるということはもう絶対うまくいかない。しかも言っちゃ悪いけど、あの性格ではダメだわ。BMLの上井さんのとこでは少しは役に立ったかもしれないけどね。新日本プロレスっていう看板を背負うのと、リキプロという看板を背負うのと、交渉の仕方が違うからね。だから要はファンからも顰蹙も買い、新日本プロレスの内部からの反発も浴びるような人事を猪木がやったということがね、言うたら失礼だけれども、ボケたなと（キッパリ）。

――やはり首をひねるばかりですよね。

井上　ハッキリ言って、それが最大の問題なんですよ。

――問題の根源はやはりそこですか。

井上　猪木は世界戦略とか言うとるけども、レスナーだけでWWEに対抗できるはずがない。そりゃそうだろう。だからここらへんがね、新日本プロレスは何を考えてるんだろうと思うわけですよ。

――本当は〝脱・猪木〟こそ急務なんでしょうね。

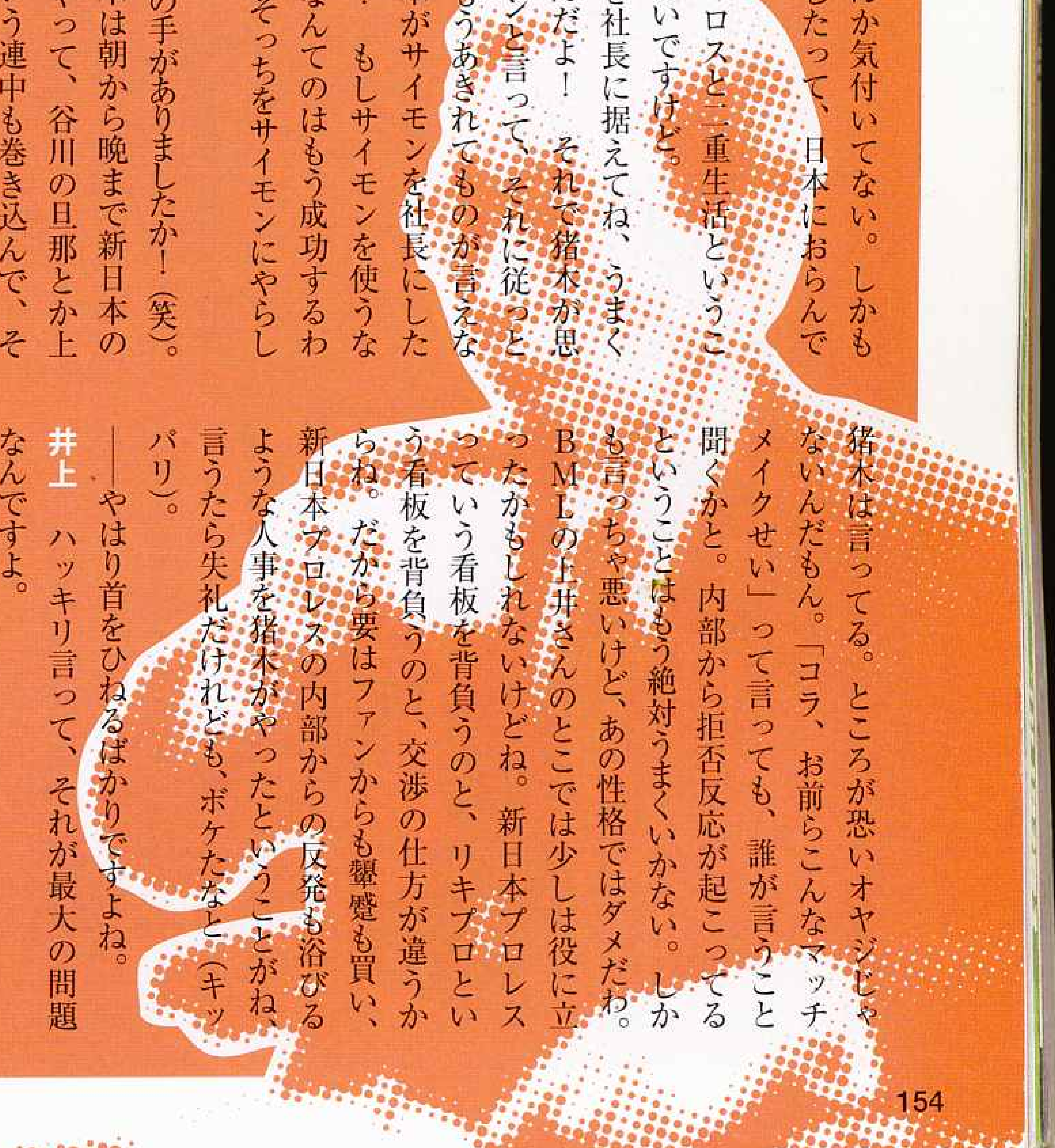
井上　新日本だって大きな会社なんだから、なんだかんだって言っても頭がいい人だっているわけですよ。ケロちゃんなんて頭いいぜ。そういう人がおるのにね、ぜんぜん活かしてない。

――ケロちゃんはそんなに知恵のある方なんですか？

井上　そりゃ、持ってますよ。だからそういった連中がおるんだから、使わなくちゃいかんのよ。それがなぜか蚊帳の外に置かれてしまって。それで藤波副会長なんて何をしとるんだと。藤波だって会社に出勤しとるはずだぜ、あれ。毎日毎日な。



10・8ドームを「70点」と採点したサイモン・ケリー猪木社長。「長州力、現場監督復帰」という仰天人事は、はたして新日本になにをもたらすか？



―たしかにそうですよね（笑）。

井上　だから藤波だの長州だの古い人間じゃなくて、ケロちゃんなんかに権限を与えて、本当の意味での真剣勝負をやれと。中邑にしたって真壁にしたって新日本プロレスにおるんだよ。永田にしたってやね、ミルコと闘ったぐらいやからね。だからそういった連中は本当の真剣勝負をやらなきゃダメですよ。そういうのがいつまで経ってもできない。その集大成が悪い結果として出たのが昨日の10・8！

―10・8は悪い集大成ですか（笑）。

井上　だから、奇しくも猪木が言ってるように、もう新日本プロレスというものを新しくつくり直して、その大改革を来年はやってもらいたいわな。生きるか死ぬかはわからん。無責任に言うなって言われるかもわからんけど、それしかないように思うよね。いままでのようなことをやっとっても、大阪府立も満員になりませんよ。

―最近、大阪府立もあまり入らないらしいですもんね。

井上　いまの時代にね、勝った負けたというのはそのときの勝負だけであって、凄い試合やって次につながればいいんですよ。この前のヒョードルとミルコだってそうだろう。あんなもん、どっちか必ず負けるんだし、ミドル級GPの決勝戦というもの凄いカードがあって、本当ならヒョードルとミルコはいらないわけだよ。

―どっちかでいいですもんね。

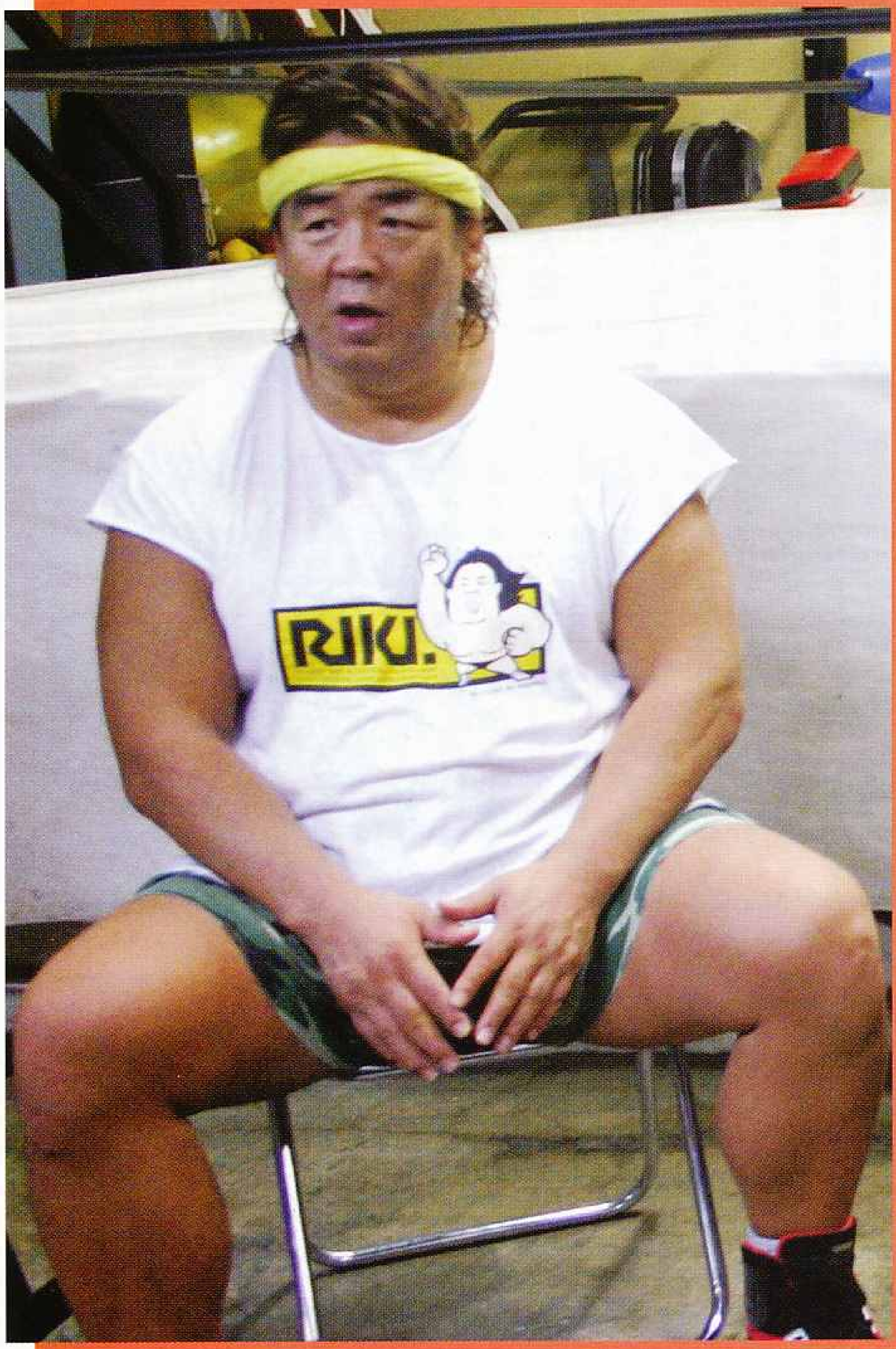
井上　それなのに投入してるわけだからな。それで、結局負けたミルコにしたってもう次がないかと言うたらそんなことはない。今度ミルコはUFCのヘビー級チャンピオンになりますよ。俺はミルコ、桜庭、吉田とかっていうのはUFC勢と対抗する要員ですよという見方をしたんだけれども、その通りになりつつあるじゃない。今度の桜庭vsケン・シャムロックというのを見てごらんよ。なんだよ、あれ。昔のUFCのチャンピオンじゃないか。ジョシュ・バーネットにしたってそう。ミルコとやることが決定したけどもやね。あれを見たらわかる。『PRIDE』とUFCとの激突というのは、もう目の前にきとるわけですよ。

―『PRIDE・30』はその序曲ですか。

井上　もう実力世界一決戦というかね。『PRIDE』とK-1の対決にしたってそう。これも夢物語じゃなくなってきたんですよ。俺がキミに言うようなことは、おそらく出てくると思うんだよな。ただ実現するとは限らんよ。けども、そういった根底というのができたんだと。

―当然、その対決が見たいという声もあがってくるでしょうね。

井上　絶対あがってきますよ。だからね、我々が言ってることというのはね、必ずしも荒唐無稽な妄想ばかりじゃないわけよ。



まさかまさかの現場監督復帰をはたした長州力。「ウソだろ？っていうこと」とは、これだったのか？　現場の反発が強い中、何が起こるかいろんな意味で目が離せない。



ケロちゃんを中心に"七人の侍"を集めて朝から晩まで企画を練れ！

やっぱりその妄想の中から現実になって出てくるものがあるからね、だからこれはね『kamipro』あたりでもね、おおいに提言してもらいたいわな。俺なんかもいま『週刊ファイト』で勝手に提言しとるけども、いまの新日本プロレスはぜんぜんその提言を活かしてくれてない。

―昔は違ったんですか？

井上　違いましたよ。新間（寿）さんのときはまだね、そういうことがあったですよ。新間さんがね、「大阪は、どんなカードもってきても最近ちょっとしょっぱいんだよ」と。だから俺がね「タイガー・ジェット・シンと上田馬之助を一騎打ちでやったらいいじゃない」と言ったんだよ。それで何カ月か経って、新間さんが「編集長、上田とシンの一騎打ち、メインだから」って。それで超満員だったからね。

―あれは井上さんのアイデアなんですか？

井上　そうですよ。まあ、そういったことをね、聞いてくれたよ、新間さんはね。だから新日本プロレスはうまくいったんだよ。だからね、俺が言いたいのはケロちゃんあたりがもう企画を全部やれと。ケロちゃんを企画部長みたいにして、本当に役に立つ部下を数人持ってくるのもいい。『kamipro』から連れてくるのもいいし、『週刊ファイト』から引き抜くのもいいし、とにかく役に立つと思った連中を引き抜いて、それで七人の侍ということでね、ケロちゃんを中心にやね、朝から晩まで企画を練って、交渉して、アメリカに行くわ、パリ大会に行くわとやってごらんよ。昨日みたいなね、あんな惨憺たるマッチメイクになってないよ。そしてね、真剣勝負で強い勝ち方したら、もう次の日にはスターだって生まれるんだから。K-1を見たらわかる。マイティー・モーを見てごらんよ。どこから出てきたんだよ。銭だけで作った男と違うぜ、あれ。

―K-1ラスベガス大会一発でスターですからね。

井上　一発ですよ、そんなもん。だから長州なんて引っ張ってくるんじゃなしに、もういままでの新日本を潰して新しくやりますと。そう言わん限りダメですよ。

―わかりました。今回はちょっと厳しい意見になりましたが、どうもありがとうございました！

【05年10月9日／電話取材にて収録】

Kamipro Times

カミプロタイムス



～マット界の明日を考えるニュースまとめ読みコーナー～

今月の誌面からハミ出した見逃せないニュースをkamiproにリニューアル後も引き続き一網打尽するこのコーナー。マット界の明日を真摯に見すえて、イスの上に正座の姿勢でお送りします！

構成&イラスト／真下義之

長州、驚愕の現場監督復帰！迷走の新日本10・8東京ドーム大会

開催ド直前でも発表されないカード、小中学生以下&60歳以上の無料招待の実施、苛立ちのあまりパーティー席上でサイモン社長の顔を張る猪木……などメジャー興行とは思えない異常事態に「新日本プロレス、最後の東京ドーム大会？」と噂された10月8日の『闘魂創造～NEW CHAPTER～』。

なんと興行前夜には「長州力の現場監督復帰！」（3年4カ月ぶり）という驚愕ニュースが到着。NJPWならぬNWJ誕生か？ リキプロ、ビッグマウス・ラウド、ハッスル、アパッチ軍との関係は？ つーか外部の人間の現場監督ってアリなの？ と疑念渦巻く、サイモン社長による怒りの人事異動発令だ。

ちなみに復帰と言えば、元WJの盟友、永島勝司氏も古巣『内外タイムス』への復帰が実現！ この長州電撃復帰ニュースもスッパ抜いてみせた。ここに来てWJ勢が続々と軌道修正に成功しているから人生はわからないものだ……。またこの日は『夕刊フジ』でも一面で「新日プロ破綻危機」を大々的に報じ、話題となっている。

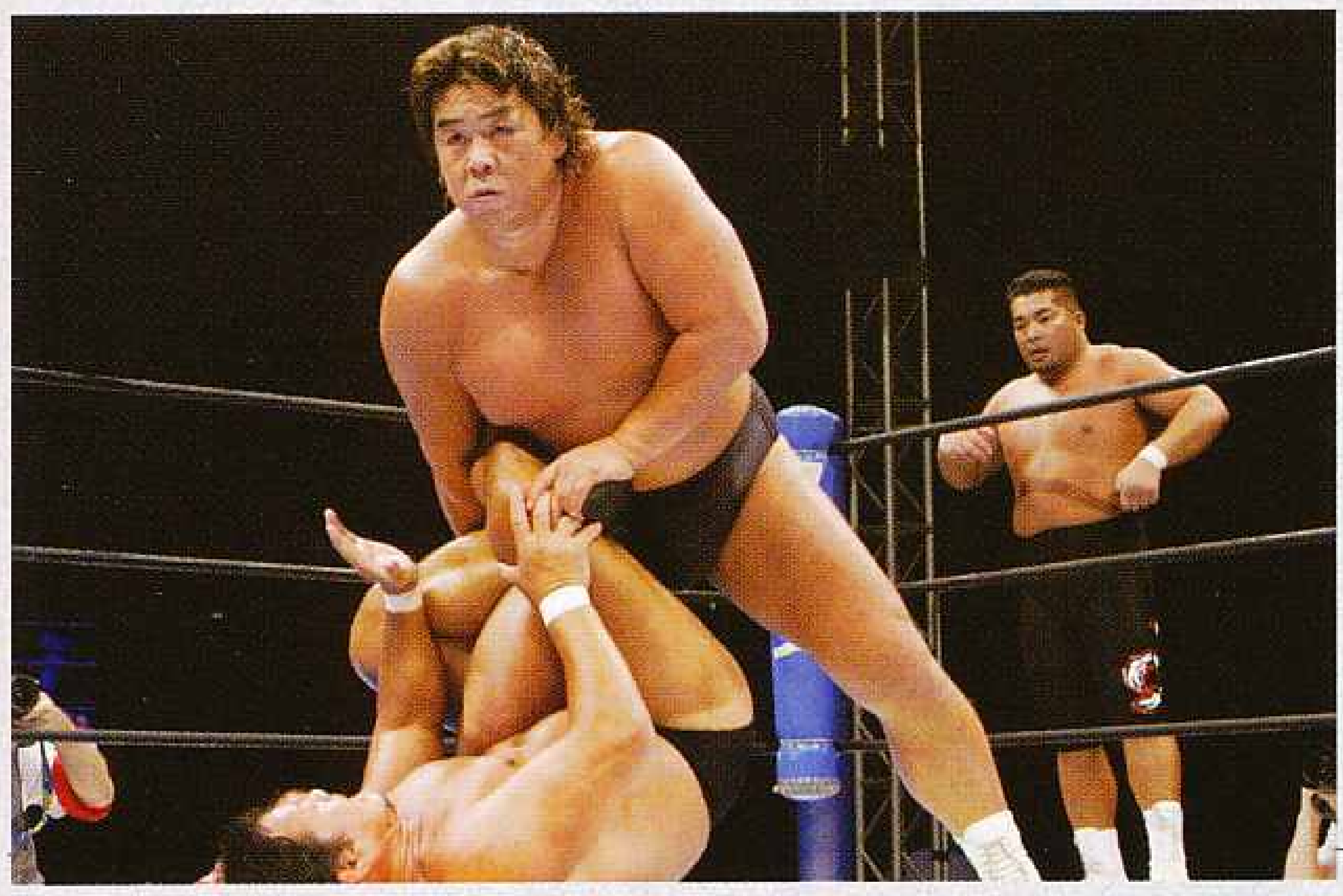
総合格闘技全盛のいま、W－1やハッスルが独自に新プロレスを模索する中、窮地の新日本が提示した90年代回帰路線に明るい未来が見えないまま迎えたドーム当日……。試合より客入りのヤバさが注目を集めた今回。会場入りした本誌、松澤チョロの携帯には「客入りどう？」とひっきりなしの着信が。当初はtATuのドーム公演を超えるか？ と噂されたが、結果的には主催者発表の3万8000千人（満員）。実際、外野席から一部内野席を閉鎖、その他の客席がそこそこ埋まり「まぁ満員と言えば満員……」な状態ではあった。

長州は第1試合で石井智宏と組み、藤波辰爾、西村修組と激突！ 「何が無我だコラ！」と必殺フルコースを披露したが、現場監督就任のアナウンスなどはなぜか皆無。

セミファイナルでは、ビッグマウス・ラウドとの交渉不発から、急遽、参戦した川田利明、安生洋二組（not高田モンスター軍）が、棚橋と中邑の「メキシコで厚みを増したストロングスタイル」（by吉野アナ）と対峙。だがエンタメプロレス効果？ で表現力倍増の川田、安生の役者っぷりが爆発。とくにダスティ・ローデスばりのぐるぐるパンチや、リック・フレアーばりのちょい待てポーズなど〝闘いを忘れた司令長官〟とテレ朝に揶揄された安生洋二が試合を支配し、格の違いを証明。

メインは、WWEで3WAY戦は十八番のブロック・レスナーが予想以上のコンディションと素晴らしい存在感で蝶野と藤田を圧倒、唯一、NEW CHAPTERと言える希望を見せてサイモン社長もひと息つけた模様。

開催が発表された、06年1月4日・東京ドームでは誰と闘うのか？ 長州現場監督の采配は？ 本誌発売の17日には、元新日本社長、草間政一氏が新日本に損害賠償を求める民事訴訟の初公判も行なわれるなど、まだまだ混迷する新日本からは目が離せない！



東京ドームでは第1試合に登場した長州力。新日本現場監督復帰を予想してか、『月刊アフタヌーン』（講談社）では『3年G組長州先生』（作：真右衛門）なるマンガも連載開始！


地獄から天国へ
永島氏夕刊紙に電撃復帰！

あの永島勝司氏が東スポ入社前に在籍した古巣『内外タイムス』に復帰。『週刊ファイト』（10月5日発売号）より。



“闘いを忘れた司令長官”こと安生は解説の安田拡了氏の「最近、女子ばかり相手にしてるから感覚がズレてるのでは？」との余計な心配を吹き飛ばすハッスルぶり！

行こうぜ！ プロレスの向こう側!! 話題の〝マッスル〟とは何なんだ？



前列右からアントーニオ本多、マッスル坂井、脚本家の鶴見亜門（ツルティモドラゴン校長の甥）。無念の死を遂げ後楽園ホールに怨念の地場を作り上げていたマミーを退治し、ハッピーエンド。3、2、1、マッスルマッスル!!

一体どうなってるんだ！ これまで北沢タウンホールや新木場1st Ringといった小会場を超満員にしてきた知る人ぞ知るあの『マッスル』が聖地・後楽園ホールに初進出し、なんと主催者発表で1411人超満員の観客を集めてしまった！ しかも開催された10月2日はW－1、パンクラス、アパッチなど興行ラッシュの中、よりによって『マッスル』が一人勝ちを収めたのだった。

正直、試合の物足りなさは否めない。しかも出場しているレスラーで選手名鑑に載っているのは約2割程度。おまけにマスコミへの露出は、プロレス週刊誌に黙殺されているためほとんどなし。インターネットと口コミという限られた情報手段だけで、『マッスル』というブランドがなぜこれだけの求心力を持つに至ったのか？

そもそも『マッスル』とは、名前こそ明らかにパクってるものの『ハッスル』の亜流ではなく、DDTの若手レスラー兼映像班のマッスル坂井が表現したいプロレスを具現化したものなのだが、その面白さは異常なほどに練りに練り込まれたシナリオにある。

乱立する団体、プロとアマの境の液状化、不条理なタテ社会、ヤオガチ論争、経営難など〝プロレス〟というジ

VS猛牛も実現!! 小橋建太、怒濤のアメリカ遠征!!

「小橋選手と会いたいなぁ……」と妄想する本誌ノアヲタ筆者。本誌はNOAHより取材拒否中のため、取材できるハズもないが、9、10月のプロレス媒体を席巻した〝ミスター・プロレス〟小橋の初海外遠征。おもに『東京スポーツ』（以下、『東スポ』）紙上で展開され続けた素晴らしいエピソード群を紹介したい。

まず期待された恒例の特訓シリーズは、いきなりアトランタへの航空便内で実現！　機中で勝手に上半身裸になり、スクワットや腕立て敢行！　目撃した40代のスチュワーデスも「ワォ！　グレートマッスル！」と絶賛。

さらにセントルイスへの機内では、なんとホモ痴漢の被害に遭遇！　40代半ばの白人男性に股間をソフトタッチされ「アメリカは怖い……」と記者に漏らしたと言う（『東スポ』9月23日号より）。

また、ミズーリのエルドンで海外デビューを飾り、ハーリー・レイスから贈られたNWAベルトに感激して深夜12時から明け方5時まで、5時間もベルトと会話し「（各国の）いろんな言葉で話かけてきたので圧倒された」と告白（『東スポ』9月28日号より）。

だが連日、連夜ベルトと話し続けた結果、「NWAはレイスの代名詞」とベルトは返還する礼儀正しさも発揮。さらにWWE副社長の盟友ジョニー・エースとの再会、ニューヨークROHにも登場したりと、超精力的に行動を続ける。


東京スポーツ
猛牛VS小橋
900キロ級30頭
遠征最終戦も完勝 大声援に感無量！
きょう海外遠征から帰国
投げ縄特訓で習得 牧場ラリアート
手首の使い方覚えたぜ

失われたプロレスファンタジーを現代に復活させた、東スポの小橋建太遠征記事はどれも秀逸すぎる完成度！　『東京スポーツ』（10月5日号）より。

最も衝撃的だったのはアメリカの最終特訓となったフィラデルフィアの大牧場での「VS猛牛特訓」だろう。900キロを超える猛牛や暴れ馬を相手に、投げ縄特訓を実施！「牛や馬と目が合ったときは『何が来るんだ』と緊張感が凄かった」と大満足だった模様（『東スポ』10月5日号より）。地元誌にも〝伝説の男〟と評された小橋建太のハッスルぶりと毎日ファンタジーを提供し続けた『東スポ』の姿勢に超リスペクト！

ヤマケンが沖縄で復帰戦！ ランデルマン、コールマンも来場！

ヤマケンこと山本喧一が沖縄の地で『STARTING OVER！』『PRIDE武士道』での美濃輪育久戦（04年7月）以来、1年4カ月ぶりとなる復帰戦が決定。トレーニングをロサンゼルスで積み、心身ともにリフレッシュしたヤマケンに注目だ。

また特別ゲストとしてケビン・ランデルマンとマーク・コールマンも来場し、K-1のレイ・セフォーの弟であるロニー・セフォーも参戦する注目の大会です！

ャンルにおける様々な問題点を浮き彫りにし、その縮図をリングで表現する。興行の大半を占めるスキット映像は多層的なストーリーを補い、『スラムダンク』や『デスノート』といった人気漫画のテイストを絶妙に絡めるといった凝りようなのだ。

とにかく一大会にここまでの手間とネタを詰め込んだ興行は見たことがない。坂井の上司・高木三四郎曰く、その労力は通常の興行の3倍以上とのこと。日本のプロレスラーの数はいまや1000人を超えたが、プロデューサーとして坂井の右に出る者はいないのではないか。『マッスル・ハウス』終了後、表情から察する限り観客たちの満足度は200％以上。だが、プロデューサー坂井は「もの凄くやり足りない」と納得していない様子。天才の苦悩と欲望はどこまでも続く。この男のプロレス頭、そして『マッスル』とは何なのか？

ちょっとでも気になった方は10月30日の2時間特番（サムライTV）をチェック！　さんざん説明したものの、百聞は一見に如かず。これまでのプロレス観が覆されること間違いなし!!　合い言葉は「行こうぜ！　プロレスの向こう側!!」。

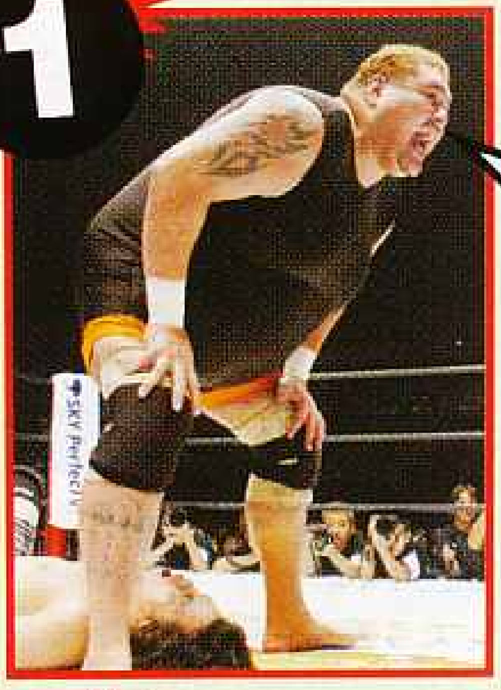
（斎野もみじ）


『週刊リング』編集長、ターザン鶴見（ツルティモドラゴン校長の従兄弟）は、雑誌の見出しを過激なものにするため、ゲストのサスケを銃殺！「雑誌は売れなきゃ負け！　表紙は〝サスケ、死す〟！追悼号も出るんだよォ!!」と大炎上!!

マッスル

■放送日時
10月30日
22:00～24:00（サムライTV）
■マッスル公式HP
http://www.ddttec.com/muscle/index.html

今月の名言を総ざらい!! 爆言大将



1 終わりじゃ～!!（曙）

ノアの盟主、三沢光晴と曙がデスティニーな初遭遇を果たした10月2日のW－1。曙はスコーピオと組み三沢&小川良成組と激突！　試合終盤、小川を追い詰めた曙が必殺ヒップドロップの前にこのひと声を絶叫！で会場は大爆発するも小川にアッサリかわされた。

2 その質問に答える気はない。そんな軽いもんでいいんですか？っていうこと。（藤波辰爾）

長州力の電撃的復帰に関し、前日は「いいんじゃないですか。それくらいの刺激がないと変わらない」と寛容さを見せたドラゴンは、翌日に改めて感想を聞かれるとなぜか一転して不快感を表明！　さすがはドラゴンとしか言いようがない。（『スポーツニッポン』10月9日号より）

3 ちょっと僕のユニークな友人を紹介したいと思います。（五味隆典）

PRIDEライト級トーナメントを怒濤の勢いで勝ち上がった五味隆典。試合後の流暢なマイクを披露中、ユニークな言い回しで会場観戦していた須藤元気をリングに呼び込むハプニング勃発。元気も「大丈夫なの？」と関係者に確認しながらリングイン。

4 どっちでくるんだ～（絶叫）（「ハッスルなんてクソ喰らえ！」でおなじみのテレビ朝日 吉野アナウンサー）

10月8日の新日本ドームに急遽、出場が決定した川田&安生。名前発表の時点で“モンスターK”やアン・ジョー司令長官でないのは明白……だが実況担当の吉野アナは最後まで「そのいでたちに注目であります！」と煽りまくってくれた。

5 ワタシの曲をかけなさい！（ブロック・レスナーの通訳）

新日本初の3WAY戦を席巻したブロック・レスナーはマイクを握り「日本に来た理由はIWGP王者になるため。今日は俺の強さを証明できた」とアピールし、去り際に関係者に自分の曲をリクエスト。しかしそこもすかさず通訳がトランスレート！

琉球Kamikaze Spirits（R.K.S.）

11月13日（日）沖縄・コンベンションセンター　試合開始16:00（開場14:00）

［対戦カード対戦カード（試合順未定）］
【総合格闘技UFCルール】
山本喧一（フリー） vs German Reyes（Team Kamikaze）
Mr.神風 vs ロニー・セフォー（ファイトアカデミー）
ヒロヤ vs 太子郎（ドージョーチャクリキ）
トシ・キムジナー（神風塾） vs 我龍真吾（Fighting Master）
トゥレイ（フリー） vs ロボコップ雄三（ワイルドシーサー）
ワンロップ・ウィラサックレック（ウィラサックレックジム） vs 未定（NJKFトップランカー）
屋比久タケツグ（陽明館） vs ハブ加藤（フェニックスジム）
愛（神風塾） vs 岡田敦子（ドージョーチャクリキ）
その他

【スペシャルゲスト】
ケビン・ランデルマン、マーク・コールマン

［チケット料金］
SRS席15000円/RS-A席12000円/RS-B席10000円
RS-C席8000円/1F席8000円/2F席5000

［問い合わせ］R.K.S.事務局 098-936-4789

kamipro PRESENTS

応募要項

ハガキに右下の応募券を貼り、以下の質問の答えをご明記の上、下記の宛先まで郵送してください。なお、当選者の発表は発送をもってかえさせていただきます。
【質問事項】①郵便番号・住所・電話番号 ②氏名 ③年齢・職業 ④希望商品 ⑤面白かった記事&その理由 ⑥つまらなかった記事&その理由 ⑦この人のコラムが読みたい!っていう人 ⑧五味vsマッハ、元気vsKIDの勝敗予想とその理由
【宛先】〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-16-6パレ・ジュノ2F
(株)ダブルクロス『kamipro』編集部「燃える五味の日」係まで
※締切は2005年11月15日(火)当日消印有効

PRIDE BUSHIDO

■HP***http://www.prideofficial.com/



五味隆典

I♥BUSHIDO Tシャツ

リニューアル第一号の表紙を飾っていただいた五味選手。インタビュー中に着用していただいた「I love 武士道」Tシャツに直筆のサインを入れてプレゼント! 【Tシャツ提供DSE】
Tシャツサイズ:XL

各 1 名様

BUSHIDO GP パンフレット

五味vs川尻戦をはじめ、壮絶な闘いが繰り広げられた『PRIDE武士道GP』。そのパンフレットに五味選手のサインを入れてご提供します!
【編集部提供】



ダン・ヘンダーソン



ダン・ヘンダーソン Tシャツ&サイン入り卓球ラケット

セットで 1 名様

ダンヘン大好きっ子・松下ミワが泣く泣く提供(涙)。自腹で買ったダンヘンTシャツ&卓球ラケットを剥奪され、読プレへ。当たった人は、本当に大事にしろぃ!【松下ミワ提供】Tシャツサイズ:S

シュートボクセ

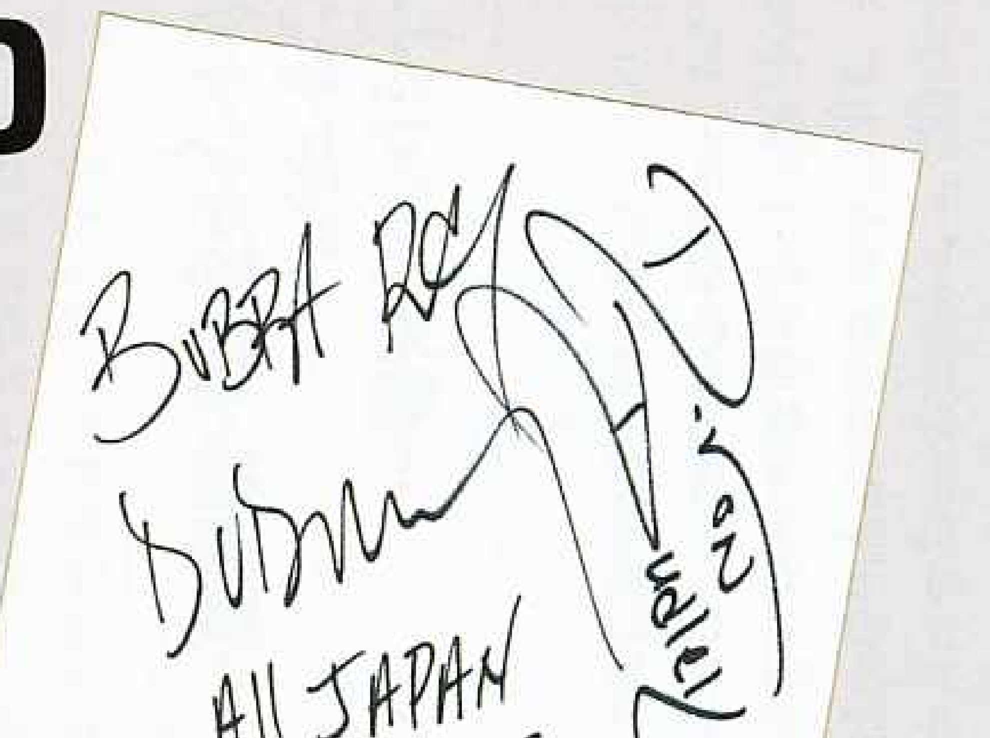
各 1 名様



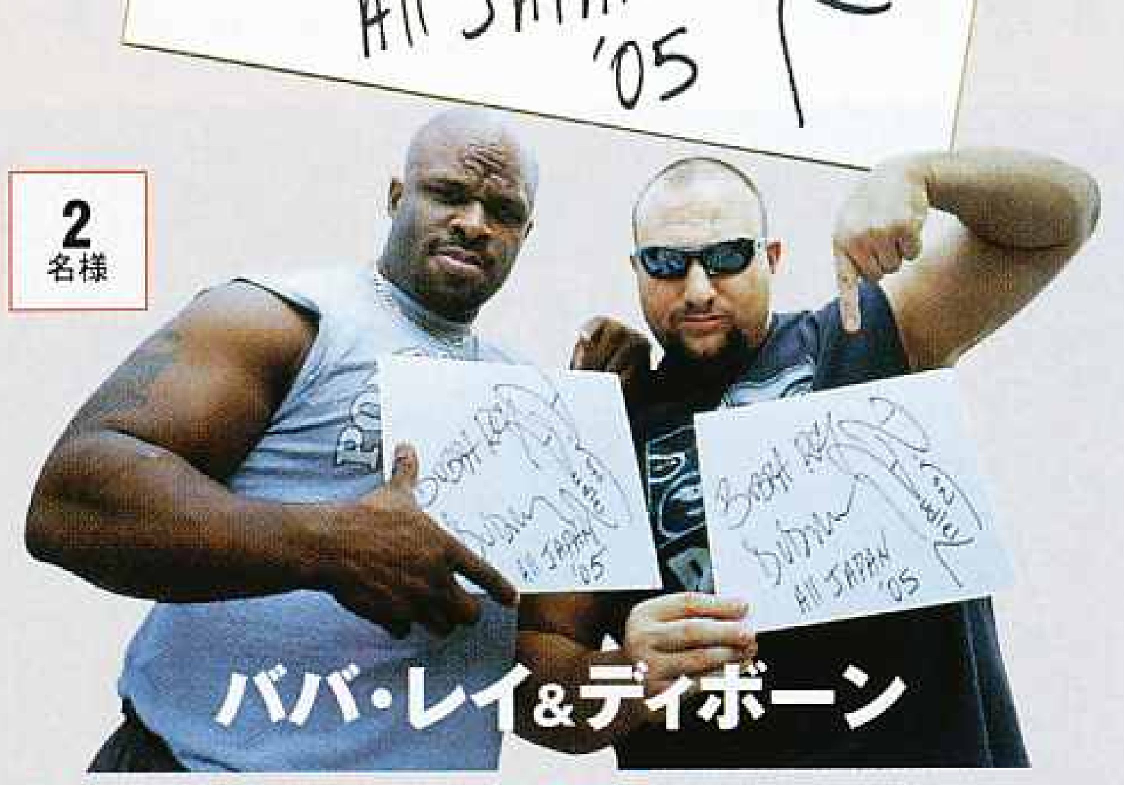
シウバ刺青Tシャツ(上) シュートボクセ 迷彩Tシャツ(左)

シュートボクセのフジマール会長からいただいたTシャツを1名様へ。ちなみにこの迷彩柄は非売品です! シウバHEAD TATTO Tシャツもあげちゃいます。【フジマール会長提供】Tシャツサイズ:M(でもデカイです)

3D



2 名様



ババ・レイ&ディボーン

ババ・レイ&ディボーンサイン色紙

全日本後楽園大会&WRESTLE-1でWWE時代のド迫力のファイトを見せてくれた元ダッドリーズことチーム3D。この二人のサイン色紙は永久保存版だ!【編集部提供】

HUSTLE

■HP***http://www.hustlehustle.com/



モンスターK Tシャツ

1 名様

小川率いるハッスル軍から突然モンスター軍に寝返ったハッスルK改めモンスターKが、なんと! さっそくTシャツを新調していた! 紫&黄色のデザインがなんともかんともモンスター!!【DSE提供】

レイザーラモンHG



レイザーラモンHGサイン入り ハッスルマニアポスター

2 名様

11・3『ハッスル・マニア』で念願のプロレスデビューを果たすレイザーラモンHGから、貴重なサインをゲッツ! ちょっと見えにくいけど、ちゃんとサイン入ってます。デビュー戦、フォー!! 【編集部提供】

kamipro 092 応募券 分割は正しく!

PINK TIGER

■HP***http://members3.jcom.home.ne.jp/pnk2000/index04.htm



1名様

こんな会社、辞めてやる! Tシャツ

ピンクタイガー選手からステキなTシャツをいただきました! 人生の節目におすすめです。Yシャツの下に着るもよし、デスクの引き出しに用意しておくのもよし!【PINK TIGER提供】Tシャツサイズ:L

ART JUNKE

■TEL***GROUND COBRA 092-711-1021

各1名様









デザインフェスタ Vol.22

11/26(土)、27(日)11:00〜19:00
場所:東京ビッグサイト 西1、2、3、4ホール&アトリウム&屋上展示場
■TEL***03-3479-1433

プロのイラストレーターによるデザインフェスタ。ART JUNKIEさんは格闘技&イラストTシャツを中心に販売してます。ぜひご来場あれ!!

ART JUNKE キャップ
ART JUNKE Tシャツ(オレンジ)

女子格のしなし選手らのTシャツをプロデュースしているART JUNKEさんからまたまたかわいいグッズをご提供いただきました。今回はTシャツ&キャップです。【ART JUNKE提供】Tシャツサイズ:S

サイン入り

桜井隆多Tシャツ

桜井隆多選手からTシャツをご提供いただきました。発送時には、ホワイトのTシャツのみ桜井選手のサインを入れてお届けします!【MACHO KINGDOM&ART JUNKE提供】Tシャツサイズ:M

QUEST

■TEL***クエスト 03-3360-3810
■HP***http://www.queststation.com/

各1名様

01



02



03



04



01
DVD武神館シリーズ[二十二]『槍・小太刀技法』初見良昭
160分/¥5,880(税込)
02
『日本拳法　入門編』
100分/¥5,880(税込)
03
『新体道〜気の栄光〜』
72分/¥5,880(税込)
04
『流智美の黄金期プロレス50選vol.2　殺人狂コワルスキー&地獄の料理人シュミット』
220分/¥5,880(税込)

今月もQUESTからたくさんのDVDをご提供いただきました。一押しは『流智美の黄金期プロレス50選vol.2』。vol.2は伝説の耳削ぎコワルスキーとシュミット式バックブリーカーの生みの親ハンス・シュミットの歴史的にも非常に貴重な映像が収録されています。流氏のじつにわかりやすく面白いトークとともに楽しんでほしいシリーズです!【QUEST提供】

MUAY THAI

1名様



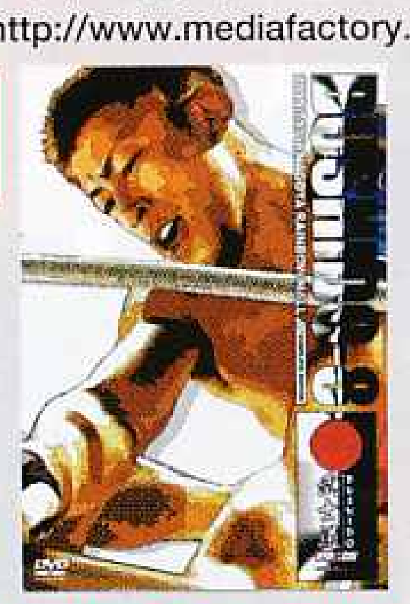
上杉HG・タイ土産
ムエタイパンツ&パープラチアッド

9月下旬、慰安のためタイへと飛び立った上杉HGからムエタイセットをプレゼント! ブアカーオらムエタイ選手が腕につけているパープラチアッド&ムエタイパンツをセットで1名様に! 【上杉HG提供】

DVD

■TEL***メディアファクトリー 03-5469-4880
■HP***http://www.mediafactory.co.jp/

1名様



『PRIDE武士道ー其の八ー』
約72分/¥5,040(税込)

川尻vsルイス・ブスカペ、美濃輪vsキモ、五味vsジーン・シウバなどの名勝負が完全収録された『PRIDE武士道ー其の八ー』のDVDは必見!【MEDIA FACTORY提供】

CD

■HP***http://www.universal-music.co.jp/dekacom/

セットで1名様



刑事魂プロファイル &キーホルダー

刑事ドラマソングの究極のベスト盤。『太陽にほえろ』など名曲続々! 刑事魂防犯ブザー付キーホルダーも一緒にプレゼント!【UNIVERSAL MUSIC提供】

SHOCHU

■TEL***居酒屋ごっち 03-3314-3416

3名様



「居酒屋ごっち」
オリジナル芋焼酎『熊殺し』

ファイターの集う店「居酒屋ごっち」が新しく焼酎「熊殺し」を販売。ラベルの題字を書いたのは、リキプロの石井智宏選手だ! 2,600円(税込)。【居酒屋ごっち提供】

RINGS

セットで1名様



堀江ガンツ・ロシア土産
ロシアのサンボの本&キーホルダー

前号に引き続き、リングスグッズ第2弾!! 堀江ガンツからリングスバッジ&サンボブック2冊をプレゼント。読める読めないに関わらず、読め!!【堀江ガンツ提供】

kamipro

5名様





kamiproオリジナル福袋

リニューアル第一弾を記念して、『kamipro』衣料部(GOKUTSUMA)から気前よく福袋をプレゼント!! 中身は超レアモノの紙プロ限定品がいっぱい! 紙プロファンなら応募するしかない!【編集部提供】

TICKET

■HP***http://www.harami.jp/

3組6名様



孕みーHARAMIー白い恐怖
鑑賞チケット

前田亜季さん主演のホラー映画『孕み-HARAMI-白い恐怖』のチケットを3組6名様へ。なんと、長州力さんが「感性がとても豊か」と絶賛する矢口壹琅選手が山小屋に住む盲目の大男役で出演中!【ステップバイステップ提供】

BOOKS

■週刊ゴングHP***
http://www.ns-p.com/wgong/
■宝島社HP***http://tkj.jp/

3名様

1名様



『Lady'sゴング』増刊号
『プロレス&格闘技「旗揚げ」読本』

掟さんのコラムにも登場中の萌花さんが表紙の『Lady'sゴング』増刊号と、プロレス最大の魅力「旗揚げ」&その裏事情を語った貴重な一冊をご提供。【プロレス&格闘技「旗揚げ」読本:宝島社提供】

kamipro 紙のプロレス
No.92
2005年10月31日 発行
リニューアル第2号（No.93）は
11月19日（土）発売予定！
※地域によっては多少発売日が遅れます。

発行人
浜村弘一

編集人
山口日昇
青柳昌行

編集カントク
堀江ガンツ

編集スタッフ
ジャン斎藤
真下義之
松下ミワ
八木賢太郎（リニューアル新装刊記念につき非番）

電気部
ささきぃ
松澤チョロ
斎野もみじ

企画制作部
坂井ノブ
上杉HG

終身名誉バイザー
吉田 豪

助っ人
ジャイ子

編集次長リローデッド
松林 貴

アートディレクター
金井ヒサくん（Two Three）

デザイン
松坂マツくん
谷タニやん
廣田ブンちゃん
野口ノグッチー
白木しらき（以上、Two Three）

トメさん
はなえちゃん
黄川田洋志（以上、さおとめの事務所）

カメラマン
森 鷹博
戸成嘉則
松本 崇
丸山剛史
吉場正和
福島勝儀
菊地茂夫
黒田史夫
平工幸雄
乾 晋也

お勘定＆衣料部
林“GOKUTSUMA”一枝

体調
プリン体・入江（Two Three）

雑誌営業
堂前秀隆
中村宣忠

業務部
割石芳司（終身名誉バイザーの同級生）

広告営業
株式会社ビューポイント
（広告掲載のお問い合わせは☎03-5776-0717まで）

発行所
株式会社エンターブレイン
〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1
☎0570-060-555（代表）

印刷
図書印刷株式会社

協力
BUSHIDO KOVOTOJO KELIAS

本書の内容、不良品交換等についてのお問い合わせは下記の窓口までお願いいたします。なお、内容につきましては記載以上の詳細につきましてはお答えできませんので、あらかじめご了承ください。

[カスタマーサポート]
☎0570-060-555
（受付時間／土日祝祭日を除く 12:00〜17:00）
メールアドレス support@ml.enterbrain.co.jp

●個人情報の取り扱いについて
本書にお寄せいただいたハガキ、各種のお問い合わせに関連してご提供いただいた個人情報につきましては、弊社のプライバシー・ポリシー（URL:http://www.enterbrain.co.jp/）に定めるところにより、取り扱わせていただきます。





トレーディングカードゲーム
国産初の本格的プロ賞金制TCG!
トレーディングカードゲーム
ディメンション・ゼロ
Dimension
King of card game
www.dimension-zero.com
体験版第2弾発売決定！いち早くD・0を体験しよう！
ビフォア・センチュリー
ストラクチャーデッキ2 ~0次元の胎動~
2005.10.28[FRI]ON SALE
TRADING CARD GAME
真剣勝負
ガチンコバトル
Dimension
King of card game
爆裂放送中!
ディメンション・ゼロの
情報がわかる最強のラジオ番組
「Dimension 0 PRESENTS
五味隆典 天下無双」
放送日／毎週土曜日PM9:00~9:30
放送局／ニッポン放送（AM1242）
パーソナリティー
PRIDEファイター
五味 隆典
ゲームデザイン／中村聡（遊宝洞） 協力／ニッポン放送、ドリームステージエンターテインメント、ゲームギャザ、ガンホー・オンライン・エンターテイメント 発売元/株式会社ブロッコリー
ユーザーサポート係 TEL:03-5946-2812【月~金（祝日を除く）10:00~12:00／13:00~17:00】mail:support@dimension-zero.com ©BROCCOLI

kamipro 2005 92
もうすぐ『ハッスル・マニア』!
本誌も新装刊フォー!!
2005年10月31日発行
発行人／浜村弘一　編集人／山口日昇、青柳昌行　発行・発売所／株式会社エンターブレイン
〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1 ☎0570-060-555（代表）
印刷・製本／図書印刷株式会社　©2005 Enterbrain,Inc.　©2005 DOUBLECROSS



定価：本体838円＋税
雑誌61953-63　Ⓗ2006.2
Printed in Japan 図書印刷
©2005 Enterbrain,Inc.　©2005 DOUBLECROSS
enterbrain
9784757725027
ISBN4-7577-2502-7
C9476 ¥838E
1929476008381